(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

(調書)

薬学教育評価 基礎資料

(平成30年5月1日現在)

横浜薬科大学薬学部

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	ページ
基礎資料 1	学年別授業科目	1
基礎資料 2	修学状況 2-1 在籍状況 2-2 学生受入状況 2-3 学籍異動状況 2-4 学士課程修了(卒業)状況	13
基礎資料3	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のSBOs に該当する科目	17
基礎資料4	カリキュラム・マップ	115
基礎資料 5	語学教育の要素	117
基礎資料 6	実務実習事前学習のスケジュール	119
基礎資料7	学生受入状況について(入学試験種類別)	137
基礎資料8	教員・職員の数	139
基礎資料 9	専任教員の構成	140
基礎資料10	教員の教育担当状況(担当する授業科目と担当時間)	141
基礎資料11	卒業研究の配属状況および研究室の広さ	163
基礎資料12	講義室等の数と面積	164
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	166
基礎資料14	図書、資料の所蔵数および受け入れ状況	167
基礎資料15	専任教員の教育および研究活動の業績	168

	1 年 次													
	а	b	С	d	е	f	科目名	前期・後期	1クラスあ たりの定員	開講クラス数	履修者数		授業方法	単位数
							基礎英語1	前期	300	2	420	п		1
							情報科学入門	前期	120	5	419	⊐		1
							心理学	前期	487	1	418	⊐		1
							教養化学	前期	300	2	427	⊐		1. 5
							教養生物学	前期	300	2	430	⊐		1. 5
							教養物理学	前期	300	2	431	⊐		1. 5
							基礎数学	前期	300	2	420	⊐		1. 5
							基礎英語2	後期	300	2	433	⊐		1
教							薬学英語1	後期	200	4	427	⊐	カ	1
養							情報処理演習	後期	120	5	347	I		1
教							国語表現法	後期	300	2	427	⊐		1
育・							医療と哲学	後期	487	1	428	⊐		1
語							(択) 人間と哲学	前期	160	2	158	⊐		1
学 教							(択) 社会と法律	前期	160	2	75	⊐		1
育							(択)社会と経済	前期	300	2	184	⊐		1
							(択)医療と経済	後期	300	2	265	⊐		1
							(択)医療と法律	後期	200	1	85	コ		1
							(択)社会福祉学	後期	300	1	64	コ		1
							(択) 英会話1	前期	200	2	109	⊐	ェ	1
							(択) 英会話2	後期	200	2	111	コ	エ	1
							(択) ドイツ語1	前期	300	2	148	コ		1
							(択) ドイツ語2	後期	300	2	161	コ		1
							(択)中国語1	前期	160	2	161	⊐		1
							(択) 中国語2	後期	160	2	161	⊐		1
							薬学概論	前期	487	1	420	П		1
							社会薬学1	前期	487	1	421	⊐	ジ	1
							基礎統計学	後期	300	2	433	⊐		1
							有機化学1	前期	300	2	425	⊐		1. 5
							基礎化学講座	後期	300	2	451	⊐		1. 5
							有機化学2	後期	300	2	446	⊐		1.5
							薬用植物学	後期	300	2	452	⊐		1
							分析化学1	後期	300	2	451	⊐		1
薬学							機能形態学1	前期	300	2	425	⊐		1.5
専							機能形態学2	後期	300	2	450	⊐		1.5
門							細胞生物学	後期	300	2	444	⊐		1.5
教育							生化学1	後期	300	2	437	コ		1. 5
							栄養学	後期	300	2	428	⊐		1
							早期体験学習	後期	480	1	425	٦	ジ	0. 5
							(健) 運動生理学	前期	160	1	81	П	カ	1
			Ĺ	Ĺ	L	L	(健) 運動と健康	後期	160	1	69	⊐		1
							(漢) 漢方入門	前期	200	1	167	⊐		1
							(漢) 伝統医薬学	後期	300	1	139	⊐		1
							(臨)介護学概論	前期	200	2	187	⊐		1
							(臨)リハビリテーション概論	後期	300	2	186	⊐		1
実習														
演習														
						<u> </u>	(自由択) 体育実技	通年		1	43			1.5
124 LJ 161		_		_								-	(必須科目)	 33. 0
単位数 の													(選択科目)	12. 0
合計														
										合計	45. 0			

[備考] (健): 健康薬学科 (漢): 漢方薬学科 (臨):臨床薬学科

[注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

а	ヒューマニズム教育・医療倫理教育
b	教養教育科目
С	語学教育科目
d	医療安全教育科目
е	生涯学習の意欲醸成科目
f	コミュニケーション能力および自己表現能力 を身につけるための科目

(凡例) 講義:コ 実験・実習型:ジ 課題探求型:カ 演習型:エ

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
- 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
- 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を記入してください。 下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記:講義=コ、 PBL/SGD=S

(基礎資料1-2) 学年別授業科目(改)

									2 年	次					
	а	b	O	d	е	f	科目名	前期・後期	1クラスあ たりの人数	開講クラス数	履修者数		授業方法		単位数
教養教育・ 語学教育							薬学英語2	前期	300	2	414	п			1
							社会薬学2	前期	487	1	379		I	カ	1. 5
							有機化学3	前期	300	2	426	⊐			1.5
							有機化学4	後期	300, 200	2	429	⊐			1.5
							生薬学	前期	300	2	434	⊐			1. 5
							分析化学2	前期	300, 200	2	426	コ			1
							分光分析学	前期	300, 200	2	435	⊐			1
							薬品物理化学1	前期	300	2	415	⊐			1. 5
							構造解析学	後期	300, 200	2	427	⊐			1
							薬品物理化学2	後期	300, 200	2	427	⊐			1. 5
							機能形態学3	前期	300	2	417	⊐			1. 5
薬							生化学2	前期	300	2	418	⊐			1. 5
学							生化学3	後期	300, 200	2	422	⊐			1
専 門							微生物学	後期	300, 200	2	429	⊐			1. 5
教							免疫学	後期	300, 200	2	447	⊐			1. 5
育							食品衛生学	後期	300, 200	2	416	コ			1. 5
							薬理学1	前期	300	2	428	⊐			1. 5
							薬理学2	後期	300, 200	2	434	⊐			1.5
							物理薬剤学1	後期	300, 200	2	431	⊐			1
							病態・薬物治療学1	後期	300, 200	2	405	⊐			1. 5
							(健) 精神と健康	後期	160	1	69	⊐	エ		1
							(健) 長寿医療	後期	160	1	69	⊐			1
							(漢) 本草学	前期	300	1	145	⊐	ジ		1
							(漢) 漢方薬物学	後期	300	1	143	⊐			1
							(臨)看護学概論	前期	300	1	171	⊐			1
							(臨)医学概論	後期	300	1	206	⊐	カ		1
							化学系実習1	前期	120	4	411	П		ジ	1
							物理系実習1	前期	120	4	416			ジ	1
実習							生物系実習1	前期	120	4	412	⊐		ジ	1
ス日							化学系実習2	後期	120	4	420			ジ	1
							物理系実習2	後期	120	4	415			ジ	1
							生物系実習2	後期	120	4	419	⊐		ジ	1
演習															
単位数												(必須科目)		35	
ーの 合計												(選択科目)			0
音計											合計		35		

[備考] (健):健康薬学科 (漢):漢方薬学科 (臨):臨床薬学科

[注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。

2 下記の「科目の識別」にそって、該当する 科目に「色」を付してください。

「科目の識別」

	「行日の誠別」
а	ヒューマニズム教育・医療倫理教育
b	教養教育科目
С	語学教育科目
d	医療安全教育科目
е	生涯学習の意欲醸成科目
f	コミュニケーション能力および自己表現能力 を身につけるための科目

(凡例) 講義:コ 実験・実習型:ジ 課題探求型:カ 演習型:エ

3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を記入してくださ

下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。 「授業方法」の表記:講義=コ、 PBL/SGD=S

6 行は適宜加除し、記入してください。

2

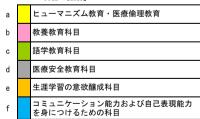
(基礎資料1-3) 学年別授業科目(改)

									3 年	次				
	а	b	С	d	е	f	科目名	前期・後期	1クラスあ たりの人数	開講クラス数	履修者数		授業方法	単位数
教養教育・ 語学教育							薬学英語 3	前期	200	4	363	п		1
							医療倫理学	後期	300, 200	2	363		ジ	1. 5
							医薬品化学 1	前期	400, 200	2	339	⊐		1
							医薬品化学 2	後期	300, 200	2	333	⊐		1
							天然物化学	後期	300, 200	2	366	⊐		1. 5
							臨床放射線科学	後期	300, 200	2	369	⊐		1. 5
							分子生物学 1	前期	300, 200	2	380	⊐		1.5
							分子生物学 2	後期	300, 200	2	384	⊐		1.5
							微生物薬品学	前期	400, 200	2	351	⊐		1.5
							公衆衛生学	前期	400, 200	2	341	⊐		1.5
							環境衛生学 1	前期	400, 200	2	372	⊐		1.5
							環境衛生学 2	後期	300, 200	2	387	⊐		1.5
							薬理学3	前期	300, 200	2	368	⊐		1.5
薬							薬理学4	後期	300, 200	2	374	⊐		1.5
学							薬物動態学 1	前期	400, 200	2	365	⊐		1
専門							薬物動態学 2	後期	300, 200	2	353	⊐		1
教							物理薬剤学 2	前期	300, 200	2	342	⊐		1
育							製剤学	前期	300, 200	2	367	⊐		1. 5
							- 病態・薬物治療学 2	前期	400, 200	2	341	⊐		1. 5
							- 病態・薬物治療学3	後期	300, 200	2	368	⊐		1.5
							感染症治療学	後期	300, 200	2	356	⊐		1
							症候学・臨床検査学	前期	300, 200	2	346	⊐		1
							調剤学	後期	300, 200	2	336	⊐	I	1. 5
							薬物と健康	前期	300, 200	2	351	⊐		1
							フィジカルアセスメント	後期	300, 200	2	333	⊐		1
							薬事法規・制度 1	前期	487	1	331	⊐	ъ	0. 5
							薬事法規・制度2	後期	300, 200	2	334	⊐		1
							(健)食品機能学	前期	160	1	84	⊐		1
							(漢)基礎漢方処方学	前期	200	1	117	_		1
							(臨) 運動療法概論	前期	200	1	157	_	ъ	1
							薬剤学実習 1	前期	120	3	334	ジ		1
		H		H	H		薬理学実習	前期	120	3	336	ジ		i
実習		H		H	H		薬剤学実習 2	後期	120	3	334	ジ		l il
		H		H	H		衛生薬学実習	後期	120	3	334	ジ		1
演習								200						
													(必須科目)	39
単位数 の										-	ŀ		(選択科目)	0
合計											ŀ		合計	39
														03

[備考](健):健康薬学科 (漢): 漢方薬学科 (臨): 臨床薬学科

[注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」



(凡例) 講義:コ 実験・実習型:ジ 課題探求型:カ 演習型:エ 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を記入してください。 下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記:講義=コ、 PBL/SGD=S

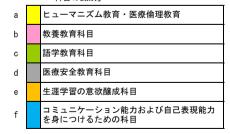
(基礎資料1-4) 学年別授業科目(改)

	4 年 次														
	а	b	С	d	е	f		前期·後期	1クラスあ たりの人数	開講 クラス数	履修者数		授業方法		単位数
教養教育・ 語学教育							薬学英語 4	前期	200	4	290	П	カ		1
							薬局方試験法	前期	400	2	315	П			1
							臨床薬物動態学	前期	400, 200	2	295	П			1
							医療統計学	後期	400, 200	2	367	П			1
							基礎漢方薬学 1	前期	487	2	369	п			1
							病態・薬物治療学 4	前期	400, 200	2	329	П			1.5
							悪性腫瘍治療学	前期	400, 300	2	369	⊐			1
							医薬品情報学	前期	400	2	301	п			1
							臨床薬理学 1	前期	400, 200	2	309	п			0. 5
							臨床薬理学 2	後期	400	1	309	п			1
薬							疾患別治療特論 1	後期	400, 200	2	367	п	カ		1
学							医療コミュニケーション論	後期	400, 200	2	315	п			1
専 門					Г		医薬品副作用学	前期	400, 200	2	325	П			1. 5
教							薬事法規・制度3	前期	300	2	292	п	カ		1
育							医療福祉制度	後期	400	1	367	п			1
							処方解析	後期	400	1	367	п	ジ	エ	1
							実務実習プレ教育	前期	400	1	293	п			8
							卒業研究	後期	50, 25	24	367	カ			0. 5
							(健) 食品安全性学	前期	200	1	62	П			1
							(健) 生活習慣病特論	後期	160	1	53	⊐	I		1
							(漢)漢方薬効解析・薬理学	前期	200	1	105	⊐			1
							(漢)基礎漢方薬学2	後期	160	1	106	п			1
							(臨) 創薬化学特論	前期	200	1	135	П			1
							(臨) リスクマネージメント論	後期	160	1	138	П	エ		1
							薬剤学実習 3	前期	120	3	290	ジ			0. 5
実習							フィジカルアセスメント実習	前期	120, 50	6	369	ジ			0. 5
							(自由択)薬剤学実習4	後期	200, 120	9	331	ジ			0. 5
							化学系薬学演習	前期	400	1	305	П			0. 5
							物理系薬学演習	前期	400	1	305	п			0. 5
							生物系薬学演習1	前期	400	1	305	п			0. 5
							生物系薬学演習2	前期	400	1	340	⊐			0. 5
演習							薬理学系演習1	後期	400	1	340	⊐			0. 5
							薬理学系演習2	後期	400	1	340	□			0. 5
							衛生系薬学演習	後期	400	1	340	п			0. 5
							薬剤系薬学演習	後期	400	1	326	П			0. 5
							法規系薬学演習	後期	400	1	326	П			0. 5
単位数		*				•						(必須科目)			32. 5
の会計	の 合計								(選択科目)		0				
	†									合計		32. 5			

[備考](健):健康薬学科 (漢): 漢方薬学科 (臨): 臨床薬学科

[注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」



(凡例) 講義:コ 実験・実習型: 課題探求型・課題学習型:カ 実験・実習型:ジ

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
- 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
- 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を記入してください。 下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記:講義=コ、 PBL/SGD=S

(基礎資料1-5) 学年別授業科目(旧)

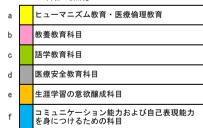
	5 年 次														
	а	b	С	d	е	f	科目名	前期・後期	1クラスあ たりの人数	開講クラス数	履修者数		授業方法		単位数
教養教育・ 語学教育							薬学外国語文献講読	前期・後期	50, 25	25	333	エ	カ		1
							医薬品開発論	前期	400	1	303	⊐			1
							医療福祉制度	前期	400	1	303	⊐			1
							処方解析 I	前期	400	1	304	⊐			1
							卒業研究	前期・後期	50, 25	24	334	カ			2
							(健) 地球環境特論	後期	120	1	74	⊐	カ		1
							(健) 産業保健論	前期	160	1	62	⊐			1
							(健) 環境生理学	後期	160	1	74	⊐	カ		1
							(漢) 漢方製剤各論 I	前期	160	1	104	⊐			1
薬							(漢) 漢方製剤各論 Ⅱ	後期	160	1	104	⊐			1
学							(漢) 漢方治療学総論	前期	160	1	70	⊐			1
専門							(臨)治験業務論	後期	200	1	154	⊐			1
教							(臨)疾患別治療特論 I	後期	200	1	154	⊐			1
育							(臨)疾患別治療特論Ⅱ	後期	200	1	154	⊐			1
							(択)地域薬局論	後期	160	1	24	⊐			1
							(択) 漢方医薬概論	前期・後期	200	1	196	⊐			1
							(択) 疾病予防学	前期	300	1	263	⊐			1
							(択) 血液検査学	後期	160	1	41	⊐			1
							(択) 新薬論	前期	160	1	4	⊐			1
							(漢択) 薬膳論	後期	160	1	82	⊐	ジ	カ	1
							(臨択) 薬物代謝学	後期	160	1	21	⊐			1
							(健択) 長寿医療	後期	160	1	13				1
							実務実習 I	前期・後期			304	ジ			10
実習							実務実習Ⅱ	前期・後期			303	ジ			10
							実務実習ポスト教育	通年	400	1	334	ジ	エ		1
演習															
単位数													(必須科目)		30
単位数 の 合計									-				(選択科目)		6
													合計		36

[備考](健):健康薬学科 (漢):漢方薬学科 (臨):臨床薬学科

[注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。

2 下記の「科目の識別」にそって、該当する 科目に「色」を付してください。

「科目の識別」



(凡例) 講義:コ 実験・実習型:ジ 課題探求型:カ 演習型:エ

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
- 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
- 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を記入してください。 下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記:講義=コ、 PBL/SGD=S

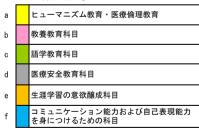
	6 年 次														
	а	b	С	d	е	f	科目名	前期・後期	1クラスあ たりの人数	開講クラス数	履修者数		授業方法		単位数
教養教育・ 語学教育															
							診療科各論 I	前期	400	1	304	⊐	カ		1
							医療統計学	前期	400	1	304	⊐			1
							臨床薬剤学	前期	400	1	304	⊐			1
							臨床薬物動態学	前期	400	1	304	コ			0. 5
							臨床薬理学Ⅱ	前期	400	1	305	⊐			0. 5
							診療科各論Ⅱ	前期	400	1	304	⊐	カ		0. 5
							処方解析 Ⅱ	前期	400	1	306	⊐			0. 5
							卒業研究	前期	50, 25	24	304	カ			4
							(健)医療と栄養	前期	160	1	63	⊐			1
薬学							(健) 地域保健論	前期	160	1	62	⊐			1
専							(健) 健康管理学	前期	160	1	62	⊐			1
門教							(漢) 漢方処方学	前期	160	1	71	⊐			1
育							(漢) 臨床漢方治療学 I	前期	160	1	71	⊐			1
							(漢) 臨床漢方治療学 Ⅱ	前期	160	1	71	⊐			1
							(漢) 漢方品質評価論	前期	160	1	71	⊐			1
							(臨)疾患別治療特論Ⅲ	前期	400	1	171	⊐			1
							(臨)医薬品評価特論	前期	200	1	171	⊐			1
							(臨)医薬業界論	前期	200	1	171	⊐			1
							(臨)高度先端医療論	前期	200	1	171	⊐			1
							(択) 救急医療概論	前期	400	1	269	⊐			1
							(択)サプリメント論	前期	160	1	49	⊐			1
							(択) OTC薬概論	前期	300	1	290	⊐			1
実習															
							薬学総合演習 1	後期	300	1	274	エ			2
演習							薬学総合演習 2	後期	300	1	274	エ	1		2
							薬学総合演習3	後期	300	1	274	エ			2
							薬学総合演習 4	後期	300	1	274	エ			2
単位数													(必須科目)		21 (*20)
単位数 の 合計												(選択科目)		3	
пп													合計		23 (*22)

[備考](健):健康薬学科 (漢):漢方薬学科 (臨):臨床薬学科

*:健康薬学科は1年次に1単位多く履修している。 (健康薬学科は6年次に1単位少なく履修している。 議義:コ 実験・実習型:ジ 課題探求型:カ 演習型:エ

[注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」



- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
- 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
- 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を記入してください。 下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記:講義=コ、 PBL/SGD=S

(基礎資料1-7) 学年別授業科目【改】

【健康薬学科】

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	16	16. 0
教養教育科目	18	20. 0
語学教育科目	13	13. 0
医療安全教育科目	18	31. 0
生涯学習の意欲醸成科目	5	12. 0
コミュニケーション能力および自己表現能力を 身につけるための科目	9	10. 0

学年		単位数	
学 年	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	33. 0	4. 0	37. 0
2 年 次	35. 0	0. 0	35. 0
3 年 次	39. 0	0. 0	39. 0
4 年 次	32. 5	0. 0	32. 5
5 年 次	29. 5	0. 0	29. 5
6 年 次	15. 0	1.0	16. 0
合計	184. 0	5. 0	189. 0

(基礎資料1-7) 学年別授業科目【改】

【漢方薬学科】

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	14	14. 0
教養教育科目	18	20. 0
語学教育科目	13	13. 0
医療安全教育科目	18	31.0
生涯学習の意欲醸成科目	5	12. 0
コミュニケーション能力および自己表現能力を 身につけるための科目	9	10. 0

学 年		単位数	
学 年	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	33. 0	4. 0	37. 0
2 年 次	35. 0	0. 0	35. 0
3 年 次	39. 0	0. 0	39. 0
4 年 次	32. 5	0. 0	32. 5
5 年 次	29. 5	0. 0	29. 5
6 年 次	15. 0	1.0	16. 0
合計	184. 0	5. 0	189. 0

(基礎資料1-7) 学年別授業科目【改】

【臨床薬学科】

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	17	17. 0
教養教育科目	18	20. 0
語学教育科目	13	13. 0
医療安全教育科目	20	33. 0
生涯学習の意欲醸成科目	5	12. 0
コミュニケーション能力および自己表現能力を 身につけるための科目	10	11.0

24 /-		単位数	
学年	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	33. 0	4. 0	37. 0
2 年 次	35. 0	0. 0	35. 0
3 年 次	39. 0	0. 0	39. 0
4 年 次	32. 5	0. 0	32. 5
5 年 次	29. 5	0. 0	29. 5
6 年 次	15. 0	1.0	16. 0
合計	184. 0	5. 0	189. 0

(基礎資料1-7) 学年別授業科目【旧】

【健康薬学科】

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	12	12. 0
教養教育科目	21	22. 0
語学教育科目	9	13. 0
医療安全教育科目	20	29. 0
生涯学習の意欲醸成科目	3	10.0
コミュニケーション能力および自己表現能力を 身につけるための科目	8	9. 0

学 年		単位数	
7 #	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	31.0	4. 0	35. 0
2 年 次	36.0	0.0	36. 0
3 年 次	34. 0	0.0	34. 0
4 年 次	32.0	0.0	32. 0
5 年 次	30.0	2. 0	32. 0
6 年 次	20.0	2. 0	22. 0
合計	183. 0	8. 0	191. 0

(基礎資料1-7) 学年別授業科目【旧】

【漢方薬学科】

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	9	9. 0
教養教育科目	21	22. 0
語学教育科目	9	13. 0
医療安全教育科目	20	29. 0
生涯学習の意欲醸成科目	3	10.0
コミュニケーション能力および自己表現能力を 身につけるための科目	8	9. 0

学年		単位数	
学 年	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	30.0	4. 0	34. 0
2 年 次	36.0	0.0	36. 0
3 年 次	34. 0	0.0	34. 0
4 年 次	32.0	0.0	32. 0
5 年 次	30.0	2. 0	32. 0
6 年 次	21.0	2. 0	23. 0
合計	183. 0	8. 0	191. 0

(基礎資料1-7) 学年別授業科目【旧】

【臨床薬学科】

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	12	12. 0
教養教育科目	21	22. 0
語学教育科目	9	13. 0
医療安全教育科目	23	32. 0
生涯学習の意欲醸成科目	3	10. 0
コミュニケーション能力および自己表現能力を 身につけるための科目	9	10. 0

学年		単位数	
学年	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	30.0	4. 0	34. 0
2 年 次	36.0	0.0	36. 0
3 年 次	34. 0	0.0	34. 0
4 年 次	32.0	0.0	32. 0
5 年 次	30.0	2. 0	32. 0
6 年 次	21.0	2. 0	23. 0
合計	183. 0	8. 0	191.0

(基礎資料2-1) 評価実施年度における学年別在籍状況

学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年
入学年度の入学定員	昊 ¹⁾	340	340	340	340	360	360
入学時の学生数 $^{2)}$	A	388	408	371	371	391	383
在籍学生数 ³⁾	В	425	434	394	370	334	372
	留年による者 C	37	64	103	115	66	188
迥平 及 在精合数 (休学による者 D	0	0	0	0	0	0
編入学などによる在籍者数	.籍者数 E	0	2	1	1	1	2
ストレート在籍者数	5) F	388	368	290	254	234	182
ストレート在籍率 ⁶⁾	F/A	1.00	0.90	0.78	0.68	09:0	0.48
過年度在籍率 ⁷⁾	(C+D)/B	0.09	0.15	0.26	0.31	0.30	0.51

1)各学年が入学した年度の入学者選抜で設定されていた入学定員を記載してください。

2)当該学年が入学した時点での実入学者数を記載してください。

3)評価実施年度の5月1日現在における各学年の在籍学生数を記載してください。

4)過年度在籍者数を「留年による者」と「休学による者」に分けて記載してください。休学と留年が重複する学生は留年者に算入してください。 5)(在籍学生数)ー{(過年度在籍者数)+(編入学などによる在籍者数)}を記載してください。 ストレート在籍者数 {B-(C+D+E)}

6)(ストレート在籍者数)/(入学時の学生数)の値を小数点以下第2位まで記載してください。

7) (過年度在籍者数)/(在籍学生数)の値を小数点以下第2位まで記載してください。

(基礎資料2-2) 直近6年間の学生受入状況

入学年度] -N	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	平均值 5)
入学定員	Α	098	360	340	340	340	340	
実入学者数 ¹⁾	В	383	391	371	371	408	388	385
入学定員充足率 2)	ξ ²⁾ B/A	1.06	1.09	1.09	1.09	1.20	1.14	1.11
編入学定員		若干名	1	-	I	若干名	1	
編入学者数 3)	C+D+E	9	0	0	0	3	0	1.33
	2年次 C	0	0	0	0	2	0	0.33
番人小した子中 四の内数 4)	3年次 D	ε	0	0	0	1	0	19.0
	4年次 E	2	0	0	0	0	0	0.33

1)各年度の実入学者数として、当該年の5月1日に在籍していた新入生数を記載してください。

2)各年度の実入学者数をその年度の入学定員で除した数値(小数点以下第2位まで)を記載してください。

3)その年度に受け入れた編入学者(転学部、転学科などを含む)の合計数を記載してください。

4)編入学者数の編入学受け入れ学年別の内数を記入してください。

5)6年間の平均値を人数については整数で、充足率については小数点以下第2位まで記入してください。

(基礎資料2-3)評価実施年度の直近5年間における学年別の学籍異動状況

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	在籍者数 1)	493	448	438	447	437
	休学者数 2)	0	0	0	0	0
1年次	退学者数 2)	62	49	44	19	19
	留年者数 2)	74	67	38	49	67
	進級率 ³⁾	0.72	0.74	0.81	0.85	0.80
	在籍者数 1)	518	489	420	416	448
	休学者数 2)	0	0	0	0	0
2年次	退学者数 2)	73	83	42	17	19
	留年者数 2)	131	87	58	68	69
	進級率 ³⁾	0.61	0.65	0.76	0.80	0.80
	在籍者数 1)	429	466	420	378	404
	休学者数 2)	0	0	0	0	0
3年次	退学者数 2)	33	49	27	15	18
	留年者数 2)	152	100	57	73	89
	進級率 ³⁾	0.57	0.68	0.80	0.77	0.74
	在籍者数 1)	357	381	405	422	373
	休学者数 2)	0	0	0	0	0
4年次	退学者数 2)	26	22	16	7	12
	留年者数 2)	136	85	86	82	41
	進級率 ³⁾	0.55	0.72	0.75	0.79	0.86
	在籍者数 1)	170	195	274	304	334
	休学者数 2)	0	0	0	0	0
5年次	退学者数 2)	0	0	0	0	0
	留年者数 2)	0	0	1	1	4
	進級率 ³⁾	1.00	1.00	1.00	1.00	0.99

- 1)在籍者数は、当該年度当初(4月1日)における1年次から5年次に在籍していた学生数を記載してください。
- 2)休学者数、退学者数、留年者数については、各年度の年度末に、それぞれの学年から次の学年に進級できなかった学生数を、その理由となった事象に分けて記載してください。
- ただし、同一学生に複数の事象が発生した場合は、後の事象だけに算入してください。
- なお、前期に休学して後期から復学した学生については、進級できなかった場合は休学として算入し、進級した場合は算入しないでください。
- 3) 進級率は、次式で計算した結果を、小数点以下第2位まで記入してください。 {(在籍者数)-(休学者数+退学者数+留年者数)}/(在籍者数)

(基礎資料2-4) 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
卒業判定時(年度3	卒業判定時(年度末)の在籍学生数 ¹⁾ A	279	258	216	278	321
学士課程修了(卒業)者数	裳)者数 B	108	133	176	208	246
卒業率 ²⁾	B/A	0.39	0.52	0.81	0.75	0.77
	0	100	101	142	153	160
卒業までに要した 在学期間凹の	女/	4	14	14	34	09
ムナダ語が30 内訳 30	事8	2	ε	10	11	12
	十位本6	0	3	7	10	14
入学時の学生数	入学時の学生数(実入学者数) ⁴⁾ D	360	396	454	258	383
ストレート卒業率	(5) C/D	0.28	0.29	0.31	0.27	0.42

1)9月卒業などの卒業延期生、休退学者を除いた数字を記載してください。

2)卒業率=(学士課程修了者数)/(6年次の在籍者数)の値(B/A)を小数点以下第2位まで記載してください。

3)「編入学者を除いた卒業者数」の内訳を卒業までに要した期間別に記載してください。

4)それぞれの年度の6年次学生(C)が入学した年度の実入学者数(編入学者を除く)を記載してください。

5)ストレート卒業率=(卒業までに要した在学期間が6年間の学生数)/(入学時の学生数)の値(C/D)を、小数点以下第2位まで記載してください。

(基礎資料3-1) 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

3学科(健康薬学科、漢方薬学科、臨床薬学科)共通

[注] 1 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。

2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

			海	華		
薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBO۶)	1年	2年			5年	6年
A 全学年を通して:ヒューマニズムについて学ぶ						
(1) 生と死						
[生命の草厳]						
1)人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。(知識・態度)	薬学概論			医療倫理学		
2)誕生に関わる倫理的問題(生殖技術、クローン技術、出生前診断など)の概略と問題点を説明 できる。	薬学概論			医療倫理学		診療科各論 I
3)医療に関わる倫理的問題を列挙し、その概略と問題点を説明できる。				医療倫理学		
4)死に関わる倫理的問題(安楽死、尊厳死、脳死など)の概略と問題点を説明できる。				医療倫理学		
5)自らの体験を通して、生命の尊さと医療の関わりについて討議する。(態度)	薬学概論					
【医療の目的】						
1)予防、治療、延命、QOLについて説明できる。				医療倫理学		
【先進医療と生命倫理】						
1)医療の進歩(遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療など)に伴う生命観の変遷を 概説できる。				医療倫理学		
(2) 医療の担い手としてのこころ構え						
【社会の期待】						
1)医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。(態度)	薬学概論				実務実習ポスト教育	
2)医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する。(知識・態度)			医療コミュニケー ション論			
3) 医療の担い手にふさわしい態度を示す。 (態度)	薬学概論					
【医療行為に関わるこころ構え】						
1)ヘルシンキ宣言の内容を概説できる。				医療倫理学		
2)医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる。				医療倫理学		
3)インフォームド・コンセントの定義と必要性を説明できる。			調剤学エ	医療倫理学		診療科各論 I
4)患者の基本的権利と自己決定権を尊重する。(態度)					実務実習ポスト教育	
5)医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)					実務実習ポスト教育	
【研究活動に求められるこころ構え】						
1) 研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する。				医療倫理学	卒業研究	卒業研究
2)研究者に求められる自立した態度を身につける。(態度)					卒業研究	卒業研究
3)他の研究者の意見を理解し、討論する能力を身につける。(態度)					卒業研究	卒業研究
【医薬品の創製と供給に関わるこころ構え】						
1)医薬品の創製と供給が社会に及ぼす影響に常に目を向ける。(態度)	薬学概論					
2)医薬品の使用に関わる事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)	薬学概論					

			加益	極		
薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOS)	中_	2年		:	5年	6年
[自己学習・生涯学習]						
1)医療に関わる諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。 (知識・技能・態度)			調剤学エ		実務実習ポスト教育	
2)医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。(態度)	薬学概論			医薬品情報学	実務実習ポスト教育	
(3) 信頼関係の確立を目指して						
[コミュニケーション]						
1)言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。				医療倫理学・医療コニケーション論		
2) 意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。				医療倫理学・医療コミュニケーション論		
3) 相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。				医療倫理学・医療コニケーション論		
【相手の気持ちに配慮する】						
1)対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。				医療倫理学・医療コニケーション論		
2) 相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。(知識・態度)			医療倫理学	医療倫理学		
3)対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(技能)	薬学概論		医療倫理学			
【患者の気持ちに配慮する】						
1)病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。				医療倫理学・医療コニケーション論		
2) 患者の心理状態を把握し、配慮する。 (知識・態度)				医療倫理学		診療科各論 I
3) 患者の家族の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)			医療倫理学	医療倫理学		
4) 患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する。 (態度)	薬学概論					診療科各論 I
5) 不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議する。(知識・態度)	薬学概論					
[ナームソーツ]						
1)チームワークの重要性を例示して説明できる。				医療倫理学・医療コニューケーション論		
2) チームに参加し、協調的態度で役割を果たす。(態度)	薬学概論					
3) 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。(態度)	薬学概論					
【地域社会の人々との信頼関係】						
1)薬の専門家と地域社会の関わりを列挙できる。				阪療 ⊔≡ュニケー ツョン輩		
2)薬の専門家に対する地域社会のニーズを収集し、討議する。(態度)	薬学概論					
B イントロダクション						
(1)薬学への招待						
【薬学の歴史】						
1)薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割を概説できる。	薬学概論					

١.			松			
薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOS)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2)薬剤師の誕生と変遷の歴史を概説できる。	薬学概論					
【薬剤師の活動分野】						
1)薬剤師の活動分野(医療機関、製薬企業、衛生行政など)について概説できる。	薬学概論(早期体験 学習)					
2)薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。	薬学概論					
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割について概説できる。				医薬品情報学・リス クマネージメント論		
4) 医薬品の創製における薬剤師の役割について概説できる。					実務実習ポスト教 育・医薬品開発論	
5)疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割について概説できる。			医療コミュニケー ション論	公衆衛生学		
[薬について]						
1) 「薬とは何か」を概説できる。		東理学 I			医薬品開発論	
2)薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。	薬学概論					
3) 化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れを概説できる。		物理薬剤学 I				
4)種々の剤形とその使い方について概説できる。	薬学概論					
5) 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを概説できる。				医薬品情報学		
【現代社会と薬学との接点】						
1) 先端医療を支える医薬品開発の現状について概説できる。				医薬品情報学		
2) 麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響を概説できる。			衛生系実習			
3)薬害について具体例を挙げ、その背景を概説できる。				医療倫理学·医薬品 情報学		
【日本薬局方】						
1)日本薬局方の意義と内容について概説できる。	薬学概論			薬局方試験法		
[総合演習]						
1)医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる。(態度)	薬学概論					
2) 身近な医薬品を日本薬局方などを用いて調べる。(技能)	薬学概論			薬局方試験法		
(2) 早期体験学習						
1)病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。	薬学概論(早期体験 学習)					
2) 開局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。(知識・態度)	薬学概論(早期体験 学習)					
3)製薬企業および保健衛生、健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割 について討議する。(知識・態度)	薬学概論(早期体験 学習)					
4)保健、福祉の重要性を具体的な体験に基づいて発表する。(知識・態度)	薬学概論(早期体験 学習)					
C 薬学専門教育						
[物理系薬学を学ぶ]						
0.1 物質の物理的性質						
(1)物質の構造						
[化学結合]						

			松	本		
栗宇教育モデル・コアカリキュラム(SBOS)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1)化学結合の成り立ちについて説明できる。		物理化学演習				
2)軌道の混成について説明できる。	基礎化学・有機化学 I	物理化学演習				
3)分子軌道の基本概念を説明できる。	基礎化学					
4)共役や共鳴の概念を説明できる。	有機化学 I					
【分子間相互作用】						
1)静電相互作用について例を挙げて説明できる。	基礎物理学·無機化学	物理薬剤学 I				
2) ファンデルワールスカについて例を挙げて説明できる。		物理薬剤学 I				
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。		物理薬剤学 I				
4)分散力について例を挙げて説明できる。		物理化学演習 物理薬剤学 I				
5)水素結合について例を挙げて説明できる。	有機化学 I	物理薬剤学 I				
6)電荷移動について例を挙げて説明できる。		物理薬剤学 I				
7)疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。		物理薬剤学 I				
【原子・分子】						
1)電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。	基礎化学	機器分析学 I · 物理 系実習 I				
2)分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。		機器分析学 I・物理 系実習 I				
3) スピンとその磁気共鳴について説明できる。		機器分析学工				
4)分子の分極と双極子モーメントについて説明できる。		機器分析学工				
5)代表的な分光スペクトルを測定し、構造との関連を説明できる。(知識・技能)		機器分析学 I・物理 系実習 I				
6)偏光および旋光性について説明できる。		機器分析学 I				
フ)散乱および干渉について説明できる。		機器分析学 I				
8)結晶構造と回折現象について説明できる。		機器分析学 I				
【放射線と放射能】						
1) 原子の構造と放射壊変について説明できる。		放射化学				
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について説明できる。		放射化学				
3)代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。		放射化学				
4)核反応および放射平衡について説明できる。		放射化学				
5)放射線の測定原理について説明できる。		放射化学				
(2)物質の状態 1						
1)ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。		物理化学演習 物理化学				
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。		物理化学演習 物理化学				
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。		物理化学演習 物理化学				

		А	当本日		
条字教育セナル・コアカリキュラム(SBOS)	1年 2	2年 3年	4年	5年	6年
[一; 1]					
1)系、外界、境界について説明できる。	熱力学				
2) 状態関数の種類と特徴について説明できる。	熱力学				
3)仕事および熱の概念を説明できる。	熱力学				
4)定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。	熱力学				
5)熱力学第一法則について式を用いて説明できる。	熱力学				
6)代表的な過程(変化)における熱と仕事を計算できる。(知識、技能)	熱力学				
7)エンタルピーについて説明できる。	熱力学				
8) 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。(知識、技能)	熱力学				
9)標準生成エンタルピーについて説明できる。	熱力学				
【自発的な変化】					
1) エントロピーについて説明できる。	熱力学				
2) 熱力学第二法則について説明できる。	熱力学				
3)代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化を計算できる。(知識、技能)	熱力学				
4)熱力学第三法則について説明できる。	熱力学				
5)自由エネルギーについて説明できる。	熱力学				
6)熱力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。(知識、技能)	熱力学				
7) 自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。	熱力学				
8)自由エネルギーと平衡定数の温度依存性(van't Hoffの式)について説明できる。	熱力学				
9) 共役反応について例を挙げて説明できる。	熱力学				
(3)物質の状態 11					
[物理平衡]					
1)相変化に伴う熱の移動(Glausius-Clapeyronの式など)について説明できる。	物理化学				
2)相平衡と相律について説明できる。	物理薬剤学	Ιç			
3) 代表的な状態図(一成分系、二成分系、三成分系相図)について説明できる。	物理薬剤学	Ιç			
4)物質の溶解平衡について説明できる。		物理薬剤学工			
5)溶液の東一的性質(浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など)について説明できる。	物理化学				
6)界面における平衡について説明できる。	物理薬剤学	Ιç			
7)吸着平衡について説明できる。		Ιç			
8)代表的な物理平衡を観測し、平衡定数を求めることができる。(技能)		物理薬剤学エ			
【海液の化学】					
1)化学ポテンシャルについて説明できる。	熱力学				
2) 活量と活量係数について説明できる。	熱力学				
3) 平衡と化学ポテンシャルの関係を説明できる。	熱力学				
4)電解質のモル伝導度の濃度変化を説明できる。	物理系実習 I 物理化学	П			
-		_		_	

			松	本田		
栗宇教育モテル・コアカリキュラム(SBOS)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) イオンの輸率と移動度について説明できる。		物理化学				
6) イオン強度について説明できる。		物理化学				
7) 電解質の活量係数の濃度依存性 (Debye-Huckel の式) について説明できる。		物理化学				
【電気化学】						
1)代表的な化学電池の種類とその構成について説明できる。		熱力学				
2)標準電極電位について説明できる。		熱力学				
3)起電力と標準自由エネルギー変化の関係を説明できる。		熱力学				
4)Nernstの式が誘導できる。		熱力学				
5)濃淡電池について説明できる。		物理化学演習 物理化学				
6)膜電位と能動輸送について説明できる。		物理化学演習 物理化学				
(4)物質の変化						
【反応速度】						
1)反応次数と速度定数について説明できる。		物理化学・物理系実 習 I				
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。 (知識・技能)		物理化学・物理系実 習 I				
3)代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。		物理化学				
4)代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)		物理化学・物理系実 習 I				
5)代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。		物理化学				
6)反応速度と温度との関係(Arrheniusの式)を説明できる。		物理化学・物理系実 習エ				
7) 衝突理論について概説できる。		物理化学				
8) 遷移状態理論について概説できる。		物理化学				
9)代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応など)について説明できる。		物理化学				
10) 酵素反応、およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構について説明できる。		物理化学				
【物質の移動】						
1) 拡散および溶解速度について説明できる。			物理薬剤学Ⅱ			
2)沈降現象について説明できる。			物理薬剤学エ			
3) 流動現象および粘度について説明できる。			物理薬剤学エ			
62 化学物質の分析						
(1) 化学平衡						
[酸と塩基]						
1)酸・塩基平衡を説明できる。	基礎化学	物理系実習 I				
2)溶液の水素イオン濃度 (pH) を測定できる。(技能)	基礎化学					
3)溶液のphを計算できる。(知識・技能)	基礎化学	物理系実習I				
4)緩衝作用について具体例を挙げて説明できる。	分析化学 I					
5)代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。	分析化学 I					

選挙者をよって、コヤイト・コークのの(2008)			1 類	本目		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6)化学物質のPHによる分子形、イオン形の変化を説明できる。	分析化学 I	物理系実習 I・物理 系実習 II				
[各種の化学平衡]						
1)錯体・キレート生成平衡について説明できる。	分析化学 I					
2) 沈殿平衡(溶解度と溶解度積)について説明できる。	分析化学 I					
3)酸化還元電位について説明できる。	分析化学 I					
4)酸化還元平衡について説明できる。	分析化学 I					
5)分配平衡について説明できる。	分析化学 I	物理系実習工				
6) イオン交換について説明できる。	分析化学 I					
(2) 化学物質の検出と定量						
【定性試験】						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。			f=tx	薬局方試験法		
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。		分析化学工	†×K	薬局方試験法		
3) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。			†×K	薬局方試験法		
[定量の基礎]						
1)実験値を用いた計算および統計処理ができる。(技能)	分析化学 I					医療統計学
2) 医薬品分析法のバリデーションについて説明できる。	分析化学 I		†ATK	薬局方試験法		
3)日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。	分析化学 I		775	薬局方試験法		
4) 日本薬局方収載の容量分析法について列挙できる。	分析化学 I	物理系実習 I	松	薬局方試験法		
5)日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。		生物系実習工				
[容量分析]			-			
1)中和滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学 I	物理系実習Ⅰ				
2)非水滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学 I	物理系実習 I				
3)キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学 I	物理系実習 I				
4)沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学 I	物理系実習Ⅰ				
5)酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学 I	物理系実習 I				
6)電気滴定(電位差滴定、電気伝導度滴定など)の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学 I	物理系実習工				
7)日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(技能)	分析化学 I	物理系実習 I				
[金属元素の分析]						
1) 原子吸光光度法の原理、操作法および応用例を説明できる。		機器分析学 I	#K	薬局方試験法		
2)発光分析法の原理、操作法および応用例を説明できる。		機器分析学 I	†AK	薬局方試験法		
[クロマトグラフィー]						
1) クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特徴と分離機構を説明できる。		物理系実習 I 分析化学 I	177 7	薬局方試験法		
2)クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置を説明できる。		物理系実習 I 分析化学 I	নিম	薬局方試験法		

			松	本回		
条子教育セナル・コアカリキュフム(SBOS)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3)薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。(知識・技能)		物理系実習 II 分析化学 II				
(3)分析技術の臨床応用						
【分析の準備】						
1)代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる。(技能)		生物系実習Ⅱ	基礎薬学演習			
2)臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。		分析化学工	基礎薬学演習			
[分析技術]						
1) 臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法を列挙できる。		分析化学工	基礎薬学演習			
2) 免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。		生物系実習 I 分析化学 I				
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)		生物系実習 I 分析化学 II				
4)電気泳動法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)	基礎生物学	生物系実習 I 分析化学 I		薬局方試験法		
5)代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。			基礎薬学演習 臨床物理分析法			
6)代表的なドライケミストリーについて概説できる。			基礎薬学演習 臨床物理分析法			
7)代表的な画像診断技術(X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など)について概説 できる。			臨床物理分析法			診療科各論 I
8) 画像診断薬(造影剤、放射性医薬品など)について概説できる。			臨床物理分析法			
9)薬学領域で繁用されるその他の分析技術(バイオイメージング、マイクロチップなど)について概説できる。			臨床物理分析法			
【薬毒物の分析】						
1)毒物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。			衛生化学			
2)代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)のスクリーニング法を列挙し、説明できる。			衛生化学·衛生系実 習			
3)代表的な中毒原因物質を分析できる。(技能)			衛生系実習			
G3 生体分子の姿・かたちをとらえる						
(1) 生体分子を解析する手法						
【分光分析法】						
1)紫外可視吸光度測定法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。		機器分析学 I · 物理 系実習 I		薬局方試験法		
2) 蛍光光度法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。		機器分析学 I		薬局方試験法		
3) 赤外・ラマン分光スペクトルの原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。		機器分析学工				
4) 電子スピン共鳴 (ESR) スペクトル測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。		機器分析学工				
5) 旋光度測定法(旋光分散)、円偏光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について 説明できる。		機器分析学 I				
6) 代表的な生体分子(核酸、タンパク質)の紫外および蛍光スペクトルを測定し、構造上の特徴と 関連付けて説明できる。(知識・技能)			分子生物学 1			
【核磁気共鳴スペクトル】						
1)核磁気共鳴スペクトル測定法の原理を説明できる。		機器分析学工				

			松	文		
薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOS)	1年	2年			5年	6年
2)生体分子の解析への核磁気共鳴スペクトル測定法の応用例について説明できる。		機器分析学工				
【黄重分析】						
1)質量分析法の原理を説明できる。		機器分析学工				
2)生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。		機器分析学工				
【X線結晶解析】						
1) X線結晶解析の原理を概説できる。		機器分析学工				
2)生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。		機器分析学工				
【相互作用の解析法】						
1)生体分子間相互作用の解析法を概説できる。			分子生物学 I			
(2)生体分子の立体構造と相互作用						
【立体構造】						
1)生体分子(タンパク質、核酸、脂質など)の立体構造を概説できる。	生化学 I					
2) タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。		生化学工				
3) タンパク質の立体構造を規定する因子(疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合など)について、具体例を用いて説明できる。	生化学 I					
4) タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。	生化学 I					
5) 核酸の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。	生化学I		分子生物学 I			
6)生体膜の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。	生化学I	生化学工				
[相互作用]						
1)鍵と鍵穴モデルおよび誘導適合モデルについて、具体例を挙げて説明できる。	生化学 I					
2) 転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明 できる。			分子生物学工			
3) 脂質の水中における分子集合構造(膜、ミセル、膜タンパク質など)について説明できる。	生化学 I	生化学工				
4)生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。	生化学I	生化学工				
04 化学物質の性質と反応						
(1) 化学物質の基本的性質						
[基本專項]						
1)基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。	有機化学 I・機能形態学 II・機能形					
2)薬学領域で用いられる代表的化合物を慣用名で記述できる。	有機化学 I・基礎物理学・基礎化学演習	有機化学Ⅳ				
3) 有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。	有機化学 I · 基礎化 学演習	有機化学皿				
4) 有機反応における結合の開裂と生成の様式について説明できる。	有機化学工	有機化学Ⅳ				
5)基本的な有機反応(置換、付加、脫離、転位)の特徴を概説できる。	有機化学工	有機化学皿·有機化 学IV				
6) ルイス酸・塩基を定義することができる。	有機化学 I					
7) 炭素原子を含む反応中間体(カルボカチオン、カルバニオン、ラジカル、カルベン)の構造と性質 を説明できる。	有機化学工	有機化学皿				
8)反応の進行を、エネルギー図を用いて説明できる。	有機化学工					

			極	本 田		
条字教育七ナル・コアカリキュフム(SBOS)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
9) 有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。	有機化学工	有機化学皿・有機化 学IV				
【有機化合物の立体構造】						
1)構造異性体と立体異性体について説明できる。	有機化学 I·薬学基 礎講座·基礎化学演 習					
2)キラリティーと光学活性を概説できる。	有機化学 I · 薬学基礎講座 · 基礎化学演習					
3)エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	有機化学 I· 薬学基礎講座 · 基礎化学演習					
4)ラセミ体とメソ化合物について説明できる。	有機化学 I·薬学基礎講座 ·基礎化学演習					
5)絶対配置の表示法を説明できる。	有機化学 I・薬学基 礎講座・基礎化学演 習					
6)Fischer投影式とNewman投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。	有機化学 I・基礎化 学演習					
7) エタンおよびブタンの立体配座と安定性について説明できる。	有機化学 I					
[無機化合物]						
1)代表的な典型元素を列挙し、その特徴を説明できる。	無機化学・有機化学 エ・基礎化学演習					
2)代表的な遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。	無機化学・基礎化学					
3)窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。	無機化学					
4) イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。	無機化学					
5) 代表的な無機医薬品を列挙できる。	無機化学					
		-				
1)代表的な錯体の名称、構造、基本的性質を説明できる。	無機化学					
2)配位結合を説明できる。	無機化学・基礎化学					
3)代表的なドナー原子、配位基、キレート試薬を列挙できる。	無機化评					
錯体の安定度定数について説明できる。	無機允孙					
5)錯体の安定性に与える配位子の構造的要素(キレート効果)について説明できる。	無機化学					
6)錯体の反応性について説明できる。	無機化学					
フ)医薬品として用いられる代表的な錯体を列挙できる。	無機化学					
(2) 有機化合物の骨格						
[アルカン]						
1)基本的な炭化水素およびアルキル基を1UPACの規則に従って命名することができる。	有機化学 I · 基礎化 学演習					
2)アルカンの基本的な物性について説明できる。	有機化学 I・基礎化 学演習					

١.			極	車 車		
条字教育七ナル・コアカリキュフム(SBO8)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3)アルカンの構造異性体を図示し、その数を示すことができる。	有機化学 I·薬学基礎講座·基礎化学演習					
4)シクロアルカンの環の歪みを決定する要因について説明できる。	有機化学 I・薬学基 礎講座					
5)シクロヘキサンのいす形配座と舟形配座を図示できる。	有機化学 I · 薬学基礎講座 · 基礎化学演習					
6) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向(アキシアル、エクアトリアル)を図示できる。	有機化学 I·薬学基礎講座·基礎化学演習					
7) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	有機化学 I					
【アルケン・アルキンの反応性】						
1)アルケンへの代表的なシン型付加反応を列挙し、反応機構を説明できる。	有機化学工	有機化学皿				
2)アルケンへの臭素の付加反応の機構を図示し、反応の立体特異性(アンチ付加)を説明できる。	有機化学工	有機化学皿				
3)アルケンへのハロゲン化水素の付加反応の位置選択性(Markovnikov 則)について説明できる。	有機化学工	有機化学皿				
4)カルボカチオンの級数と安定性について説明できる。	有機化学工	有機化学皿				
5)共役ジェンへのハロゲンの付加反応の特徴について説明できる。	有機化学工					
6)アルケンの酸化的開裂反応を列挙し、構造解析への応用について説明できる。	有機化学工	有機化学皿				
7) アルキンの代表的な反応を列挙し、説明できる。	有機化学工					
[芳香族化合物の反応性]						
1)代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。	有機化学工					
2)芳香族性(Hücke l則)の概念を説明できる。	有機化学工					
3) 芳香族化合物の求電子置換反応の機構を説明できる。	有機化学工					
4)芳香族化合物の求電子置換反応の反応性および配向性に及ぼす置換基の効果を説明できる。	有機化学工					
5) 芳香族化合物の代表的な求核置換反応について説明できる。	有機化学工					
(3) 直能基						
卡卢文女子,发了110年9017111千年女:104千年本中华中华中华中华中华中华中华中华中华中华中华中华中华中华中华中华中华中华中华	# ## - ## + ## + ## + ## + ## + ## + ##	# 77 77 87 1				
「)「V次的な目能を2列手し、個々の目能をで有するTCロ例でTUTAVの次別に促りて即右にこる。)、複数の自能其を有する小会物をTIIDACの規則に従って命名をきる.		有核化子IV有機化学IV				
			医薬品化学工			
4)代表的な官能基の定性試験を実施できる。(技能)		化学系実習工	化学系実習工			
5) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)		化学系実習 I				
6) 日常生活で用いられる化学物質を官能基別に列挙できる。	有機化学 I					
[有機ハロゲン化合物]						
1) 有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学工					
2) 末核置換反応 (Sn1および Sn2反応) の機構について、立体化学を含めて説明できる。	有機化学工	有機化学皿				
3) ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構を図示し、反応の位置選択性(Saytzeff則)を 説明できる。	有機化学工					

			凝	本		
条手教育七ナル・コアカリキュフム(SBOS)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【アルコール・フェノール・チオール】						
1) アルコール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学皿				
2)フェノール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学皿				
3)フェノール類、チオール類の抗酸化作用について説明できる。		有機化学皿				
[エーテル]						
1) エーテル類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学皿				
2)オキシラン類の開環反応における立体特異性と位置選択性を説明できる。		有機化学皿				
【アルデヒド・ケトン・カルボン酸】						
1) アルデヒド類およびケトン類の性質と、代表的な求核付加反応を列挙し、説明できる。		有機化学皿				
2) カルボン酸の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学皿				
3)カルボン酸誘導体(酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル)の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学皿				
[アミン]						
1) アミン類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅳ				
2)代表的な生体内アミンを列挙し、構造式を書くことができる。		有機化学Ⅳ				
[官能基の酸性度・塩基性度]						
1)アルコール、チオール、フェノール、カルボン酸などの酸性度を比較して説明できる。	有機化学 I・薬学基 礎講座	有機化学皿				
2)アルコール、フェノール、カルボン酸、およびその誘導体の酸性度に影響を及ぼす因子を列挙し、 説明できる。	有機化学 I	有機化学皿				
3) 含窒素化合物の塩基性度を説明できる。	有機化学 I	有機化学Ⅳ				
(4) 化学物質の構造決定						
[機構]						
1)化学物質の構造決定に用いられる機器分析法の特徴を説明できる。		機器分析学工				
Ľ¹H NMR】						
1)NINRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		機器分析学工				
2)化学シフトに及ぼす構造的要因を説明できる。		機器分析学工				
3) 有機化合物中の代表的水素原子について、おおよその化学シフト値を示すことができる。		機器分析学工				
4)重水添加による重水素置換の方法と原理を説明できる。		機器分析学工				
5)「H NINRの積分値の意味を説明できる。		機器分析学工				
6)「H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する理由と、分裂様式を説明できる。		機器分析学工				
フ)「H NIMRのスピン結合定数から得られる情報を列挙し、その内容を説明できる。		機器分析学工				
8)代表的化合物の部分構造を「H NMR から決定できる。(技能)		機器分析学工				
[13C NINR]						
1) ¹³ C NMRの測定により得られる情報の概略を説明できる。		機器分析学工				
2) 代表的な構造中の炭素について、おおよその化学シフト値を示すことができる。		機器分析学工				
[IRスペクトル]						
1)IRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		機器分析学工				

			和	平		
薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)	1年	2年			5年	6年
2) IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)		機器分析学工				
【紫外可視吸収スペクトル】						
1)化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割を説明できる。		機器分析学工		薬局方試験法		
[マススペクトル]						
1)マススペクトルの概要と測定法を説明できる。		機器分析学工				
2) イオン化の方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。		機器分析学工				
3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明ができる。		機器分析学工				
4)塩素原子や臭素原子を含む化合物のマススペクトルの特徴を説明できる。		機器分析学工				
5)代表的なフラグメンテーションについて概説できる。		機器分析学工				
6) 高分解能マススペクトルにおける分子式の決定法を説明できる。		機器分析学工				
フ)基本的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)		機器分析学工				
【比旋光度】						
1) 比旋光度測定法の概略を説明できる。	基礎化学演習	機器分析学 I		薬局方試験法		
2) 実測値を用いて比旋光度を計算できる。 (技能)	基礎化学演習	機器分析学 I				
3)比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。		機器分析学 I				
4)旋光分散と円二色性について、原理の概略と用途を説明できる。		機器分析学 I				
【総合演習】						
) 1)代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。(技能)		機器分析学工				
C5 ターゲット分子の合成						
(1) 官能基の導入・変換						
1)アルケンの代表的な合成法について説明できる。	生化学 I		医薬品化学 I			
2)アルキンの代表的な合成法について説明できる。	有機化学工		医薬品化学 I			
3) 有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。	有機化学工		医薬品化学 I			
4) アルコールの代表的な合成法について説明できる。		有機化学皿	医薬品化学 I			
5) フェノールの代表的な合成法について説明できる。		有機化学皿	医薬品化学 I			
6) エーテルの代表的な合成法について説明できる。		有機化学皿	医薬品化学 I			
フ)アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。		有機化学皿	医薬品化学 I			
8) カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。		有機化学皿	医薬品化学 I			
9)カルボン酸誘導体(エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物)の代表的な合成法について説明できる。		有機化学皿	医薬品化学 I			
10) アミンの代表的な合成法について説明できる。		有機化学Ⅳ	医薬品化学 I			
11) 代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。		有機化学皿・有機化 学IV				
12)代表的な官能基を他の官能基に変換できる。(技能)		有機化学皿・有機化 学IV	医薬品化学 I			
(2) 複雑な化合物の合成						
【炭素骨格の構築法】						
1)Diels-Alder反応の特徴を具体例を用いて説明できる。		有機化学Ⅳ				

			松	西 西		
薬学教育モテル・コアカリキュラム(SBOS)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法を列挙できる。		有機化学Ⅳ	医薬品化学 I			
3)代表的な炭素酸のK/aと反応性の関係を説明できる。		有機化学Ⅳ	医薬品化学 I			
4) 代表的な炭素-炭素結合生成反応 (アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など)について概説できる。		有機化学皿・有機化 学IV				
【位置および立体選択性】						
1) 代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。		有機化学皿	医薬品化学 I			
2) 代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。		有機化学皿	医薬品化学 I			
【保護基】						
1) 官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。			医薬品化学 I			
【光学活性化合物】						
1) 光学活性化合物を得るための代表的な手法(光学分割、不斉合成など)を説明できる。			医薬品化学 I			
[総合演習]						
1)課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。(知識・技能)			医薬品化学 I			
2) 課題として与えられた医薬品を合成できる。(技能)			医薬品化学 I			
3)反応廃液を適切に処理する。(技能・態度)			医薬品化学 I・化学 系実習 I			
06 生体分子・医薬品を化学で理解する						
(1) 生体分子のコアとパーツ						
[「世体分子の化学構造]						
1) タンパク質の高次構造を規定する結合(アミド基間の水素結合、ジスルフィド結合など)および 相互作用について説明できる。		生物有機化学				
2)糖類および多糖類の基本構造を概説できる。		生物有機化学·有機 化学IV				
3) 糖とタンパク質の代表的な結合様式を示すことができる。		有機化学Ⅳ				
4) 核酸の立体構造を規定する化学結合、相互作用について説明できる。		有機化学Ⅳ				
5)生体膜を構成する脂質の化学構造の特徴を説明できる。		有機化学Ⅳ				
【生体内で機能する複素環】						
1)生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。		有機化学Ⅳ				
2)核酸塩基の構造を書き、水素結合を形成する位置を示すことができる。		有機化学Ⅳ				
3) 複素環を含む代表的な補酵素(フラビン、NAD、チアミン、ピリドキサール、葉酸など)の機能を 化学反応性と関連させて説明できる。			医薬品化学工			
【生体内で機能する錯体・無機化合物】						
1)生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能について説明できる。			医薬品化学工			
2)活性酸素の構造、電子配置と性質を説明できる。	無機化学					
3)一酸化窒素の電子配置と性質を説明できる。	無機化学					
【化学から観る生体ダイナミクス】						
1)代表的な酵素の基質結合部位が有する構造上の特徴を具体例を挙げて説明できる。			医薬品化学工			
2)代表的な酵素(キモトリプシン、リボスクレアーゼなど)の作用機構を分子レベルで説明できる。			医薬品化学工			
3)タンパク質リン酸化におけるATPの役割を化学的に説明できる。			医薬品化学工			

			和	本		
薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOS)	1年	2年			5年	6年
(2) 医薬品のコアとパーツ						
【医薬品のコンポーネント】						
1)代表的な医薬品のコア構造(ファーマコフォア)を指摘し、分類できる。			医薬品化学工			
2)医薬品に含まれる代表的な官能基を、その性質によって分類し、医薬品の効果と結びつけて説明できる。			医薬品化学工			
【医薬品に含まれる植素環】					•	
1)医薬品として複素環化合物が繁用される根拠を説明できる。		有機化学Ⅳ				
2) 医薬品に含まれる代表的な複素環化合物を指摘し、分類することができる。		有機化学Ⅳ				
3)代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。		有機化学Ⅳ				
4)代表的芳香族複素環の求電子試薬に対する反応性および配向性について説明できる。		有機化学Ⅳ				
5) 代表的芳香族複素環の求核試薬に対する反応性および配向性について説明できる。		有機化学Ⅳ				
[医薬品と生体高分子]						
1)生体高分子と非共有結合的に相互作用しうる官能基を列挙できる。			医薬品化学工			
2)生体高分子と共有結合で相互作用しうる官能基を列挙できる。			医薬品化学工			
3)分子模型、コンピューターソフトなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。 (知識・技能)			医薬品化学Ⅱ			
【生体分子を模倣した医薬品】						
1) カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			医薬品化学工			
2) アセチルコリンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			医薬品化学工			
3) ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			医薬品化学工			
4) 核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			医薬品化学工			
5) ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			医薬品化学工			
【生体内分子と反応する医薬品】						
1)アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。			医薬品化学工			
2)インターカレーターの作用機序を図示し、説明できる。			医薬品化学工			
3) β-ラクタムを持つ医薬品の作用機序を化学的に説明できる。			微生物薬品学·医薬 品化学 I			
G7 自然が生み出す薬物						
(1)薬になる動権鉱物						
[生業とは何か]						
1) 代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。		生薬学A・生薬学B				
2)生薬の歴史について概説できる。		生薬学A				
3) 生薬の生産と流通について概説できる。		生薬学A				
【薬用植物】						
1) 代表的な薬用植物の形態を観察する。(技能)		化学系実習 I				
2)代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。	機能形態学 I	生薬学A・生薬学B				
3) 代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。		生薬学A				
4) 代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。(技能)		化学系実習 I				

			松	車 国		
条子教育モナル・コノカリキュフム(SBO8)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5)代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。	薬用植物学	生薬学A・生薬学B				
【植物以外の医薬資源】						
1)動物、鉱物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。		生薬学B				
【生薬成分の構造と生合成】						
1)代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を概説できる。		生薬学A				
2) 代表的なテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。		生薬学A				
3)代表的な強心配糖体の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。		生薬学A				
4) 代表的なアルカロイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。		生薬学A				
5)代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。		生薬学A				
6) 代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げる ことができる。		生薬学A				
7)代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。		生薬学A				
【農薬、香粧品としての利用】						
1)天然物質の農薬、香粧品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。		生薬学B				
【生薬の同定と品質評価】						
1) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。		生薬学A				
2) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)		化学系実習 I				
3)代表的な生薬の確認試験を実施できる。(技能)		化学系実習 I				
4)代表的な生薬の純度試験を実施できる。(技能)		化学系実習 I				
5)生薬の同定と品質評価法について概説できる。		生薬学A				
(2)薬の宝庫としての天然物						
[シーズの探索]						
1)医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。		生薬学A				
2)シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して概説できる。			天然物化学			
3) 医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を列挙できる。		生薬学A				
【天然物質の取扱い】						
1) 天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる。(技能)		化学系実習 I				
2) 代表的な天然有機化合物の構造決定法について具体例を挙げて概説できる。			天然物化学			
【微生物が生み出す医薬品】						
1) 抗生物質とは何かを説明し、化学構造に基づいて分類できる。			微生物薬品学			
【発酵による医薬品の生産】						
1)微生物による抗生物質(ペニシリン、ストレプトマイシンなど)生産の過程を概説できる。			天然物化学			
【発酵による有用物質の生産】						
1) 微生物の生産する代表的な糖質、酵素を列挙し、利用法を説明できる。			分子生物学Ⅱ			
(3)現代医療の中の生薬・漢方薬						

			報 光 数 に			
薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)	1年	2年 3年	<u> </u>	4年	5年	6年
【漢方医学の基礎】						
1) 漢方医学の特徴について概説できる。		生薬学A				
2) 漢方薬と民間薬、代替医療との相違について説明できる。		生薬学A				
3) 漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説できる。		生薬学A				
4)漢方処方と「証」との関係について概説できる。		生薬学A				
5)代表的な漢方処方の適応症と配合生薬を説明できる。		生薬学B				
6) 漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。		生薬学A・生薬学B				
7)漢方エキス製剤の特徴を煎液と比較して列挙できる。		生薬学A				
【漢方処方の応用】						
1)代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方の応用、使用上の注意について概説できる。		生薬学A・生薬学B				
2) 漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明できる。		生薬学A・生薬学B				
[生物系薬学を学ぶ]			-			
08 生命体の成り立ち						
(1) ヒトの成り立ち						
【編纂】						
1)ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置を説明できる。	機能形態学I					
2) ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担について概説できる。	機能形態学I					
【神経系】						
1)中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。	機能形態学I					
2) 体性神経系の構成と機能の概要を説明できる。	機能形態学I					
3) 自律神経系の構成と機能の概要を説明できる。	機能形態学I					
【骨格系·筋肉系】						
1) 主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	機能形態学I					
2)主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。	機能形態学I					
[皮膚]						
1)皮膚について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学I	病態生理学 I				
【循環器系】						
1)心臓について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学工	病態生理学 I				
2) 血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学工	病態生理学 I				
3) リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。		免疫学・病態生理学 I				
【呼吸器系】			•			
1) 肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学工	病態生理学 I				
[消化器系]						
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学工	病態生理学工	臨床薬	臨床薬理学 I		
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学工	病態生理学工	臨床薬	臨床薬理学 I		
【泌尿器系】						

			松	中		
薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)	1年	2年			5年	6年
1)腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	機能形態学工	病態生理学工		臨床薬理学 I		
【生殖器系】						
1) 精巣、卵巣、子宮などの生殖器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	薬学入門生物学					
[内分泌系]						
1)脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		病態生理学 I				
【感觉器系】						
1)眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。		病態生理学 I				
【血液・造血器系】						
1)骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		病態生理学 I				
(2) 生命体の基本単位としての細胞						
[細胞と組織]						
1)細胞集合による組織構築について説明できる。	機能形態学工					
2)臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。	機能形態学工					
3)代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。(技能)		生物系実習 I				
(
1)細胞膜の構造と性質について説明できる。	生化学 I・基礎生物 学					
2)細胞膜を構成する代表的な生体分子を列挙し、その機能を説明できる。	生化学 I・基礎生物 学					
3)細胞膜を介した物質移動について説明できる。	生化学 I・基礎生物学					
【細胞内小器官】						
1)細胞内小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)の 構造と機能を説明できる。	薬学入門生物学・無 機化学					
【細胞の分裂と死】						
1)体細胞分裂の機構について説明できる。	薬学入門生物学					
2) 生殖細胞の分裂機構について説明できる。	薬学入門生物学					
3)アポトーシスとネクローシスについて説明できる。			分子生物学工			
4)正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。			分子生物学工			
【細胞間コミュニケーション】						
1)細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	基礎生物学					
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。	基礎生物学					
(3)生体の機能調節						
【神経・筋の関節機構】						
1)神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。	機能形態学I					
2)シナプス伝達の調節機構を説明できる。	機能形態学I					
3)神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。	機能形態学 I		病態生理学皿			
4)筋収縮の調節機構を説明できる。	機能形態学I					
【ホルモンによる調節機構】						

() () () () () () () () () () () () () (双	西		
条子教育セナル・コアカリキュフム(SBO8)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1)主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。		病態生理学 I				
2)血糖の調節機構を説明できる。		病態生理学 I				
【循環・呼吸系の調節機構】						
1)血圧の調節機構を説明できる。	機能形態学工	病態生理学 I				
2)肺および組織におけるガス交換を説明できる。	機能形態学工	病態生理学 I				
3)血液凝固・線溶系の機構を説明できる。		病態生理学 I				
[体液の調節機構]						
1)体液の調節機構を説明できる。		病態生理学 I·病態 生理学 I				
2)尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。	機能形態学工	病態生理学工				
【消化・吸収の調節機構】						
1)消化、吸収における神経の役割について説明できる。	機能形態学工					
2)消化、吸収におけるホルモンの役割について説明できる。	機能形態学工	病態生理学工				
【体温の関節機構】						
1)体温の調節機構を説明できる。		病態生理学工				
(4) 小さな生き物たち						
[編纂]						
1) 生態系の中での微生物の役割について説明できる。		微生物学				
2)原核生物と真核生物の違いを説明できる。		微生物学				
1)細菌の構造と増殖機構を説明できる。		微生物学				
2)細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。		微生物学				
3) グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。		微生物学				
4) マイコブラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌についてその特性を説明できる。		微生物学				
5)腸内細菌の役割について説明できる。		微生物学				
6)細菌の遺伝子伝達(接合、形質導入、形質転換)について説明できる。			微生物薬品学			
【衛踏棒集】						
1)代表的な細菌毒素の作用を説明できる。		锁生物护				
[ウイルス]						
1)代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。		微生物学				
2)ウイルスの分類法について概説できる。		锁生物护				
3) 代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。		微生物学				
【真菌・原虫・その他の微生物】						
1) 主な真菌の性状について説明できる。		微生物学				
2) 主な原虫、寄生虫の生活史について説明できる。		微生物学				
【消毒と滅菌】						

(5) 対象) (5) 対象) (5) 7 4 h 地 to bit 16) (-	サ	2年 微生物学·生物系実	3年	4年	5年	6年
消毒、防腐および殺菌、静菌の概念を説明できる。 (0SCEの対象) (のSCEの対象) ((のSCEの対象) ((() () () () () () () () (黎 四	生物学・生物系実				
精薬を適切に使用する。(技能・態度) (OSCEの対象) (OSCEの対象) (OSCEの対象) (OSCEの対象) (OSCEの対象) (OSCEの対象) (OSCEの対象) (OSCEの対象) (対能) (OSCEの対策・減増養を実施できる。(技能) (技能) (OSCEのが維維養、純増養を実施できる。(技能) (OSCEのが対策・(ルル・当のが対策を実施できる。(技能) (OSCEの対策・(ルル・当のが対策を実施できる。(技能) (OSCEの対策・(ルル・当のが対策を実施できる。(技能) (OSCEの対策・(ルル・当のが対策を実施できる。(技能) (OSCEの対策・(ルル・当のが対策を実施できる。(技能) (OSCEの対策・(ルル・当の対策・(ルル・当の対策・(ルル・当の対策・(ルル・当の対策・(ルル・当の対策・(ルル・当の対策・(ルル・当の対策・(ルル・当の対策・(ルル・当の対策・(ルル・当の対策・(ルル・当の対策・(ルル・当の対策・(ルル・当の対策・(ルル・当の対策・(ルル・当の対策・(ルル・当の対策・(ルル・)) (対策) (OSCEの対策・(ルル・)) (OSCEの対象) (OSCEの対策・(ルル・)) (OSCEの対象) (OSCENTAL (OSCE	#	п				
 成菌法を実施できる。(技能) 以染色を実施できる。(技能) Q. (大能) Q. (大部) Q. (大部) Q. (大部) Q. (大部) Q. (大部) Q. (大部) Q. (大中心のが非います。 (大中心のがはいます。 (大地) (大中心のがはいます。 (大地) (大中心のがはいます。 (大地) (大地) (大中心のがはいます。 (大地) (大地) (大地) (大地) (大地) (大地) (大地) (大地)		生物系実習工				
	₩	生物系実習Ⅱ				
グラム染色を実施できる。(技能) 無菌操作を実施できる。(技能) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)						
無菌操作を実施できる。 (技能) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。 (技能) 細帯の同中に 田ハスは主めかき診性(オルヴめが中等診 (本津利の時診) (ユ	(丰)	生物系実習工				
代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能) 細帯の同中に用いては主めか計略は(オル学的体中計略 血達利の計略 ひマナ物母的計略)に	(丰)	生物系実習工				
如萧の同中一田八之伊丰的六群除注(开ル学的种味群除,由连利明群除,以之生物等的群除);	#	生物系実習工				
	刊箋	生物系実習 I 微生物学				
5)代表的な細菌を同定できる。(技能) 生物系	₩	生物系実習Ⅱ				
69 生命をミクロに理解する						
(1) 細胞を構成する分子						
[晴賞]						
1) 脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。 生物有・	₩ 化学演習 (本)	生物有機化学				
2)脂肪酸の種類と役割を説明できる。 生化学 I ・基礎生物 生物有: 学 学	:化学 I・基礎生物 年:	生物有機化学·生化 学 I				
3)脂肪酸の生合成経路を説明できる。		生物有機化学·生化 学I				
ひ 4)コレステロールの生合成経路と代謝を説明できる。 52 4)コレステロールの生合成経路と代謝を説明できる。	刊 計	生物有機化学·生化 学 I				
[秦]						
		生物有機化学·生化 学 II				
·基礎生物	·基礎生物	生物有機化学				
·基礎生物	·基礎生物	生物有機化学				
生物学	生物学	生物有機化学				
[アミノ酸]						
		生物有機化学				
2)アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝について説明できる。 学		生物有機化学·生化 学 I				
3)アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる。(技能) 生物有		生物有機化学				
[ピタミン]						
1)水溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応 について説明できる。	生	化学工				
2) 脂溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質と生理機能を説明できる。	#	七				
3) ビタミンの欠乏と過剰による症状を説明できる。	<u></u>	化学工				
(2)生命情報を担う遺伝子						
	-	-	-			
1)核酸塩基の代謝(生合成と分解)を説明できる。 生化学 1	#1	化学工				

			松	本		
栗牛教育モデル・コアカリキュラム(SBOS)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2)DNAの構造について説明できる。	分析化学 I・生化学 I・基礎生物学					
3)RNAの構造について説明できる。	生化学 I					
[遺伝情報を担う分子]						
1)遺伝子発現に関するセントラルドグマについて概説できる。	基礎生物学					
2)DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。	生化学1					
3) ゲノムと遺伝子の関係を説明できる。			分子生物学 I			
4)染色体の構造を説明できる。	基礎生物学		分子生物学 I			
5)遺伝子の構造に関する基本的用語(プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど)を 説明できる。			分子生物学 I			
6)RNAの種類と働きについて説明できる。			分子生物学 I · 分子 生物学 II			
[転写と翻訳のメカニズム]						
1)DNAからRNAへの転写について説明できる。			分子生物学 I			
2) 転写の調節について、例を挙げて説明できる。			分子生物学 I			
3) RNAのプロセシングについて説明できる。			分子生物学 I			
4)RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。			分子生物学 I			
5)リボソームの構造と機能について説明できる。			分子生物学 I			
[遺伝子の複製・変異・修復]						
1) DNAの複製の過程について説明できる。			分子生物学 I			
2) 遺伝子の変異(突然変異)について説明できる。			分子生物学 I			
3)DNAの修復の過程について説明できる。			分子生物学 I			
【遺伝子多型】						
1)一塩基変異(SNPs)が機能におよぼす影響について概説できる。			分子生物学工			
(3)生命活動を担うタンパク質						
[タンパク質の構造と機能]						
1) タンパク質の主要な機能を列挙できる。	生化学 I・基礎生物 学					
2) タンパク質の一次、二次、三次、四次構造を説明できる。	生化学 I・基礎生物 / 学	生物有機化学				
3) タンパク質の機能発現に必要な翻訳後修飾について説明できる。	生化学I	生化学工				
[薛素]						
1)酵素反応の特性を一般的な化学反応と対比させて説明できる。	生化学I	生化学工				
2) 酵素を反応様式により分類し、代表的なものについて性質と役割を説明できる。	生化学I	生化学工				
3)酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	生化学I	生化学工				
4) 酵素反応速度論について説明できる。	生化学I	生化学工				
5)代表的な酵素活性調節機構を説明できる。	生化学I	生化学工				
6)代表的な酵素の活性を測定できる。(技能)	71	生物系実習 I				
【酵素以外の機能タンパク質】						

			松	本		
条字教育モナル・コアカリキュラム(SBOs) 	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1)細胞内外の物質や情報の授受に必要なタンパク質(受容体、チャネルなど)の構造と機能を概説 できる。	生化学 I	生化学工				
2)物質の輸送を担うタンパク質の構造と機能を概説できる。	生化学 I	生化学工				
3) 血漿リポタンパク質の種類と機能を概説できる。	生化学 I					
4)細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質を列挙し、その機能を概説できる。	生化学I	生化学工				
5)細胞骨格を形成するタンパク質の種類と役割について概説できる。	生化学I					
[タンパク質の取扱い]						
1) タンパク質の定性、定量試験法を実施できる。(技能)		生物系実習工				
2) タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。(知識・技能)		生物系実習工				
3) タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。	基礎生物学					
(4) 生体エネルギー						
【栄養素の利用】						
1)食物中の栄養成分の消化・吸収、体内運搬について概説できる。		生化学工				
【ATPの産生】						
1)ATPが高エネルギー化合物であることを、化学構造をもとに説明できる。 学	生化学 I・基礎生物 学	工学儿生				
2)解糖系について説明できる。		生物有機化学·生化 学 I				
3) クエン酸回路について説明できる。		生物有機化学·生化 学 II				
4)電子伝達系(酸化的リン酸化)について説明できる。		生物有機化学·生化 学 II				
5)脂肪酸のβ酸化反応について説明できる。		生物有機化学·生化 学 II				
6)アセチルCoAのエネルギー代謝における役割を説明できる。		生物有機化学·生化 学 II				
フ)エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割を説明できる。		生化学工				
8) ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。		生化学工				
9)ペントースリン酸回路の生理的役割を説明できる。		生化学工				
10)アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。		生化学工				
【如餓状態と飽食状態】						
1) グリコーゲンの役割について説明できる。	生化学 I	生化学工				
2)糖新生について説明できる。		生化学工				
3) 飢餓状態のエネルギー代謝(ケトン体の利用など)について説明できる。		生化学工				
4)余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。		生化学工				
5) 食餌性の血糖変動について説明できる。		生化学工				
6) インスリンとグルカゴンの役割を説明できる。		生化学工				
7)糖から脂肪酸への合成経路を説明できる。		生化学工				
8)ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸について説明できる。		生化学工				
(5) 生理活性分子とシグナル分子						
[ホルモン]						

1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			松	本		
栗学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 代表的なペプチド性ホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。		生化学工		医療薬学演習		
2)代表的なアミノ酸誘導体ホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を 説明できる。		生化学工		医療薬学演習		
3) 代表的なステロイドホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。		生化学工				
4)代表的なホルモン異常による疾患を挙げ、その病態を説明できる。		生化学工				診療科各論 I
[オータコイドなど]						
1)エイコサノイドとはどのようなものか説明できる。	生化学 I	生物有機化学·生化 学 II				
2)代表的なエイコサノイドを挙げ、その生合成経路を説明できる。		生物有機化学·生化 学 II				
3)代表的なエイコサノイドを挙げ、その生理的意義(生理活性)を説明できる。	生化学 I	生化学工				
4) 主な生理活性アミン(セロトニン、ヒスタミンなど)の生合成と役割について説明できる。		生化学工				
5) 主な生理活性ペプチド (アンギオテンシン、ブラジキニンなど) の役割について説明できる。	生化学 I					
6)一酸化窒素の生合成経路と生体内での役割を説明できる。		生化学工				
【神経伝達物質】						
1)モノアミン系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。		I 本面薬				
2)アミノ酸系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。		I 点面紊				
3) ペプチド系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。		東理学 I				
4)アセチルコリンの生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。		薬理学 I				
【サイトカイン・増殖因子・ケモカイン】						
1) 代表的なサイトカインを挙げ、それらの役割を概説できる。		免疫学				
2) 代表的な増殖因子を挙げ、それらの役割を概説できる。		免疫学				
3) 代表的なケモカインを挙げ、それらの役割を概説できる。		免疫学				
【細胞内情報伝達】						
1)細胞内情報伝達に関与するセカンドメッセンジャーおよびカルシウムイオンなどを、具体例を挙げて説明できる。	生化学 I	生化学工				
2)細胞膜受容体からGタンパク系を介して細胞内へ情報を伝達する主な経路について概説できる。		生化学工				
3)細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介して情報を伝達する主な経路について概説できる。		生化学工				
4)代表的な細胞内(核内)受容体の具体例を挙げて説明できる。		<u></u>	分子生物学工			
(6)遺伝子を操作する						
[遺伝子操作の基本]						
1)組換えDNA技術の概要を説明できる。		Ţ,	分子生物学Ⅱ			
2)細胞からDMAを抽出できる。(技能)		生物系実習I				
3)DNAを制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。(技能)		生物系実習 I				
4)組換えDNA実験指針を理解し守る。(態度)		生物系実習I				
5)遺伝子取扱いに関する安全性と倫理について配慮する。(態度)		生物系実習 I				
[遺伝子のクローニング技術]						
1)遺伝子クローニング法の概要を説明できる。		,,	分子生物学工			

(*) ロの) / ローヤニキター・= 川 日外非様様			数	本 日		
米千秋月モナル・コノルリオユフム(SBO8)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2)cDNAとゲノミックDNAの違いについて説明できる。			分子生物学工			
3)遺伝子ライブラリーについて説明できる。			分子生物学工			
4)PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)		生物系実習I				
5)RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。			分子生物学工			
6)DNA塩基配列の決定法を説明できる。			分子生物学工			
7) コンピューターを用いて特徴的な塩基配列を検索できる。(技能)			分子生物学工			
【遺伝子機能の解析技術】						
1)細胞(組織)における特定のDNAおよびRNAを検出する方法を説明できる。			分子生物学工			
2) 外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。			分子生物学工			
3)特定の遺伝子を導入した動物、あるいは特定の遺伝子を破壊した動物の作成法を概説できる。			分子生物学工			
4)遺伝子工学の医療分野での応用について例を挙げて説明できる。			分子生物学工			
610 生体防御						
(1) 身体をまもる						
【生体防御反応】						
1) 自然免疫と獲得免疫の特徴とその違いを説明できる。		免疫学				
2) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーについて説明できる。		免疫学				
3)補体について、その活性化経路と機能を説明できる。		免疫学				
4) 免疫反応の特徴(自己と非自己、特異性、記憶)を説明できる。		免疫学				
5)クローン選択説を説明できる。		免疫学				
6)体液性免疫と細胞性免疫を比較して説明できる。		免疫学				
【免疫を担当する組織・細胞】						
1) 免疫に関与する組織と細胞を列挙できる。		免疫学				
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。		免疫学				
3) 食細胞が自然免疫で果たす役割を説明できる。		免疫学				
4) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。		免疫学				
【分子レベルで見た免疫のしくみ】						
1) 抗体分子の種類、構造、役割を説明できる。		免疫学				
2)MHC抗原の構造と機能および抗原提示経路での役割について説明できる。		免疫学				
3) T細胞による抗原の認識について説明できる。		免疫学				
4)抗体分子および「細胞抗原受容体の多様性を生み出す機構(遺伝子再構成)を概説できる。		免疫学				
5) 免疫系に関わる主なサイトカイン、ケモカインを挙げ、その作用を説明できる。		免疫学				
(2) 免疫系の破綻・免疫系の応用						
【免疫系が関係する疾患】						
1)アレルギーについて分類し、担当細胞および反応機構を説明できる。		免疫学				
2) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。		免疫学				
3) 代表的な自己免疫疾患の特徴と成因について説明できる。		免疫学				
4)代表的な免疫不全症候群を挙げ、その特徴と成因を説明できる。		免疫学				

			ä			
薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)			ŧ _			
	1年	2年 3年		4年	5年	6年
[免疫応答のコントロール]						
1)職器移植と免疫反応の関わり(拒絶反応、免疫抑制剤など)について説明できる。	免疫学	42				
2)細菌、ウイルス、寄生虫などの感染症と免疫応答との関わりについて説明できる.	免疫学	4				
3)腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。	免疫学	5				
4)代表的な免疫賦活療法について概説できる。	免疫学	5				
[予防接種]						
1)予防接種の原理とワクチンについて説明できる。	免疫学	5				
2)主なワクチン(生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン)について基本的特徴を 説明できる。	免疫学	47				
3) 予防接種について, その種類と実施状況を説明できる。	免疫学	41				
【免疫反応の利用】						
1)モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法を説明できる。	免疫学	4				
2) 抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法の原理を説明できる。	生物系	生物系実習工				
3) 沈降、凝集反応を利用して抗原を検出できる。(技能)	生物系	生物系実習工				
4)ELISA法、ウエスタンプロット法などを用いて抗原を検出、判定できる。(技能)	生物系	生物系実習工				
(3) 感染症にかかる						
【代表的な感染症】						
1)主なDNAウイルス(△サイトメガロウイルス、△EBウイルス、ヒトヘルペスウイルス、△アデノ ウイルス、△パルボウイルスB19、B型肝炎ウイルス)が引き起こす代表的な疾患について概説できる。	微生物学	ay h				
2)主なRNAウイルス(△ボリオウイルス、△コクサッキーウイルス、△エコーウイルス、△ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、4ンフルエンザウイルス、Δ麻疹ウイルス、ムムンプスウイルス)が引き起こす代表的な疾患について概説できる。	微生物学	0学				
3) レトロウイルス (HIV、HTLV) が引き起こす疾患について概説できる。	微生物学	1000年				
4) グラム陽性球菌 (ブドウ球菌、レンサ球菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患に ついて概説できる。	一	الله الله الله الله الله الله الله الله				
5)グラム陰性球菌(淋菌、Δ髄膜炎菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について 概説できる。	一	学				
6) グラム陽性桿菌(破傷風菌、ムガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ヘジフテリア菌、△炭疽菌)の細菌 学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。	微生物学	7学				
7) グラム陰性桿菌(大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、ムチフス菌、ヘペスト菌、コレラ菌、ム百日 咳菌、腸炎ビブリオ菌、緑膿菌、ヘブルセラ菌、レジオネラ菌、ヘインフルエンザ菌)の細菌学的 特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		7学				
8) グラム陰性スピリルム属病原菌(ヘリコバクター・ピロリ菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。	一	70学				
9)抗酸菌(結核菌、非定型抗酸菌)の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。	一	ny h				
10) スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。	一	الله الله الله الله الله الله الله الله				
11) 真菌(アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムムーコル)の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。	微生物学	7学				
12) 代表的な原虫、寄生虫の代表的な疾患について概説できる。	微生物学	7学				
13) プリオン感染症の病原体の特徴と発症機序について概説できる。	微生物学	7学				
【懸染症の予防】						

1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			松	本田		
薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs) ——	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1)院内懸染について、発生要因、感染経路、原因微生物、およびその防止対策を概説できる。		微生物学				
[健康と環境]						
0.11 倉庫						
(1) 栄養と健康						
【栄養素】						
1) 栄養素 (三大栄養素、ビタミン、ミネラル) を列挙し、それぞれの役割について説明できる。		食品衛生学 I				
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。		食品衛生学 I				
3)脂質の体内運搬における血漿リポタンパク質の栄養学的意義を説明できる。		食品衛生学 I				
4)食品中のタンパク質の栄養的な価値(栄養価)を説明できる。		食品衛生学 I	食品衛生学工			
5)エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、エネルギー所要量の意味を説明できる。		食品衛生学 I	食品衛生学工			
6) 栄養素の栄養所要量の意義について説明できる。		食品衛生学 I	食品衛生学工			
7) 日本における栄養摂取の現状と問題点について説明できる。		食品衛生学 I	食品衛生学工			
8)栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。		食品衛生学 I	食品衛生学工			
【食品の品質と管理】						
1)食品が腐敗する機構について説明できる。			食品衛生学工			
2)油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)			食品衛生学工			
3)食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。			食品衛生学工			
4)食品の変質を防ぐ方法(保存法)を説明できる。			食品衛生学II・衛生 系実習			
5)食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。			食品衛生学工			
6)代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。			食品衛生学II・衛生 系実習			
フ)食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。			食品衛生学工			
8) 主な食品添加物の試験法を実施できる。(技能)			食品衛生学工			
9)代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。			食品衛生学工			
10) 遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。(知識・態度)			食品衛生学工			
[食中毒]						
1)食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。		食品衛生学 I	食品衛生学工			
2) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品 および予防方法について説明できる。		食品衛生学 I	食品衛生学工			
3)食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。		食品衛生学 I	食品衛生学工			
4)代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。		食品衛生学 I	食品衛生学工			
5) 化学物質(重金属、残留農薬など)による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を 説明できる。		食品衛生学 I	食品衛生学工			
(2) 社会・集団と健康						
【保健統計】						
1)集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。				公衆衛生学		
2) 人口静態と人口動態について説明できる。				公衆衛生学		
3) 国勢調査の目的と意義を説明できる。				公衆衛生学		

(*) ロロン ・川・十二十月 「・=川・村寮服務			数	奉 目		
条子教育セナル・コノガリオュフム(SBOS)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4)死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。				公衆衛生学		
5) 人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。				公衆衛生学		
【健康と疾病をめぐる日本の現状】						
1)死因別死亡率の変遷について説明できる。				公衆衛生学		
2) 日本における人口の推移と将来予測について説明できる。				公衆衛生学		
3)高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。(知識・態度)				公衆衛生学		
[
1)疾病の予防における疫学の役割を説明できる。				公衆衛生学		
2)疫学の三要因(病因、環境要因、宿主要因)について説明できる。				公衆衛生学		
3)疫学の種類(記述疫学、分析疫学など)とその方法について説明できる。				公衆衛生学		
4) 患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる。(知識・技能)				公衆衛生学		
5)要因・対照研究(コホート研究)の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる。 (知識・技能)				公衆衛生学		
6)医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。				公衆衛生学		
7)疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。				公衆衛生学		
(3) 疾病の予防						
【健康とは】						
1)健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。				公衆衛生学		
2)世界保健機構(WHO)の役割について概説できる。				公衆衛生学		
[疾病の予防とは]						
1)疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。				公衆衛生学		
2)疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。				公衆衛生学		
3)新生児マススクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。				公衆衛生学		
4)疾病の予防における薬剤師の役割について討議する。(態度)				公衆衛生学		
[感染症の現状とその予防]						
1) 現代における感染症(日和見感染、院内感染、国際感染症など)の特徴について説明できる。		微生物学		公衆衛生学		
2)新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。		微生物学		公衆衛生学		
3)一、二、三類感染症および代表的な四類感染症を列挙し、分類の根拠を説明できる。		微生物学		公衆衛生学		
4)母子感染する疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。		微生物学		公衆衛生学		
5)性行為感染症を列挙し、その予防対策と治療について説明できる。		微生物学		公衆衛生学		
6)予防接種法と結核予防法の定める定期予防接種の種類を挙げ、接種時期などを説明できる。				公衆衛生学		
【生活習慣病とその予防】						
1)生活習慣病の種類とその動向について説明できる。				公衆衛生学		
2)生活習慣病のリスク要因を列挙できる。				公衆衛生学		
3) 食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。				公衆衛生学		
[職業病とその予防]						
1) 主な職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。				公衆衛生学		

		細	な 田		
乗学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs) 	1年 2年			5年	6年
612 環境					
(1) 化学物質の生体への影響					
【化学物質の代謝・代謝的活性化】					
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。		環境衛生学工			
2) 第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。		環境衛生学工			
3) 第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。		環境衛生学工			
【化学物質による発がん】					
1)発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。		環境衛生学工			
2)変異原性試験(Ames試験など)の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)		環境衛生学工			
3)発がんのイニシエーションとプロモーションについて概説できる。		環境衛生学工			
4)代表的ながん遺伝子とがん抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。		環境衛生学工			
[化学物質の毒性]					
1) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。		衛生化学・環境衛生 学 I			
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を列挙できる。		環境衛生学工			
3) 重金属、農薬、PGB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴に ついて説明できる。		環境衛生学工			
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。		環境衛生学工			
5) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量(NOAEL)などについて概説できる。		環境衛生学工			
6) 化学物質の安全摂取量 (1日許容摂取量など) について説明できる。		環境衛生学工			
7) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制(化審法など)を説明できる。		環境衛生学工			
8) 環境ホルモン (内分泌撹乱化学物質) が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。 (態度)		環境衛生学Ⅱ			
【化学物質による中毒と処置】					
1)代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。		環境衛生学工			
2) 化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を検索することができる。(技能)		環境衛生学工			
[電離放射線の生体への影響]					
1) 人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。	放射化学	環境衛生学工			
2)電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係を体外被曝と体内被曝に分けて説明できる。	放射化学	環境衛生学工			
3)電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織を挙げ、その感受性の差異を説明できる。	放射化学	環境衛生学工			
4)電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子(酸素効果など)について説明できる。	放射化学	環境衛生学工			
5) 電離放射線を防御する方法について概説できる。	放射化学	環境衛生学工			
6)電離放射線の医療への応用について概説できる。	放射化学	環境衛生学工			
[非電離放射線の生体への影響]					
1) 非電離放射線の種類を列挙できる。		環境衛生学工			
2) 紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。		環境衛生学工			
3)赤外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。		環境衛生学工			

١.		極	本 回	
条字教育モテル・コアカリキュラム(SBOS)	1年 2年	3年	4年 5年	6年
(2)生活環境と健康				
[地球環境と生態系]				
1) 地球環境の成り立ちについて概説できる。		環境衛生学 I		
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。		環境衛生学 I		
3) 人の健康と環境の関係を人が生態系の一員であることをふまえて討議する。(態度)		環境衛生学I		
4)地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。		環境衛生学 I		
5)食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮について具体例を挙げて説明できる。		環境衛生学 I		
6) 化学物質の環境内動態と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。		環境衛生学 I		
7) 環境中に存在する主な放射性核種 (天然、人工)を挙げ、人の健康への影響について説明できる。		環境衛生学 I		
【水環境】				
1)原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。		環境衛生学 I		
2) 水の浄化法について説明できる。		環境衛生学 I		
3)水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。		環境衛生学 I		
4)水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)		環境衛生学I		
5)下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。		環境衛生学 I		
6) 水質汚濁の主な指標を水域ごとに列挙し、その意味を説明できる。		環境衛生学 I		
7)DO,BOD,CODを測定できる。(技能)		環境衛生学 I		
8) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。		環境衛生学 I		
【大気環境】				
1)空気の成分を説明できる。		環境衛生学 I		
2) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。		環境衛生学 I		
3) 主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。(知識・技能)		環境衛生学 I		
4)大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。		環境衛生学 I		
[室内環境]				
1)室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)		環境衛生学 I		
2)室内環境と健康との関係について説明できる。		環境衛生学 I		
3)室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。		環境衛生学 I		
4)シックハウス症候群について概説できる。		環境衛生学 I		
[廃棄物]				
1)廃棄物の種類を列挙できる。		環境衛生学 I		
2)廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。		環境衛生学 I		
3) 医療廃棄物を安全に廃棄、処理する。(技能・態度)		環境衛生学 I		
4)マニフェスト制度について説明できる。		環境衛生学 I		
5)PRTR法について概説できる。		環境衛生学 I		
【環境保全と法的規制】				
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。		環境衛生学 I		
2)環境基本法の理念を説明できる。		環境衛生学 I		

			松	本田		
楽字教育モデル・コアカリキュラム(SBOS)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 大気汚染を防止するための法規制について説明できる。			環境衛生学Ⅰ			
4)水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。			環境衛生学Ⅰ			
[薬と疾病]						
613 薬の効くプロセス						
【薬の作用】						
1)薬物の用量と作用の関係を説明できる。		薬理学 I		臨床薬理学 I		
2)アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。	入門薬理学	薬理学 I				
3)薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。	入門薬理学	薬理学 I				
4)代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。	入門薬理学	薬理学 I				
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を 説明できる。		薬理学 I				
6)薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。		薬理学 I		臨床薬理学 I		
7) 代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。				臨床薬理学 I		
8)薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。		薬理学 I				
【薬の運命】						
1)薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。		薬理学 I	薬物動態学 I			
2)薬物の代表的な投与方法(剤形、投与経路)を列挙し、その意義を説明できる。		薬理学 I	薬物動態学 I			
3)経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化(崩壊、分散、溶解など)を説明できる。			薬物動態学I			
4)薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。		薬理学 I	薬物動態学I			
5)生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。		薬理学 I	薬物動態学 I			
【薬の副作用】						
1)薬物の主作用と副作用(有害作用)、毒性との関連について説明できる。				臨床薬理学 I·医薬 品副作用学		
2) 副作用と有害事象の違いについて説明できる。		I 本画薬		臨床薬理学 I·医薬 品副作用学		
【動物実験】						
1) 動物実験における倫理について配慮する。(態度)			薬理学実習			
2)代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)			薬理学実習			
3)実験動物での代表的な薬物投与法を実施できる。(技能)			薬理学実習			
(2) 薬の効き方1						
【中枢神経系に作用する薬】						
1) 代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 I				
2) 代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 I				
3)代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 I				
4) 代表的な中枢神経疾患(てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など)の治療薬を挙げ、 その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		東理学 I				
5)代表的な精神疾患(統合失調症、うつ病など)の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用 について説明できる。		I				
6)中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。			薬理学実習			

#書音で表して表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な	
その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主なるる。 こ、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、 こ、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、 説明できる。 長的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 まで表的な薬物の効果を測定できる。(技能)) A技能であるからOBTには また素的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 ま理学! ま理学! ま理学! を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 ま理学! ま理学! と禁げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	(集) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1
	東 東 1. I 1. I 1. I 1. I 1. I
居官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、 対の効果を測定できる。(技能)) Δ技能であるからOBTには (局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 (局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 変替げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 (局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 (局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 (日本) (大きな副作用について説明できる。 (日本) (大きな副作用について説明できる。 (日本) (大きな副作用について説明できる。 (日本) (大きな副作用について説明できる。 (日本) (大きな副作用について説明できる。	集型 1.1 1.1 1.1
6げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 薬理学 I 9の効果を測定できる。(技能)) △技能であるからOBTには 薬理学 I (局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 薬理学 I 窓的な薬物の効果を測定できる。(技能)) 事理学 I FIR、機序、主な副作用について説明できる。 単作用、機序、主な副作用について説明できる。 理件用、機序、主な副作用について説明できる。 単作用、機序、主な副作用について説明できる。 が、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 ** が、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 **	(本)
	(集) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本
(局所麻酔薬など) を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用につい 薬理学	11.11.11.11.11.11.11.11.11.11.11.11.11.
5代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用につい Fる代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 程に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能)) 変を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 萩理学 I 薬理学 I 薬理学 I 薬理学 I 薬理学 I 薬理学 I 薬理学 E 薬理学 I 薬理学 E 薬理学 E 薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	東 11 11 11 11
Fる代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 程に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能)) 「大きなが、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 長薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 民憲治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	(T)
怪に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能)) 	大学型 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
長を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 薬薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。 長島治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	II.
:な副作用について説明できる。 生な副作用について説明できる。 機序、主な副作用について説明できる。	
主な副作用について説明できる。 機序、主な副作用について説明できる。	II.
薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	п.
	п
4)代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	
【呼吸器系に作用する薬】	
1)代表的な呼吸興奮薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	:II 医療薬学演習
	II 医療薬学演習
3)代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	:II 医療薬学演習
[化学構造]	
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。	化学工 医療薬学演習
(3) 薬の効き方11	
【ホルモンと薬】	
1) ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	.II 薬理学II 診療科各論
2)代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明で きる。	II 薬種
3)代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について 説明できる。	II 診療科各論
[消化器系に作用する薬]	
	五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五
2)その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明で きる。	薬理学皿
3)代表的な催吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。	薬理学皿・薬物治療 学IB
薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	薬理学皿
5)代表的な膵臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	薬理学皿
【腎に作用する薬】	

1 年 2 年 3 年 3 年 1 日本 2 年 3 年 3 年 1 日本 2 年 3 日本 3 日本 3 日本 5 日本 5 日本 5 日本 5 日本 5 日本				松	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
原業を作用後序列に分類し、職長を用および生在型作用について起明できる。	薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)	1年	2年	#	:	5年	6年
 (差別の企業を発行・使用する業別 (差別の企業を発行・作用機形と主な部件用について説明できる。 (表別の企業を挙行、作用機形と主な部件用について説明できる。 (表別の企業を挙行、作用機形と主な部件用について説明できる。 (表別の企業を挙行、作用機形と主な部件用について説明できる。 (表別の企業を挙行、作用機所と主な部件用について説明できる。 (表別の企業を挙行、作用機所と主な部件用について説明できる。 (表別の本職の連合機業を挙行、作用機算と主な部件用について説明できる。 (表別の本職を発表を挙行、作用機算と主な部件用について説明できる。 (表別の本職を発表を挙行、作用機算と主な部件用について説明できる。 (本別の企業を発行、作用機算と主な部件用について説明できる。 (本別の企業を発行、作用機算と主な部件用について説明できる。 (本別の企業の定場の企業の定場のできる。 (本別の企業を発行、作用機算を発明できる。 (本別の企業の定金の経費を設明できる。 (本別の企業の定金の経費を設明できる。 (本別の企業の定金の経費を設明できる。 (本別の企業の定金の経費を設明できる。 (本別の企業の定金の経費を設明できる。 (本別の企業の定のできる。 (本別の企業の定のできる。 (本記域のの表域を記明できる。 (本の企業の定のできる。 (本のの説に必要する記書を必要を記述を必要に表するを表現所できる。 (本のの説にの発行について、その機構と血液・延期間の変素を説明できる。 (本の説明しの発行について、その機構と血液・延期間の変素を説明できる。 (本の説明しの発行について、その機構と血液・延期間の変素を説明できる。 (本のの説明しの発行について、その機構と血液・延期間の変素を説明できる。 (本のの説明しの発行について、その機構を血液・延期間の変素を説明できる。 (本のの説にの存在機に血栓タンパの結合とが、定機機での合きとを表現を表のできと記載への存在機に血体タンパの結合とが、定機機への係と配達してまるのできに関連ののできに関連ののできに関連ののできに関連ののできに関連ののできに関すのできでは、 (本の表別の定象を必要の変換を表別を表の変換を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を				薬理学エ			
表的な心に葉を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。	後・造血器系に作用する薬】						
議的な協力を表すげ、作用機序と主な副作用について説明できる。)代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				薬理学皿		
)代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				薬理学皿		
####################################)代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				薬理学皿		
議的な無限病治療薬を挙げ、特用機下と主な副作用について説明できる。 表的な無限病治療薬を挙げ、特用機下と主な副作用について説明できる。 表的な高脂血症物薬を挙げ、特用機下と主な副作用について説明できる。 大いた説明できる。 大田様子は一の代表的な治療薬を挙げ、作用機下、端床の用、および主な副作用について説明できる。 大田が変化の言と代表的な治療薬を挙げ、作用機下、端床の用、および主な副作用について説明できる。 大田が変化の言と代表的な治療薬を挙げ、作用機下、端床の用、および主な副作用について説明できる。 大田の薬物のうち代表的な治療薬を挙げ、作用機下、端床の用、および主な副作用について説明できる。 大田が変化のうち代表的な治療薬を挙げ、作用機下、端床の用、および主な副作用について説明できる。 大田が変化のなどのについて基本構造を示すことができる。 大田が変化のなどの場できる。 大田が変化がなどの関係を説明できる。 大田が変化がなどの関係を説明できる。 大田がの変化について部位別に説明できる。 大田がの変化について部位別に説明できる。 大田がの変化について部位別に説明できる。 大田がの変化について部位別に説明できる。 大田がの変化について部位別に説明できる。 大田がの変化にいて部位別に説明できる。 大田がの変化にいて部位別に説明できる。 大田がの変化にいてが必じ別に説明できる。 大田がの変化にいてがたがに別に立まるできる。 大田がの変化にいてが存むにいていてがないにはいてきる。 大田がの変化にいてがないに対してきないできる。 大田がの変化にいてがないに対してきないできる。 大田がの変化にいていてがないに対してきる。 大田がのないに対していていてがないに対してきる。 大田がのないに対していていてがないに対いできる。 大田がのないに対していていてがないに対いできる。 大田がの変化にいていてがないに対いできる。 大田がのないに対していていてがないに対いできる。 大田様子がないていてきないに対してきる。 大田様子がいていていてがないに対いできる。 大田様のの変形について、その機構を血体できがでいて対していていていてがないでは、対いするとないできないでは、対いするとないできないでは、対いがならないできないでは、対いがならないを表していてきないでは、対いがならながでいていていていていていては対しできる。 大田様子のながにこいていていてはいできる。 大田様子のな変形をできる。 大田様子のな変形をできる。 大田様子のな変形をできる。 大田様子のいていていていていていていていていていていていていていていていていていていて	謝系に作用する薬】						
議的な高級血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。)代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				薬理学皿		
(2000年) (本格)な高原酸血症・無型治療薬を挙げ、作用機下と主な副作用について説明できる。 10とうした状態調節・骨代制に関連する代表的な治療薬を挙げ、作用機下と主な副作用について説明できる。 2を的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。 2を的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。 2を的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。 2をのな炎症治療薬を挙げ、作用機序はよび主な副作用について説明できる。 2をした・レルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序はよい主な副作用について説明できる。 2をした、その経験を説明できる。 2をいる薬剤の含みが高速をが生しる薬因を説明できる。 2をいる薬剤の変しに変更するの関係を説明できる。 2をいる薬剤のの吸収に影響するの子に、その機構を血液・脂盤関門の意義を説明できる。 2をいる形について、その機構を血液・脂盤関門の意義を説明できる。 2をいる形について、その機構を血液・脂盤関門の意義を説明できる。 2をいる形について、その機構を血液・脂盤関門の意義を説明できる。 2をいる形について、その機構を血液・脂盤関門の意義を説明できる。 2をいる形について、その機構を血液・脂盤関門の意義を説明できる。 2をいる形について、その機構を血液・脂酸関門の意義を説明できる。 2をいる形について、その機構を血液・脂盤関門の意義を説明できる。 2をいる形について、その機構を血液・脂盤関門の意義を説明できる。 2をいる形式について、その機構を血液・脂盤関門の意義を説明できる。 2をいる形式について、その機構を血液・小の移行と関連づけで説明できる。 2をいる影響するの方が、の影響をして、大きが機をの変物を引撃できる。 2をいる影響をして、大きい代表的な薬物を引撃できる。 2をいる影響をして、大きい代表的な薬物を引きなどの表現をして、大きい代表的な薬物を引きないます。 2をいるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるとい)代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				薬理学皿		
ルンウム代謝信節・青代朝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用に 大いて説明できる。 表的な変症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。 表的な変症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。 表的な変症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。 といれ来的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。 をといれ来的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。 をといれ来の方法療薬を挙げ、作用機序なおびきる。 なる。 をといれ来の方法療薬を挙げ、作用機序なおびきる。 なる。 なる。 なる。 はなるの臓を、皮腫はないの臓をを説明できる。 ないの臓のの喉に診響する因子を必ずとある。 ないの臓のの様を説明できる。 ないの臓のの様を説明できる。 ないの臓のの様を説明できる。 ないの臓のの様に口にないて、その機構と血液・上臓間中の衰壊を説明できる。 ないの脳のの様について、その機構と血液・上臓間中の衰壊を説明できる。 ないの脳のの移行について、その機構と血液・上臓間中の衰壊を説明できる。 ないの脳のの移行について、その機構と血液・上臓間中の衰壊を説明できる。 ないの脳のの移行について、その機構と血液・上臓間中の衰壊を説明できる。 ないの脳のの移行について、その機構と血液・上臓間中の衰壊を説明できる。 ないの脳のの移行について、その機構と血液・上臓間中の衰壊を説明できる。 ないの脳のの移行について、その機構と血液・上臓間中の衰壊を説明できる。 ないの脳のの移行について、その機構と血液・上臓間中の衰壊を説明できる。 ないの脳のの移行について、その機構と血液・上臓間中の衰壊を説明できる。 ないの脳のの移行について、その機構と血液・上臓間中の衰壊を説明できる。 ないの脳の体液中での存在状態(血漿タンパク結合など)を組織への移行と関連づけて説明できる。 ないの脳の体液中での存在状態(血漿タンパク結合など)を組織への移行と関連づけて説明できる。 ないのの体液中での存在状態(血液を対りな薬物を対象できる。 ないのな動変因(血流量、タンパク結合など)を組織への移行といて説明できる。 ないがの変動変因(血流量、タンパク結合は、分析容積など)について説明できる。 ないのな動変因(血流量、タンパク結合など)と組織へをして表がは水準できる。 ないのな動変とは、表がはないな悪がをできる。 ないのな動をして表がは表がな悪があるがなできる。 ないのな動をして表がはがまがな悪があるがなできる。 ないのな動をして表がはが変かをして表がながをして表がながをして表がながな悪をいな悪があるがなできる。 ないのないは、まれないな悪をながないないは、まれないな悪をいな悪をいな悪をいな悪をいるがあるがは、分がのをいるがは、分がのをいるがないであるがは、分がのをいるがは、分がのをいるがは、分がのをいるがは、分がのをいるがは、分がのをいるがは、分がのをいるがは、分がのをいるがは、分がのをいるがは、分がのないるがは、それないるがのないるがは、それないるがは、					薬理学田		
	カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作 ついて説明できる。				薬理学皿		
(2歳的な交症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。 (2歳的な交症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。 (2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	症・アレルギーと薬】						
性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序が 協床応用、および主な副作用について説明できる。 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1				薬理学Ⅱ			
レルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明で 楽理学工 (薬理学Ⅱ	医療薬学演習		
				薬理学Ⅱ	医療薬学演習		
指めの議器への到達と消失 他の主体及の部位を列撃できる。 他の主体吸収的位を列撃できる。 他の主体吸収的位を列撃できる。 本物動態学工 (本質の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。 動情送の特徴を説明できる。 (本質の様々と説明できる。 主義の動態学工 を担ち後の薬物吸収について部位別に説明できる。 主義の動態学工 を関いないに影響する因子を列挙し説明できる。 に物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。 に物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。 に物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。 に物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。 に物の配への移行について、その機構と血液・胎盤関門の意義を説明できる。 に物の配への移行について、その機構と血液・胎盤関門の意義を説明できる。 に物の脳への移行について、その機構と血液・胎盤関門の意義を説明できる。 に物の脳への移行について、その機構と血液・胎盤関門の意義を説明できる。 に物の脳への移行について、その機構と血液・胎盤関門の意義を説明できる。 に物の脳への移行について、その機構と血液・胎盤関門の意義を説明できる。 な物の脳やで変更図(血流量、タンパク結合など)を組織への移行と関連づけて説明できる。 薬物動態学工 体が生体内に取り込まれた後、組織関門の意義を説明できる。 素物動態学工 体が生体内に取り込まれた後、組織関門の意義を説明できる。 素物動態学工 体が生体内で変動要図(血流量、タンパク結合など)を組織への移行と関連づけて説明できる。 薬物動態学工 体が活め複数を表別学できる。 素物動態学工 本物動態学工 本物音様が着して大きい代表的な薬物を列挙できる。 本の表現が着して大きい代表的な薬物を列挙できる。 本の表現が着して大きい代表的な薬物を列挙できる。 本の表現が着して大きい代表的な薬物を列挙できる。 本の表現が着して大きい代表的な薬物を列挙できる。 本の表現が着して大きい代表的な薬物を列挙できる。 本の表現が着して大きい代表的な薬物を列挙である。 本の表現が着して大きい代表的な薬がを列挙を表現に関連では、表現を表現が着して大きい代表的な薬物を列挙できる。 本の表現が表現する 本の表現が表現する 本の表現が表現する 本の表現が表現する 本の表現を表現する 本の語がある 本の表現を表現する 本の表現を表現する 本の語がある 本の語がある 本の語がある 本の語がある 本の語がある 本の表現を表現する 本の語がある 本	学構造】						
#他の議器への到達と消失 特別の主体の心間にを列挙できる。 (化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。 型鉱散(単純拡散)、促進拡散の特徴を説明できる。 型動輸送の特徴を説明できる。 変物の態学! 薬物動態学! 薬物動態学! 薬物の態学! 薬物動態学! 薬物の態学! 薬物動態学! 薬物動態学! 薬物動態学! 薬物動態学! 薬物動態学! 薬物動態学! 薬物動態学! 薬物動態学! 薬物動態学! 薬物動態学! 薬物動態学! 薬物動態学! 素物動態学! 薬物動態学! 素物動態学! 薬物動態学! 素物動態学! 薬物動態学! 薬物動態学! 素物動態學! 素物動態學 ! 素物動態學 ! 素物動態學 ! 素物動態學 ! 素物動態 ! 素物動態 ! 素物動態 ! 素物物態 ! 素物物物 ! 素物物物 ! 素物物物 ! 素物物 ! 素物)上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。			薬理学工	薬理学皿		
## 2000年 の できる。	、薬物の臓器への到達と消失						
#他の主な吸収部位を列挙できる。	(D)						
情化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。 薬物動態学1 動植数 (単純拡散)、促進拡散の特徴を説明できる。 薬物動態学1 主動輸送の特徴を説明できる。 薬物動態学1 経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。 薬物動態学1 特の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。 薬物動態学1 物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。 薬物動態学1 物の版への移行について、その機構と血液・胎盤関門の意義を説明できる。 薬物動態学1 物の胎児への移行について、その機構と血液・胎盤関門の意義を説明できる。 薬物動態学1 物の胎児への移行について、その機構と血液・胎盤関門の意義を説明できる。 薬物動態学1 物の胎児への移行について、その機構と血液・胎盤関門の意義を説明できる。 薬物動態学1 物の胎児への移行について、その機構と血液・が存着など)を組織への移行と関連づけて説明できる。 薬物動態学1 も物の体液中での存在状態(血漿タンパク結合など)を組織への移行と関連づけて説明できる。 薬物動態学1 ・物分析の変動要因(血流量、タンパク結合は、分布容積など)について説明できる。 薬物動態学1 ・布容積が著しく大きい代表的な薬物を列挙できる。 薬物動態学1 ・布容積が著しく大きい代表的な薬物を列挙できる。 薬物動態学1				薬物動態学I			
 ・動航散(単純拡散)、促進拡散の特徴を説明できる。 ・動輸送の特徴を説明できる。 ・経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。 ・経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。 ・ための吸収に影響する因子を列挙し説明できる。 ・ための吸収に影響する因子を列挙し説明できる。 ・ための取びに影響する因子を列挙し説明できる。 ・ための取びに影響する因子を列挙し記録呼びきる。 ・ためを行について、その機構と血液・胎盤関門の意義を説明できる。 ・ためのお行について、その機構と血液・胎盤関門の意義を説明できる。 ・ための配りの移行について、その機構と血液・胎盤関門の意義を説明できる。 ・ためのに、その機構と血液・胎盤関門の意義を説明できる。 ・ためのは、かりが行について、その機構と血液・脂盤関門の意義を説明できる。 ・ためのは、からが行について、その機構と血液・脂盤関門の意義を説明できる。 ・ためのは、からが行について、その機構と血液・脂盤関門の意義を説明できる。 ・ためのは、からが行きなど)を組織への移行と関連づけて説明できる。 ・ためのは、からが付きなど)を組織への移行と関連づけて説明できる。 ・ためのは、血流量、タンパク結合は、分析容積など)について説明できる。 ・ためのは、血流量、タンパク結合は、分析容積など)について説明できる。 ・ためのは、血流量、タンパク結合は、分析容積など)について説明できる。 ・ためののは、からが表して、表がのを積など)について説明できる。 ・ためは、水のは、水のは、水のは、水のは、水の動態やでは、水のを積が着して大きい代表的な薬物を列挙できる。 ・ためは、水のは、水のは、水のは、水のは、水の動態やに、 	消化管の構造、			薬物動態学I	臨床薬理学 I		
 ・配動輸送の特徴を説明できる。 ・経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。 ・経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。 ・経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。 ・特めの吸収に影響する因子を列挙し説明できる。 ・特めの脳への移行について、その機構と血液・脳盟門の意義を説明できる。 ・特めの脳への移行について、その機構と血液・胎盤関門の意義を説明できる。 ・特めの胎児への移行について、その機構と血液・胎盤関門の意義を説明できる。 ・特の胎児への移行について、その機構と血液・胎盤関門の意義を説明できる。 ・特物の体液中での存在状態(血漿タンパク結合など)を組織への移行と関連づけて説明できる。 ・特物の体液中での存在状態(血漿タンパク結合など)を組織への移行と関連づけて説明できる。 ・株物の体液中での存在状態(血漿をフパク結合は、分布容積など)について説明できる。 ・株物分布の変動要因(血流量、タンパク結合性、分布容積など)について説明できる。 ・株物分布の変動要因(血流量、タンパク結合性、分布容積など)について説明できる。 ・株物分本の変動要因(血流量、タンパク結合性、分布容積など)について説明できる。 ・株物分本の変動要因(血流量、タンパク結合性、分布容積など)について説明できる。 ・株物分本の変動要因(血流量、タンパク結合性、分布容積など)について説明できる。 ・株物分本の変動要因(血流量、タンパク結合性、分布容積などとい代表的な薬物を列挙できる。 	受動拡散(単純拡散)、促進拡散の特徴を説明でき			薬物動態学I	臨床薬理学 I		
経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。				薬物動態学I	臨床薬理学 I		
特物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。 薬物動態学 I 特物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。 薬物動態学 I 特めの脳への移行について、その機構と血液 - 胎盤関門の意義を説明できる。 薬物動態学 I 特物の体液中での存在状態(血漿タンパク結合など)を組織への移行と関連づけて説明できる。 薬物動態学 I 特物分布の変動要因(血流量、タンパク結合は、分布容積など)について説明できる。 薬物動態学 I 市容積が著しく大きい代表的な薬物を列挙できる。 薬物動態学 I 市容積が着しく大きい代表的な薬物を列挙できる。 薬物動態学 I	非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明でき			薬物動態学I			
に物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。				薬物動態学I			
注めで表して必要因を説明できる。 薬物動態学 I 近期門の意義を説明できる。 薬物動態学 I 5・ 品盤間門の意義を説明できる。 薬物動態学 I 1など)を組織への移行と関連づけて説明できる。 薬物動態学 I E、分布容積など)について説明できる。 薬物動態学 I きる。 薬物動態学 I	布】						
脳関門の意義を説明できる。 薬物動態学 I 5 - 胎盤関門の意義を説明できる。 薬物動態学 I 5など)を組織への移行と関連づけて説明できる。 薬物動態学 I E. 分布容積など)について説明できる。 薬物動態学 I さる。 薬物動態学 I)薬物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。			薬物動態学I			
5 - Bh盤関門の意義を説明できる。 薬物動態学 I 5 など)を組織への移行と関連づけて説明できる。 薬物動態学 I E、分布容積など)について説明できる。 薬物動態学 I きる。 薬物動態学 I)薬物の脳への移行について、その機構と血液-脳関門の意義を説明できる。			薬物動態学I			
は、分布容積など)について説明できる。 薬物動態学 I まる。 薬物動態学 I				薬物動態学I	薬物動態学工		
L. 分布容積など)について説明できる。 薬物動態学 I きる。 薬物動態学 I	薬物の体液中での存在状態(血漿タンパク結合など)を組織への移行と関連づけて説明でき			薬物動態学 I	臨床薬理学 I		
: 2 5%	薬物分布の変動要因(血流量、タンパク結合性、			薬物動態学I	臨床薬理学 I		
	分布容積が著し			薬物動態学 I			
(技能)	7)代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる。(技能)			薬物動態学I			
【代謝】							
1)薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙して説明できる。	薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙して説明でき			薬物動態学I			
2)薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。				薬物動態学I			

ハラコウン・1 千二十年十 二年 中央政治権			数	1 本 目		
朱子教育セナル・コアカリキュフム(SBOS)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3)薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる。			薬物動態学 I			
4)シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる。			薬物動態学 I			
5)薬物の酸化反応について具体的な例を挙げて説明できる。			薬物動態学 I			
6)薬物の還元・加水分解、抱合について具体的な例を挙げて説明できる。			薬物動態学 I			
7)薬物代謝酵素の変動要因(誘導、阻害、加齢、SNPsなど)について説明できる。			薬物動態学 I	薬物動態学工		
8)初回通過効果について説明できる。			薬物動態学 I	臨床薬理学 I		
9)肝および固有クリアランスについて説明できる。			薬物動態学 I	臨床薬理学 I		
【果幹】						
1)腎における排泄機構について説明できる。			薬物動態学 I	臨床薬理学 I		
2) 腎クリアランスについて説明できる。			薬物動態学I	臨床薬理学 I		
3) 糸球体ろ過速度について説明できる。			薬物動態学I	臨床薬理学 I		
4)胆汁中排泄について説明できる。			薬物動態学I			
5) 腸肝循環を説明し、代表的な陽肝循環の薬物を列挙できる。			薬物動態学I			
6) 唾液・乳汁中への排泄について説明できる。			薬物動態学 I			
7) 尿中排泄率の高い代表的な薬物を列挙できる。			薬物動態学I			
[相互作用]						
1)薬物動態に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。			薬物動態学 I	臨床薬理学 I・薬物 動態学 II		
2)薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。			薬物動態学 I	臨床薬理学 I · 薬物動能学 II		
(5)薬物動態の解析				-		
[薬助学]						
1)薬物動態に関わる代表的なパラメーターを列挙し、概説できる。			薬物動態学 I	薬物動態学工		臨床薬物動態学
2)薬物の生物学的利用能の意味とその計算法を説明できる。			薬物動態学 I	薬物動態学工		臨床薬物動態学
3)線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)			薬物動態学 I	薬物動態学 II・薬剤 学実習 II		臨床薬物動態学
4)線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)			薬物動態学 I	薬物動態学工		
5)線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違いを説明できる。			薬物動態学 I	薬物動態学工		臨床薬物動態学
6)生物学的半減期を説明し、計算できる。(知識・技能)			薬物動態学 I	薬物動態学工		臨床薬物動態学
7) 全身クリアランスについて説明し、計算できる。 (知識・技能)			薬物動態学 I	薬物動態学工		臨床薬物動態学
8)非線形性の薬物動態について具体例を挙げて説明できる。			薬物動態学 I			臨床薬物動態学
9)モデルによらない薬物動態の解析法を列挙し説明できる。			薬物動態学 I	薬物動態学工		
10)薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる。(技能)			薬物動態学 I	薬物動態学 II・薬剤 学実習 II		臨床薬物動態学
11) 点滴静注の血中濃度計算ができる。(技能)			薬物動態学 I	薬物動態学 II・薬剤 学実習 II		臨床薬物動態学
12) 連続投与における血中濃度計算ができる。(技能)			薬物動態学 I	薬物動態学 II・薬剤 学実習 II		臨床薬物動態学
【TDM (Therapeutic Drug Monitoring)】						

			加松	平		
薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)	中_	2年			5年	6年
1)治療的薬物モニタリング(TDM)の意義を説明できる。				薬物動態学工		
2)TDMが必要とされる代表的な薬物を列挙できる。				臨床薬理学 I・薬物 動態学 I		
3)薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる。(技能)				薬剤学実習皿		
4) 至適血中濃度を維持するための投与計画について、薬動学的パラメーターを用いて説明できる。				薬剤学実習皿		臨床薬物動態学
5)代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる。(技能)				薬剤学実習皿		臨床薬物動態学
0.14 薬物治療						
(1) 体の変化を知る						
[症候]						
1)以下の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を説明できる。発熱、頭痛、発疹、黄疸、チアノーゼ、脱水、浮腫、悪心・嘔吐、嚥下障害、腹痛・下痢、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、ショック、呼吸困難、咳、口渇、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しび、れ、けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、視力障害、 助力障害、 めまい			病態生理学皿	薬物治療学IA・薬物治療学IB		臨床薬理学 II
[症候と臨床検査値]						
1)代表的な肝臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。				薬物治療学 II B・病態生化学		
2) 代表的な腎臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。				薬物治療学II A·病 態生化学		
3) 代表的な呼吸機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。	**	病態生理学 I		薬物治療学 IA・病態生化学		
4) 代表的な心臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。 る。				薬物治療学IA・病 態生化学		
5) 代表的な血液および血液凝固検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げる ことができる。				薬物治療学IB・病 態生化学		11 本語文出
6)代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を 挙げることができる。				薬物治療学IB・病 態生化学		臨床薬理学工
7) 感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動を述べることができる。				薬物治療学エA・薬物治療学エB		田 本 工 本 面 と 数 は り り り り り り り り り り り り り り り り り り
8)悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列挙し、推測される腫瘍部位を挙げることができる。				病態生化学		診療科各論 I
9) 尿および糞便を用いた代表的な臨床検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。				薬物治療学エA・薬 物治療学エB		臨床薬理学工
10) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、その検査値の臨床的意義を説明できる。				薬物治療学IA・病 態生化学		
11) 代表的なバイタルサインを列挙できる。			調剤学エ	病態生化学		臨床薬理学工
(2) 疾患と薬物治療(心臓疾患等)						
[薬物治療の位置がけ]						
1)代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療(外科手術、食事療法など)の位置づけを説明でき る。				薬物治療学エA・薬物治療学エB		臨床薬理学工
2) 適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。(知識・技能)				薬物治療学II A.薬物治療学II B		臨床薬理学I
【心臓・血管系の疾患】						
1) 心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができる。	ĸ	病態生理学 I				
2) 不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	<i>T</i>	病態生理学 I		臨床薬理学 I・薬物 治療学 IA		

			数	本 三		
楽字教育モデル・コアカリキュラム(SBOS)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理学 I		薬物治療学IA		
4) 高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理学 I		薬物治療学エA		
5) 虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理学 I				
6)以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症、心原性ショック		病態生理学 I				
【血液・造血器の疾患】						
1)血液・造血器における代表的な疾患を挙げることができる。		病態生理学 I		薬物治療学IB		
2) 貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理学 I		薬物治療学ⅡB		
3) 白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理学 I		薬物治療学ⅡB		
4) 播種性血管内凝固症候群 (DIC) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について 説明できる。		病態生理学 I		薬物治療学ⅡB		
5)以下の疾患について概説できる。血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓		病態生理学 I		薬物治療学ⅡB		
[消化器系疾患]						
1)消化器系の部位別(食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、胆道、肝臓、膵臓)に代表的な疾患を挙げることができる。		病態生理学 I		薬物治療学ⅡB		
2) 消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理学 I				
3) 陽炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理学 I		薬物治療学ⅡB		
4) 肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理学 I		薬物治療学ⅡB		
5) 膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理学 I		薬物治療学ⅡB		
6)以下の疾患について概説できる。食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、 虫垂炎、クローン病		病態生理学 I	薬物治療学Ⅰ	薬物治療学ⅡB		
【総合演習】						
1)指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。 (技能)					処方解析 I	処方解析工
(3)疾患と薬物治療(腎臓疾患等)						
【腎臟・尿路の疾患】						
1)腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げることができる。		病態生理学 I				
2)腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理学 I		薬物治療学エA		
、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明でき		病態生理学 I		薬物治療学IA		
4)以下の疾患について概説できる。糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石に生薬毒毒毒		病態生理学 I		薬物治療学ⅡA		
1) 男性および女性生殖器に関する代表的な疾患を挙げることができる。		薬理学 I	L		L	L
2) 前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬理学 I・病態生理学 I	mu			
3) 以下の疾患について概説できる。前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内膜症		薬理学 I				診療科各論 I
【呼吸器・胸部の疾患】						
1)肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができる。		病態生理学 I		薬物治療学IA		
2) 閉塞性気道疾患(気管支喘息、肺気腫)の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意に ついて説明できる。		病態生理学 I		薬物治療学エA		
3)以下の疾患について概説できる。上気道炎(かぜ症候群)、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌		病態生理学 I		薬物治療学ⅡA		

١.		数	本 国		
条子教育セナル・コアカリキュフム(SBOS)	1年 2年	3年	4年	5年	6年
【内分泌系疾患】					
1)ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げることができる。					臨床薬理学 I・診療 科各論 I
2) 甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。					臨床薬理学工
3) クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。					臨床薬理学工
4) 尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。					臨床薬理学工
5) 以下の疾患について概説できる。上皮小体機能異常症、、アルドステロン症、アジソン病					臨床薬理学工
[代謝性疾患]					
1)糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療学ⅡB		
2) 高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療学ⅡB		
3) 高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療学ⅡB		
【神経・筋の疾患】					
1)神経・筋に関する代表的な疾患を挙げることができる。	病態生理学 I	薬物治療学I			
2) 脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬物治療学Ⅰ			
3) てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬物治療学I			
4) パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理学皿			
5) アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理学皿			
6)以下の疾患について概説できる。重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性 脳虚血発作、脳血管性痴呆		薬物治療学 I·病態 生理学加			
[総合演習]					
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。				処方解析 I	処方解析Ⅱ
(4)疾患と薬物治療(精神疾患等)					
[精神疾患]					
1) 代表的な精神疾患を挙げることができる。		薬物治療学Ⅰ			臨床薬理学II
2) 統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。					臨床薬理学工
3) うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬物治療学Ⅰ			
4)以下の疾患を概説できる。神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症					臨床薬理学工
[耳鼻咽喉の疾患]					
1) 耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。	病態生理学 I				
2) めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬理学 I・病態生理 学 I	=			
3) 以下の疾患を概説できる。メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎	病態生理学 I				
[皮膚疾患]					
1) 皮膚に関する代表的な疾患を挙げることができる。	病態生理学 I				
2)アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	病態生理学 I				
切な治療薬、およびその使用上の注意について		微生物薬品学			
4)以下の疾患を概説できる。蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症	病態生理学 I				

		数	本		
朱子教育七ナル・コノカリイユフム(SBOS)	1年 2年	3年	4年	5年	6年
【眼疾患】					
1)眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。	病態生理学I				臨床薬理学Ⅱ
2)緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	薬理学 I・病態生理学 I				臨床薬理学Ⅱ
3) 白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	病態生理学 I				臨床薬理学工
4)以下の疾患を概説できる。結膜炎、網膜症	I 崇胜在理学 I				臨床薬理学工
[骨・関節の疾患]					
1) 骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。	病態生理学 I				
2) 骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	病態生理学I				
3)慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	I 崇胜生理学 I				
4)以下の疾患を概説できる。変形性関節症、骨軟化症	I 崇匪年錮崇				
【アレルギー・免疫疾患】					
1)代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げることができる。	1 本語子第 学				
2)アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	工 本				
3) 自己免疫疾患(全身性エリテマトーデスなど)の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の 注意について説明できる。	病態生理学Ⅱ				
4)後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	病態生理学工				
【移植医療】					
1)移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	病態生理学工				
【綴和ケアと長期療養】					
1)癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。	薬理学 I				
2)長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について説明できる。		薬物治療学 I	医療薬学演習 薬物治療学 II A 薬物治療学 II B		
【總合演習】					
1)指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。 (技能)			医療薬学演習	処方解析 I	処方解析工
(5) 病原徴生物・悪性新生物と戦う					
【縣染症】					
1)主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。	病態生理学工				
[抗菌薬]					
1) 抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。		微生物薬品学			
2)代表的な抗菌薬の基本構造を示すことができる。		微生物薬品学			
3) 代表的な 8-ラクタム系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。		微生物薬品学			
4)テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。		微生物薬品学			
ら列挙できる。		微生物薬品学			
6)アミノ配糖体系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。		微生物薬品学			
フ)ピリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。		微生物薬品学			

(*) ロの) ゲロー 十二十八 「・= げ 日 中 幸 非 様			数	奉回		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
8) サルファ薬 (SI合剤を含む) の有効な感染症を列挙できる。			微生物薬品学			
9)代表的な抗結核薬を列挙し、作用機序を説明できる。				薬物治療学エA		
10) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。		免疫学				
11) 代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。			微生物薬品学			
12)特徴的な組織移行性を示す抗菌薬を列挙できる。			微生物薬品学			
【抗原虫·寄生虫薬】						
1)代表的な抗原虫・寄生虫薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			微生物薬品学			
【抗真菌薬】						
1)代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			微生物薬品学			
【抗ウイルス薬】						
1)代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。			微生物薬品学			
2) 抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。			微生物薬品学			
【抗菌薬の耐性と副作用】						
1)主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明できる。			微生物薬品学			
2) 主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。			微生物薬品学			
【悪性腫瘍の病態と治療】						
1)悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。				薬理学皿		
2)悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。				薬理学皿		
3) 化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。				薬理学皿		
[抗悪性腫瘍薬]						
1) 代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる。				薬理学皿		
2)代表的なアルキル化薬を列挙し、作用機序を説明できる。				薬理学皿		
3)代表的な代謝拮抗薬を列挙し、作用機序を説明できる。				薬理学皿		
4)代表的な抗腫瘍抗生物質を列挙し、作用機序を説明できる。				薬理学皿		
5)抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを列挙し、作用機序を説明できる。				薬理学皿		
6)抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を列挙し、作用機序を説明できる。				薬理学皿		
7)代表的な白金錯体を挙げ、作用機序を説明できる。				薬理学皿		
8) 代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。				薬理学皿		
[抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用]						
1)主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。				薬理学皿		
2) 主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。				薬理学皿		
3)副作用軽減のための対処法を説明できる。				薬理学皿		
015 薬物治療に役立つ情報						
(1)医薬品情報						
1)医薬品として必須の情報を列挙できる。				医薬品情報学		
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割を説明できる。				医薬品情報学		

			浙	平		
薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOS)	1年	2年			5年	6年
3) 医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。				医薬品情報学		
4) 医薬品の市販後に得られる情報の種類を列挙できる。				医薬品情報学		
5)医薬品情報に関係する代表的な法律と制度について概説できる。				医薬品情報学		
【情報源】						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。				医薬品情報学		
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。				医薬品情報学		
3)厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。				医薬品情報学		
4)医薬品添付文書(医療用、一般用)の法的位置づけと用途を説明できる。				医薬品情報学		
5)医薬品添付文書(医療用、一般用)に記載される項目を列挙し、その必要性を説明できる。				医薬品情報学		
6)医薬品インタビューフォームの位置づけと用途を説明できる。				医薬品情報学		
7)医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの使い分けができる。(技能)					医薬品開発論	
【収集・評価・加工・提供・管理】						
1)目的(効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など)に合った適切な情報源 を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能)					医薬品開発論	
2) 医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。				医薬品情報学		
3) 医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。(技能)					医薬品開発論	
4) 医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。(知識・態度)				医薬品情報学		
5) 主な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。				医薬品情報学		
[データペース]						
1)代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。				医薬品情報学		
2) 医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索 できる。(知識・技能)				医薬品情報学		
3) インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。(技能)	情報処理演習					
[EBM (Evidence-Based Medicine)]						
1)EBMの基本概念と有用性について説明できる。				医薬品情報学		医療統計学
2)EBM実践のプロセスを概説できる。				医薬品情報学		医療統計学
3)臨床研究法(ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など)の長所と短所を概説できる。						医療統計学
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。(知識・技能)						医療統計学
5)真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。						医療統計学
6) 臨床適用上の効果指標(オッズ比、必要治療数、相対危険度など)について説明できる。						医療統計学
[総合演習]						
1)医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。				医薬品情報学		
2)医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる。 (知識・技能)				医薬品情報学		
(2)患者情報						
【情報と情報源】						
1)薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。			調剤学エ			

			数	中 本		
楽字教育モデル・コアカリキュラム(SBOS)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。			調剤学エ			
【収集・評価・管理】						
1)問題志向型システム(POS)を説明できる。			111	リスクマネージメン ト論		
2)薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。(技能)				リスクマネージメン ト計		
3) 患者、介護者との適切なインタビューから患者基本情報を収集できる。(技能)				実務実習プレ教育		
4)得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。 (知識・技能)				リスクマネージメン ト部		
5)SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。(技能)				リスクマネージメン ト論		
6) チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる。(態度)						診療科各論I
7) 患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。(知識・態度)				実務実習プレ教育		
(3) テーラーメイド薬物治療を目指して						
【遺伝的素因】						
1)薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。				臨床薬理学 I		
2)薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。				臨床薬理学 I・薬物動能学 II		
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。					医薬品開発論	
[年齡的要因]						
1)新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。			薬物治療学I	臨床薬理学 I		
2)幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。			薬物治療学I	臨床薬理学 I		
3) 高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。			薬物治療学I	臨床薬理学 I		
【生理的要因】						
1) 生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				臨床薬理学 I		診療科各論 I
2) 授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。				臨床薬理学 I		診療科各論 I
3)栄養状態の異なる患者(肥満など)に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						診療科各論I
【合併症】						
1)腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。			薬物治療学Ⅰ	臨床薬理学 1・薬物治療学 11 人		
2)肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。			薬物治療学Ⅰ			
3)心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				臨床薬理学 1・薬物治療学 11 A		
【投与計画】						
1)患者固有の薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。(知識・技能)			薬物動態学 I ·薬剤 学実習田			臨床薬物動態学
2) ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。				臨床薬理学 I		
3)薬動力学的パラメーターを用いて投与設計ができる。(知識・技能)			薬剤学実習皿			臨床薬物動態学
4)薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。				薬物動態学工		
[医薬品をつくる]						
G16 製剤化のサイエンス						

		本	本		
薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)	1年 2年			5年	6年
(1)製剤材料の性質					
[物質の溶解]					
1)溶液の濃度と性質について説明できる。		物理薬剤学エ			
2)物質の溶解とその速度について説明できる。		物理薬剤学エ			
3)溶解した物質の膜透過速度について説明できる。		物理薬剤学エ			
4)物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。	物理化学演習	物理薬剤学エ			
[分散系]					
1)界面の性質について説明できる。	物理薬剤学 I		薬剤学実習皿		
2)代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。	物理薬剤学 1		薬剤学実習皿		
3) 乳剤の型と性質について説明できる。	物理薬剤学 1				
4)代表的な分散系を列挙し、その性質について説明できる。	物理薬剤学 1				
5)分散粒子の沈降現象について説明できる。	物理薬剤学 1				
【製剤材料の物性】			-		
1) 流動と変形 (レオロジー) の概念を理解し、代表的なモデルについて説明できる。		物理薬剤学工			
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質について説明できる。		物理薬剤学エ			
3)製剤分野で汎用される高分子の物性について説明できる。		物理薬剤学エ			
4)粉体の性質について説明できる。		物理薬剤学エ			
5)製剤材料としての分子集合体について説明できる。	物理薬剤学 I				
6)薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法を列挙し、説明できる。		物理薬剤学エ			
7)粉末X線回折測定法の原理と利用法について概略を説明できる。	物理薬剤学 I				
8)製剤材料の物性を測定できる。(技能)		物理薬剤学エ			
(2) 剤形をつくる					
【代表的な製剤】					
1)代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。		製剤学A・製剤学B			
2) 代表的な固形製剤の種類と性質について説明できる。		製剤学A			
3) 代表的な半固形製剤の種類と性質について説明できる。		製剤学A			
4) 代表的な液状製剤の種類と性質について説明できる。		製剤学A			
5)代表的な無菌製剤の種類と性質について説明できる。		製剤学A・製剤学B			
6) エアゾール剤とその類似製剤について説明できる。		製剤学A			
7)代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。		製剤学A			
8) 代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。		製剤学A			
[製剤化]					
1)製剤化の単位操作および汎用される製剤機械について説明できる。		製剤学A・薬剤学実 習 I			
2) 単位操作を組み合わせて代表的製剤を調製できる。(技能)		製剤学A			
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。		製剤学A			
【製剤試験法】					

こうこう 一川「十二十月」 二川 十州東非州			文	本 目		
米十数 耳 トン・コイン・ユーン (3BOS)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1)日本薬局方の製剤に関連する試験法を列挙できる。			製剤学A			
2)日本薬局方の製剤に関連する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。(技能)			製剤学A			
(3) DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)						
[DDSの必要性]						
1)従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。			製剤学B			
2)DDSの概念と有用性について説明できる。			製剤学B			
【放出制御型製剤】						
1) 放出制御型製剤(徐放性製剤を含む)の利点について説明できる。			製剤学B・物理薬剤 学I			
2) 代表的な放出制御型製剤を列挙できる。			製剤学B			
3) 代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。			製剤学B・物理薬剤 学I			
4) 徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質について説明できる。			製剤学B			
5)経皮投与製剤の特徴と利点について説明できる			製剤学B			
6) 腸溶製剤の特徴と利点について説明できる。			製剤学B			
[ターゲティング]						
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。			製剤学B			
2) 代表的なドラッグキャリアーを列挙し、そのメカニズムを説明できる。			製剤学B			
[プロドラッグ]						
1)代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。			製剤学B			
[その他のDDS]						
1)代表的な生体膜透過促進法について説明できる。			製剤学B			
017 医薬品の開発と生産						
(1) 医薬品開発と生産のながれ						
【医薬品開発のコンセプト】						
1)医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。					医薬品開発論	
2)疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。				公衆衛生学		
【医薬品市場と開発すべき医薬品】						
1)医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。					医薬品開発論	
2)新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。					医薬品開発論	
3)ジェネリック医薬品の役割について概説できる。					医薬品開発論·医療 福祉制度	
4) 希少疾病に対する医薬品(オーファンドラッグ)開発の重要性について説明できる。					医薬品開発論	
【非臨床試験】						

(**) ロの)(ローヤニキロ・・=川 日中非様			松	格 目		
1	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1)非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。				医薬品情報学	医薬品開発論	
【医薬品の承認】						
1)臨床試験の目的と実施概要を説明できる。				医薬品情報学	医薬品開発論	
2)医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。				医薬品情報学	医薬品開発論	
3) 市販後調査の制度とその意義について説明できる。				医薬品情報学	医薬品開発論	
4)医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション (ICH) について概説できる。				医薬品情報学	医薬品開発論	
【医薬品の製造と品質管理】						
1)医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。					医薬品開発論	
2) 医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。					医薬品開発論	
3) 医薬品製造において環境保全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。					医薬品開発論	
【規範】						
1) GLP (Good Laboratory Practice)、GMP (Good Manufacturing Practice)、GCP (Good Clinical Practice)、GPMSP (Good Post-Marketing Surveillance Practice)の概略と意義について説明できる。		物理薬剤学 I		医療倫理学	医薬品開発論	
[特計]						
1)医薬品の創製における知的財産権について概説できる。					医薬品開発論	
[業書]						
1) 代表的な薬害の例 (サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンなど) について、その 原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)	薬学概論			医療倫理学	医薬品開発論	
(2) リード化合物の創製と最適化						
[医薬品創製の歴史]						
1) 古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。					医薬品開発論	
【標的生体分子との相互作用】						
1)医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。			医薬品化学 I·医薬 品化学 I	MA		
2) 医薬品と標的生体分子の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。			医薬品化学工			
3)立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。			医薬品化学工			
4)医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明でき る。			医薬品化学工	薬理学皿		
[スケリーニング]						
1) スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。					医薬品開発論	
2)代表的なスクリーニング法を列挙し、概説できる。					医薬品開発論	
【リード化合物の最適化】						
1) 定量的構造活性相関のパラメーターを列挙し、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。					医薬品開発論	
2)生物学的等価性(バイオアイソスター)の意義について概説できる。			医薬品化学工			
3)薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。					医薬品開発論	
(3) パイオ医薬品とゲノム情報						
【組換え体医薬品】						
1)組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。					医薬品開発論	

# 2 (4 (24 (4 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24		数当本田		
90章できる。	年	3年 4年	5年	6年
 Fig. 現状、および機理的問題点を機能できる。(知識・態度) 所、現状、および機理的問題点を機能できる。(知識・態度) 所、現状、および機理的問題点を機能できる。(知識・態度) 所、現状、および機理的問題点を機能できる。(知識・態度) 所、現状、および機理の問題点を機能できる。(知識・態度) 所、現状、および機理の問題点を機能できる。 の解析に用いられる方法(ゲノミックサゲンブロット法など)について 原設できる。 がなど) 関連遺伝子について説明できる。 を参げ、 原数を助明できる。 なための制度を説明できる。 佐めの制度を説明できる。 佐めの制度を説明できる。 佐めの制度を説明できる。 佐めの制度を説明できる。 佐めの制度を説明できる。 佐教養・理者など)を説明できる。 佐めの制度を説明できる。 佐めの制度を説明できる。 佐めの制度を説明できる。 たとが飲情報に関するで砂薬機がの重要性について討議する。(態度) たくが飲情報に関するで砂薬機がの重要性について討議する。(態度) たくが飲情報に関するで砂薬機がの重要性について討議する。(態度) たくが飲情報に関するで砂薬機がの重要性について試験する。(態度) たくが飲情報に関するで砂薬機がの重要性について、適用できるデータ。(知識・技能) の、知識・技能) が、は知・技能) が、な知のであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるであるで			医薬品開発論	
手順、現状、および倫理的問題点を維防できる。(知識・態度)			医薬品開発論	
 手版、現状、および倫理的問題点を概認できる。(知識・態度) (現状、および倫理的問題点を概認できる。(知識・態度) (記録できる。 (こついて観報できる。 (の対析に用いられる方法(ゲノミックサゲンブロット法など)について、創業ターゲットの探索の代表例 (イマチニブなど)を挙げ、 (など)関連進伝子について説明できる。 (など)関連進伝子について説明できる。 (公園を説明できる。 (公園を説明できる。 (公園を説明できる。 (公園を説明できる。 (公園を説明できる。 (公園を記録できる。 (本のの側を記録できる。 (本のののできていて記録する。(意度) (本ののできてきる。 (本ののしいがけを説明できる。 (本ののできていて記録する。(意度) (本ののできていて記録できる。) (本ののできていて記録できる。) (本ののでいがけを説明できる。) (本ののできていて記録できる。) (本ののできていて記録できる。) (本ののできていて記録でまま) (本ののできていて記録でまます) (本ので記述で記述できていて記録でまます) (本ので記述で記述が述が知い、別は定じについて過程できるデーク。 (知識で注解していていまますできる。) (知識で注解していていまますできる。) (知識で注解していていまますできる。) (知識で注解していていますできる。) (知識で注解していますできる。) (知識で注解していていますできる。) (知識で注解していますできる。) (知識で記述のできる。) (知識で記述のできるので記述のできる。) (知識で記述のできる。) (知識で記述のできるではなどのできまれていますではないではないではないではないではないではないではないではないではないではない				
(6) 現状、および倫理的問題点を概認できる。(知識・態度) (5) 24 24 24 24 25 24 25 24 25 24 24 25 25 24 25 24 25 25 24 25 25 24 25 25 24 25 25 25 25 25 25 25 25 25 25 25 25 25	・態度)	物学工		
 (6. 現状、および倫理的問題点を構設できる。(知識・態度) (7 子生物学工) (2 上) 関連遺伝子について説明できる。 (2 上) 関連遺伝子について説明できる。 (2 上) 関連遺伝子について説明できる。 (3 日) のか得を説明できる。 (4 日) のか間を説明できる。 (5 日) のか間を認知できる。 (6 日) のか間できないかいが認知できる。 (6 日) のかにかいでは選択のいいいには違いにいいで、適用できるデータ。 (6 日) のかにかいいいにいいいには違いにいいにいいにいいにいいにいいにいいいにいいにいいにいいにいいにいいにいいに				
	・態度)	物学工		
を説明できる。				
について概説できる。		物学工		
の解析に用いられる方法 (ゲノミックサザンプロット法など) について 応知できる。 など) 関連遺伝子について説明できる。 など) 関連遺伝子について説明できる。 高が意図するところを説明できる。 程) の内容を説明できる。 (法) の内容を説明できる。 (法) (政権と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。 (法) (法) (報義できる。 (法) (法) (報義できる。 (法) (法) (表) (表) (表) (表) (表) (表) (表) (表) (表) (表	分子生	物学工		
について、創業ターゲットの探索の代表例 (イマチニブなど) を挙げ、 協切できる。 など) 関連遺伝子について説明できる。 最次への応用例を挙げ、概説できる。 配列 の内容を説明できる。 相) の内容を説明できる。 和の内容を説明できる。 の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。 (治験薬管理者など) を説明できる。 がき項目を別挙できる。 かくき項目を別挙できる。 がき項目を対撃できる。 がき項目を対撃できる。 がき液質を変性の確保、カよび福祉の重要性について討議する。(態度) がき項目を対撃できる。 かくきが自動すできる。 かくきが情報に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度) かくが通目する守秘義務の重要性について討議する。(態度) かくが通目を対撃できる。 かくが通目を対撃できる。 がは、機体に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度) を対しませた。他が、Mann-Whitney U検定)について、適用できるデータ	ובארבו	加季 加		
など)関連遺伝子について説明できる。	ブなど)を挙げ、	物学工		
などり関連遺伝子について説明できる。				
療法への応用例を挙げ、概説できる。 富が意図するところを説明できる。 (投資を説明できる。 (投資を説明できる。 (知りの内容を説明できる。 (知りの内容を説明できる。 (治験薬管理者など)を説明できる。 (治験薬管理者など)を説明できる。 (治験薬管理者など)を説明できる。 (治験薬管理者など)を説明できる。 (治験薬管理者など)を説明できる。 (治験薬管理者など)を説明できる。 (治験薬管理者など)を説明できる。 (治験薬管理者など)を説明できる。 (治験薬性機に関する守秘養務の重要性について討議する。(態度) (治験薬性機に関する守秘養務の重要性について討議する。(態度) (治験薬性機に関する守秘養務の重要性について討議する。(態度) (治験薬性機能に関する守秘養務の重要性について討議する。(態度) (治験薬性機能に関する守秘養務の重要性について討議する。(態度)	年 日 日 日 日 日 日 日 日 日	物学工		
言が意図するところを説明できる。 (投資を説明できる。 相)の内容を説明できる。 の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。 (治験薬管理者など)を説明できる。 がく美項目を利等できる。 アと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度) トと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度) あいっとは変定、Mann-Whitney U検定)について、適用できるデータ を定法(L検定、Mann-Whitney U検定)について、適用できるデータ を、(対議・技能)	薬物治	療学Ⅰ		
高が意図するところを説明できる。 (投動を説明できる。 相)の内容を説明できる。 るための制度を説明できる。 の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。 (治験薬管理者など)を説明できる。 (治験薬管理者など)を説明できる。 ケと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度) トと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度) ある。 (対象には、検定、Mum-Mnitney U検定)について、適用できるデータ あ。(知識・技能)				
自が意図するところを説明できる。 (を関を説明できる。 相) の内容を説明できる。				
(治験薬管理者など) を説明できる。 の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。 (治験薬管理者など) を説明できる。 (治験薬管理者など) を説明できる。 (治験薬産性の確保、カキび福祉の主要性について討議する。(態度)		医療倫理学		
 相)の内容を説明できる。 るための制度を説明できる。 の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。 (治験薬管理者など)を説明できる。 すべき項目を列撃できる。 トと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度) る。 イラメトリック検定の使い分けを説明できる。 る。 イラメトリック検定の使い分けを説明できる。 あ。(知識・技能) なの、(知識・技能) なの制度を説明できる。 なの、(知識・技能) なの制度を説明できる。 なの、(知識・技能) なの、(知識・技能) なの、(知識・技能) なの、(知識・技能) なの、(知識・技能) 		医薬品情報学	- F	
るための制度を説明できる。 (法験定と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。) (法験業管理者など)を説明できる。 役割と責任を概説できる。 (法験業管理者など)を説明できる。 すへき項目を別挙できる。 (を責任を説明できる。) トと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度) (急) る。 (知識・技能) る。(知識・技能) (コンして、適用できるデータ)		医薬品情報学	F.	
の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。 (治験薬管理者など)を説明できる。 (治験薬管理者など)を説明できる。 (態度) おくき項目を列挙できる。 (態度) トと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度) (態度) る。 (パラメトリック検定の使い分けを説明できる。 あ。(知識・技能) (カ知識・技能) る。(知識・技能) (カ知識・技能)		医療倫理学		
役割と責任を概説できる。 (治験薬管理者など) を説明できる。 (治験薬管理者など) を説明できる。 (態度) おくき項目を列挙できる。 トと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度) る。 ペラントリック検定の使い分けを説明できる。 る。 かパラメトリック検定の使い分けを説明できる。 る。 ある。(知識・技能) る。(知識・技能) 素理学実習 本の、(知識・技能) 素理学表習	討議する。	医療倫理学		
(治験薬管理者など) を説明できる。 (治験薬管理者など) を説明できる。 すべき項目を列挙できる。 (態度) トと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度) (る。 (パラメトリック検定の使い分けを説明できる。 る。(知識・技能) 薬理学実習 る。(知識・技能) 薬理学実習		医療倫理学		
(治験薬管理者など) を説明できる。 (・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				
游と責任を説明できる。 すべき項目を列挙できる。 トと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。 (態度) る。 バラメトリック検定の使い分けを説明できる。 あ。 (知識・技能)			医薬品開発論	
すべき頃目を列挙できる。 トと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度) る。 パラメトリック検定の使い分けを説明できる。 る。(知識・技能)			医薬品開発論	
トと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。 (態度) る。 パラメトリック検定の使い分けを説明できる。 後定法 (t-検定、Mann-Wnitney U検定) について、適用できるデータ る。 (知識・技能)		医療倫理学		
る。 パラメトリック検定の使い分けを説明できる。 検定法(t-検定、Mann-Whitney U検定)について、適用できるデータ る。(知識・技能)	۰	医療倫理学・習つて教育	実務実	
(念を説明できる。) ク検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。 平均値の差の検定法(t-検定、Mann-Whitney U検定)について、適用できるデータ 1し、実施できる。(知識・技能)				
帰無仮説の概念を説明できる。 パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。 主な二群間の平均値の差の検定法(t-検定、Mann-Whitney U検定)について、適用できるデータ の特性を説明し、実施できる。(知識・技能)				
パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。 主な二群間の平均値の差の検定法(t-検定、Mann-Whitney U検定)について、適用できるデータ の特性を説明し、実施できる。(知識・技能)		医薬品情報学	Æ,	医療統計学
主な二群間の平均値の差の検定法(t-検定、Mann-Mhitney U検定)について、適用できるデータ の特性を説明し、実施できる。(知識・技能)		医薬品情報学		医療統計学
	るずータ	実習 医薬品情報学	Æ!	医療統計学
4) X 2検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能) 医薬品情		医薬品情報学	5	医療統計学
5)最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。(知識・技能)	:・技能)	医薬品情報学	.s.i	医療統計学

1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			松			
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6)主な多重比較検定法(分散分析、Dunnett検定、Tukey検定など)の概要を説明できる。				医薬品情報学		医療統計学
7)主な多変量解析の概要を説明できる。				医薬品情報学		医療統計学
【臨床への応用】						
1) 臨床試験の代表的な研究デザイン(症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験)の特色を 説明できる。				医薬品情報学		医療統計学
2) バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。				医薬品情報学		医療統計学
3) バイアスを回避するための計画上の技法(盲検化、ランダム化)について説明できる。				医薬品情報学		医療統計学
4) リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。 (知識・技能)				医薬品情報学		医療統計学
5)基本的な生存時間解析法(Kaplan-Meier曲線など)の特徴を説明できる。				医薬品情報学		医療統計学
018 薬学と社会						
(1)薬剤師を取り巻く法律と制度						
【医療の担い手としての使命】						
1)薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する。(態度)				医薬品情報学		
2)医療過誤、リスクマネージメントにおける薬剤師の責任と義務を果たす。(態度)				リスクマキージメソト調		
【法律と制度】				-		
1)薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。				薬事関係法規・制度		
2)薬事法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。				薬事関係法規・制度		
3)薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。				薬事関係法規・制度		
4)薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。				薬事関係法規・制度		
5)医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。				薬事関係法規・制度		
6)医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。				薬事関係法規・制度		
7)製造物責任法を概説できる。				薬事関係法規・制度		
[管理薬]						
1)麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。				薬事関係法規・制 度、リスクマネージ メント論		
2) 覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。				リスクマネージメン ト論		
3) 大麻取締法およびあへん法を概説できる。				薬事関係法規・制度		
4)毒物及び劇物取締法を概説できる。				薬事関係法規・制度		
[放射性医薬品]						
1) 放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準(放射性医薬品基準など)および制度について概説できる。		放射化学				
2) 代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。	枚	放射化学				
(2)社会保障制度と薬剤経済						

i i			城	車		
米子牧育セイル・コインツキュフム(SBOS)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【社会保障制度】						
1)日本における社会保障制度のしくみを説明できる。				薬事関係法規・制度	医療福祉制度	
2)社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。				薬事関係法規・制度	医療福祉制度	
3) 介護保険制度のしくみを説明できる。				薬事関係法規・制度	医療福祉制度	
4)高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。				薬事関係法規・制度	医療福祉制度	
[医療保険]						
1)医療保険の成り立ちと現状を説明できる。					医療福祉制度	
2)医療保険のしくみを説明できる。					医療福祉制度	
3)医療保険の種類を列挙できる。					医療福祉制度	
4)国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。					医療福祉制度	
【薬剤経済】						
1)国民医療費の動向を概説できる。					医療福祉制度	
2) 保険医療と薬価制度の関係を概説できる。					医療福祉制度	
3)診療報酬と薬価基準について説明できる。					医療福祉制度	
4)医療費の内訳を概説できる。					医療福祉制度	
5)薬物治療の経済評価手法を概説できる。			薬剤経済学		医療福祉制度	
〇〇 日)代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。(知識・技能)					医療福祉制度	
(3) コミュニティーファーマシー						
【地域薬局の役割】						
1)地域薬局の役割を列挙できる。				実務実習プレ教育		
2)在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。				実務実習プレ教育		
3)学校薬剤師の役割を説明できる。				環境衛生学 I 衛生系実習		
【医薬分業】						
1)医薬分業のしくみと意義を説明できる。				実務実習プレ教育		
2) 医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する。(知識・態度)				実務実習プレ教育		
3) かかりつけ薬局の意義を説明できる。				実務実習プレ教育		
【薬局の業務運営】						
1)保険薬剤師療養担当規則および保険医療養担当規則を概説できる。				薬事関係法規・制度	医療福祉制度	
2)薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。				実務実習プレ教育		
3) 医薬品の流通のしくみを概説できる。				実務実習プレ教育		
4)調剤報酬および調剤報酬明細書(レセプト)について説明できる。					医療福祉制度	
【010薬・セルフメディケーション】						
1)地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。(態度)				実務実習プレ教育		
2)主な一般用医薬品(076薬)を列挙し、使用目的を説明できる。				実務実習プレ教育		
3) 漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。	生薬	生薬学B				

(基礎資料3-2) 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

3学科(健康薬学科、漢方薬学科、臨床薬学科)共通

- 1 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。 囲
- 同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

Ø

「(7)の事前学習のまとめ」において大学でSBOsの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。 ო

		四級	
本務事的 一下 一下 一下 一下 一下 一下		ŗ T	
	3年	4年	5年
D 実務実習教育			
(I) 実務実習事前学習			
(1)事前学習を始めるにあたって			
《薬剤節業務に注目する》			
1. 医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。		実務実習プレ教育	
2. 医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。		実務実習プレ教育	
3. 薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて言	ハで討議する。(態度)	実務実習プレ教育	
《チーム医療に注目する》			
4. 医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。		実務実習プレ教育	
5. チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。		実務実習プレ教育	
6. 自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。(態度)		実務実習プレ教育	
《医薬分業に注目する》			
7. 医薬分業の仕組みと意義を概説できる。		実務実習プレ教育	
(2) 処方せんと調剤			
《処方せんの基礎》			
1. 処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。		実務実習プレ教育	
2. 処方オーダリングシステムを概説できる。		実務実習プレ教育	
3. 処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。		実務実習プレ教育	
4. 調剤を法的根拠に基づいて説明できる。		実務実習プレ教育	
5. 代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。(知識・技能)		実務実習プレ教育	
6. 不適切な処方せんの処置について説明できる。		実務実習プレ教育	
《医薬品の用法・用量》			
7. 代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。		実務実習プレ教育	

	() () () () () () () () () () () () () (数 当 本 田	
	ュノン・イエノム(天物天日寺川十百)。ロ	3年	4年	5年
8.	患者に適した剤形を選択できる。(知識・技能)		実務実習プレ教育	
9.	患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明できる。		実務実習プレ教育	
10.	患者の特性に適した用量を計算できる。(技能)		実務実習プレ教育	
11.	病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる。		実務実習プレ教育	
《服薬	《服薬指導の基礎》			
12.	服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。		実務実習プレ教育	
《調剤	《關剤室業務入門》			
13.	代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。(技能)		実務実習プレ教育	
14.	処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。(技能)		実務実習プレ教育	
15.	処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。(技能)		実務実習プレ教育	
16.	調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。(技能)		実務実習プレ教育	
17.	処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する。(態度)		実務実習プレ教育	
(3)	疑義照会			
《疑義》	《疑義照会の意義と根拠》			
1.	疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。		実務実習プレ教育	
2.	代表的な配合変化の組合せとその理由を説明できる。		実務実習プレ教育	
3.	特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する。(技能)		実務実習プレ教育	
4.	不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。		実務実習プレ教育	
《疑義』	義照会入門》			
5.	処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。(態度)		実務実習プレ教育	
9.	代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。		実務実習プレ教育	
7.	代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。		実務実習プレ教育	
8	代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。		実務実習プレ教育	
9.	疑義照会の流れを説明できる。		実務実習プレ教育	
10.	疑義照会をシミュレートする。(技能・態度)		実務実習プレ教育	
(4)	医薬品の管理と供給			
《医薬	《医薬品の安定性に注目する》			
-	医薬品管理の意義と必要性について説明できる。		実務実習プレ教育	
2.	代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。		実務実習プレ教育	
《特別》	《特別な配慮を要する医薬品》			
က်	毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。		実務実習プレ教育	

			数 业 数	
	実務実習モデル・コアカリキュラム(実務実習事前学習)SBOs	3年	4年	5年
4.	麻薬、向精神薬などの管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。		実務実習プレ教育	
5.	血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。		実務実習プレ教育	
9.	輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。		実務実習プレ教育	
7.	代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。		実務実習プレ教育	
œ.	生物製剤の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。		実務実習プレ教育	
9.	麻薬の取扱いをシミュレートできる。(技能)		実務実習プレ教育	
10.	代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。		実務実習プレ教育	
11.	放射性医薬品の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。		実務実習プレ教育	
《製剤	《製剤化の基礎》			
12.	院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。		実務実習プレ教育	
13.	薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。		実務実習プレ教育	
14.	代表的な院内製剤を調製できる。(技能)	薬剤学実習 I		
15.	無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)	薬剤学実習 I	実務実習プレ教育	
16.	抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的手技を実施できる。(技能)	薬剤学実習 I	実務実習プレ教育	
《注射》	《注射剤と輸液》			
17.	注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。		実務実習プレ教育	
18.	代表的な配合変化を検出できる。(技能)	薬剤学実習 I	実務実習プレ教育	
19.	代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。		実務実習プレ教育	
20.	体内電解質の過不足を判断して補正できる。(技能)		実務実習プレ教育	
《消毒薬》	₹\$\			
21.	代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。		実務実習プレ教育	
22.	消毒薬調製時の注意点を説明できる。		実務実習プレ教育	
(2)	リスクマネージメント			
《安全》	《安全管理に注目する》			
1.	薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。			
2.	誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。		実務実習プレ教育	
3.	院内感染の回避方法について説明できる。		実務実習プレ教育	
《副作》	作用に注目する》			
4	代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。		実務実習プレ教育	
(リス!	クマネージメント入門》			
5.	誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。		実務実習プレ教育	

 ※ 後 後 後 後 後 後 後 後 後 後 後 後 後 後 後 後 後 後 後				発展を	
の具体変を提案する。(機度) 34年 65 54年 56 の具体変を提案する。(機度) 要務業置力し軟件 が発展できる。(機度) 要務業置力し軟件 三次左橋、インフォームド・コンセント、中砂機務などについて具体的に説明できる。 要務業置力し軟件 主義本の注意点を列撃できる。 要務業置プレ軟件 主義本の主意は表列撃できる。 要務業置プレ軟件 セント、中砂機務などに配慮する。(施度) 要務業置プレ軟件 な特・国能を確保して配慮する。(施度) 要務業置プレ軟件 なたりを生活性を経て服薬性等ができる。(地能・技能) 要務業置プレ軟件 た、着切な服薬指導ができる。(地能・技能) 要務業置プレ軟件 が日本になる。(技能) 要務業置プレ軟件 が日本になる。(技能) 要務業置プレ軟件 が日本を行う。(技能) 要務業置プレ軟件 が日本の主意にないたきる。(技能) 要務業置プレ軟件 が日本の主意にないたきる。(技能) 要務業置プレ軟件 対域を活力したできる。(技能) 要務業置プレ軟件 対域をとコレートできる。 要務業置プレ軟件 装りまましたできる。 要務業置プレ軟件 装りをデコレートできる。 要務業置力し軟件 装削減がたきュルートできる。 要務業置力し軟件 装卸業可したする。 要務業置力し軟件 装削減がたきュルートできる。 要務業置力し数件 装卸業 要務業置力し数件 対域を含さュレートできる。 要務業置力し数件 装卸業 要別 対域を含む。 要別		・コアカリキュラム(実務実習事前学習)SBO		Į N	
D具体策を提案する。(態度) 実務実習了 対処方法について提案する。(態度) 実務実習了 3.決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。 実務実習了 主意すべき生活指導項目を別挙できる。 実務実習了 セント、守秘義務などに配慮する。(態度) 実務実習了な手術活躍項目を別挙できる。 なケート、守秘義務などに配慮する。(態度) 実務実習了な手術の登録できる。 なケート、守秘義務などに配慮する。(地能・態度) 実務実習了となければならない注意点を列挙できる。 大大・行政・大な配金、総様、実施など)を把握できる。(技能) 実務実習了方フィアンス、経過、診療線、薬歴など)を把握できる。(技能) 実務実習了を務実習了を表示できる。(技能) 大、適切な服業指導ができる。(技能) 実務実習了の服業指導ができる。(技能) 実務実習了を表示でする。 財整調剤をごコレートできる。 実務実習了を表示コレートできる。 産ををシミコレートできる。 実務実習了を表示コレートできる。 集務表習了を表示コレートできる。 実務実習了を表示コレートできる。 集構導ができる。 実務実習了表別を言いし上できる。 集構導ができる。 実務実習了表別等型できる。 集構導ができる。 実務実習了表別等型のといてきる。 実施事ができる。 実務実習了表別等型のといてきる。 実施電ができる。 実務実習了表別等型のといてきる。 実施等ができる。 実施電ができる。 実施すができる。 実施電ができる。 実施等ができる。 実施業習りましたできる。 実施書ができる。 実施書ができる。 実施などのよれできる。 実施業習りままままままままます。 実施業といまれてきる。 実施業といまれてきる。 実施業とのよれてきる。 実施業とのよれてきる。 実施業とのよれてきる。 実施業とのよれてきる。 実施業といまれていまれていますままままままままままままままままままままままままままままま			3年		
40mの方法について提案する。(態度) は20mmの方法について提案する。(態度) 主急すべき生活時期できる。 主急すべき生活時期できる。 主急すべき生活時期できる。(態度) な20mmの注意点を列挙できる。(態度) か20mmの注意点を列挙できる。(態度) か20mmの注意点を列挙できる。(態度) か20mmの注意点を列挙できる。(態度) か20mmの注意点を列挙できる。(態度) か20mmの注意点を列挙できる。(態度) な20mmの注意点を列挙できる。(地臓・態度) な20mmの注意点を列挙できる。(地臓・態度) な20mmの注意点を列挙できる。(地臓・態度) な20mmの注意点を列挙できる。(地臓・技能) が20mmの対象できる。(地臓・技能) を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。(地臓・技能) を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。(状能) 変指導ができる。(技能) 変指導ができる。(技能) 変指導ができる。(技能) 変指導ができる。(技能) 変指導ができる。(技能) 変指導ができる。(技能) 変指導ができる。(技能) 変素を表示コレートできる。 (技能) を30mmの対象できる。(技能) 変素を表示コレートできる。 (技能) を30mmの対象できる。(技能) 変素をシミュレートできる。 実務実置フ格素等できる。 変数を置つ 変数を表示されてきる。 (技能) 変数を表示されてきる。 (技能) 変数を表示されてきる。 (技能) 変数を表示されていまる。 実務実置フ格素が変できる。 変数を変していまる。 変数を変していまる。 変数を変していまる。 変数を変していまる。 変数を変していまる。 変数を変していまる。 変数を変していまる。 変数を変していまる。 変数を変していまる。 変数を表示されていまる。 変数を表示されています 変数を表示されていまる。 変数を表示されています を表述を表示されています を表述を表示されています を表述を表示されています を表述を表示されています を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を	.9	を回避するための具体策を提案する。		レ教	
3決定権、インフオームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に訪明できる。	7.	%		実務実習プレ教育	
3決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。 主意すべき生活指導項目を列挙できる。 主意すべき生活指導項目を列挙できる。 かり手順を経活構造する。 (想度) かり手順を経て限薬指導する。 (知識・態度) を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。 (知識・態度) を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。 (知識・態度) を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。 (知識・態度) を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。 (知識・態度) 指線を列挙できる。 がありな服薬指導ができる。 (対能) を指導ができる。 (対能) を指導ができる。 (対能) を指導ができる。 (対能) を指導ができる。 (対能) を指導ができる。 (技能) を発表習り とが表習りに記録できる。 (技能) を発表習り とが表習り を発表習り とが表習り を発表習り を発表習り を発表習り を発表習り を発表習り を表表をシェュレートできる。 とは違ができる。 とは違がな思え を表表をシェュレートできる。 とは違がな思え を表表をシェュレートできる。 とは違がな習り を表表をシェュレートできる。 とは違がな習り を表表をシェュレートできる。 とは違がな習り を表表をシェュレートできる。 とは を表表をシェュレートできる。 とは を表表をシェュレートできる。 とは を表表をシェュレートできる。 とは を表表ををシェュレートできる。 とは を表表を とは を表表を とは を表表を とは を表表を とは を表表を とは を表表を とは を表表を とは を表表を とは を表表を を表述を を表表を を表表を を表表を を表述を		服薬指導と患者情報			
3.決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。	《服薬	指導に必要な技能と態度》			
		自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる		J	
主意すべき生活指導項目を列挙できる。 セント、守秘義務などに記慮する。(態度) カな手順を経て服薬指導する。(技能・態度) な持つ理由を理解し、それを除く努力をする。(技能・態度) となければならない注意点を列挙できる。 (技能・態度) となければならない注意点を列挙できる。(技能) を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。(技能) を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。(技能) アライアンス、経過、診療録、薬歴など)を把握できる。(技能) なビューを行う。(技能・態度) 変指導ができる。(技能) の服薬指導ができる。(技能) とよってできる。(技能) とまっていまる。 は技能・態度) などューを行う。(技能・態度) と対していまる。 は技能・態度) ながまできる。(技能) とまっていまる。 は数調剤をシミュレートできる。 は難調剤をシミュレートできる。 実務実置うずの表表できる。(技能) とまっていまる。 実務実置うまりまする。 実務実置うまりまする。 実務実置うまりまする。 実務実置うまりまする。 実務実置うまりまする。 実務実置うまりまする。 実務実置うまりまする。 実務実置うまります。 実務実置うまります。 実務実置うまります。 実務実置うまります。 実施表面のできる。 実務実置うまります。 まります。 まりましていまる。 まります。 まりませいます。 まります。 まりまする。 まりまするる	2.	代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。		実務実習プレ教育	
	3.	代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。		実務実習プレ教育	
784年順を経て服薬指導する。(技能・態度) 左持つ理由を理解し、それを除く努力をする。(知識・態度) た付つ相ばならない注意点を列挙できる。 「なければならない注意点を列挙できる。 「お付いならない注意点を列挙できる。(技能) 「動物の共有化の重要性を説明できる。(対能・態度) 「ながな服薬指導ができる。(対能・態度) などューを行う。(技能) といっても行う。(技能) といってもる。(技能) といってもる。(技能) といってもる。(技能) といってもる。(技能) といってもる。(技能) といるを行うことができる。(技能) といってもる。(技能) とが実習ってもなら。(技能) といってもる。(技能) といってもる。(技能) といってもる。(技能) といってもる。(技能) といってもる。(技能) といってもる。(対能) といってもる。(対能) といってもる。(対能) といってもる。(対能) といってもる。(対能) といってもる。(対能) といってもる。(対能) といってもる。(対能) といってもる。(対能) といってもる。(対策を記する) といってもる。(対能) といってもる。(対能) といってもる。(対能) といってもる。(対能) といってもる。(対策を記する) といってもる。(対能) といってもない。(対能) といってもる。(対能) といってもる。(対能) といってもない。(対能) といってもないるは、(対能) といってもないるいい。(対能) といってもない。(対能) といってもない。(対能) といってもないない。(対能) といってもないないないるいないないないないないないないないないないないないないないないな	4.	守秘義務などに配慮する。		実務実習プレ教育	
と持つ理由を理解し、それを除く努力をする。(知識・態度) 実務実習つしなければならない注意点を列挙できる。 「本位ければならない注意点を列挙できる。 (技能) 「精緻を列挙できる。 (技能) 「大イアンス、経過、診療録、薬歴など)を把握できる。(技能) 実務実習力をしている。 「大力インス、経過、診療録、薬歴など)を把握できる。(技能) 実務実習力をしている。 「大道切な服薬指導ができる。(技能) 実務実習力を指導ができる。(技能) 「大道の内容を適切に記録できる。(技能) 実務実習力を表現習力を表現習力を表現のからまコレートできる。 実務実習力を表現認定ををシミュレートできる。 「本方る。 実務実習力を変えコレートできる。 実務実習力を表現習力をををシミュレートできる。 集構導ができる。 実務実習力を表定をシミュレートできる。 実務実習力を表現認可できる。 集構導ができる。 実務実習力を表定をシミュレートできる。 実務実習力を表別できる。	5.			実務実習プレ教育	
Lなければならない注意点を列挙できる。 実務実習了 情報を列挙できる。 実務実習了 ブライアンス、経過、診療録、薬歴など)を把握できる。(技能) 実務実習了 ボライアンス、経過、診療録、薬歴など)を把握できる。(技能) 実務実習了 でこ、適切な服薬指導ができる。(技能) 実務実習了 変指導ができる。(技能) 実務実習了 監査を行うことができる。(技能) 実務実習了 計数調剤をシミュレートできる。 実務実習了 直ををシミュレートできる。 実務実習了 重なをシミュレートできる。 実務実習了 重なをシミュレートできる。 実務実習了 製業指導ができる。 実務実習了 集構導ができる。 実務実習了 集構導ができる。 実務実習了 集構導ができる。 実務実習了	9	抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。(知識・		7	
	7.	16		7	
簿に必要な患者情報を列挙できる。 実務実習了 実務実習了 (技能) 実務実習了 実務実習了 位を薬品について、適切な服薬指導ができる。(知識・技能) 実務実習了 実務実習了 な症例について、適切な服薬指導ができる。(技能) 実務実習了 会をシミュレートできる。 実務実習了 人例に従って、計数調剤をシミュレートできる。 実務実習了 人例に従って、計量調剤をシミュレートできる。 実務実習了 本のに従って、計量調剤をシミュレートできる。 実務実習了 大の間に従って、計量調剤をシミュレートできる。 実務実習了 大の間に従って、計量調剤をシミュレートできる。 実務実習了 大の間に従って、計量調剤をシミュレートできる。 実務実習了 本のに確立とをシミュレートできる。 実務実習了 表のに記した服薬指導ができる。 実務実習の 景に配慮した服薬指導ができる。 実務実習の 景のに記述した服薬指導ができる。 実務実習の	《患者	情報の重要性に注目する》			
最、情報(コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など)を把握できる。(技能) 実務実習了 有護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる。 (知識・技能) な医薬品について、適切な服薬指導ができる。(知識・技能) 実務実習力 農民で患者インタビューを行う。(技能・態度) 実務実習力 最にの慮した服薬指導ができる。(技能) 実務実習力 なな例にひいての服薬指導の内容を適切に記録できる。(技能) 実務実習力 な処力せん例の鑑査を行うことができる。 実務実習力 人例に従って、計量調剤をシミュレートできる。 実務実習力 れん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。 実務実習力 れた医薬品の鑑査ををシミュレートできる。 実務実習力 東の間に配慮した服薬指導ができる。 実務実習力 農民配慮した服薬指導ができる。 実務実習力 農民の配慮した服業指導ができる。 実務実習力 農民の配慮した服業指導ができる。 実務実習力 農に配慮した服業指導ができる。 実務実習力	89	服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。			
看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる。 実務実習力 な医薬品について、適切な服薬指導ができる。(妊能・態度) 実務実習力 態度で患者インタビューを行う。(技能・態度) 実務実習力 景に配慮した服薬指導の内容を適切に記録できる。(技能) 実務実習力 な処力せん例の鑑査を行うことができる。 実務実習力 会をシミュレートする。 実務実習力 人例に従って、計量調剤をシミュレートできる。 実務実習力 れた医薬品の鑑査ををシミュレートできる。 実務実習力 まの監査ををシミュレートできる。 実務実習力 まの監査ををシミュレートできる。 実務実習力 最近に配慮した服薬指導ができる。 実務実習力 景に配慮した服薬指導ができる。 実務実習力 裏のこれに販業指導ができる。 実務実習力	9.	、情報(コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など)を把握できる。			
な医薬品について、適切な服薬指導ができる。 (知識・技能) 態度で患者インタビューを行う。 (技能・態度) 景務実習了 身に配慮した服薬指導ができる。 (技能) りまとめ な処方せん例の鑑査を行うことができる。 な処方せん例の鑑査を行うことができる。 か例に従って、計数調剤をシミュレートできる。 表務実習了 表務実習了 ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま	10.	医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる。		実務実習プレ教育	
代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。(知識・技能)実務実習力基者背景に配慮した服薬指導ができる。(技能)実務実習力本前学習のまとめ実務実習力株表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。(技能)実務実習力本前学習のまとめ実務実習力投表的な処力せん例の鑑査を行うことができる。実務実習力疑義照会をシミュレートできる。実務実習力加力せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。実務実習力加力せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。実務実習力加力せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。実務実習力組制された医薬品の鑑査ををシミュレートできる。実務実習力患者背景に配慮した服薬指導ができる。実務実習力患者背景に配慮した服薬指導ができる。実務実習力患者背景に配慮した服薬指導ができる。実務実習力事務実習力実務実習力事務表習力実務実習力	《服薬	指導入門》			
共聴的態度で患者インタビューを行う。(技能・態度)実務実習了患者背景に配慮した服薬指導ができる。(技能)実務実習力本前学習のまとめ実務実習力表的な処方せん例の鑑査を行うことができる。実務実習力疑義照会をシミュレートする。実務実習力処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。実務実習力処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。実務実習力加力なた例に従って、計量調剤をシミュレートできる。実務実習力独方はた例に従って、計量調剤をシミュレートできる。実務実習力組着背景に配慮した服薬指導ができる。実務実習力患者背景に配慮した服薬指導ができる。実務実習力患者背景に配慮した服薬指導ができる。実務実習力患者背景に配慮した服薬指導ができる。実務実習力事務実習力実務実習力事務表習分実務実習力	11.	適切な服薬指導ができる。(知識		J	
患者背景に配慮した服薬指導ができる。(技能)実務実習力本前学習のまとめ主動学習のまとめ作表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。 (技)大表的な処力せん例の鑑査を行うことができる。 (技)実務実習力 (表)疑義照会をシミュレートする。 処力せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。 加力せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。 調剤された医薬品の鑑査ををシミュレートできる。 調剤された医薬品の鑑査ををシミュレートできる。 調剤された医薬品の鑑査ををシミュレートできる。 調剤された医薬品の鑑査ををシミュレートできる。 調剤された医薬品の鑑査ををシミュレートできる。 調剤された医薬品の鑑査ををシミュレートできる。 調剤された医薬品の鑑査ををシミュレートできる。 調剤された医薬品の鑑査ををシミュレートできる。 調剤された医薬品の鑑査ををシミュレートできる。 調剤された医薬品の鑑査ををシミュレートできる。 調剤された医薬品の鑑査ををシミュレートできる。 調剤された医薬品の鑑査ををシミュレートできる。 調剤された医薬品の鑑査ををシミュロートできる。 (対) <b< td=""><td>12.</td><td>ューを行う。(技能・</td><td></td><td>J</td><td></td></b<>	12.	ューを行う。(技能・		J	
作表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。 事前学習のまとめ 実務実習了作表的な処方せん例の鑑査を行うことができる。 疑義照会をシミュレートする。 処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。 処力せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。 加力せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。 調剤された医薬品の鑑査ををシミュレートできる。 調剤された医薬品の鑑査ををシミュレートできる。 調剤された医薬品の鑑査ををシミュレートできる。 調剤された医薬品の鑑査ををシミュレートできる。 調剤された医薬品の鑑査ををシミュレートできる。 調剤された医薬品の鑑査ををシミュレートできる。 調剤された医薬品の鑑査ををシミュレートできる。 調剤された医薬品の鑑査ををシミュレートできる。 調剤された医薬品の鑑査ををシミュレートできる。 ま務実習ブ	13.			実務実習プレ教育	
事前学習のまとめ実務実習づ実務実習づ代表的な処方せん例の鑑査を行うことができる。実務実習づ疑義照会をシミュレートする。実務実習づ処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。実務実習づ処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。実務実習づ調剤された医薬品の鑑査ををシミュレートできる。実務実習づ患者背景に配慮した服薬指導ができる。実務実習づ患者背景に配慮した服薬指導ができる。実務実習づ	14.	きる。		\mathcal{L}	
代表的な処方せん例の鑑査を行うことができる。実務実習づ 実務実習づ 実務実習づ とカナセん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。実務実習づ 実務実習づ 事務実習づ 実務実習づ 事務表達の鑑査ををシミュレートできる。実務実習づ 実務実習づ 事務表習づ 実務実習づ 事者背景に配慮した服薬指導ができる。実務実習づ 実務実習づ 実務実習づ 実務実習づ 実務実習づ 実務実習づ 実務実習づ 実務実習づ 実務実習づ 		事前学習のまとめ			
競義照会をシミュレートする。実務実習づ処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。実務実習づ処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。実務実習づ調剤された医薬品の鑑査ををシミュレートできる。実務実習づ患者背景に配慮した服薬指導ができる。実務実習づ患者背景に配慮した服薬指導ができる。実務実習づ	1.	ことができる			
処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。実務実習づ処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。実務実習づ調剤された医薬品の鑑査ををシミュレートできる。実務実習づ患者背景に配慮した服薬指導ができる。実務実習づ患者背景に配慮した服薬指導ができる。実務実習づ	2.	疑義照会をシミュレートする。		実務実習プレ教育	
処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。調剤された医薬品の鑑査ををシミュレートできる。患者背景に配慮した服薬指導ができる。	3.	計数調剤をシミュレートできる		J	
調剤された医薬品の鑑査ををシミュレートできる。 患者背景に配慮した服薬指導ができる。	4.	計量調剤をシミュレートできる		実務実習プレ教育	
患者背景に配慮した服薬指導ができる。	5.	ミュレートできる		実務実習プレ教育	
	9.	患者背景に配慮した服薬指導ができる。		実務実習プレ教育	

(基礎資料3一3) 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目3学科(健康薬学科、漢方薬学科、臨床薬学科)共通

[注] 1 平成35年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。

2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

(*)00) / 11 - 4二十八丁," 11 11 化邻苯胺 - 建温光量470倍引			数	基		
	1年	2年	3年	4年	9年	6年
A 基本事項						
(1)薬剤節の使命						
[①医療人として]						
1)常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)	社会薬学1 早期体験学習	社会薬学2	医療倫理学	フィジカルアセスメ ント実習		
2)患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)	社会薬学1 早期体験学習	社会薬学2	医療倫理学	フィジカルアセスメ ント実習	実務実習ポスト教育	
3) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)	社会薬学1 早期体験学習	社会薬学2	医療倫理学	フィジカルアセスメ ント実習	実務実習ポスト教育	
4)患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	社会薬学1 早期体験学習	社会薬学2	医療倫理学		実務実習ポスト教育	
5)生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	社会薬学1	社会薬学2	医療倫理学		実務実習ポスト教育	
6)一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	社会薬学1	社会薬学2	医療倫理学		実務実習ポスト教育	
7)様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。 (知識・ 態度)	社会薬学1	社会薬学2	医療倫理学		実務実習ポスト教育	
【②薬剤師が果たすべき役割】						
1)患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)	早期体験学習	社会薬学2		フィジカルアセスメ ント実習		
2) 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について 説明できる。	薬学概論 早期体験学習		薬事法規·制度2 調剤学			
3)医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。	薬学概論 早期体験学習	社会薬学2	調剤学	医薬品副作用学 疾患別治療特論 1		
4)医薬品の効果が確率論的であることを説明できる。	操 小 表		医療倫理学	薬事法規・制度3		
5)医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。	薬学概論 早期体験学習		医療倫理学	薬事法規・制度3		
6)健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明 できる。	薬学概論 社会薬学1 早期体験学習					
7) 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。	薬学概論 社会薬学1		薬物と健康 調剤学			
8) 現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。 (知識・態度)	薬学概論	社会薬学2				
[③患者安全と薬害の防止]						
1)医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)		社会薬学2				
2)WHOによる患者安全の考え方について概説できる。			医療倫理学			

1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			数	本		
平成25年度収引版・乗子教育セナル・コアカリキュフム(SBOS)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3)医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。	薬学概論		薬事法規・制度2 医療倫理学	疾患別治療持論1		
4)医薬品が関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。	薬 薬 薬 薬		薬事法規・制度2	疾患別治療持論1		
5) 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。 (知識・態度)	薬学概論 社会薬学1	社会薬学2		フィジカルアセスメ ント実習		
6) 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。	薬学概論		医療倫理学	医薬品情報学 医薬品副作用学		
7) 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。 (知識・態度)	薬学概論	社会薬学2	医療倫理学			
[④薬学の歴史と未来]						
1)薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	薬学概論 医療と哲学		薬事法規・制度2			
2)薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	薬学概論 医療と哲学		薬事法規・制度2			
3)薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。	薬学概論 医療と哲学	社会薬学2	調剤学			
4)将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。(知識・態度)	薬学概論 医療と哲学 早期体験学習	社会薬学2	調剤学		実務実習ポスト教育	
(2)薬剤節に求められる倫理観						
[①生命倫理]			_	-	-	
1) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度)	医療と哲学	社会薬学2	医療倫理学			
2)生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。	医療と哲学		医療倫理学			
3)生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。 (知識・態度)	社会薬学1 医療と哲学	社会薬学2	医療倫理学			
4)科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。	医療と哲学		医療倫理学			
[②医療倫理]						
1)医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。	医療と哲学	社会薬学2	医療倫理学			
2)薬剤師が違守すべき倫理規範(薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等)について説明できる。	医療と哲学	社会薬学2	薬事法規・制度2 医療倫理学			
3)医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	医療と哲学	社会薬学2	医療倫理学			
[③患者の権利]						
1)患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)	医療と哲学	社会薬学2	医療倫理学			
2)患者の基本的権利の内容(リスポン宣言等)について説明できる。	医療と哲学		調剤学 薬事法規・制度2 医療倫理学			
3)患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。	医療と哲学		調剤学 医療倫理学			
4) 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。 (知識・ 技能・態度)	薬学概論 社会薬学1 早期体験学習	社会薬学2	調剤学 医療倫理学	医療コミュニケー ション論		
[④研究倫理]						

(*) ロン・・リー・ナニトリア・=『八神家康郎・記述古典ル20から			数	車		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 臨床研究における倫理規範(ヘルシンキ宣言等)について説明できる。	薬学概論		医療倫理学	薬事法規・制度3		
2)「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。			医療倫理学	薬事法規・制度3		
3)正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)		社会薬学2	医療倫理学			
(3) 信頼関係の構築						
[(つきュニケーション]						
1)意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。	社会薬学1 早期体験学習		医療倫理学	医療コミュニケー ション論		
2)言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。	社会薬学1 早期体験学習		医療倫理学			
3) 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて 説明できる。	社会薬学1 早期体験学習		医療倫理学	医療コミュニケー ション論		
4)対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。			医療倫理学	医療コミュニケー ション論		
5)相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)	社会薬学1 早期体験学習			医療コミュニケー ション論		
6)自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度)	社会薬学1 早期体験学習			医療コミュニケー ション論		
7)適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)	社会薬学1 早期体験学習			医療コミュニケー ション論		
8)適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)	社会薬学1 早期体験学習			医療コミュニケー ション論		
9)他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)	社会薬学1 早期体験学習			医療コミュニケー ション論		
【②患者・生活者と薬剤師】						
1)患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。			医療倫理学	医療コミュニケー ション論		
2)患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)				医療コミュニケー ション論		
(4) 多職種連携協働とチーム医療						
1)保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。			フィジカルアセスメ ント			
2)多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。			フィジカルアセスメ ント	薬事法規・制度3		
3)チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。	社会薬学1 早期体験学		調剤学 フィジカルアセスメ ント			
4)自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)			調剤学	処方解析		
5)チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすよう に努める。(知識・態度)	社会薬学1 早期体験学			フィジカルアセスメ ント実習		
(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成						
1)医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、 解決に向けて努力する。(態度)				卒業研究	実務実習ポスト教育 卒業研究	卒業研究
2) 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)				卒業研究	卒業研究	卒業研究
3)必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)				卒業研究	卒業研究	卒業研究

:			黎	本 田		
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBO8)	1年	2年	3年		5年	6年
4)得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)				卒業研究	卒業研究	卒業研究
5)インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)				卒業研究	卒業研究	卒業研究
[②薬学教育の概要]						
1) 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	社会薬学1 早期体験学習	社会薬学2	医療倫理学	疾患別治療特論1 卒業研究	卒業研究	卒業研究
2)薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)	社会薬学1	社会薬学2		卒業研究	卒業研究	卒業研究
[③生涯学習]						
1) 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	社会薬学1		医療倫理学	卒業研究	卒業研究	卒業研究
2) 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)				卒業研究	卒業研究	卒業研究
【④次世代を担う人材の育成】						
1)薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)					実務実習ポスト教育	
2)後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)				卒業研究	実務実習ポスト教育 卒業研究	卒業研究
B 薬学と社会						
(1) 人と社会に関わる薬剤師						
1) 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。			医療倫理学			
2) 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度)	社会薬学1				実務実習ポスト教育	
3) 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度)	社会薬学1		薬事法規・制度2			
4)薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)			医療倫理学			
5) 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)			薬事法規・制度2			
(2)薬剤師と医薬品等に係る法規範						
[①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範]						
1)薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。			薬事法規・制度 1 薬事法規・制度 2			
2)薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。			薬事法規・制度 1 薬事法規・制度2			
3)薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。			薬事法規・制度 1 薬事法規・制度2			
4)薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる。			薬事法規・制度1			
5)医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。			薬事法規・制度 1 薬事法規・制度2			
6)医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。			薬事法規・制度1 薬事法規・制度2			
フ)個人情報の取扱いについて概説できる。			藥事法規·制度 1 薬事法規·制度 2 医療倫理学			
8)薬剤師の刑事責任、民事責任(製造物責任を含む)について概説できる。			薬事法規・制度 1 薬事法規・制度2 医療倫理学			
【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】						

・Mの動物は11-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1			數当	本		
(9)のの)ないまたので、エンス・コースの一番では、単二の大学・アンス・コースのでは、「一大学・アンス・コースのでは、「一大学・アンス・コースのでは、「一大学・アンス・コース・ファンス・コース・ファンス・コース・ファンス・コース・コース・ファンス・コース・コース・コース・コース・コース・コース・コース・コース・コース・コー	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等 (医薬品(薬局医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品)、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生 医療等 製品)の定義について説明できる。			薬事法規・制度2			
2) 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。				薬事法規・制度3		
3)治験の意義と仕組みについて概説できる。				薬事法規・制度3		
4)医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。				薬事法規・制度3		
5)製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。				薬事法規・制度3		
6)薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。			薬事法規・制度 1 薬事法規・制度2			
7) 医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する 法律」の規定について説明できる。				薬事法規・制度3		
8) 日本薬局方の意義と構成について説明できる。				薬局方試験法		
9)生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。				薬事法規・制度3		
10)健康被害救済制度について説明できる。			医療倫理学	薬事法規・制度3		
11)レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。				薬事法規・制度3		
[③特別な管理を要する薬物等に係る法規範]						
1)麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。			薬事法規・制度 1 薬事法規・制度 2 薬物と健康			
2)覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。			薬事法規・制度2 薬物と健康			
3)毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。			薬事法規・制度2 薬物と健康			
5保障制						
	-	-		-	-	
1) 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。	薬学概論		薬事法規・制度2	医療福祉制度		
2)医療保険制度について説明できる。			薬事法規・制度2	医療福祉制度		
3)療養担当規則について説明できる。			薬事法規・制度2	医療福祉制度		
4) 公費負担医療制度について概説できる。			薬事法規・制度2	医療福祉制度		
5)介護保険制度について概説できる。			薬事法規・制度2	医療福祉制度		
6)薬価基準制度について概説できる。				医療福祉制度 薬事法規・制度3		
7)調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。			薬事法規・制度2	医療福祉制度		
【②医薬品と医療の経済性】						
1)医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。				薬事法規・制度3		
2) 国民医療費の動向について概説できる。	薬学概論			医療福祉制度 薬事法規・制度3		
3)後発医薬品とその役割について説明できる。			薬事法規・制度1	医療福祉制度 薬事法規・制度3		
4)薬物療法の経済評価手法について概説できる。				薬事法規・制度3		

			極	本		
平成25年度改訂版・乗字教育モデル・コアカリキュラム(SBOS)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(4) 地域における薬局と薬剤師						
【①地域における薬局の役割】						
1)地域における薬局の機能と業務について説明できる。	社会薬学1 早期体験学習		薬事法規・制度1 薬事法規・制度2			
2)医薬分業の意義と動向を説明できる。			薬事法規・制度1 薬事法規・制度2			
3)かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。			薬事法規・制度1 薬事法規・制度2			
4)セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。						
5)災害時の薬局の役割について説明できる。			薬事法規・制度2			
6)医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。			薬事法規・制度2			
[②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師]						
1) 地域包括ケアの理念について説明できる。			薬事法規・制度2			
2)在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。			薬事法規・制度2			
3)学校薬剤師の役割について説明できる。			薬事法規・制度2 衛生薬学実習			
4)地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。			薬事法規・制度2			
5)地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度)	早期体験学習		薬事法規・制度2			
C 薬学基礎						
(1 物質の物理的性質						
(1)物質の構造						
[①化学結合]						
1)化学結合の様式について説明できる。	教養化学 有機化学 1 基礎化学講座	薬品物理化学1				
2)分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。	教養化学 有機化学 1 基礎化学講座	薬品物理化学1				
3)共役や共鳴の概念を説明できる。	有機化学 1 基礎化学講座	薬品物理化学1				
[②分子間相互作用]						
1)ファンデルワールス力について説明できる。		薬品物理化学1				
2) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。		薬品物理化学1				
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。	基礎化学講座	薬品物理化学1				
4)分散力について例を挙げて説明できる。		薬品物理化学1				
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。		薬品物理化学1				
6)電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。		薬品物理化学1				
7)疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。		薬品物理化学1				
[③原子・分子の拳動]						
1)電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。		分光分析学薬品物理化学 1 数理条集器 2				

(*)ロッ)(ル・ヤニキタ)・三げ 川柳家健康・登場先歩か30部司		쨏	本		
十灰20年度攻乱隊・米子教育モナル・コノガリイコフム(SBOS)	1年 2年	3年	4年	5年	6年
2)分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。	分光分析学構造解析学 概显解析学 薬品物理化学1				
3) 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。	構造解析学 薬品物理化学1				
4)光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。	分光分析学 薬品物理化学1				
5)光の散乱および干渉について説明できる。	分光分析学 薬品物理化学1				
6)結晶構造と回折現象について概説できる。	薬品物理化学1				
[④放射線と放射能]					
1) 原子の構造と放射壊変について説明できる。	薬品物理化学1	臨床放射線科学			
2)電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。	薬品物理化学1	臨床放射線科学			
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。	薬品物理化学1	臨床放射線科学			
4) 核反応および放射平衡について説明できる。	薬品物理化学1	臨床放射線科学			
5)放射線測定の原理と利用について概説できる。	薬品物理化学1	臨床放射線科学			
(2)物質のエネルギーと平衡					
[①気体の微視的状態と巨視的状態]					
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	薬品物理化学2				
2)気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。	薬品物理化学2				
3)エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。	薬品物理化学2				
[@エネルギー]					
1)熱力学における系、外界、境界について説明できる。	薬品物理化学1				
2)熱力学第一法則を説明できる。	薬品物理化学1				
3) 状態関数と経路関数の違いを説明できる。	薬品物理化学1				
4)定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。	薬品物理化学1				
5)定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。	薬品物理化学1				
6)エンタルピーについて説明できる。	薬品物理化学1				
7) 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。	薬品物理化学1				
[③自発的な変化]					
1)エントロピーについて説明できる。	薬品物理化学1				
2)熱力学第二法則について説明できる。	薬品物理化学1				
3)熱力学第三法則について説明できる。	薬品物理化学1				
4)ギブズエネルギーについて説明できる。	薬品物理化学1				
5) 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。	薬品物理化学1				
[④化学平衡の原理]					
1)ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。	薬品物理化学1 薬品物理化学2				
2)ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。	薬品物理化学1				
3)平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。	薬品物理化学1				
4)共役反応の原理について説明できる。	薬品物理化学1				
	Ī				Ī

١.			数	本		
平成20年度40間版・条字教育セナル・コアカリキュラム(SBO8)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
[⑤相平衡]						
1)相変化に伴う熱の移動について説明できる。		物理薬剤学1 薬品物理化学2	物理薬剤学2			
2) 相平衡と相律について説明できる。		物理薬剤学1 薬品物理化学2	物理薬剤学2			
3)状態図について説明できる。		物理薬剤学1 薬品物理化学2	物理薬剤学2			
[⑥溶液の性質]						
1) 希薄溶液の束一的性質について説明できる。	教養化学	薬品物理化学2	物理薬剤学2			
2) 活量と活量係数について説明できる。		薬品物理化学2				
3) 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。		薬品物理化学2 物理系実習2				
4)イオン強度について説明できる。		薬品物理化学2				
[②電気化学]						
1) 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。		薬品物理化学2				
2) 電極電位(酸化還元電位)について説明できる。		薬品物理化学2				
(3)物質の変化						
[①反応速度]						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。		薬品物理化学2 物理系実習2				
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)		薬品物理化学2 物理系実習2				
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。		薬品物理化学2				
4)代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)		薬品物理化学2 物理系実習2				
5)代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。		薬品物理化学2				
6)反応速度と温度との関係を説明できる。		薬品物理化学2 物理系実習2				
7) 代表的な触媒反応 (酸・塩基触媒反応、酵素反応など) について説明できる。		薬品物理化学2				
62 化学物質の分析						
(1)分析の基礎						
【①分析の基本】			_			
1)分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)	分析化学 1	物埋糸実習 1 物理系実習2				
2)測定値を適切に取り扱うことができる。(知識・技能)	分析化学 1	薬品物理化学2 物理系実習1 物理系実習2				
3)分析法のバリデーションについて説明できる。	分析化学 1	分析化学2				
(2) 溶液中の化学平衡						
[①酸·塩基平衡]						
1)酸・塩基平衡の概念について説明できる。	教養化学 基礎化学講座	物理系実習 1				
2)pH および解離定数について説明できる。(知識・技能)	基礎化学講座	物理系実習1 物理系実習2				
3) 溶液の pH を測定できる。(技能)		物理系実習1				
4)緩衝作用や緩衝液について説明できる。	分析化学1	物理系実習1				

00//=-+=+			数	一一一	
+ N.23 牛氏収削版・条子教育セナル・コアカリキュフム(SBOS)	1年	2年	3年	4年 5年	6年
【②各種の化学平衡】					
1)錯体・キレート生成平衡について説明できる。	分析化学1			薬局方試験法	
2)沈殿平衡について説明できる。	分析化学1			薬局方試験法	
3)酸化還元平衡について説明できる。	教養化学			薬局方試験法	
4)分配平衡について説明できる。	分析化学1	物理系実習2		薬局方試験法	
(3) 化学物質の定性分析・定量分析					
[①定性分析]					
1)代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。				薬局方試験法	
2)日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。		化学系実習2		薬局方試験法	
【②定量分析(容量分析·重量分析)】					
1) 中和滴定(非水滴定を含む)の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学1	物理系実習1		薬局方試験法	
2) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学1	物理系実習1		薬局方試験法	
3) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学1	物理系実習1		薬局方試験法	
4)酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学1	物理系実習1		薬局方試験法	
5) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(知識・技能)		物理系実習1		薬局方試験法	
6) 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。	分析化学1			薬局方試験法	
7)日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。	分析化学1			薬局方試験法	
(4)機器を用いる分析法					
1)紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。		分光分析学 物理系実習2		薬局方試験法	
2) 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。		分光分析学		薬局方試験法	
3)赤外吸収(IR)スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		構造解析学 物理系実習2			
4) 原子吸光光度法、誘導結合プラズマ(10b) 発光分光分析法および 10b 質量分析法の原理および 応用例を説明できる。		分光分析学		薬局方試験法	
5)旋光度測定法(旋光分散)の原理および応用例を説明できる。		分光分析学		薬局方試験法	
6)分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。(技能)		分光分析学 物理系実習2		薬局方試験法	
[②核磁気共鳴 (NMR) スペクトル選定法]				-	
1)核磁気共鳴(NMR)スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		構造解析学			
[③黄量分析法]					
1)質量分析法の原理および応用例を説明できる。		構造解析学			
[④×線分析法]					
1) X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。		薬品物理化学1			
2) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。		薬品物理化学1	物理薬剤学2		
[⑤熱分析]					
1)熱重量測定法の原理を説明できる。		薬品物理化学1	物理薬剤学2		
2) 示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。		薬品物理化学1	物理薬剤学2		
(5)分權分析法					
[① クロマトグラフィー]					

			極	中		
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBO8)	1年	2年	3年		5年	6年
1)クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。		分析化学2 物理系実習2		薬局方試験法		
2)薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		分析化学2 化学系実習2		薬局方試験法		
3)液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		分析化学2 物理系実習2		薬局方試験法		
4)ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		分析化学2 物理系実習2		薬局方試験法		
5)クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能)		分析化学2 化学系実習1 化学系実習2 物理系実習2		薬局方試験法		
【②電気泳動法】						
1)電気泳動法の原理および応用例を説明できる。		分析化学2 生物系実習1		薬局方試験法		
(6) 臨床現場で用いる分析技術						
【①分析の準備】						
1)分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。		分析化学2		薬局方試験法		
2)臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。		分析化学2				
【②分析技術】						
1) 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。		分析化学2				
2)免疫化学的測定法の原理を説明できる。		分析化学2				
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。		分析化学2 生物系実習1				
4) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。		分析化学2				
5)代表的な画像診断技術(X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など)について概説 できる。			臨床放射線科学			
(3) 化学物質の性質と反応						
(1) 化学物質の基本的性質						
【①基本專項】						
1)代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。	教養化学 有機化学1 有機化学2 基礎化学講座	有機化学3 有機化学4				
2)薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。	教養化学 有機化学1 有機化学2	有機化学3 有機化学4				
3) 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。	有機化学1 基礎化学講座					
4)有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。	有機化学1 基礎化学講座	有機化学4				
5)ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。	教養化学 有機化学1 基礎化学講座					
6)基本的な有機反応(置換、付加、脫離)の特徴を理解し、分類できる。	有機化学2	有機化学4				
7)炭素原子を含む反応中間体(カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル)の構造と性質を 説明できる。	有機化学2					
8)反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。	有機化学2					

			類	本		
十英20年英央副隊・朱子教育セナル・コイカリイユフム(SBOS)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
9)基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)	有機化学2	化学系実習2 有機化学3 有機化学4				
[②有機化合物の立体構造]						
1)構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。	教養化学 有機化学1 基礎化学講座					
2)キラリティーと光学活性の関係を概説できる。	有機化学1 基礎化学講座					
3)エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	有機化学1 基礎化学講座					
4)ラセミ体とメソ体について説明できる。	有機化学1 基礎化学講座					
5)絶対配置の表示法を説明し、キラル化合物の構造を書くことができる。(知識、技能)	有機化学1 基礎化学講座					
6)炭素—炭素二重結合の立体異性 (cis. trans ならびに E.Z 異性) について説明できる。	教養化学 有機化学2 基礎化学講座					
7) フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)	有機化学1 基礎化学講座					
8) エタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。	有機化学1					
(2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応						
[①アルカン]						
1)アルカンの基本的な性質について説明できる。	教養化学 有機化学1					
2)アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能)	教養化学 有機化学1 基礎化学講座					
3)シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。	有機化学1	化学系実習2				
4)シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向(アキシアル、エクアトリアル)を図示できる。(技能)	有機化学1	化学系実習2				
5)置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	有機化学1	化学系実習2				
[②アルケン・アルキン]		_				
1) アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。	教養化学 有機化学2					
2) アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機化学2					
3) アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。	教養化学 有機化学2					
[③芳香族化合物]						
1)代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。	教養化学 有機化学2					
2)芳香族性の概念を説明できる。	有機化学2					
3)芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。	教養化学 有機化学2					
4)代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。		有機化学4				
		有機化学4				
(3) 官能基の性質と反応 「余報記】						
720 16-01						

			丁	本回		
平成25年度収別版・条字教育七テル・コアカリキュラム(SBOS)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1)代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。	教養化学 有機化学1 有機化学2	有機化学3				
2)官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)	教養化学	化学系実習1 化学系実習2 有機化学4				
【②有機にロゲンた合物】						
1) 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学2					
2) 末核置換反応の特徴について説明できる。	有機化学2					
3) 脱離反応の特徴について説明できる。	有機化学2					
[①アルコーノェケ・エーテル]						
1)アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	教養化学	有機化学3				
2) エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	教養化学	有機化学3				
【④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】						
1)アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	教養化学	有機化学3				
2)カルボン酸の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。	教養化学	有機化学3				
3)カルボン酸誘導体(酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド)の基本的性質と反応を 列挙し、説明できる。	教養化学	有機化学3 有機化学4				
[⑤アミン]						
1)アミン類の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。	教養化学	有機化学3 有機化学4				
[⑥電子効果]						
1)官能基が及ぼす電子効果について概説できる。	有機化学2	有機化学3 有機化学4				
【⑦酸性度·塩基性度】						
1)アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。	有機化学1	有機化学3 有機化学4				
2) 含窒素化合物の塩基性度を比較して説明できる。	有機化学1	有機化学4				
(4) 化学物質の構造決定						
【①核磁気共鳴(NIIR)】				_	_	_
1) ¹ H および ¹³ C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。		構造解析学				
2) 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。		構造解析学				
3)「H NINR の積分値の意味を説明できる。		構造解析学				
4)「H NIIR シグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する基本的な分裂様式を説明できる。		構造解析学				
5)代表的な化合物の部分構造を「H NMR から決定できる。(技能)		構造解析学				
[②赤外吸収 (IR)]						
1)IR スペクトルより得られる情報を概説できる。		構造解析学				
2) IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)		物理系実習2				
[③質量分析]						
1) マススペクトルより得られる情報を概説できる。		構造解析学				
定化合物に適したイオン化		構造解析学				
3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明できる。		構造解析学				

			数	幸 田		
平成25年度改訂版・楽字教育モテル・コアカリキュラム(SBOs)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4)代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)		構造解析学				
[(4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4)						
1) 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能)		構造解析学				
(5) 無機化合物・錯体の構造と性質						
[①無機化合物・錯体]						
1) 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。	教養化学		医薬品化学1			
2)代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。	教養化学		医薬品化学1			
3)活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。			医薬品化学1			
4)代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。			医薬品化学1			
5) 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。			医薬品化学1			
は 生体分子・医薬品の化学による理解						
(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質						
[①医薬品の標的となる生体高分子の化学構造]						
1) 代表的な生体高分子を構成する小分子(アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど)の構造に基づく化学的性質を説明できる。			医薬品化学1 分子生物学1 天然物化学			
2) 医薬品の標的となる生体高分子 (タンパク質、核酸など)の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。			医薬品化学1 分子生物学1			
【②生体内で機能する小分子】						
1) 細胞膜受容体および細胞内(核内)受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。			医薬品化学1			
2) 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。			医薬品化学1			
3)活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。			医薬品化学1			
4)生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。			医薬品化学1			
(2)生体反応の化学による理解						
1)リン化合物(リン酸誘導体など)および硫黄化合物(チオール、ジスルフィド、チオエステルなど)の構造と化学的性質を説明できる。			医薬品化学1			
2)リン化合物(リン酸誘導体など)および硫黄化合物(チオール、ジスルフィド、チオエステルなど)の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。			医薬品化学1			
【②酵素阻害剤と作用様式】						
1) 不可逆的酵素阻害薬の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。	生化学1		医薬品化学2			
2) 基質アナログが競合阻害薬となることを辞素の反応機構に基づいて説明できる。	生化学1		医薬品化学2			
3)遷移状態アナログが競合阻害薬となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。			医薬品化学2			
[③受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト]						
1)代表的な受容体のアゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬) との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。			医薬品化学2			
2) 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。			医薬品化学2			
[④生体内で起こる有機反応]						
1)代表的な生体分子(脂肪酸、コレステロールなど)の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。		生化学2	医薬品化学1 天然物化学			
2) 異物代謝の反応(発がん性物質の代謝的活性化など)を有機化学の観点から説明できる。			医薬品化学1			

			数	1		
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOS)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 医薬品の化学構造と性質、作用						
【①医薬品と生体分子の相互作用】						
1)医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点(結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、 立体効果など)から説明できる。			医薬品化学1			
【②医薬品の化学構造に基づく性質】						
1)医薬品の構造からその物理化学的性質(酸性、塩基性、疎水性、親水性など)を説明できる。			医薬品化学1			
2) プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。			医薬品化学1			
【③医薬品のコンポーネント】						
1)代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。			医薬品化学1			
2) バイオアイソスター(生物学的等価体)について、代表的な例を挙げて概説できる。			医薬品化学1			
3) 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質 を説明できる。			医薬品化学1			
【④酵素に作用する医薬品の構造と性質】						
1) ヌクレオンドおよび核酸塩基アナログを有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品化学2			
2)フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく 性質について説明できる。			医薬品化学2			
3) スルホンアミド構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品化学2			
4) キノロン骨格をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品化学2			
5)β-ラクタム構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品化学2 天然物化学			
5)ペプチドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品化学2			
[⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質]						
1)カテコールアミン骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品化学2			
2)アセチルコリンアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品化学2			
3) ステロイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品化学2			
4) ベンゾジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に 基づく性質について説明できる。			医薬品化学2			
5) オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品化学2			
【⑥DNA に作用する医薬品の構造と性質】						
1) DNAと結合する医薬品(アルキル化剤、シスプラチン類)を列挙し、それらの化学構造と反応機構を 説明できる。			医薬品化学2			
2) DNAIこインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。			医薬品化学2			
3) DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。			医薬品化学2			
【①イオンチャネルに作用する医薬品の構造と性質】						
1) イオンチャネルに作用する医薬品の代表的な基本構造(ジヒドロピリジンなど)の特徴を説明できる。			医薬品化学2			
C5 自然が生み出す薬物						
(1)薬になる動植鉱物						
[①薬用植物]						
1) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げることができる。	薬用植物学	生薬学				
2) 代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。(知識、技能)	薬用植物学	化学系実習1				
3)植物の主な内部形態について説明できる。	薬用植物学					

			数	本		
平成25年度改訂版・薬字教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4)法律によって取り扱いが規制されている植物(ケシ、アサ)の特徴を説明できる。	薬用植物学					
【②生薬の基原】						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類由来)を列挙し、その基原、薬用部位を 説明できる。	薬用植物学	上薬学				
[③生薬の用途]						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを 説明できる。	薬用植物学	生薬学				
2)副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。		生薬学				
【④生薬の同定と品質評価】						
1)生薬の同定と品質評価法について概説できる。		生薬学				
2) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。		生薬学				
3)代表的な生薬を鑑別できる。(技能)		化学系実習1				
4)代表的な生薬の確認試験を説明できる。		生薬学				
5)代表的な生薬の純度試験を説明できる。		生薬学				
(2)薬の宝庫としての天然物						
[①生薬由来の生物活性物質の構造と作用]						
1) 生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの生合成経路を概説できる。		生薬学	天然物化学			
2) 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。		生薬学	天然物化学			
りゅうきる		生薬学	天然物化学			
4) テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を 説明できる。		生薬学	天然物化学			
5)アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。		生薬学	天然物化学			
【②微生物由来の生物活性物質の構造と作用】						
1) 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。			微生物薬品学			
2) 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。		微生物学				
[③天然生物活性物質の取扱い]						
1)天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識、技能)		化学系実習1 生薬学	天然物化学			
【④天然生物活性物質の利用】						
1) 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。		生薬学	天然物化学			
2) 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード 化合物を説明できる。		生薬学	天然物化学			
3)農薬や香粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。			天然物化学			
C6 生命現象の基礎						
(1) 細胞の構造と機能						
1) 細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。	教養生物学 細胞生物学	生化学2	天然物化学			
2) エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。	細胞生物学	生化学2				
1)雒髄小器官(核、ミトコンドリア、小餡体、リンソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)やリボソームの構造と機能を説明できる。	教養生物学 細胞生物学					

			凝	本		
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOS)	1年	2年			5年	6年
[②葡胞毒体]						
1)細胞骨格の構造と機能を説明できる。	教養生物学 細胞生物学	生化学3				
(2)生命現象を担う分子						
		-			-	
1) 代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。	教養生物学	生化学2	天然物化学			
1)代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	教養生物学 生化学1		天然物化学			
2)代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	教養生物学 生化学1		天然物化学			
[③アミノ酸]						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	教養生物学 生化学1		天然物化学			
[個タンパク質]						
1)タンパク質の構造(一次、二次、三次、四次構造)と性質を説明できる。	教養生物学 細胞生物学 生化学 I					
[⑤ヌクレオチドと核酸]						
1)ヌクレオチドと核酸(DNA、RNA)の種類、構造、性質を説明できる。	維胎生物学 生化学 I		分子生物学1			
[⑥ビタミン]						
1) 代表的なピタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。	生化学1		天然物化学			
[①微量元素]						
1) 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。	生化学1					
【⑧生体分子の定性、定量】						
1) 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。(技能)		生物系実習1				
(3) 生命活動を担うタンパク質						
【①タンパク質の構造と機能】						
1)多彩な機能をもつタンパク質(酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、 貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質)を列挙し 概説できる。	細胞生物学 生化学 I					
【②タンパク質の成熟と分解】						
1)タンパク質の翻訳後の成熟過程(細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾)について説明できる。	細胞生物学 生化学 I		分子生物学1			
2)タンパク質の細胞内での分解について説明できる。	細胞生物学 生化学 I					
[③酵素]						
1)酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。	教養生物学 生化学1	生物系実習1				
2)酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	生化学1					
3) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。	生化学1					
4) 酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能)		生物系実習1				
[④酵素以外のタンパク質]						
1)膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。		生化学2				

			数	本		
干放20年度収削版・乗手教育セナル・コアカリキュラム(SBOS)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2)血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。		生化学2				
1)遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。	教養生物 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個 一個		分子生物学1 分子生物学2			
2) DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。	教養生物学		分子生物学1 分子生物学2			
[②遗伝情報を担う分子]						
1)染色体の構造(ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど)を説明できる。			分子生物学1 分子生物学2			
2) 遺伝子の構造(プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど)を説明できる。			分子生物学1 分子生物学2			
3) RNA の種類(hnRNA、mRNA、rRNA、tRNA など)と機能について説明できる。			分子生物学1 分子生物学2			
【③遺伝子の複製】		-				
1)DNA の複製の過程について説明できる。	教養生物学 細胞生物学		分子生物学1			
[④転写・翻訳の過程と訓節]		-				
1)DNA から RNA への転写の過程について説明できる。	教養生物学維節生物		分子生物学1			
2) エピジェネティックな転写制御について説明できる。			分子生物学1			
3) 転写因子による転写制御について説明できる。	維胎生物 学		分子生物学1			
4)RNA のプロセシング(キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など)について説明できる。			分子生物学1			
5)RNA からタンパク質への翻訳の過程について説明できる。	教養生物学		分子生物学1			
[⑤遺伝子の変異・修復]						
1)DNA の変異と修復について説明できる。			分子生物学1			
[⑥相換之 DNA]						
1)遺伝子工学技術(遺伝子クローニング、cDNA クローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など) を概説できる。			分子生物学2			
2) 遺伝子改変生物 (遺伝子導入·欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物) について概説できる。			分子生物学2			
(5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系						
1)エネルギー代謝の概要を説明できる。	教養生物学	生化学2				
【②ATP の産生と糖質代謝】		_				
1) 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。		生化学2				
2)クエン酸回路(TCA サイクル)について説明できる。		生化学2				
3)電子伝達系(酸化的リン酸化)と ATP 合成酵素について説明できる。		生化学2				
4) グリコーゲンの代謝について説明できる。		生化学2				
5)糖新生について説明できる。		生化学2				
1)脂肪酸の生合成と β酸化について説明できる。		生化学2	天然物化学			
2) コレステロールの生合成と代謝について説明できる。		生化学2	天然物化学			
[④飢餓状態と飽食状態]						

			極	本		
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)	1年	2年		:	5年	6年
1) 飢餓状態のエネルギー代謝 (ケトン体の利用など) について説明できる。		生化学2				
2) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。		生化学2				
[⑤その他の代謝系]						
1)アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝(尿素回路など)について説明できる。		生化学3				
2) ヌクレオチドの生合成と分解について説明できる。		生化学3	分子生物学1			
3) ペントースリン酸回路について説明できる。		生化学2				
(6) 細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達						
1)細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。	細胞生物学	生化学3	分子生物学2			
[②細胞内情報伝递]						
1)細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	細胞生物学	生化学3	分子生物学2			
2)細胞膜受容体から 6 タンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。	細胞生物学	生化学3	分子生物学2			
3)細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。	細胞生物学	生化学3	分子生物学2			
4)細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。	細胞生物学	生化学3	分子生物学2			
5)細胞内(核内)受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	細胞生物学	生化学3	分子生物学2			
[③細胞間コミュニケーション]						
1)細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	細胞生物学					
2)主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。	細胞生物学					
(7) 細胞の分裂と死						
[①細胞分裂]						
1)細胞周期とその制御機構について説明できる。	教養生物学 細胞生物学		分子生物学2			
2)体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。	教養生物学 細胞生物学		分子生物学1			
【②細胞死】						
1)細胞死(アポトーシスとネクローシス)について説明できる。	細胞生物学		分子生物学2			
[③がん細胞]						
1)正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。	維的生物学 機能形態学1		分子生物学2			
2) がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。	細胞生物学		分子生物学2			
67 人体の成り立ちと生体機能の調節						
(1) 人体の成り立ち						
1) 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。	教養生物学		分子生物学1			
2)遺伝子多型について概説できる。			分子生物学2			
3) 代表的な遺伝疾患を概説できる。			分子生物学2			
[②発生]						
1)個体発生について概説できる。	教養生物学					
2)細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。	教養生物学					
[③器官系統論]						

			城	中		
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)	中 —	2年			5年	6年
1)人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	機能形態学1	機能形態学3 生物系実習1				
2)組織、器官を構成する代表的な細胞の種類(上皮、内皮、間葉系など)を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。	機能形態学1 機能形態学2	機能形態学3 生物系実習1				
3)実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。(技能)		生物系実習1		フィジカルアセスメ ント実習		
4)代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。(技能)		生物系実習1				
[④神経系]						
1) 中枢神経系について概説できる。	教養生物学 機能形態学2					
2)末梢(体性・自律)神経系について概説できる。	教養生物学 機能形態学2					
【⑤骨格系·筋肉系】						
1) 骨、筋肉について概説できる。	機能形態学1					
2) 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	機能形態学1					
[⑥皮膚]						
1)皮膚について概説できる。	機能形態学1					
[①循環器系]						
1)心臓について概説できる。		機能形態学3	フィジカルアセスメント			
2)血管系について概説できる。		機能形態学3	フィジカルアセスメント			
3)リンパ管系について概説できる。		機能形態学3				
[@呼吸器系]						
1)肺、気管支について概説できる。		機能形態学3	フィジカルアセスメ ント			
[⑤消化器系]						
1)胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。		機能形態学3	フィジカルアセスメント	臨床薬理学2		
2)肝臓、膵臓、胆囊について概説できる。		機能形態学3		臨床薬理学2		
[⑩泌尿器系]					-	
1) 泌尿器系について概説できる。		機能形態学3		臨床薬理学2		
[①生殖器系]						
1) 生殖器系について概説できる。		機能形態学3				
[①内分泌系]						
1) 内分泌系について概説できる。	教養生物学	機能形態学3				
[①感覚器系]						
1)感覚器系について概説できる。	機能形態学2					
[(D)血液·造血器系]						
	機能形態学2					
(2) 生体機能の調節						
[①神経による関節機構]						

			数	本		
半成25年度収別隊・乗子教育七ナル・コアカリキュフム(SBO8)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。	教養生物学 機能形態学2					
2)代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		薬理学1				
3)神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。	教養生物学 機能形態学2					
4)神経による筋収縮の調節機構について説明できる。	機能形態学1					
【②木ルモン・内分泌系による関節機構】						
1)代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。	教養生物学	生化学2 機能形態学3				
[③オータコイドによる調節機構]						
1) 代表的なオータコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		薬理学1	薬理学4			
【④サイトカイン・増殖因子による調節機構】						
1)代表的なサイトカイン、增殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		薬理学1 免疫学	薬理学4			
[⑤山圧の調節機構]						
1)血圧の調節機構について概説できる。	教養生物学	生化学3 機能形態学3	フィジカルアセスメント			
[⑥血糖の調節機構]						
1)血糖の調節機構について概説できる。	教養生物学	生化学2 機能形態学3				
1)体液の調節機構について概説できる。	教養生物学	生化学3				
2)尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。		生化学3 機能形態学3				
[⑧体温の調節]						
1)体温の調節機構について概説できる。		薬理学1				
[③血液凝固・線溶系]						
1) 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。	機能形態学2					
【⑥性周期の調節】						
1) 性周期の調節機構について概説できる。		機能形態学3				
C8 生体防御と微生物						
(1) 身体をまもる						
[① 生体防御反応]						
1) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。	教養生物学	免疫学				
2) 免疫反応の特徴(自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容)を説明できる。	教養生物学	免疫学				
3)自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。	教養生物学	免疫学				
4) 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。	教養生物学	免疫学				
【②免疫を担当する組織・細胞】						
1) 免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。		免疫学				
2)免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。		免疫学				
3) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。		免疫学				
[③分子レベルで見た免疫のしくみ]						

			鞭	車		
平成25年度収引版・条字教育モナル・コアカリキュラム(SBO8)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1)自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。		免疫学				
2)INIC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。		免疫学				
3)】細胞と B 細胞による抗原認識の多様性(遺伝子再構成)と活性化について説明できる。		免疫学				
4)抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。		免疫学				
5)免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。		免疫学				
(2) 免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用						
[① 免疫応答の制御と破綻]						
1) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。		免疫学				
2) アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。		免疫学				
3) 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。		免疫学				
4)臓器移植と免疫反応の関わり(拒絶反応、免疫抑制剤など)について説明できる。		免疫学				
5) 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。		免疫学				
6)腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。		免疫学				
[② 免疫反応の利用]						
1) ワクチンの原理と種類(生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチンなど)について 説明できる。		免疫学				
2)モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。		免疫学				
3)血清療法と抗体医薬について概説できる。		免疫学				
4)抗原抗体反応を利用した検査方法(ELISA 法、ウエスタンプロット法など)を実施できる。(技能)		生物系実習2 免疫学				
(3) 微生物の基本						
1)原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。	教養生物学	微生物学				
1)細菌の分類や性質(系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など)を説明できる。	教養生物学	微生物学				
2)細菌の構造と増殖機構について説明できる。		微生物学				
3)細菌の異化作用(呼吸と発酵)および同化作用について説明できる。		微生物学				
4)細菌の遺伝子伝達(接合、形質導入、形質転換)について説明できる。		微生物学				
5)薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。		微生物学				
6) 代表的な細菌毒素について説明できる。		微生物学				
[③ ウイルス]						
1)ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。	教養生物学	微生物学				
[④ 真菌・原虫・蠕虫]						
1)真菌の性状を概説できる。		微生物学				
2)原虫および蠕虫の性状を概説できる。		微生物学				
[⑤ 消毒と減期]						
1)滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。		微生物学 生物系実習2				
2)主な滅菌法および消毒法について説明できる。		微生物学 生物系実習2				
	_					

			海	四菜		
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)	1年	2年			5年	6年
[⑤ 検出方法]						
1) グラム染色を実施できる。(技能)		生物系実習2				
2)無菌操作を実施できる。(技能)		生物系実習2				
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)		生物系実習2				
(4) 病原体としての微生物						
[①感染の成立と共生]						
1) 感染の成立(感染源、感染経路、侵入門戸など)と共生(腸内細菌など)について説明できる。	教養生物学	微生物学				
2) 日和見感染と院内感染について説明できる。		微生物学				
[②代表的な病原体]						
1)DNA ウイルス(ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B 型肝炎ウイルス など)について概説できる。		微生物学				
2)RNA ウイルス(ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、 A型肝炎ウイルス、G 型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HILV など)について概説できる。		彼生物 学				
3) グラム陽性球菌(ブドウ球菌、レンサ球菌など)およびグラム陽性桿菌(破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリスス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、ディフィシル菌など)について概説できる。		微生物学				
4) グラム陰性球菌(淋菌、髄膜炎菌など)およびグラム陰性桿菌(大陽菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チンス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など)について概説できる。		微生物学				
5) グラム陰性らせん菌(ヘリコパクター・ピロリ、カンピロパクター・ジェジュニ/コリなど)および スピロヘータについて概説できる。		微生物学				
6) 抗酸菌 (結核菌、らい菌など) について概説できる。		微生物学				
7)マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。		微生物学				
真菌(アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白癬菌など)について概説		微生物学				
9)原虫(マラリア原虫、トキソプラズマ、膣トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど)、蠕虫(回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど)について概説できる。		微生物学				
D 衛生薬学						
01 倉頭						
(1)社会·集団と健康						
1)健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。			公衆衛生学			
1)集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。			公衆衛生学			
2)人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。			公衆衛生学			
3) 人口動態(死因別死亡率など)の変遷について説明できる。		,	公衆衛生学			
[③疫学]						
1)疾病の予防における疫学の役割を説明できる。		,	公衆衛生学			
2)疫学の三要因(病因、環境要因、宿主要因)について説明できる。			公衆衛生学			
		,	公衆衛生学			
4)リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。 (知識・技能)		,	公衆衛生学			
(2)疾病の予防						

			有			
一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。 (42) について概認できる。 日和見版表、解内感染 解療途底 再與感染症など)の特徴について説明できる。 (42) について説明できる。 は発生とその分類について説明できる。 (8度) (1-1) に配別できる。 (8度) (1-1) に説明できる。 (8度) (2-1) に関明できる。 (8度) (2-1) に関明できる。 (8度) (2-1) に説明できる。 (8度) (2-1) に説明できる。 (8度) (2-2) に関明できる。 (4度) (2-2) に関明できる。 (4度) (2-2) に関係できる。 (4度) (2-2) に従期できる。 (4度) (2-2) に従期できる。 (4度) (2-2) に従期情報について説明できる。 (4度) (2-2) に従期にきる。 (4度) (2-2) に従期になる。 (4度) (2-2) に従期情報について説明できる。 (4度) <t< th=""><th></th><th></th><th>§</th><th>4年</th><th>華</th><th>6年</th></t<>			§	4年	華	6年
- 次、二次、三次予防という需要を用いて説明できる。 本2 1 など)について能形できる。 特し、その予防が振っつて説明できる。	[①疾病の予防とは]					
(40年16年) について施設できる。	疾病の予防について、一次、二次、		公衆衛生学			
日和児島県、原内感染・原見破発症、再見感染症など)の特徴について説明できる。 等位とその分類について説明できる。 等し、その手が対策について説明できる。 が動向について説明できる。 が動向について説明できる。 が動向について説明できる。 が動向について説明できる。 が表表を表面について説明できる。 (表現を病の別わりについて説明できる。 (表現を病について説明できる。 (表現を病について説明できる。 (表現を病について説明できる。 (表現を病について説明できる。 (表現を病について説明できる。 (表現を病について説明できる。 (表現を病について説明できる。 (表面を表明のできる。 (本質の意理を説明できる。 (本質のな問題を説明できる。 (本質のな問題を表明のできる。 (本質のな問題を表明のできる。 (本質の変更性を説明できる。 (本質の変更性を説明できる。 (本質の変更性を説明できる。 (本質の変更性を説明できる。 (本質の変更性を説明できる。 (本質の変更性を説明できる。 (本質の変更性を説明できる。 (本の変更性を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を記述を	健康増進政策(健康日本21など)について概説でき		公衆衛生学			
(日和男感染、酸内感染、新胞染症、再限感染症など)の特徴について説明できる。 (実施とその予節対策について説明できる。 (またしその予節対策について説明できる。 (またしての予節対策について説明できる。 (またして説明できる。 (またいて説明できる。 (ないまし、その予節対策について説明できる。 (ないまし、その予節対策について説明できる。 (ないまし、その予節対策について説明できる。 (ないまし、といまに機様を説明できる。 (ないまし、その予節対策について説明できる。 (ないまし、その予節対策について説明できる。 (ないまし、その生成機様を発展できる。(知識・技能) (ないまし、その生成機様を発展できる。 (ないまし、その生成機様を発明できる。 (ないまし、それたの働きを説明できる。 (ないまし、とれたの働きを説明できる。 (ないまし、とれていまし、これには、とれていまし、これには、とれていまし、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには	【②感染症とその予防】					
(明でき		公衆衛生学			
等し、その予防対策について説明できる。 について説明できる。 について説明できる。 ・・リスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			公衆衛生学			
(について説明できる。 (の動向について説明できる。 (の動向について説明できる。 (部度) (活習慣と疾病の関わりについて説明できる。 (部度) (大力変固を列挙し、その予防が振について説明できる。 (実施を列撃し、その予防対策について説明できる。 (実施を列撃し、その予防対策について説明できる。 (実施を列撃し、その予防対策について説明できる。 (実施を列撃し、その手防対策について説明できる。 (表は疾病について説明できる。 (表は疾病について説明できる。 (知識・技能・ (なら物機構、対能が動質できる。 (知識・技能) (なら物機構について説明できる。 (知識・技能) (ならの機構について説明できる。 (知識・技能) (ならか機構について説明できる。 (知識・技能) (ならか機構について説明できる。 (知識・技能) (ならか機構について説明できる。 (知識・技能) (ならか機構について説明できる。 (知識・技能) (ならか機構について説明できる。 (知識・技能) (ならか) (ならか) (ならか) (ならい) (代表的な性感染症を列挙し、		公衆衛生学			
(3) 関係していて説明できる。 (態度) (3) (2) グラ意義について説明できる。 (態度) (3) (2) グラ意義について説明できる。 (態度) (素患を列撃し、その予防対策について説明できる。 食品衛生学 (素患を列撃し、その予防対策について説明できる。 食品衛生学 (表現を別していて説明できる。 食品衛生学 (本 所の方して大説明できる。 食品衛生学 (本 財助できる。 食品衛生学 (本 財助できる。 食品衛生学 (本 財助できる。 食品衛生学 (本 財助できる。 食品衛生学 (2) (全 物機権、抗酸化物質など)の機能について説明できる。 食品衛生学 (2) (全 物機権、抗酸化物質など)の機能について説明できる。 食品衛生学 (2) (全 物機権と説明できる。 食品衛生学 (2) (全 が 上 地域機構を説明できる。 食品衛生学 (2) (全 が 上 本			公衆衛生学			
レその動向について説明できる。 (的なリスク要因を利挙し、その予防法について説明できる。 (の生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。 ーニングの意義について説明できる。 (的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。 (的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。 (的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。 (的な疾患を列撃し、その予防対策について説明できる。 (のい、代謝のプロセスを概以できる。 (のい、代謝のプロセスを概以できる。 (のい、代謝のプロセスを概以できる。 (のい、代謝のプロセスを概以できる。 (のい、代謝のプロセスを概以できる。 (のい、代謝のプロセスを概以できる。 (な品格生学 (別わる基礎代謝重、呼吸剤、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。 (食品精生学 (発養の重要性を説明できる。 (知る主義の明できる。 (知識・技能) (対抗性物質を列撃し、説明できる。 (食品精生学 (対抗性物質を列撃し、活脂の変質試験を実施できる。 (対域・技能) (対抗性物質を列撃し、ため丘成機構を説明できる。 (対域・技能) (対抗性物質を列撃し、ため丘成機構を説明できる。 (食品精生学 (がん性物質を列撃し、ためらの働きを説明できる。 (独称主学 (がん性物質を列撃し、そんらの働きを説明できる。 (独称主学 (がん性物質を別りできる。 (独称主学 (がん性物質を別りできる。 (独称主学 (がん性物質を別について説明できる。 (独称主学 (がん性物質を別について説明できる。 (知識・技能) (対して説明できる。 (知識・技能) (対して説明できる。 (知識・技能) (対した説明できる。 (知識・技能) (対した説明できる。 (知識・技能) (対した説明できる。 (知識・表記・ないこと、記述・表記・ないこと、記述・生物できる。 (知識・表記・ないこと、記述・生物できる。 (知識・表記・ないこと、記述・生物できる。 (知識・表記・ないこと、記述・生物できる。 (知識・表記・ないこと、記述・生物できる。 (知識・表記・ないこと、記述・生物できる。 (知識・表記・ないこと、記述・生物で記述・生物で言述・生物を言述・生物で言述・生物で言述・生物で言述・生物で言述・生物で言述・生物で言述・生物で言述・生物で言述・生物で言述・生物で言述・生物で言述・生物で言述・生物で言述・生物で言述・生物で言述・生物を言述・生物で言述・生物に言述・生物で言述をいまれるい言述・生物で言述をいまれるいまれるい言述をいまれるいまれるいまれるいまれるいまれるいまれるいまれるいまれるいまれるいまれる	[③生活習慣病とその予防]					
(4)なりえク更因を列挙し、その予防法について説明できる。 (5)の生活習慣と疾病の関わりについて討論する。(態度) ニングの意義について説明できる。 (5)のな疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。 (5)のな疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。 (5)のな疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。 (5)のな疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。 (5)のな疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。 (5)のな疾患のな価値を説明できる。 (5)のな疾患のな価値を説明できる。 (5)のな疾患のな価値を説明できる。 (5)のな疾患のな価値を説明できる。 (5)のな変質に関係を表し、の機能について説明できる。 (5)のな変質を説明できる。 (5)のな変質にないて説明できる。 (5)のな変質にないて説明できる。 (5)のな変質にないて説明できる。 (5)のな変質にないて説明できる。 (5)のな変質にないて説明できる。 (5)のな変質にないて説明できる。 (5)のな変質にないて説明できる。 (5)のな変質によっていて説明できる。 (5)のな変質によっていていてきる。 (5)のな変質によっていていていてきる。 (5)のな変質によっていて説明できる。 (5)のな変質によっていて説明できる。 (5)のな変質によっていて説明できる。 (5)のな変質によっていて説明できる。 (5)のな変質によっていて説明できる。 (5)のな変質によっていていてきる。 (5)のな変質によっていていてきる。 (5)のな変質によっていていてきる。 (5)のな変質によっていていてきる。 (5)のな変質によっていていてきる。 (5)のな変質によっていていてきる。 (5)のな変質によっていていてきる。 (5)のなどによっていていてきる。 (5)のなどによっていていてきる。 (5)のなどによっていていてきる。 (5)のなどによっていていてきる。 (5)のなどによっていていてきる。 (5)のなどによっていていてきる。 (5)のなどによっていていていてきる。 (5)のなどによっているでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ない	1)生活習慣病の種類とその動向について説明できる。		公衆衛生学			
(事度度) (事度度) (一ニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。 自動な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。 (・ それぞれの役割について説明できる。 食品衛生学園・大和ぞれの役割について説明できる。 (・ たれぞれの役割について説明できる。 食品衛生学園・大和で大力の役割について説明できる。 (・ たれぞれの役割について説明できる。 食品衛生学園・大和で大力の役割について説明できる。 (・ たれぞれの役割について説明できる。 食品衛生学園・大和企業の大力を概認できる。 (・ たれぞれの役割について説明できる。 食品衛生学園・大力を構造について説明できる。 (本養の主要性を説明できる。 食品衛生学園・大力な、大力な、大力な、大力な、大力な、大力な、大力な、大力な、大力な、大力な、	生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、		公衆衛生学			
ングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。 (的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。 (、職業性疾病について説明できる。 ()、それぞれの役割について説明できる。 ()、それぞれの役割について説明できる。 ()、それぞれの役割について説明できる。 ()、それぞれの役割について説明できる。 ()、代酬のプロセスを概説できる。 ()、代酬のプロセスを概説できる。 ()、代酬のプロセスを概説できる。 ()、代酬のプロセスを概説できる。 ()、代酬のプロセスを概説できる。 ()、名の本に、 ()、 () () () () () () () () () () () () ()			公衆衛生学			
- ニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。 (的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。 (職業性疾病について説明できる。 ([① 由于保障]					
(おの女態を列挙し、その予防対策について説明できる。 (*)、 (**********************************	代表的な検査項目を列挙でき		公衆衛生学			
、職業性疾病について説明できる。	母子感染する代表的な疾患を列挙し、		公衆衛生学			
 ・、それぞれの役割について説明できる。 ・し、それぞれの役割について説明できる。 ・し、それぞれの役割について説明できる。 ・こ、それぞれの役割について説明できる。 ・素の米養的な価値を説明できる。 ・素の米養的な価値を説明できる。 ・素の米養的な価値を説明できる。 ・素の米養的な価値を説明できる。 ・素の米養的な価値を説明できる。 ・素の米養的な価値を説明できる。 ・また水質を開発について説明できる。 ・よる主な疾病を列挙し、説明できる。 ・よる主な疾病を列挙し、説明できる。 ・なまな疾病を列挙し、説明できる。 ・なまな疾病を列挙し、説明できる。 ・なまな疾病を列挙し、説明できる。 ・なまな疾病を列挙し、受しの働きを説明できる。 ・ならまな疾病を対域と説明できる。 ・ならは成様神を説明できる。 ・ならは成様神を説明できる。 ・はかな用を用きる。 ・ないて説明できる。 ・はのがん性物質を測定していて説明できる。 ・は他様にないては別のできる。 ・は他様にな品について説明できる。 ・はの規則に可ずる。 ・はの規則について説明できる。 ・はの規則について説明できる。 ・はの規様にな品について説明できる。 ・はの規様にな品について説明できる。 ・はの様にはな品について説明できる。 ・はの規範にな品について説明できる。 ・はの規則について説明できる。 ・はの規則について説明できる。 ・はの規則について説明できる。 ・はのはないできる。 ・はのはないできる。 ・はのはないではいできる。 ・はのはないできる。 ・はのはないできる。 ・はのはないできる。 ・はのはないできる。 ・はのはないできる。 ・はのはないできる。 ・はのはないにはいできる。 ・はのはないできる。 ・はのはないできる。 ・はのはないできる。 ・はのはないできる。 ・はのはないできる。 ・はのはないできる。 ・はのはないできる。 ・はのはないできる。 ・はのはないできる。 ・はいないできる。 ・はいないではいないできる。 ・ないでいないできる。 ・ないではいないできる。 ・ないでいないできる。 ・ないでいないではないではないではないではないではないではないではないではないでは	[⑤労働衛生]					
	1)代表的な労働災害、職業性疾病について説明できる。		公衆衛生学			
t.、それぞれの役割について説明できる。 吸収、代謝のプロセスを概認できる。 吸収、代謝のプロセスを概認できる。 吸収、代謝のプロセスを概認できる。 素の栄養的な価値を説明できる。 (食品成生学) (関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。 (食品成生学) (関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。 (表品できる。 (まままな疾病を列撃し、説明できる。 (表面衛生学) (表もな疾病を列撃し、説明できる。 (知識・技能) (現する、	2) 労働衛生管理について説明できる。		公衆衛生学			
に、それぞれの役割について説明できる。	(3) 栄養と健康					
EL、それぞれの役割について説明できる。 食品衛生学 吸収、代謝のプロセスを概説できる。 食品衛生学 乗の状、代謝のプロセスを概説できる。 生化学2 素の栄養的な価値を説明できる。 食品衛生学 自わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。 食品衛生学 は事業について説明できる。 食品衛生学 よる主な疾病を別挙し、説明できる。 食品衛生学 よる主な疾病を別撃し、説明できる。 食品衛生学 (ク質が変質する機構について説明できる。 食品衛生学 (ク質が変質する機構についで説明できる。 食品衛生学 (ク質が変質する機構について説明できる。 食品衛生学 (ク質が変質する機構について説明できる。 食品衛生学 (公園・大生の生成機構を説明できる。 食品衛生学 (会開途のはいまれので説明できる。 食品衛生学 (会の場所を記述を説明できる。 食品衛生学 (法的規制について説明できる。 食品衛生学 (法的規制について説明できる。 食品衛生学 (法的規制について説明できる。 食品衛生学	[①栄養]					
		食品衛生学				
(素の栄養的な価値を説明できる。) 食品衛生学 食品成分(食物繊維、抗酸化物質など)の機能について説明できる。 食品衛生学 (基準について説明できる。) 食品衛生学 (基準について説明できる。) 食品衛生学 (本る主な疾病を列挙し、説明できる。) 食品衛生学 (大る主な疾病を列挙し、説明できる。) 食品衛生学 (大る主な疾病を列挙し、説明できる。) 食品衛生学 (ク質が変質する機構について説明できる。) 食品衛生学 (ク質が変質する機構について説明できる。) 食品衛生学 (対域・大体) 食品衛生学 (対域・大体的質を列挙し、そのも成機構を説明できる。) 食品衛生学 (機能食品について説明できる。) 食品衛生学 (建機能食品について説明できる。) 食品衛生学 (基協規能食品について説明できる。) 食品衛生学 (法的規制について説明できる。) 食品衛生学 (法的規制について説明できる。) 食品衛生学	2)各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。	食品衛生学生化学2				
18日成分(食物繊維、抗酸化物質など)の機能について説明できる。 食品衛生学 ・間わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。 食品衛生学 ・よる主な疾病を列挙し、説明できる。 食品衛生学 ・栄養の重要性を説明できる。 食品衛生学 ・栄養の重要性を説明できる。 食品衛生学 ・栄養の重要性を説明できる。 (知識・技能) ・大法(保存法)を説明できる。 食品衛生学 ・分法(保存法)を説明できる。 食品衛生学 ・分法(保存法)を説明できる。 食品衛生学 ・分法(保存法)を説明できる。 食品衛生学 ・物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。 食品衛生学 ・機機能食品について説明できる。 食品衛生学 ・機機能食品について説明できる。 食品衛生学 ・法的規制について説明できる。 食品衛生学 ・法的規制について説明できる。 食品衛生学 ・会の機能を記述をある。 食品衛生学	3) 食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。	食品衛生学				
関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。 食品衛生学 建準について説明できる。 食品衛生学 よる主な疾病を列挙し、説明できる。 食品衛生学 学養の重要性を説明できる。 食品衛生学 (2) 質が変質する機構について説明できる。 食品衛生学 (4) 質が変質する機構について説明できる。 (知識・技能) (5) 質が変質する機構について説明できる。 食品衛生学 (5) 質が変質する機構について説明できる。 食品衛生学 (4) 対法(保存法)を説明できる。 食品衛生学 (4) 技術を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。 食品衛生学 (4) 機構能食品について説明できる。 食品衛生学 (3) 法的規制について説明できる。 食品衛生学 (3) 法的規制について説明できる。 食品衛生学		食品衛生学				
建準について説明できる。 食品衛生学 よる主な疾病を列挙し、説明できる。 食品衛生学 (栄養の重要性を説明できる。 食品衛生学 (大量が変質する機構について説明できる。 (知識・技能) (大力は、保存法)を説明できる。 食品衛生学 (対法(保存法)を説明できる。 食品衛生学 (対な化物質を列挙し、その生成機構を説明できる。 食品衛生学 (対な用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。 食品衛生学 (機機能食品について説明できる。 食品衛生学 (法的規制について説明できる。 食品衛生学 (法的規制について説明できる。 食品衛生学	エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明でき	食品衛生学				
はる主な疾病を列挙し、説明できる。 食品衛生学 (学養の重要性を説明できる。 (知識・技能) 食品衛生学 (内質が変質する機構について説明できる。 (知識・技能) 食品衛生学 (対域 (保存法)を説明できる。 (知識・技能) 食品衛生学 (対域 (保機能食品について説明できる。 食品衛生学 (建機能食品について説明できる。 食品衛生学 (法的規制について説明できる。 食品衛生学 (法的規制について説明できる。 食品衛生学		食品衛生学				
(文養の重要性を説明できる。) 食品衛生学 (ク質が変質する機構について説明できる。) (知識・技能) 食品衛生学 (方法(保存法)を説明できる。 (知識・技能) 食品衛生学 (方法(保存法)を説明できる。 食品衛生学 (対象・日本の働きを説明できる。) 食品衛生学 (物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。 食品衛生学 (独機能食品について説明できる。) 食品衛生学 (機機能食品について説明できる。 食品衛生学 食品衛生学 (法的規制について説明できる。) 食品衛生学 食品衛生学	栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、	食品衛生学				
E1 自品衛生学 (ク質が変質する機構について説明できる。 (知識・技能) 食品衛生学 は (方法(保存法)を説明できる。 (知識・技能) 食品衛生学 は が大性物質を列撃し、その生成機構を説明できる。 食品衛生学 は 物を用途別に列撃し、それらの働きを説明できる。 食品衛生学 は (健機能食品について説明できる。 食品衛生学 は 法的規制について説明できる。 食品衛生学 は 法的規制について説明できる。 食品衛生学	き養の重要性を説明でき	食品衛生学				
(ク質が変質する機構について説明できる。 (知識・技能) 食品衛生学 は結を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能) 食品衛生学 は出権を説明できる。 食品衛生学 は出権を説明できる。 食品衛生学 は出機能食品について説明できる。 食品衛生学 は機能食品について説明できる。 食品衛生学 は出機能食品について説明できる。 食品衛生学 は出機性学 は出機性学 は出衛生学 は出催生学 は出催生学 は出催生学 は出催生学 は出催生学 <	[②食品機能と食品衛生]					
(構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能) 食品衛生学 方法(保存法)を説明できる。 食品衛生学 がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。 食品衛生学 1物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。 食品衛生学 (健機能食品について説明できる。 食品衛生学 (法的規制について説明できる。 食品衛生学	1) 炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。	食品衛生学				
方法 (保存法) を説明できる。 食品衛生学 注 がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。 食品衛生学 は 1物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。 食品衛生学 は (健機能食品について説明できる。 食品衛生学 法的規制について説明できる。 食品衛生学	油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識	食品衛生学	衛生薬学実習			
がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。 食品衛生学 物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。 食品衛生学 (健機能食品について説明できる。 食品衛生学 法的規制について説明できる。 食品衛生学		食品衛生学	衛生薬学実習			
物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。 食品衛生学 健機能食品について説明できる。 食品衛生学 法的規制について説明できる。 食品衛生学	食品成分由来の発がん性物質を列挙し、	食品衛生学				
(健機能食品について説明できる。)法的規制について説明できる。	代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明でき	食品衛生学	衛生薬学実習			
)法的規制について説明できる。	6)特別用途食品と保健機能食品について説明できる。	食品衛生学				
[③食中毒と食品汚染]	7) 食品衛生に関する法的規制について説明できる。	食品衛生学				
	[③食中毒と食品汚染]					

		数	車車		
平成20年度収別隊・乗手教育七ナル・コアカリチュフム(SBOS) 1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品 および予防方法について説明できる。	食品衛生学				
	食品衛生学				
3) 化学物質(重金属、残留農薬など)やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす 影響を説明できる。	食品衛生学				
D2 環境					
(1) 化学物質・放射線の生体への影響					
[①化学物質の毒性]					
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。		環境衛生学2			
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。		環境衛生学2			
3) 重金属、PGB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴に ついて説明できる。		環境衛生学2			
4)重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。		環境衛生学2			
5)薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。(知識・態度)		環境衛生学2 薬物と健康 衛生薬学実習			
6)代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。		環境衛生学2	衛生系薬学演習 薬理学演習系2		
フ)代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)の試験法を列挙し、概説できる。		環境衛生学2 薬物と健康 衛生薬学実習	衛生系薬学演習		
【②化学物質の安全性評価と適正使用】	-				
D 1)個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。 (態度)		環境衛生学2			
2) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。		環境衛生学2			
3)毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量(NOAEL)などについて 概説できる。		環境衛生学2			
4)化学物質の安全摂取量(1日許容摂取量など)について説明できる。		環境衛生学2			
5)有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制(化審法、化管法など)を説明できる。		環境衛生学2			
[③化学物質による発がん]					
1)発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。		環境衛生学2			
2)遺伝毒性試験(Ames試験など)の原理を説明できる。		環境衛生学2			
3)発がんに至る過程(イニシエーション、プロモーションなど)について概説できる。		環境衛生学2			
[④放射線の生体への影響]					
1) 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。		環境衛生学1 臨床放射線科学			
2)代表的な放射性核種(天然、人工)と生体との相互作用を説明できる。		環境衛生学1 臨床放射線科学			
3) 電離放射線を防御する方法について概説できる。		環境衛生学1 臨床放射線科学			
4)非電離放射線(紫外線、赤外線など)を列挙し、生体への影響を説明できる。		環境衛生学1			
(2)生活環境と健康					
	-	-	_	_	
1)地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。		環境衛生学1			
2)生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。		環境衛生学1			

			数	四		
平成25年度収別版・条字教育セナル・コアカリキュラム(SBO8)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 化学物質の環境内動態(生物濃縮など)について例を挙げて説明できる。			環境衛生学1			
4) 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。			環境衛生学1			
5)人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。(態度)			環境衛生学1			
【②環境保全と法的規制】						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。			環境衛生学1			
2)環境基本法の理念を説明できる。			環境衛生学1			
3) 環境汚染(大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など)を防止するための法規制について説明できる。			環境衛生学1 衛生薬学実習			
[③水環境]						
1)原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。			環境衛生学1 衛生薬学実習			
2)水の浄化法、塩素処理について説明できる。			環境衛生学1 衛生薬学実習			
3) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)			環境衛生学1 衛生薬学実習			
4)下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。			環境衛生学1 衛生薬学実習			
5) 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。 (知識・技能)			環境衛生学1 衛生薬学実習			
6)富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。			環境衛生学1 衛生薬学実習			
[④大気環境]						
1) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。			環境衛生学1 衛生薬学実習			
2) 主な大気汚染物質を測定できる。(技能)			環境衛生学1 衛生薬学実習			
3)大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。			環境衛生学1			
[⑤室内環境]				_		_
1)室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)			環境衛生学1 衛生薬学実習			
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。			環境衛生学1 衛生薬学実習			
[⑥廃棄物]						
1) 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。			環境衛生学1			
2)廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。			環境衛生学1			
3) マニフェスト制度について説明できる。			環境衛生学1			
E 医療薬学						
E1 薬の作用と体の変化						
(1)薬の作用						
1)薬の用量と作用の関係を説明できる。		1 本 重 素		臨床薬理学1 臨床薬理学2		
2)アゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)について説明できる。	薬学概論	薬理学1		臨床薬理学 1		
3)薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。	薬学概論	1本亜薬		臨床薬理学 1		
4)代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。		薬理学1				

() 			쨏	本田		
十段29年民央計隊・朱子教育七ナル・コノカリキュフム(SBO8)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5)薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合 の生理反応を説明できる。(C6(6) [②細胞内情報伝達]1.~ 5. 参照)		薬理学1				
6)薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。 (E4(1)【②吸収】、【③分布】、【④代謝】、【⑤排泄】参照)				臨床薬理学1 臨床薬理学2		
7)薬物の選択(禁忌を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因(年齢、疾病、妊娠等)について 具体例を挙げて説明できる。			弄 レ體	臨床薬理学1 臨床薬理学2		
8) 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。 (E4 (1) 【②吸収】5.【④代謝】5.【⑤排泄】5.参照)				臨床薬理学2		
9)薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。		薬理学1	調剤学 薬物と健康			
1)動物実験における倫理について配慮できる。(態度)		生物系実習1	薬理学実習			
2) 実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)		生物系実習1	薬理学実習			
3) 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)			薬理学実習			
[③日本薬局方]						
1)日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。		微生物学 生物系実習2	製剤学			
(2)身体の病的変化を知る						
[①症候]						
1) 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を #3mできえ						
ルッカック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、ショック、高血圧、色血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、咽寒の困難、咳・痰、 血痰・降血、かまい、頭痛、連動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害・食が不振、 干痢・便秘・吐血・下血、腹部膨満(腹水を含む)、多ンパク 原、血尿、尿量・排尿の異常、月絲異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常(しぴれを含む)・神経痛、視力障害、聴力障害			症候学・臨床検査学 病態・薬物治療学3 フィジカルアセスメ ソト	病態・薬物治療学4		
[②病態·臨床検査]						
1)尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			症候学・臨床検査学 病態・薬物治療学3			
2)血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			症候学・臨床検査学			
3)血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			症候学・臨床検査学 病態・薬物治療学3			
4)免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			症候学・臨床検査学			
5)動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			症候学・臨床検査学 病態・薬物治療学3			
6)代表的な生理機能検査(心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等)、病理組織検査および画像検査の 検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			症候学・臨床検査学 病態・薬物治療学3 臨床放射線科学			
7)代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			症候学・臨床検査学			
8)代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			フィジカルアセスメ ント 症候学・臨床検査学			
(3)薬物治療の位置づけ						
1)代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療(外科手術など)の位置づけを説明できる。		病態·薬物治療学1	病態·薬物治療学3			

1			数	車		
半成25年度収割版・楽字教育モナル・コアカリチュラム(SBOS)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。 (知識・技能)				処方解析 薬剤学実習3		
(4) 医薬品の安全性						
1)薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。	薬学概論	薬理学1		医薬品副作用学 臨床薬理学1 臨床薬理学2		
2)薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。	薬学概論	薬理学1		医薬品副作用学 臨床薬理学1		
3)以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見 および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常、肝障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、 呼吸器障害、薬物アレルギー(ショックを含む)、代謝障害、筋障害				医薬品副作用学		
4)代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。(態度)			薬物と健康			
E2 薬理・病態・薬物治療						
(1) 神経系の疾患と薬						
[①自律神経系に作用する薬]						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学2				
2)副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、 主な副作用を説明できる。		薬理学2				
3)神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学2				
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			薬理学実習			
○ 【②体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を 説明できる。		薬理学2	薬理学実習			
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学2	薬理学実習			
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			薬理学実習			
4)以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré(ギラン・バレー)症候群、重症筋無力症(重複)		病態·薬物治療学1				
[③中枢神経系の疾患の薬、病態、治療]						
1)全身麻酔薬、催眠薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬理学1	薬理学実習			
2)麻薬性鏡痛薬、非麻薬性鏡痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用(MHO 三段階除痛ラダーを含む)を説明できる。		薬理学1	薬理学実習			
3)中枢興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬理学1	薬理学実習			
4) 統合失調症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、 症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学1 病態・薬物治療学1	薬理学実習			
5)うつ病、躁うつ病(双極性障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、 および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学1 病態・薬物治療学1	薬理学実習			
6) 不安神経症 (パニック障害と全般性不安障害)、心身症、不眠症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学1 病態・薬物治療学1				
7) てんかんについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、 症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学1 病態・薬物治療学1	薬理学実習			
8)脳血管疾患(脳内出血、脳梗塞(脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血)、くも膜下出血)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学1 病態・薬物治療学1				
9)Parkinson (パーキンソン) 病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、 および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学1 病態・薬物治療学1				

			数	本		
平成25年度改訂版・楽字教育モテル・コアカリキュラム(SBOs)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
10) 認知症 (Al zheimer (アルツハイマー) 型認知症、脳血管性認知症等) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) 、および病態(病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択 等) を説明できる。		薬理学1 病態・薬物治療学1				
11) 片頭痛について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)について説明できる。		薬理学1 病態・薬物治療学1				
12) 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			薬理学実習			
13) 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。(態度)			薬理学実習			
14)以下の疾患について説明できる。 脳炎・髄膜炎(重複)、多発性硬化症(重複)、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy (ナルコレブシー)、薬物依存症、アルコール依存症		病態·薬物治療学1				
[④化学構造と薬効]						
1)神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。		薬理学1				
(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬						
[①抗炎症薬]						
1)抗炎症薬(ステロイド性および非ステロイド性)および解熱性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、 主な副作用)および臨床適用を説明できる。			李 理学4			
2) 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。			7点垂牽			
3)創傷治癒の過程について説明できる。		病態・薬物治療学1				
【②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】						
1)アレルギー治療薬(抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。			薬理学4	病態・薬物治療学4		疾患別治療特論2
2)免疫抑制薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			7点 莊 董	臨床薬理学1 病態・薬物治療学4		疾患別治療特論2
3)以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、 消化管アレルギー、気管支喘息(重複)			7点亜薬	病態·薬物治療学4		疾患別治療特論2
4)以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態(病態生理、症状等)および対処法を説明できる。 できる。 Stevens-Johnson (スティーブンス-ジョンソン) 症候群、中毒性表皮壊死症(重複)、薬剤性 過敏症症候群、薬疹				病態・薬物治療学4		疾患別治療特論2
5) アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学4	病態·薬物治療学4		疾患別治療特論2
6)以下の疾患について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、ベーチェット病				病態·薬物治療学4		疾患別治療特論2
7)以下の職器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。バイドウ病(重複)、橋本病(重複)、悪性貧血(重複)、アジソン病、1型糖尿病(重複)、電車が開発がある。 重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小核減少性柴斑病、自己免疫性溶血性貧血(重複)、シェーヴレン症候群			7点亜薬	病態・薬物治療学4		疾患別治療特論2
8) 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および 病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎/皮膚筋炎、関節リウマチ(重複)			7本亜薬	病態·薬物治療学4		疾患別治療特論2
藏器移植(腎臓、肝臓、骨髄、臍帯 の病態(病態生理、症状等)・薬物			薬理学4	臨床薬理学1 病態・薬物治療学4		疾患別治療特論2
カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】						
1)関節リウマチについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学4	病態·薬物治療学4		疾患別治療特論2

			数	本		
十段20年度収息版・余子教育セナル・コインツキュフム(SBOS)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2)骨粗鬆症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、 症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学3 病態·薬物治療学3			疾患別治療特論2
3) 変形性関節症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、 症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				病態・薬物治療学4		疾患別治療特論2
4) カルシウム代謝の異常を伴う疾患(副甲状腺機能亢進(低下)症、骨軟化症(くる病を含む)、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および 病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学3 病態・薬物治療学3	病態・薬物治療学4		疾患別治療特論2
[④化学構造と薬効]						
1)免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			薬理学4	臨床薬理学1		
日根・3						
[①循環器系疾患の薬、病態、治療]						
1)以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 不整脈の例示:上室性期外収縮(bAC)、心室性期外収縮(bAC)、心房細動(Af)、発作性上室 頻拍(bSVI)、WPW症候群、心室頻拍(VI)、心室細動(Vf)、房室プロック、0I延長症候群			薬理学4 病態・薬物治療学3			
2)急性および慢性心不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学4 病態·薬物治療学3	疾患別治療特論1		
3)虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、 および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学4 病態・薬物治療学3	疾患別治療特論1		
4)以下の高血圧症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態 生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 本態性高血圧症、二次性高血圧症(腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む)			薬理学4 病態・薬物治療学3	疾患別治療特論1		
5)以下の疾患について概説できる。 閉塞性動脈硬化症(ASO)、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患			病態·薬物治療学3			
6)循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			薬理学実習			
【②血液·造血器系疾患の薬、病態、治療】						
および臨床適用を			薬理学4	病態·薬物治療学4		
2)抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用 を説明できる。			薬理学4	病態・薬物治療学4		
3)以下の貧血について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血(悪性貧血等)、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血(AIHA)、 腎性貧血、鉄芽球性貧血			薬理学4	病態 · 薬物治療学4		
4)播種性血管内凝固症候群(DIC)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、 および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学4	病態・薬物治療学4		
5)以下の疾患について治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、 症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 血方病、血体性血小体減少性紫斑病(TTP)、白血球減少症、血栓塞栓症、白血病(重複)、 悪性リンパ腫(重複) (E2 (7) 【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】参照)			薬理学4	病態·薬物治療学4		
[③泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療]						
1)利尿薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	<u></u>	薬理学2				
2)急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			病態·薬物治療学2			
译理(薬理作用、機序、主な副作用)、 および病態(病 {択等)を説明できる。			病態·薬物治療学2			
4)過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および 病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	 	薬理学2	病態·薬物治療学2			

**************************************			짺	本		
平成20年度成別版・条字教育七ナル・コアカリキュフム(SBO8)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5)以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 慢性腎臓病(CKD)、糸球体腎炎(重複)、糖尿病性腎症(重複)、薬剤性腎症(重複)、腎盂 腎炎(重複)、膀胱炎(重複)、尿路感染症(重複)、尿路結石			病態·薬物治療学2			
6)以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 前立腺肥大症、子宮内膜症、子宮筋腫			病態·薬物治療学2	病態・薬物治療学4		
7)妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、 および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学3	病態·薬物治療学4		
8)以下の生殖器系疾患について説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不妊症				病態·薬物治療学4		
[④化学構造と薬効]						
1)循環系・泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			薬理学4			
(4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬						
[①呼吸器系疾患の薬、病態、治療]						
1)気管支喘息について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	ion	7 本 重 素	病態·薬物治療学2	疾患別治療特論1		
2)慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患(ニコチン依存症を含む)について、治療薬の 薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品 の選択等)を説明できる。	PAR	薬理学2	病態・薬物治療学2			
3) 間質性肺炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	PAN	薬理学2	病態·薬物治療学2			
4) 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明 できる。	IAN	薬理学2				
[②消化器系疾患の薬、病態、治療]						
1)以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および 病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 胃食道逆流症(逆流性食道炎を含む)、消化性潰瘍、胃炎			病態・薬物治療学2			
2)炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、 主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学3 病態・薬物治療学2			
3) 肝疾患(肝炎、肝硬変(ウイルス性を含む)、薬剤性肝障害)について、治療薬の薬理(薬理件、機度、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学3 病態・薬物治療学2			
4)膵炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状 等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学3 病態・薬物治療学2			
5)胆道疾患(胆石症、胆道炎)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、 および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学3 病態・薬物治療学2			
6)機能性消化管障害(過敏性陽症候群を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な 副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学3 病態・薬物治療学2			
7) 便秘・下痢について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、 症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学3 病態・薬物治療学2			
8)悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物(催吐薬)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、 および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学3 病態・薬物治療学2			
9) 痔について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			薬理学3 病態・薬物治療学2			
[③化学構造と薬効]						
1) 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態) の関連を概説できる。			薬理学3			
(5)代謝系・内分泌系の疾患と薬						

1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		極	中		
半成25年度校別隊・乗手教育七ナル・コアカリキュフム(SBO8)	1年 2年	3年	4年 5年	9 6年	
【①代謝系疾患の薬、病態、治療】					
1) 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および 病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学3 病態·薬物治療学3	疾患別治療特論1		
2)脂質異常症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態 生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学3 病態・薬物治療学3	疾患別治療特論1 臨床薬理学1		
3) 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学3 病態·薬物治療学3			
[②内分泌系疾患の薬、病態、治療]					
1)性ホルモン関連薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬理学3			
2)Basedow (パセドウ)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学3 病態・薬物治療学3			
3) 甲状腺炎(慢性(橋本病)、亜急性)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、 および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学3 病態・薬物治療学3			
4) 尿崩症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、 症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		病態·薬物治療学3			
5)以下の疾患について説明できる。 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH不適合分泌症候群(SIADH)、副 甲状腺機能亢進症・低下症、Gushing(クッシング)症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、 副腎不全(急性、慢性)、子宮内膜症(重複)、アジソン病(重複)		病態·薬物治療学3			
[③化学構造と薬効]					
1)代謝系・内分布系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の 関連を概説できる。		薬理学3			
(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬					
【①眼疾患の薬、病態、治療】					
1) 緑内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、 症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	李理学2	病態・薬物治療学2			
2) 白内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、 症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	李理学2	病態・薬物治療学2			
3)加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学2	病態・薬物治療学2			
4) 以下の疾患について概説できる。 結膜炎(重複)、網膜症、ぶどう膜炎、網膜色素変性症		病態·薬物治療学2			
【②耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】					
1)めまい(動揺病、Meniere(メニエール)病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、 主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		病態・薬物治療学2			
2)以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎(重複)、花粉症(重複)、副鼻腔炎(重複)、中耳炎(重複)、口内炎・ 咽頭炎・扁桃腺炎(重複)、喉頭蓋炎		病態·薬物治療学2			
[③皮膚疾患の薬、病態、治療]					
1)アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 (E2(2)[②免疫・炎症・アレルギーの薬、病態、治療】参照)			病態·薬物治療学4		
2)皮膚真菌症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、 症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 (E2 (7) 【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】 参照)		微生物薬品学 感染症治療学	病態·薬物治療学4		
3) 褥瘡について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			病態·薬物治療学4	疾患別治療特論2	寺論2

(474) と (425) 、			松	平	
(コアカリキ		中	4	
議権と義助	以下の疾患について概説できる。 蕁麻疹 (重複)、薬疹 (重複)、水疱症 (重複)、乾癬(重複)、接触性皮膚炎 (重複)、 過敏症 (重複)			記	
なたらも、	[④化学構造と薬効]				
	感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態) 概説できる。	薬理学1			
(1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	病原微				
のの店園を発生してきる。 (1988年) 編集 (1988年) (198	[①抗菌薬]				
(2.2) (1.2	以下の抗菌薬の薬理(薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行/および臨床適用を説明できる。 β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体(アミノグリコシド) キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤(SI合剤を含む)、その他の抗菌薬		生物薬品染症治療	臨床薬理学2	
### ### ### ### ### ### ### ### ### ##	細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤(ワクチン等)を挙げ、そのf できる。		染症治療		
なが自選の耐性機構機構および耐性酸出現への対応を設切できる。 5.05度を設定の業、着数、複数、	【②抗菌薬の耐性】				
(1985年の東、海路、海線) (1990年の最後に「ついて、海路(積陽生理、症状等)、感染経路と予助方法および薬物 等し、産素品の選択等、を認明できる。 (1991年とある。 (1991年とから、 (1992年度) (1993年度) (1993	主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる		生物薬品 染症治療		
等 ([③細菌感染症の薬、病態、治療]				
「	以下の呼吸器感染症について、病態(病態生理、症状等)、感染経路と予防方法表治療(医薬品の選択等)を説明できる。 上気道炎(かぜ症候群(大部分がウイルス感染症)を含む)、気管支炎、扁桃炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎		世殊	疾患別治療特論1	
「) 以下の消化器感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬を説明できる。 急性虫垂炎、胆囊炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコパクター・ 赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎		生物薬品 染症治療		
Fの尿路感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等)	以下の感覚器感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療 を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎		生業		
下の性感染症について、病態(病態生理、症状等)、予防方法および薬物治療(医薬品の 等、淋病、クラミジア症等 毒、淋病、クラミジア症等 毒、淋病、クラミジア症等 毒、淋病、クラミジア症等 特性 明できる。 中の皮膚細菌感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択 を説明できる。 全性膿痂疹、丹毒、癰、毛嚢炎、ハンセン病 会性心内膜炎、胸膜炎について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の 会性心内膜炎、胸膜炎について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の 会性心内膜炎、胸膜炎について、病態(病態生理、症状等)がよび薬物治療(医薬品の を説明できる。 大の薬剤的性菌によるの が、VRC、セラチア、緑膿菌等 か治療(医薬品の選択等)を説明できる。 が、VRC、セラチア、緑膿菌等 が、VRC、セラチア、緑膿菌等 が、VRC、セラチア、緑膿菌等 が、VRC、セラチア、緑膿菌等 か治療(医薬品の選択等)を説明できる。 が生の全身性細菌感染症について、病態(病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および が生物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 が、VRC、セラチア、緑膿菌等 が、VRC、セラチア、緑膿菌等 か治療(医薬品の選択等)を説明できる。 か治療(医薬品の選択等)を説明できる。 か治療(医薬品の選択等)を説明できる。 か治療(医薬品の選択等)を説明できる。 か治療(医薬品の選択等)を説明できる。 か治療(医薬品の選択等)を説明できる。 かり、MRC、セラチア、緑膿菌等 カナリア、劇症型体群ら溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症 の治療(医薬品の選択等)を説明できる。 かり治療(医薬品の選択等)を説明できる。 かり治療、医薬品の選択等)を説明できる。 かり治療、医薬品の選択等)を説明できる。 かり治療、医薬品の選択等)を説明できる。 かり治療、医薬品の選択等)を説明できる。 かり治療、医薬品の選択等)を説明できる。 かり治療、医薬品の選択等)を説明できる。 かり療、免費性の性の臓療・病態、病療、治療、治療、治療、治療、治療、治療、治療、治療、治療、治療、治療、治療、治療	以下の尿路感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療 を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎		生物薬品 染症治療	疾患別治療特論1	
及、髄膜炎について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を 用できる。 Fの皮膚細菌感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択 を説明できる。 発性態的療炎・内毒、癰、毛嚢炎、ハンセン病 発性心内膜炎、胸膜炎について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の 発性心内膜炎、胸膜炎について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の 保等)を説明できる。 保等)を説明できる。 A. V. V. M. とラチア、緑膿菌等 たの全身性細菌感染症について、病態(病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 の当業物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 カンドの全身性細菌感染症について、病態(病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および	以下の性感染症について、病態(病態生理、症状等)、予防方法および薬物治療(医薬品選択等)を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症等		生物薬品 染症治療		
Fの皮膚細菌感染症について、病態(病態生理、症状等) および薬物治療(医薬品の選択 を説明できる。 発性膿痂疹、丹毒、癰、毛囊炎、ハンセン病 発性心内膜炎、胸膜炎について、病態(病態生理、症状等) および薬物治療(医薬品の 発性心内膜炎、加膜炎について、病態(病態生理、症状等) および薬物治療(医薬品の 保等) を説明できる。 および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 が治療(医薬品の選択等)を説明できる。 が治療(医薬品の選択等)を説明できる。 か治療(医薬品の選択等)を説明できる。 か治療(医薬品の選択等)を説明できる。 カンチリア、劇症型A群ら溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症	脳炎、髄膜炎について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等) 説明できる。				
条性心内膜炎、胸膜炎について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の R等)を説明できる。 Fの薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態(病態生理、症状 および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 A、VRC、セラチア、緑膿菌等 Fの全身性細菌感染症について、病態(病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および が治療(医薬品の選択等)を説明できる。 が治療(医薬品の選択等)を説明できる。 アの全身性細菌感染症について、病態(病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および か治療(医薬品の選択等)を説明できる。 物土療、医薬品の選択等)を説明できる。 か治療、医薬品の選択等)を説明できる。 大の全身性細菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症 歴染症なよびブリオン病の薬、病態、治療】	以下の皮膚細菌感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療等)を説明できる。 伝染性膿痂疹、丹毒、癰、毛囊炎、ハンセン病		44 採		
Fの薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態(病態生理、症状 および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 AX、VRC、セラチア、緑膿菌等 FXの全身性細菌感染症について、病態(病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および が治療(医薬品の選択等)を説明できる。 か治療(医薬品の選択等)を説明できる。 アフ・リア、劇症型A群 β 溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症	懸染性心内膜炎、胸膜炎について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療 選択等) を説明できる。		生業		
Fの全身性細菌感染症について、病態(病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および 勿治療(医薬品の選択等)を説明できる。 フテリア、劇症型A群ら溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症 Nの主動を表をおよびプリオン病の薬、病態、治療】	以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態(病態生理、等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等		生 生 生 生 生 生 生 生 生 生 生 生 生 生 生 生 生 生 生		
ルス感染症およびプリオン病の薬、病態、	以下の全身性細菌感染症について、病態(病態生理、症状等)、感染経路と予防方法お薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 ジフテリア、劇症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、		生 生 法 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大		
	ルス感染症およびプリオン病の薬、病態、				

1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			数	本田田		
平成25年度収別版・乗手教育セテル・コアカリキュラム(SBO8)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1)ヘルペスウイルス感染症(単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹)について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等)を説明できる。			微生物薬品学 感染症治療学			
2)サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、 および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			微生物薬品学 感染症治療学			
3) インフルエンザについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と 予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			微生物薬品学 感染症治療学			
4)ウイルス性肝炎(HAN、HBV、HCV)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、 感染経路と予防方法および病態(病態生理(急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん)、 症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。(重複)			微生物薬品学 感染症治療学	臨床薬理学2		
5)後天性免疫不全症候群(AIDS)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、 感染経路と予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を 説明できる。			微生物薬品学 感染症治療学	臨床薬理学2		
6)以下のウイルス感染症(プリオン病を含む)について、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 伝染性紅斑(リンゴ病)、手足口病、伝染性単核球症、突発性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス 性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Greutzfeldt-Jakob(クロイツフェルト-			感染症治療学			
[⑤真菌感染症の薬、病態、治療]						
1)抗真菌薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			微生物薬品学 感染症治療学			
2)以下の真菌感染症について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を 設品ホネス			微生物薬品学			
ann v.c.o.o.。 皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症			採			
[⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療]						
1)以下の原虫感染症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 マラリア、トキソブラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢			微生物薬品学 感染症治療学			
2)以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 回虫症、蟯虫症、アニサキス症			微生物薬品学 感染症治療学			
[①悪性腫瘍]						
1)腫瘍の定義(良性腫瘍と悪性腫瘍の違い)を説明できる。				悪性腫瘍治療学		
2)悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査(細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー (腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む))、悪性腫瘍の疫学(がん罹患の現状および がん死亡の現状)、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因				悪性腫瘍治療学		
3)悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。				悪性腫瘍治療学		
[⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療]						
1)以下の抗悪性腫瘍薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性)および 臨床菌用を調印できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、 抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬			微生物薬品学 薬理学3	疾患別治療特論1 悪性腫瘍治療学		
2)抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。			薬理学3	悪性腫瘍治療学		
3)抗悪性腫瘍薬の主な副作用(下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害(手足症候群を含む)、血小板減少等)の軽減のための対処法を説明できる。			薬理学3	悪性腫瘍治療学		
4)代表的ながん化学療法のレジメン(FOLFOX等)について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。				疾患別治療特論1 悪性腫瘍治療学		
5)以下の白血病について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 急性(慢性)骨髄性白血病、急性(慢性)リンパ性白血病、成人T細胞白血病(ATL)				悪性腫瘍治療学		

*			数	本		
平成20年民政訓版・乗手教育七ナル・コノカリキュフム(SBOS)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6)悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				悪性腫瘍治療学		
7) 骨肉腫について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				悪性腫瘍治療学		
8) 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 等)を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆囊・胆管癌、膵癌				悪性腫瘍治療学		
9) 肺癌について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				悪性腫瘍治療学		
10)以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等)を説明できる。 脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍				悪性腫瘍治療学		
11)以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等) を説明できる。 前立腺癌、子宮癌、卵巣癌				悪性腫瘍治療学		
12) 腎・尿路系の悪性腫瘍(腎癌、膀胱癌)について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等)を説明できる。				悪性腫瘍治療学		
13) 乳癌について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				悪性腫瘍治療学		
[⑤がん終末期医療と緩和ケア]						
1)がん終末期の病態(病態生理、症状等)と治療を説明できる。				疾患別治療特論1 悪性腫瘍治療学		
2)がん性疼痛の病態(病態生理、症状等)と薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				疾患別治療特論1 悪性腫瘍治療学		
[⑩化学構造と薬効]						
1)病原徴生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			薬理学3			
(8)パイオ・細胞医薬品とゲノム情報						
[①組換え体医薬品]						
1)組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。			分子生物学2			
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。			分子生物学2			
3)組換え体医薬品の安全性について概説できる。			分子生物学2			
[②遺伝子治療]						
1)遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)			分子生物学2			
1)移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)			分子生物学2			
2) 摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。			分子生物学2			
3)臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。				病態·薬物治療学4		
4)胚性幹細胞(ES細胞)、人工多能性幹細胞(iPS細胞)を用いた細胞移植医療について概説できる。			分子生物学2			
(9)要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション						
1)地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を 概説できる。				実務実習プレ教育		
2)要指導医薬品および一般用医薬品(リスクの程度に応じた区分(第一類、第二類、第三類)も 含む)について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。				実務実習プレ教育		
らいて、関連する頻度の高い疾患、見逃しては				実務実習プレ教育		
4)要指導医薬品・一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集 できる。(技能)				実務実習プレ教育		

			鞭	本		
平成25年度改訂版・楽字教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5)以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に 含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。 発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病 等				実務実習プレ教育		
6) 主な養生法(運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む)とその健康の保持・促進 における意義を説明できる。	薬学概論					
7)要指導医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。				実務実習プレ教育		
8)要指導医薬品・一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。 (技能)				実務実習プレ教育		
(10) 医療の中の漢方薬						
[①漢方薬の基礎]						
1) 漢方の特徴について概説できる。	薬学概論			基礎漢方薬学1		
2)以下の漢方の基本用語を説明できる。 陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証				基礎漢方薬学1		
3) 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。		化学系実習1		基礎漢方薬学1		
4) 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などとの相違について説明できる。	薬学概論			基礎漢方薬学1		
【②漢方薬の応用】						
1) 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。				基礎漢方薬学1		
2) 日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。				基礎漢方薬学1		
3) 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。				基礎漢方薬学1		
[③漢方薬の注意点]						
1)漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。				基礎漢方薬学1		
(11) 薬物治療の最適化						
1)代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。(知識・態度)				疾患別治療特論1 実務実習プレ教育		
2)過剰量の医薬品による副作用への対応(解毒薬を含む)を討議する。(知識・態度)			薬物と健康	フィジカルアセスメ ント実習		
3) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。(知識・態度)				病態·薬物治療学4		
E3 薬物治療に役立つ情報						
(1) 医薬品情報						
1)医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる。				医薬品情報学 疾患別治療特論1		
2)医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。				医薬品情報学		
3)医薬品(後発医薬品等を含む)の開発過程で行われる試験(非臨床試験、臨床試験、安定性試験等)と得られる医薬品情報について概説できる。				医薬品情報学		
4)医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。				医薬品情報学		
5)医薬品情報に関係する代表的な法律・制度(「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性 の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など)とレギュラトリーサイエンスについて 概説できる。				医薬品情報学		
Ш				医薬品情報学		
2)医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。				医薬品情報学		

(*)00/11-十二十年了。三代书书家职师、建清先进书35年月			数	幸 田		
	1年	2年	3年	4年	5年	9
3)厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。				医薬品情報学		
(医療用、	情報処理演習			医薬品情報学		
5)医薬品添付文書(医療用、一般用)の記載項目(警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用 上の注意など)を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。	情報処理演習			医薬品情報学 疾患別治療特論1		
6)医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。				医薬品情報学 疾患別治療特論1		
[③収集・評価・加工・提供・管理]						
1)目的(効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など)に合った適切な 情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能)				医薬品情報学		
2)MEDLINFなどの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。(知識・技能)				医薬品情報学		
3) 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。				医薬品情報学		
4) 臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。(技能)				医薬品情報学		
5) 医薬品情報をニーズに合かせて加工・提供し管理する際の方法と注意点(知的所有権、守秘義務など)について説明できる。				医薬品情報学		
[@EBM (Evidence-based Medicine)]						
1)EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。				医薬品情報学 医療統計学		
2)代表的な臨床研究法(ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など)の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。				医薬品情報学 医療統計学		
3) 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性(研究結果の正確度や 再現性)と外的妥当性(研究結果の一般化の可能性)について概説できる。 (E3(1)[③収集・評価・加 工・提供・管理]参照)				医薬品情報学 医療統計学		
4)メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。				医薬品情報学 医療統計学		
[⑤生物統計]						
1)臨床研究における基本的な統計量(平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など) の意味と違いを説明できる。	基礎統計学			医薬品情報学 医療統計学		
2)帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。	基礎統計学			医薬品情報学 医療統計学		
3)代表的な分布(正規分布、 t 分布、二項分布、ポアソン分布、 χ^2 分布、 F 分布)について概説できる。	基礎統計学			医薬品情報学 医療統計学		
4) 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。				医薬品情報学 医療統計学		
5)二群間の差の検定(t検定、 χ^2 検定など)を実施できる。(技能)	基礎統計学		薬理学実習	医薬品情報学 医療統計学		
6)主な回帰分析(直線回帰、ロジスティック回帰など)と相関係数の検定について概説できる。				医薬品情報学 医療統計学		
7)基本的な生存時間解析法(カプラン・マイヤー曲線など)について概説できる。				医薬品情報学 医療統計学		
【⑥臨床研究デザインと解析】						
1) 臨床研究(治験を含む)の代表的な手法(介入研究、観察研究)を別挙し、それらの特徴を 概説できる。				医薬品情報学 医療統計学		
2)臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。				医薬品情報学 医療統計学		
3) 観察研究での主な疫学研究デザイン(症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など)について概説できる。				医薬品情報学 医療統計学		
4)副作用の因果関係を評価するための方法(副作用判定アルゴリズムなど)について概説できる。				医薬品情報学 医療統計学		

1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			数			
ナAC23年度は1版・条子教育セフル・コインリイユフム(SBO8)	1年	2年	3年	4年 5年		6年
5)優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。				医薬品情報学 医療統計学		
6) 介入研究の計画上の技法(症例数設定、ランダム化、盲検化など)について概説できる。				医薬品情報学 医療統計学		
7)統計解析時の注意点について概説できる。				医薬品情報学 医療統計学		
8)介入研究の効果指標(真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと 副次的エンドポイント)の違いを、例を挙げて説明できる。				医薬品情報学 医療統計学		
9) 臨床研究の結果(有効性、安全性)の主なパラメータ(相対リスク、相対リスク減少、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合)を説明し、計算できる。(知識・技能)				医薬品情報学 医療統計学		
[②医薬品の比較・評価]						
1) 病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。				医療統計学		
2) 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。 (技能)				医療統計学		
3) 医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、 比較・評価できる。(技能)				医療統計学		
(2) 患者情報						
[①情報と情報源]						
1)薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。			調剤学			
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。			調剤学			
[②収集・評価・管理]						
1)問題志向型システム(POS)を説明できる。			調剤学			
2)SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。			調剤学			
3)医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。			調剤学			
4)患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。 (A (2) 【③患者の権利】参照)			調剤学 医療倫理学			
(3)個別化医療						
[①遺伝的素因]						
1)薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。				臨床薬理学2		
2)薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因(薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など) について、例を挙げて説明できる。				臨床薬物動態学 臨床薬理学1 臨床薬理学2		
3)遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。				臨床薬理学2		
[②年齡的要因]						
1)低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を 説明できる。			調剤学	臨床薬物動態学 臨床薬理学2	疾患	疾患別治療特論2
2)高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。			調剤学	臨床薬物動態学 臨床薬理学2	疾患	疾患別治療特論2
【③議器機能低下】						
1)腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			調剤学	臨床薬物動態学 臨床薬理学2	疾患	疾患別治療特論2
2)肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			調剤学	臨床薬 地動態学 臨床薬理学2	疾患乃	疾患別治療特論2

			が、発	T 3		
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)	1年	2年		ŧ	5年	6年
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。				臨床薬物動態学 臨床薬理学2		疾患別治療特論2
[④その他の要因]						
1)薬物の効果に影響する生理的要因(性差、閉経、日内変動など)を列挙できる。				臨床薬理学2		疾患別治療特論2
2)妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。			調剤学	臨床薬物動態学 臨床薬理学2		疾患別治療特論2
3) 栄養状態の異なる患者(肥満、低アルブミン血症、腹水など)における薬物動態と、薬物治療で 注意すべき点を説明できる。				臨床薬理学2		疾患別治療特論2
[⑤個別化医療の計画・立案]						
1)個別の患者情報(遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など)と医薬品情報をもとに、薬物治療を 計画・立案できる。(技能)				臨床薬理学1		
2) コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。				臨床薬理学2		
E4 薬の生体内運命						
(1)薬物の体内動態						
[①生体膜透過]						
1)薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。			薬物動態学1	臨床薬理学2		
2) 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を 説明できる。			薬物動態学1	臨床薬理学2		
[②吸収]						
1)経口投与された薬物の吸収について説明できる。			製剤学	臨床薬理学2		
2) 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。			製剤学	臨床薬理学2		
3)薬物の吸収に影響する因子(薬物の物性、生理学的要因など)を列挙し、説明できる。			製剤学	臨床薬理学2		
4)薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			製剤学	臨床薬物動態学 臨床薬理学2		
5)初回通過効果について説明できる。			製剤学	臨床薬物動態学 臨床薬理学2		
[③分布]						
1)薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。			薬物動態学1	臨床薬理学2		
2) 薬物の組織移行性(分布容積)と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的 に説明できる。			薬物動態学1	臨床薬理学2		
3)薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。			薬物動態学1	臨床薬理学2		
4)血液一組織関門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。			薬物動態学1	臨床薬理学2		
5)薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。			薬物動態学1	臨床薬理学2		
6)薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			薬物動態学1	臨床薬物動態学 臨床薬理学2		
[@代謝]						
1)代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。			薬物動態学1	臨床薬理学2		
2) 薬物代謝の第1相反応(酸化・還元・加水分解)、第11相反応(抱合)について、例を挙げて 説明できる。			薬物動態学1			
3)代表的な薬物代謝酵素(分子種)により代謝される薬物を列挙できる。			薬物動態学1			
4) プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。			製剤学			

			14	- A		
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)	1年	2年		ŧ	5年	6年
5)薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、 例を挙げ、説明できる。			薬物動態学1	臨床薬物動態学		
[3 株形]						
1)薬物の尿中排泄機構について説明できる。			薬物動態学1	臨床薬理学2		
2) 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。			薬物動態学1	臨床薬理学2		
3)代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。			薬物動態学1	臨床薬理学2		
4)薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。			薬物動態学1	臨床薬理学2		
5)薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			薬物動態学1	臨床薬物動態学 臨床薬理学2		
(2)薬物動態の解析						
[①薬物速度論]						
1)線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ(全身クリアランス、分布容積、 消失半減期、生物学的利用能など)の概念を説明できる。			薬物動態学2	臨床薬物動態学 薬剤学実習3		
2)線形1ーコンパートメントモデルに基づいた解析ができる(急速静注・経口投与[単回および 反復 投与]、定速静注)。(知識、技能)			薬物動態学2	臨床薬物動態学 薬剤学実習3		
3)体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。(知識、 技能)				臨床薬物動態学 臨床薬理学2		
4)モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。				臨床薬物動態学		
5)組織クリアランス(肝、腎)および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式 を使って説明できる。				臨床薬物動態学 臨床薬理学2		
コ n 6)薬物動態学-薬力学解析(PK-PD解析)について概説できる。				臨床薬物動態学 薬剤学実習3 臨床薬理学2		
【②TDM (Therapeutic Drug Monitoring)と投与数計】						
1)治療薬物モニタリング(TDM)の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。			薬物動態学2	臨床薬理学2		
2)TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。			薬物動態学2	臨床薬理学2		
3)薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。(知識、技能)				臨床薬物動態学 薬剤学実習3		
4)ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。				臨床薬物動態学 薬剤学実習3 臨床薬理学2		
E5 製剤化のサイエンス						
(1)製剤の性質						
[①固形材料]						
1)粉体の性質について説明できる。	41	物理薬剤学1				
2)結晶(安定形および準安定形)や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。			物理薬剤学2			
3) 固形材料の溶解現象(溶解度、溶解平衡など)や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明 できる。			加田薬剤学?			
(C2 (2) 【①酸・塩基平衡】1.及び【②各種の化学平衡】2.参照)						
4)固形材料の溶解に影響を及ぼす因子(pHや温度など)について説明できる。			物理薬剤学2			
5)固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			物理薬剤学2			
【②半固形・液状材料】						

· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			数	本目		
干炭20年度収割版・条字教育セナル・コノカリキュプム(SBOS)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1)流動と変形(レオロジー)について説明できる。			物理薬剤学2			
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質(粘度など)について説明できる。			物理薬剤学2			
[③分散系材料]						
1) 界面の性質(界面張力、分配平衡、吸着など)や代表的な界面活性剤の種類と性質について 説明できる。 (C2 (2) 【②各種の化学平衡】4.参照)	X.	物理薬剤学1				
2) 代表的な分散系(分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など)を列挙し、その性質について 説明できる。	**	物理薬剤学1	物理薬剤学2			
3)分散した粒子の安定性と分離現象(沈降など)について説明できる。	茶	物理薬剤学1	物理薬剤学2			
4)分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。	兴	物理薬剤学1	物理薬剤学2			
[⑥薬物及び製剤材料の物性]						
1) 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。			物理薬剤学2			
2)薬物の安定性(反応速度、複合反応など)や安定性に影響を及ぼす因子(pH、温度など)について説明できる。 (CI(3)【①反応速度】1.~7.参照)			物理薬剤学2			
3)薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			物理薬剤学2			
(2)製剤設計						
[①代表的な製剤]						
1)製剤化の概要と意義について説明できる。			製剤学			
2)経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤学			
3) 粘膜に適用する製剤 (点眼剤、吸入剤など)の種類とその特性について説明できる。			製剤学			
4) 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤学			
5)皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤学			
6) その他の製剤(生薬関連製剤、透析に用いる製剤など)の種類と特性について説明できる。			製剤学			
[②製剤化と製剤試験法]						
1) 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。			製剤学			
2)製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について 説明できる。			製剤学 薬剤学実習1			
3)汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。			製剤学			
4)製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。			製剤学 薬剤学実習1			
[③生物学的同等性]						
1)製剤の特性(適用部位、製剤からの薬物の放出性など)を理解した上で、生物学的同等性に ついて説明できる。			製剤学			
(3) DDS (Drug Delivery System:薬物送達システム)						
[①DDS の必要性]						
1)DDSの概念と有用性について説明できる。			製剤学			
2)代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。 (プロドラッグについては、E4(1) [④代謝] 4.も参照)			製剤学			
【②コントロールドリリース(放出制御)】						
1) コントロールドリリースの概要と意義について説明できる。			製剤学			
2)投与部位ごとに、代表的なコントロールドリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。			製剤学			

٥			数	田 な		
十段29年後兵制隊・米十数官トナル・コノンフィコンム(SDOS)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) コントロールドリリース技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。			製剤学			
[③ターゲティング(裸的指向化)]						
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。			製剤学			
2)投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。			製剤学			
3) ターゲティング技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。			製剤学			
[] (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4)						
1)吸収改善の概要と意義について説明できる。			製剤学			
2)投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。			製剤学			
3)吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。			製剤学			
「 漢学語床 単)、 森岡・ 海町かの事效事型原移前「 移過 4 人 4 東面						
(1) 漢学臨床の基礎						
【①早期臨床体験】 ※原則として 2年次修了までに学習する事項						
1) 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の 重要性について討議する。(知識・態度)	早期体験学習					
2)地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・ 態度)	早期体験学習					
3) 一次教命処置(心肺蘇生、外傷対応等)を説明し、シミュレータを用いて実施できる。 (知識・技能)	早期体験学習					
【② 降床における心構え】 〔A(1)、(2)参照〕						
1)前)医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)			医療倫理学			
2)前)患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)			医療倫理学			
3)前)患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの 重要性を討議する。(態度)			薬事法規・制度2			
4)医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度)						
5)患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)					実習(薬 実習(病	
6)薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)						
7)職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
[③臨床実習の基礎]						
1)前)病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。				実務実習プレ教育		
2)前)病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。				実務実習プレ教育		
3)前)病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。				実務実習プレ教育		
4)前)病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。				実務実習プレ教育		
5)前)薬剤師の関わる社会保障制度(医療、福祉、介護)の概略を説明できる。 【B (3) ①参照】				実務実習プレ教育		
6)病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
7)代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。				処方解析	実務実習(薬局) 実務実習(病院)	

4 C 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	;		極	本田		
(後の医療に機能して関わることができる、(後度) (後の医療に機能して関わることができる、(後度) (後の医療に機能して関わることができる。(後度) (後の経過に発酵して関わることができる。(後度) (表の経過に対して認明できる。 (表の経過に対して認明できる。 (表の経過に対して認明できる。 (表の経過に対して認明などを必要を表現を表現して関わることが、(表の経過に対して関わると表の経過を表現して関わてと表のと表のと表のと表のと表のと表のと表のと表のと表のと表のと表のと表のと表のと	平成25年度改訂版・薬字教育モテル・コアカリキュラム(SBOS) ——	1年				
(2) 小橋治療者) 小価部別版制に対しる効のな選手が発達に (2) 大橋 小橋	入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。				ह्या ह्या	
	急性期医療(教急医療・集中治療・外傷治療等)や周術期医療における適切な薬学的管理 ついて説明できる。					
(学校展別について放明できる。	周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる					
(学的管理について説明できる。	終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明でき					
(2.0 元 3.0 元 3.	外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる					
を相互に関連付けて貼寄できる。	保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができ					
(5.2) (3.9 参照)	薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明でき					
3 (2)、(3) 参照] 1 (2)、(3) 参照] 1 (2)、(3) 参照] 1 (2)、(3) 参照] 1 (2) (3) 接続に乗等) の意義や改り扱いを法的提売 1 (2) (4) 能・総度) 1 (2) (4) 能・総度) 1 (2) (4) に対すてきる。 1 (3) (4) に対すてきる。 1 (4) に対すてはないではないではないではないではないではないではないではないではないではないで	来局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わるこできる。 (知識・態度)					
(2) (3 参照)						
大力性人、顕新鏡、雑種側会等)の意義や取り扱いを法的視幾 実務実置 工作 工作 支援を適当	[B(2), (3)					
実務を選正に実施する。(技能・態度)	前) 調剤業務に関わる事項(処方せん、調剤録、疑義照会等)に基づいて説明できる。			習プレ教		
業務を適正し実施する。(技能・態度) 実務実置 (備等を具体的に関連付けて説明できる。 (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本)) 調剤業務に関わる法的文書(処方せん、調剤録等)の適切な記載と保存・管理ができ (知識・技能)				මුග මුග	
(備等を具体的に関連付けて説明できる。	法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。(技能					
歴集品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、 フィジカルアセスメ 加力解析 要務実習了し教育 事務実習了し教育 事務実習了し教育 事務実習了し教育 事務実習了し教育 事務を記して記載りできる。 副利学 実務実習了し教育 事務実習了し教育 事務実習了し教育 事務実習了し教育 事務実習了し教育 事務実習 が適切であるか確認できる。(技能・態度) 加力解析 事務表置了し教育 事務実習 非法・用量等)が適切であるか確認できる。(技能・態度) 加力解析 事務表置了し教育 事務実習 東級主命名の判断できる。(技能・態度) 加力解析 事務表置のに疑義に、投与ルート等)が適切であるか確認 無限の方式を表して適切に疑義に会って、20 (技能・態度) 加力解析 事務表置のに疑惑になる。(技能・態度) 加力解析 事務表別に記力できる。(技能・態度) 無限してきる。(技能・態度) 無限してきる。(技能・態度) 無限してきる。(技能・態度) 無限してきる。(技能・態度) 無限してきる。(技能・態度) 無限してきる。(技能・態度) 無限してきる。(技能・態度) 無限してきる。(技能・態度) 無限してきる。(技能・態度) 無限を認可に疑惑になるの判断できる。(技能・態度) 無限してきる。(技能・態度) 無限して適切に疑惑になるの判断できる。(技能・態度) 無限して適切に疑惑のに記力できる。(技能・態度) 無限を表記のに記力できる。(技能・態度) 無限して適切に疑惑のに記力できる。(技能・態度) 無限して適切に疑惑のに記力できる。(技能・態度) 無限して適切に疑惑のに記力できる。(技能・態度) 無限して適切に疑惑のに記力できる。(技能・態度) 無限して適切に疑惑のに記力できる。(技能・態度) 無限して適切に疑惑のに記力できる。(技能・態度) 無限して適切に疑惑のは記力できる。(技能・態度) 無限して適切に疑惑のは記力できる。(技能・態度) 無限して適切に疑惑のは記力できる。(技能・態度) 無限して適切に疑されてきる。(技能・態度) 無限して適切に疑されてきる。(技能・態度) 無限して適切に疑されてきる。(技能・能度) 無限して適切に対しまる。(技能・能度) 無限して適切に対しまる。(技能・能度) またななが対しまる。(技能・能度) またななの対しに対しまる。(技能・能度) またななるの対しに対しまる。(技能・能度) またななるの対しに対しまる。(技能・能度) またななるの対しに対しまる。(技能・能度) またななるの対しに対しまる。(技能・能度) またななるのでは能力である。(技能・能度) またななるのでは能力であるのが対しているのでは能力であるのが対しているのでは能力である。(技能・能度) またなななるのでは能力であるのでは能力であるのでは能力であるのでは能力であるのではないるので	保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明でき					
医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、 たよび電子カルテについて機能できる。 カイジカルアセスメ 原表を割り、 要務実習了し教育 および電子カルテについて機能できる。 調剤学 実務実習了し教育 (の必要性と注意点について説明できる。 調剤学 実務実習了し教育 (会ができる。(技能・態度) 類別学 実務実習了し教育 (本) (本) (本) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大	【②処方せんと疑義照会】					
本事項、記載方法について概認できる。 調剤学 実務実習ブレ教育 本の必要性と注意点について説明できる。 の必要性と注意点について説明できる。 調剤学 実務実習ブレ教育 本の必要性と注意点について説明できる。 12 (大力について、その理由が説明できる。 調剤学 実務実習ブレ教育 本の本の本の本のできる。 12 (大力について、その理由が説明できる。 地方解析 東務実習ブレ教育 本務表習ブレ教育 本務表習ブレ教育 13 (大力について、その理由が説明できる。 本の本の本の本の本のできる。 本の本の本の本の本の本の本の本の本の本の本の本の本の本の本の本の本の本の本の	前)代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、 相互作用を列挙できる。		ィジカルアセスメ ト	医薬品副作用学 処方解析 実務実習プレ教育		
事項、記載方法について説明できる。 調剤学 実務実習ブレ教育 の必要性と注意点について説明できる。 調剤学 実務実習ブレ教育 パを処力せんについて、その理由が説明できる。 調剤学 実務実習ブレ教育 会ができる。(技能・態度) 本の理由が説明できる。 東務実習ブレ教育 、分量、用法・用量等)が適切であるか確認できる。 無別学 実務実習ブレ教育 東島名、分量、投与速度、投与ルート等)が適切であるか確認できる。(技能) 加力解析 実務実習 1示できる。(技能) 加力解析 実務実習 1両方できる。(技能) 加力解析 実務実習 1期断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度) 薬剤学実習2 東務実習 1職すべき事項を適切に記入できる。(技能・態度) 本額学業習2 実務実習 1職すべき事項を適切に記入できる。(技能) 本額学実習2 東務実習	前)処方オーダリングシステムおよび電子カルテについて概説でき			実務実習プレ教育		
の必要性と注意点について説明できる。 の必要性と注意点について、その理由が説明できる。 地方解析 実務実習ブレ教育 本方解析 はなかできる。(技能・態度) (4位) (4	前)処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明でき		調剤学	実務実習プレ教育		
位加力性がについて、その理由が説明できる。 地力解析 地力解析 地方解析 実務実習プル教育 会ができる。(技能・態度) (大倉・川法・用量等)が適切であるか確認できる。 (本方解析 実務実習 (本) 分量、担きできる。(技能) (本) できる。(技能) (本) 解析 実務実習 (本) 不) できる。(技能) (本) が適切であるか確認 (本) 解析 実務実習 (地力が妥当であるか判断できる。(技能・態度) (本) 解析・態度) 実務実習 (地) に適切に疑義照会ができる。(技能・態度) (本) 解析・実際と認定 実務実習 (本) 本のが表記のに記入できる。(技能・態度) (本) 本のが表記のに記入できる。(技能・) (技能・)	前)処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明でき		調剤学	実務実習プレ教育		
会ができる。(技能・態度) 実務実習力も教育 は、分量、用法・用量等)が適切であるか確認できる。 本の解析 実務実習 (業品名、分量、投与速度、投与ルート等)が適切であるか確認 連務実習 本の方解析 実務実習 (日本の方が受当であるか判断できる。(技能・態度) 本の方解析 実務実習 (利断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度) 本の方解析 実務実習 (利断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度) 本の方解・実習2 実務実習 (対断して適切に疑義にあらいに記入できる。(技能・態度) 本の方解析 実務実習 (対解・変質) 本別学実習2 実務実習 (対能) 本別学実習2 実務実習	前)処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明でき		調剤学	処方解析 実務実習プレ教育		
(、分量、用法・用量等)が適切であるか確認 実務実習 (薬品名、分量、投与速度、投与ルート等)が適切であるか確認 調剤学 処方解析 実務実習 I示できる。(技能) 本の方が妥当であるか判断できる。(技能・態度) 本の方が妥当であるか判断できる。(技能・態度) 実務実習 表務実習 判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度) 本の方線化) 実務実習 実務実習 主義を記述を適切に記入できる。(技能・態度) 本の方線化) 実務実習 実務実習 主義を適切に記入できる。(技能・ 工作・ 工作・ 工作・	副			実務実習プレ教育		
薬品名、分量、投与速度、投与ルート等)が適切であるか確認 無務実習 I示できる。(技能) (大能) 東務実習 処方が妥当であるか判断できる。(技能・態度) (大能・態度) 東務実習 判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度) (大能・態度) 東務実習 主務実習 東務実習	処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量等)が適切であるか確認でき (知識・技能)			処方解析		
I示できる。(技能) (力解析) 実務実習 実務実習 実務実習 ・関係できる。(技能・態度) (力解析) 実務実習 実務実習 業務実習 主務、主 主務、主 主務、主 主務、主 主務、主 主務、主 主務、主 主務、) 注射薬処方せんの記載事項 (医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等) が適切であてきる。 (知識・技能)		調剤学	処方解析		
加力が妥当であるか判断できる。(知識・技能) 実務実習 事務実習 事務実習 事務実習 判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度) 東利学実習2 実務実習 事務実習 事務実習 事務実習 1載すべき事項を適切に記入できる。(技能) 本利学実習2 実務実習 事務実習	処方せんの正しい記載方法を例示できる。			処方解析		
・判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度) 薬剤学実習2 実務実習 実務実習 ・主導すべき事項を適切に記入できる。(技能) 本剤学実習2	薬歴、診療録、患者の状態から処方が妥当であるか判断できる。(知識					
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態		薬剤学実習2			
前)薬袋、薬札(ラベル)に記載すべき事項を適切に記入できる。(技能)	[③処方せんに基づく医薬品の調製]					
	前)薬袋、薬札(ラベル)に記載すべき事項を適切に記入できる。		薬剤学実習2			

(数	4 科目		
十克25年現役BII原・米干教育トナル・コアガリキュフム(SBOS)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2)前)主な医薬品の成分(一般名)、商標名、剤形、規格等を列挙できる。				実務実習プレ教育		
3)前)処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。(技能)			薬剤学実習2	実務実習プレ教育		
4)前)後発医薬品選択の手順を説明できる。			調剤学	実務実習プレ教育		
5)前)代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。			調剤学 薬剤学実習1	実務実習プレ教育		
6)前)無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)			薬剤学実習1 薬剤学実習2	実務実習プレ教育		
7)前)抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的手技を実施できる。 (技能)			薬剤学実習1	実務実習プレ教育		
8)前)処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。(知識・技能)			薬剤学実習2			
9)主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。(技能)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
10)適切な手順で後発医薬品を選択できる。(知識・技能)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
11)処方せんに従って計数・計量調剤ができる。(技能)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
12)錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
13) 一回量(一包化) 調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
14)注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。(技能)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
15) 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。			調剤学		実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
16) 注射剤(高カロリー輸液等)の無菌的混合操作を実施できる。(技能)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
17) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。 (知識・技能)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
18) 特別な注意を要する医薬品(劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等)の調剤と適切な 取扱いができる。(知識・技能)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
19)調製された薬剤に対して、監査が実施できる。(知識・技能)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
[④患者·来局者応対、服薬指導、患者教育]						
1)前)適切な態度で、患者・来局者と応対できる。(態度)			薬剤学実習2	フィジカルアセスメ ント実習		
2)前)妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの応対や服薬指導において、配慮すべき事項を 具体的に列挙できる。			調剤学	実務実習プレ教育		
3)前)患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既住歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、 副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)			調剤学 薬剤学実習2	フィジカルアセスメ ント実習		
4)前)患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、 保管方法等について適切に説明できる。(技能・態度)			調剤学 薬剤学実習2	フィジカルアセスメ ント実習		
5)前)代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。			フィジカルアセスメント	実務実習プレ教育		
6) 前)患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤(眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等)の取扱い 方法を説明できる。(技能・態度)			調剤学			
7)前)薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。			調剤学	医療コミュニケー ション論 実務実習プレ教育		
8)前)代表的な疾患の症例についての患者応対の内容を適切に記録できる。(技能)			調剤学	実務実習プレ教育		

			数	本回		
平成25年度収割版・条字教育セテル・コアカリキュラム(SBOS)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
9)患者・来局者に合わせて適切な応対ができる。(態度)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
10) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、 副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)			薬剤学実習1		実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
11)医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。(知識・態度)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
12) 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。(知識・態度)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
13)妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な応対ができる。(知識・態度)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
14)お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。(態度)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
15) 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。(知識・技能)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
[⑤医薬品の供給と管理]						
1)前)医薬品管理の意義と必要性について説明できる。			調剤学	実務実習プレ教育		
2)前)医薬品管理の流れを概説できる。			調剤学	実務実習プレ教育		
3)前)劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。			調剤学	実務実習プレ教育		
4)前)特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。			調剤学	実務実習プレ教育		
5)前)代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。			調剤学	実務実習プレ教育		
6)前)院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。			調剤学 薬剤学実習1	実務実習プレ教育		
7)前)薬局製剤・漢方製剤について概説できる。			調剤学	実務実習プレ教育		
8)前)医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。			調剤学	実務実習プレ教育		
9) 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。 (知識・技能)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
10) 医薬品の適切な在庫管理を実施する。(知識・技能)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
11)医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
12) 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。 (知識・技能)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
13)特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。(知識・技能)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
1) 前) 処方から服薬(投薬)までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。			調剤学	実務実習プレ教育		
2)前)特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の特徴と注意点を列挙できる。			調剤学	実務実習プレ教育		
3) 前)代表的なインシデント (ヒヤリハット)、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。 (知識・態度)				実務実習プレ教育		
4)前)感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。				実務実習プレ教育		
5)前)衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。 (技能)			薬剤学実習2			
			調剤学	実務実習プレ教育		
前)医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。			調剤学	実務実習プレ教育		
8)特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の 安全管理を体験する。(知識・技能・態度)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	

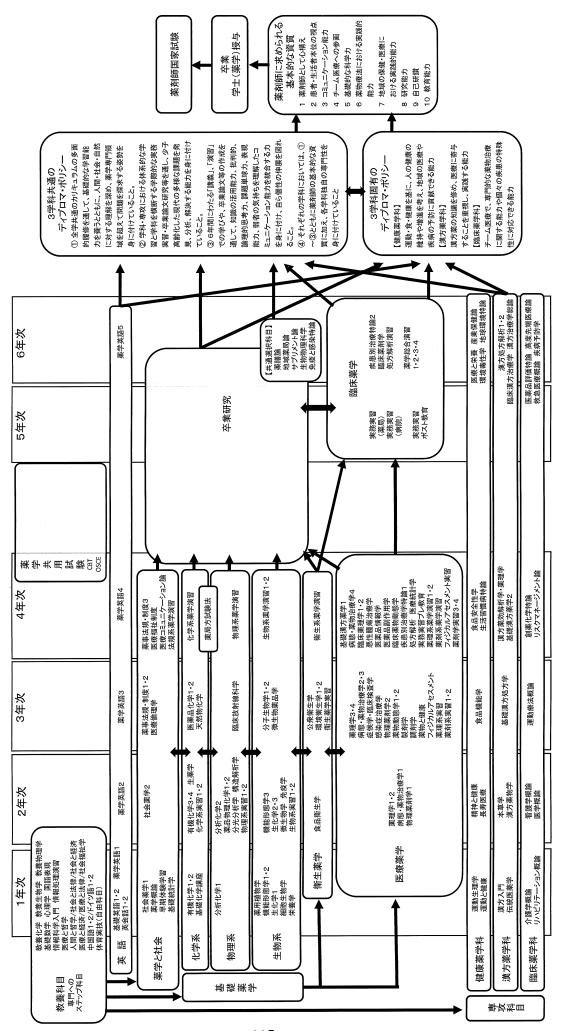
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				
調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明でき	3年	4年	5年	6年
			実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
10) 施設内のインシデント(ヒヤリハット)、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。(知識・態度)			実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
11)施設内の安全管理指針を遵守する。(態度)			実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
12)施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。(技能)			実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
13)臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。(技能・態度)			実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
14)院内での感染対策(予防、蔓延防止など)について具体的な提案ができる。(知識・態度)			実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
(3)薬物療法の実践				
[①患者情報の把握]				
1)前)基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。	調剤学 フィジカルアセスメ ント	医療コミュニケー ション論		
2)前)患者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等) から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度) [E3(2)①参照]	調剤学	医療コニュニケーション論ション論 レイジカルアセスメント 実習 実務実習 プレ教育		
3)前)身体所見の観察・測定(フィジカルアセスメント)の目的と得られた所見の薬学的管理 への活用について説明できる。	フィジカルアセスメント	医療コミュニケー ション論		
4)前)基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。(知識・技能)	フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメ ント実習		
5)基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。(知識・態度)			実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
6) 患者・来局者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬 等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度)			実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
7)患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。(技能・態度)			実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
【②医薬品情報の収集と活用】〔E3(1)参照〕				
1)前)薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。(知識・技能)		実務実習プレ教育		
2)施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。(知識・技能)			実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
3)薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。(知識・技能)				
4)医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。(知識・態度)			実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
5)安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。(知識・技能)			実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
6)緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱う ことができる。(知識・態度)			実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
[③処方設計と薬物療法の実践(処方設計と提案)]				
前)代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方		処方解析 実務実習プレ教育		
2)前)病態(肝・腎障害など)や生理的特性(妊婦・授乳婦、小児、高齢者など)等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。		処方解析 実務実習プレ教育		

			被	本		
+ W.25 年度収組版・条字教育セナル・コアカリキュフム(S B O 8)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3)前)患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明 できる。				医療コミュニケー ション論 実務実習プレ教育		
4)前)皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。			調剤学	実務実習プレ教育		
5)前)代表的な輸液の種類と適応を説明できる。			調剤学	実務実習プレ教育		
6)前)患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。			調剤学	処方解析 実務実習プレ教育		
7)代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。				処方解析	実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
8) 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方を立案できる。				処方解析	実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
9)患者の状態(疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等) や薬剤の特徴(作用機序や製剤的性質等)に基づき、適切な処方を提案できる。(知識・態度)				処方解析	実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
10)処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコールやクリニカルパスを活用できる。(知識・態度)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
11) 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。(知識・態度)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
12)アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。(知識・態度)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
13)処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
14)処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。(知識・態度)				処方解析	実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
【④処方設計と薬物療法の実践(薬物療法における効果と副作用の評価)】						
1)前)代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査 所見等を具体的に説明できる。			フィジカルアセスメ ント	医薬品副作用学 実務実習プレ教育		
2)前)代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。(知識・技能)			フィジカルアセスメ ント	フィジカルアセスメ ント実習 実務実習プレ教育		
3)前)代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。(知識・技能)			フィジカルアセスメント	処方解析 医療コニュニケー ション論 乗務実習プレ教育		
4)医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。 (知識・態度)				処方解析	実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
5)薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定の 提案ができる。(知識・態度)				処方解析	実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
6)薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。(知識・技能)				処方解析	実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
7) 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。			フィジカルアセスメ ント			
8)薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。			フィジカルアセスメント	処方解析	実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
9)副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。			フィジカルアセスメ ント	処方解析	実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
10) 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、 投与方法、投与期間等の変更を提案できる。(知識・態度)				処方解析	実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
11)報告に必要な要素(5W1H)に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。(技能)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
12)患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。(知識・技能)				処方解析	実務実習(薬局) 実務実習(病院)	

1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			類	本		
平成25年度の肌 兪・柔手都育七テル・コアカリキュラム(SBO8)	1年	2年	3年	4年	5年	6年
13)医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
(4) チーム医療への参画 [A (4) 参照]						
【①医療機関におけるチーム医療】						
1)前)チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。				実務実習プレ教育		
2)前)多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。				実務実習プレ教育		
3)前)病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)を説明できる。				実務実習プレ教育		
4)薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフ と連携できる。 (態度)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
5) 医師・看護師等の他職種と患者の状態(病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等)、 治療 開始後の変化(治療効果、副作用、心理状態、00L等)の情報を共有する。(知識・態度)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
6) 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療力針に ついて討議(カンファレンスや患者回診への参加等)する。(知識・態度)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
7)医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。 (知識・態度)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
8)医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。(知識・態度)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
9)病院内の多様な医療チーム (ICT、NST、緩和ケアチーム、梅瘡チーム等)の活動に薬剤師の立場で参加できる。(知識・態度)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
【②地域におけるチーム医療】						
1)前)地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制(地域包括ケア)およびその意義に ついて説明できる。				実務実習プレ教育		
2)前)地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。(知識・態度)				実務実習プレ教育		
3)地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。(知識・態度)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
4)地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。(技能・態度)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
(5) 地域の保健・医療・福祉への参画 [B(4)参照]						
[①在宅(訪問)医療・介護への参画]	-	-		_		
諨				実務実習プレ教育		
2)前)在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。				実務実習プレ教育		
3)前)在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。				処方解析 実務実習プレ教育		
4)在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務(訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務) を体験する。(知識・態度)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
5)地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。(知識・ 態度)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
6)在宅患者の病状(症状、疾患と重症度、栄養状態等)とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。(知識・態度)					実務実習(薬局) 実務実習(病院)	
[②地域保健(公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動)への参画]						
1)前)地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動(薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等)について説明できる。			薬物と健康	実務実習プレ教育		
2)前)公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。			公衆衛生学	実務実習プレ教育		
3) 学校薬剤師の業務を体験する。 (知識・技能)			衛生薬学実習		実務実習(薬局) 実務実習(病院)	

1				数	本			
## 1997 # 199		1年	2年	3年		5年	6年	
(2) 特別 他の他の他の他の他の他の他の他の他の他の他の他の他の他の他の他の他の他の他の	マリケア、セルフメディケーションの実践】 [E2 (9)							
2. 0年 (1985年 (1985年 1985年 1	前) 現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーシする。(態度)				実務実習プレ教育			
3. (1) (代表がなまた地間の次書に対するアドイスができる。(地流・電流・ 1) (1) (代表がなまた地間の次書に対するアドイスができる。(地流・電流)				ィジカルアセス ト	実務実習プレ教育			
4. 前) 代表的な主送理像の光帯上がするアドバイスができる。 (知能・態度)	前)代表的な症候に対する薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一な取り扱いと説明ができる。(技能・態度)				実務実習プレ教育			
	前)代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。				フィジカルアセスメ ント実習 実務実習プレ教育			
						実務実習 実務実習		
7. 本条音とないで、条件との推進を発出して、例文を表をとの推進・を送り、 2 まできる。 (2 回版・ 2 を表 2 回 2 の 回 2 を表 3 回 2 の 回 2 の 回 2 を表 3 回 2 の 回 2 の 回 2 の 回 2 を表 3 回 2 の 回 2 の 回 2 の 回 2 の 回 2 を表 3 回 2 の 回 2								
(6.0支援を保護者の使用方法と定条所に適向ではできる。(知識・態度) (6.0支援を保護者の使用方法と定条所に適向で同じてを表所に適向で同じな。(知識・態度) (6.0支援を保護者の使用方法と定条所に適向で同じな。(知識・態度) (6.0支援を保護者の使用方法と定条所に適向で同じな。(知識・態度) (6.0支援を保護者の使用方法と定条所に適向で同じな。(知識・態度) (6.0支援を保護者の使用方法と定条所に適向で同じていてのアドイスを体験する。(知識・態度) (6.0支援を保護力について規数を表して、能度) (6.0支援を保護力について規数を表して、能度) (6.0支援を保護力について規数を表して、能度) (6.0支援を保護力について規数を表して、能度) (6.0支援を保護力について規数を表して、能度) (6.0支援を保護力について規数を表して、2000年について規数を表して、2000年について規模を表し、(地域・技能・態度) (6.0支援を保険力に対して対数できる。(地域・技能・態度) (6.0支援を保険力に対して関係を表して、2000年について規模を表して、2000年によりに必要できる。(地域・技能・態度) (6.0支援を保険力に対して関係を表し、(地域・技能・態度) (6.0支援を保険力に対して関係を表し、(地域・技能・態度) (6.0支援を保険力に対して関係を表し、(地域・技能・態度) (6.0支援を保険力に対して関係を表し、(地域・技能・能度) (6.0支援を保険力に対して関係を表し、(地域・技能・能度) (6.0支援を保険力に対して関係の表して対して関係できる。(地域・技能) (6.0 支援の定数) (6.0 支援を表して、定数的に研究を実施できる。(地域・技能) (6.0 支援の定数) (6.0 支援の定数) (6.0 支援の定数) (6.0 支援の定数) (6.0 支援の定数) (6.0 支援の定数) (6.0 大規を表して、定数的に研究を実施できる。(地域・技能) (6.0 支援の定数) (6.0 大規を表して、定数的に研究を実施できる。(地域・技能) (6.0 大規をのを表して、定数的に研究を表にきる。(地域・技能) (6.0 大規をのを表してはためることができる。(地域・技能) (6.0 対域の影がなどが上のことができる。(地域・技能) (6.0 対域を表に対してまためることができる。(地域・技能) (6.0 対域を表しが定きる。(地域・技能) (6.0 対域を表しが定きる。(地域・技能) (6.0 対域を表しが定きる。(地域・技能) (6.0 対域を表しが定を表し、対域を表しますが上のことができる。(地域・技能) (6.0 対域を表しますが上のことができる。(地域・技能) (6.0 対域を表しますが上のことを行いを表しますが上のことが上のできる。(地域・技能) (6.0 対域を表しますが上のことが上のことを行いを対域を表しますが上のことが上のことが上のことが上のことが上のことが上のことが上のことが上のこと	来局者に対して、病状に合わせた適切な対応(医師への受診勧奨、教急対応、 一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等)を選択できる。(知識・							
(6.0度書降配金を業相配) (6.0度書降配金を業相配) (6.0度書降配金を業相配) (6.0度書降配金を業相配) (6.0度書降配金を業相配) (6.0度書降配金を業相配) (6.0度書降配金を業相配) (6.0度書降配金を業相配) (6.0度書 (6.0度)) (6.0度書 (6.0度)) (6.0度書 (6.0度)) (6.0度 (6.0g)) (6.0g) (6	選択した薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメン 医療機器等の使用方法や注意点などを来局者に適切に判りやすく説明できる。(知識・態度							
(6.0次書時医療と素剤師) (疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。(知識							
1. 前 別 災害物医療について機能できる。	[④災害時医療と薬剤節]							
19 災害時における地域の産業品供給体制・医療機関体制について討論する。 (態度) 19 災害時における地域の医薬品供給体制・医療機関体制について討論する。 (態度) 19 返告時における時候・薬島と薬剤師の役割について討論する。 (態度) 19 基礎から既にご恋る研究の目的と役割について診明できる。 (態度) 19 基礎から既にご恋る研究の目のと役割について診明できる。 (態度) 19 数学を整規に促生が割削性があわられていることを知る。 (態度) 19 数学を整規に促生を規制性があわられていることを知る。 (態度) 19 数学を整規に促生を規制性があられていることを知る。 (態度) 19 数学を整規に促生を規制性があられていることを知る。 (態度) 19 所な問題に発生を提供に定える観測を表す。 (態度) 19 前の変態、患者情報の既に等において機能できる。 (態度) 19 前の変態、患者情報の既に等において機能できる。 (態度) 19 前の変態、患者情報の既に等において機能できる。 (態度) 19 前の変態、患者情報の既に等に対して機能できる。 (地臓・技能) 19 前の変化の呼吸が工化をプラーンで行い、適切な関係を発する。 (知臓・技能・) 19 前の変化のに解決する管理はに、研究計画を立案する。 (知臓・技能・) 19 前の変化のに解決する管理は、強度を検索する。 (知識・技能・) 19 前の変化のに対しているでは、機能・態度) 19 前の変化のに対しているできる。 (知識・技能・) 19 前の変化のに対していているできる。 (技能・態度) 19 前の変化を含めていてはとかることができる。 (技能・地度) 19 前の変化を含めばなとしてまとかることができる。 (技能・) 19 前の変化を含めばなとしてまとかることができる。 (技能・) 19 前の変化を含めばなとしてまとかることができる。 (技能・)					実務実習プレ教育			
3) 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。(態度) (機) (地) 整性における病院・薬局と薬剤師の役割について討関できる。 (1) 基準における研究の位置づけ (1) 基準における研究の位置づけ (2) 研究に任意も研究の目的と役割について説明できる。(知識・技能・態度) (3) 現象を容閣的に投え動機的体をおうしいて概認できる。(知識・技能・態度) (4) 新たな問題に対すく正知の表し、事業のの表し、事業の (5) 研究に雇用に対して、意気的に関するとの。(知識・技能) (5) 研究原題に関する国内外の研究成果を観査し、試験は、評価できる。(知識・技能) (5) 研究原題に関する国内外の研究成果を観査し、試験は、評価できる。(知識・技能) (5) 研究原題に関する国内外の研究成果を観査し、試験を選引し、研究計画を立案する。(知識・技能) (5) 研究原題に関する国内外の研究成果を観査し、試験・技能・態度) (5) 研究原題に関する国内外の研究成果を観査し、試験・技能・態度) (5) 研究原理に関する国内外の研究成果を観査し、試験・技能・態度) (6) 研究の各プロイとでき切りに対象し、適度と (7) 研究原理に関する国内外の研究成果を観査を対し、 (知識・技能・態度) (6) 研究の各プロイとでき切りに対象し、 (知識・技能・態度) (7) 研究の格プロイとでき切りに対象し、 (知識・技能・態度) (6) 研究の格プロインテンコンを行い、適切な関係を必ができる。(知識・技能・態度) (6) 研究の格プロイエンテンコンを行い、適切な関係をができる。(知識・技能・態度) (6) 研究の保護の会がはなどしてまとめることができる。(技能・態度) (7) 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能・数度) (7) 研究の発してまとめることができる。(技能・数度) (7) 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能) (7) 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能) (7) 研究の発してまとかることができる。(技能) (7) 研究の集の数とが表してまとかることができる。(技能・数度) (7) 研究の集の数とが表してまとかることができる。(技能・数度) (7) 研究の集の数とが表してまとかることができる。(技能・数度) (7) 研究の集の数とが表してまとかることができる。(技能) (7) 研究の集の数とが表しますが表しますが表しますが表しますが表しますが表しますが表しますが表します	災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明でき							
(1) 農業における研究の位置づけ 薬学研究 本業研究 本業研究 本業研究 本業研究 本業研究 中業研究 本業研究 中業研究 中業研究 中業研究 本業研究 中業研究 中業研究 本業研究 中業研究 本業研究 <th ro<="" td=""><td>災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></th>	<td>災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>	災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。						
	**							
建学概論 漢学概論 本業研究 本、新研究 本、新研究 工業研究 本、研究 工業研究 本、研究 工業研究 本、研究 工業研究 本、研究 工業研究						_	_	
	基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明でき	薬学概論			卒業研究	卒業研究	卒業研究	
38条を発題的に捉える観察眼をもち、論理的に思える。(知識・技能・態度) 新たな課題にエマレンジする創造的精神を養う。(態度) 新たな課題にオマレンジする創造的精神を養う。(態度)	研究には自立性と独創性が求められていることを知る。	薬学概論			卒業研究	卒業研究	卒業研究	
研究に必要な技機能と倫理 卒業研究 卒業研究 卒業研究 研究に必要な技機能と倫理 自分/実施する研究に係る法令、指針について概能できる。 企業研究 卒業研究 本業研究 自らが実施する研究に係る法令、指針について概能できる。 (態度) A-(2)-④-3再掲 本業研究 本業研究 本業研究 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。 (知識・技能) 本業研究 本業研究 本業研究 研究機器に関する国内外の研究成果を認定し、誘線、評価できる。(知識・技能) 研究財産の実験 本業研究 本業研究 本業研究 研究財国に沿って、意欲的に研究を実施できる。(知識・技能・態度) 研究財産の大口セスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度) 体業研究 本業研究 本業研究 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度) 研究研究 本業研究 本業研究 本業研究 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度) 研究研究 本業研究 本業研究 本業研究 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能) 企業研究 本業研究 本業研究 本業研究 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能) 企業研究 本業研究 本業研究 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能) 企業研究 本業研究 本業研究	現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識				卒業研究	卒業研究	卒業研究	
研究に必要な法拠値と機理 学業研究 本業研究 本業研究 本業研究 中業研究 中、東研究 中、東研究 中、東西のな開放 中、東班院 中華研究 中、東班院 中華研究 中、東班院 中華研究 中、東班院 中華研究	新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。				卒業研究	卒業研究	卒業研究	
自りの実施する研究に係る法令、指揮にごないて、依疑にできる。 中来が劣 中来が劣 中来が劣 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。 エ義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-④-3再掲 本業研究 卒業研究 卒業研究 研究の異性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-④-3再掲 A-案研究 本業研究 本業研究 本業研究 研究成長間に関する国内外の研究成果を調査し、誘解、評価できる。(知識・技能) 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能・態度) 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度) 本業研究 本業研究 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度) 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度) 本業研究 本業研究 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(技能) 知識・技能・態度) 本業研究 本業研究 本業研究 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能) 知識・技能・態度) 本業研究 本業研究 本業研究							## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ##	
研究の実施 本業研究 本業研究 本業研究 研究の実施 本業研究 本業研究 本業研究 研究の実施 研究の実施 本業研究 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度) 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度) 本業研究 研究規具を報告書や論文としてまとめることができる。(技能) 本業研究 本業研究 本業研究 本業研究 本業研究 本業研究 本業研究 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能) 本業研究 本業研究 本業研究 本業研究 本業研究 本業研究 本業研究 研究の表示では、対象を表示では					4.米 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4.	4 * * * * * * *	+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +	
研究の実験 中来がひといる (知識・技能) 本業研究 (知識・技能) 本業研究 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能) 本書のな質問題を表現されます。 本書のなどのよります。 本書のなどのよります。 本書のなどのよります。 本書のなどのよります。 本書のなどのよります。 本書のなどのよります。 本書のなどのよります。 本書のなどのよります。 本書のなどのよりによります。	研究の実施、忠有情報の収扱い等において配慮すへぎ事項について説明でま業性、社会性、諸事性に割虐し、注拍筋を遺立して耳がにいまた				4.米 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4.	4.素蛀究 な養研究	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	
研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)	中牧 は、 など は、 吹火 はい じぶ り、 かがぎら はっ し 、 がい いっぱい ない はい かれ り かれ り ままり 東北 は かまり 東北				X	X	K	
課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能) 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度) 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度) 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑な答ができる。(知識・技能・態度) 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑な答ができる。(知識・技能・態度)	研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。				卒業研究	卒業研究	卒業研究	
研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度) 中業研究 中業研究 研究の各づロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度) 本業研究 本業研究 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度) 本業研究 本業研究 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能) 本業研究 本業研究	課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識				卒業研究	卒業研究	卒業研究	
研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)					卒業研究	卒業研究	卒業研究	
研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度) 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能) ののので表を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)	研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能				卒業研究	卒業研究	卒業研究	
研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。 (技能) 卒業研究 本業研究	研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・				卒業研究	卒業研究	卒業研究	
	研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。				卒業研究	卒業研究	卒業研究	

改訂コアカリ・カリキュラムツリー(1~4年生用)



6 薬物療法における実践的 2 患者・生活者本位の視点 薬剤師に求められる 卒業 学士(薬学)授与 3 コミュニケーション能力 薬剤師国家試験 4 チーム医療への参画 基本的な資質 7 地域の保健・医療に 薬剤師として心構え おける実践的能力 5 基礎的な科学力 8 研究能力 9 自己研鑽 10 教育能力 能力 を身に付け、自ら個性の伸展を図れ 高齢化した現代の多様な課題を発 実習・卒業論文研究等を通し、少子 ④ それぞれの学科においては、① に関する能力や個々の疾患の特殊 見、分析、解決する能力を身に付け 質に加え、各学科独自の専門性を 維持や増進を考え、地域の医療や ① 全学共通のカリキュラムの多面 カを養うとともに、人間・社会・自然 ② 学科・専攻における体系的な学 習と学科を横断する学際的な実務 での学びや、卒業論文等の作成を 論理的思考力、課題単球力、表現 ミュニケーション能力を統合する力 運動・食・健康を基に、人の健康の 漢方薬の知識を修め、医療に寄与 チーム医療で、専門的な薬物治療 的履修を通して、基礎的な学習能 に対する理解を深め、薬学専門領 域を超えて問題を探求する姿勢を ③ 6年間にわたる「講義」、「演習」 通して、知識の活用能力、批判的、 能力、弱者の気持ちを理解したコ ∼③とともに薬剤師の基本的な資 することを重視し、実践する能力 疾病の予防に貢献できる能力 3学科共通の ディプロマ・ポリン ゲイプロマ・ポリシ 3学科固有の 性に対応できる能力 身に付けていること。 身に付けていること 【臨床薬学科】 【健康薬学科】 【漢方薬学科】 ていること。 ること 産業保健論 環境生理学 医療と栄養 健康管理学 地球環境特論 地球保健論 治験業務論 医薬品評価特論 高度先端医療論疾患別治療特論 I. I. 疾患別治療特論 I. 医薬業界論 漢方処方学 漢方品質評価論 臨床漢方治療学 I·I 地域薬局論 漢方困薬概論 疾病少防呼 自液核合学 新薬論 教急医療概論 サプリメント論 OTC薬概論 医療統計学 臨床薬物勤態学 診療科各論 1·1 【共通選択科目】 薬学総合演習 1·2·3·4 6年次 臨床薬剤学 処方解析口 臨床薬剤学 臨床薬学 実務実習 ポスト教育 薬学外国語文献講読 東務実習 (薬局) 実務実習 (病院) 漢方治療学概論 漢方製剤各論 I·I 5年次 卒業研究 医療福祉制度 医薬品 開発論 処方解析 1 食品安全性学 生活習慣病特論 感染予防特論 創薬化学特論 院内感染防御論 ゲノム医療論 薬専関係法規・制度 医療倫理学 医療コミュニケーション論 リスクマネジメント論 病物性化学 無物性化学 無效性化 医療品情報等 医療品情報等 医療動品有用等 素物物體作用等 疾務表習了少教育 疾務表習了少教育 医療藥學適可 區療藥學適可 漢方薬効解析学 漢方理論 I 漢方薬理学 臨床薬学英語 4年次 公衆衛生学 薬局方試験法 食品機能学 薬物と健康 免疫学特論 食品衛生学 I 衛生化学 衛生系実習 民間薬概論 漢方理論 漢方生薬化学 医薬品化学 I·I 天然物化学 微生物薬品学 分子生物学 1⋅1 運動療法概論 臨床栄養学 I・I 臨床物理分析法 家理学実習 薬剤学実習 I・II 基礎薬学演習 薬学英語IV 医療心理学薬剤経済学 3年次 兼理学Ⅱ 病態生理学Ⅲ 薬物治療学Ⅰ 業物動態学Ⅰ 製剤学A・B 調剤学Ⅰ・Ⅱ 物理薬剤学Ⅱ 生薬学A B 機器分析学 I·I 放射化学 物理化学 物理系実習 I·I 薬学英語 工 薬学英語皿 薬理学 I 病態生理学 I・II 物理薬剤学 I 看護学概論 医学概論 医療システム概論 生化学工 微生物学 免疫学 生物系実習I・I 栄養学 精神と健康 ライフステージ栄養学 医療と哲学 心理学 本草学 生薬学特論 薬用植物学特論 物理化学演習 生物有機化学 化学系実習 I· 2年次 食品衛生学 I 有機化学皿·IV 基礎數字 圖語表現 情報科学入門 情報処理演習 人間と哲学/社会と法律/社会/程序 中国語 Fイツ語 入門義理學 中国語 Fイツ語 入門業理學 薬学入門化学 薬学入門物理 薬学入門物理 有機化学 I·I 有 薬学基礎講座 無機化学 基礎化学演習 基礎生物学 基礎物理学 医療薬学 生化学 I 機能形態学 I A·B 機能形態学 I 薬用植物学 衛生薬学 健康薬学概論 運動生理学 運動と健康 (早期体験学習含む) 社会薬学 基礎統計学 ケ護学概論 リハビリテーション概論 1年次 基礎英語 英会話 分析化学] 漢方入門 伝統医薬学 体育実技(自由科目 薬学概論 化学系 漢方薬学科 物理系 臨床薬学科 生物系 健康薬学科 薬学と社会 쾖 批 教養科目 専門への ステップ科目 基礎薬学 草攻科目

旧コアカリ・カリキュラムツリー(5・6年生用)

(基礎資料5) 語学教育の要素

【改訂コアカリキュラム】

된 다 선	即禁欠物			素	
科目名	開講年次	読み	書き	聞く	話す
基礎英語 1	1	0	0	0	
基礎英語 2	1	0	0	0	
英会話 1	1	0	0	0	0
英会話 2	1	0	0	0	0
中国語 1	1	0	0	0	0
中国語 2	1	0	0	0	0
ドイツ語 1	1	0	0	0	0
ドイツ語 2	1	0	0	0	0
薬学英語 1	1	0	0	0	0
薬学英語 2	2	0	0		
薬学英語3	3	0	0	0	0
薬学英語 4	4	0	0	0	0
薬学英語 5	6	0	0		

[備考)3学科(健康薬学科、漢方薬学科、臨床薬学科)共通 [注] 要素欄の該当するものに〇印をお付けください。

(基礎資料5) 語学教育の要素

【旧コアカリキュラム】

科目名	開講年次		要	素	
14日石	用語十次	読み	書き	聞く	話す
基礎英語	1	0	0	0	
英会話	1	0	0	0	0
中国語	1	0	0	0	0
ドイツ語	1	0	0	0	0
薬学英語Ⅱ	2	0	0		
薬学英語Ⅲ	2	0	0	0	0
薬学英語Ⅳ	3	0	0	0	0
臨床薬学英語	4	0	0	0	0
薬学外国語文献購読	5	0	0		

[備考) 3学科(健康薬学科、漢方薬学科、臨床薬学科)共通 [注] 要素欄の該当するものに〇印をお付けください。

(基礎資料6) 実務実習事前学習のスケジュール

<u>3年次</u>

【調剤学】

3年次 調剤学 学習方略

回	日付	曜日	時限	項目	内容	学習目標番号
1	10月1日	月	I 限:健康、漢方: B21 Ⅱ限:臨床:A43	調剤学を学ぶ	講義概要、医療環境、医療にお ける薬剤師の役割、調剤学とは	1~10, 19,
2	10月8日	月	I 限:健康、漢方: B21 II 限:臨床:A43	医療面接と記録	接遇、傾聴・共感、初回面談・ 服薬指導の基本形、POS、SOAP	10, 17, 35, 36, 37
3	10月15日	月	I 限:健康、漢方: B21 II 限:臨床:A43	処方箋(1) 、(2)	処方箋の法的位置づけ、調剤の流れ、処方箋記載事項、オーダリングシステム、電子カルテ、処方箋記載略号、略字 、処方の誤読	14, 15, 19, 26, 27, 32, 53
4	10月22日	月	I 限:健康、漢方: B21 Ⅱ限:臨床:A43	処方箋 (3) 患者特性と処方の注意点 (a) 調剤と臨床活動 (A)	注射処方箋 高齢者の薬物療法 POS・SOAP(演習)、服薬指導 (AL)	10, 11, 17, 21, 27, 36, 37, 39
5	10月29日	月	I 限:健康、漢方: B21 II 限:臨床:A43	処方鑑査と疑義照会、医薬品情 報と調剤	不適切処方箋処理、コミュニケーション、薬用量、医薬品情報源、情報の精査・選択、能動的情報提供	11, 18, 26, 27, 28, 29, 38
6	11月5日	月	I 限:健康、漢方: B21 Ⅱ限:臨床:A43	患者特性と処方の注意点(b) 調剤と臨床活動(B)	小児の薬物療法 POS·SOAP (演習) 、服薬指導 (AL)	10, 11, 17, 20, 36, 37, 39
7	11月14日	水	I 限:健康、漢方: B21 II 限:臨床:A43	剤形と調剤(1) 内用剤	錠剤とカプセル剤の計数調剤、 散剤と内用液剤の計量調剤、倍 散と倍液、メートグラス、メニ スカス、製剤包装	26, 27, 28, 29, 31, 33, 58, 59, 60
8	11月17日	±	I 限:健康、漢方: B21 Ⅱ限:臨床:A43	患者特性と処方の注意点 (c) 調剤と臨床活動 (C)	妊婦の薬物療法 POS・SOAP (演習) 、服薬指導 (AL)	10, 11, 16, 17, 24, 34, 36, 37, 39
9	11月26日	月	I 限:健康、漢方: B21 II 限:臨床:A43	剤形と調剤(2) 外用剤	軟膏剤、点眼剤、吸入剤、製剤 デバイス	26, 27, 28, 29, 31, 33, 37, 58, 59,
10	12月5日	水	I 限:健康、漢方: B21 II限:臨床:A43	剤形と調剤(3) 注射剤-1 患者特性と処方の注意点(d) 調剤と臨床活動(D)	注射剤、輸液剤(特徴) 授乳婦、肝疾患,の薬物療法 POS・SOAP(演習)、服薬指導 (AL)	10, 11, 17, 23, 24, 25, 30, 31, 33, 34, 36, 37, 39, 52, 54,
11	12月8日	±	I 限:健康、漢方: B21 II 限:臨床:A43	医薬品管理(1)購入~供給、 救急等医薬品 医薬品管理(2)麻薬、向精神 薬	在庫管理、デッドストック、棚卸し、ABC管理、救命救急と医薬品 麻薬管理と調剤、向精神薬、覚せい剤、薬物乱用,保険薬局が 支給する注射薬、特定保健医療 材料	13, 17, 40, 41, 42, 57
12	12月10日	月	I 限:健康、漢方: B21 II 限:臨床:A43	剤形と調剤(3) 注射剤-2 患者特性と処方の注意点(e) 調剤と臨床活動(E)	輸液剤(臨床使用目的、各種計算) 腎疾患患者の薬物療法 POS・SOAP(演習)、服薬指導 (AL)	10, 11, 17, 22, 25, 30, 31, 33, 36, 37, 39, 52, 55, 56
13	12月17日	月	I 限:健康、漢方: B21 II 限:臨床:A43	医薬品管理 (3) 血液製剤、ハ イリスク医薬品	血液、血液製剤の需給、輸血用 血液製剤、血漿分画製剤、特定 生物由来製品、ハイリスク医薬 品	43, 44, 49, 51
14	1月7日	月	I 限:健康、漢方: B21 Ⅱ限:臨床:A43	患者特性と処方の注意点(f) 調剤と臨床活動(F)	服薬指導(AL) 薬物相互作用	10, 11, 12, 36, 37, 39
15	1月12日	±	Ⅳ限:健康、漢方、	院内製剤、安全管理	院内製剤、消毒剤、リスクマネ ジメント	45, 46, 47, 48, 50, 51

2 2 3 3 4 基	内容 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷について説明できる。	SB0 ⊐ − F* A- (1) -②-2 A- (1) -②-3
2 2 3 3 4 基	て説明できる。 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。 繁物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。	
2 3 4 9	る。 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。	A- (1) -2-3
4 達		
	薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷について説明できる。	A- (1) -2-7
5 1		A- (1) - 4 -3
J 1	(知識・態度)	A- (1) - 4 -4
6 A	患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。	A- (2) -(3)-2
7 見	患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。	A- (2) -(3)-3
× .	知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。 (知識・技能・態度)	A- (2) -3-4
9 =	チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。	A- (4) -3
10 E	自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)	A- (4) -4
	薬物の選択(禁忌を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因(年齢、疾病、妊娠等) こついて具体例を挙げて説明できる。	E1- (1) -①-7
12 連	薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。	E1- (1) -1-8
13 達	薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。	E1- (1) -①-9
14 導	薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。	E3- (2) -1-1
15 見	患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。	E3- (2) -①-2
-	問題志向型システム(POS)を説明できる。	E3- (2) -(2)-1
<u> </u>	GOAP 形式などの患者情報の記録方法について説明できる。	E3- (2) -(2)-2
-	医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。	E3- (2) -②-3
10	患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。 (A (2) 【③患者の権利】参照)	E3- (2) -2-4
20 1	近出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。	E3- (3) -(2)-1
21 语	高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。	E3- (3) -2-2
77	腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を 说明できる。	E3- (3) -(3)-1
23 A	F疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を 说明できる。	E3- (3) -3-2
	任娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明 できる。	E3- (3) -4-2
25	主射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。	E5- (2) -1-4
26 前	前)処方オーダリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。	F- (2) -2-2
27 前	前)処方箋の様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。	F- (2) -2-3
28 前	前)処方箋の監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。	F- (2) -2-4
29 前	前)処方箋を監査し、不適切な処方箋について、その理由が説明できる。	F- (2) -2-5
	主射薬処方箋の記載事項(医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等)が適切であるか確 忍できる。(知識・技能)	F- (2) -2-8
31 >	主射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。	F- (2) -3-15
32 前	前)後発医薬品選択の手順を説明できる。	F- (2) -3-4
33 前	前)代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。	F- (2) -3-5
	前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの応対や服薬指導において、配慮すべき事項を具 本的に列挙できる。	F- (2) - 4 -2
	前)患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー 歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる《模擬》。(知識・態度)	F- (2) - 4 -3
	前)患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互 作用、保管方法等について適切に説明できる。(技能・態度)	F- (2) - 4 -4
	前) 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤(眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等) D取扱い方法を説明できる。(技能・態度)	F- (2) - 4 -6
38 前	前)薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。	F- (2) - 4 -7

番号	内容	SBOコード
39	前)代表的な疾患の症例についての患者応対の内容を適切に記録できる。(技能)	F- (2) - 4 -8
40	前)医薬品管理の意義と必要性について説明できる。	F- (2) -⑤-1
41	前)医薬品管理の流れを概説できる。	F- (2) -⑤-2
42	前)劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚せい剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。	F- (2) -(5)-3
43	前)特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。	F- (2) -⑤-4
44	前)代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。	F- (2) -⑤-5
45	前)院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。	F- (2) -⑤-6
46	前)薬局製剤・漢方製剤について概説できる。	F- (2) -⑤-7
47	前)医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。	F- (2) -⑤-8
48	前)処方から服薬(投薬)までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。	F- (2) -⑥-1
49	前)特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬 等)の特徴と注意点を列挙できる。	F- (2) -⑥-2
50	前)代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。	F- (2) - 6 -6
51	前)医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。	F- (2) - 6 -7
52	前)基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。	F- (3) -1-1
53	前)患者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬 等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる《模擬》。(技能・態度)〔E3(2)① 参照〕	F- (3) -①-2
54	前)皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。	F- (3) -3-4
55	前)代表的な輸液の種類と適応を説明できる。	F- (3) -3-5
56	前)患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。	F- (3) -3-6
57	在宅療養指導管理料(在宅自己注射指導管理料など)と保険薬局が支給する注射薬、特定 保健医療材料を関連づけて概説できる。	adv-B- (3)
58	代表的な製剤包装、デバイスの特徴を概説できる。	adv-E5- (2)
59	代表的な製剤包装用語を実例を踏まえて概説できる。	adv-E5- (2)
60	代表的な調剤機器の原理と使用法を説明できる。	adv-F- (2)
61	代表的な医薬品送達デバイスの使用法について概説できる。	adv-F- (2)

【医療倫理学】

3年次 医療倫理学 学習方略

回	日付	曜日	時限	項目	内容	学習目標番号
1	10月2日	火	I 限:健康、漢方: B21 Ⅱ 限:臨床:A43	導入、生命倫理・医療倫理	生命倫理の方法と医療倫理 FIP薬剤師倫理規定 医薬品の研究・開発・供給のプロセス 遵守すべき諸基準 (GLP, GCP, GMP, GVP, GPSP) ハーモナイズド会議, ICH-GCP, 創薬ビジョン,治験とGCP GLPと動物実験の倫理 人を対象と生物医学研究の 国際研究に関する倫理指針 利益相反 医薬品知的所有権 PL法 オーファマコゲノス Professionとしてリハット	8, 9, 11, 14, 16, 17, 18, 20, 21, 22, 23, 25, 26, 33, 38

回	日付	曜日	時限	項目	内容	学習目標番号
2	10月9日	火	I 限:健康、漢方: B21 II 限:臨床:A43	患者の権利と生命倫理(1) 臨床研究の倫理(1)	日本薬剤師会薬剤師倫理綱領・倫理規定 テクノシステムの非人間性、プロクルステスアドルフ・アイヒマンとアイヒマン裁判、薬剤師自由化医療機能評価機構リスクマネージで高文の評価自己学での説が、学習方法(PBL, POS)医療施設と健康保険法	6, 7, 11, 19, 34
3	10月16日	火	I 限:健康、漢方: B21 II 限:臨床:A43	患者の権利と生命倫理(2)	バイオエシックス インフォームドコンセント 道徳主義、改良主義、ピューリタ ニズム、パターナリズム、マター ナリズム 生命倫理の四原則、ベルモント・ レポート ジュネーブ宣言 ヒポクラテスの誓い 医の倫理綱領、医師の職業倫理指 針	15, 18, 20, 22, 25
4	10月22日	火	I 限:健康、漢方: B21 II 限:臨床:A43	臨床研究の倫理(2) 患者の権利と生命倫理(3)	ニュールンベルク綱領 ヘルシンキ宣言 リスボン宣言 患者の権利章典 WHO憲章 世界人権宣言 ゴルスコ宣言 エネスコ・アド宣 アルリー マドリ悪章	18, 20, 22, 25
5	10月30日	火	I 限:健康、漢方: B21 II 限:臨床:A43	薬剤師の倫理(1) 人のこころ(1)	患者中心の医療とチーム医療 医療者と患者関係に ミュニケーション EBMとNBM 疾病(disease)と病 (illness) DOSとPOS ケアとキュア ファー両向型システム(POS) がアとキュア ファー両向型シスステム(POS) 対野の仕事、SOAP 苦しみ(sffering)の意味と医標 科学的的コミュニケーシの構 言言ミュニケーシッ構 国主にアーシーンの 実生のションに 要 大力のでは、これで、とまれて、 は、これで、これで、 要 大力のでは、 は、これで、 は、これで、 は、これで、 は、これで、 は、これで、 は、これで、 は、これで、 は、これで、 は、これで、 は、 は、これで、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	10, 28, 29, 30, 31
6	11月8日	木	I限:臨床:A43 Ⅱ限:健康、漢方: B21	薬剤師の倫理(2) 人のこころ(2)	非言語的コミュニケーションと 文化 ステレオタイプ 対人関係における心理的要因 自己評価で 積極的ション、アサーション・トレーニング 自気行動のタイプ 病気の受容五段階モデル 緩和ケア、輸血拒否	4, 5, 6, 7, 10, 28, 29, 30, 31, 32, 35
7	11月13日	火	I 限:健康、漢方: B21 Ⅱ限:臨床:A43	薬害と生命倫理(1)	薬害の定義と歴史 薬害の原因 サリドマイド スモン 薬害エイズ 薬害C型肝炎 薬害防止対策 薬害被害の補償	12, 13, 14, 20, 33, 34, 39

回	日付	曜日	時限	項目	内容	学習目標番号
8	11月16日	金	I 限:健康、漢方: B21 Ⅱ限:臨床:A43	薬害と生命倫理(2)	スモン 薬害エイズ 薬害C型肝炎 C型肝炎治療 薬害防止対策	12, 13, 14, 20, 33, 34
9	11月29日	金	I 限:健康、漢方: B21 Ⅱ 限:臨床:A43	生殖医学と生命倫理	生殖技術, 人工授精, 体外受精 AID 顕微授精 代理母 クローン技術 (生殖クローン, 治療用クローン) ES・i PS細胞 出生前診断 人工妊娠中絶 パーソン論 世界の法的状況	5, 6, 7, 14, 16, 17, 20
10	12月6日	木		先進医療と生命倫理 終末期医療と生命倫理(1)	先端医療技術と人間の尊厳 権利と尊厳 胚の身分-潜在性の問題 妊娠中絶の法的規制モデル 脳死・臓器移植と生命倫理 デッド・ドナー・ルール 三徴候死 死の概念 死亡判定基準 重度脳障害	5, 6, 7, 16, 17
11	12月7日	金	I 限:健康、漢方: B21 II 限:臨床:A43	終末期医療と生命倫理(2)	脳死状態の概念 脳死判定基準, 法的脳死判定 臓器移植 延命とQOL 安楽死 尊厳死	5, 6, 7, 16, 17
12	12月11日	火	I 限:健康、漢方: B21 II 限:臨床:A43	人のこころ (3)	心の病気とその判断基準 DSMとICD アディクション 神経症 強迫神経症 パニック障害 転換性障害 転合失障調症 損民障害 摂民障害 派のプロック があるないである。 があるないである。 があるないである。 があるないでは、 がなないでは、 がないでは、 がないでは、 はないでは、 がないでは、 はないでは、 がないでは、 はないでは、 がないでは、 がないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでも、 はないでも、 はないでも、 はないでも、 はないでも、 はないでも、 はないでも、 はないでも、 はないでも、 はないでも、 とないでも、 はないでも、 はないと、 はないと、 はないと、 はないと、 はないと、 はないと、 はないと、 はないと、 とないと、 もないと、 はないと、 はないと、 もないと、 はないと、 はないと、 もないと、 はないと、 はないと、 もないと、 もないと、 もないと、 もないとないと、 はないとない。 もないと、 はないと、 もないと、 もない。 はないと、 もないと もな。 はないと、 もない。 もな、 もない。 もな、 もない。 もない。 もない。 もな。 もな。 もな。 もな。 もな。 もな。 もな。 もな。 もな。 もな	35, 44~51
13	12月18日	火	I 限:健康、漢方: B21 Ⅱ限:臨床:A43	人のこころ (4) 守秘義務と法的責任	心の病気とその判断基準 解離性同一性障害 性同一性障害 心的外傷後ストレス障害 アスペルガー症候群 薬剤師と個人情報, 守秘義務 薬剤師の法的責任	24, 35, 37, 38, 40, 43, 52, 53, 54
14	1月8日	火	I 限:健康、漢方: B41-44 II 限:臨床:B41-44	小グループ討議(SGD)	生命倫理(1)	1~7, 14, 16, 21, 24, 27, 36, 40, 41, 42
15	1月16日	火	I 限:健康、漢方: B41-44 Ⅱ限:臨床:B41-44	小グループ討議(SGD)	生命倫理(2)	1~7, 14, 16, 21, 24, 27, 36, 40, 41, 42

番号	内容	SBO⊐−ド
	常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態	A- (1) -(1)-1
1	度)	A- (I) -()-I
2	患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)	A- (1) -①-2
3	チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)	A- (1) -①-3
4	患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	A- (1) -1-4
5	生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	A- (1) -(1)-5
6	一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	A- (1) -①-6
7	様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明す る。 (知識・態度)	A- (1) -①-7
8	医薬品の効果が確率論的であることを説明できる。	A- (1) -(2)-4
9	医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。	A- (1) -2-5
10	WHO による患者安全の考え方について概説できる。	A- (1) -3-2
11	医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。	A- (1) -3-3
12	代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、 その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。	A- (1) -3-6
13	代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議 する。 (知識・態度)	A- (1) -3-7
14	生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度)	A- (2) -1-1
15	生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。	A- (2) -1-2
16	生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	A- (2) -①-3
17	科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。	A- (2) -1-4
18	医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。	A- (2) -2-1
19	薬剤師が遵守すべき倫理規範(薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等)について説明できる。	A- (2) -(2)-2
20	医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	A- (2) -2-3
21	患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)	A- (2) -(3)-1
22	患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。	A- (2) -3-2
-	患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。	A- (2) -(3)-3
24	知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。 (知識・技能・態度)	A- (2) -3-4
25	臨床研究における倫理規範(ヘルシンキ宣言等)について説明できる。	A- (2) - 4 -1
26	「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。	A- (2) - 4 -2
27	正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)	A- (2) - 4 -3
28	意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。	A- (3) -①-1
29	言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。	A- (3) -(1)-2
30	相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙 げて説明できる。	A- (3) -(1)-3
31	対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。	A- (3) -1-4
32	患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。	A- (3) -2-1
33	「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	A- (5) -2-1
34	生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	A- (5) -3-1
35	人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。	B- (1) -1
36	薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)	B- (1) -4
37	個人情報の取扱いについて概説できる。	B- (2) -1-7
38	薬剤師の刑事責任、民事責任(製造物責任を含む)について概説できる。	B- (2) -(1)-8
39	健康被害救済制度について説明できる。	B- (2) -(2)-10
40	患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。 (A (2) 【③患者の権利】参照)	E3- (2) -2-4
41	前)医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)	F- (1) -2-1

番号	内容	SBO⊐−ド
42	前)患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべ き個々の対応ができる。(態度)	F- (1) -2-2
43	ジェンダーの形成について概説できる。	adv-A- (3)
44	DSMとICDについて概説できる。	adv-A- (3)
45	依存症と嗜癖との関係について概説できる。	adv-A- (3)
46	神経症、脅迫神経症、パニック障害について概説できる。	adv-A- (3)
47	転換性障害について概説できる。	adv-A- (3)
48	統合失調症について概説できる。	adv-A- (3)
49	摂食障害(拒食症と過食症)、睡眠障害について概説できる。	adv-A- (3)
50	適応障害について概説できる。	adv-A- (3)
51	パーソナリティー障害について概説できる。	adv-A- (3)
52	性同一性障害について概説できる。	adv-A- (3)
53	心的外傷後ストレス障害について概説できる。	adv-A- (3)
54	アスペルガー症候群について概説できる。	adv-A- (3)

【フィジカルアセスメント】

3年次 フィジカルアセスメント 学習方略

回	日付	曜日	時限	項目	内容	学習目標番号
1	10月5日	金	I 限:健康、漢方: B21 II 限:臨床:A43	イントロダクション、中枢神経 系のフィジカルアセスメン	薬剤師におけるフジカルアセス メントの意義、 意識、対光反射	1, 2, 3, 9~ 17, 19, 20, 21
2	10月12日	金	I 限:健康、漢方: B21 Ⅱ限:臨床:A43	循環器系のフィジカルアセスメ ント-1	脈拍、心拍数、血圧	4, 5, 8~17, 19, 20, 21
3	10月19日	金	I 限:健康、漢方: B21 II 限:臨床:A43	循環器系のフィジカルアセスメ ント-2	心音、聴診からの評価、心電 図、体温、浮腫	4, 5, 9~17, 19, 20, 21
4	10月26日	金	I 限:健康、漢方: B21 II 限:臨床:A43	呼吸器系のフィジカルアセスメ ント-1	呼吸数・型・リズム・深さ、経 皮的動脈血酸素飽和度	6, 9~17, 19, 20, 21
5	11月1日	金	I 限:健康、漢方: B21 Ⅱ限:臨床:A43	呼吸器系のフィジカルアセスメント-2 消化器系のフィジカルアセスメント	呼吸音、、聴診からの評価 腸蠕動音	6, 7, 9~17, 19, 20, 21
6	11月30日	金	I 限:健康、漢方: B21 II 限:臨床:A43	症例検討(1)	症例に対する薬剤師のフィジカ ルアセスメント (基本的考え 方を理解する)	9~17, 19, 20, 21, 22
7	12月14日	金	I 限:健康、漢方: B21 Ⅱ限:臨床:A43	症例検討(2)	症例に対する薬剤師のフィジカルアセスメント (糖尿病、心疾患、精神神経疾患、感染症を中心に)	9~21, 23, 24, 25
8	12月21日	金	I 限:健康、漢方: B21 Ⅱ限:臨床:A43	症例検討(3)	症例に対する薬剤師のフィジカルアセスメント (糖尿病、心疾患、精神神経疾患、感染症を中心に)	9~21, 23, 24, 25
9	1月4日	金	I 限:健康、漢方: B21 Ⅱ限:臨床:A43	症例検討(4)	症例に対する薬剤師のフィジカルアセスメント(がん、高血圧症、脳血管障害、免疫・アレルギー疾患を中心に)	9~21, 23, 24, 25
10	1月11日	金	I 限:健康、漢方: B21 Ⅱ限:臨床:A43	症例検討(5)	症例に対する薬剤師のフィジカルアセスメント(がん、高血圧症、脳血管障害、免疫・アレルギー疾患を中心に)	9~21, 23, 24, 25

番号	内容	SBO⊐− ⊦
1	保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。	A-(4)-2-1
2	多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。	A-(4)-2-2
3	チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。	A-(4)-2-3
4	心臓について概説できる。	C7-(1)-⑦-1
5	血管系について概説できる。	C7-(1)-⑦-2
6	肺、気管支について概説できる。	C7-(1)-®-1
7	胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。	C7-(1)- <u></u> 9-1
8	血圧の調節機構について概説できる。	C7-(2)- (5)-1
	以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・喀血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満(腹水を含む)、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常(しびれを含む)・神経痛、視力障害、聴力障害	E1-(2)-①- 1
10	代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	E1-(2)-(2)-8
	代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作 用、相互作用を列挙できる。	F-(2)-(2)-1
12	代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。	F-(2)-4-5
13	基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。	F-(3)-①-1
	身体所見の観察・測定(フィジカルアセスメント)の目的と得られた所見の薬学的管理へ の活用について説明できる。	F-(3)-①-3
15	基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。	F-(3)-①-4
	代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査 所見等を具体的に説明できる。	F-(3)- 4 -1
17	代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。	F-(3)-4-2
18	代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立 案を行い、SOAP 形式等で記録できる。	F-(3)-(4)-3
19	臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。	F-(3)- 4 -7
20	薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。	F-(3)-(4)-8
21	副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。	F-(3)-(4)-9
	代表的な症候(頭痛・腹痛・発熱等)を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推 測、適切な対応の選択ができる。	F-(5)-3-2
23	代表的な疾患症例における薬学的問題点をリストアップして、患者情報やフィジカルアセ スメント情報・症候などとの関係について説明できる。	adv-E1- (2)
24	リストアップされた問題点の解決に向けて、フィジカルアセスメント等の知識を用い、処 方解析や副作用チェックなどの観点から評価することができる。	adv-F- (3)
25	フィジカルアセスメント等の知識を用い、評価した内容について、疑義照会や処方提案内 容を計画できる。	adv-F- (3)

【薬剤学実習1】

3年次 薬剤学実習 1 学習方略

回	日付	曜日	時限	項目	内容	学習目標番号		
1			Ⅳ限~Ⅵ限	錠剤、カプセル剤の品質管理	重量偏差試験,崩壊試験,硬度 試験,摩損度試験	2		
2			Ⅳ限~Ⅵ限	錠剤,カプセル剤の品質管理	溶出試験	1, 3		
3			Ⅳ限~Ⅵ限	軟膏剤、クリーム剤及び坐剤の 製剤	クリーム剤の調製と乳化型の判別および坐剤の調製	7		
4	下記参照		下記参照		IV限~VI限	使用上の説明が必要な製剤(吸 入剤、自己注射剤等)の取扱い 方法と薬効評価	吸入剤、自己注射剤などの服薬 指導と薬効評価	1, 3, 4
5			Ⅳ限~Ⅵ限	注射剤の製造	クリーンルームで注射剤を製造	1, 3, 4		
6			IV限~VI限 注射剤の無菌調製 注射剤無菌調製の基本的技術		注射剤無菌調製の基本的技術	4		
7			IV限~VI限 抗がん剤の調製 抗がん剤の混合調製		5			
8			Ⅳ限~Ⅵ限	配合変化	散剤、水剤、注射剤の配合変化	6		

2018年度 薬剤学実習1 予定表

		ATIT			DIF		>> 41 dales A -d- //		剤
C	班	A	班	В:	B班		己合変化	軟膏製剤試験法	
	実習室						13 習 室 2)		12 <u></u> 写室1)
4/16	(月)	5/7	(月)	5/21	(月)	実習ガイダンス (講義終了後) A12			
4/17	(火)	5/8	(火)	5/22	(火)	1		2	
4/18	(水)	5/9	(水)	5/23	(水)	1		2	
4/19	(木)	5/10	(木)	5/24	(木)	1			2
4/20	(金)	5/11	(金)	5/25	(金)		1		2
4/24	(火)	5/15	(火)	5/29	(火)	2		1	
4/25	(水)	5/16	(水)	5/30	(水)	2		1	
4/26	(木)	5/17	(木)	5/31	(木)	2			1
4/27	(金)	5/18	(金)	6/1	(金)		2		1

番号	内容	SBOコード
	製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について 説明できる。	E5- (2) -2-2
2	製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。	E5- (2) -(2)-4
3	院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。	F- (2) -(5)-6
4	無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。	F- (2) -3-6
5	抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的手技を実施できる。	F- (2) -3-7
6	代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。	F- (2) -3-5
	患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤(眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等)の取扱い方法を説明できる。	F- (2) - 4 -10

【薬剤学実習2】

3年次 薬剤学実習 2 学習方略

回	日付	曜日	時限	項目	内容	学習目標番号		
1			Ⅳ限~Ⅵ限	計数調剤、計量調剤	計数調剤、計量調剤のシミュ レート	1, 2, 8		
2	下記参照				IV限~VI限 計量調剤 計量調剤のシミュレート		計量調剤のシミュレート	2, 8
3			IV限~VI限 調剤鑑査 調剤された医薬品の鑑査をシ ミュレート		3			
4			Range IV限~VI限 注射剤の無菌調製 無菌操作の実践		無菌操作の実践	4, 10		
5			Ⅳ限~Ⅵ限	医療面接(1)	患者・来局者応対	5, 6		
6			Ⅳ限~Ⅵ限	医療面接(2)	入院患者への応対	5, 6		
7			IV限~VI限 医療面接(3) 患者・来局者への服薬指導		5, 7, 9			
8			Ⅳ限~Ⅵ限	医療面接(4)	入院患者への服薬指導	5, 7		

2018年度 薬剤学実習 2 日程表

			患者応対	調剤			監査・無菌		
Aグループ	Bグループ	Cグループ	初回面談	計数調剤		計量調剤		薬剤監査	
Aグルーフ	ログループ	0970-3	情報提供	司 数 副 河	軟膏剤	散剤	水剤	無菌操作	
	実習場所		B41~44	薬	削学実習室	E II (C13))	薬剤学実習室 I (B12)	
10/2 (火)	10/18 (木)	11/7 (水)	オ	リテーショ	ン(A22)				
10/3 (水)	10/19 (金)	11/8 (木)		3				(A)	
10/4 (木)	10/23 (火)	11/9 (金)	(1)(a)			3		4	
10/5 (金)	10/24 (水)	11/13 (火)	12	4				3	
10/9 (火)	10/25 (木)	11/14 (水)				(2	0	3)	
10/10 (水)	10/26 (金)	11/15 (木)		1				a	
10/11 (木)	10/30 (火)	11/16 (金)	200			1		2	
10/12 (金)	10/31 (水)	11/27 (火)	34	2				1	
10/16 (火)	11/1 (木)	11/28 (水)				2		1	

番号	内容	SBOコード
1	処方せんに従って、計数調剤ができる。	F- (2) -3-3
2	処方せんに従って、計量調剤ができる。	F- (2) -3-3
3	調製された薬剤に対して、監査が実施できる。	F- (2) -3-8
4	無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。	F- (2) -3-6
5	適切な態度で、患者・来局者と応対できる。	F- (2) -4-1
6	患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬 歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。	F- (2) - 4 -3
7	患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作 用、保管方法等について適切に説明できる。	F- (2) - 4 -4
8	薬袋、薬札(ラベル)に記載すべき事項を適切に記入できる。	F- (2) -3-1
9	処方せん等に基づき疑義照会ができる。	F- (2) -(2)-11
10	衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。	F- (2) -6-5

<u>4年次</u>

【フィジカルアセスメント実習】

4年次 フィジカルアセスメント実習 学習方略

回	日付	曜日	時限	項目	内容	学習目標番号
1			Ⅳ限~Ⅵ限	健常者の身体所見	身体所見(健常者)の観察・測 定・評価(フィジカルアセスメ ント)を体験する。	1, 8, 12
2			Ⅳ限~Ⅵ限	模擬患者(シミュレーター)の 身体所見	模擬患者の身体所見(シミュレーター)の観察・測定・評価 (フィジカルアセスメント)を 体験する。	1, 7, 8, 12
3	下記参	照	Ⅳ限~Ⅵ限	模擬症例の検討(1)	模擬症例の身体所見(シミュレーター)の観察・測定・評価(フィジカルアセスメント)をおこない、得られた情報を薬学的管理へ活用することを討議する。	1~6, 8~14
4			Ⅳ限~Ⅵ限	模擬症例の検討(2)	模擬症例の身体所見(シミュレーター)の観察・測定・評価(フィジカルアセスメント)をおこない、得られた情報を薬学的管理へ活用することを討議する。	1~6, 8~14

医薬品情報実習、フィジカルアセスメント実習、薬剤学実習3 班分表

日付	医薬品情報実習	フィジカルアセスメント実習	薬剤学実習 3
6/12-6/15	В	С	D
6/19-6/22	С	D	A
6/26-6/29	D	A	В
7/3-7/6	A	В	C

番号	内容	SB0⊐−ド
1	常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。 (態度)	A- (1) -①-1
2	患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)	A- (1) -①-2
3	チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)	A- (1) -①-3
4	患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)	A- (1) -2-1
5	重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を 討議する。(知識・態度)	A- (1) -3-5
6	チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)	A- (4) -5
7	実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。 (技能)	C7- (1) -3-3
8	前)適切な態度で、患者・来局者と応対できる《模擬》。(態度)	F- (2) - 4 -1
9	前)患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー 歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる《模擬》。(知識・態度)	F- (2) - (4)-3
10	前)患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互 作用、保管方法等について適切に説明できる。(技能・態度)	F- (2) -4-4

番号	内容	SBOコード
	前)患者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる《模擬》。(技能・態度)〔E3(2)①参照〕	F- (3) -①-2
12	前)基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる《模擬》。(知識・技能)	F- (3) -①-4
13	前)代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる《模擬》。(知 識・技能)	F- (3) - 4 -2
14	前)代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる《模擬》。(知識・態度)	F- (5) -3-4

<u>4年次</u>

【実務実習プレ教育】

4年次 実務実習プレ教育 学習方略

日付		項目	到達目標 (SBO)	SBO対応番号	学習方法	Ⅳ限	V限	VI限 (16:45- 17:30)	VI限 (16:45- 18:15)	コマ数
			事前学習について概説できる。	84	講義	0				
		臨床にお	薬局実務実習の概略について説明できる 輝け!未来の薬剤師たち (日本薬剤師会編;31分間)	84	DVD	0				
4月17日	火	ける心構 え	ミニテスト		ミニテスト	0				2. 5
			医療人としてのマナーの必要性が説明できる。 礼儀、笑顔の大切さについて説明できる。 報告、連絡、相談の大切さについて説明できる。	85, 86, 87	講義		0			
		臨床実習 の基礎	薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。 薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。	8, 9	講義		0	0		
		臨床実習 の基礎	病院における薬剤師業務全体の流れを概説できる。 病院で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。	8, 9	講義	0				
4月18日	水	処方せん に基づく 医薬品の 調製	処方せんに従って、計数・計量調剤ができることを確認する (1)。		確認テスト マークシート	0				2. 5
			調剤業務に関わる事項(処方せん、調剤録、疑義照会等)の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。 薬剤師の関わる社会保障制度(医療、福祉、介護)の概略を説明できる。	12, 13, 27	講義		0	0		
		臨床実習 の基礎	病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と 関連を概説できる。 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相 互に関連づけて説明できる。	10. 11	講義	0				
4月19日	木		ミニテスト		ミニテスト	0				2. 5
		処方せん と疑義照 会	処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。 処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明で きる。 ⇒治療薬マニュアルを使用する	17, 18	課題演習 講義		0	0		
		処方せん と疑義照 会/処方せ んに基づ	拠方オーダリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。 主な医薬品の成分(一般名)、商標名、剤形、規格等を列挙でき	15, 16, 20, 21	講義	0				
4月20日	金	く医薬品 の調製	ミニテスト		ミニテスト	0				2. 5
		処方せん と疑義照 会	代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。 (1) ⇒治療薬マニュアルを使用する	14, 17, 18, 19, 20, 21, 34, 102	課題演習 講義		0	0		
		処方せん に基づく 医薬品の 調製	代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由 を説明できる。	22	講義	0				
4月24日	火		ミニテスト		ミニテスト	0				2. 5
			無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的 手技を実施できる。	23, 24	講義		0	0		
4月25日	水	薬物療法 に対果と副 作用の評 価	PBL 症例1 (高血圧、糖尿病) 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な	1, 2, 3, 4, 5, 6, 26, 43, 51, 52, 53, 68, 96 104	SGD	0	0		0	3
		処方せんと疑義照	評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP 形式等で記録できる。 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用 量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。(2) ⇒治療薬マニュアルを使用する	14, 17, 18, 19, 20, 21, 34, 102	課題演習講義	0				
4月26日	木	会 :	ミニテスト		ミニテスト	0				2. 5
		患者 ・応 薬 指 教 指 教 育	服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの応対や服薬指導において、配 慮すべき事項を具体的に列挙できる。	25, 27, 89	講義		0	0		
		医薬品の	医薬品管理の意義と必要性について説明できる。 医薬品管理の流れを概説できる。 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。	7, 29, 30, 36	講義	0				
4月27日	金	供給と管 理	ミニテスト		ミニテスト	0				2. 5
			劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚せい剤原料等の管理と取り扱 いについて説明できる。	7, 31	講義		0	0		
		処方せん に基づく 医薬品の 調製	処方せんに従って、計数・計量調剤ができることを確認する (2)。		試験 マークシート	0				
5月1日	火	処方せん と疑義照 会	これまでの講義内容を試験(治療薬マニュアル使用可能)	14, 17, 18, 19, 20, 21, 34, 102	試験 マークシート	0				2. 5
		医薬品の 供給と管 理	代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。	7, 33	講義		0	0		

日付		項目	到達目標 (SBO)	SBO対応番号	学習方法	IV限	V限	VI限 (16:45- 17:30)	VI限 (16:45- 18:15)	コマ数	
5月2日	水	安全管理	PBL 事例2 (医療事故事例を検証する) 代表的なインシデント (ヒヤリハット)、アクシデント事例を解析 し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対 処法を討議する。	1, 2, 3, 4, 39	SGD	0	0		0	3	
5月8日	火	薬物療法 における 効果と副 作用の評 価	PBL 症例 3 (感染症)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 43, 51, 52, 53, 96, 104	SGD	0	0		0	3	
		安全管理	特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、 使用制限のある薬等)の特徴と注意点を列挙できる。	38	講義	0					
5月9日	水	医薬品の 供給と管 理	ミニテスト 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明でき	34	ミニテスト	0	0	0		2. 5	
		-	る。 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。	7. 32	講義	0	0				
		医薬品の		7, 02	ミニテスト	0					
5月10日	木	供給と管 理	薬局製剤について概説できる。	35	講義		0			2. 5	
			漢方製剤について概説できる。	35	講義		0	0			
			処方から服薬(投薬)までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。 誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。	37, 42	講義	0					
5月11日	金	安全管理	ミニテスト		ミニテスト	0				2. 5	
			リスクを回避するための具体策を提案する。	37, 91	講義		0				
			事故が起こった場合の対処方法について提案する。	37, 92	講義			0			
		安全管理	感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。 る。	40, 41	講義	0					
5月15日	火		ミニテスト		ミニテスト	0				2. 5	
		処方設計 と提案	皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明 できる。 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。	48, 49	講義		0	0			
			患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。	50	講義	0					
5月16日	水	処方設計 と提案	ミニテスト		ミニテスト	0				2. 5	
		C IZX	代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。	45	講義		0	0			
			病態(肝・腎障害など)や生理的特性(小児、高齢者など)等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。	46	講義	0	0				
5月17日	木	処方設計 と提案	ミニテスト		ミニテスト	0				2. 5	
			生理的特性 (妊婦・授乳婦)を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。	46	講義		0	0			
		処方設計 と提案	患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。	47	講義	0					
5月18日	金		ミニテスト		ミニテスト	0				2	
		地域の保 健・医 療・福祉 への参画	在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。	55, 57, 58, 59, 60, 61, 62	講義		0				
5月22日	火	地域の保 健・医 療・福祉 への参画	PBL 症例4 (在宅医療) 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。	1 , 2, 3, 4, 5, 6, 28, 55, 57, 58, 59, 60, 61, 62	SGD	0	0		0	3	
		地域の保健・福祉条の参画	地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制(地域包括ケア) およびその意義について説明できる。	57, 97	講義	0					
5月23日	лk		ミニテスト		ミニテスト	0				2	
27,12011	-10	医療機関におけるチェール医療	チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)を説明できる。	54, 55, 56	講義		0				
		薬物療法	ミニテスト		ミニテスト	0					
5月24日	木	における 効果と副 作用の評 価	代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な 評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP 形式等で記録できる。 患者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お 薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。	43, 51, 52, 53	講義	0	0	0		2. 5	

日付		項目	到達目標 (SBO)	SBO対応番号	学習方法	Ⅳ限	V限	VI限 (16:45- 17:30)	VI限 (16:45- 18:15)	コマ数
		医療機関	がん疼痛治療における薬剤師の役割について説明できる。	54, 93	講義	0				
5月29日	火	における チーム医	ミニテスト		ミニテスト	0				2
		療	がん化学療法とがん専門薬剤師の役割について説明できる。	54, 94	講義		0			
5月30日	水	薬物療法 における 効果と副 作用の評 価	PBL 症例 5 (心疾患)	1 , 2, 3, 4, 5, 6, 26, 43, 51, 52, 53, 68, 96, 104	SGD	0	0		0	3
		薬物療法 における 効果と副 作用の評 価	PBL 症例6 (緩和ケア)	1 , 2, 3, 4, 5, 6, 43, 51, 52, 53, 96, 104	SGD	I 限 O	II限 O			2
5月31日	木	プライマ リケア、 セルフメ ディケー ション	代表的な症候(頭痛・腹痛・発熱等)を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。 代表的な症候に対する一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。	65, 66, 97, 98, 99, 101, 102	講義	0				2
		医療機関における	ミニテスト		ミニテスト	0				
		チーム医療	栄養治療とNSTについて説明できる。	54, 95	講義		0			
		薬物療法 における 効果と副 作用の評 価	PBL 症例7 (がん)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 43, 51, 52, 53, 96, 104	SGD	0	0		0	3
			公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。	64	講義	I 限				
		地域保健	地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動(薬物乱用防止、自 殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等)について説明でき る。	63	講義		I限			2
6月5日	火	地域保健 災害時医 療と薬剤 師	災害時医療について概説できる。	68	講義		I限			
		プライマ リケア、 セルフメ ディケー ション	PBL 症例8 (症候 (頭痛・腹痛・発熱等)を示す来局者) 代表的な症候 (頭痛・腹痛・発熱等)を示す来局者について、適切 な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。 代表的な症候に対する一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができ る。	1 , 2, 3, 4, 5, 6, 65, 66, 67, 100, 103	SGD	0	0		0	3
6月12日 ~ 7月6日	~	医薬品情 報の収集 と活用	医薬品情報実習(詳細は下記参照) (同時期にフィジカルアセスメント実習と薬剤学実習皿も 実施される)	1, 2, 3, 6, 7, 43, 44, 51	実習 & 演習					
7月11日	水	薬物療法 における 効果と副 作用の評 価	PBL 症例9 (脳血管障害又は精神疾患)	1 , 2, 3, 4, 5, 6, 26, 43, 51, 52, 53, 68, 96, 104	SGD	0	0		0	3
7月12日	木	薬物療法 における 効果の副 作用の評価	PBL 症例10 (アレルギー・免疫疾患)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 26, 43, 51, 52, 53, 68, 96, 104	SGD	0	0		0	3
7月18日	水	評価	実務実習事前学習 知識に対する評価		試験	0				1

講義コマ数小計 77.5

医薬品情報実習

日付		項目	到達目標 (SBO)	SBO対応番号	学習方法	Ⅳ限	V限	VI限 (16:45- 17:30)	VI限 (16:45- 18:15)	コマ数
1日目	火		PMDAから最新の添付文書を入手して、クイズを解く。	44		0	0		0	2. 5
2日目		医薬品情 報の収集	PMDAから最新のインタビューフォームを入手して、クイズを解く。	44	実習 &	0	0		0	2. 5
3日目			厚生労働省ホームページから重大な副作用情報を収集・整理・加工 して発表する。	1, 2, 3, 44, 51	演習	0	0		0	2. 5
4日目	金		患者用薬の説明書を作成してみよう。	1, 2, 3, 6, 7, 43, 44, 51		0	0		0	2. 5

実習演習コマ数小計 10

番号	内容	SBO⊐− ⊦
1	医療と薬学の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における役割 を理解し、薬剤師としての使命感を身につける。	A- (1)
2	倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身につけ、医療の担い手としての感性を養う。	A- (2)
3	患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につける。	A- (3)
4	医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種の連携の必要性を理解し、チームの一員としての 在り方を身につける。	A- (4)
5	生涯にわたって自ら学ぶことの必要性・重要性を理解し、修得した知識・技能・態度を確実に次世代へ継承する意欲と行動力を身につける。	A- (5)
6	人の行動や考え方、社会の仕組みを理解し、人・社会と薬剤師の関わりを認識する。	B- (1)
7	調剤、医薬品等(医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器)の供給、その他薬事衛生に係る 任務を薬剤師として適正に遂行するために必要な法規範とその意義を理解する。	B- (2)
8	病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。	F- (1) -3-1
9	病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。	F- (1) -3-2
10	病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。	F- (1) -3-3
11	病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。	F- (1) -(3)-4
12	薬剤師の関わる社会保障制度(医療、福祉、介護)の概略を説明できる。	F- (1) -3-5
13	調剤業務に関わる事項(処方せん、調剤録、疑義照会等)の意義や取り扱いを法的根拠に基 づいて説明できる。	F- (2) -①-1
14	代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、 相互作用を列挙できる。	F- (2) -(2)-1
15	処方オーダリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。	F- (2) -(2)-2
16	処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。	F- (2) -(2)-3
17	処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。	F- (2) -2-4
18	処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。	F- (2) -②-5
19	処方せん等に基づき疑義照会ができる《模擬》。(技能・態度)	F- (2) -(2)-6
20	主な医薬品の成分(一般名)、商標名、剤形、規格等を列挙できる。	F- (2) -3-2
21	後発医薬品選択の手順を説明できる。	F- (2) -3-4
22	代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。	F- (2) -3-5
23	無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)	F- (2) -3-6
24	抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的手技を実施できる。 (技能)	F- (2) -③-7
25	妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの応対や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に 列挙できる。	F- (2) -4-2
26	代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。	F- (2) - <u>4</u> -5
27	薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。	F- (2) - 4 -7
28	代表的な疾患の症例についての患者応対の内容を適切に記録できる。(技能)	F- (2) - 4 -8
29	医薬品管理の意義と必要性について説明できる。	F- (2) -⑤-1
30	医薬品管理の流れを概説できる。	F- (2) -(5)-2
31	劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚せい剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。	F- (2) -⑤-3
32	特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。	F- (2) -(5)-4
33	代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。	F- (2) -(\$)-5
	院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。	F- (2) -(\$)-6
35	薬局製剤・漢方製剤について概説できる。	F- (2) -(\$)-7
36	医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。	F- (2) -(\$)-8
	処方から服薬(投薬)までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の	F- (2) -⑥-1
38	特にり入りの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のめる薬等)の 特徴と注意点を列挙できる。	F- (2) - <u>6</u> -2

番号	内容	SB0⊐−ド
39	代表的なインシデント(ヒヤリハット)、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを 回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。(知識・態度)	F- (2) - © -3
40	回歴するための共体界と先生後の週朝は対処法と前職する。 (知識・恩及) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。	F- (2) - 6 -4
41	代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。	F- (2) -6-6
42	 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。	F- (2) - © -7
43	患者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる《模擬》。(技能・態度)	F- (3) -①-2
44	薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる《模擬》。(知識・技能)	F- (3) -2-1
45	代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。	F- (3) -3-1
	病態(肝・腎障害など)や生理的特性(妊婦・授乳婦、小児、高齢者など)等を考慮し、薬 剤の選択や用法・用量設定を立案できる。	F- (3) -(3)-2
	患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明でき	F- (3) -(3)-3
48	る。 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。	F- (3) -(3)-4
	代表的な輸液の種類と適応を説明できる。	F- (3) -(3)-5
	患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。	F- (3) -(3)-6
51	代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所	F- (3) -4)-1
	見等を具体的に説明できる。 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる《模擬》。(知識・技	
52	能)	F- (3) - 4 -2
53	代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案 を行い、SOAP 形式等で記録できる。 (知識・技能)	F- (3) - 4 -3
54	チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。	F- (4) -①-1
55	多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。	F- (4) -①-2
56	病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)を説明できる。	F- (4) -①-3
57	地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制(地域包括ケア)およびその意義について説明できる。	F- (4) -2-1
58	地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。(知識・態度)	F- (4) -2-2
59	地域の保健、医療、福祉について、現状と課題を認識するとともに、その質を向上させるための薬局及び薬剤師の役割とその意義を理解する。	B- (4)
60	在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。	F- (5) -①-1
61	在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。	F- (5) -①-2
62	在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。	F- (5) -①-3
63	地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動(薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アン チドーピング活動等)について説明できる。	F- (5) -2-1
64	公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。	F- (5) -2-2
65	現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。 (態度)	F- (5) -3-1
66	代表的な症候(頭痛・腹痛・発熱等)を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推 測、適切な対応の選択ができる《模擬》。(知識・態度)	F- (5) -3-2
67	代表的な症候に対する一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる《模擬》。 (技能・態度)	F- (5) -3-3
68	代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる《模擬》。(知識・態度)	F- (5) -3-4
69	災害時医療について概説できる。	F- (5) - 4 -1
84	事前学習について概説できる	adv-F- (1) -4-1
85	医療人としてのマナーの必要性が説明できる。	adv-A- (1) -①-8
86	礼儀、笑顔の大切さについて説明できる。	adv-A- (1) -①-9
87	報告、連絡、相談の大切さについて説明できる。	adv-A- (1) -①-10
88	処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。(技能)	F- (2) -3-3
89	服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。	adv-F- (2) -④-16
90	代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。	adv-F- (2) - ④ -17
91	リスクを回避するための具体策を提案する。	adv-F- (2) -6-15

番号	内容	SB0⊐−ド
92	事故が起こった場合の対処方法について提案する。	adv-F- (2) -6-16
93	がん疼痛治療における薬剤師の役割について説明できる	adv-F- (4) -①-10
94	がん化学療法とがん専門薬剤師の役割について説明できる	adv-F- (4) -①-11
95	栄養治療とNSTについて説明できる	adv-F- (4) -①-12
96	代表的な疾患の治療ガイドラインを利用して、症例検討ができる	adv-F- (3) -4-14
97	地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。	E2- (9) -(3)-1
98	一般用医薬品のリスクの程度に応じた分類(第一類、第二類、第三類)について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。	E2- (9) -3-2
99	代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を列挙できる。	E2- (9) -3-3
100	一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。 (技能)	E2- (9) -3-4
101	以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病 等	E2- (9) -3-5
102	一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明 できる。	E2- (9) -3-7
103	一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。 (技能)	E2- (9) -3-8
104	代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の 最適化を討議する(知識・態度)。	E2- (11) -①-1

(基礎資料7) 学生受入状況について(入学試験種類別)

4	- /	0
	/	Z

					年入試				年入試				年入試	1/2
	入試の種類		-	(25年月		1	-	(26年月					复実施)	1
		学科名	健康	漢方	臨床	学部合計	健康	漢方	臨床	学部合計	健康	漢方	臨床	学部合計
		受験者数	214	270	784	1, 268	383	612	1, 437	2, 432	161	470	1, 059	1, 690
	40.0.0	合格者数	59	69	180	308	34	66	132	232	67	119	223	409
	一般入試	入学者数(A)	29	31	65	125	13	28	54	95	26	53	80	159
		募集定員数(B)		15				14				15		
		A/B*100 (%)		83		1		60				10	_	1
		受験者数	33	93	152	278	75	130	206	411	65	176	257	498
	特待生チャレンジ	合格者数	30	38	51	119	16	21	51	88	17	34	50	101
	入試	入学者数(A)	11	13	16	40	4	7	12	23	3	7	6	16
		募集定員数(B)		36				3				34		
		A/B*100 (%)		11	1			74	4			4	7	
		受験者数	108	205	556	869	153	280	711	1, 144	59	184	441	684
	大学入試センター	合格者数	33	58	52	143	25	55	51	131	11	42	83	136
	入事人試センター	入学者数(A)	10	18	18	46	8	15	16	39	2	8	8	18
		募集定員数(B)		24				19				24		
		A/B*100 (%)		19				20				7:		
		受験者数	31	46	43	120	39	65	49	153	21	36	46	103
		合格者数	19	31	15	65	16	26	19	61	8	19	10	37
	AO入試	入学者数(A)	16	29	13	58	15	25	17	57	8	19	10	37
薬		募集定員数(B)		50				4				40		
		A/B*100 (%)		11	6		127			93				
		受験者数		_	_			_	_			_	_	
		合格者数		_	_			_	_			_	_	
	地元枠入試	入学者数(A)		_	_			_	_			-	_	
		募集定員数(B)		_	_			_	_			_	_	
学		A/B*100 (%)		_	_			_	_			_	_	
		受験者数		_	_		1	1	0	2	4	4	2	10
		合格者数		_	_		0	1	0	1	3	1	1	5
	社会人入試	入学者数(A)		_	_		0	1	0	1	1	0	1	2
		募集定員数(B)		_	_			若一	F名			若一	F名	
		A/B*100 (%)		_	_			_	_			_	_	
部		受験者数	9	25	39	73	24	50	62	136	17	35	56	108
		合格者数	9	25	39	73	24	50	62	136	17	35	56	108
	指定校推薦	入学者数(A)	9	25	39	73	24	50	62	136	17	35	56	108
	地元枠入試 社会人入試	募集定員数(B)		校・公募		て100		校・公募		て100		2校・公享		て90
		A/B*100 (%)	公募と	と合わせ	て 122		公募と	と合わせ	て 156		公募	と合わt	とて 154	
		受験者数	13	19	32	64	16	35	47	98	14	21	54	89
		合格者数	14	15	27	56	1	8	18	27	8	10	32	50
	公募推薦入試	入学者数(A)	12	15	22	49	1		14		8	9	14	31
		募集定員数(B)	指定	校・公募	合わせ	て100	指定	校・公募	合わせ	て100	指定	校・公募	幕合わせ	て90
		A/B*100 (%)	指定權	交と合わ	せて 12	2	指定權	交と合わ			指定	校と合ネ	つせて 1	54
		受験者数	408	658	1, 606	2, 672	691	1, 173		4, 376	341	926	1, 915	3, 182
		合格者数	164	236	364	764	116	227	333	676	131	260	455	846
	学 科 計	入学者数(A)	87	131	173	391	65	131	175	371	65	131	175	371
		募集定員数(B)	80	120	160	360	60	120	160	340	60	120	160	340
		A/B*100 (%)	109	109	108	109	108	109	109	109	108	109	109	109
		受験者数	-	_	_			_	_				_	-
		合格者数		-	_			-				-	_	
	編(転)入試験	入学者数(A)		_	_			_	_			-	-	
		募集定員数(B)		-	_			-				-	_	
		A/B*100 (%)		_	_			_	_			_	_	

1 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。 [注]

- なる、該当しない人試力法の個は削減してください。

 2 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合 [A/B*100(%)] を算出してください。

 3 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。

 4 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。

 5 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。

 ※ 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は

 Δ△Δ名」と注を記入してください。

 ※ 平成27年度の募集定員は薬科学科認可許可後に変更している。

(基礎資料7) 学生受入状況について(入学試験種類別)

2/2

	入試の種類				9年入試 度実施)				0年入試 度実施)				年入試 隻実施)		2/2 募集定員数 に対する入 学者数の比 率(6年間
		学科名	健康	漢方	臨床	学部合計	健康	漢方	臨床	学部合計	健康	漢方	臨床	学部合計	
		受験者数	176	349	966	1, 491	182	360	983	1, 525	213	320	810	1, 343	
		合格者数	67	119	272	458	101	155	123	379	41	78	198	317	
	一般入試	入学者数(A)	36	52	74	162	33	60	37	130	20	34	79	133	
		募集定員数(B)		1	50			1	52			11	5		
		A/B*100 (%)		1	08			8	36			11	6		94
		受験者数	63	161	230	454	38	127	265	430	77	149	171	397	
	4444	合格者数	23	33	60	116	18	50	90	158	40	49	66	155	
	特待生チャレン ジ入試	入学者数(A)	7	6	16	29	4	10	29	43	8	14	16	38	
		募集定員数(B)		3	34			3	34			3-	4		
		A/B*100 (%)		8	35			1.	26			11	2		93
		受験者数	66	136	397	599	78	193	441	712	81	150	392	623	
	1 204 7 5 5 1 .	合格者数	29	56	109	194	36	81	93	210	6	18	83	107	
	大学入試セン ター入試	入学者数(A)	7	14	11	32	7	8	16	31	1	1	6	8	
	2 2 2 2 2 2 2	募集定員数(B)		2	24			2	24			2	4		
		A/B*100 (%)		1	33			1.	29			3	3		128
		受験者数	23	59	30	112	16	33	47	96	17	49	34	100	
		合格者数	8	17	12	37	3	11	24	38	8	19	19	46]
	AO入試	入学者数(A)	8	17	12	37	3	11	23	37	8	19	18	45	
薬		募集定員数(B)		4	10			4	10			4	0		
		A/B*100 (%)		ę	93			ç	93			11	3		106
	地元枠入試	受験者数			_		9	3	7	19	3	4	3	10	
		合格者数			_		3	3	3	9	1	2	2	5	
		入学者数(A)	_		3	2	3	8			5				
		募集定員数(B)			_			1	0			7	1		
		A/B*100 (%)			_			8	80			7	1		76
学		受験者数	0	6	1	7	3	3	2	8	1	1	1	3	
		合格者数	※ 1	4	0	4	3	2	1	6	0	0	0	0	
	社会人入試	入学者数(A)	1	3	0	4	3	2	0	5	0	0	0	0	
		募集定員数(B)		若	干名			若	干名			若一	F名		
		A/B*100 (%)			_				_			_	_		_
		受験者数	12	43	55	110	15	38	61	114	23	55	23	101	
		合格者数	12	43	55	110	15	38	61	114	23	55	23	101]
部	指定校推薦	入学者数(A)	12	43	55	110	15	38	61	114	23	55	23	101	1
		募集定員数(B)	指足		募合わせ				募合わせ			校・公募			1
		A/B*100 (%)			わせて				わせて			公募と合	-		1
		受験者数	10	23	40	73	9	35	62	106	13	21	58	92	
	 1// 7 = 1	合格者数	4	16	26	46	2	10	26	38	7	7	45	59	
	公募推薦入試	入学者数(A)		12			0				4		28		
		募集定員数(B)			募合わせ				募合わせ			校・公募			140
		A/B*100(%)			合わせて				合わせて			定校とで			146
		受験者数	360	817	1, 769		365	827		3, 142	450		1, 522	-	4
	원 조·1 = 1	合格者数	144	291	537	972	183	355	434	972	128	232	437	797	-
	学 科 計	入学者数(A)	75	147	186	408	68	137	183	388	65	129	172	366	1
		募集定員数(B)	60	120	160	340	60	120	160	340	60	120	160	340	110
		A/B*100(%)	125	123	116	120	113	114	114	114	108	108	108	108	112
		受験者数	0	2	1	3									1
	行 / ホニ \ 3 ==キ=トヘ	合格者数	0	2	1	3									1
	編(転)入試験	入学者数(A)	0	2	1	3							_		4
		募集定員数(B)			干名				_				_		4
		A/B*100 (%)			_				_			_	_		_

[注] 1 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。 なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。

- 2 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合 [A/B*100(%)] を算出してください。
- 3 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
- 4 各入学 (募集) 定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
- 5 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
- 6 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は $\Delta\Delta\Delta$ 名」と注を記入してください。
- ※ 平成29年入試(28年度実施)社会人入試の健康薬学科の合格者1名は漢方薬学科からの第2希望合格の入学者である。

(基礎資料8)教員・職員の数

表1. 大学設置基準(別表第1)の対象となる薬学科(6年制)の専任教員

教授	准教授	専任講師 助教		合計	基準数 1)					
43名	23名	21名	9名	96名	59名					
上記における	上記における臨床実務経験を有する者の内数									
教授	准教授	専任講師	助教	合計	必要数 ²⁾					
3名	7名	4名	1名	15名	10名					

- 1) 大学設置基準第13条別表第1のイ(表1)及び備考4に基づく数/別表2は含まない
- 2) 上記基準数の6分の1 (大学設置基準第13条別表第1のイ備考10) に相当する数

表2. 薬学科(6年制)の教育研究に携わっている表1. 以外の薬学部教員

助手 ¹⁾	兼担教員 2)
2名	10名

- 1) 学校教育法第92条⑨による教員として大学設置基準第10条2の教育業務及び研究に携わる者
- 2)4年制学科を併設する薬学部で、薬学科の専門教育を担当する4年制学科の専任教員

表3. 演習、実習、実験などの補助に当たる教員以外の者

TA	SA	その他 ¹⁾	合計	
0名	0名	0名	0名	

1) 実習などの補助を担当する臨時、契約職員など (無給は除く)

表4. 薬学部専任の職員1)

事務職員	技能職員 2)	その他 ³⁾	合計
47名	6名	11(11)名	64(11)名

- 1)薬学部の業務を専門に行う職員(非常勤を含む。ただし非常勤数は()に内数で記入。複数学部の兼任は含まない。)
- 2)薬用植物園や実験動物の管理、電気施設など保守管理に携わる職員
- 3) 司書、保健・看護職員など

(基礎資料9) 専任教員(基礎資料8の表1)の年齢構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率
70代	O名	O名	O名	O名	O名	0. 0%
60代	27名	1名	4名	O名	32名	33. 3%
50代	15名	11名	2名	O名	28名	29. 2%
40代	1名	11名	10名	0名	22名	22. 9%
30代	O名	O名	5名	7名	12名	12. 5%
20代	O名	0名	0名	2名	2名	2. 1%
合計	43名	23名	21名	9名	96名	100. 0 %

専任教員の定年年齢:(_教授65歳、教授以外60歳_)

(参考資料) 専任教員(基礎資料8の表1)の男女構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率
男性	38名	19名	13名	5名	75名	78. 1%
女性	5名	4名	8名	4名	21名	21. 9%

(基礎資料10) 教員の教育担当状況

表 1. 薬学科	薬学科(6年制)		数員(基	専任教員(基礎資料8の表1	\frown	が担当する授業科目と担当時間	業科目と担	当時間			
小 本	職名。	垊	绐	年齡	性別	学位称号	現職就任年 月 日	授業担当科目 3)		授業時間 4)	年間で平均した 週当り授業時間 ^⑤
								薬物動態学1 薬物動態学2			0.50
健康薬学科	教授	メ	和穗	59	魠	(漢)	H27. 4. 1	臨床薬物動態字 薬剤学実習3	0	8. 16 60. 00	0.27
								薬剤系薬学演習		1.50	0.05
							•	薬学総合演習 4 短業 投票 医多数		2.33	0.08
								薬学総合演習 1	0	1.17	0.04
健康薬学科	教授	越智	记载	51	眠	博(薬)	H29. 4. 1	薬学総合演習 2	0	1.17	0.04
								授業担当時間の合計		2.33	0.08
								社会薬学 1		4. 50	0.15
								早期体験学習		9.00	0.30
								生化学3		9.00	0.30
健康薬学科	教授	小俣	義明	63	眠	博(薬)	H19. 4. 1	分子生物学 1		45.00	1.50
								生物系薬学演習 2		1.50	0.02
								薬学総合演習1		2.33	0.08
								授業担当時間の合計		71.33	2. 38
								公衆衛生学		18.00	09 '0
								環境生理学		7. 50	0.25
健康欺党紀	为	ĸ	上盆	57	‡	(英) 押	H27 4 1	衛生系薬学実習	0	56. 25	1.88
ナ ト 大 ト	X X	<u> </u>	- S	5	Κ	¥ ±		衛生系薬学演習		3.00	0.10
								薬学総合演習2		4.67	0.16
								授業担当時間の合計		89. 42	2. 98
								教養化学		12.00	0.40
								臨床放射線科学		45.00	1.50
								物理系薬学演習		1. 50	0.02
健康薬学科	教授	日糠	草介	26	魠	(漢)	H26. 4. 1	実務実習プレ教育	0	1. 50	0.02
								薬学総合演習1		2.33	0.08
								薬学総合演習 2		1.16	0.04
								授業担当時間の合計		63.49	2.12

巻 巻 ž 版	**	Ç				1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		10.50	0.35
数 数 ž 敬		ç				年来 末 连 重 1) · · ·
数 数 ž 版	_	ç				地球環境特論		15.00	0.50
数 款	_	00	眠	博(薬)	H29. 4. 1	実務実習プレ教育	0	1.50	0.05
楼 鼓						衛生薬学実習	0	56. 25	1.88
数 2						薬学総合演習 2		5.83	
数 款						授業担当時間の合計		107. 08	3.57
数 3						教養生物学		6. 00	0. 20
数 2						分子生物学2		45.00	1.50
<u>1</u> 3		22	魠	博(薬)	H19. 4. 1	生物系実習 1	0	15.00	0.50
<u>1</u> 5						薬学総合演習 1		2. 33	0.08
<u>r</u> ā						授業担当時間の合計		68.33	2. 28
<u> </u>						薬品物理化学 1		45.00	1.50
<u>1</u>						薬品物理化学2		45.00	1.50
を対	十三 甲介	α	H	(田) #	H26 / 1	【臨床】選択 新薬論		6. 00	0. 20
		3	R		1.50. +	物理系薬学演習		3.00	0.10
						薬学総合演習 1		2. 33	0.08
						授業担当時間の合計		101.33	3.38
						薬理学 1		18.00	09 '0
						薬理学3		21. 00	0.70
健康薬学科 教授	小笹 微	62	魠	博(医)	H28. 4. 1	生化学3		15.00	0. 50
						薬理系薬学演習 1		1. 50	0.05
						授業担当時間の合計		55. 50	1.85
						微生物学		33.00	1.10
						微生物薬品学		3.00	0.10
健康薬学科 教授 龄	鈴木 啓太郎	99	田	博(農)	H19. 4. 1	生物系薬学演習 2		1.50	0.05
						薬学総合演習 1		1.17	0.04
						授業担当時間の合計		38. 67	1. 29
						環境衛生学1		33.00	1.10
花	古林 打	y	H	(撰) 罪	H20 / 1	環境衛生学2		27. 00	06 0
		3	R		1120. 4. 1	衛生系薬学演習		3.00	0.10
						授業担当時間の合計		63.00	2. 10
						選択 血液検査学		4.50	0.15
						免疫学		39. 00	1.30
健康薬学科 教授 口	中島 敏治	09	毗	博 (薬)	H19. 4. 1	生物系薬学演習 2		1. 50	0.02
						薬学総合演習 1		2. 33	0. 08
						授業担当時間の合計		47.33	1.58

							診療科各論 I		15. 20	0.51
							診療科各論工		2.33	0.08
健康薬学科	教授	重 福中	29	魠	博(医)	H27. 4. 1	機能形態学3		3.00	0.10
	_						病態・薬物治療学4		9.00	0. 20
							授業担当時間の合計		26. 53	0.89
							食品衛生学		24.00	0.80
	_						薬物代謝学		3.00	0.10
健康薬学科	教授	埴岡 伸光	28	毗	博(薬)	H25. 4. 1	薬学総合演習 2		2.33	0.08
	_						衛生系薬学演習		3.00	0.10
							授業担当時間の合計		32.33	1.08
							食品安全性学		15.00	0.50
							食品衛生学		21.00	0.70
健康薬学科	教授	望月 直樹	62	魠	博 (薬学)	H28. 4. 1	衛生系薬学演習		1.50	0.02
	_						薬学総合演習 2		1.17	0.04
							授業担当時間の合計		38. 67	1. 29
							生化学1		39.00	1.30
							生化学2		24.00	0.80
健康薬学科	教授	森 和也	61	魠	博 (薬)	H19. 4. 1	生物系薬学演習 1		1.50	0.02
							薬学総合演習3		2. 33	0.08
							授業担当時間の合計		66.83	2. 23
							薬理学 1		27.00	0.90
							薬理学2		45.00	1.50
	_						教養生物学		00 '9	0. 20
每年禁护法	并 籽	十少 电压	75	H	(操) #	H18 / 1	薬理学実習	0	90.00	3.00
所を米十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	/E 5X1X			R	\ \	-	薬理系薬学演習 1		4.50	0.15
	_						薬理系薬学演習 2		1.50	0.02
							薬学総合演習3		2.33	0.08
							授業担当時間の合計		176.33	5.88
							環境衛生学1		12.00	0.40
	_						環境衛生学2		18.00	09 .0
							環境生理学		7.50	0.25
健康薬学科	准教授	大河原 晋	49	毗	華(薬)	H28. 4. 1	衛生薬学実習	0	56. 25	1.88
	_						衛生系薬学演習		1.50	0.02
							薬学総合演習 2		3.50	0.12
							授業担当時間の合計		98. 75	3.30

								東学世語 1		00 76	06 0
								薬剤学実習2	0	45.00	1.50
中年并予先	准教授	₽ +	7	63	‡	世	120 1	薬剤学実習4	0	00 09	2.00
海承米十年	(実務)	* <		3	Χ		120. 4.	薬学英語 4		30.00	1.00
								選択 地域薬局論		00 '9	0. 20
										168.00	5. 60
								教養生物学		00 '9	0. 20
								免疫学		3.00	0.10
								卒延生薬学総合演習		2.33	0.08
伊申斯沙尔	并 村	₩	H %	73	H	(操) #	H25 2 1/	薬学総合演習3		2.33	0.08
医尿米十年	年 教技	├ ₿	E H	3	R	·₩ •	1120.0.1			1. 50	0.02
								生物系実習 1	0	45.00	1.50
								生物系実習2	0	00 '09	2.00
								授業担当時間の合計		120.16	4.01
								教養生物学		9.00	0.30
								機能形態学3		00 '9	0. 20
								生物系実習1	0	00 '09	2.00
								生物系薬学演習 1		1. 50	0.02
健康薬学科	准教授	聖三	芳枝	25	¥	庫 (予能)	H25. 4. 1	生物系薬学演習 2		3.00	0.10
								細胞生物学		24.00	08 '0
								免疫学		3.00	0.10
								薬学総合演習 1		2.33	0.08
								授業担当時間の合計		108.83	3.63
								家 年 数		12.00	0.40
								生物系実習2	0	00 '09	2.00
								微生物薬品学		42.00	1.40
健康薬学科	准教授	維野	加回	49	眠	博 (薬)	H19. 4. 1	早期体験学習		00 '6	0.30
								生物系薬学演習2		1. 50	0.02
								薬学総合演習3		2.33	0.08
								授業担当時間の合計		126.83	4. 23
								教養物理学		45.00	1.50
								物理系実習2	0	120.00	4.00
健康薬学科	准教授	\	健一郎	46	眠	(種)	H19. 4. 1	物理系薬学演習		1. 50	0.02
								薬学総合演習 1		2.33	0.08
								授業担当時間の合計		168.83	5.63
健康薬学科	講師	石橋	士重	33	*	(山小) 朝	H19 4 1				
		<u>₹</u> I	, T	3	ζ		: : : :	授業担当時間の合計		0.00	0.00

								物理薬剤学1		21.00	0.70
								物理系実習2	0	120.00	4.00
								物理薬剤学2		9.00	0.30
								【健康】産業保健論		4.50	0.15
健康薬学科	講師	礦部	陸	40	魠	(業) 華	H26. 4. 1	【臨床】選択 薬物代謝学		3.00	0.10
								薬剤系薬学演習		1. 50	0.02
								薬学総合演習 2		1.17	0.04
								薬学総合演習 4		2.33	0.08
								授業担当時間の合計		162. 50	5. 42
								教養化学		12.00	0.40
										9.00	0.30
								【臨床】選択 新薬論		4.50	0.15
世典	華	相	47/中	V	H	(撰) 罪	H97 / 1	物理系実習 1	0	120.00	4.00
京米米十年		E E	<u>+</u>	1	R		1127.4.1	物理系実習2	0	120.00	4.00
								物理系薬学演習		1. 50	0.02
								薬学総合演習 1		2.33	0.08
								授業担当時間の合計		269.33	8.98
年年	五中華	極		63	H	(株)	1 1 1 1	基礎数学		45.00	1.50
阿尿米子な	言性	世 张	ĸ	3	ĸ	· ()	1 .	授業担当時間の合計		45.00	1.50
中田村	工9 華=	# 11	#	63	H	(井)	100 / 1	英会話		45.00	1.50
唯成業十年	中日	/1./ተ		70	Æ	(¥)+	1 .	授業担当時間の合計		45.00	1.50
								生物系実習 1	0	120.00	4.00
健康薬学科	講師	共	松子	37	¥	博(薬科学)	H30. 4. 1	生物系実習2	0	120.00	4.00
								授業担当時間の合計		240.00	8.00
								薬学英語 1		27.00	06 0
								生化学1		00 '9	0. 20
								生化学2		21.00	0.70
								生物系薬学演習1		1. 50	0.02
健康薬学科	講師	開	泰任	45	眠	博 (薬)	H27. 4. 1	生物系薬学演習 2		1. 50	0.02
								生物系実習1	0	00 '09	2.00
								生物系実習2	0	30.00	1.00
								薬剤学実習 4	0	45.00	1.50
								授業担当時間の合計		192. 00	6. 40
								化学系実習2	0	120.00	4.00
健康薬学科	助教	小林	光子	37	¥	孙(操)	H19. 4. 1	薬理学実習	0	90.00	3.00
								授業担当時間の合計		210.00	

									1.50	0 02
							【漢方】漢方製剤各論 I		15.00	0.50
岩	 	中	63	H	(国) 罪	П01 Л 1			15.00	0.50
XX XI		<u> </u>	3	R		+	薬学総合演習 1		1.17	0.04
							薬学総合演習3		2.33	0.08
							授業担当時間の合計		35.00	1.17
教授		# #	13	H		110 / 1	実務実習	0		
(実務)	十件末	光河	04	Æ	(米)	-	授業担当時間の合計		00.00	00 0
							教養化学		21.00	0.70
							化学系薬学演習		1.50	0.02
发 江	第二年	4. 4.	Z,	H	(操) #	H10 / 1	有機化学2		45.00	1.50
*************************************		Κ Κ	00	R	· 张		法規系薬学演習		3.00	0.10
							薬学総合演習 1		2.33	0.08
							授業担当時間の合計		72.83	
							漢方入門		15.00	0. 50
							本草学		3.00	0.10
					井壁		基礎漢方薬学1		30.00	1.00
漢方薬学科 教授	金成物	級	63	眠	(臨床薬	H21. 4. 1	伝統医薬学		3.00	0.10
					企		実務実習プレ教育	0	1.50	0.02
							基礎漢方薬学2		15.00	
							授業担当時間の合計		67. 50	2. 25
							漢方品質評価論		12.80	0.43
							漢方薬物学		15.00	0. 50
							基礎漢方処方学		15.00	0. 50
漢方薬学科 教授	神原	瀬	09	眠	華 (薬)	H27. 4. 1	漢方医薬概論		15.00	0.50
							化学系薬学演習		1.50	0.02
							薬学総合演習 1		1.16	0.04
							授業担当時間の合計		60.46	2.02
							医薬品化学1		12.00	0.40
							化学系薬学演習		1.50	0.02
漢方薬学科 教授	佐藤 庤	康夫	22	眠	華 (薬)	H28. 4. 1	医薬品化学2		30.00	1.00
							薬学総合演習 1		2.33	0.08
							授業担当時間の合計		45.83	1.53
新 村 村 村 村	li t	#.	C L	Ħ		1 1 000	有機化学3		15.00	0. 50
- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	H H	Ē	00	К	(田) 由	1129. 4. I	授業担当時間の合計		15.00	0 50

								有機化学 1		45.00	1.50
								化学系薬学演習		3.00	0.10
漢方薬学科	教授	鈴木 真一		61	町	博(医)	H30. 4. 1	有機化学4		15.00	0.50
								薬学総合演習 1		2.33	0.08
								授業担当時間の合計		65.33	2. 18
海 七 瀬 北	松村	田田 米乙		50	‡	(報/ 罪	H30 / 1				
法乙米十件	秋坟	自体 污		60	*	来) 生	1130. 4. 1	授業担当時間の合計		0.00	00.00
油 中 減 売	材	# ##		29	B	(田) 押	110 / 1	【漢方】伝統医薬学		6.00	0.20
法乙米十件	秋坟	나 씨 교		CO	R			授業担当時間の合計		6.00	0.20
								分光分析学		30.00	1.00
								薬局方試験法		30.00	1.00
								物理系実習 1	0	120.00	4.00
漢方薬学科	教授	宮代 博継		61	眠	博 (薬)	H19. 4. 1	物理系薬学演習		3.00	0.10
								新薬論		4.50	0.15
								薬学総合演習 1		2.33	0.08
								授業担当時間の合計		189.83	6.33
								分析化学 1		30.00	1.00
								分析化学2		30.00	1.00
漢方薬学科	教授	山下 幸和		99	眠	博(薬)	H26. 4. 1	物理系薬学演習		1.50	0.05
								薬学総合演習 1		2.33	0.08
								授業担当時間の合計		63.83	2. 13
								生薬学		45.00	1.50
								本草学		3.00	0.10
海 七 瀬 北 瀬	弃 好 成	66.150 / 分		Z,	H	(操/罪	H10 / 1	化学系薬学演習		1.50	0.05
メンボナな	止 狄及			3	R	· 米 ·	_	化学系実習 1	0	120.00	4.00
								薬学総合演習 1		2.33	0.08
								授業担当時間の合計		171.83	5. 73
								細胞生物学		21.00	0.70
								教養生物学		6.00	0.20
油七树沙灶	并 村	# 	7 H	- 77	H	(桝)押	H10 / 1	生物系実習1	0	30.00	1.00
ボナ米に米	/E 1/4.1%			 ት	R		+ - - - - - -	薬剤系薬学演習		3.00	0.10
								薬学総合演習 4		2.33	0.08
								授業担当時間の合計		62.33	2. 08

								基礎化学講座		45.00	1.50
								化学系実習2	0	120.00	4.00
								医薬品化学 1		18.00	09 .0
漢方薬学科	准教授	磯村	財極	48	魠	博 (薬)	H18. 4. 1	物理系薬学演習		1.50	0.02
								化学系薬学演習		1.50	0.02
								薬学総合演習 1		3.50	0.12
								授業担当時間の合計		189. 50	6.32
								薬用植物学		30.00	1.00
油十辆沙克	并数点	帮	#	75	Ħ	(操) #	H20 / 1	伝統医薬学		9.00	0.30
メンボナゲー	/ 庄狄[文	Ę Ę	#	9	R	·₩ •	1.59. 4.	_	0	30.00	1.00
								授業担当時間の合計		69.00	2.30
								情報科学入門		45.00	1.50
漢方薬学科	准教授	四	柒	26	眠	小圖)	H18. 4. 1	情報処理演習		45.00	1.50
								授業担当時間の合計		90.00	3.00
								構造解析学		30.00	1.00
								【臨床】創薬化学特論		7.50	0.25
油十辆	计操护	<u> </u>	두 1	23	Ħ	(撰)罪	H19 / 1	化学系実習1	0	90.00	3.00
メンボナゲー	/生狄[文		٠ ١	3	R			物理系薬学演習		1.50	0.02
								薬学総合演習 1		2.33	0.08
								授業担当時間の合計		131.33	4.38
								【漢方】伝統医薬学		3.00	0.10
								【漢方】漢方薬効解析学・薬理学		15.00	0.50
油 上 採 記	计数位	ź.	=44	Ę	‡	排(医)	H2E 0 1	【漢方】本草学		9.00	0.30
*: 	/正·大7×		÷	5	Κ		.62.3.	薬学総合演習 1		1.17	0.04
								薬学総合演習3		2.33	0.08
								授業担当時間の合計		30.50	1.02
						= "L'\-' 4 HOIM		· 制			
漢方薬学科	講師	批	世姓	42	¥	Mirm 24-77 7	H20. 4. 1	薬事法規・制度3			
								授業担当時間の合計		0.00	0.00
								社会薬学2		21.00	0.70
								化学系実習2	0	120.00	4.00
漢方薬学科	講師	奥野	義規	36	眠	修 (薬)	H18. 4. 1	化学系薬学演習		1.50	0.02
								薬学総合演習 1		1.17	0.04
								授業担当時間の合計		143.67	4. 79

								運動療法概論		15.00	0 20
華方華学科	書師	***	保博	64	₩	(垂) 車	H26 7 1	a 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二		15.00	0 50
	i E		<u> </u>		3	Ì	- : : :	<u> </u>		30.00	1.00
								化学系実習1	0	120.00	4.00
计一种记录	井中井		日	00	B		-	生物系薬学演習2		1.50	0.02
法乙米十年	宣告	_ _ _	ii K	ရှိ ရ	ĸ	(米) 吐	П20. 4. І	薬学総合演習 1		1.17	0.04
								授業担当時間の合計		122. 67	4.09
								薬学英語2		9.00	0.30
								物理系実習 1	0	120.00	4.00
漢方薬学科	助教	中三	裕樹	30	魠	博 (薬)	H30. 4. 1	化学系実習2	0	120.00	4.00
								社会薬学1		3.00	0.10
								授業担当時間の合計		252.00	8. 40
								基礎薬学演習(6年生)		4.50	0.15
								生物系実習 1	0	120.00	4.00
班 州 州 平	田米	排	- - - - - -	30	H	(英)	H20 4 1	衛生薬学実習	0	101. 25	3.38
法乙米十年	发		<u>e</u>	60	R	<u>₩</u>	1120. 4. 1	薬剤学実習4	0	45.00	1.50
								薬学総合演習 2		2.33	0.08
								授業担当時間の合計		273.08	9.11
								薬剤学実習1	0	56. 25	1.88
								薬剤学実習2	0	56. 25	1.88
								実務実習プレ教育	0	1.50	0.02
油七树沙灶	田教	争共三	州田	38	‡	(純) 化	H18 / 1	実務実習ポスト教育	0	00.9	0. 20
+: - K : K		= Ħ ₽	K	3	Κ	¥ F	- - - - - - -	フィジカルアセスメント実習	0	30.00	1.00
								医療倫理学		00.9	0. 20
								薬剤学実習 4	0	90.00	3.00
								授業担当時間の合計		246.00	8. 21
								化学系実習I	0	120.00	4.00
油七树沙丛	田教	‡	华	20	\$	(操) #+	H30 / 1	社会薬学 1		3.00	0.10
米ン米ナギ	2	-	ह्	67	Χ	\ \		物理系実習工	0	120.00	4.00
								授業担当時間の合計		243.00	8. 10

								東学歴論		3 00	0 10
								1 2 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		21 00	07 0
‡ *	<u>!</u>	Ī		Ţ	E		0	米理水牛		21.00	0. 70
臨床潔字萃	教授	中中	邦雄	/9	眠	博 (薬)	H28. 4. 1	診療科各論工		3. 50	0.12
								薬学総合演習3		2.33	0.08
								授業担当時間の合計		29.83	1.00
								早期体験学習		9.00	0.30
								社会薬学 1		7. 50	0.25
								機能形態学3		36.00	1. 20
								社会薬学2		21.00	0.70
								医療倫理学		9.00	0.20
								生物系薬学演習 1		3.00	0.10
吊杆拼抄处	水	E H	#	ğ	‡	(事) 罪	H20 F 1	薬剤学実習2	0	56. 25	1.88
さ十米と量	秋文	# 4		9	Χ.	医	120. 0.	フィジカルアセスメント		18.00	09 '0
								フィジカルアセスメント実習	0	00.09	2.00
								実務実習プレ教育	0	23.80	0.79
								実務実習ポスト教育	0	27.00	0.90
								薬学総合演習 1		2.33	0.08
								薬学総合演習 4		2.33	0.08
								授業担当時間の合計		272. 22	90 . 6
								医薬品開発論		15.00	0.50
								薬事法規・制度 1		12.00	0.40
								薬物代謝学		9 00	0. 20
								薬剤学実習3	0	00.09	2.00
臨床薬学科	教授	井原	極	28	魠	華 (楽)	H28. 4. 1	薬事法規・制度2		3.00	0.10
								薬事法規・制度3		3.00	0.10
								薬学総合演習 4		2.33	0.08
								薬剤系薬学演習		1.50	0.02
								授業担当時間の合計		102.83	3. 43
								疾患別治療特論工		15.00	0.50
								疾患別治療特論皿		15. 20	0.51
吊杆拼形	水	 	# #	69	‡	(医)	H26 A 1	救急医療概論		15.20	0.51
さ十米と量	秋汉	 슈		70	Χ.	(<u>以</u>) 世	120. 4.	診療科各論エ		3.50	0.12
								薬学総合演習3		2.33	0.08
								授業担当時間の合計		51.23	1.72

								社会薬学1		3.00	0.10
								症候学·臨床検査学		21.00	07.0
								病態·薬物治療学4		24.00	08 '0
										12.00	0.40
臨床薬学科	教授	大票	海平	64	魠	博 (薬)	H25. 4. 1	病態・薬物治療学3		3.00	0.10
								薬理系薬学演習 1		1.50	0.05
								薬理系薬学演習2		4.50	0.15
								薬学総合演習3		2.33	0.08
								授業担当時間の合計		71.33	2. 38
								薬学概論		1. 50	0.05
								長寿医療		1.50	0.02
								病態・薬物治療学1		00 '9	0. 20
居 任 持 犯	华市	移	井	47	Ħ	(操) #	H10 / 1	病態・薬物治療学2		18.00	09 .0
さ十米 会員	¥X1X	张	世	5	R	\ <u>₩</u>	- - - - - - -	病態·薬物治療学3		00 '9	0. 20
								病態·薬物治療学4		15.00	0.50
								薬理系薬学演習 2		1.50	0.02
								授業担当時間の合計		49. 50	1.65
								製剤学		45.00	1.50
								健康管理学		3.50	0.12
								実務実習プレ教育(講義)	0	4.65	0.16
								実務実習プレ教育(実習)	0	82. 50	2. 75
臨床薬学科	教授	鷲見	田	63	魠	華 (薬)	H19. 4. 1	薬剤学実習 1	0	11. 25	0.38
								薬剤学実習2	0	11. 25	0.38
								薬剤学実習 4	0	30.00	1.00
								実務実習ポスト教育	0	27.00	06 .0
								授業担当時間の合計		215. 15	7.18
								薬理学3		24.00	08 '0
								薬理学 4		24.00	08 .0
品 品 品 品 品	华市	日	#	7	H	(操) #	H97 / 1	精神と健康		15.00	0.50
ナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	XX IX	N H	H ∃	<u>+</u>	R	<u>₩</u>	+ . / 7!!	薬理系薬学演習2		1.50	0.02
								薬学総合演習3		2.33	0.08
								授業担当時間の合計		66.83	2. 23

教授 友部 浩二 56 男 博 (藥) H19.4.1 教授 中野 泰子 62 女 博 (藥) H28.4.1 教授 原澤 秀樹 60 男 (臨床薬学) H30.4.1 教授 藤井 儀夫 64 男 博 (藥) H18.4.1								症候学・臨床検査学		9.00	0.30
								薬理学実習	0	90.00	3.00
教授 本部 119.4.1 有総・業物治機学2 18.00 教授 中野 本部 119.4.1 有総・業物治機学2 18.00 教授 中野 本子 6.00 2.30 教授 中野 本子 6.00 2.30 教授 原澤 H28.4.1 基準系導送機管 2.30 教授 原澤 H28.4.1 基本 2.30 教授 原澤 H30.4.1 基本 2.30 教授 原澤 H30.4.1 基本 1.2.00 教授 藤井 長本 H30.4.1 基本 2.30 教授 藤井 H30.4.1 基本 2.30 2.30 教授 藤井 (臨床薬学) H30.4.1 基本 2.30 2.2.50 教授 藤井 (臨床薬学) H30.4.1 基本 2.30 2.2.50 教授 藤井 (臨床薬学) H30.4.1 基本 2.30 2.2.50 教授 第本 日本 第本 2.30 2.2.50 2.2.50								病態・薬物治療学1		27.00	0.90
数授 友部 浩二 56 男 博 (業) H19.4.1 価級核産学習 高級的治療学別 3.00 数長 中野 泰子 6.2 女 博 (業) H28.4.1 単化学3 医薬品系等演習 6.00 数長 中野 泰子 6.2 女 博 (業) H28.4.1 単化学3 0.00 数長 原本品情報学 3.00 0.0 数長 原本品情報学 3.00 成力解析 1.50 1.50 原本品情報等 1.50 1.50 成力解析 1.50 1.20 数事法担当時間の合計 1.50 1.50 地方解析 1.2.00 1.2.00 原本品報・制度 1.2.00 1.2.00 原本品報・制度 1.2.00 1.2.00 原本品報・制度 0.0 22.50 原本表現・制度 0.0 22.50 展表 1.17 2.00 大会業日当時間の合計 1.17 株様形 機等 1.18.4.1 生物系等 1.17 機能形態 1.17 2.30 財産 1.10 1.12 東京 1.12 2.30 東京<										18.00	09 .0
教授 康津 養地 養地 (東京) (本) (170.4) 自 (17	—————————————————————————————————————	花	十 克	Z Z	H		П10 / 1	病態・薬物治療学3		3.00	0.10
教授 中野、秦子 62 女 博(薬) #28.4.1 世帯等 162.83 教授 中野、秦子 62 女 博(薬) #28.4.1 重化学等 162.83 教授 原澤、秀樹 60 男 (臨床薬学) #28.4.1 重地等間の合計 7.50 教授 原澤、秀樹 60 男 (臨床薬学) #2.2.2 3.00 教授 藤井、儀夫 64 男 博(薬) #18.4.1 葉粉送理当時間の合計 7.50 東京法規・制度1 7.50 2.2.50 東京法規・制度3 3.00 東京法規・制度3 3.00 社会薬学・1.2.17 3.00 社会薬学・1.2.17 3.00 大谷東江・南・東京 64 男 博(薬) #18.4.1 生物系薬学演習1 3.00 株職・財産・2.3.0 3.00 22.50 大谷東洋 当時間の合計 146.22 大谷東洋 当時間の合計 1.17 東京松台湾電子 3.00 大谷東洋 当時間の合計 1.17 東京松台湾電子 3.00 大谷東洋 当時間の合計 3.00 大谷東洋 1.2.17 3.00 大谷東洋 1.2.18 3.00 大谷東洋 1.2.18 3.00 大谷東洋 1.2.18 3.00 大谷東洋 1.2.18 3.00 大谷東	サード・サード・サード・サード・サード・サード・サード・サード・サード・サード・	文文	₩	90	R			血液検査学		00 '9	0. 20
教授 中野 条子 6.0 4.50 教授 市票 6.0 1.2.8.4.1 医薬品情報学 (実務) 1.2.8.4.1 医薬品情報学 (主務) 1.50 教授 原澤 6.0 月 1.2.8.0 1.5.0 教授 原澤 6.0 月 0.0 1.5.0 教授 原澤 5.0 1.5.0 1.5.0 教授 藤井、儀夫 6.0 1.5.0 1.5.0 教授 藤井、儀夫 6.0 1.5.0 1.5.0 教授 藤井、儀夫 1.0 1.5.0 2.3.0 教授 藤井、儀夫 1.0 1.0 2.5.0 教授 藤井、儀夫 1.0 1.0 2.0 養養 1.1 2.3.0 2.0 養養 1.0 1.0 2.0 2.0 養養 1.0 1.0 2.0 2.0 養養 1.0 2.0 2.0 2.0 養養 1.0 2.0 2.0 2.0 株 1.0										3.00	
教授 中野 泰子 62 女 博(薬) H28.4.1 生化学 30.00 教授 中野 泰子 62 女 博(薬) H28.4.1 生化学 30.00 教授 原澤 品								薬理系薬学演習2		4. 50	0.15
教授 中野 泰子 62 女 博(薬) H28.4.1 重視報等 50.00 教授 中野 泰子 62 女 博(薬) H28.4.1 重視報等 30.00 教授 原澤 秀樹 60 男 (臨床薬学) M2万線析 T 7.50 7.50 教授 藤井 儀夫 64 男 博(薬) H18.4.1 重地系 地間 2.2 3.00 教授 藤井 儀夫 64 男 博(薬) H18.4.1 重地系 地間 2.2 3.00 教授 藤井 儀夫 64 男 博(薬) H18.4.1 重生級 強軍 3.00 3.00 財政 1.17 45.00 46.00 大会薬学 1 3.00 56.25 東地系 護士 64 男 博(薬) H18.4.1 重生物系 漢字 2 3.00 財政 1.17 45.00 大会薬学 1 3.00 大会薬学 1 45.00 大会薬学 2 3.00 大会薬学 3 3.00 大会薬学 3 3.00 大会薬学 3 3.00 大会薬学 3 3.00 大会 2 3.00 大会 2 3.00 大会 33 4.18 2.2 大会教授 4.18 2.2 大会教養 4.10 2.3 大会教養 4.10 2.3 大会教養 4.10 2.3 大会教養 4.10 2.3 大会教養 4.10 3.3								薬学総合演習3		2.33	0.08
教授 中野 泰子 62 女 博(薬) H28.4.1 生化学3 無化学3 R0.00 教授 市澤 秀樹 60 男 博(薬) H28.4.1 生化学3 無子規・制度 6.00 7.50 教授 原澤 秀樹 60 男 (臨床薬学) 東京法規・制度3 実事法規・制度3 3.00 3.00 教授 藤井 儀夫 64 男 博(薬) H18.4.1 生物形態学2 機能形態学1 3.00 教授 藤井 儀夫 64 男 博(薬) H18.4.1 生物形形態学2 機能形態学1 1.17 教授 藤井 儀夫 64 男 博(薬) H18.4.1 生物形形態学1 1.17 東学総合演習1 3.00 3.00 3.00 3.00 3.00 東学総合演習2 3.00 3.00 3.00 3.00 東学総合演習2 3.00 3.00 3.00 東京総合演習3 3.00 3.00 3.00 東京総合 64 男 博(薬) H18.4.1 生物形を発達型1 3.00 東京総合 65 日 男 1.17 3.30								授業担当時間の合計		162.83	
教授 中野 泰子 62 女 博 (薬) H28.4.1 単本学精論 現業性当時間の合計 6.00 6.00 教授 原澤 秀樹 60 男 (臨床薬学) H30.4.1 業事法規・制度3 業事法規・制度3 実務実習了し教育 2.30 22.50 教授 藤井 儀夫 64 男 (臨床薬学) (臨床薬学) H30.4.1 業事法規・制度3 業事法規・制度3 実務実習了し教育 業別学総合演習4 (監修発達第2 (監修発達第3 (監修発達第3 (監修発達第3 (監修表達達3 (監修表達達3 (監修表達達3 (監修表達達3 (監修表達2 (監修表達3 (監修表達3 (監修表達3 本籍 (監修表達3 (監修表達3 (監修表書3 (監修表書3 (監修表書3 (監修表書3 (監修表書3 (監修表書3 								医薬品情報学		30.00	1.00
対区 中、米) 「た0・4・「 創棄化学特論 「た0・4・「 創棄化学特論 7.50 教授 原澤 秀樹 60 男 (臨床薬学) 中(乗送 日当時間の合計 7.50 教授 康井 儀夫 64 男 博(薬) H18.4.1 東地路 日本		井	<u>{</u>	63	1	(村) ##	1 000	生化学3		00 '9	0. 20
教授 原澤 養村 60 明 (臨床薬学) (臨床薬学) (協株・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	日子米十年一	数	H + -	70	*	账	П20. 4. 1	創薬化学特論		7. 50	
原澤 秀樹 60 男 (臨床薬学) 11.00 11.00 藤井 儀夫 64 男 (博、薬) 11.00 11.00 藤井 儀夫 64 男 (博、薬) 11.00 11.00 藤井 優夫 64 男 (博、薬) 11.00 11.00 藤井 優夫 64 男 (博、薬) 11.04 11.04 11.07 藤井 優夫 64 男 (博、薬) 11.04 11.04 11.04 11.07 藤井 優夫 64 男 (博、薬) 11.04 11.04 12.00 11.07 藤井 優夫 64 男 (博、薬) 11.04 12.00 11.07 11.00 藤井 優夫 64 男 (博、薬) 11.04 11.04 12.00 11.07 東学総合演習1 5.00 5.00 5.00 11.								授業担当時間の合計		43. 50	1. 45
教授 応床薬学 地方解析 2.30 教授 原澤 秀樹 60 男 (臨床薬学) #30.4.1 薬事法規・制度1 7.50 教授 麻井 儀夫 64 男 博(薬) #180.4.1 薬事法規・制度2 3.00 機能形態学 大会業習了し教育 0 22.50 技会業習了し教育 0 22.50 社会業別・大教育 0 27.00 建築総合演習4 1.17 機能形態学 64 男 博(薬) #18.4.1 生物系薬学演習1 45.00 教授 藤井 儀未 64 男 博(薬) #18.4.1 生物系薬学演習1 3.00 教授 藤井 儀未 64 男 博(薬) #18.4.1 生物系薬学演習1 2.33 中級会議 66 男 博(薬) #18.4.1 生物系薬学演習1 2.33 中級会議 68.33 86.33								加力解析 I		7. 50	0.25
教授 原澤 秀樹 60 男 (臨床薬学) H30.4.1 薬毒法規・制度1 7.50 教授 原澤 秀樹 60 男 (臨床薬学) H30.4.1 薬毒法規・制度2 3.00 教授 康井 儀夫 64 男 (廣(薬)) H18.4.1 生物系薬学流電間の合計 11.17 教授 藤井 儀夫 64 男 (漢) H18.4.1 生物系薬学流電調 3.00 教授 藤井 儀夫 64 男 (漢) H18.4.1 生物系薬学流電調 3.00 教授 藤井 儀夫 64 男 (漢) H18.4.1 生物系薬学流電調 3.00 教授 藤井 儀夫 64 男 (漢) H18.4.1 生物系薬学流電調 3.00 東京総合演習 65.33 H18.4.1 生物系薬学流速調 2.33 2.33								処方解析工		2.30	0.08
教授 原澤 秀樹 60 男 (臨床薬学) 出30.4.1 薬事法規・制度2 3.00 1.50 教授 康井 儀夫 64 男 博(薬) 出30.4.1 薬事法規・制度2 3.00 3.00 3.00 22.50								処方解析		3.00	0.10
執授 原澤 秀樹 60 男 修 (臨床薬学) H30.4.1 薬事法規・制度2 実務実習了し教育 3.00 教授 原澤 秀樹 60 男 (臨床薬学) #30.4.1 薬事法規・制度2 3.00 教授 藤井 儀夫 64 男 (臨床薬学) #2 第五次 教授 藤井 儀夫 64 男 (職業) H18.4.1 生物系薬学流音選目 3.00 教授 藤井 儀夫 64 男 (職業) H18.4.1 生物系薬学流音選目 3.00 教授 藤井 儀夫 64 男 (職業) H18.4.1 生物系薬学流音演習1 3.00 教授 藤井 儀夫 64 男 (職業) H18.4.1 生物系薬学流音演習1 3.00 東学総合演習1 23.3 無子総合演習1 23.3 23.3 中級 23.3 無子総合演習1 23.3								リスクマネージメント論		7. 50	0.25
執授 原澤 所澤 大田(東京) 東京法規・制度3 中3.00 3.00 東海法規・制度3 3.00 3.00 22.50 3.00 22.50 教授 藤井 64 男 (臨床薬学) (臨床薬学) (職務) (職務) (職務) (職務) (職務) 								薬事法規・制度1		12.00	0.40
執行 原澤 香樹 60 男 (臨床薬学) (臨床薬学) H30.4.1 薬事法規・制度3 3.00 22.50 実務実習でおお育 ② 22.50 27.00 27		井				Ŋ		薬事法規・制度2		3.00	0.10
大元が/ 大会様と記述でもあす 実務実習プレ教育 ② 22.50 社会薬学1 社会薬学1 (株) (株) (株) (株) (株) (株) (株) (株) (株) (株)	臨床薬学科	() ()	原澤	09	眠	(化类型)	H30. 4. 1	薬事法規・制度3		3.00	0.10
数授 藤井 儀夫 64 男 (27.00) 27.00 27.00 27.00 27.00 27.00 27.00 27.00 27.00 27.00 27.00 27.00 27.00 27.00 27.00 27.00 26.25 27.00<		K				卡米		実務実習プレ教育	0	22. 50	0.75
本投票学1 3.00 薬剤学実習2 ⑤ 56.25 薬剤学実習2 ⑤ 56.25 薬物学実習2 ① 56.25 薬学総合演習4 1.17 機能形態学1 448.22 機能形態学1 45.00 機能形態学2 36.00 機能形態学2 36.00 横能形態学2 36.00 大線 期(薬) 相(薬) 株能於台灣第1 2.33 薬学総合演習1 2.33 東学総合演習1 86.33								実務実習ポスト教育	0	27.00	06 .0
数授 職件 機能形態学 17.7 数授 職件 (4) 用(薬) H18.4.1 生物系薬学演習1 2.33 数授 職件 (4)								社会薬学 1		3.00	
数授 藤井 儀夫 64 男 博(薬) H18.4.1 生物系薬学演習1 生物系薬学演習1 1.17 148.22 148.22 45.00 23.00 23.30 23.30 23.30 23.31 23.31 23.33								薬剤学実習2	0	56. 25	1.88
教授 藤井 儀夫 64 男 博(薬) H18.4.1 生物系薬学演習1 148.22 148.02 機能形態学1 45.00 機能形態学2 36.00 機能形態学2 36.00 機能形態学2 36.00 薬学総合演習1 2.33 東学総合演習1 2.33 東学総合演習1 86.33								薬学総合演習 4		1.17	0.04
教授 藤井 儀夫 64 男 博(薬) H18.4.1 生物系薬学演習 1 2.33 業学総合演習 1 2.33 再提能形態学 2 36.00 機能形態学 2 36.00 機能形態学 2 36.00 東学総合演習 1 2.33 東学総合演習 1 86.33								授業担当時間の合計		148. 22	
教授 藤井 儀夫 64 男 博(薬) H18.4.1 生物系薬学演習 1 3.00 薬学総合演習 1 2.33 本学総合演習 2 3.00 東学総合演習 1 2.33 本学総合演習 3 86.33								機能形態学1		45.00	1.50
教授 藤井 儀夫 64 男 博(薬) H18.4.1 生物系薬学演習 1 3.00 薬学総合演習 1 2.33 中 2 2.33								機能形態学2		36.00	1. 20
1 2.33 2.33 3.3 3.3 3.3 3.3 3.3 3.3 3.3 3	臨床薬学科	教授	推	64	魠	(操)	H18. 4. 1	生物系薬学演習 1		3.00	0.10
- 86.33 2.								薬学総合演習 1		2. 33	0.08
								授業担当時間の合計		86.33	

								実務実習プレ教育	0	9.00	0.30
								薬事法規・制度 1		15.00	0.50
								薬事法規・制度2		12.00	0.40
居 任 持 犯	水	里	申申	79	H	相(医)	H28 / 1	薬事法規・制度3		3.00	0.10
型子米トな	炎	甲	三	<u>-</u>	R	(KI) 址	1120. 4. 1	薬剤学実習2	0	45.00	1.50
								法規系薬学演習		1.50	0.02
								薬学総合演習 2		2.33	0.08
								授業担当時間の合計		87.83	2.93
								社会薬学2		21.00	0.70
								臨床薬剤学		7.00	0. 23
								処方解析1		3.00	0.10
								処方解析2		2.30	0.08
								悪性腫瘍治療学		9.00	0.30
								疾患別治療特論1		15.00	0. 20
吊开树形	教授	=	H 中	13	B	(姓) 畔	107 / 1	実務実習プレ教育	0	27.00	0.52
型子米トな	(実務)	I I	₹ ₹		R	(米) 生	127.4.	実務実習ポスト教育	0	27.00	0.52
								ファジカルアセスメント		6.00	0. 20
								長寿医療		4.50	0.15
								フィジカルアセスメント実習	0	30.00	1.00
								薬剤学実習2	0	56. 25	1.88
								薬学総合演習 4		1.17	0.04
								授業担当時間の合計		209. 22	6. 21
								薬事法規・制度1		12.00	0.40
								薬事法規・制度2		3.00	0.10
								薬事法規・制度3		30.00	1.00
臨床薬学科	教授	田王	幸幸	09	魠	博(医)	H29. 4. 1	法規系薬学演習		3.00	0.10
								薬学総合演習 2		2.33	0.08
								治験業務論		15.00	0.50
								授業担当時間の合計		65.33	2. 18

								地域保健論		15.17	0.51
								医療と法律		15.00	0. 50
								感染症治療学		30.00	1.00
								地域薬局論		9.00	0.30
								薬事法規・制度1		12.00	0.40
								薬剤学実習1	0	45.00	1. 50
	* # # # # # # # # # # # # # # # # # # #							薬剤学実習2	0	45.00	1. 50
臨床薬学科	浦欽 校 (事数)	田田	三二	47	眠	博(薬)	H25. 4. 1	疾患別治療特論1		9.00	0.30
	K K							薬事法規・制度3		3.00	0.10
								フィジカルアセスメント実習	0	15.00	0. 50
								薬理系薬学演習2		1.50	0.02
								薬学総合演習3		2.33	0.08
								薬学総合演習4		2.33	0.08
								実務実習プレ教育	0		
								授業担当時間の合計		204.34	6.82
								医薬品副作用学		39.00	1.30
								【健康】医療と栄養		15.10	0. 20
								薬剤学実習 1	0	45.00	1.50
居 田 村 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田	准教授	超級	31.4元	76	Ħ	(桝)押	H21 / 1	薬剤学実習2	0	45.00	1. 50
音・米・子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(実務)			3	R		.	実務実習プレ教育	0	42.00	1. 40
								薬理系薬学演習		3.00	0.10
								薬学総合演習3		2.33	0.08
								授業担当時間の合計		191. 43	6.38
								社会薬学2		21.00	0.70
								実務実習プレ教育	0	27.00	0. 90
								実務実習ポスト教育	0	27.00	06 '0
	* # #							悪性腫瘍治療学		21.00	0.70
臨床薬学科	浦欽 校 (事務)	※	回随	53	眠	博(薬)	H30. 4. 1	処方解析 I		4.50	0.15
	(RK)							処方解析工		3.50	0.12
								臨床薬剤学		3.50	0.12
								薬剤学実習2		56. 25	1.88
								授業担当時間の合計		163. 75	5. 47

_								薬事法規・制度 1		12.00	0.40
								٠.		3.00	0.10
								薬事法規・制度3		3.00	0.10
								【健康】健康管理学		4. 70	0.16
								医療倫理学		00 '9	0.20
								薬剤学実習1	0	26. 25	1.88
品工無事法 一年	准教授	共	基	70	H	後	H20 / 1	薬剤学実習2	0	26. 25	1.88
	丰務)	**************************************	н П М Н	÷	R		1.50. 4.	薬剤学実習 4	0	42.00	1.50
								実務実習プレ教育	0	39.00	1.30
								薬剤系薬学演習		1.50	0.05
								フィジカルアセスメント実習	0	30.00	1.00
								実務実習ポスト教育	0	28.00	0.93
								薬学総合演習 4		4.67	0.16
								授業担当時間の合計		289. 37	9.62
								教養生物学		00 '9	0.20
								薬物動態学2		15.00	0.50
臨床薬学科 推	准教授	囯	<u>-77</u>	42	用	博 (薬)	H25. 4. 1	薬剤学実習3	0	00 '09	2.00
								薬学総合演習 4			
								授業担当時間の合計		81.00	2.70
								教養生物学		9.00	0.30
								病態・薬物治療学2		18.00	09 '0
								病態・薬物治療学3		33.00	1.10
								臨床薬理学工		8.17	0.27
24 世界小型	并	拉口	非	٨	H	(操) 舞	H20 7 1	薬理系薬学演習 1		1. 50	0.02
	XIX	<u>_</u> _	灵	P	R	<u>k</u>	1.70.7.	薬学総合演習 1		1.17	0.04
								薬学総合演習3		2.33	0.08
								実務実習プレ教育	0	1. 50	0.02
								薬理学実習	0	90.00	3.00
								授業担当時間の合計		164. 67	5. 49
								物理薬剤学1		9.00	0.30
								物理薬剤学2		21.00	0. 70
								薬剤学実習1	0	30.00	1.00
臨床薬学科 推	准教授	聯森	画白	22	用	(薬)	H27. 4. 1	薬剤学実習3	0	60.00	2.00
								薬剤系薬学演習		1. 50	0.05
								薬学総合演習 4		2.33	0.08
		_		_				14年日 14年日 14年日			

								社会薬学 2		21.00	0.70
								臨床薬剤学		4. 70	0.16
								社会薬学1		3.00	0.10
								実務実習プレ教育	0	10.50	0.35
								実務実習ポスト教育	0	00 '9	0. 20
								救急医療概論		1. 20	0.04
吊车车	准教授	#	· ·	ĄŁ	H	(挺) #+	108 / 1	調剤学		24.00	08 '0
音そ米トな	(実務)	H €	ਜ਼ ਵ ਵ	5	R	· 张	1123. 4.	長寿医療		4.50	0.15
								医療倫理学		45.00	1.50
								フィジカルアセスメント		00 '9	0. 20
								薬剤系薬学演習		1.50	0.02
								薬学総合演習 4		4.67	0.16
								薬剤学実習2	0	45.00	1.50
								授業担当時間の合計		177.07	5.91
								社会薬学2		21.00	0. 70
								調剤学		21.00	0.70
								医療コミュニケーション論		30.00	1.00
	* # # # # # # # # # # # # # # # # # # #							薬剤学実習 1	0	45.00	1.50
臨床薬学科	浦欽 [(事黎)	渡邊	美智留	28	¥	庫 (薬)	H27. 4. 1	薬剤学実習2	0	45.00	1.50
	KK							フィジカルアセスメント実習	0	15.00	0.50
								実務実習ポスト教育	0	27.00	06 0
								実務実習プレ教育	0		
								授業担当時間の合計		204.00	08 .9
								薬学英語3		30.00	1.00
								薬物動態学1		3.00	0.10
据 世 操 沙 彩	華	计	H H	¥	‡	(操)罪	H20 / 1	薬物動態学2		3.00	0.10
ナー ト ト そ 音		Ū ₹	- € H	Ē	Κ		+	薬剤学実習3	0	60.00	2.00
								薬剤系薬学演習		1.50	0.02
								授業担当時間の合計		97. 50	3. 25
								薬物と健康		30.00	1.00
路不被沙然	講師	E	世	43	4	(座)	H22 A 1	薬剤学実習2	0	45.00	1.50
ナード	(実務)	I H	Ķ	}	Κ	<u> </u>	1.52. 4.	薬学総合演習4		2.33	0.08
								授業担当時間の合計		77.33	2. 58

								薬学英語3		30.00	1.00
								衛生薬学実習	0	56. 25	1.88
臨床薬学科	講師	殿田	半	37	¥	博 (薬)	H20. 4. 1	生物系薬学演習 1		1.50	0.02
								薬学総合演習3		2.33	
								授業担当時間の合計		90.08	3.01
								情報科学入門		30.00	1.00
臨床薬学科	講師	中	光沿	54	魠	学(日学)	H19. 4. 1	情報処理演習		30.00	1.00
								授業担当時間の合計		00 09	2.00
								健康管理学		7.00	0. 23
								医療統計学(4年)		3.00	0.10
								医薬品情報学		3.00	0.10
	講師							薬剤学実習 1	0	56. 25	1.88
臨床薬学科	(実務)	出田	英語	28	眠	华(操)	H20. 4. 1	薬剤学実習2	0	45.00	1.50
								実務実習プレ教育	0	3.00	0.10
								法規系薬学演習		3.00	0.10
								薬学総合演習 4		2.33	0.08
								授業担当時間の合計		122. 58	4.09
								薬学英語2		00 '9	0. 20
								運動と健康		15.00	0.50
								生物系薬学演習1		1. 50	0.02
臨床薬学科	講師	田雪	有利子	45	¥	博(医)	H28. 4. 1	生物系実習 1	0	60.00	2.00
								生物系実習2	0	30.00	1.00
								薬学総合演習 1		1.17	0.04
								授業担当時間の合計		113.67	3. 79
								早期体験学習		8.00	0.27
								長寿医療		3.00	0.10
								薬剤学実習 1	0	45.00	1.50
	講師							薬剤学実習2	0	45.00	1.50
臨床薬学科	(実務)	矢野	半	65	眠	庫 (樂)	H25. 4. 1	医薬品副作用		6.00	0.20
								実務実習プレ教育	0	1. 50	0.02
								疾病予防学		15.00	0.50
								薬学総合演習4		2.33	0.08
								授業担当時間の合計		123. 50	4. 12

								社会薬学 2		21.00	0.70
								実務実習プレ教育	0	21.00	0.70
								実務実習ポスト教育	0	6.00	0.20
								薬事法規・制度1		12.00	0.40
	離							薬事法規・制度2		3.00	0.10
臨床薬学科	(実務)	 	大河	48	魠	博(学術)	H30. 4. 1			3.00	0.10
								社会薬学1		3.00	0.10
					_			疾患別治療特論 1		9.00	0. 20
					_			薬剤学実習2	0	56. 25	1.88
								医療コミュニケーション論		30.00	1.00
								授業担当時間の合計		161. 25	5.38
								薬学英語4		30.00	1.00
								臨床薬理学1		9.00	0.30
								臨床薬理学2		12.00	0.40
臨床薬学科	講師	品品	账	35	魠	博 (薬)	H29. 4. 1	薬物動態学1		6.00	0. 20
								高度先端医療論		5.83	0.19
								薬剤学実習3	0	00 09	2.00
								授業担当時間の合計		122.83	4.09
								薬学英語2		6.00	0. 20
								社会薬学1		3.00	0.10
吊杆拼形	共無		#	45	‡	- G	100 / 1	生物系実習 1	0	45.00	1.50
音そ米十年		c H O	<u> </u>	5	χ	- - - - -	1120. 4.	生物系実習2	0	30.00	1.00
								薬学総合演習 1		1.17	0.04
								授業担当時間の合計		85.17	2.84
								生物系実習 1	0	120.00	4.00
臨床薬学科	助教	五十鈴三	知美	34	¥	学(薬)	H19. 4. 1	生物系実習2	0	120.00	4.00
								授業担当時間の合計		240.00	8.00
								社会薬学1		3.00	0.10
								社会薬学2		21.00	0. 70
					_			物理系実習1	0	120.00	4.00
								薬事法規・制度1		12.00	0.40
吊杆树沙岩	助教	4 件	指井	33	Ħ	(桝) 羋	H30 / 1	薬事法規・制度2		3.00	0.10
され来を置	(実務)		王 サ	3	R		÷ .	衛生薬学実習	0	101. 25	3.38
					_			疾患別治療特論1		6.00	0. 20
					_			薬事法規・制度3		3.00	0.10
								実務実習ポスト教育	0	27. 00	
								授業担当時間の合計		296. 25	9.88

	1.50	45.00 45.00 103.50		8 2 2 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	H26. 4. 1	参 (薬)	魠	32		礟	溝口	_
_	0.20	9. 00	0	実務実習ポスト教育								
_	0. 25	7. 50	0	実務実習プレ教育								
	7.00	210.00		授業担当時間の合計								
_	4.00	120.00	0	生物系実習2	H29. 4. 1	博(薬)	用	28	崇英		住野	助教 住野
	3.00	90.00	0	薬理学実習								

(以下に同じ様式で記入欄を追加し、ハンドブックの例示に従ってご記入ください)

- 1)薬学科(6年制)専任教員のみが対象ですが、2学科制薬学部で4年制学科の兼担教員となっている場合は(兼担学科名)を付記してください。
- 臨床における実務経験を有する専任教員には、職名に(実務)と付記してください。
- 実習科目は科目名の右欄に◎を付してください。 を記入し、 (兼担学科・兼任学科の科目も含む) 「卒業研究」の指導を除く全ての授業担当科目 「授業担当科目」には、 3
- 4
- 「授業時間」には、当該教員がその科目で行う延べ授業時間を時間数を、以下に従ってご記入ください。 ※講義科目は時間割から計算される実際の時間数(1コマ90分の授業15回担当すれば、90×15÷60=22.5時間)を記入します。 ※複数教員で分担している場合は授業回数を分担回数とし、履修者が多いため同一科目を反復開講している場合は授業時間数に反復回数を乗じます。 ※実習科目では、同一科目を複数教員(例えば、教授1名と助教、助手2名)が担当していても、常時共同で指導している場合は分担担当としません。
- で除した値を記入してください。 「年間で平均した週当り授業時間」には、総授業時間を「30」(授業が実施される1年間の基準週数) 開講する週数が30週ではない大学でも、大学間の比較ができるよう「30」で除してください。 $\widehat{\mathbf{2}}$

(基礎資料10) 教員の教育担当状況 (続)

表2. 助手(基礎資料8の表2)の教育実施状況

学	職名	丑 各	年齡	性別	学位	就任年月 日	授業担当科目		総授業時間	年間で平均した 週当り授業時間
							薬理学実習	0	00 '06	3.00
漢方薬学科	助手	東方優大	26	魠	小(業)	H29. 4. 1	生物系実習 2	0	120.00	4.00
							社会薬学1(早体)		00 '06	3.00
							化学系実習 1	0	120.00	4.00
漢方薬学科	助手	松嶋 ゆかり	27	¥	小 (瀬)	H27. 4. 1	薬剤学実習 4	0	45.00	1.50
							衛生薬学実習	0	101. 25	3.38

(以下に同じ様式で記入欄を追加し、ハンドブックの例示に従ってご記入ください)

担当時間数などの記入について表1の脚注に倣ってください。 兼担教員については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。 [世]

(基礎資料10) 教員の教育担当状況(続)

表3. 兼担教員(基礎資料8の表2)が担当する薬学科(6年制)の専門科目と担当時間

本	職名	凩	名	年齡	促却	孙 秦	現職就任年 月 日	目枓宗莊業斜		総授業時間	年間で平均した 週当り授業時間
								基礎統計学	0	21.00	0.70
								任物米樂字演習 二葉共野野語	\dagger	1.50	0.05
4	井		# #	C	1	\H_\ H+	107 4 1	機能 あいまま はいまい かんしん はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい はいか	\dagger	9.00	0.30
米な子な	炎 校	<u>E</u>	¥ ∰ †	õc	×	(莊) 盐	П2/.4.1	闘床楽描字と おません はません 地内 はんかん はんかん かんしん かんしん かんしん しんしん かんしん しんしん し		3.00	0.0
								同因尤指医游 排光炎 人语语	1	3.30	0.12
										1.17	0.04
								フィジカルアセスメント実習	0	15.00	0.50
薬科学科	教授	梶	輝行	22	虽	(文)	H27. 4. 1	医療と哲学		15.00	0. 50
								基礎統計学		9.00	0.30
	_							薬物動態学1		3.00	0.10
	_							臨床薬理学1		9.00	0.30
薬科学科	教授	十	康司	22	禹	博(医)	H25. 4. 1	臨床薬理学2		15.00	0. 50
								選択 血液検査学		4.50	0.15
	_							【臨床】高度先端医療論		5.80	0.19
								薬剤学実習3		60.00	2.00
薬科学科	教授	福田	幸男	<i>L</i> 9	男	(小) 单	H27. 4. 1	心理学		15.00	0.50
								薬物動態学1		3.00	0.10
拼光形式	松村	E N	九	ά	Ħ	(報/ 軒	H21 / 1	薬剤学実習3	0	60.00	2.00
± + + ±	1 7.17	E C	X II	3	R	\ <u>\</u>	- + 7	薬剤系薬学演習		1.50	0.02
								薬学総合演習 4		2.33	0.08
								化学系実習2	0	120.00	4.00
拼形形	A 籽 村	担	H H	Ā	H	(報) 罪	110 / 1	天然物化学		21.00	0.70
**************************************	/E-3X1X	是 定 定	承体	}	R	(¥ ±	- - -	化学系薬学演習		3.00	0.10
								薬学総合演習 1		2.33	0.08

孙	題	珉	佑	年齢	体別	小	現職就任年 月 日	授業担当科目		総授業時間	年間で平均した 週当り授業時間
								栄養学		15.00	0.50
								公衆衛生学		9.00	0.30
								衛生薬学実習	0	56. 25	1.88
薬科学科	准教授	承米	本	20	眠	博 (農)	H27. 4. 1	6年医療統計学		15. 20	0.51
								4年医療統計学		27.00	0.90
								薬学総合演習2		2.33	0.08
								薬学総合演習3		2.33	0.08
東京	工9 華=	# #	行	96	H	(準) 軒	1 1 96 1	有機化学4		30.00	1.00
米作ナ作		井里	E E	00	£	平(米)	1120. 4. 1	化学系実習2	0	120.00	4.00
神	土り 業長	‡ #	ΔIV	66	H	(上/ 鼾	U2E / 1	有機化学3		30.00	1.00
米件十件		恒井		95	ĸ	(十) 绘	1123. 4. 1	化学系実習2	0	120.00	4.00
東京	如華	一大・田野	田州	25	H	(準) 軒	1 N 96 N 1	天然物化学		24.00	08 '0
米イナイチ		万	H K	CO.	£	平(米)	1120. 4. 1	化学系実習1	0	120.00	4.00

(以下に同じ様式で記入欄を追加し、ハンドブックの例示に従ってご記入ください)

[注] 担当時間数などの記入について表1の脚注に倣ってください。 兼担教員については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

162

(基礎資料11) 卒業研究の配属状況および研究室の広さ

5年生の在籍学生数 334 名

6年生の在籍学生数 304 名

	配属講座など	研究室	指導教員数	5 年生配属学生数	6 年生配属学生数	合計	卒業研究を実施す る研究室の面積 ^(m²)
1	生化学	C21, C34	4	16	15	31	129. 60
2	分子生物学	C 22	2	5	6	11	97. 20
3	薬物解析学	C 23	2	14	11	25	97. 20
4	環境科学	C 24	3	15	16	31	97. 20
5	薬品分析学	C31	2	6	13	19	97. 20
6	薬物治療学	C32, C34	4	16	16	32	129. 60
7	生薬・薬用資源学	C33	3	8	5	13	97. 20
8	機能形態学	C41	4	17	18	35	97. 20
9	薬理学	C 42	4	16	16	32	97. 20
10	薬剤学	C 43	4	19	16	35	97. 20
11	臨床薬剤学	C 44	5	22	22	44	97. 20
12	生体防御学	D32A	3	16	14	30	97. 20
13	放射線科学	D32B	3	12	12	24	97. 20
14	臨床薬理学	D41	4	11	5	16	97. 20
15	食化学	D42, C34	4	18	14	32	129. 60
16	感染予防学	D 43	3	16	15	31	97. 20
17	公衆衛生学	D 44	3	13	15	28	97. 20
18	漢方天然物化学	E31 A	3	10	6	16	97. 20
19	薬品反応学	E31B	3	14	10	24	97. 20
20	医薬品化学	E32	3	10	13	23	194. 40
21	薬物動態学	E41	4	17	9	26	97. 20
22	病態生理学	E 42	4	19	14	33	97. 20
23	漢方薬物学	E 43	4	11	9	20	97. 20
24	漢方治療学	E 44	3	13	14	27	97. 20
	合計			334	304	638	

[[]注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。

² 指導教員数には担当する教員(助手を含む)の数を記入してください。

³ 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。

(基礎資料12-1) 薬学科の教育に使用する施設の状況

	施設 ¹⁾	座席数	室数	収容人員合計	備考
	講義室(大)	487及び416	3	1,319	1室はLeo Esaki記念ホール(固定机)、他は可動机
講義室・	講義室(中)	300	4	1, 200	全て固定机
演習室 ²⁾	講義室(小)	52、68、 160、200	15	2, 200	52×2、68×2、160×6、200×5 全て可動机
	情報処理・LL教室	120	2	240	各室PG120台、合計240台、CBTにも使用
	化学系実習室	120	2	240	化学系実習で使用
	生物系実習室	120	1	120	生物系実習で使用
実習室	物理系実習室	120	1	120	物理系実習で使用
	薬剤学、衛生薬理実習室	120	3	360	薬剤学実習、衛生薬学実習、薬理学実習で使用
	模擬薬局	I	1	I	調剤室、模擬病床、無菌室、セミナー室
第 基 思 目		90、57、 48、10	9	205	ドリームビル3階(90)、ガーデンラウンジ(57)、自習談話室(16)×3、薬学教育センター学習室(10)、その他に自習室は図書館にもある(基礎資料13)
	食堂及び講義室	597、200、 160、80、48	5	1, 085	未使用時に食堂および一部の講義室を自習室として使用
薬用植物園	1)設置場所:薬学部キャンパス内 2)施設の構成と規模:温室(110㎡)及び花 3)栽培している植物種の数:300~350 4)その他の特記事項:漢方薬学科の教育で4	内 0㎡)及び花壇等 0~350 科の教育で使用、 0人以上の見学が	, 0	㎡ 学の卒業研究の研	計1,850㎡ 薬用資源学の卒業研究の研究材料を育成、育成が困難なオタネ人参を育成。 ある。

[注] *コンピューター演習室の座席数は学生が使用する端末数としてください。

*学生が自習などの目的で自由に利用できる開放スペースがあれば記載してください。

- 実習室などを対象にしてください。 総合大学では薬学部の教育で使用している講義室、演習室、 $\widehat{-}$
- 講義室・演習室には収容人数による適当な区分を設け、同じ区分での座席数の範囲を示してください。 また、固定席か可変席か、その他特記すべき施設などを、例示を参考にして備考に記入してください。 5

(基礎資料12-2) 卒業研究などに使用する施設

表1. 講座・研究室の施設

施設名 1)	面積 2)	収容人員 3)	室数 4)	備考
専門研究室 (中)	194. 40m ²	Y 05	1	教員室、セミナー室、研究・実験室
専門研究室 (小)	97.20m ²	丫 52	24	同上

講座・研究室が占有する施設(隣接する2~3講座で共用する施設を含む)を記載してください。 実験室・研究室に広さが異なるものがある場合は、「大・小」、「大・中・小」のように大まかに区分してください。 同じ区分の部屋で面積に若干の違いがある場合、面積には平均値を記入してください。 1室当たりの収容人数を記入してください。同じ区分の部屋で若干の違いがある場合は平均値を記入してください。 薬学科の卒業研究を担当する講座・研究室が占有する部屋の合計数を記入してください。(ひとつの講座・研究室当たせん。) $\widehat{-}$

ください。 ・研究室当たりの数ではありま **69** €

学部で共用する実験施設 Ø 表

施設の区分り	室数	施設の内容
中央機器室	8	ESR室、機器管理室、質量分析室、NMR室、単結晶X線解析装置室、組織培養室、分子生物室、機器室
動物施設	6	監視室、無菌飼育室(3室)、一般飼育室(1室)、行動解析室、実験室、洗浄室、機械室

1)大まかな用途による区分を設け、各区分に含まれる室数と施設の内容を列記してください。(面積などは不要です)

(基礎資料13) 学生閲覧室等の規模

備 考 30		
その他の 自習室の整備状況 ²⁾	情報処理端末はミー ティングルームには 設置していないが、 1 踏に検索・レポー ト作成用のPC20 台、時に、1 踏から らいまた、1 階から ら略までの各階に蔵 書検索用PCを1台 づつ設置している。	
その他の自習室の座席数	42	42
その他の 自習室の名称	ミーティングルーム	
収容定員に対する 座席数の割合(%) A/B*100	17.5	17.5
学生収容 定員数(B) ¹⁾	2, 200	2, 200
学生閲覧室 座席数(A)	385	385
図書室(館)の名称	横浜薬科大学図書館	 -

1) 「学生収容定員数(B)」欄には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。

^{2) 「}その他の自習室の整備状況」欄には情報処理端末をいくつ設置しているか等を記載してください。

^{3) 「}備考」欄には「学生収容定員(B)」の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。

(基礎資料14) 図書、資料の所蔵数および受け入れ状況

# 1	図書の冊数	の串数	定期刊行物0)種類	視聴覚資料の		過去3年	過去3年間の図書受け入れ状況	入れ状況	
凶書館の名称	図書の全冊数	開架図書の 冊数(内) ¹⁾	内国書	外国書	<u></u> 所愈数 (点数) ²⁾	ナルの種類 (種類) ³⁾	平成27年度	平成28年度	平成29年度	備考
横浜薬科大学図書館	33, 431	33, 386	516	124	909	3, 717	2, 517	2, 412	3, 553	
+=	33, 431	33, 386	516	124	909	3, 717	2, 517	2, 412	3, 553	

[注] 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。

1) 開架図書の冊数 (内) は、図書の全冊数のうち何冊かを記入してください。

2)視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、 CD-ROM等を含め、所蔵数については、タイトル数を記載してください。

3) 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育は	および研究活動の業績	績一覧	
大学名 横浜薬科大学 講座名 薬学教育センター	職名 教授	氏名	奥平 和穂
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日		概要
1 教育内容・方法の工夫			
臨床薬物動態学(6年次前期)	平成29年4月~ 現在		を使用した。毎回、課題提出を行 作認しながら進行した。
薬物動態学 1 (3年次前期)	平成27年4月~ 現在	オリジナルプリントを	を使用した。
薬剤学実習3(4年次前期)	平成27年4月~ 現在	ステップごとに学生 <i>0</i> た。	D理解度を確認しながら、進行し
2 作成した教科書、教材、参考書			
基礎からの薬物動態学 みみずく社	平成28年3月	薬物動態1,2の教科書	として使用している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 薬学教育センター	平成27年4月~ 現在	学生の講義に対する質 援を行った。	賃問対応、学習相談などの学習支
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) 数学基礎教育における「図の読み取り」にまつ わる問題	共著	平成27年6月	京都大学数理解析研究所講究録 1951, 209-222
(著書)基礎からの薬物動態学	共著	平成27年8月	みみずく社
(論文) Photodynamically-induced Apoptosis Due to Ultraviolet A in the Presence of Lomefloxacin in Human Promyelocytic Leukemia Cells.	共著	平成27年11月	Anticancer Res. 37(11):6407-6413.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動		•	

		教育お	よび研究活動	の業績	一 覧				
大学名 横浜薬科大学	講座名	薬学教育センター	職名 教授	J	氏名	越智;	定幸		
I 教育活動	•								
教育実践	上の主な	業績	年 月	日		概	要		
1 教育内容・方法のコ (1) 微生物学(2年全期) 前任校にて実施	三夫		平成25年4月~ 平成29年3月		過そ介講題のでこ 写に言解 講ト講板でら生平 の都る内れ場受は やりや促 内ウををを本のし 国度講容でで講で 図入文し 容ト実書傾法対た 家、義のい求すき 表れ字、 をし施きけに策。 ままでのら学い 、講はた ワも す問って いれ生る 視義説、 一の 手間でつ に中施、かれ生る 視義説、 一の 手間でつ	強 のあて興考 的実が解 イ予 か作義調 よるい味え に施困を ンめ らるにし ういるをる 訴 難深 ト学 解こけ がとい	必事、かき る こる ァヘ さがて 要 項どを、 物 とこ イ配 れでくに がの具一 を にと ル付 、きるい 国よ体定 講 対に でし 講たこ	じ 家う的の 義 しつ 作、 義。とて 試なに効 資 てな 成こ 内しが・去 問解すを に 講っ てを にしき 間解がこ上 積 者た プ用 集なで しきせい 極 の。 リル 中かい	紹出床。る 的 理 ンた し 学
2 作成した教科書、教 微生物学・免疫学 学生9	智書		平成25年4月~ 平成29年3月	j	塩床の現場で要求さ 易な文書で手技を解 床現場との情報交換 し、毎年改定をして で実施)	説した実 により、	習書を作. 臨床上の	成している。 ニーズを勘案	臨
3 教育方法・教育実践	まに関する:	発表、講演等 							
4 その他教育活動上特	持記すべき	事項							
医・薬・看合同チームのシ	/ュミレー	ション教育FD	平成29年1月	1	安心・安全・良質の 要とされる医療人を でのシュミレーショ (前任校での活動)	育てるこ	とを念頭	に、医療チー	- ム
平成30年度横浜薬科大学F	D·SD研修	会	平成30年9月	;	本学の教育の質向上 育、学力向上のため 演習講義の両立、能 議論した。	の授業内	容の見直	し、卒業研究	ع
第4回若手薬学教員のためのアドバンストワークショップ		平成30年11月]]	「卒業時における教資質・能力とその評別所育成のための現し、卒業時のアウトセスメントポリシーングについて議論し	価を考え 薬系大学 カムから の設定、	.る~」と の将来ビ .ディプロ	題して次世代 ジョンを想定 マポリシー、	漢 『 ア	
Ⅱ 研究活動						ı			
1.著書・論文等の名称			単著・ 共著の別	IJ	発行または発表の 年月(西暦でも可)			発表雑誌 な)等の名称	
(論文) A recombinant c alpha-toxin protects mi perfringens			共著		平成25年5月	Microb 340-34		unol., 57(5)	,
(論文) Recent insights <i>perfringens</i> beta-toxin	into <i>Clo</i>	stridium	共著		平成27年2月	Toxins	(Basel),	7(2), 396-	-406

(論文) An outbreak of diarrhea in due to <i>Escherichia coli</i> serogroup strain that had a coding gene for <i>E. coli</i> heat-stable enterotoxin 1	0-nontypable	共著	平成29年2月	Am. J. Trop. Med. Hyg., 96(2), 457-464
(論文) Naringenin glucuronidation intestine microsomes of humans, mo mice		共著	平成30年1月	Food Chem. Toxicol., 111, 417-422
(論文) Regioselective glucuronida in liver and intestinal microsomes monkeys, rats, and mice		共著	平成30年9月	Arch. Toxicol., 92(9), 2809- 2817
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名
(演題名) 室内環境化学物質による侵害刺激の相乗作用			平成30年7月	第45回 日本毒性学会学術年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動				
平成12年1月~平成29年3月	日本細菌学会中部	支部評議員		
平成15年1月~平成27年12月	日本細菌学会評議員	員、日本細菌学会教	育委員会委員	

	教育および研究活動の業	續一覧
大学名 横浜薬科大学 講座名 分子生物:	学研究室 職名 教授	氏名 小俣 義明
I 教育活動	<u> </u>	
教育実践上の主な業績	年 月 日	概要
1 教育内容・方法の工夫 分子生物学 I (3年次前期) 分子生物学 1 (3年次前期) (カリキュラムの改訂により科目名変更)	平成25年4月~ 平成28年7月 平成29年4月~ 現在	講義は板書を基本とし、学生が自らノートへ筆記するようにしている。しかし、板書では時間を必要とする物質代謝における化合物の変換では、時系列毎の細かい変化をパワーポイントのムービーにし、遺伝子の機能についてはビデオを用いて核酸及び関連解し易いよパク質のダイナミックな働きを視覚的に理解し易いようにしている。いずれの場合にも、内容を抜粋したプリントを配布し、教室のプロジェクターで見るだけでなく、記憶及び記録が手許に残るよう配慮している。
生化学3(2年次後期オムニバス)	平成29年10月~ 現在	主に板書による講義を行うので、学生は筆記に時間がかかる。そのために板書する内容の主要な項目を予め配置したプリントを配付し、学生が筆記するだけに終わらないように配慮した。プリントには、項目名だけでなく、書き写すことに時間がかかる図や化合物の構造式も加え、更に余白を持たせてあり学生は必要に応じて解説や注釈を書き加えることができようにしている。当該分野の視聴覚資料が大学の図書館に収蔵されているが、学生の認知度が低いので、抜粋したDVDを見せて視聴を促した。
2 作成した教科書、教材、参考書 分子生物学 I 及び 1 講義資料	平成25年4月~ 現在	主に板書によって講義を行っているが、多数の化学構造式や生体物質の立体的な形態など板書では表し難い場合には、パワーポイントで作成したスライドやアニメーションを用いた。また、遺伝子の機能に関してDVDビデオを用いた箇所もあり、パワーポイントとビデオの抜粋をプリントにして配布した。学生の授業アンケートでによる個別のコメントを参考に理解度や評価を考慮しながら毎年更改している。
薬剤師国家試験 -解答・解説集-	平成25年4月~ 現在	第96回以降の薬剤師国家試験の解答・解説集を毎年大学で出版する際の編集作業を毎年行っている。
コンパス 分子生物学 (南江堂)	平成30年9月	分子生物学 I、II 及び分子生物学 1、2で使用す教科書であり、初版に引き続き、改訂第2版の2章を執筆した。出版社へ寄せられた意見を参考に、文章を再度検討して改めるとともに、分かり難い図表を修正した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講	寅等	
4 その他教育活動上特記すべき事項 模擬患者 (SP) 養成講習会	平成25年10月~ 平成30年12月	4年次共用試験OSCEを実施する際に必要な模擬患者の養成を、在学生と利害関係のない地元住民に対して行った。
横浜薬科大学 平成28年度 FD·SD研修会	平成28年8月 23日~24日	大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、多様な学力を持った学生の指導法、カリキュラムマップと妥当な成績評価、良好な学習環境を整えるために教職員が組織的にできることについてグループに分かれて議論した。
3 つのポリシー策定と分野別の参照基準	平成28年12月 17日	日本学術会議主催公開シンポジウムに参加した。
分野連携アクティブ・ラーニング対話集会(学・医学・歯学・看護学・体育学グループ)		私立大学情報教育協会主催の説明・討論会に参加し、 学部や分野を跨がった学生間でのアクティブラーニン グの実践例を参考にして、可能性について他大学の教 員と意見交換した。

早期体験学習(1年次後期)		平成29年9月~ 平成31年1月	して施設訪問していた な薬剤師の業務を見聞 局または企業の2ヶ月 めに従前より倍加した 教員を割り振った。学	展局、企業の中から1ヶ所を選択たが、コアカリSB0に準じて「様々が、コアカリSB0に準じて「様々別」するため、各学生が病院と薬所を訪問することにした。そのたた設を確保し、学生および引率学生を割り振る際には、終了後のかにできるだけ配慮した。
横浜薬科大学 平成308年度 FD・SD版	开修会	平成30年9月 4日~5日	教育、能力別クラスタ	€(一泊二日)に参加し、初年次 ↑けの在り方、卒業研究と演習講 ○ための授業の組み立ての見直し ↑かれて議論した。
Ⅱ 研究活動				
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Transcriptional factor Fur Thermoplasma volcanium binds its o in a divalent cation-dependent man	wn promoter DNA	共著	平成25年1月	The Journal of General and Applied Microbiology vol.58 No.6
(論文) Specificity of Fur binding oxidative stress response gene profacultative anaerobic archaeon <i>The volcanium</i> .	moter in the	共著		Biological and Pharmaceutical Bulletin vol. 37 No. 3
(著書) コンパス 分子生物学 改訂第	(著書) コンパス 分子生物学 改訂第2版			南江堂
(著書)第102回 薬剤師国家試験一触	共著	平成29年11月	横浜薬科大学 国試対策室	
(著書) 第103回 薬剤師国家試験一触	共著	平成30年7月	横浜薬科大学 国試対策室	
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名	
(演題名) 基質を2分子結合したヒドロキシメチルビラン合成酵 晶構造解析			平成30年6月	第18回日本蛋白質科学会年会
(演題名) 2分子の基質を結合したヒ の結晶構造	トヒドロキシメチル	レビランシンターゼ	平成30年9月	第91回日本生化学会大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動				
平成27年9月~現在	薬物乱用防止キー	ャンペーン in 横濱		

		教育お	よび研	研究活動の業績	責一 覧	
大学名 横浜薬科大学	講座名	環境科学研究室	職名	教授	氏名	香川 聡子
I 教育活動	•		•		<u>'</u>	
教育実践	上の主な	業績	年	月日		概要
1 教育内容・方法のコ	夫					
環境衛生学 I & II (3年 科目) オムニバス	臨床・漢グ	5·健康薬学科必須		7年4月~ 8年3月	物質の生体への影響、	&プリントを作成している。化学 生活環境と健康に関して新聞等 紹介し、身近な問題として興味を
公衆衛生学(3年 4年 日日) オムニバス	京床・漢方	• 健康薬学科必須科		9年4月~ 0年3月	持って学習に取り組め	りるよう努めている。
環境生理学(5年 健康薬	学科必須科	4目)オムニバス	平成2 現在	7年4月~	キーワードで各自が興た内容を発表するとと	がの一環として、「健康」に関わる 興味を持ったテーマについて調べ ともに、より理解を深められるよ ディスカッションを取り入れた。
衛生薬学実習(3年)			平成2 現在	7年4月~	し、特に実習・試験の 意点を含め詳しく説明	全体の要約を実習開始前に講義 D意義、原理については操作の注 用した。項目によってはより理解 Eールグループディスカッション
2 作成した教科書、教	対、参考	書				
衛生試験法・注解2015(E	3本薬学会	編 金原出版)	平成2	7年3月20日	共同執筆、空気試験法	长を担当
衛生薬学 健康と環境(日	本薬学会網	扁 東京化学同人)	平成2	8年2月15日	共同執筆、室内空気分	}野を担当
衛生薬学−基礎・予防・臨 南光堂)	床(今井浩	告孝、小椋康光編	平成2	8年5月10日	共同執筆、室内空気分)野を担当
学校薬剤師のための学校 日本薬剤師会編 金原出版		験法(日本薬学会、	平成3	0年9月 5日	共同執筆、教室等の環プールの空気質を担当	環境に係る試験法の一部と屋内 á
3 教育方法・教育実践	態に関する	発表、講演等				
4 その他教育活動上特	詩記すべき	事項				
横浜薬科大学 平成30年度 FD·SD研修会		平成3 4日~	0年9月 5日	大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、初年次教育、能力別クラス分けの在り方、卒業研究と演習諸義の両立、学力向上のための授業の組み立ての見直しについてグループに分かれて議論した。		
研究倫理のe-learning 平成27年4月~ CITI Japa		CITI Japan e-learni 講完了した。	ngプログラムを平成26年度まで受			
Ⅱ 研究活動						
1. 著書・論文等の名称				単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Detection of 34 retardants in indoor ai Japan.				共著	平成26年9月	Sci Total Environ, vol 491- 492:28-33.
(論文) Differential de and organophosphorus fl residential indoor air	ame retar			共著	平成27年6月	Environ Sci Poll Res, First Online: 24 June 2015, DOI: 10.1007/s11356-015-4858-z.
(論文) Hepatic and int mono(2-ethylhexyl) phth of di(2-ethylhexyl) pht rats, and mice: an in v microsomal fractions.	alate, an halate, i	active metabolite n humans, dogs,		共著	平成28年7月	Arch Toxicol, vol 90 No.7:1651-1657

(論文) Ephedra Herb extract activates/desensitizes transient r potential vanilloid 1 and reduces induced pain. J Nat Med, 2017, 71(capsaicin-	共著	平成29年1月	J Nat Med, vol71 No.1:105-113
(論文) Glucuronidation of 4-tert- humans, monkeys, rats, and mice: a analysis using liver and intestine	n in vitro	共著	平成29年3月	Arch Toxicol, Vol91 No.3: 1227 -1232
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名
(演題名)香料および関連化合物によ	るTRPA1活性化の種	差に関する研究	平成30年6月	第64回日本薬学会東海支部 総 会・大会
(演題名)室内環境化学物質による侵	害刺激の相乗作用		平成30年7月	第45回日本毒性学会学術年会
(演題名) ゲノム編集技術を用いたIL	-8 GFP assayの開多	Ě	平成30年7月	第45回日本毒性学会学術年会
(演題名) 室内空気中Dibutyl phthal phthalate標準試験法の構築と妥当性語	ateおよび Di(2eth F価	ylhexyl)	平成30年9月	フォーラム2018 衛生薬学・環境 トキシコロジー
(演題名)Aspergillus fumigatus由来 生に及ぼす影響	装糖脂質による炎症	性サイトカイン産	平成30年9月	フォーラム2018 衛生薬学・環境 トキシコロジー
(演題名)TRPV1活性化能における川信	トアルカロイドの構	造活性相関	平成30年9月	日本生薬学会 第65回年会
(演題名)ハウスダストを介した金属	類の曝露に関する研	开究	平成30年11月	メタルバイオサイエンス研究会 2018
(演題名) 水銀の部位特異的腎毒性発 の開発に関する研究	現機構の解明に向け	けたin vitro評価系	平成30年11月	メタルバイオサイエンス研究会 2018
(演題名)室内空気中フタル酸エステ GC/MS標準試験法の確立	ル類の固相吸着-溶	容媒抽出法を用いた	平成30年12月	平成30年室内環境学会学術大会
(演題名)溶媒抽出法による室内空気 ロキサン類分析の検討	中のグリコールエー	-テル類及び環状シ	平成30年12月	平成30年室内環境学会学術大会
(演題名) 衛生試験法・注解 空気試 タル酸ジ−2-エチルヘキシル	験法 フタル酸ジ−	n-ブチルおよびフ	平成31年3月	日本薬学会第139年会
(演題名) 衛生試験法・注解 空気試験法 アスベスト			平成31年3月	日本薬学会第139年会
(演題名)線虫捕食糸状菌Hirsutella rhossiliensis由来糖脂質によるサイトカイン産生			平成31年3月	日本薬学会第139年会
(演題名) ヒト肝ミクロゾームにおけに対する2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタ	る降圧薬エナラプ!! !ンジオール ジイン	平成31年3月	日本薬学会第139年会	
(演題名)TRPV1 構造活性相関解明に の合成研究	向けた 10位,14位	平成31年3月	日本薬学会第139年会	
(演題名) 消化管内分泌細胞に発現す 解析	ーーーーー る苦味受容体および	 メGαタンパク質の	平成31年3月	日本薬学会第139年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動				
平成25年6月~現在	日本毒性学会 評議	 員/Journal of Tox	icological Sciences	Editorial Board
平成28年4月~現在	日本薬学会 環境	・衛生部会 関連法	規情報委員会委員長	2
平成28年4月~現在	厚生労働省 シック	フハウス(室内空気活	5染)問題に関する検討	会委員
平成28年12月~現在	室内環境学会 評詞	—————————————————————————————————————		
平成29年4月~現在	日本薬学会 環境	・衛生部会 空気試	験法専門委員会委員長	:

	教育お	よび研究活動の業績	一覧
大学名 横浜薬科大学	講座名 放射線科学研究室	職名 教授	氏名 加藤 真介
I 教育活動		•	
教育実践	美上の主な業績	年 月 日	概要
1 教育内容・方法のエ	.夫		
基礎化学(1年)		平成25年4月~ 平成26年9月	講義まとめノート作成誘導: 教科書のポイントにアンダーラインを引かせ、さらに 補足事項を板書で示しているが、これらを一つのノー トに書き写すと、復習に使えるまとめノートが出来上 がるように工夫した。
放射化学(2年)		平成25年4月~ 平成27年9月	講義まとめノート作成誘導: 教科書のポイントにアンダーラインを引かせ、さらに 補足事項を板書で示しているが、これらを一つのノー トに書き写すと、復習に使えるまとめノートが出来上 がるように工夫した。
物理系実習 I 講義(2年)		平成25年4月~ 現在	難問の理解を容易にさせる効果的な資料作成: 高度なpHの計算法を理解するために必要な知識を順 を追って分かりやすく解説するためのパワーポイント 資料を作成している。
実務実習事前学習(4年)		平成25年4月~ 現在	実務的知識の理解を助ける効果的な資料の作成: 通常は現場における見学・実習を通じて習得する知識 を可能なかぎり座学で学べるように、作業手順や医薬 品の容器などの写真を多用したパワーポイント資料を 作成している。
臨床物理分析法(3年)		平成25年10月~ 現在	基礎~応用までを理解させる効果的資料の作成: 画像診断に関する資料をウェブ上から収集し、機器の 原理、診断の理論、実務上の問題・注意、今後の展望 を診断法ごとにまとめ、総括的に学べる資料を作成し た。
教養化学(1年)		平成27年4月~ 現在	能動的学習を促す講義資料の作成: 講義が一方的な単なるスライドショーにならないよう 重要ポイントを自ら埋める穴埋め式のパワーポイント 資料を作成した。
臨床放射線科学(3年)	臨床放射線科学(3年)		基礎~応用までを理解させる効果的資料の作成: 放射線科学に関する各種資料より収集し、放射線の基 礎的知識を習得した上で、生体・環境への影響、医療 への応用、特に放射性医薬品の意義を総括的に学べる 資料を作成した。
2 作成した教科書、教	材、参考書		
第98回 薬剤師国家試験 原康宏 他編	新国家試験形式 解答・解説 梶	平成25年6月	放射性医薬品の概説および各医薬品の特徴等について まとめた。
臨床物理分析法(第2版) (臨床物理分析法)	加藤真介 他編 横浜薬科大学	平成25年9月	物理学的診断法の概説および各方法の詳細をまとめ た。
基礎化学 楯直子 他編	培風館 (教養化学)	平成26年4月	化学平衡と反応速度の基礎的知識について解説した。
臨床物理分析法(第3版)) (臨床物理分析法)	加藤真介 他編 横浜薬科大学	平成26年9月	物理学的診断法の概説および各方法の詳細をまとめた。
教養化学(無機化学・理論 科大学 (教養化学)	化学)加藤真介 他編 横浜薬	平成28年4月	原子の構造、物質量、電子軌道等について解説した。
	他編 横浜薬科大学(臨床放射	平成30年9月	放射線の基礎から医療応用までを詳細に解説した。
3 教育方法・教育実践	に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特 FD講演会 研究倫理のe-learning	記すべき事項	平成23年度~ 現在 平成27年度~	年2 回ほど開催される本学主催のFD 講習会に出席し、自己啓発に努めている。 CITI Japan e-learning プログラムを平成27年度まで
		現在	受講完了した。

I 研究活動				
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Relationship between tissue hydroxyl radical and oxidatively modified macromolecule levels.		共著	平成26年4月	Geriatr. Gerontol. Int. 14(2)
(論文) Effect of X-ray irradiation on nerve growth factor-induced neurite extension in PC12 cells.		共著	平成26年3月	J. Clin. Biochem. Nutr. 54 supplement
(論文) Xray Irradiation Promotes Nerve Growth Factor-induced Neurite Extension in PC12 Cells. 共著		共著	平成28年3月	RADIOISOTOPES. 65(3)
(論文) Potentiation of nerve growth factor-induced neurite outgrowth by a novel SERM, MU314, in PC12 共著cells.		共著	平成29年6月	Pharmacometrics, 92
(論文) 1) Chronic irradiation with low-dose-rate $137\text{Cs-}\gamma$ rays inhibits NGF-induced neurite extension of PC12 cells via Ca2+/calmodulin-dependent kinase II activation.		共著	平成29年11月	J. Rad. Res, 58
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名
(演題名) NGF誘導神経突起伸長過程に対する放射線影響の照射時期による違い			平成30年6月	日本保健物理学会 第51回研究発表会
(演題名)放射線照射によるミトコンドリア内スーパーオキシドアニオンの産生			平成30年7月	第55回 アイソトープ・放射 線研究発表会
(演題名) 日本保健物理学会「放射線安全文化の醸成に関する専門研究会」の 活動紹介			平成30年10月	平成30年度 放射線安全取扱 部会年次大会
(演題名) 血清除去誘導細胞死の一過性X線照射による抑制			平成30年11月	第61回 日本放射線影響学会 大会
(演題名) X線照射後の0 ²⁻ とNOの細胞内生成状況の解析			平成31年3月	日本薬学会 第139年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動				
平成17年4月~現在	公益社団法人 日本アイソトープ協会(文部科学省・登録定期講習機関)定期講習講師			
平成18年3月~現在	薬学教育協議会 放射薬学教科担当委員会委員			
平成24年9月~現在	小・中・高校生・教員・一般人対象の放射線教育事業講師(日本原子力文化財団主催、文部 科学省主催、経済産業省主催、消費者庁主催、日本原子力機構主催など)			
平成25年5月~現在	日本私立薬科大学協会 薬剤師国家試験問題検討委員会「物理・化学・生物」部会委員			
平成30年4月~現在	日本保健物理学会・「放射線安全文化の醸成に関する専門研究会」主査			

	教育および研究活動の業績一覧			
大学名 横浜薬科大学	講座名 公衆衛生学研究室	職名 教授	氏名 加藤	輝隆
I 教育活動				
教育実践	上の主な業績	年 月 日	概	要
1 教育内容・方法のエ	夫			
衛生系実習(3年次後期)		平成25年9月~ 平成28年11月	衛生薬学の領域のうち、食 大気、室内環境に関する分 来、学校薬剤師のほか、行 生、鑑識科学などの分野で 礎的な技能を修得させた。	野の講義と実習を行い、将 政機関で環境衛生、食品衛 活動する際に必要となる基
衛生薬学実習(3年次後期) (カリキュラムの改訂によ		平成29年9月~ 平成30年11月	せ、その場で教員が添削し の訂正や再実験を行わせる 定着を図った。	
公衆衛生学(4年次前期)		平成25年4月~ 平成28年9月	講義はプリントを基本とし開く機会を増やすために、ページをプリントに記載しや説明文に触れるようししついては、毎年、入手し得とともに、我が国の医療、	可能な限り教科書の参照 、講義中にも教科書の図表 ている。衛生統計や法令に る最新のデータに改訂する 保健、福祉、環境などに関
公衆衛生学(3年次前期) (カリキュラムの改訂によ	り実施年次を変更)	平成28年4月~ 平成30年9月	連する約1,600本の現行法令のマクロプログラムで作成要な時に法令の全文を総務取れるようにした。	うのデータベースをエクセル し、薬学生や薬学教員が必
産業保健論(5年次前期)		平成25年4月~ 平成30年5月	講義者細必や法割影済健因でる平題しテののた羅学う でい産と験学在悪をたし、満入田に、一フ・プしてにある。 では、因試化現実世介のでにイ名サョく期 等めく、因試化現実理がでな提。、 ではででは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	。わで影結や入業した防は一ると番ア講った問響す有手環で、対、ネアのはこれを成功を開発している。 ・わで影話や入業した防は一ると番ア講ったで、対、ネアのとで引したでする。 連法有そ多因な写お働性 与情はにた学ほののよたやる高度篤書例されりにったがすたのは、ないのは、ないのは、ないのは、ないのは、でがすたのもで、ないののもで、ないののもで、ないののもで、ないののもで、ないののもで、ないののもで、ないののもで、ないののもで、ないののもで、ないののもで、ないののもで、ないののもで、ないののもで、ないののもで、ないののもで、ないののもで、ないののもでは、ないののもでは、ないののもでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないののもでは、ないのでは、ないで

地球環境特論(5年次後期)		平成25年11月~ 平成31年2月	多たの以限球こか環の境見植禁認る各ン真、はで増のが暖らい問題を発生して、が約200く才化と気間移方物止識「種タ、出地ある00く才化と気にで絶いて続地ネースにで増のが暖らい問題ととで絶いて続地ネースを、がお近化のう題ととで絶いて続地ネースで、がが近れのででの、大人に、大人に、大人に、大人に、大人に、大人に、大人に、大人に、大人に、大人に	本語のでは、 本語のでは、 本語のでは、 を持たいとでする。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、
2 作成した教科書、教材、参考書 衛生薬学実習・実習書		平成30年9月	食品衛生、裁判化学、 10日間の学生実習のラ	水質・大気、室内環境に関する -キスト
3 教育方法・教育実践に関する発	表、講演等			
────────────────────────────────────				
模擬患者(SP)養成直前講習会		平成28年11月~ 平成30年12月	4年次共用試験OSCEの実施に際して、実際の課題に即して模擬患者に演技指導を行った。	
		平成28年8月23日 ~24日	本学主催の研修会に参加し、多様な学力を持った学生 の指導法、カリキュラムマップと妥当な成績評価、良 好な学習環境を整えるために教職員が組織的にできる ことについてグループに分かれて議論し、成果を後 日、印刷物にまとめた。	
早期体験学習(1年次後期)		平成29年10月~ 平成30年10月	数名の1年生を神奈川県内の病院に引率して、薬剤師が他の医療スタッフと連携して日業務を行っていることを見学した。	
Ⅱ 研究活動				
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書)環境変動と立山の自然 (Ⅲ) モニタリング第Ⅲ期調査成果		共著	2014年3月	富山県
(著書)第103回 薬剤師国家試験 一角	军答・解説集 -	共著	2018年7月	横浜薬科大学
2. 学会発表(評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名
(演題名)ヒト肝ミクロゾームにおける降圧薬エナラプリ 分解反応に対する2, 2, 4-トリメチル−1, 3-ペン・ ルジイソブチラートの影響			2019年3月	日本薬学会 第139年会
(演題名) ビリルビン濃度で薬物放出量が変化するアルギ ビーズの調製条件に関する検討		 デン酸ゲル	2019年3月	日本薬学会 第139年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動				
平成22年4月~現在	樹木年輪研究会 幹事			
平成22年4月~現在	特定非営利活動法人 立山自然保護ネットワーク 理事			
平成22年4月~現在	中部山岳国立公園立山地区における外来植物除去作業			
平成27年8月~平成27年12月	27年8月~平成27年12月 Env. Health & Prev. Med (日本衛生			

	教育お	。 および研究活動の業績	- 覧
大学名 横浜薬科大学	講座名 分子生物学研究室	職名 教授	氏名 川嶋 剛
I 教育活動			
教育実践	上の主な業績	年 月 日	概要
1 教育内容・方法のエ	· :夫		
薬学入門生物 (1年次前)	期)	平成25年4月~ 平成26年3月	前年度まで行っていた生物補習授業が補習から正規の講義に移行したのに伴い科目名変更となった。生物補習と同様に基礎的な生物学の内容でおこなった。
教養生物学 (1年次前期) (カリキュラムの改訂によ		平成26年4月~ 現在	6年制薬学教育のコアカリキュラムの改訂に伴い内容を生物学基礎とアドバンス教育に振り分け、前年度までの薬学入門生物の内容を踏襲する形でおこなった。
薬学英語III (2年次後期	3)	平成25年9月~ 平成27年3月	生化学、分子生物学及び機能形態学の内容からなる英文の教科書を担当者3名と共同執筆し、教科書記載の英文解釈を中心に講義を行った。英語文献の一部分の講読などもおこなった。
分子生物学Ⅱ(3年次後期)		平成25年9月~ 平成28年3月	分担執筆した教科書に基づきスライドやプリントを作成し、分子生物学に関連するSBOsを解説するとともに、毎回練習問題を作製し配布して解答能力が身に着くような内容の講義をおこなっている。
分子生物学2(3年次後期) (カリキュラムの改訂によ		平成29年4月~ 現在	分担執筆した教科書に基づきスライドやプリントを作成し、分子生物学に関連するSBOsを解説するとともに、毎回練習問題を作製し配布して解答能力が身に着くような内容の講義をおこなっている。全ての配布資料と課題の模範回答はelearningに掲載し、自己学修の一助とした。
生物系実習[(2年次前期))	平成25年4月~ 平成27年7月	生化学及び分子生物学の実験指導と講義を行っている。1クール100名を越える学生を3クールもしく
生物系実習 1 (2年次前期) (カリキュラムの改訂によ		平成27年7月 平成28年4月~ 現在	は4クール体制で、能率的に実習手順を伝達し事故もなく実験を行ってきた。またレポート作成に関しては詳細な説明指導を行っている。
2 作成した教科書、教	(材、参考書		
薬学英語IIIのテキスト		平成25年9月~ 平成27年3月	薬学英語IIIの教材として、機能形態学、生化学、 分子生物学の3つの分野の基礎的事項を解説した英 文教科書を作成した。
生物系実習Ⅰ及びⅠテキス	. F	平成25年4月~ 現在	学生にとっては初めての実習となるものもいるため、実験器具のイラストや写真を多用し基本的な器具の操作の解説も取り入れ実験にスムーズに取り組める内容とした。
生物系実習Ⅰ及びⅠパワー	-ポイント	平成25年4月~ 現在	学生にとっては初めての実習なので、実習の導入教育用資料スライド及び、「DNA抽出」、「PCRによる遺伝子の増幅」、「制限酵素によるDNAの切断」、「プラスミドの大腸菌への導入」などの各実習項目に関する説明スライドを毎年パワーポイントを用いて作成し使用している。
分子生物学Ⅱ及び2 パワ	リーポイント	平成25年4月~ 現在	分子生物学II及び2のシラバスに従った内容の資料スライドを毎回60枚前後パワーポイントを用いて作成し使用している。
分子生物学 I 及び 1 講義	資料	平成25年4月~ 現在	講義に用いたパワーポイントをプリントにして配布した。学生の授業アンケートでによる個別のコメントを参考に理解度や評価を考慮しながら毎年更改している。
コンパス 分子生物学 ((南江堂)	平成30年9月	分子生物学Ⅰ、Ⅱ及び分子生物学1、2で使用す 教科書であり、初版に引き続き、改訂第2版の4 章、6章、9章を分担執筆した。SBOの改訂に伴い内 容を改訂SBOに沿ったものに改めた。
3 教育方法・教育実践	に関する発表、講演等		

横浜薬科大学 平成28年度 FD・SD研修会 24日	4 その他教育活動上特記すべき事	T.T.			
日本次教育、能力別ウラス分けの在り方、卒業研究と漢習講義の両立、学力向上のための授業の組み立ての見直しについてグループに分かれて議論した。 I 研究活動 1. 著書・論文等の名称 単著・	*	• •		様な学力を持った学 マップと妥当な成績 るために教職員が組	生の指導法、カリキュラム 評価、良好な学習環境を整え 織的にできることについてグ
1. 著書・論文等の名称 単著・ 共著の別 発行または発表の (論文) Age-related changes of forkhead transcription factor FOXO1 in the liver of senescence-accelerated mouse SAMP8. (論文) Specificity of Fur binding to the oxidative stress response gene promoter in the facultative anaerobic archaeon Thermoplasma volcanium. (論文) Apoptosis Occurs during Early Devel-opment of the Bursa of Fabricius in Chicken Embryos. (藩主) コンパス分子生物学 共著 平成27年9月 南江堂出版 (議主) コンパス分子生物学 共著 平成27年9月 南江堂出版 (論文) Characterization of a Thermostable 8- oxoguanine DNA Glycosylase Specific for GO/N Mismatch-es from the Thermoacidophilic Archaeon Thermoplasma volcanium ア成26年4月~現在 防衛大学校遺伝子組換え安全管理委員会外部評価委員	横浜薬科大学 平成308年度 FD・SDA	开修会		大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、 年次教育、能力別クラス分けの在り方、卒業研 と演習講義の両立、学力向上のための授業の組 立ての見直しについてグループに分かれて議論	
#著・論文等の名称 (論文) Age-related changes of forkhead transcription factor FOXO1 in the liver of senescence-accelerated mouse SAMP8. (論文) Specificity of Fur binding to the oxidative stress response gene promoter in the facultative anaerobic archaeon Thermoplasma volcanium. (論文) Apoptosis Occurs during Early Devel-opment of the Bursa of Fabricius in Chicken Embryos. (藩主) コンパス分子生物学 共著 平成27年9月 南江堂出版 (論文) Characterization of a Thermostable 8-oxoguanine DNA Glycosylase Specific for GO/N Mismatch-es from the Thermopalsma volcanium 2. 学会発表(評価対象年度のみ) 発表年・月 学会名 正 学会および社会における主な活動 平成26年4月~現在 防衛大学校遺伝子組換え安全管理委員会外部評価委員	Ⅱ 研究活動		•	•	
#著 平成25年6月 and Geriat-rics, Vol. 57, No. 3. (論文) Specificity of Fur binding to the oxidative stress response gene promoter in the facultative anaerobic archaeon Thermoplasma volcanium. (論文) Apoptosis Occurs during Early Devel-opment of the Bursa of Fabricius in Chicken Embryos. (養書) コンパス分子生物学 共著 平成27年9月 神江堂出版 (論文) Characterization of a Thermostable 8-oxoguanine DNA Glycosylase Specific for GO/N Mismatch—es from the Thermoacidophilic Archaeon Thermoplasma volcanium 2. 学会発表 (評価対象年度のみ) 発表年・月 学会名 正 学会および社会における主な活動 平成26年4月~現在 防衛大学校遺伝子組換え安全管理委員会外部評価委員	1. 著書・論文等の名称		·		
Xi	transcription factor FOXO1 in the senescence-accelerated mouse SAMP8	liver of	共著	平成25年6月	and Geriat-rics, Vol. 57,
明armaceutical Bulletin, Vol. 37, No. 12. (著書) コンパス分子生物学 共著 平成27年9月 南江堂出版 (論文) Characterization of a Thermostable 8-oxoguanine DNA Glycosylase Specific for GO/N Mismatch-es from the Thermoacidophilic Archaeon Thermoplasma volcanium 2. 学会発表 (評価対象年度のみ) 発表年・月 学会名 正 学会および社会における主な活動 平成26年4月~現在 防衛大学校遺伝子組換え安全管理委員会外部評価委員	oxidative stress response gene pro facultative anaerobic archaeon The	moter in the	共著	平成25年12月	Pharmaceutical Bulletin,
(論文) Characterization of a Thermostable 8-oxoguanine DNA Glycosylase Specific for GO/N Mismatch-es from the Thermoacidophilic Archaeon Thermoplasma volcanium		rly Devel-opment	共著	平成26年9月	
	(著書) コンパス分子生物学		共著	平成27年9月	南江堂出版
Ⅲ 学会および社会における主な活動 平成26年4月~現在 「防衛大学校遺伝子組換え安全管理委員会外部評価委員			共著	平成28年9月	Volume 2016 (2016), Article
平成26年4月~現在 防衛大学校遺伝子組換え安全管理委員会外部評価委員	2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名
平成26年4月~現在 防衛大学校遺伝子組換え安全管理委員会外部評価委員					
	Ⅲ 学会および社会における主な活動				
平成27年10月~現在 横須賀学院高校科学教育センター運営指導委員	平成26年4月~現在	防衛大学校遺伝子組換え安全管理委員会外部評価委員			
	平成27年10月~現在	横須賀学院高校科学教育センター運営指導委員			

大学名 横浜薬科大学 講座名 薬物解析学科 教育活動 教育実践上の主な業績 1 教育内容・方法の工夫	邢究室 職名 教授	氏名	北川 康行
教育実践上の主な業績	•		
1 教育内交・方法のエキ	年 月 日		概要
- 教育内谷・万法の工夫 変品物理化学1 変品物理化学2	平成30年4月~ 現在 平成30年10月~ 現在	け、理解をより深め 図を利用したプリン もに、毎回の講義に	、問題を解くための演習時間を設るような工夫をしている。 トを作成し理解しやすくするととおいて、問題を解くための演習時 り深めるような工夫をしている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	-		
4 その他教育活動上特記すべき事項	平成27年6月~ 12月 平成28年6月~ 12月 平成29年6月~ 12月 平成30年6月~ 12月	メディアル教育を行	対して, 基礎薬学準備演習としてリ った。内容は、川計算、濃度計 本的な事項を演習形式で実施し
I 研究活動		-	
1.著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Efficient synthesis of a water-solu lucoamide inhibitor against human aldose r y click chemistry.		平成25年6月	J. Carbohydr. Chem. 32, 424-437
(論文) Primary structure and characterizat on hemorrhagic metalloproteinase with fibr ctivity, from the snake venom of Protoboth okarensis (Tokara-habu)	inolytic ++ ++	平成25年9月	Toxicon, 70, 153-161
(論文) Synthesis of 3',4'-difluoro-3'- eoxyribonucleosides and its evaluation of iological activities: Discovery of a novel nti-HCV agent 3',4'-difluorocordycepin.	T #	平成26年10月	Bioorganic & Medicinal Chemistry, 22, 6174-6182
(論文) Novel concept of enzyme selective icotinamide adenine dinucleotide(NAD)-modi nhibitors based on enzyme taxonomy from th iphosphate conformation of NAD		平成27年11月	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters, 25, 5133-5136
(論文) Crystal structures of 1-deoxy-D-xyl hosphate reductoisomerase from Plasmodium alciparum complexed with reverse fosmidomy nalogs	# #	平成28年3月	Photon Factory Activity Repor 2015 PartB, 33, No.24.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)	<u>'</u>	発表年・月	学会名
tudy on cell-penetrating coenzymes NAD and unction of diphosphate on coenzyme.	FAD: How to modify the	2018年11月	第20回生体触媒化学シンポジウム
輔酵素NADの配座固定型阻害剤の合成とグルタチ 兼式について	オン還元酵素に対する阻害	2018年4月	日本化学会年会
■ 学会および社会における主な活動		•	-

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 横浜薬科大学	講座名 生化学研究室	職名 教授	氏名 小笹 徹	
I 教育活動				
教育実践	上の主な業績	年 月 日	概要	
1 教育内容・方法のエ	夫			
ゲノム創薬(4年次後期、日	a床薬学 科)	平成27年9月~ 平成28年3月	遺伝子の基礎から復習し、バイオ医薬品、分子標的薬、 抗体医薬品などについて最新の知見を講義した。教科書 を作成し、各章に練習問題を付け加え、理解をしやすい ようにした。	
薬理学1(2年次前期)		平成28年4月~ 現在	薬理学の理解の基礎となる薬理学総論について、6回に わたり解説した。特に、薬物一受容体の理論について は、数式を板書で解説しながら詳しく講義した。	
薬理学3(3年次前期)		平成28年6月~ 現在	ホルモン関連薬(ホルモン感受性悪性腫瘍治療薬、内分泌疾患治療薬)、糖、脂質、尿酸、カルシウム代謝系の治療薬について、生化学の知識を復習しながら、病態生理の理解につながるようにつとめて解説した。	
生化学3 (2 年次後期)		平成28年10月~ 現在	細胞内情報伝達系について、その分子機構を3次元構造 の情報も含めて解説した。なるべく、今後の薬理学や病 態生理学との関連を取り入れて、今後の薬物の作用機序 を解説した。	
ゲノム医療(4年次後期、日	a床薬学科)	平成28年9月~ 平成29年1月	遺伝子の基礎から復習し、バイオ医薬品、分子標的薬、 抗体医薬品、エピげネティクスなどについて最新の知見 を講義した。教科書を作成し各章に練習問題を付け加え 理解をしやすいようにした。	
診療科各論1(6年次前期)		平成28年6月 平成29年6月 平成30年6月	内分泌疾患とその治療薬について、1回にまとめて講義 を行った。	
薬理系薬学演習講義(4年)	欠前期)	平成30年7月	内分泌代謝の薬理学の演習講義を行った。過去の国試の 問題も取り入れて、練習問題とその解説を行った。	
2 作成した教科書、教	材、参考書			
ゲノム創薬 講義資料		平成28年8月	遺伝子の基礎、がんと遺伝子異常の関係、バイオ医薬 品、抗体医薬品などについて最新の知見を取り入れて教 科書を作成した。	
ゲノム医療 講義資料		平成29年8月	平成27年度のゲノム創薬の教科書を改訂し、またエピジェネティクスとその関連薬についての章を新たに加えて教科書を作成した。	
薬理学3・4 講義資料		平成30年4月	ホルモン関連薬、代謝系薬理学を担当して、教科書を作成した。	
3 教育方法・教育実践	に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特	記すべき事項			
横浜薬科大学 平成28年度	FD SD研修会	平成28年8月23日~ 24日	大学の主催する研修会に参加し、多様な学力を持った学生の指導法、カリキュラムマップの改良、良好な学習環境を整えるために教職員が組織的にできることについて 議論した。	
横浜薬科大学ハマヤクオー	ケストラの創設と演奏活動	平成28年7月~ 現在	ハマヤクオーケストラを創設し、オーケストラの顧問として、学生、教職員とともに学園祭、式典での演奏、戸塚サクラプラザ ホールにおいて定期演奏会を行った。	

Ⅱ 研究活動				
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Modification of p115RhoGEF Ser330 its RhoGEF activity.	regulates	共著	平成25年11月	Cellular Signaling 25(11):2085-92.
(論文) Different Raf protein kinases med different signaling pathways to stimulate RFFL gene expression in cell migration re	E3 ligase	共著	平成25年11月	J.Biol Chem. 288(47):33978- 84201.
(論文) Gα13/PDZ-RhoGEF/RhoA signaling is essential for gastrin-releasing peptide receptor-mediated colon cancer cell migration.		共著	平成26年3月	Mol Pharmacol. 86(3): 252-262.
(論文) Visualization of ligand-induced activation in chemotaxing cells.	Gi protein	共著	平成29年3月	FASEB J 31 (3):910-919.
(論文) Role of G protein-regulated inducer of neurite outgrowth 3 (GRIN3) in β -arrestin 2-Akt signaling and dopaminergic behaviors.		共著	平成30年6月	Pflugers Arch. 470, 937-947
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動				
平成25年4月~現在 論文査	論文査読 (Science Signalling, Oncotarget, Biochemistry,など)			

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 横浜薬科大学 講座名	感染予防学研究室	職名 教授	氏名	鈴木 啓太郎
I 教育活動				
教育実践上の主な業	績	年 月 日		概 要
1 教育内容・方法の工夫				
2 年生 微生物学		平成25年4月~ 平成31年3月	表示して、理解度を高	意や感染症病態写真をスライドで 高めた。講義の内容をテキスト本 D予習や復習を安易に出来るよう
3 年生 微生物薬品学		平成25年4月~ 平成31年9月	講義で微生物写顕微録表示して、理解度を高	竟や感染症病態写真をスライドで 高めた。
2 作成した教科書、教材、参考書	-			
MICROBIOLOGY (2年微生物学の教科書	(に使用)	平成19年4月~ 平成31年3月	講義内容を簡素化した	出版(毎年改訂)図表を多くし、 ニテキストとした。微生物関連の 試験問題に馴化させた。
3 教育方法・教育実践に関する発	·表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事	項			
大学内に茶道部を創設し、顧問指導を	継続	平成28年4月~ 平成31年3月	部員数:22名、感染予 練習する。	予防学研究室内で茶席での作法を
Ⅱ 研究活動			I	
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Synthesis of 6,7-Dihydro-9 Dimethoxydibenzo Quinolizinium Sa substituted derivatives.	9,10- It and its D-ring	共著	平成29年3月	Heterocycles (第94巻第3号)
(著書) ポイントがわかる薬科微生物]学	共著	平成30年4月	京都廣川書店
(著書) やさしい微生物学		共著	平成30年4月	廣川書店
(著書) 新しい微生物学		共著	平成30年4月	廣川書店
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動				
平成24年4月~平成30年3月 日本薬学会会員				
平成27年4月~平成30年3月 日本薬学会薬学微生物教科担当会議委員				

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 横浜薬科大学 講座名 環境科学研究室	職名 教授	氏名	髙橋 和彦	
I 教育活動				
教育実践上の主な業績	年 月 日		概要	
1 教育内容・方法の工夫				
環境衛生学 I (3年次前期)	平成25年4月~ 平成28年7月	義の内容はすべて配付	による提示を基本として行い、講 対資料に説明を加えている。環境 してとらえて、理解ができるよう	
環境衛生学Ⅱ(3年次前期)	平成25年4月~ 平成28年7月	義の内容はすべて配付 資料では、化学物質の	こよる提示を基本として行い、講 対資料に説明を加えている。配付 D構造や反応機構の解説を加える Rまるように配慮している。	
衛生化学(3年次後期)	平成25年10月~ 平成29年1月	義の内容はすべて配付物質の毒性に関しては	こよる提示を基本として行い、講 対資料に説明を加えている。化学 は、毒性の症状・病名の丸暗記に 発現機構を重点的に解説するよう	
環境衛生学 1 (3 年次前期)	平成29年4月~ 平成30年9月	衛生学Ⅱの一部を合札	により、旧環境衛生学 I と旧環境 つせた内容であり、教育上の取り キュラムに準じて行っている。	
環境衛生学2(3年次前期)	平成29年10月~ 平成31年3月	学Ⅱの一部を合わせた	により、旧衛生化学と旧環境衛生 に内容であり、教育上の取り組み うムに準じて行っている。	
2 作成した教科書、教材、参考書				
環境衛生学 I 及び 1 講義資料	平成25年4月~ 現在	不十分と思われる箇所 布して補っている。抗	を行っているが、教科書の説明が 所については、講義プリントを配 受業アンケートでの個別コメント き慮しながら毎年更新している。	
環境衛生学Ⅱ及び2 講義資料	平成25年4月~ 現在	不十分と思われる箇所 布して補っている。	を行っているが、教科書の説明が 所については、講義プリントを配 受業アンケートでの個別コメント 悸慮しながら毎年更新している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4 その他教育活動上特記すべき事項				
Ⅱ 研究活動				
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(著書) コメスティックサイエンスー化粧品の世界を 知る	共著	平成26年6月	共立出版	
(著書) 衛生領域の環境衛生学	共著	平成29年3月	廣川書店	
(論文) Synthetic small molecules derived from natural vitamin K hmologues that induce selective neuronal differentiation of neuronal progenitor cells	共著	平成27年9月	Journal of Medicinal Chemistry, vol.58 No.17	
(論文) ラベンダー精油のストレス軽減効果に関する 検討	共著	平成29年5月	日本アロマセラピー学会誌 (第16巻第1号)	
(論文) Meeting report:The 30th summer school of the research community for mechanis of mutations	共著	平成30年1月	Genes and Environment, vol.40	

2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
抗菌性物質の変異原性を検出するための変異原性試験法の開発		平成30年9月	変異機構研究会第31回夏の学校
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成14年1月~現在	日本環境変異原学会評議員		
平成18年1月~平成29年12月	日本環境変異原学会英文学会誌審査委員		
平成21年10月~現在	食品安全委員会専門調査会 専門委員		

教	育および研究活動の業		
大学名 横浜薬科大学 講座名 生体防御学研究	空 職名 教授	氏名	中島 敏治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日		概要
1 教育内容・方法の工夫			
免疫学(2年次)	平成25年9月~ 現在	講義進行の途中での ^自 て確認している。	学生の理解度を中間試験を実施し
免疫学特論(3年次)	平成25年4月~ 平成28年9月	免疫学に関する書籍 るレポートを課題とし	を読んでもらい、その内容に関す している。
医療薬学演習(4年次オムニバス)	平成25年4月~ 平成29年9月		の解説だけでなくまとめの表など 質の確認に努めている。
血液検査学(5年次オムニバス)	平成25年9月~ 現在	図や表を多用して、E 配布している。	里解しやすい教材(プリント)を
2 作成した教科書、教材、参考書			
薬学領域のコア免疫学	平成25年11月	第16章アレルギーおる	よび抗アレルギー薬、第19章
今井康之編、廣川書店		抗体医薬品の利用(1	9-2 アレルギー/炎症性疾患)
		の担当、薬学生を対象	象とした教科書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
FD·SD研修会	平成28年8月25 · 26日	学力を持った学生が 法、カリキュラムマ	会(一泊二泊)に参加し、多様な 集まる本学における学生の指導 ップと妥当な成績評価、良好な学 こ教職員が組織的に出来ることに かれて議論した。
入学前教育(スクーリング)	平成26年3月~ 現在	入学予定者(推薦入試およびAO入試合格者)を対象 主に高校化学の内容に関する講義を本学で平成26年 ら開催している。平成25年度は年1回(3月)、平成 年度以降は年2回(12月と3月)に実施している。毎 100名程度の学生が参加している。	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Apoptosis Occurs during Early Developmen of the Bursa of Fabricius in Chicken Embryos	t 共著	平成26年9月	Biol. Pharm. Bull. 37(12), 1982-85
(論文) Toll-like receptor 3 ligand specifically induced bronchial epithelial cell death in caspa dependent manner and functionally upregulated Fa expression.	se + ±	平成28年6月	Allegol. Int. 65, \$30-\$37.
(著書)第101回 薬剤師国家試験 -解答・解説集-	共著	平成28年11月	横浜薬科大学 教務部 国試対 策室
(著書)第102回 薬剤師国家試験 -解答・解説集-	共著	平成29年11月	横浜薬科大学 教務部 国試対 策室
(著書)第103回 薬剤師国家試験 -解答・解説集-	共著	平成30年7月	横浜薬科大学 教務部 国試対 策室
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 横浜薬科大学 講座名 食化学研究室	職名 教授	氏名 中野 真	
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概要	
1 教育内容・方法の工夫			
診療科各論 I (6年次前期)	平成27年4月~ 現在	講義では毎回講義資料を作成し配布している。写真やシェーマを中心としたPowerPointで概説し、現役臨床専門医の立場から、基礎的事項は勿論のこと、実際の臨床現場での状況や対応を伝えられるように心掛けている。また、常に最新の話題や技術に関しても概説出来るように情報収集している。	
医学概論(2年次前期)	平成27年4月~ 現在	将来薬剤師、研究・教育など薬物に関わる仕事に就くであろう学生の医療関連の全体に関わる講義として、歴史や倫理、医療の基本や考え方などについて、いかに興味を示してくれるかを考えて、講義内容・説明方法を工夫している。医療についての普遍的なこと・考え方と、最新の技術や情報の融合を念頭に置いて概説している。PowerPointと毎回作成の講義資料で、興味を持てるように心掛けている。	
機能形態学3(2年次前期)	平成29年7月~ 現在	解剖学及び生理学の講義と位置付けて、教科書的な内容以外に、実地臨床での検査や治療を念頭にした解説 を心掛けている。	
診療科各論Ⅱ	平成29年7月~ 現在	一般的な疾患や病態の解説だけではなく、少し深い議論ができるようなテーマを選んで概説している。基本的な項目の再確認にも心掛けている。	
病態薬物治療学4(4年次前期)	平成30年7月~ 現在	主に産科婦人科学を講義している。産科婦人科学は内科学などに比較すると講義時間確保が困難であるが、学問的にも一般常識的にも必要不可欠と言える。薬物療法の講義ではあるが、他治療法との比較や、現場の状況も含め、臨床医の立場から各項目に沿って概説するようにしている。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
講義資料	平成27年4月~ 現在	主にシェーマや写真を中心として作成したスライドを PowerPointを用いて講義を行っているが、重要項目や 最新項目などは資料にまとめて配布している。学生の 授業アンケートでによる個別のコメントを参考に理解 度や評価を考慮しながら毎年更改している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
横浜薬科大学 平成28年度 FD·SD研修会	平成28年8月 23日~24日	大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、多様な学力を持った学生の指導法、カリキュラムマップと妥当な成績評価、良好な学習環境を整えるために教職員が組織的にできることについてグループに分かれて議論した。	
早期体験学習(1年次後期)	平成29年9月~ 現在	従来は学生が病院、薬局、企業の中から1ヶ所を選択して施設訪問していたが、コアカリSBOに準じて「様々な薬剤師の業務を見聞」するため、各学生が病院と薬局または企業の2ヶ所を訪問することにした。そのために従前より倍加した施設を確保し、学生および引率教員を割り振った。学生を割り振る際には、終了後の帰宅が容易になるようにできるだけ配慮した。	
横浜薬科大学 平成308年度 FD・SD研修会	平成30年9月 4日~5日	大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、初年次教育、能力別クラス分けの在り方、卒業研究と演習講義の両立、学力向上のための授業の組み立ての見直しについてグループに分かれて議論した。	

Ⅱ 研究活動						
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称			
(論文) 卵管原発と考えられた大細胞 1 例	神経内分泌癌の	共著	平成26年1月	東京産科婦人科学会会誌65巻 1 号 Page134-138 (2016.01)		
(論文) Clinical experience of J-V skin closure in the laparotomy of gynecology		共著	平成26年 4 月	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research Vol. 40(4), Pag, 1089-1097, April 2014		
(論文) 在宅医療における服薬指導の	再確認	共著	平成28年4月	応用薬理90巻3-4号Page63- 67 (2016. 04)		
(論文) Effects of the Oral Intake parviflora Extract on Whole Body F Muscle Percentages in Japanese Wom Double-Blind Placebo-Controlled Pa Comparison Study	共著	平成30年 1 月	応用薬理(0300-8533)93巻3-4号 Page55-62(2018. 01)			
(論文) Effects of Multiple Compar Integration of Stratified Analysis TG Decreasing Effect of EPA/DHA in Subjects	共著	平成30年 1 月	応用薬理 (0300-8533)93巻5-6号 Page83-89(2018.01)			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名		
産婦人科日常診療におけるホルモン剤	使用の実際		平成30年8月	応用薬理シンポジウム		
Ⅲ 学会および社会における主な活動			•			
平成3年10月~現在	日本産科婦人科	学会専門医				
平成3年12月~現在	日本臨床細胞学會	会細胞診専門医				
平成4年2月~現在	日本医師会認定施	 産業医				
平成4年2月~現在	日本医師会認定健康スポーツドクター					
平成19年4月~現在	日本体育協会公認スポーツドクター					
平成20年4月~現在	日本温泉気候物理	理医学会 認定温泉	泉療法医			

教育および研究活動の業績一覧						
大学名 横浜薬科大学 講座名 公衆衛生学研究室	職名 教授	氏名	埴岡 伸光			
I 教育活動	•	•				
教育実践上の主な業績	年 月 日		概要			
1 教育内容・方法の工夫 衛生薬学分野の専門科目(食品衛生学、薬物代謝学)	平成25年4月~ 平成31年3月	実践的な知識を有機 めに、講義資料およ 講義では、板書と講 た。5年生を対象とし は、それぞれの科目の 分野の先端研究を紹	品衛生学では、学生が論理的かつ 的に本科目の知識を習得できるた び各単元の確認問題を作成した。 義資料のスライドを併用して進め た環境生理学および薬物代謝学で の教科書の内容以外に最近の関連 介した。また、学生の能動的学習 ールグループディスカッションや などを導入した。			
2 作成した教科書、教材、参考書						
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
4 その他教育活動上特記すべき事項						
□ 研究活動						
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称			
(論文) Functional characterization of cynomolgus monkey UDP-glucuronosyltransferase 1A9(カニクイザ ルのUDP-グルクロン酸転移酵素1A9の機能解析) (査読付)		平成26年3月	Eur J Drug Metab Pharmacokinet 39(3):195-202.			
(論文) Species and sex differences in propofol glucuronidation in liver microsomes of humans, monkeys, rats and mice. (プロポフォールのグルクロン酸抱合反応の性差および種差) (査読付)	共著	平成27年7月	Pharmazie 70 (7):466-470.			
(論文) Hepatic and intestinal glucuronidation of mono(2-ethylhexyl)phthalate, an active metabolite of di(2-ethylhexyl) phthalate, in humans, dogs, rats and mice: an in vitro analysis using microsomal fractions. (フタル酸ジ-2-エチルヘキシルのグルクロン酸抱合反応の種差) (査読付)	共著	平成28年7月	Arch Toxicol 90(7):1651-1657.			
(論文) Glucuronidation of 4-tert-octylphenol in humans, monkeys, rats, and mice: an in vitro analysis using liver and intestine microsomes. (4-tert-オクチルフェノールのグルクロン酸抱合反応の種差) (査読付)	共著	平成29年3月	Arch Toxicol 91(3):1227-1232.			
(論文) Regioselective glucuronidation of daidzein in liver and intestinal microsomes of humans, monkeys, rats, and mice. (ダイゼインの位置選択性 グルクロン酸抱合反応の種差) (査読付)	共著	平成30年9月	Arch Toxicol 92(9):2809-2817.			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名			
(演題名)室内環境化学物質による侵害刺激の相乗作用		平成30年7月	第45回日本毒性学会学術年会 (大阪)			

(演題名) ゲノム編集技術を用いたIL	-8 GFP assayの開発	平成30年7月	第45回日本毒性学会学術年会 (大阪)	
(演題名):Aspergillus fumigatusE 来糖脂質による炎症性サイトカン由来	由来糖脂質による炎症性サイトカン由 糖脂質による炎症性サイトカン産生	平成30年9月	フォーラム2018: 衛生薬学・環境 トキシコロジー (長崎)	
(演題名)室内空気中Dibutyl phthal 法の構築と妥当性評価	ateおよびDi(2-ethy hexy)標準試験	平成30年9月	フォーラム2018: 衛生薬学・環境 トキシコロジー (長崎)	
Ⅲ 学会および社会における主な活動				
昭和59年4月~	日本薬学会会員			
昭和60年4月~	日本薬物動態学会会員			
昭和60年4月~	日本毒性学会会員			
平成17年4月~	日本薬物動態学会論文(DMPK)審査員			
平成18年4月~	日本薬物動態学代議員			

教育および研究活動の業績一覧									
大学名 横浜薬科大学	講座名	食化学研究室	職名		氏名	望月	直樹		
I 教育活動									
教育実践	美上の主な 第		年	月日		概	要		
1 教育内容・方法の工夫 臨床栄養学 I		平成284	∓4~7月	授業講義はパワーポイとして実施した。教利 先端の知識を理解し易 の場合にも、学生に誤 ジェクターで見るだけ う配慮した。	斗書の名 引いよ 講義資料	^{田識だけで} うに講義し 料を配布し	なく栄養学の ている。いず 、教室のプロ)最 "れ]	
食品衛生学Ⅱ			平成284	∓10~2月	講義形式は同上である 行政の動向や学会の最 講義した。				
食品衛生学			平成294 現在	∓11月~	講義形式は同上である 行政の動向や学会の 講義した。				
食品安全性学			平成304	∓4~現在	講義形式は同上である 行政の動向や学会の最 講義した。				
2 作成した教科書、教材、参考書 講義資料 (臨床栄養 I 、食品衛生 II 、食品衛生、食品 安全性学)		平成284 現在	∓4月~	パワーポイントで作成し、パワーポイントをプリ にして配布した。基本知識だけでなく先端の知識 り入れ、学生の授業アンケートでによる個別のコ トを参考に理解度や評価を考慮しながら毎年更改 いる。		先端の知識を る個別のコメ	取り		
3 教育方法・教育実施	 銭に関する	————— 発表、講演等				_			
4 その他教育活動上 ² 0SCE試験(4年生後期)	持記すべき	事項	平成284 現在	∓12月~	委員として参加し、薬剤師としてなるための専 と技能を一定の基準に満たしているかどうかの 判断を行った。				
早期体験学習(1年生後期])		平成304 現在	∓年9月~	学生を引率して、病院2か所を訪問する体験学習を行た。学生の訪問先での礼儀や実習内容の勉強、行きりの安全などに配慮した。				
Ⅱ研究活動									
1. 著書・論文等の名称				望著・ 著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)			発表雑誌 数)等の名称	
(論文) Minimization of throughput tandem mass mycotoxins in corn grit	spectromet		:	共著	2014年7月		al of Sep 7 (13) 15	aration Scie 52-1560	ence
(論文) Simultaneous determination of sweeteners in beverages by LC-MS/MS		:	共著	2015年6月	Conta	Additives minants: 808-816	and Part A Vol.3	32	
(論文) A Method for Simultaneous Determination of 20 Fusarium Toxins in Cereals by High-Resolution Liquid Chromatography-Orbitrap Mass Spectrometry with Pentafluorophenyl Column		:	共著	2015年7月	Toxin	s Vol.7,1	664-1682		
(論文) Identification and Quantification of Fumonisin A1, A2, and A3 in Corn by High- Resolution Liquid Chromatography-Orbitrap Mass Spectrometry		:	共著	2015年7月	Toxin	s Vol.7,	582–592 (201	15)	
(著書) LC/MS, LC/MS/MS	Q&A110龍の	巻	:	共著	2017年9月			液体クロマ 談会編オーム	

2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名	
(演題名)LC/MS/MSを用いた食品中の	化学物質の分析	平成30年7月	日本分析化学会 関東支部 第14回千葉県分析化学交流会:招 待講演	
(演題名)分析化学におけるLC-MS/MS	の進展	平成30年7月	日本分析化学会 関東支部 横浜セミナー(神奈川地区分析技 術交流会):招待講演	
(演題名) 食の安全確保にかかわるLC	i-MS/MSの基本的な分析技術	平成30年9月	日本分析化学会 関東支部 第32回新潟地区部会研究発表会: 招待講演	
(演題名)麦角アルカロイド一斉分析	法開発	平成30年11月	日本食品衛生学会	
(演題名)LC-MS/MSを用いた食品中の	化学物質の分析	平成30年12月	日本分析化学会 関東支部 第15回茨城地区分析技術交流会: 招待講演	
(演題名)LC-MS/MSによる水道水中の	ハロ酢酸分析	平成31年1月	日本分析化学会 液体クロマトグ ラフィー研究懇談会	
(演題名) マイコトキシンの分析		平成31年1月	日本分析化学会 液体クロマトグ ラフィー研究懇談会	
(演題名)高速液体クロマトグラフィ の定性および定量	一によるコルヒチンまたは下痢性貝毒	平成31年3月	日本薬学会	
Ⅲ 学会および社会における主な活動				
2012年3月~2018年2月	日本分析化学会 関東支部副支部長			
2013年4月~現在	日本薬学会 食品汚染物試験法専門員	会委員		
2016年6月	日本食品衛生学会 学術貢献賞 受賞			
2017年1月~現在	クロマトグラフィー科学会 評議員			
2017年3月~現在	日本分析化学会 液体クロマトグラフ	ィー研究懇談会 事業	委員	
2018年3月~2019年2月 日本分析化学会 関東支部支部長				
2018年7月	横浜セミナー(日本分析化学会関東支	部地区交流会)オーガ	ナイザーとして企画開催	
2018年11月	食品分析機器分析講習会(日本分析化	学会関東支部)オーガ	ナイザーとして企画開催	

教育および研究活動の業績一覧						
大学名 横浜薬科大学	講座名 生化学研究室	職名 教授	氏名 森 和也			
I 教育活動						
教育実践	上の主な業績	年 月 日	概要			
1 教育内容・方法のエ	夫	平成25年4月~				
生化学 1 (1年)	生化学 1 (1年)		生命現象を化学的知識と手法を用いて解析し、生命現象を担う分子の構造、性質、役割に関する基本的事項 並びにそのタンパク質の構造、性質、機能に関する基本的事項を習得させている。講義では、細胞を構成する物質である糖質、アミノ酸、核酸およびビタミンについて概説し、タンパク質の構造と機能、酵素反応についても解説している。			
生化学2(2年)		平成29年3月~ 現在	生体を構成する主要な物質である糖質、脂質、タンパク質は、体内で複雑な化学反応をうける。この反応は、大きく二つに分けると分解反応と合成反応であり、反応における異常は疾病に繋がることを理解し、薬学に密接に関与することを認識する。これらのことを概説し、解説をおこなっている。			
社会薬学 I (1年)		平成25年4月~ 平成29年3月	澤木教授、石川講師及び私が中心になってオムニバス形式で授業を行っている。将来医療の担い手となるための自覚を早期に持つため、教員による解説や学生同士のスモールグループディスカッション (SGD)による授業、また病院・薬局・企業の施設見学実習を通して、薬剤師が活躍できる職場や医療人としての使命、倫理観などについて学び、医療人として必要なヒューマニズムについて学ばせている。			
薬学英語皿(2年)		平成25年4月~ 平成28年3月	生命現象に関する薬学の基礎分野である機能形態学,生化学,分子生物学などを主題とするさまざまな英文記事・トピックスを読解させ,生物系分野の英文読解力の向上を行っている。			
創薬化学特論(4年)		平成25年4月~ 平成29年3月	山崎准教授と私のオムニバス形式で授業を行っている。 天然物などのリード化合物から新たに合成される医薬品 やゲノム情報による創薬について教授し、新しく合成さ れた化学物質や天然物から抽出された新規な化合物が、 医薬品に到るまでの過程を詳説している。また、医薬品 としてのタンパク質、遺伝子、細胞を適正に利用するた めに、それらを用いる治療に関する基本的知識を修得さ せている。			
2 作成した教科書、教	材、参考書					
コンパス生化学 南江堂		平成27年1月	基本事項をわかりやすく解説、薬理学へのつながり、疾病とのかかわりについてもコラム等で積極的に紹介。各成分・代謝経路がヒトのからだでどのような位置づけにあるのかを示し、統合的な理解できる教科書として作成した(他大学の生化学の先生たちとの共著)。			
English for Pharmacoceut (株) ISBN 978-4-905390	ical Students Ⅲ エース印刷 ⊢52-7 C3047	削 平成27年4月	生命現象に関する薬学の基礎分野である機能形態学、生化学、分子生物学などを主題とするさまざまな英文記事・トピックス(川嶋との共著)			
創薬化学特論 エース印刷	ISBN 978-4-905390-55-8	平成28年4月	天然物などのリード化合物から新たに合成される医薬品やゲノム情報による創薬、医薬品に到るまでの過程、医薬品としてのタンパク質、遺伝子、細胞を適正に利用方法について概説(山崎和応との共著)			
3 教育方法・教育実践	に関する発表、講演等					

4 その他教育活動上特記すべき事I	百				
FD講習会			力を持った学生の指導 成績評価、良好な学習	(一泊二日)に参加し、多様な学 注、カリキュラムマップと妥当な 環境を整えるために教職員が組織 ってグループに分かれて議論した。	
SD講習会		平成29年9月		:(一泊二日)に参加し、大学の危 は検報告などについてグループ討 た。	
FD/SD講習会		平成30年9月	大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、初年2 育、能力別クラス分けの在り方、卒業研究と演習講 両立、学力向上のための授業の組み立ての見直しにて でグループに分かれて議論した。		
Ⅱ 研究活動					
1. 著書・論文等の名称	1. 著書・論文等の名称			発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(著書)第98,99,100,101,102及び103[験 解答・解説集 6冊	(著書)第98,99,100,101,102及び103回 薬剤師国家試 験 解答・解説集 6冊			エース印刷 横浜薬科大学 ISBN:978-4-905390-45-9 C3047	
(論文) DNA塩基配列に基づく地骨皮お 鑑定に関する研究	(論文) DNA塩基配列に基づく地骨皮および枸杞子の基原 鑑定に関する研究			植物研究雑誌 第89巻 3号 142- 151 2014	
(論文) Human Immunodeficiency Viru Reverse Transcriptase Inhibitory Ef Cymbopogon Nardus Essential Oil.		共著	平成28年6月	International Journal of Advanced Research in Botany 2(1) 1-8 (2016)	
(論文) 処方改良Mohsペーストの保存	安定性評価	共著	平成30年3月	日本緩和医療薬学雑誌 11 19-25 2018	
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		•	発表年・月	学会名	
(演題名) 各種ハチミツのマトリック 関する研究	ゼ酵素阻害効果に	平成31年3月	日本薬学会 139年会		
Ⅲ 学会および社会における主な活動					
平成24年3月~現在	「薬物乱用防止キャ	ァンペーン in 横濱」	濱」実行委員会部会長		
平成25年3月	東日本大震災の復旧ボランティア活動(医薬品や衛星用品などの救援物資の搬入・搬出・仕分け 作業に協力)				
平成29年4月~現在	(一般社団法人)薬	薬学教育協議会 生化	比学分野教科担当委員		

	教育および研究活動の業績一覧								
大学名 横浜薬科大学	講座名	食化学学研究室	職名	准教授	氏名	出雲	信夫		
I 教育活動									
教育実践上の主な業績			年	月日		概	要		
1 教育内容・方法 <i>0</i>)エ夫								
薬理学Ⅱ(3年次前後期)		1	5年4月~ 9年3月	毎時間講義の最施し、せた。講記 をするようにし、国家試験を	ア説後、講義 ほは板書を基 、ている。ま	に臨むこ。 本とし学 た、国家	とで学生の理 生が自らノ- 試験の過去間	理解を深 ートへ筆
薬理学実習(3年次前期)			平成2 現在	5年4月~	薬理学の実験指 越える学生を3 し事できなるよう 理解し、そう 成集をつけ、オ	クール体制で 験を行って に、作用メ BTなどに役り	で、能率的 きた。また カニズム? なつように	に実習手順 た、学生が。 を含めた実育 基本的な薬	iを伝達 より薬を 習書を作
薬理学1、2(2年次前後期)		平成2 現在	8年4月~	毎時間講義の最物に関する 物に関する がでする で で で で で で の の の の の の の の の の の り の り	を深めさせ 機序に関わ 理解を深め	た。また る機能形 た。さら	講義は薬理学 態学の復習で に学生へ理解	学のみな を交え、 解を確認	
2 作成した教科書、	教材、参考:	書							
薬理学Ⅱ及び1、2 請			平成2 現在	5年4月~	薬物の作用機序 ルの講義資料を るよう薬剤師国 成した。	作成した。	また、学生	生の理解を確	確認でき
コンパス 薬理学 (商	河江堂)		平成2 現在	8年4月~	薬理学1で使用 12章、第17 参考に、文章を い図表を修正し	゚章執筆した ⋮再度検討し	。出版社	へ寄せられた	た意見を
新薬の効くプロセス (ネオメディカル)			平成2 現在	8年4月~	薬理学2で使用 章、第8章〜9 社へ寄せられた るとともに、分	章、第17 :意見を参考	章~18章	章を執筆し <i>†</i> を再度検討し	た。出版
3 教育方法・教育9	実践に関する:	発表、講演等							
4 その他教育活動」	- 特記すべき	事項							
横浜薬科大学 平成29年	F度 FD・SD研	开修会	平成2 24日~	9年9月 ~25日	大学の主催する 力を持った学生 成績評価、良好 的にできること	の指導法、 な学習環境	カリキュ を整える7	ラムマップ o ために教職∫	と妥当な 員が組織
横浜薬科大学 平成30年	横浜薬科大学 平成30年度 FD・SD研修会		平成3 4日~	0年9月 5日	大学の主催する 究と演習講義の や学生及び教員 プに分かれて請)両立」をテ の意識づけ	ーマに、2	卒業研究の質	質の向上
早期体験学習(1年次後	期)			9年9月~ 1年1月	コアカリSB0に るため、病院と を引率した。記 し、実習先での	:薬局または i問先でのマ	企業の 2 ナーや行	ヶ所への学生 き帰りの安全	生の訪問

Ⅱ 研究活動				
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(論文) MU314, a novel selective estrogen receptor modulator (SERM), improves estrogen-dependent depressive behaviors	平成29年6月	Glob Drugs Therap, Volume 2(5): 1-5(2017)		
(論文) Effects of the Antiepileptic Drugs Phenytoin, Gabapentin, and Levetiracetam on Bone Strength, Bone Mass, and Bone Turnover in Rats	平成29年8月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, 2017: 40 (11)		
(論文) Effect of the antidiabetic agent pioglitazone on bone metabolism in rats	共著	平成29年8月	Journal of Pharmacological Sciences, 2017;135:22-28.	
(論文) Efficts of lactoferrin on dexamethasone- induced osteoporosis in mice	共著	平成30年6月	Global Drugs and Therapeutics 3 1-5(2018)	
(論文) Effects of the calcineurin inhibitors cyclosporine and tacrolimus on bone metabolism in rats	共著	平成30年6月	Biomedical Research (Tokyo) 39 131-139 (2018)	
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名	
(演題名) 卵巣摘出マウスによる運動量低下へのセロトニ	ニンの関与	平成30年6月	第27回神経行動薬理若手研究者の 集い(愛知)	
(演題名) 卵巣摘出ラットの運動量抑制に対するLFの効果	1	平成30年6月	第27回神経行動薬理若手研究者の 集い(愛知)	
(演題名)亜鉛含有製剤(Mohs'ペースト)を用いた血流 研究	平成30年7月	第29回日本微量元素学会 (名古屋)		
(演題名) ロコモティブシンドロームに対するラクトフェ	平成30年8月	第20回応用薬理シンポジウム (東京)		
(演題名) パクチーの静穏効果の検討	平成30年8月	第20回応用薬理シンポジウム (東京)		
(演題名)アセトアミノフェンによる肝障害に対する蓮子	(演題名)アセトアミノフェンによる肝障害に対する蓮子心の抑制効果			
(演題名)高脂肪食摂取マウスの肥満に及ぼすヌルねば食	き併用効果	平成30年8月	第20回応用薬理シンポジウム (東京)	
(演題名) 肥満時の肝機能に及ぼすラクトフェリンの影響	S -	平成30年8月	第20回応用薬理シンポジウム (東京)	
(演題名) ブラックジンジャーの内臓脂肪減少効果に及る る検索	ぼす主要成分に関す かんかん かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいか	平成30年8月	第20回応用薬理シンポジウム (東京)	
(演題名) ブラックジンジャーが内臓脂肪に及ぼす影響に	こついて	平成30年8月	第20回応用薬理シンポジウム (東京)	
(演題名)大腿骨頸部の骨強度測定法の開発		平成30年8月	第20回応用薬理シンポジウム (東京)	
(演題名) パクチーの非臨床試験からの解析		平成30年8月	第2回パクチーアカデミー協会学 術会議 (東京)	
(演題名) マウス成長骨の骨密度に対するLFの効果		平成30年10月	日本ラクトフェリン学会第8回学 術集会	
(演題名)腹膜炎誘発モデルマウスによる炎症に対するラ 果		平成30年10月	日本ラクトフェリン学会第8回学 術集会	
(演題名) セルトラリンは卵巣摘出マウスによる運動量の	平成30年11月	第48回日本神経精神薬理学会		
(演題名)Kaempferia parviflora (KP) reduced the vis mice	平成31年3月	日本薬理学会第92年会 (大阪)		
(演題名)Novel measurement of femoral neckbone stre mice	平成31年3月	日本薬理学会第92年会 (大阪)		
(演題名) Effects of lactoferrin on liver functions	in fat diet mice	平成31年3月	日本薬理学会第92年会 (大阪)	
(演題名)Effects of coriander (Coriandrum sativum l neuron in mouse brain	L.) on GABA	平成31年3月	日本薬理学会第92年会 (大阪)	

(演題名)Effect of Lactoferrin on osteoblast-like MC3T3-E1 cells	decreased calcification by DEX of	平成31年3月	日本薬理学会第92年会 (大阪)	
(演題名) Effect of lactoferrin on	neurite outgrowth of PC12 cells	平成31年3月	日本薬理学会第92年会 (大阪)	
(演題名)Effect of Sertraline on OVX mice	decreased spontaneous activity of	平成31年3月	日本薬理学会第92年会 (大阪)	
(演題名)Effect of Nyoshinsan on OVX mice	decreased voluntary activity of	平成31年3月	日本薬理学会第92年会 (大阪)	
(演題名) OVXマウスを用いた女神散との検討	と桂枝茯苓丸における骨代謝マーカー	平成31年3月	日本薬学会第139年会 (千葉)	
(演題名)デキサメタゾン投与におけ 与する	る自発運動量の抑制にセロトニンが関	平成31年3月	日本薬学会第139年会 (千葉)	
(演題名)RAW264.7細胞におけるLPS記 連解毒湯の効果	誘導性炎症性サイトカインに対する黄	平成31年3月	日本薬学会第139年会 (千葉)	
(演題名) 社会敗北ストレス負荷休止 影響	後の自発運動量回復に対する再負荷の	平成31年3月	日本薬学会第139年会 (千葉)	
(演題名)高脂肪食摂取マウスの記憶	障害に対するラクトフェリンの効果	平成31年3月	日本薬学会第139年会 (千葉)	
(演題名)蓮子心抽出物はアセトアミ	ノフェン誘発性の肝障害を抑制する	平成31年3月	日本薬学会第139年会 (千葉)	
(演題名)SAMP8マウスの概日リズムD	章害に対するパクチーの効果	平成31年3月	日本薬学会第139年会 (千葉)	
Ⅲ 学会および社会における主な活動				
平成18年4月~	日本薬理学会評議員			
平成26年4月~	日本神経精神薬理学会評議員			
平成24年9月~平成30年9月	薬物乱用防止キャンペーン 9月,横浜			
平成28年3月~	神経行動薬理若手研究者の集い 世話	<u>ــــــــــــــــــــــــــــــــــــ</u>		

教育および研究活動の業績一覧						
大学名 横浜薬科大学 講座名 環境科学研	究室 職名 准教授	氏名	大河原 晋			
I 教育活動						
教育実践上の主な業績	年 月 日		概要			
1 教育内容・方法の工夫						
環境衛生学Ⅱ (3年次前期)	平成28年4~7月		アカリキュラムに準じて、要点を tを作成している。また、集中力を			
衛生化学(3年次後期)	平成28年9~12月	高める目的で、スライ	イドをもとにキーワードを空欄にント)を補助として講義を行って			
環境衛生学1(3年次前期)	平成29年4月~ 現在	いる(アクティブハ)	ンドアウトの活用)。			
環境衛生学2(3年次後期)	平成29年10月~ 現在					
環境生理学(5年次後期)	平成28年11月~ 現在	て口頭試問を行い、	:講義のほかに、各自課題を設定し その結果をフィードバックするこ を養うとともに知識の定着をは			
衛生薬学実習(3年次後期)	平成28年10月~ 現在	導するとともに、毎3 ポートを通じて、課題時間内にフィードバッ	び正確な実験データの算出法を指 実習後に提出を義務付けているレ 題や口頭試問を行い、その結果を ックしている。さらに、「大気汚 SGDを行い、実習では不十分な部分 っている。			
2 作成した教科書、教材、参考書						
衛生試験法・注解2015	平成27年2月	「法規・基準値等の-	一覧」の一部を執筆した。			
環境衛生学Ⅱ、衛生化学、環境衛生学1、 環境衛生学2の講義資料	平成28年4月~ 現在	学生が授業に集中する 点を把握できやすい。	るように、さらには、要点、問題 ようにプリントを作成した。			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
4 その他教育活動上特記すべき事項						
横浜薬科大学 平成28年度 FD·SD研修会	平成28年8月23日 ~24日	多様な学力を持った学生の指導法、カリキュラムマプと妥当な成績評価、良好な学習環境を整えるためはどのようにしたらよいのか、SGD形式で議論した。				
横浜薬科大学 平成30年度 FD·SD研修会	平成30年9月4日~ 5日	初年次教育、能力別クラス分けの在り方、卒業研究 演習講義の両立、学力向上のための授業の組み立て 見直しについてSGD形式で議論した。				
Ⅱ 研究活動						
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称			
(論文) Disruption of zinc homeostasis and th pathogenesis of senile dementia.	te 共著	平成26年2月	Metallomics vol.6			
(論文) Protective activity of carnosine and anserine against zinc-induced neurotoxicity: possible treatment for vascular dementia.	a 共著	平成27年8月	Metallomics vol.6			
(論文) Quantitative and antioxidative behavi Trolox in rats' blood and brain by HPLC-UV ar SMFIA-CL methods.		平成28年3月	Luminescence vol.31			
(論文) Hepatic glucuronidation of 4-tert- octylphenol in humans: inter-individual variability and responsible UDP- glucuronosyltransferase isoforms.	共著	平成29年11月	Arch Toxicol. Vol.91			
(論文) Regioselective glucuronidation of dai in liver and intestinal microsomes of humans, monkeys, rats, and mice.		平成30年9月	Arch Toxicol. Vol.92			

2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名		
(演題名) 香料および関連化合物によ	るTRPA1活性化の種差に関する研究	平成30年6月	第64回日本薬学会東海支部 総 会・大会		
(演題名)室内環境化学物質による侵	害刺激の相乗作用	平成30年7月	第45回日本毒性学会学術年会		
(演題名)ゲノム編集技術を用いたIL	−8 GFP assayの開発	平成30年7月	第45回日本毒性学会学術年会		
(演題名)室内空気中Dibutyl phthal phthalate標準試験法の構築と妥当性語		平成30年9月	フォーラム2018 衛生薬学・環境 トキシコロジー		
(演題名)Aspergillus fumigatus由著 生に及ぼす影響	R 糖脂質による炎症性サイトカイン産	平成30年9月	フォーラム2018 衛生薬学・環境 トキシコロジー		
(演題名) ハウスダストを介した金属	類の曝露に関する研究	平成30年11月	メタルバイオサイエンス研究会 2018		
(演題名) 水銀の部位特異的腎毒性発 の開発に関する研究	現機構の解明に向けたin vitro評価系	平成30年11月	メタルバイオサイエンス研究会 2018		
(演題名)室内空気中フタル酸エステ GC/MS標準試験法の確立	ル類の固相吸着ー溶媒抽出法を用いた	平成30年12月	平成30年室内環境学会学術大会		
(演題名)衛生試験法・注解 空気試 タル酸ジ-2-エチルヘキシル	験法 フタル酸ジ- <i>n</i> -ブチルおよびフ	平成31年3月	日本薬学会第139年会		
(演題名)線虫捕食糸状菌Hirsutella トカイン産生	rhossiliensis由来糖脂質によるサイ	平成31年3月	日本薬学会第139年会		
(演題名)ヒト肝ミクロゾームにおけに対する2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタ	る降圧薬エナラプリルの加水分解反応 ロンジオール ジイソブチラートの影響	平成31年3月	日本薬学会第139年会		
(演題名)消化管内分泌細胞に発現す 解析	る苦味受容体およびGαタンパク質の	平成31年3月	日本薬学会第139年会		
Ⅲ 学会および社会における主な活動					
平成27年4月~現在	薬学評価機構評価実施員				
平成28年4月~平成30年3月	薬学評価機構 基準・要綱検討委員				
平成30年9月~現在	メタルバイオサイエンス研究会幹事				

教育		: 績一覧
大学名 横浜薬科大学 講座名 感染予防学研究室	職名 准教授	氏名 大塚 邦子
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 薬剤学実習 I (3年)	平成25年4月~ 平成25年7月	軟膏製剤の調製や医薬品の品質試験の実習を担当した。また、後発医薬品の溶出試験の同等性に関しては、実験結果よりディスカッションを行い、医療経済的意義も考えてもらった。
医療薬学総合演習 (6年生・卒延生 実務・法規・制度・倫理)	平成25年4月~ 平成28年 平成25年4月~	国家試験対策の講義を配布プリントを作成しPPTにて行った。 国家試験対策の講義を配布プリントを作成し、PPTにて
医療薬学総合演習(6年生·卒延生 実務) 臨床薬学英語 I (4年) 薬学英語 4 (平成30年改名)	平成25年4月~ 平成25年4月~ 現在	国家試験対策の調義を配布フリフトを作成し、PPIICに 講義した。 薬学準備教育ガイドラインとアドバンスト教育ガイドラインに協議を ラインにのできた。 ラインには、医療コ育と英語にの引きない。 日本の大きでのできた。 日本のMedical Terminology には、DVD学習と関連を 「行われる病院実習等での別用されるを患者を引きた。 日本のMedical Terminology に対した。 日本のMedical Terminology に対した。 日本人に関しては、DVD学習と関連を開きのMedical Terminology に対した事門薬剤植をつった。 日でできた、ユタ大の関しては、BVD学習と関連を関連を 「行った。 日本人の現場であるで、 アアには、DVD学習と関連を関連を 「行った。 日本人の現場である。 日本人の現場であると、 アアには、 アアには、 日本の現場による。 日本人カルケッなでは、 日本のでいるといる。 日本人カルケッなのは、 日本のでは、 日本のののには、 日本ののののでは、 日本ののののでは、 日本ののののでは、 日本ののののでは、 日本ののののでは、 日本のののののでは、 日本のののののでは、 日本のののののでは、 日本のののののでは、 日本ののののでは、 日本のののののでは、 日本ののののでは、 日本ののののでは、 日本のののののでは、 日本ののののでは、 日本ののののでは、 日本ののののでは、 日本ののののでは、 日本のののののでは、 日本ののののでは、 日本ののののでは、 日本ののののでは、 日本ののののでは、 日本ののののでは、 日本ののののでは、 日本ののののでは、 日本ののののでは、 日本のののののでは、 日本のののでは、 日本ののののでは、 日本ののののでは、 日本ののののでは、 日本ののののでは、 日本ののののでは、 日本ののののでは、 日本ののののでは、 日本ののののでは、 日本のののののでは、 日本のののののでは、 日本のののののでは、 日本のののののでは、 日本ののののでは、 日本ののののでは、 日本のののののでは、 日本ののののでは、 日本ののののでは、 日本のののでは、 日本ののののでは、 日本のののでは、 日本ののののでは、 日本ののののでは、 日本ののののでは、 日本のののでは、 日本のののでは、 日本ののでは、 日本ののでは、 日本のののでは、 日本ののでは、 日本ののでは、 日本ののでは、 日本ののでは、 日本ののでは、 日本ののでは、 日本ののでは、 日本ののでは、 日本ののでは、 日本ののでは、 日本ののでは、 日本ののでは、 日本ののでは、 日本ののでは、 日本のでは、
薬剤学実習II(3年)	平成25年9月~ 現在	医薬品の適正使用に向けて、医療用医薬品および一般 用医薬品を使用する患者への初回面談、服薬指導の実 習を行った。
薬剤学実習 4	平成25年12月~ 現在	医薬品の適正使用に向けて、医療用医薬品および一般 用医薬品を使用する患者への初回面談、服薬指導の実 習を行った。
地域薬局論(5年)	平成26年9月~ 現在	介護認定審査委員、神戸市薬剤師会等の活動と在宅医療での経験を活かし、地域薬局・薬剤師によるファーマシューティカルケアと症例検討等を配布プリントを作成し、PPTにて行った。また、ICHに基づく各国での医薬品承認区分の相違に関するSGDも行った。国際化に際しては、英語での服薬指導も行っている。また、ユタ大学臨床薬学研修をもとにOTC薬の外箱情報や点鼻薬等のリスクマネージメントやPoison Control Center中毒情報センターに関する日米比較に関する講義も行った。
薬学英語 I (1年)	平成27年9月~ 現在	薬学準備教育ガイドラインの例示に准じ、広く薬学・医学領域で扱う入門英語の習得に焦点を当てる。。薬学英語1として、教科書と随時、補助プリントを配布し、人体の構造や機能および疾患に関して、比較的平易な検査用語、疾患名などの医学専門用語Medical Terminologyの修得 および医薬品の適正使用に向けた基本的な内容も読解と読む・書く・聞く・話すの4要素も入れ散る。また、国際感覚とケアマインドを持った薬学生の育成を上ますためにWHOや米国FDAから発情和る最新のグローバルな健康・医療などエ学学のよる最新のグローバルな健康・医療など生理学賞受れる最新のグローベルな健康・医療など生理学賞受大村智先生の業績に関しても読解した。DVD学習等による聞き取りも行っている。

	1	
2 作成した教科書、教材、参考書	亚 + 05 左 - 田 左	MOO MT100 17 +
薬剤師国家試験問題・解説、横浜薬科大学	平成25年~現在	第96~第103回までの解説を行った(分担筆)
Clinical Pharmaceuical English 、横浜薬科大学	平成26年4月~ 現在	薬学部4年生 臨床薬学英語の教科書
実用薬学英語、日本薬学会編、 東京化学同人	平成27年1月	第9章 Mental Health of Older Adulst, Addresseing a Concernを執筆した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
日本社会薬学会フォーラム2015 (北里大学)	平成27年7月	一般用医薬品の適正使用へ向け、一般用医薬品のリスクマネジメントに関する日米比較に関して教育講演した。
くすりの適正使用協議会(東京)	平成28年9月	本学4年生で行っている英語版くすりのしおりを使用し た臨床薬学英語教育に関して発表した。
第138回日本薬学会年会(金沢)	平成29年3月	薬学英語4で行っている"英語版くすりのしおり"を 活用した実践的臨床薬学英語教育の構築に関して発表 した。
第3回日本薬学教育学会年会(東京)	平成30年9月	薬学部の臨床系英語教育に関して "英語版くすりのしおり"を活用した融合的・学習成果型の臨床薬学英語教育に関して発表した。
第37回日本社会薬学(千葉)	平成30年10月	薬学教育セミナーとして、本学4年生の薬学英語4で行っている"英語版くすりのしおり"を活用した学習成果型の融合教育と実際のドリル演習を行った。
第46回関東地区高等学校保健体育研究大会(水戸)	平成30年11月	高等学校保健体育担当教諭、教育委員会の先生方に対して、十代の人工妊娠中絶を減少させるために一緊急避妊薬の適正使用と乱用防止へ向けた高等学校保健体育における健康・安全教育に関して発表した。
4 その他教育活動上特記すべき事項		
実務実習センター	平成25年9月~	 実務実習センターの仕事として、セクハラ問題等の相
	現在	談員や病院・薬局実習において実習継続の難しい学生 への対応を実務実習センター長と協働で行った。
薬学英語WG	平成25年10月~ 現在	日本社会薬学会第32年会記念シンポジウム等にて薬学 英語教育に関して他大学の教と意見交換し その後、 本学において教務委員会の中で、薬学英語WGを立ち上 げ、WG長となり、効果的な基礎薬学・臨床薬学英語教 育の修学へ向けて努めている。 くすりのしおり適正使用協議会の"英語版くすりのし おり"を活用して講義を行っていることが評価され、 機関紙に掲載された。また、日本社会薬学会におい て、薬学英語に関する教育講演を行った。(日本薬学 英語研究会会員)
禁煙WG	平成27年~ 現在	学内禁煙活動と1年j時の薬学英語1の講義の中でFDAからの健康情報を基に禁煙教育を行った。また、薬学英語4ではWHOからのNo Smoking Dayの読解を行い、患者教育への課題を出した。
研究倫理のe-learning	平成27~29年度	CITI Japan e-learning プログラムを平成29年度まで 受講完了した。
FD 講演会	平成28、29年度	本学主催のFD研修会に参加した。
英語コミュニケ―ン調査	平成29年10月	日本薬学英語研究会より科研費関係の本学における英語コミュニケーン調査の依頼があり、薬学英語担当教員にアンケートを取り、シラバスとの整合性があることを確認して提出した。
改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム英訳版の関する パブリックコメント提出 (日本薬学会教育委員会・改訂 コアカリ英訳作業委員会からの募集)	平成30年2月	パブリックコメントを薬学英語WGのメンバーで領域でとに担当し、薬学部長、教務部長の承諾を得て提出した。薬害等の英訳が統一されていない点や専門用語が医療用語として適切に英訳されていない個所があり、英訳者により異なることが散見されたため、 "臨床薬理学用語集第2版(日本臨床薬理学会編集、ライフサイエンス社)"等の専門用語を基に統一版を参照して英訳したほうが良いこと等を意見として支訳した。また、日本語版が新コア対応の表記となっていない項目があること等も意見として述べた。

		平成30年11月			
第46回関東地区高等学校保健体育研究	70四因不地应向守于仅不延冲目训九八五		方々を対象として、" るために—緊急避妊薬	R健体育教員および教育委員会の 十代の人工妊娠中絶を減少させ 変の適正使用と乱用防止へ向けた おける健康・安全教育"に関して	
平成30年度茨城県高等学校教育研究会 会	平成30年度茨城県高等学校教育研究会保健体育部研究大 会		方々を対象として、前とアンケート調査を基させるために―緊急避	保健体育教員および教育委員会の 前年度、関東地区で発表した内容 基に"十代の人工妊娠中絶を減少 避妊薬の適正使用と乱用防止へ向 育における健康・安全教育 その 示った。	
Ⅱ 研究活動		I			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(論文) Non-destructive Prediction Content of an Acetaminophen Suppos Infrared Spectroscopy and X-ray Co Tomography	itory by Near-	共著	平成25年10月	Drug Development and Industrial Pharmacy vol.41 No. 1	
(論文) 日米で食薬区分の異なるメラネットを介した個人輸入における安全		共著	平成26年11月	社会薬学(第33巻, 第1号, 21- 29)	
(著書)実用薬学英語、日本薬学会編		共著	平成27年1月	東京化学同人	
(論文)健康長寿社会へ向けた歯周病 治療の現状と課題	と関連する感染症	共著	平成28年12月	バイオインテグレーション学会誌 (第6巻, 第1号, 35-46)	
(論文) Rapid identification of ora forms of counterfeit pharmaceutica discrimination using near-infrared	共著	平成30年1月	Bio-Med. Mat. Eng., 29,1-14 (2018), DOI 10.3233/BME- 171708.		
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名	
(演題名) "英語版くすりのしおり" 薬学英語教育	を活用した融合的・	・学習成果型の臨床	平成30年9月	第3回日本薬学教育学会年会	
(演題名) 緊急避妊薬の適正使用と乱切な周知教育と近赤外分析法による偽			平成30年10月	第37回日本社会薬学会	
(演題名) ハイリスク薬ワルファリンの外箱情報と添付文書における問題点		−般用納豆含有製剤	平成30年11月	第28回日本医療薬学会年会	
(演題名) 渡米心移植患児へのファー 床薬学英語教育	マシューティカルク	アを通して学ぶ臨	平成31年3月	第138回日本薬学会年会	
(演題名) 近赤外分光法を用いた偽造	医薬品判別法		平成31年3月	第138回日本薬学会年会	
(演題名) メチシリン耐性黄色ブドウ	球菌の微量検出法の	D開発	平成31年3月	第138回日本薬学会年会	
Ⅲ 学会および社会における主な活動					
平成25年1月	日本医療薬学会認知	定指導薬剤師			
平成26年7月	日本社会薬学会企同	画(一般用医薬品の	適正使用に関する企画		
平成26年10月	日本社会薬学会第3	32年会記念シンポジ	ウム実行委員		
平成27年6月	神奈川県女性薬剤師会総会 「わが国における緊急避妊薬の適正使用と乱用防止へ向けて」				
平成27年7月	日本社会薬学会フォーラム実行委員				
平成27年7月	日本薬学会 YAKUGAKU ZASSHI 論文査読				
平成27年11月	武蔵野大学 仏教文化研究所公開講座 「生・老・病・死ー健康長寿と穏やかな終末を支えるための薬学の使命と課題ー」				
平成29年3月	くすりの適正使用協議会 「わが国における緊急避妊薬の適正使用と乱用防止へ向けた取り組み」				
平成29年8月	神奈川県女性薬剤師会理事				
平成30年3月	第138回日本薬学会 学生優秀発表賞審査委員				

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 横浜薬科大学 講座名 生体防御学研究室	職名 准教授	氏名	金子 正裕	
I 教育活動		•		
教育実践上の主な業績	年 月 日		概要	
1 教育内容・方法の工夫				
生物系実習 I (2 年次前期)	平成25年4月~ 平成27年7月	目的や操作等についる	導を行っている。実習書に実験の てわかりやすく書いているが、さ	
生物系実習1(2年次前期) (カリキュラム改訂により科目名変更)	平成28年4月~ 現在	や解説を行っている。	やビデオを使用し実習の操作方法 。また臓器の機能と組織との関係 らえるように工夫している。	
生物系実習Ⅱ (2年次後期)	平成25年10月~ 平成27年12月	の目的や操作等につい	行っている。実習書に加え、実験 いてパワーポイントを用いて詳し	
生物系実習2(2年次後期) (カリキュラム改訂により科目名変更)	平成28年10月~ 現在	く解説。結果から何7 らう工夫をしている。	が考えられるか、学生に考えても 。	
他5件				
2 作成した教科書、教材、参考書 生物系実習 I 実習書	平成26年4月~ 平成27年7月	必要な操作方法や、	機能形態学実習を行うに当たり、 臓器の解説等について執筆した。	
生物系実習1実習書 (カリキュラム改訂により科目名変更)	平成28年4月~ 現在	毎年改良を加えて、。 がけている。 (共著)	より分かりやすい実習書作成に心)	
生物系実習Ⅱ実習書	平成25年4月~ 平成27年7月	実験の原理などをわれ	学実習を行うための実験操作や、 かりやすく解説している。毎年、	
生物系実習2実習書 (カリキュラム改訂により科目名変更)	平成28年4月~ 現在	見直しをしている。(共著)		
他1件				
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4 その他教育活動上特記すべき事項 早期体験学習	平成25年8月~ 現在	1年生の早期体験学習における病院、薬局、企業への 引率を行った。		
模擬患者(SP)養成講習会	平成28年12月~ 現在	4年次教養試験OSCEを実施する際に必要な模擬患者の 養成を行った。		
Ⅱ 研究活動		•		
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(論文) Immunomodulating and anti-allergic effects of Negroamaro and Koshu Vitis vinifera fermented grape marc (FGM).	共著	平成26年6月	Curr Pharm Des. 20(6), 864-868	
(論文) Dynamics of plasma and granule membrane ir murine bone marrow-derived mast cells after re- stimulation.	共著	平成27年7月	Open Allergy J. 8, 14-22	
(著書) 第101回薬剤師国家試験-解答・解説書-	共著	平成28年11月	横浜薬科大学	
(著書) 第102回薬剤師国家試験-解答・解説書-	共著	平成29年11月	横浜薬科大学	
(著書)第103回薬剤師国家試験-解答・解説書-	共著	平成30年7月	横浜薬科大学	
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)	1	発表年・月	学会名	
Ⅲ 学会および社会における主な活動				
平成26年4月~現在 薬物乱用防止キャ	アンペーンに参加			

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 横浜薬科大学	講座名 生体防御学研究室	職名 准教授	氏名 川嶋 芳枝	
I 教育活動		•		
教育実践	桟上の主な業績	年 月 日	概要	
1 教育内容・方法のコ	C 夫			
薬学入門生物(1年次前期	オムニバス)	平成25年4月~ 平成26年9月	3名の教員が得意分野をオムニバスで講義すると言う形式をとり、高校で生物未履修の学生にも生物に興味が湧くように、分かりやすく面白い講義を目指した。講義は予め紙媒体の資料を配布した状態で、板書およびパワーポイントを用いて行った。試料や板書等には図を多用し、学生がイメージしやすいように工夫した。定期的に講義内容に関する課題(宿題)を与え、提出を義務付けるとで、知識の確認・復習をさせた。アンケートによる授業評価は高く、生物に対する不安が解消されたという声が多く寄せられた。	
生物系実習 I (2年次前期)	平成25年4月~	実習責任者として本実習全体を統括するとともに、生化	
生物系実習1(2年次前期 (カリキュラムの改訂によ		平成27年9月 平成28年4月~ 現在	学・分子生物学分野の実習を担当している。1クール100名以上の実習を4クール行うため、各クールで教える内容や成績に差がつかないように実施している。学生にとっては入学後初めての実習であるため、実習を受講するための基本的な態度を身に付けさせることでショばれるとしている。としているため、班構成を学り、日はポートの書き方講習を初日に行うことで、レポートの書き方に付けさせている。平成28年度からは記録である。平成28年度からは記録である。平成28年度からは記録である。本を身に付けさせている。報みの姿勢、技能試験習行した。実価することした。学生には実習本を身に付けさせている。平は10世紀のでは、10世紀のでは、10世紀のでは、10世紀のでは、10世紀のでは、10世紀のでは、10世紀のでは、10世紀のでは、10世紀のでは、10世紀のでは、10世紀のでは、10世紀のでは、10世紀のでは、10世紀のでは、10世紀ので、	
薬学英語Ⅲ(2年次後期)		平成25年10月~ 平成26年3月	生物系薬学を題材とした教科書を作成し使用した。英文を読みながら、機能形態学や生化学の内容も一緒に講義することで、学生の英語への苦手意識を取り除く工夫をした。毎回の講義最後に、講義内容の小テストを行うことで、講義へ集中できるようにした。	
教養生物学(1年次前期才	ムニバス)	平成27年4月~ 現在	講師、准教授レベルの比較的若く、1年生への教育に関心の高い7名の教員がそれぞれの専門分野を新入生に話すというカリキュラムを組み、学生にその分野への興味・関心を引き起こす工夫をしている。講義形式は板書、パワーポイントなど、教員によって異なるが、紙媒体の配布資料の形式は統一するようにしている。また配布資料にはできるだけ図を多用して、わかりやすい講義となるように工夫している。また講義後にはHamayakueーlearningに練習問題を掲載し、学生に自主的に問題を解かせることで、学習内容の理解の確認をさせている。	
細胞生物学(1年次後期才	ムニバス)	平成27年4月~ 現在	15回の講義の後半8回を担当している。講義は教科書と配布資料を用いて行っている。配布資料は講義で用いるパワーポイントと連動したもので、余白を多めにとって書き込みがしやすいように工夫している。教科書、資料ともに図が沢山掲載されており、細胞の中でおきていることがイメージしやすくしている。講義後に勉強できるよう、Hamayaku e-learningに各講義回の練習問題をpdf形式で掲載しており、学生からは講義後すぐスマホで復習や確認ができて良いと好評である。	

<u></u>		
機能形態学3 (2年次前期オムニバス)	平成28年4月~ 現在	内分泌系に関する講義を担当している。講義はパワーポイントで行っているが、事前にスライドと連動した紙媒体の資料を配布し、講義を聴きながらそこに記入できるようにしている。そのため、余裕を持って集中して講義を聴くことができているようである。スラチドには図や写真を多用している。また、内分泌系の疾患やそれに対しての薬や治療法を話すことで、学生が内分泌系に興味を持つようにしている。さらに講義後にはHamayaku elearningにpdf形式の練習問題を載せ、各人で解答し、講義の復習ができるようにしている。
免疫学(2年次後期オムニバス)	平成28年10月~ 現在	免疫学的分析法の講義を担当している。事前に紙媒体の 資料を配布し、パワーポイントを用いて講義を行っている。学生は、この講義の前には免疫学実習で実際に抗体 を用いた実験を複数経験しているため、その復習となる ような内容、および発展型の実験法や検査法などを解説 している。実際の検査に使う機器や道具類をスライド等 で見せることで、イメージが湧くように工夫している。
薬学総合演習1 (6年次オムニバス)	平成29年9月~ 平成30年9月	国家試験の過去問題や予備校模擬試験も過去問題を参考にして、独自の問題を作成し紙媒体で配布している。それを講義前に解かせて、講義時に解説を行っている。近年、暗記で解ける問題ではなく、実験データを考察するタイプの問題が増えているため、可能な限りそのような形式の問題を沢山解かせるようにしている。
生物系薬学演習(6年制4年次前期オムニバス)	平成30年6月	生物系薬学のビタミン、無機質、酵素反応の項目を担当している。国家試験の過去問題や予備校模擬試験等の問題を参考にして、CBTレベルよりも少し難易度が高いと考えられる問題を作成して紙媒体で配布し、それを解かせて解説すると言う形式で講義をおこなっている。類似の問題を何問も解かせることで、1~2年で学んだ内容を確実に復習できるようにしている。
他8件		
2 作成した教科書、教材、参考書生物系実習 I および 1 実習書 実習資料	平成25年4月~ 現在	実習書は生化学実習の部分を執筆している。毎年、少しずつ改訂し、より分かりやすい内容に工夫をして、実験初心者の学生でも、実習書を読めば実験背景や内容、手法が理解できるようにしている。実習書に加えて、実習初日に使用する、レポートの書き方および実験の背景の講義資料を作成し、実習時に配布している。
教養生物学 講義資料と課題	平成27年4月~ 現在	講義で使用するパワーポイントと連動した紙媒体配布資料を作成している。学生が記入できるように穴埋め形式を取っている。また、教科書に載っていない図や分かりやすい図等を作成し、資料に載せている。講義後の復習用に練習問題を作成し、Hamayaku e-learnigにpdfファイルで公開し、学生が自由に取れるようにしている。
細胞生物学 講義資料 課題	平成27年10月~ 現在	講義で使用するパワーポイントと連動した紙媒体配布資料を作成し配布している。学生が記入できるように穴埋め形式を取っている。また、教科書に載っていない図や分かりやすい図等を作成し、資料に載せている。講義後の復習用に練習問題を作成し、Hamayaku e-learnigにpdfファイルで公開し、学生が自由に取れるようにしている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項 1年生生物系科目成績向上WG立ち上げと運営	H25年4月~現在	1年生の生物系科目の成績向上をめざして、補習や試験を実施するWGを立ち上げ運営している。H30年度からは教育センターの生物系担当教員にもWGに入ってもらい、教育センターからの情報をフィードバックして、苦手項目等を講義担当教員に伝えられるようにしている。

横浜薬科大学 平成28年度 FD·SC	平成28年8月 25日~26日	大学の主催した研修会に参加した。「多様な学力を持った学生が集まる本学における学生の指導法」「本学入学後の学生を確実に薬の専門家として世に送り出すために学習のあり方と成績評価の見直し」「学生にとって良好な学習環境を整えるために教職員が組織的にできること・しなければならないこと」の3つのテーマについて、7つの班に分かれて討議した。その後、全員集まった場で各班の代表者が発表し、質疑応答を行った。					
横浜薬科大学 平成30年度 FD・SD	横浜薬科大学 平成30年度 FD・SD研修会		「学力向上のための テーマで討議を行い マで討議した他班と	会に参加した。1日目は自分の班は 授業の組み立ての見直し」という 、発表を行った。2日目は同じテー 一緒に議論し、さらに具体的な案を 発表、質疑応答を行い、議論を重ね			
Ⅱ 研究活動		•	•				
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称			
(論文) Age-related changes of f transcription factor FOXO1 in th senescence-accelerated mouse SAM	共著	2013年11月	Arch Gerontol Geriatr.57, 417-422				
(論文) Specificity of Fur Bindi Stress Response Gene Promoter ir Anaerobic Archaeon Thermoplasma	共著	2014年3月	Biol. Pharm. Bull. 37(3):481- 485				
(論文) Apoptosis occurs during of the bursa of Fabricius in chi		共著	2014年12月	Biol. Pharm. Bull. 37 (12): 1982-1985			
(論文) Characterization of a Th oxoguanine DNA Glycosylase Speci Mismatches from the Thermoacidop Thermoplasma volcanium.	共著	2016年9月	Archaea. ID8734894				
(論文) 大学教員の高校での出張実へのアプローチ ;検出キットを用いての短時間での 試み	共著	2018年10月	横浜薬科大学 高大連携業績集 〈平成28年度〉, 38-43				
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名			
(演題名)鳥類特異的尾部構造の比	較発生学的解析		平成31年3月	第124回日本解剖学会 学術集会			
Ⅲ 学会および社会における主な活	動						
平成26年~現在	高等学校における出張	講義・実習の実施(横須賀学院、清心女子	一、駒沢女子、清風、その他)			
平成27年~現在	薬物乱用防止キャンペ	ーン in 横濱 参	加				
平成29年4月~現在	ノートルダム清心学園 清心女子高等学校(岡山県倉敷市) スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 運営指導委員						
平成29年10月、平成30年10月	「集まれ理系女子」第 参加(来賓)	9回、第10回 女子	生徒による科学研究発	「集まれ理系女子」第9回、第10回 女子生徒による科学研究発表会交流会(学習院大学) 招待			

	教育および研究活動の業績一覧						
大学名 横浜薬	科大学	講座名	感染予防学研究室	職名 准教授	氏名 細野 哲司		
I 教育活動		•			•		
	教育実践	上の主な	業績	年 月 日		概要	
1 教育内容	・方法のコ						
2年生 生物系				平成25年4月~ 現在	の興味をもたせるため 観察、抗菌作用などで として観察させている	- •	
3年生 微生物	薬品学			平成27年4月~ 現在	せ、授業へ参加させて物の活用について触れ 味を持たせ、自己学	によって、学生にノートへ筆記さている。実際の感染症治療への薬れることにより、治療薬自体に興留を促すよう工夫している。さらニングを活用し、学習効果を高め	
他4件							
2 作成した		枚材、参考	書				
生物系実習2実習	_			平成30年9月	2年生 生物系実習20		
BICROBIOLOGY, 他5件	2018			平成30年9月	2年生 微生物学のテ	キスト	
	・教育実践	まに関する	· 発表、講演等				
4 その他教	 育活動上特	寺記すべき	 ÷事項				
平成30年度横浜薬科大学FD·SD研修会		平成30年9月4日~ 5日	大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、初年次 教育、能カ別クラス分けの在り方、卒業研究と演習講 義の両立、学カ向上のための授業の組み立ての見直し についてグループに分かれて議論した。				
平成30年度模擬	患者 (SP)	養成講習	会	平成30年12月3日	4年次共用試験OSCEを実施する際に必要な模擬患者の養成を、在学生と利害関係のない地元住民に対して行った。		
Ⅱ 研究活動							
1. 著書・論文	等の名称			単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(論文) Human 1) reverse tra Cymbopogon nar	nscriptas	e inhibi [.]	virus type 1 (HIV- tory effect of	共著	平成28年6月	Heterocycles, vol. 94, No. 3	
(著書) あたら	しい疾病薬	英学		共著	平成28年9月	テコム	
(著書)新装版	ポイントカ	がわかる薬	科微生物学第3版	共著	平成29年1月	廣川鉄男事務所	
(論文) Synthe Dimethoxydiben D-ring substit	zo [a,f]	Quinoliz	o-9,10- inium Salt and its	共著	平成29年3月	Int. J. Adv. Res. Botany, vol. 2	
(著書)新 薬	の効くプロ	コセス		共著	平成29年9月	ネオメディカル社	
2. 学会発表(評価対象年	F度のみ)		-1	発表年・月	学会名	
(演題名)Sensitive liquid chromatography/tandem ma method for the simultaneous determination of nine b				平成30年8月	The International Association of Forensic Toxicologists 2018		
(演題名)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌の微量検出法の			の開発	平成31年3月	日本薬学会第139年会		
					I		
	年4月~平成31年3月 国立医薬品食品衛生研究所 生物薬品部協力研究員						
	成31年12	 月	「薬物乱用防止キャンペーン in 横濱」運営				
平成28年5月~平			CBTモニター員				
平成20年3月 - 平成30年2月 Bioorganic & Medicinal Chemistry論文査読							
一大成50平5万 DIOUT gaille & medicilial Gleillstry論又宜記							

教育および研究活動の業績一覧						
大学名 横浜薬科大学 講座名 薬物解析学研究室	職名 准教授	氏名 郎 八木 健一郎				
I 教育活動	I 教育活動					
教育実践上の主な業績	年 月 日	概要				
1 教育内容・方法の工夫						
基礎物理学 (1年次前期) 教養物理学 (1年次前期) (カリキュラムの改訂により科目名変更)	平成25年4月~ 平成26年7月 平成27年4月~ 現在	力学、波動、電磁気学の分野について、板書によって 講義を行っている。高校物理と薬学専門を連携するために必要な物理学を中心に、物理化学、機器分析学に 関連する話題も踏まえながら講義を進めている。ま た、問題・解説集を作成し、予習復習を促している。				
薬学入門物理(1年次後期)	平成25年10月~ 平成27年1月	基礎物理学の講義内容をより深く理解するために、演習形式を取り入れながら講義を行った。カリキュラムの改訂により当該科目は教養物理学に統合された。				
物理系実習Ⅱ (2年次後期) 物理系実習2 (2年次後期) (カリキュラムの改訂により科目名変更)	平成25年10月~ 平成28年1月 平成28年10月~ 現在	物理化学と機器分析学の実験指導と講義を行ってなっている。1クール100名を超える学生を4クール体制で、 能率的に実習手順を伝達し、事故もなく実験を行ってきた。成績はレポート、技能・態度、実習試験で総合的に評価している。				
2 作成した教科書、教材、参考書 プライマリー薬学シリーズ2薬学の基礎としての物理学	平成25年4月	教養物理学で使用する教科書であり、第3部の波動、第 4部の電磁気学、第5部の量子力学を執筆した。日本薬 学会編集による著書であり、執筆の際には、高校物理 と薬学専門教育を連携する教科書となるよう、編集担 当者と入念に打ち合わせながら執筆した。				
物理系実習 2 実習書	平成29年9月	物理系実習2で使用する教科書である。物理化学(反応速度、分配平衡)、機器分析学(UV、IR、ガスクロマトグラフィー、HPLC)の実習を行う際の原理、実験操作、解析方法をまとめた実習の手引きである。実習を通して物理化学や機器分析学の講義内容をより深く理解できるように執筆した。				
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 横浜薬科大学高大連携業績集、平成25年度〜平成26年度 他3件	平成27年1月	「大学水準の電子回路実験による高校生に対する実験 先行型教育に関する考察」 高校生が大学水準の電子回路実験を通じて、高校物理 の理論を習得するための実験先行型教育の一環とし て、コンデンサーを応用したフィルタ回路に関する実 験を行った。				
4 その他教育活動上特記すべき事項						
認定実務実習薬剤師養成ワークショップ	平成25年8月 28日~29日	星薬科大学で開催された認定実務実習薬剤師養成ワークショップに参加し、指導薬剤師の資格を得るために参加した薬剤師とともに、SGD及び成果発表を行い、交流を深めた。				
横浜薬科大学 平成28年度 FD·SD研修会	平成28年8月 23日~24日	大学の主催する研修会(一泊二日、2回)を企画運営した。多様な学力を持った学生の指導法、カリキュラムマップと妥当な成績評価、両行な学習環境を整えるために教職員が組織的にできることについてグループにSGDおよび成果発表を行った。				
実務実習指導薬剤師アドバンストワーク	平成28年9月 25日	横浜薬科大学で開催された認定実務実習薬剤師アドバンストワークショップに参加し、指導薬剤師とともに、改定コアカリの実務実習に対応するためのSGD及び成果発表を行い、交流を深めた。				
早期体験学習(1年次後期)	平成29年9月~ 平成31年1月	コアカリSBOに準じて「様々な薬剤師の業務を見聞」するため、病院と薬局の2ヶ所の実習施設に学生を引率した。それぞれの施設において、薬剤師業務を見学し、模擬実習を行う学生をサポートした。				
	平成30年9月4日~ 5日	大学の主催する研修会(一泊二日)を企画運営した。 初年次教育、能力別クラス編成の在り方、卒業研究と 演習講義の両立、学力向上のための授業の組み立ての 見直しについてグループにSGDおよび成果発表を行っ た。				

Ⅱ 研究活動					
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称		
(著書)プライマリー薬学シリーズ2 の物理学	薬学の基礎として	共著	平成25年4月	東京化学同人	
(著書) わかりやすい薬学系の物理学	八門	共著	平成27年9月	講談社	
(著書) 教職課程 物理学実験	単著	平成30年3月	横浜薬科大学		
(著書)第103回薬剤師国家試験-解答	共著	平成30年7月	横浜薬科大学		
(著書)物理系実習2実習書	単著	平成30年9月	横浜薬科大学		
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名	
Ⅲ 学会および社会における主な活動					
平成6年7月~現在	日本物理学会 会員				
平成27年9月~現在					

教育および研究活動の業績一覧						
大学名 横浜薬科大学 ፤	講座名 生化学研究室	職名 講師	氏名 石橋 雪子			
I 教育活動						
教育実践上 <i>0</i>)主な業績	年 月 日		概要		
1 教育内容・方法の工夫						
物理系実習 1 (2年)		平成25年4月~ 現在	等についての講義を	を筆頭に、定量分析法、濃度計算 行っている。また1班4名とな から指導し、標定ならびに定量の		
物理系実習 2 (2年)		平成25年4月~ 現在	の講義の後、学生はの定着を図っている。ペクトル、赤外吸収	度論、界面活性剤、分配平衡など 4名1班となり、実習を行い、知識 。また、後半は、紫外可視吸収ス スペクトル、ガスクロマトグラ トグラフィー、核磁気共鳴スペク を行っている。		
社会薬学Ⅱ(1年)		平成28年4月~ 平成28年9月	邊准教授がオムニバ 医療の担い手となる 員による解説や学生 カッション (SGD)に の施設見学実習を通 医療人としての使命	って、黒岩教授、村田准教授、渡 ス形式で授業を行っている。将来 ための自覚を早期に持つため、教 同士のスモールグループディス よる授業、また病院・薬局・企業 して、薬剤師が活躍できる職場を 、倫理観などについて学ばせてい		
2 作成した教科書、教材、	参考書					
3 教育方法・教育実践に	関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記で	すべき事項					
Ⅱ 研究活動						
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称		
(著書) 第98,99,100,102回 解説集	薬剤師国家試験 解答·	共著	平成25年7月~現在	横浜薬科大学		
(論文) Fluvoxamine moderat activity following chronic in mice via recovery of BDM	dexamethasone infusion	共著	平成26年9月	Neurochem. Int., 69, 9-13 (2014)		
(論文) Modulation of osted and bone mass by 5-HT2A rec mice.		共著	平成27年9月	Eur J Pharmacol. 762, 150-157, Sep 5, (2015)		
(論文) Fluvoxamine reverse decline in voluntary activi amygdala levels of serotoni rats.	ties and decreased	共著	平成28年6月	Journal of Brain Science, Vol. 46 (2016)		
(論文) Human Immunodeficie 1) Reverse Transcriptase Ir Cymbopogon Nardus Essential	hibitory Effect of	共著	平成28年6月	International Journal of Advanced Research in Botany 2(1) 1-8 (2016)		
2. 学会発表(評価対象年度の	<u></u>		発表年・月	学会名		
Ⅲ 学会および社会における3	π					
平成28年9月 「薬物乱用防止キャンペーン in 横濱」						
「未物品用例エイヤン・・ン 川 快点」						

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 横浜薬科大学 講座名 公衆衛生学研究室	職名 講師	氏名	礒部 隆史	
I 教育活動				
教育実践上の主な業績	年 月 日		概要	
1 教育内容・方法の工夫				
物理薬剤学 I (2年次後期)	平成26年10月~ 平成28年1月	のように利用されてい	は学習した内容が薬学の分野でどいるか分からないので、学習した明されているか実例をあげて説明	
物理薬剤学1(2年次後期) (カリキュラムの改訂により科目名変更)	平成28年10月~ 現在	するように努めた。ま	た、知識の定着を図る目的で、 に演習を行うようにした。	
物理系実習Ⅱ (2年次後期)	平成26年10月~ 平成27年12月		「学の実験指導を行っている。3~ 的に実習手順を伝達し事故もなく	
物理系実習2(2年次後期) (カリキュラムの改訂により科目名変更)	平成28年10月~ 現在	実験を行ってきた。		
薬物代謝学(5年次後期)	平成27年10月~ 現在)解説だけではなく、最新の研究 を行い、学問へ興味を持つようエ	
物理薬剤学Ⅱ(3年次前期)	平成26年4月~ 平成28年7月	のように利用されてし	は学習した内容が薬学の分野でどいるか分からないので、学習した目されているか実例をあげて説明	
物理薬剤学2(3年次前期) (カリキュラムの改訂により科目名変更)	平成29年4月~ 現在	するように努めた。ま	たいるが失例をめれて記場 たた、知識の定着を図る目的で、 にに演習を行うようにした。	
産業保健論(5年次前期)	平成29年4月~ 現在)解説だけではなく、近年の労働 義を行い、学問へ興味を持つよう	
2 作成した教科書、教材、参考書				
物理薬剤学Ⅱ及び2 講義資料	平成26年4月	の教科書の情報をコン	対育効果を高めるために、数種類 パクトにまとめた講義プリント つ重要ポイントを網羅することが 上用意した。	
物理薬剤学I及び1 講義資料	平成26年10月	の教科書の情報をコン	対育効果を高めるために、数種類いパクトにまとめた講義プリントの重要ポイントを網羅することが E用意した。	
薬物代謝学 講義資料	平成27年10月	教科書の内容を分かり 用意した。	りやすくまとめた講義プリントを	
産業保健論 講義資料	平成29年4月	教科書の内容だけでな だ講義プリントを用意	よく、近年の労働災害を盛り込ん 意した。	
薬学総合演習 4 講義資料	平成29年9月		が期にかけて行った講義の内容を にう、簡潔にまとめた講義プリン	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4 その他教育活動上特記すべき事項				
Ⅱ 研究活動		1		
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(論文) Adsorption of histones on natural polysaccharides: The potential as agent for multiple organ failure in sepsis	共著	平成28年 3月	Int. J. Biol. Macromol. 84, p54-57	

(論文) Hepatic and intestinal glumono(2-ethylhexyl) phthalate, an an of di(2-ethylhexyl) phthalate, in lats, and mice: an in vitro analys microsomal	ctive metabolite humans, dogs,	共著	平成28年 7月	Arch. Toxicol. 1657	90(7), p1651-	
(論文) Glucuronidation of mono(2-ophthalate in humans: roles of hepaintestinal UDP-glucuronosyltransfe	tic and	共著	平成29年 2月	Arch. Toxicol.	91(2), p689-698	
(論文) Glucuronidation of 4-tert- humans, monkeys, rats, and mice: an analysis using liver and intestine	n in vitro	共著	平成29年 3月	Arch. Toxicol. 1232	91(3), p1227-	
			平成29年11月	Arch. Toxicol. 3550	91(11), p3543-	
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名		
(演題名) ヒト肝ミクロゾームにおけに対する2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタ		平成31年 3月	日本薬学会 第139年会			
(演題名) ビリルビン濃度で薬物放出 調製条件に関する検討	量が変化するアルコ	平成31年 3月	日本薬学会 第139年会			
Ⅲ 学会および社会における主な活動						
平成13年3月~現在	日本薬学会会員					

教育および研究活動の業績一覧									
大学名 横浜薬科大学 講座名 放射線科学研究室			講師	氏名	梅田 知伸				
I 教育活動									
教育実践上の主な業	績	年	月日			概 要			
1 教育内容・方法の工夫									
物理系実習 1 (2年)		平成2 現在	7年4月~			て、実際に実験を行うことによ よう進めている。			
物理系実習 2 (2年)		平成2 現在	7年4月~	物理化学、機 深められるよ		実験を行うことにより、理解を いる。			
新薬論(5年)		平成2 現在	7年4月~	新薬の合理的 得を目指し講		盤となる構造生物学的知識の修 ている。			
教養化学(1年)		平成2 現在	9年4月~	て、これから	必要とな	化学の橋渡しとなる科目とし る薬学系化学専門用語の正確な ができるよう講義を行ってい			
薬学英語 2 (2年)			9年4月~	物理化学系の の英文の科学	論文に用 習得と,	分野を主な題材とし,専門分野 いられる用語や構文などに関す それを読解する力を育むよう講			
2 作成した教科書、教材、参考書									
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等									
4 その他教育活動上特記すべき事	項								
FD·SD研修会		平成2	8年8月	第1回横浜薬	第1回横浜薬科大学FD研修会に参加した。				
FD·SD講演会		平成2	8年8月		いわき明星大学教授 中越元子先生による「学生の意 欲を引き出すイグナイト教育」を受講。				
研究倫理のe-learning		平成2	8年9月	日本学術振興 を修了した。	日本学術振興会が提供する研究倫理e-learningコース を修了した。				
研究倫理のe-learning		平成3	0年9月	日本学術振興を修了した。	日本学術振興会が提供する研究倫理e-learningコースを修了した。				
実務実習指導薬剤師のためのアドバン	ストWS	平成3	0年9月		一般社団法人薬学教育協議会薬学教育者WS実施委員会 の定める学習成果基盤型教育のアドバンストWSを修了 した。				
Ⅱ 研究活動				·					
1.著書・論文等の名称		ŧ	単著・ 共著の別	発行または 年月(西暦で		発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称			
(論文) 抗マラリア薬の開発を指向し 究	た構造生物学的研		共著	平成25年5月		薬学雑誌 133, 527-537.			
(論文) Binding modes of reverse f analogs towards the antimalarial t			共著	平成26年11月	ı	J. Med. Chem. 57, 8827-8838.			
(論文) Structural insights into t mechanism of S-adenosyl-L-homocyst			共著	平成27年11月		Sci. Rep. 5, Article number: 16641			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		•		発表年・	月	学会名			
Ⅲ 学会および社会における主な活動									
平成27年4月~現在	平成27年4月~現在 日本アンチ・ドーピング機構 公認スポーツファーマシスト								

教育および研究活動の業績一覧								
大学名 横浜薬科大学	講座名 薬学教育センター	職名 講師	氏名	奥津 泉				
I 教育活動								
教育実践	上の主な業績	年 月 日		概要				
1 教育内容・方法の工 基礎数学(1年次前期)	夫	平成29年4月~ 現在	高校における数学の履修履歴が個々の学生で大きく なり、数 I のみの学生から数皿まで履修済みの学生が 混在している状況である。したがって、取り扱う内容 も薬学を究める上で最低限必要とする内容に精選し た。また、上級者に向けた「より進んだ数学」も講 に取りいれ工夫を図った。定期試験の内容や成績評値 方法についても未履修者を念頭に置き配慮した。					
2 作成した教科書、教	2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践 一般財団法人 神奈川県学		平成30年1月	県立高校の課題と教育現場の現状について神奈川県高校改革のもとに学習塾経営者・講師にレクチャーした。					
4 その他教育活動上特 早期体験学習	記すべき事項	平成29年10月~ 平成30年11月	薬学教育における最初のキャリア教育(インターンシップ)である。学生には訪問先の業務内容や場所等を事前に調査させ、短時間の研修であるが積極的で意欲的な取り組みになるように準備させた。また、研修開始や終了時のお礼等、挨拶(コミュニケーション)や感謝の気持ちを伝えることの大切さを体験させ、有意義な研修となるように努めた。					
Ⅱ 研究活動			1					
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称				
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名				
単 学会および社会における主な活動								

教育および研究活動の業績一覧							
大学名 横浜薬科大学 講座名 薬学教育センター	職名 講師	氏名	小林 靖				
I 教育活動							
教育実践上の主な業績	年 月 日		概要				
1 教育内容・方法の工夫							
英会話(1年次 前・後期)	平成29年4月~ 現在	力の向上を図るため、	グ、ライティング、スピーキング ペアワーク、グループワークを取 積極的にコミュニケーションを図 した。				
2 作成した教科書、教材、参考書 「Netword」	平成29年4月~ 現在	トワーク化し、語彙力	i辞・接尾辞・語根でつなげてネッ □を高める教材を作成した。それを □リーズで学習し、更にテスト形式				
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
Ⅱ 研究活動	-	-					
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称				
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名				
Ⅲ 学会および社会における主な活動							

教育および研究活動の業績一覧							
大学名 横浜薬科大学	講座名 薬学教育センター	職名 講師	氏名	酒井 裕子			
I 教育活動			•				
教育実践	上の主な業績	年 月 日		概要			
1 教育内容・方法のエ	夫						
		平成30年4月~ 現在	るに、パワーポイントた。英語に対して苦ヨ本語による機能形態等た。また、理解度を研時に前回の授業範囲に	旦当した。教科書への理解を深め トや配布資料を有効的に活用し 手意識のある学生が多いため、日 学の復習を交えながら講義を行っ 確認するために、毎回の授業開始 こついての小テストを実施した。 シプのため、その日の講義内容に 関する時間を設けた。			
生物系実習 1 (2年次前期)		平成30年4月~ 現在	100名を越える学生を順を伝達し事故もなくも豊富であり、学生が対応を心がけている。施し、学生の技術習得	学の実験指導を行った。1クール 4クール体制で、能率的に実習手 く実験を行ってきた。教員の人数 からの質問に対してきめ細やかな また、最終日には実技試験を実 导度を評価している。レポート作 説明と添削による指導を行ってい			
生物系実習 2 (2年次後期)		平成30年10月~ 現在	名を越える学生を4ク 伝達し事故もなく実験	D実験指導を行った。1クール100 ール体制で、能率的に実習手順を 検を行ってきた。教員の人数も豊 D質問に対してきめ細やかな対応			
2 作成した教科書、教	材、参考書						
薬学英語 2 講義資料		平成30年4月~ 現在	パワーポイントの抜粋をプリントにして配布し、講達 資料として配布した。				
3 教育方法・教育実践	に関する発表、講演等						
4 その他教育活動上特	記すべき事項						
早期体験学習引率・訪問後	SGD(1年次後期)	平成30年10月	薬局への施設訪問を引率し、学生がスムーズに実習に 臨めるよう配慮した。また、訪問後のSGDの際には チューターを担当した。				
CBT試験(4年次後期)		平成30年12月	委員として、CBT体験受験ならびに本試験における準と当日の運営に携わった。				
OSCE評価者講習会(4年次行	发期)	平成30年12月		2・調剤(2)]のスタッフとし 会の事前準備と当日の運営に携			
Ⅱ 研究活動							
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称			
(論文) Exposure to high the neonatal period indu vascular patterning in m		共著	平成28年11月	Birth Defects Res B Dev Reprod Toxicol.vol.107 No.6			
(論文) A delay in vascularization induces abnormal astrocyte proliferation and migration in the mouse retina.		共著	平成28年12月	Dev Dyn. Vol.246 No.3			
			J Pharmacol Sci. vol.17				
(論文) Retinal neuronal abnormal retinal vascula retinopathy of prematuri	r growth in a rat model of	共著	平成29年9月	Exp Eye Res.Vol.168			

(著書)第103回 薬剤師国家試験一般	解答・解説集一	共著	平成30年7月	横浜薬科大学 国試対策室	
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名	
(演題名) 水晶体中のデスモソームの	存在	平成30年7月	第57回日本白内障学会·第45回水 晶体研究会		
(演題名) ヘスペレチン 眼科適用に作用	半う白内障予防効果	平成30年9月	第38回日本眼薬理学会		
Ⅲ 学会および社会における主な活動					
平成15年4月~現在	日本薬学会会員				
平成16年4月~現在	日本薬理学会会員				
平成30年9月~現在	日本眼薬理学会会員				

教育および研究活動の業績一覧							
大学名 横浜薬科大学	講座名 生化学研究室	職名 講師	氏名	鹿本 泰生			
I 教育活動							
教育実践	上の主な業績	年 月 日		概要			
1 教育内容・方法のエ	夫						
高度先端医療論(6年)		平成27年4月~ 平成28年3月	の薬理学等ではカバー 紹介、がん治療など	ス形式で授業を行っている。通常 - しきれなかった最先端の医療の こついての習得を目的とした授業 もの治療法などは日進月歩である 前った。			
薬学英語 I (1年)		平成27年4月~ 現在	生化学、分子生物学が記事・トピックスを記 読解力の向上や専門を	学の基礎分野である機能形態学, などを主題とするさまざまな英文 売解させ, 特に生物系分野の英文 英語への導入を行っている。教科 ビデオなどを取り入れ、多角的			
臨床薬理学(5年)		平成27年4月~ 平成28年10月		私のオムニバス形式で授業を がんの病態や疫学、治療方法など った。			
薬学外国語文献講読		平成27年4月~ 現在	分に関係する最新の基	対して、毎週一回当番制にして自 英語研究論文(原書)の紹介を 英会話を通じて英語での表現がス している。			
生化学1(1年)		平成28年4月~ 現在	象を担う分子の構造、 並びにそのタンパク質本的事項を習得させて る物質である糖質、お	戦と手法を用いて解析し、生命現性質、役割に関する基本的事項質の構造、性質、機能に関する基 でいる。講義では、細胞を構成する とびビタミンについて概説し、 きと機能、酵素反応についても有			
生化学2(2年)		平成29年4月~ 現在	象を担う分子の構造、 並びにそのタンパク質本的事項を習得させて 謝について概説し、生	戦と手法を用いて解析し、生命現 性質、役割に関する基本的事項 質の構造、性質、機能に関する基 ている。講義では、エネルギー代 生体内でどのようにエネルギーが ムを理解しやすいように解説して			
2 作成した教科書、教	材、参考書						
第102回 薬剤師国家試験	解答・解説集 2017	平成29年11月	薬剤師国家試験の解答	答・解説			
第103回 薬剤師国家試験	解答・解説集 2018	平成30年11月	薬剤師国家試験の解答	答・解説			
3 教育方法・教育実践	に関する発表、講演等						
4 その他教育活動上特	記すべき事項						
薬学英語WG		平成27年4月~ 現在	薬学部における英語教 に反映させた。	教育についての研鑽を行い、授業			
FD講習会		平成28年8月	FDワークショップ型の めた。	の研修会に参加し、自己啓発に努			
Ⅱ 研究活動							
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称			
(論文)Aggregation abil antibodies is correlated neutralize Rice dwarf vi	I with their capacity to	共著	平成24年9月	JARQ. 46(1): 65-71			

(論文) Human Immunodeficiency Vir 1) Reverse Transcriptase Inhibitor Cymbopogon Nardus Essential Oil.				International Journal of Advanced Research in Botany 2(1) 1-8	
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名	
(演題名)PC12細胞におけるステロイ ルボキサミンの効果	ドの神経突起進展抗	平成27年9月 日本神経精神薬理学会 45年金			
(演題名) NGFによる神経突起伸展作用 的機序の検討	月に対する抑肝散の	平成27年9月	日本神経精神薬理学会 45年会		
(演題名)アルツハイマー病治療薬リバスチグミンの神経様細胞PC12におけるNGFによる神経突起伸展作用に対する増強効果			平成28年3月	日本薬学会 136年会	
(演題名)NGF依存性神経突起伸展作用 の解明	引に対するデキサメ	タゾンの阻害様式	平成28年3月	日本薬学会 136年会	
(演題名)マヌカハニーのHIV-1の逆転	芸写酵素阻害効果に	関する研究	平成29年3月	日本薬学会 137年会	
(演題名) 各種ハチミツのチロシナーゼ酵素阻害効果に関する研究			平成30年3月	日本薬学会 138年会	
Ⅲ 学会および社会における主な活動					
平成27年4月~平成28年3月 「薬物乱用防止キャンペーン in 横濱」実行委員					

教育および研究活動の業績一覧						
大学名 横浜薬科大学 講座名 放射線科学研究室	職名 助教	氏名 小林 芳子				
I 教育活動						
教育実践上の主な業績	年 月 日	概要				
1 教育内容・方法の工夫						
薬剤学実習 (3年)	平成25年9月~ 平成26年3月	薬剤師の現場の仕事と座学との違いをわかり易くパワーポイントで図解を示したり、直接デモをみせるなどして工夫した。				
OSCE直前実習(4年)	平成25年12月	薬剤師の現場の仕事と座学との違いをわかり易く、パワーポイントで図解を示したり、直接デモをみせるなどして工夫した。主に個別指導をすることで、3年次の薬剤学実習IIとの差別化し、出来ないところを出来るようになるように指導した。				
薬理学実習(3年)	平成25年4月~ 現在	動物実験の倫理感に配慮しながら、実験動物の扱い 方・実験手順などをわかり易く解説した。H27以降は、 学生がわかり易く実習を行えるように実習書を作成し た。作成した実習書には関連する問題を多くつけて学 生が自ら学習できるようにした。				
化学系実習2(2年)	平成27年9月~ 現在	有機溶媒やガラス器具や機械など危険物が多い中での 実習となるので、安全に実習が進行できるように配慮 した。				
2 作成した教科書、教材、参考書						
臨床物理分析法 加藤真介 他編 横浜薬科大学 (臨 床物理分析法)	平成24年9月	物理学的診断法の概説および各方法の詳細をまとめ た。				
第98回 薬剤師国家試験 新国家試験形式 解答・解説 梶原康宏 他編	平成25年6月	放射性医薬品の概説および各医薬品の特徴等についてまとめた。				
臨床物理分析法(第2版) 加藤真介 他編 横浜薬科大学(臨床物理分析法)	平成25年9月	物理学的診断法の概説および各方法の詳細をまとめ た。				
臨床物理分析法(第3版)加藤真介 他編 横浜薬科大学 (臨床物理分析法)	平成26年9月	物理学的診断法の概説および各方法の詳細をまとめた。				
教養化学 (無機化学・理論化学) 加藤真介 他編 横浜 薬科大学 (教養化学)	平成28年4月	原子の構造、物質量、電子軌道等について解説した。				
臨床放射線科学 加藤真介 他編 横浜薬科大学 (臨床放射線科学)	平成30年9月	放射線の基礎から医療応用までを詳細に解説した。				
『新 薬の効くプロセス』ネオメディカル社	平成29年9月15日	薬理を学ぶ上で必要な知識をまとめた。図や表などで 知識を容易に身につけられるように工夫した。				
「薬理学実習書2018」	平成30年4月	薬理実習を学ぶ上で必要な知識をまとめ、実習手順などわかりやすいようにまとめた。実践問題も身につけられるように工夫した。				
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
4 その他教育活動上特記すべき事項						
FD講演会	平成23年~現在	年2回ほど開催される本学主催のFD 講習会に出席し、 自己啓発に努めている。				
動物実験教育訓練	平成26年~現在	年1回開催される本学主催の動物実験教育訓練に出席 し、自己啓発に努めている。				
研究倫理のe-learning	平成27年~現在	CITI Japan e-learning プログラムを受講完了した。				

Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文)Effect of the Antidiabetic Agent Pioglitazone on Bone Metabolism in Rats	共著	平成29年8月	Journal of Pharmacological Sciences
(論文)Effects of the Antiepileptic Drugs Topiramate and Lamotrigine on Bone Metabolism in Rats	共著	平成29年8月	Biomedical Research
(論文)Effects of the Antiepileptic Drugs Phenytoin, Gabapentin, and Levetiracetam on Bone Strength, Bone Mass, and Bone Turnover in Rats	共著	平成29年8月	Biological and Pharmaceutica Bulletin, 40
(論文)Treatment with Antiepileptic Agent Perampanel Suppresses Bone Formation and Enhances Bone Resorption: A Bone Histomorphometric Study in Mice	共著	平成29年8月	Journal of Hard Tissue Biology, 26
(論文) Chronic irradiation with low-dose-rate 137Cs-γ rays inhibits NGF-induced neurite extension of PC12 cells via Ca2+/calmodulin- dependent kinase II activation.	共著	平成29年11月	J. Rad. Res, 58
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)NGF誘導神経突起伸長過程に対する放射線影響 違い	の照射時期による	平成30年6月	日本保健物理学会 第51回研究 表会
(演題名)放射線照射によるミトコンドリア内スーパーオ 産生	トキシドアニオンの	平成30年7月	第55回 アイソトープ・放射線 究発表会
(演題名)血清除去誘導細胞死の一過性X線照射による抑	平成30年11月	第61回 日本放射線影響学会大会	
(演題名) X線照射後の0 ²⁻ とNOの細胞内生成状況の解析	平成31年3月	日本薬学会 第139年会	
Ⅲ 学会および社会における主な活動			

教育および研究活動の業績一覧														
大学名 横浜薬科大学	講座名	漢方薬物学研究室	職名	教授		氏名		Æ	毛	敦				
I 教育活動	ı													
教育実践	上の主な業	注 績	年	月	日			相	旡	要				
1 教育内容・方法のエ	夫													
漢方製剤各論 I (5 年)			平成25 現在	年4月	~	漢に場な説こ中時るにう方はのつ明と心間。使に素文薬でしたににそ用講はか剤い、目慢課のす義はが利の、医機性題方る内には、	なは。師に疾を剤こい漢本のし患与がと薬方教相てにえどが	と薬科談い用教のでなのは相るい科よき	て分方に漢れをなのおな薬な方る見方か	り知をれ製漢な意を、識理る剤方がが身服が解よ学薬らあを	薬欠しう『を答り』を答り	尊せ葉印気兑るど をな方識血しよの	るもを教化いにうなの患行のません。	ると者する。て患立 にるを各い者
漢方製剤各論Ⅱ (5年)			平成25 現在	年4月	~	漢に場な説こ中る薬欠薬でしたに、当なが割い、目急にのののとにのののとのでは、これのののでは、これのののでは、これののでは、これののでは、これののでは、これののでは、これ	な漢方をない。本次は、本本のでは、本本のでは、本のでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	となっ 薬の十 科は漢 談相手 いる。	て分薬に漢な	り、服 知識が を理解 れる 製剤学	薬欠しうこ	算せ 葉な 大談 では 薬を まる である。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 で	るもを教論の	ると者す方を
薬学概論(1年)			平成26現在	年4月	~	薬年まの「あであ全一全るる学生のである性になた。の考案のはる性になた。の素薬のはる性になた。	別り生つ考作が者こる、薬持もてさが効あがき	学つお学せ必性っでかとの話ぶるずのてきを	どを聞ととる任しよえい。	うる機よでいでとなこなこ会りきうあ考薬となる認るえ剤の	どが与ぜ。識のる師でで 動力を いっぱい まんきん まんしょう しょうしょう しょうしょう いっぱい しょう いっぱい しょう いっぱい しょう いっぱい しょう かいしょう かいしょう はいい しょう かいしょう はいい しょう はいしょう はいいん はいいん はいいん はいいん はいいん はいいん はいいん はいい	社要に学と寺ら患育る会あ。学完せ薬の、究	とる例ぶ全る剤こ如者とれる人が多くのである。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	の界 がのが安第安て
2 作成した教科書、教材、参考書 冷え症(2014年5月) 月経関連症候(2014年5月) 不眠症(2014年5月) 消化管症候への漢方薬(2017年6月)		平成26 現在	年4月	~	こ著般こいををにらてれた作的ににをる解得るる。のか難目学こでするといる。	わとつににることはれ西討り学が	たて洋さ、生でもい薬せ難はき	で。集。な方。	る方り洋方知の。薬と薬用識よっ	方生て集を西に著作る	を対る本っ葉に学ったいである。	こ物はても識生を	はあき方方同加一るな薬薬時わ	
3 教育方法・教育実践	に関する発	表、講演等												
4 その他教育活動上特	記すべき事	·····································												
SD研修会			平成29	年8月		FDSD研修会								
Ⅱ 研究活動			,											
1. 著書・論文等の名称				単著・ :著の5	31	発行また 年月(西暦				発行 (巻・-		表雑 等の:		
(論文) The Kampo medici enhances nerve growth fa outgrowth in PC12 cells.				共著		2017年		me	edica	n jour I scie 0.1730	nces.	2017	Sep	

(著書) 冷え症 (2014年5月)		共著	2014年	南山堂		
(著書) 月経関連症候(2014年5月)		共著	2014年	南山堂		
(著書) 不眠症 (2014年5月)	(著書) 不眠症 (2014年5月)		2014年	南山堂		
(著書)消化管症候への漢方薬 (2017	(著書) 消化管症候への漢方薬 (2017年6月)		2017年	南山堂		
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名		
Ⅲ 学会および社会における主な活動			•			
2018年就任	神奈川県薬事審議会会長					
2018年就任	神奈川県患者のための薬局ビジョン検討委員					
2018年就任	神奈川県後発医薬品	神奈川県後発医薬品促進協議会委員				

教育および研究活動の業績一覧								
大学名 横浜薬科大学 講座名 実務実習センター			職名	教授	氏名	宇佐美	英治	
I 教育活動	I 教育活動							
教育実践	上の主な		年	月日		概	要	
1 教育内容・方法のエ	夫							
薬学概論(1年生)			平成2	5年		薬剤師方や薬事法、医療機関においての薬剤師の役 医療倫理などについての講義を行った。		
医療システム概論(2年)			平成2	6年度	医療システムの効率化や医療機関における薬剤になどについての講義を行った。また、医療サーリ要、医療の機能分化、さらに医療システムの日との比較も取り入れて概説した。医療のしくみなた上で、医療機関の各部門がいかに組織化され、れているかの講義を行った。		。また、医療サービスの需 医療システムの日本と欧米 た。医療のしくみを理解し	
薬剤学実習Ⅱ (3年)				5年度~	薬剤学実習Ⅱ	事前実務実習		
			現在				での患者対応(初回面談、レイ実習の補助を行ってい	
薬剤学直前実習(4年)			平成2 現在	5年度~			で初回面談・初回応対、服 レイ実習の補助を行ってい	
実務実習(5年)		平成2 現在	5年度~	適切な時期(平間し、学生のデ	5年生は病院・薬局でそれぞれ2.5ヶ月づつ実習を行適切な時期(事前訪問を含む)に実習施設を3~4問し、学生の実習進捗状況を確認しメンタル面を含切な指導及び評価を行っている。			
OSCE直前実習(4年)			平成2 現在	5年4月~	薬剤学実習Ⅰ、薬剤学実習Ⅱで習得した技能をOSCEに応用できるよう指導している。			
薬学概論(早期体験学習)	(1年)		平成2 現在	4年4月~		各人が6年間の学びの目標を明確にするためにの、薬 局・病院での早期体験およびSGDの指導を行っている。		
2 作成した教科書、教	材、参考書	E						
3 教育方法・教育実践	に関するタ	^关 表、講演等						
4 その他教育活動上特	記すべき	事項						
Ⅱ 研究活動								
1. 著書・論文等の名称			3	単著・ 共著の別	発行または発 年月(西暦で		発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
第99回 薬剤師国家試験 -解答・解説集-、横浜薬科大学 教務部国試対策室		平成2	6年9月	薬剤師国家試駅	薬剤師国家試験の解説書を共同執筆した。			
第100回 薬剤師国家試験-解答・解説集-、横浜薬科大学 教務部国試対策室		平成2	7年7月	薬剤師国家試馬	薬剤師国家試験の解説書を共同執筆した。			
第101回 薬剤師国家試験-解答・解説集-、横浜薬科大学 教務部国試対策室		平成2	8年7月	薬剤師国家試駒	薬剤師国家試験の解説書を共同執筆した。			
2. 学会発表(評価対象年	度のみ)			-	発表年・	月	学会名	

Ⅲ 学会および社会における主な活動	Ⅲ 学会および社会における主な活動					
平成23年4月以前~現在	日本病院薬剤師会 会員					
平成23年4月以前~現在	神奈川県病院薬剤師会 会員					
平成27年	日本社会薬学会第34回年会、薬物乱用防止キャンペーン					
平成27年	湘南東部総合病院治験審査委員会、横浜市薬剤師会 子供アドベンチャー					
平成27年	横浜市薬・横浜薬科大学薬物乱用防止キャンペーン					
平成27年	日本薬局方担当者会議日本薬局方の講義を担当する教員の意見交換					
平成28年	中国薬剤部長訪日団との座談会及びシンポジウム日本と中国における薬学教育体制の比較					
平成29年	横浜市薬剤師会子供アドベンチャー、横浜市薬・横浜薬科大学薬物乱用防止キャンペーン					
平成30年	横浜市薬剤師会子供アドベンチャー、横浜市薬・横浜薬科大学薬物乱用防止キャンペーン					

教育および研究活動の業績一覧						
大学名 横浜薬科大学	講座名 薬品反応学研究室	職名 教授	氏名 甲斐 俊次			
I 教育活動		•				
教育実践	上の主な業績	年 月 日	概要			
1 教育内容・方法のエ	夫					
有機化学Ⅱ (2年次前期) 有機化学Ⅱ (1年次後期) (カリキュラムの改訂によ 有機化学2 (1年次後期) (カリキュラムの改訂によ		平成25年4月~ 平成25年7月 平成25年10月~ 平成27年1月 平成27年10月~ 現在	授業は薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した教科書を使用し、大事なところは板書する形で進めた。補足として授業の要点をまとめた資料を作成、配布し、教科書と併用した。毎回、授業内容の説明後に練習問題を配布し、授業終了時に回収することで、知識の固定と出席の確認を行った。次回の授業の際に、練習問題を返却し、解答例を配布した。			
薬学入門化学(1年次前期)		平成25年4月~ 平成26年7月	授業は高校の化学 I、IIの内容をまとめた資料を作成し、各項目内容の説明と、各項目に関連した問題の解説を行うことで、高校の化学 I、IIの復習と、化学が未履修の学生にはこの機会に高校の化学の内容を理解することを狙いとした。毎回の授業終了前に練習問題を配り、授業終了時に提出することで、知識の固定化と出席の確認を行い、次回の授業時に練習問題の解答例を問題の返却と同時に配布することを実施した。			
教養化学(1年次前期オムニバス)		平成27年4月~ 現在	授業は教科書と高等学校の化学基礎と化学の内容をまとめた資料と問題を作成し、各項目内容の説明と各項目に関連した問題の解説を行うことで、化学基礎と化学の確実な復習を行うことを狙いとした。また、各回の授業内容の説明後、練習問題に取り組み、授業終了時に提出することで、知識の固定化と出席の確認を行い、次回の授業時に練習問題の解答例を問題の返却と同時に配布することを実施した。			
2 作成した教科書、教	材、参考書					
有機化学Ⅱ及び2 講義資	料	平成25年4月~ 現在	授業の要点と補足の内容をまとめ、冊子にして配布した。 た。授業時に教科書と併用し、説明に使用した。			
薬学入門化学 講義資料		平成25年4月~ 平成26年7月	授業の要点と関連問題をまとめ、冊子にして配布した。 授業時、説明と問題解説に使用した。			
基礎薬学総合演習及び薬学	総合演習1 講義資料	平成25年9月~ 現在	演習の要点と関連問題をまとめ、冊子にして配布した。 演習時、説明と問題解説に使用した。			
基礎薬学演習及び化学系薬	学演習 講義資料	平成25年10月~ 現在	演習の要点と関連問題をまとめ、冊子にして配布した。 演習時、説明と問題解説に使用した。			
教養化学 講義資料		平成27年4月~ 現在	授業の要点と関連問題をまとめ、冊子にして配布した。 授業時、教科書と併用し、説明と問題解説に使用した。			
基礎有機化学問題集 第28	饭 (廣川書店)	平成29年1月	有機化学 I ~IV及び 1 ~ 4 の授業内容に関連し、有機化学の基本原理を学ぶのに必要な問題と丁寧な解説で構成された問題集である。平成25年3月に出版した初版に引き続き、改訂第2版の第10章を執筆した。			
3 教育方法・教育実践	に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項 横浜薬科大学 高大連携の取り組み		平成27年1月	高大連携による相互教育の活性化と高校生が実験などにより科学的に探究する能力と態度を育てるため、大学の実験室で実際に薬品を合成し分析機器による構造解析を行った。			
横浜薬科大学 平成28年度 FD・SD研修会		平成28年8月25日~ 26日	大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、多様な学力を持った学生の指導法、カリキュラムマップと妥当な成績評価、良好な学習環境を整えるために教職員が組織的にできることについてグループに分かれて議論した。			
横浜薬科大学 平成29年度	: SD研修会	平成29年9月24日~ 25日	大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、学園における危機のテーマについて、危機の種類、内容や発生の可能性、影響度、対応についてグループ内で意見を出し合い、重要度の高い内容を選定してチームとして発表を行った。			

I 研究活動						
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称			
(著書) 第100回薬剤師国家試験-解答・解説集-	共著	平成27年7月	横浜薬科大学			
(著書) 第101回薬剤師国家試験-解答・解説集-	共著	平成28年11月	横浜薬科大学			
(著書)基礎有機化学問題集 第2版	共著	平成29年1月	廣川書店			
(著書) 第102回薬剤師国家試験-解答・解説集-	共著	平成29年11月	横浜薬科大学			
(著書) 第103回薬剤師国家試験-解答・解説集-	共著	平成30年7月	横浜薬科大学			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)	·	発表年・月	学会名			
Ⅲ 学会および社会における主な活動						
平成24年4月~平成30年3月 かながわ大雪						

	教育。	および研究活動の業	績一覧
大学名 横浜薬科大学	講座名 漢方治療学研究室	職名 教授	氏名 金 成俊
I 教育活動			
教育実践	美上の主な業績	年 月 日	概要
1 教育内容・方法のコ	夫		
		平成25年4月~ 現在	学生が講義に興味を持つように座学のみの講義だけでなく、薬草園見学や植物スケッチ、試飲などの体験学習を行った。また講義の初めに、学会や漢方界の動きなど、漢方に関する情報を提供した。また成績評価は定期試験のみだけではなく、定期的にレポート提出や小テストを実施することにより、学生の試験に対する負担を軽減し、授業の理解度が高まるように工夫した。
伝統医薬学(1年次後期)		平成25年4月~ 現在	オムニパス形式の講義による教員間の講義方針の情報交換を行い、講義内容が相互に重ならないように配慮し、多くの国の伝統医学を紹介した。学生が日本の伝統医学だけでなく他国の伝統医学も理解できるように、実際に訪問した他国の伝統医学の臨床現場の写真をスライドで提示することにより、学生は興味を持って講義に取り組めるように工夫した。
本草学(2年次前期)		平成25年4月~ 現在	オムニパス形式の講義であるため、教員間の講義方針の情報交換を行い、講義内容が相互に重ならないように配慮し、教材以外の試料を活用し、歴代本草書、生薬学との相違点などを解説し、学生は関心を持って講義に取り組めるように工夫した。
漢方理論 I (3年次後期)		平成25年4月~ 平成28年3月	将来漢方の知識を備えた臨床薬剤師として役立つように、漢方薬の構成生薬全形から、生薬名、薬効、該当方剤が理解できるよう方式を取り入れ、学生がよりアクティブに興味を持つように工夫した。学生が興味を持つように座学ののみの講義だけでなく、軟膏実習などの体験型講義を取り入れ、学生が興味を持てるように努めた。
(カリキュラムの改訂により科目名変更) 漢方理論 II (4年次前期) 基礎漢方薬学2 (4年次後期漢方理論 II		平成25年4月~ 現在	定期試験のみの評価ではなく、筆記による学習が必要と思われる課題を中心にレポート課題とし、また小テストを実施した。講義の内容を将来役立てるように、解説を行った漢方薬を実際に試飲し、家族などを対象に四診を用いた診断のレポートは実際の臨床を体験でき、漢方薬の知識の幅を広げるような学習の工夫を行った。
基礎漢方薬学1(4年次後期)		平成30年4月~ 現在	新コアカリキュラムに基づいた今年度初めての講義であり、漢方薬学科以外の学生は初めて漢方薬に関する講義を受講するため、学生が興味を持つように教科書のみの講義だけでなく、必要な資料、ビデオ学習などを問入れた。また内容が難解にならないように努め、小テストの実施や、漢方薬の基本知識が修得できるように、オリジナルの問題集作成などの工夫を行った。
2 作成した教科書、教	 対材、参考書		
基礎からの漢方薬第3版(薬事日報)	平成26年4月	薬剤師に必要とされる漢方薬の知識に関して、歴史、理論、診断方法などの総合解説を行い、漢方薬の調剤や服薬指導において必要とされる医療用漢方製剤を中心に記載されている。各論では、医療用漢方製剤の構成生薬の解説と148種類の漢方薬が解説されており、臨床現場においても役立つように工夫されている。
薬学生のための漢方医薬学	色改訂第3版(南江堂)	平成29年3月	薬学部新コアカリカリキュラムに準じた薬学生が学ぶべき漢方薬の総合解説書であり、新コアカリカリキュラムの内容以外に臨床現場で必要とされる生薬や漢方処方の解説がされている。

	1		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
韓国における伝統医学教育(第2報)―韓医科大学における 教育の現況、第64回日本東洋医学会学術総会、鹿児島)	平成25年5月	韓国における漢方教育のさらなる充実を検討	の実態を調査し、日本の漢方教育 。
Education of Kampo Pharmacy in Japan (Symposium of Oriental Pharmaceutical Science of 2013 Fall Annual Convention of Pharmaceutical Society of Korea(OSONG,KOREA))	平成25年10月	日本の薬学教育における漢方教育の実態を紹介。	
入学直後の薬学生を対象とした漢方薬の意識調査 (日本 薬学会第134年会、熊本)	平成26年3月		象とした漢方薬の意識調査、薬学 に役立てることを検討。
入学直後の薬学生を対象とした漢方薬の意識調査(第2報) (第65回日本東洋医学会学術総会、6月東京)	平成26年6月		象とした漢方薬の意識調査、薬学 に役立てることを検討。
入学直後の薬学生を対象とした漢方薬の意識調査(第3報)-横浜薬科大学薬学部における学科間の比較-(第24回日本医療薬学会年会、名古屋)	平成26年9月		象とした漢方薬の意識調査、薬学 に役立てることを検討。
横浜薬科大学漢方薬学科における入学直後の薬学生に対 する漢方薬の意義(第48回日本薬剤師学術大会、鹿児 島)	平成27年10月		に入学した直後の薬学生を対象と 、薬学教育における漢方教育に役
薬学の漢方教育,何を教えるべきか!(第33回和漢医薬 学会学術大会、東京)	平成28年8月	薬学部に必要な漢方教	育に関して検討。
薬学教育における薬局製剤・漢方製剤の現況(第50回日 本薬剤師会学術大会、東京)	平成29年10月	薬学教育において重視 の意義に関して検討。	されていない薬局製剤・漢方製剤
4 その他教育活動上特記すべき事項			
横浜薬科大学 平成28年度 FD・SD研修会	平成28年8月23日~ 24日	・大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、多様な 力を持った学生の指導法、カリキュラムマップと妥当 成績評価、良好な学習環境を整えるために教職員が組 的にできることについてグループに分かれて議論した。	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書)基礎からの漢方薬第3版	単著	平成26年4月	薬事日報
(論文) 慶應義塾大学医学部漢方医学センター外来受診 患者を対象とした四象体質におよる体質分布、疾病及び 症状類型に関する研究	共著	平成26年9月	日本東洋医学雑誌65巻第4号251- 267
(論文)横浜薬科大学における入学直後の薬学生を対象 とした漢方薬の意識調査	共著	平成27年5月	漢方の臨床第62巻第5号793-804
(著書)薬学生のための漢方医薬学改訂第3版(再掲) (1-16、31-49、59-80、107-166、305-309、313-347)	共著	平成29年3月	南江堂
(著書) スパイス百科 (199-212)	共著	平成30年1月 丸善出版	
		十成30年1月	丸善出版
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		千成30年1月 発表年・月	丸善出版 学会名
2. 学会発表(評価対象年度のみ) (演題名)顔面形態診断分類によるFunctional dyspepsia患者に六君子湯が影響を及ぼす効果比較のため の臨床プロトコール研究の検討	共著		
(演題名) 顔面形態診断分類によるFunctional dyspepsia患者に六君子湯が影響を及ぼす効果比較のため	共著	発表年・月	学会名第69回日本東洋医学会学術総会
(演題名) 顔面形態診断分類によるFunctional dyspepsia患者に六君子湯が影響を及ぼす効果比較のための臨床プロトコール研究の検討 (演題名) Rコードを用いたカード式生薬・漢方薬データ		発表年·月 平成30年6月	学会名 第69回日本東洋医学会学術総会 (大阪) 第69回日本東洋医学会学術総会
(演題名) 顔面形態診断分類によるFunctional dyspepsia患者に六君子湯が影響を及ぼす効果比較のための臨床プロトコール研究の検討 (演題名) Rコードを用いたカード式生薬・漢方薬データベースの構築 (演題名) 日本と中国における十全大補湯の構成生薬に	共著	発表年·月 平成30年6月 平成30年6月	学会名 第69回日本東洋医学会学術総会 (大阪) 第69回日本東洋医学会学術総会 (大阪) 第69回日本東洋医学会学術総会
(演題名)額面形態診断分類によるFunctional dyspepsia患者に六君子湯が影響を及ぼす効果比較のための臨床プロトコール研究の検討 (演題名)Rコードを用いたカード式生薬・漢方薬データベースの構築 (演題名)日本と中国における十全大補湯の構成生薬に関する比較検討(第2報) (演題名)昭和初期における漢方薬が用いられた疾患の	共著	発表年·月 平成30年6月 平成30年6月 平成30年6月	学会名 第69回日本東洋医学会学術総会 (大阪) 第69回日本東洋医学会学術総会 (大阪) 第69回日本東洋医学会学術総会 (大阪)
(演題名) 顔面形態診断分類によるFunctional dyspepsia患者に六君子湯が影響を及ぼす効果比較のための臨床プロトコール研究の検討 (演題名) Rコードを用いたカード式生薬・漢方薬データベースの構築 (演題名) 日本と中国における十全大補湯の構成生薬に関する比較検討(第2報) (演題名) 昭和初期における漢方薬が用いられた疾患の調査 (演題名) 芍薬によるイリノテカンの抗膵臓がん活性増	共著 共著	発表年·月 平成30年6月 平成30年6月 平成30年6月 平成30年6月 平成31年3月	学会名 第69回日本東洋医学会学術総会 (大阪) 第69回日本東洋医学会学術総会 (大阪) 第69回日本東洋医学会学術総会 (大阪) 日本薬学会第139年会(千葉)

(演題名) 3D培養した転移性膵臓がん。 移関連因子の発現解析	共著	平成31年3月	日本薬学会第139年会(千葉)	
Ⅲ 学会および社会における主な活動				
平成25年4月~平成28年3月	和漢医薬学会 評議員			
平成25年4月~現在	日本東洋医学会	弋議員		
平成25年4月~平成28年3月	東亜医学協会 評議員			
平成28年4月~現在	東亜医学協会理事	F		

教育および研究活動の業績一覧					
大学名 横浜薬科大学 講座名 漢方天然物化学研究室	職名 教授	氏名	榊原 巌		
I 教育活動	1	1			
教育実践上の主な業績	年 月 日		概要		
1 教育内容・方法の工夫					
薬用植物学(1年後期) [国際医療福祉大学時代]	平成25年~平成26年	日本薬局方収載生薬の 位、代表的な成分と薬 薬用植物園でスケッチ	原植物を中心にその基原、薬用部 効を解説した。講義の一環として 観察を実施した。		
生薬学(2年前期) [国際医療福祉大学時代]	平成25年~平成26年		中心に含有する主成分の骨格分 物質を解説。医薬品開発原料と 説した。		
薬用植物学(1年後期) [横浜薬科大学]	平成27年~平成29年		原植物を中心にその基原、薬用部 効を解説した。講義の中で薬用植 施した。		
漢方医薬概論(5年 通期) [横浜薬科大学]	平成27年~現在		が選択科目として唯一履修できる の基礎的な考え方や漢方処方の分 講義した。		
その他の講義科目 [横浜薬科大学]	平成27年~現在	化学系実習 I (2年前) 漢方薬物学(漢方専攻 基礎漢方処方学(漢方 漢方品質評価論(漢方	(2年後期) 「専攻3年前期)		
2 作成した教科書、教材、参考書					
最新 天然物化学 第2版 奥田拓男編、廣川書店	平成25年4月	天然有機化合物の研究	法を分担執筆。		
カラーグラッフィック 薬用植物 第4版 北中進、 寺林進、高野昭人編、廣川書店	平成27年4月	各論を担当し、分担執	筆した。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
漢方e-ラーニング教材作成 神奈川科学アカデミー主宰	平成27年~平成29年	神奈川科学アカデミーが主宰する漢方e-ラーニング教材の作成を行った。			
第33回和漢医薬学会シンポジウム招待講演 (星薬科大:東京)	平成28年8月	漢方教育をテーマとして「これからの薬剤師に漢方知識は必要か?」というシンポジウムテーマにシンポジストとして「漢方製剤の違いとは」というタイトルで講演した。			
第34回日本東洋医学会北海道支部学術大会での招待講演 (北大医学部付属臨床講義堂:北海道)	平成29年10月	札幌医師会からの招聘により、学術講演会にて招待講演 を行った。			
第48回日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会でのシンポジウム講演(宇都宮東武ホテル:栃木)	平成30年8月	佐野厚生総合病院の小菅理事より、直接講演依頼を受け、漢方ブロックの学術講演会にて「漢方製剤の品質保証」というタイトルで講演を行った。			
第35回和漢医薬学会学術大会でのシンポジウム講演 (長良川国際会議場:岐阜)	平成30年9月	大会会長の岐阜薬大の稲垣先生からの依頼により和漢医 薬学会のシンポジウム講演を行った。			
第138回中国理解講座での講演(東京キャンパス)	平成30年10月		紹介で、立命館大学孔子学院が主 座に招聘され、漢方の歴史につい		
京都内科医会定例学術講演会での講演 (京都医師会館・二条:京都)	平成30年11月	京都医師会からの招聘 製剤の品質に関し講演	により、学術定例会において漢方 を行った。		
4 その他教育活動上特記すべき事項					
早期体験学習(1年次後期)	平成29年~平成30年	病院と薬局または企業	業務を見聞させるため、それぞれ の2ヶ所を訪問することになり、 を引率し医療施設を訪問した。		
横浜薬科大学 FD·SD研修会 (軽井沢)	平成30年9月	大学の主催する研修会(1泊2日)に参加し、初年次教育、能力別クラス分けの在り方、卒業研究と演習講義両立、学力向上のための授業の組み立ての見直しにつてグループに分かれて議論した。			
Ⅱ 研究活動					
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称		
(論文) 慢性腎不全に有効な新規天然薬物の探索・開発研究	共著	平成26年8月	国際医療福祉大学会誌, 20, p. 151.		

		ı		
(論文) Sinomenine and magnoflorine, major constituents of Sinomeni Caulis et Rhizoma, show potent protective effects against membrane damage induced by lysophosphatidylcholine in rat erythrocytes		共著	平成27年7月	Journal of Natural Medicines, 69, p.441.
(論文) 脂質中間代謝物を標的とした。 の探索	新しい虚血心筋保健薬	共著	平成27年8月	国際医療福祉大学会誌, 20, p. 123.
(論文) Neuroprotective effect of liquiritin as an antioxidant via an increase in glucose-6-phosphate 共著 dehydrogenase expression on B65 neuroblastoma cells.			平成29年11月	European J. Pharmacology, 815, p. 381.
(著書)方剤における生薬の役割(連計10報	載執筆)	単著	平成28年7月~ 平成30年現在	漢方と診療 No. 26~35
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名
(演題名)PC-12細胞を用いたSSRIの活性比較			平成30年8月	第20回応用薬理シンポジウム (東京)
(演題名) 柑橘類生薬の品質評価 第3	3報		平成30年9月	日本生薬学会65回年会 (広島)
(演題名) 柴胡加竜骨牡蛎湯における	無機類生薬の配合意義		平成30年9月	日本生薬学会65回年会 (広島)
(演題名) 柑橘類生薬の品質評価 第4	1報		平成31年3月	日本薬学会139回年会 (千葉)
Ⅲ 学会および社会における主な活動				
平成25年~現在	栃木県薬草教室 講師	ī		
平成25年~現在	みかも山香楽亭薬草勉	1強会 講師		
平成26年9月~現在 薬物乱用防止キャンペーン in 横濱(展示部			門副部門長)	
平成30年2月	平成30年2月 第2回漢方理解促進講演会での招待講演(川川			
平成30年2月	市民公開講座での講演	(本学)		
平成30年10月	2018 ME-BYO JAPANでの	のブース開設と対応		
平成22年4月~現在	日本生薬学会 代議員	i		

教育および研究活動の業績一覧						
大学名 横浜薬科大学 講座名 医薬品化学研究室	職名 教授	氏名	佐藤 康夫			
I 教育活動						
教育実践上の主な業績	年 月 日		概要			
1 教育内容・方法の工夫 医薬品化学I、II (3年前後期) 医薬品化学1、2 (3年前後期)	平成28年度 平成29年度~ 現在	事前に作成した資料を配布し、PCからプロジェクタ・表示して説明する。表示方法などは学生の意見を集め、適宜改善を図っている。理時題を解かせ、解説する。さらに、次の回に前回の復習問題を入れ、繰り返し確認が行えるよう努めてのる。				
2 作成した教科書、教材、参考書 医薬品化学講義資料 (3年前後期)	平成28年度~ 現在		注意点、さらに補足や練習問題を して配布し、効率的に学習が進め いる。			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
4 その他教育活動上特記すべき事項 横浜薬科大学 FD・SD研修会	平成28年8月		参加し、カリキュラムの検討や評 実施し、今後の案をまとめた。			
早期体験学習(1年後期)	平成29年度~ 現在	学生が薬局、病院など施設2箇所を訪問する際引率として同行し、見学をサポートすると共に社会人としてあるべき姿勢を指導した。				
Ⅱ 研究活動	•	•				
1.著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称			
(論文) Antimicrobial N-(2-chlorobenzyl)- substituted Hydroxamate is an Inhibitor of 1-Deoxy-D-xylulose 5-Phospate Synthase.	共著	平成25年8月	Chem. Comn. 2013, 49, 5535-5537.			
(論文) Synthesis and Structure-activity Relationships of Novel Lincomycin Derivatives Part 3: Discovery of the 4-(pyrimidin-5- yl)phenyl Group in Synthesis of 7(S)- thiolincomycin Analogs.	共著	平成29年1月	Journal of Antibiotics 2017, 70, 52-64.			
(論文) Synthesis and SARs of novel lincomycin derivatives Part 5. Optimization of lincomycin analogs exhibiting potent antibacterial activities by chemical modification at the 6- and 7-positions.	共著	平成30年1月	Journal of Antibiotics 2018, 71, 298-317.			
(論文) Green Synthesis of 1,4-Dihydropyridine Derivative in Water.	共著	平成30年2月	Chemistry Select 2018, 3, 3003-3005.			
(論文) Triphasic Continuous-Flow Oxidation System for Alcohols Utilizing Graft-Polymer- Supported TEMPO.	共著	平成30年5月	Asian J. Org. Chem. 2018, 7, 1071-1074.			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名			
(演題名) 自己促進型ハイブリッド触媒担持高分子の設まステムを利用した 不斉アルドール反応への展開	平成30年11月	第44回反応と合成の進歩シンポジウム				
(演題名) 水中での1,4 ージヒドロピリジン誘導体の合成 ン活性評価	成とそのサーチュイ	平成30年11月	第36回メディシナルケミストリー シンポジウム			

Ⅲ 学会および社会における主な活動				
平成22年4月~平成28年3月	日本薬学会ファルマシア編集委員			
平成28年4月~現在	日本学術振興会成果公開WG委員			
平成28年4月~現在	日本薬学会広報委員会委員			
平成28年4月~現在	日本薬学会広報委員会冊子改定WGメンバー			

	教育は	および研究活動の業績	績一覧			
大学名 横浜薬科大学	講座名 天然有機化学研究室	職名 教授	氏名	庄司 満		
I 教育活動						
教育実践	上の主な業績	年 月 日		概要		
1 教育内容・方法のコ	夫					
		平成29年4月~ 現在	書を基本とし、学生だ ている。有機化学にお る、アルデヒドおよび 説した。有機化学では 暗記ではなく、基本的	ス形式で授業を行った。講義は板が自らノートへ筆記するようにしいて非常に重要な官能基であがケトンの性質と反応について解ま数多くの反応を学ぶが、単なるの概念である立体障害・電子密れば理解できるよう努めた。		
2 作成した教科書、教	枚材、参考書					
薬学生のための実習実験安全ガイド(東京化学同人)		平成25年10月	の有機溶媒だけでなる 本書では、第7章との 燃性廃棄物の処理と促 化、毒性や刺激性を打 防止策について述べた 防災対策、例として動	有機化学の実習実験では、可燃性 〈毒劇物を取り扱うことが多い。 ②章を担当した。第7章では、可 保管、廃液排出時の危険性の低減 持つ気体が発生する可能性とその と。第9章では、緊急時の対応と 緊急時における可燃性溶媒や廃液 D 救急措置等について解説した。		
3 教育方法・教育実践	桟に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項 横浜薬科大学 平成30年度 FD・SD研修会		平成30年9月 4日 ~5日	大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、初年次教育、能力別クラス分けの在り方、卒業研究と演習講義の両立、学力向上のための授業の組み立ての見直しについてグループに分かれて議論した。			
Ⅱ 研究活動		1	1			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称		
(論文) Formal Synthes Potent IL-6 Inhibitor, Discrimination of Quate		共著	平成25年7月	Natural Product Communications Vol.8 No.7		
(論文) Stereoselective Hydrophilic Moiety	Synthesis of Scyphostatin	共著	平成26年4月	Tetrahedron Letters Vol. 55 No. 17		
(論文) Divergent Synth for ABC-ring Moiety of	esis of Pseudoenantiomers Steroids	共著	平成26年5月	Tetrahedron Letters Vol. 55 No. 20		
(著書)Studies in Natu Volume 47	(著書)Studies in Natural Products Chemistry Volume 47		平成28年2月	Elsevier		
(論文) Synthesis of trans,trans,cis-Fused Tetracyclic Skeleton via Radical Domino Cyclization		共著	平成29年4月	Tetrahedron Vol.73 No.16		
2. 学会発表(評価対象年	<u></u> F度のみ)		発表年・月	学会名		
(演題名)イソプロピルシ	合成法の開発	平成30年9月	第62回日本薬学会関東支部大会			
(演題名)Synthesis of Englerin A via Regio- and Diastereoselecti [4 + 3] Cycloaddition			平成30年11月	International Congress on Pure & Applied Chemistry (ICPAC) Langkawi 2018		

Ⅲ 学会および社会における主な活動				
平成22年12月~現在	日本化学会春季年会プログラム編成委員			
平成23年8月~平成25年7月	文部科学省研究振興局学術調査官			
平成24年6月~現在	Editorial Board of The Scientific World Journal			
平成25年12月~平成27年11月	日本学術振興会科学研究費委員会専門委員			
平成26年4月~現在	Editorial Board of International Journal of Pharmaceutical Sciences Research			
平成28年4月~現在	有機合成化学協会事業委員			
平成30年6月~平成31年3月	東京理科大学研究推進機構総合研究院アドバイザリー委員会委員			

	教育および研究活動の業績一覧					
大学名 横浜薬科大学	講座名 薬品反応学研究室	職名 教授	氏名 鈴木 真一			
I 教育活動						
教育実践	上の主な業績	年 月 日	概要			
1 教育内容・方法のエ 有機化学1 (1年次前期)	÷,	平成30年4月~ 同年9月	有機化学1では板書を基本としている。が、立体模型などを実際に組み立てさせ、立体的理解の難しい項目に対応している。演習では、パワーポイント(内容は別途印刷して学生に配布)で理解を深めさせる努力をしている。また、過去の国試の問題と現在、学んでいつ内容がどのように関連しているかを自覚させるために、関連問題の演習に努めている。			
有機化学4(2年次後期)		平成30年9月~ 現在	板書中心の講義を行っている。各講義ごとにその内容に関連したCBTや国試の問題プリントを配布し、解説を行っている。また講義内容をまとめた資料を事前に配布した。			
薬学英語(薬科1年次後期)		平成30年9月~ 現在	実験書・科学論文の読解に必要な専門用語の解説に重点を置いて講義を行っている。講義にはプリント・パワーポイントを用い、実際の実験器具がどのようなものかを理解させ次年度の実習を有意義なものとするために務めている。			
2 作成した教科書、教 有機化学 1 講義資料 門 演習問題		平成30年4月~ 同年9月	講義内容をより詳細に解説した講義資料を別途作成し、事前に配布した。また、過去の国試や自作問題をまとめた問題集も同時に作成して、理解の深化を図った。さらに各単元ごとに演習の時間をとり、重要と思われる国試の問題をまとめた演習を行った。			
有機化学4 講義資料 演	習問題	平成30年9月~ 現在	反応機構など講義内容をより詳細に解説した講義資料を別途作成し、事前に配布した。さらに各講義ごとに関連する国試問題の解説・CBTレベルの問題の解説を行った。			
薬学英語 講義資料		平成30年9月 現在	実験書・科学論文の読解に必要な専門用語の解説に重点を置いて講義を行っている。講義にはプリント・パワーポイントを用い、実際の実験器具がどのようなものかを理解させ次年度の実習を有意義なものとするために務めている。			
薬学総合演習(4年次オム	ニバス)	平成30年4月16日 ~7月14日	講義・解説をパワーポイントを用いて(資料は事前配 布)行っており確認試験を実施している。			
薬学総合演習(6年次オム:	ニバス)	平成30年9月1日~ 10月27日	講義・解説をパワーポイントを用いて (資料は事前配布) 行っており確認試験を実施している。			
3 教育方法・教育実践	に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特 化学成績向上WG	記すべき事項	平成30年4月~	大学の化学教育に必要とされる基礎的化学能力の向上 のために、必須となる化合物についての確認試験を1年 次生に対して行っている。			
英語教育WG		平成30年4月~	薬学研究者、薬剤師として必要とされる英語能力の向 上のための教育法についての議論・実践を行ってい る。			
有機化学を勉強する会		平成30年4月~	薬学研究者、薬剤師の基礎となる有機化学について、 理解の不十分な点を補うために講義内容の質問とは別 に、週一回、6時間程度自主的な勉強・質問教室を行っ ている。			
模擬患者(SP)養成講習会	•	平成30年11月	4年次共用試験OSCEを実施する際に必要な模擬患者の育成を、在学生と利害関係のない地元住民にたいして行った。			

早期体験実習(1年次後期)		平成30年11月	コアカリSBOに準じて「様々な薬剤師の業務を見聞」で るため、各学生が病院と薬局または企業の2カ所を訪問することとなった。本年は、薬局引率2回、病院引率1回を行い、評価を行った。		
Ⅱ 研究活動			•		
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(論文) Development of a field kit scientists for chemical tracking nitrophenyl)-2,4-pentadien-1-al		単著	平成25年3月	Forensic Sci. Intn'l., 288 e25-e27 (2013)	
(著書) IR分析テクニック事例集		単著	平成25年9月	技術情報協会	
(論文) Design of one-dimensional using two-dimensional fast Fourier discrimination of paper-based kraf	transform for	共著	平成27年9月	Forensic Sci. Int'l. 257 0-336 (2015)	
the PCR-RFLP products as determine	(論文) Genotyping of toxic pufferfish based on the PCR-RFLP products as determined by liquid chromatography/quadupole Orbitrap mass spectrometry		平成28年12月	J. Agr. Food Chem., 63 9363-9371 (2016)	
body fluids by headspace solid-pha	(論文) Determination of benzene and phenol in body fluids by headspace solid-phase micros¥extraction (SPME) and capillar		平成28年12月	Showa Univ. J. Med. Sci., 28(4) 327-335 (2016)	
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名	
Ⅲ 学会および社会における主な活動					
平成25年4月~平成28年3月	Forensic Toxicolo	ogy, editor			
平成25年4月~現在	日本医用マススペイ	クトル学会評議員			
平成25年4月~現在	日本法中毒学会評	議員			
平成25年4月~現在	日本分析化学会表表	示・千葉分析化学類			
平成25年4月~現在	日本分析化学会表	示・起源分析技術類	退談会運営委員		
平成25年4月~現在	日本法科学技術学会評議員				
平成26年11月~平成27年11月	日本法科学技術学会理事				
平成28年4月~現在	Forensic Toxicolo	ogy, assoiate edi	tor		
平成30年9月	薬物乱用防止キャンペーン in 横浜				

教育および研究活動の業績一覧					
大学名 横浜薬科大学 講座名 漢	方薬物学研究室	職名 教授	氏名	曽根 秀子	
I 教育活動					
教育実践上の主な業績	積	年 月 日		概要	
1 教育内容・方法の工夫					
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発	表、講演等				
神戸市立看護大学特別授業 1 コマ		平成30年12月7日	生活環境と健康の中で学物質の大切さ」で 9	『「未病社会から無病社会へ:化)0分行った。	
4 その他教育活動上特記すべき事 早期体験学習引率	項	平成30年12月3日	1年生を病院に引率し チューターとして参加	た。その前後において、SGDの 1した。	
Ⅱ 研究活動					
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(論文) Multiparameter Phenotypic Prof Cells for Assessing the Toxicity and Es of Whole Environmental Water.		共著		Environ Sci Technol. 2018 52(16):9277-9284.	
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名	
(演題名) エピジェネティック毒性の	検出シスムに関する	る開発研究	平成30年7月	日本毒性学会学術年会シンポジウ ム	
(演題名)生殖・発生毒性とエピジェ	ネティック制御		平成30年9月	東京生殖・発生毒性セミナー講演	
(演題名) 毒性化合物選定タスクファ 研究者が代理発表)	ース (フランス	出張中のため共同	平成30年10月	情報計算化学生物学会	
(演題名) ヒト神経幹細胞を用いたナムの構築	ノマティリアルの	安全性評価システ	平成30年11月	ナノ医療イノベーション川崎リトリー ト特別講演	
Ⅲ 学会および社会における主な活動					
平成30年4月~	内閣府 食品安全 包装材料の健康影響		門委員 専門委員とし	て、概ね月1回会議に出席、容器	
平成30年8月~		学物質リスク情報共 定に対する助言を行		学術顧問として、7月、9月、1	
平成30年8月	世界保健機構癌研究所モノグラフ 発がん評価方法の枠組み改定会合の前のワーキング会合 米国カリフォルニア州立大学バークレー校公衆衛生学				
平成30年10月	世界保健機構癌研究所モノグラフ 123巻 化学工業品及びニトロベンゼン類の影響評価会議 にメカニズム専門員として招聘参加				
平成30年11月	世界保健機構癌研究所モノグラフ 発がん評価方法の枠組み改定会合にメカニズム専門委員と して招聘参加				
平成30年12月	環境ホルモン学会(日本内分泌かく乱化学物質学会)運営委員、シンポジウム主催				
L	日本毒性学会 Journal Toxcicology Science 論文審査員				
平成30年7月~平成32年6月	日本毒性学会 Jour	nal Toxcicology S	cience 論文審査員		

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 横浜薬科大学 講座名 生薬・薬用資源学研究	窓室 職名 教授	氏名	寺林 進	
I 教育活動	•			
教育実践上の主な業績	年 月 日		概要	
1 教育内容・方法の工夫				
薬用植物学	平成25年10月~ 平成26年10月		肜態観察をフィールドで行った。 スケッチさせて実物を観察させて	
漢方品質評価論	平成25年5月~ 平成26年5月		いて漢方メーカの講師を招いて漢 実際の在り方を聞かせた。	
本草学	平成25年4月~ 平成26年7月		書から一部重要と思われる部分を ストを作成し、本草書に書かれて ∵。	
伝統医薬学	平成25年10月~ 平成26年3月		以外の伝統医薬学も含まれてい レヴェーダについては、ドイツで D内容を紹介した。	
2 作成した教科書、教材、参考書				
薬用植物学	平成26年1月 	身近な薬草活用手帖1 写真を提供した。	00の監修をおこない、執筆や植物	
伝統医薬学	平成26年10月~ 現在		ナルな教科書を作成し授業で活用 を中心としたわかりやすいものと	
薬用植物学	平成27年2月		薬用植物第4版(編集:北中進・寺 共同執筆し、廣川書店より出版し	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4 その他教育活動上特記すべき事項				
学外教育活動	平成26年6月	深谷台小学校の教育協議会の外部委員として、学校の 教育方針や各種行事の運営に関して協議に加わった。		
生薬鏡検実習	平成25年4月~ 平成27年3月	漢方の業界団体を対象に、生薬の鏡検実習を2か月に1回のペースで実施した。		
Ⅱ 研究活動				
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(著書)日本の野生植物	共著	平成26年3月	平凡社	
(著書)カラーグラフィック薬用植物第4版	共著	平成27年2月	廣川書店	
(論文) 日本薬局方収載生薬の基原植物の学名について	単著	平成28年12月	J. Jpn. Bot. 91: 418-422	
(論文) カギカズラ (アカネ科) の鈎の配列について	単著	平成29年10月	J. Jpn. Bot. 92: 311-313	
(著書) パートナー生薬学	共著	平成29年12月	南江堂	
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名	
(演題名) 日本薬局方『ボクソク』の生薬学的研究(第7報)	平成30年9月	日本生薬学会	
Ⅲ 学会および社会における主な活動				
平成14年4月~平成29年3月 医薬品医療機器	総合機構、日本薬局方	生薬等委員会委員		
平成18年4月~平成29年3月 厚生労働省日本	薬局外生薬規格検討会	·····································		
平成18年4月~現在 植物研究雑誌編	集委員			
平成25年4月~現在 生薬学会代議員				
	生薬学会論文審査員			

	教育および研究活動の業績一覧					
大学名 横浜薬科大学 講	座名 薬品分析学研究室	職名 教授	氏名 宮代博継			
I 教育活動						
教育実践上(の主な業績	年 月 日	概要			
1 教育内容・方法の工夫 物理系実習 1 (2年次前期)		平成25年4月~ 現在	1年次に学んだ「分析化学1」の内容の容量分析法とpH計算を理解するための講義であり、板書を中心に教科書の内容をわかり易く説明するよう努めている。講義の最後は習得した知識を確認するため、演習問題を配布し、計算力と知識の理解が深められるように努めた。授業アンケートの結果を吟味した結果、説明が判りづらいなど講義における問題点を発掘し、改善に努めた。			
薬局方試験法(4年次前期)		平成25年4月~ 現在	薬剤師国家試験のための必須学習項目であるため、国家 試験の過去問題等も着実に説くことができるように、オ リジナルのテキストを作成し、これを利用しながら1年 次から3年次までの物理系並びに化学系薬学領域の総復 習的な意味合いも含めて、確認しながら授業を進めるよ う努めている。			
薬学外国語文献講読(5年)		平成25年4月~ 現在	研究室配属の5年次学生に対し、最新の薬学関連英語論 文並びに教科書を輪読、内容討論し、これからの薬学へ の考察力を身につけるよう努めている。			
新薬論(5年)		平成27年4月~ 現在	北川康行教授と梅田知伸講師との3名でのオムニバス形式の授業である。選択科目ではあるが、薬学領域の創薬に関連する重要な科目として、構造生物学に出発して計算化学まで、基礎から最先端までをわかりやすく学ぶことができるように努めている。			
分光分析学(2年次前期)		平成28年4月~ 現在	授業アンケート結果をもとに、分光分析など、難しい領域ではあるが理解しやすいように講義を工夫している。 演習問題を通して、理解がより深まるよう努めている。			
2 作成した教科書、教材						
物理系実習 I 実習書(横浜薬: 2013~2018	科大学)	平成25年4月~ 現在	「物理系実習 I 」の実習書。実習の手順のみならず、実験原理が復習できるように解説し、さらに、基礎問題、練習問題、国家試験問題等を掲載して、実験しながら学習できるように編集された教本。			
講義に関連する演習プリント	、補足資料の作成	平成25年4月~ 現在	「分光分析学」「新薬論」 「基礎薬学演習」「物理系薬学演習」 「薬学総合演習」			
第97回〜第103回 薬剤師国家試験 解答・解説: (横浜薬科大学)	集 2013~2018	平成25年6月~ 現在	薬剤師国家試験の解答・解説(共著)			
「なるほど分析化学」(廣川 (編集:楠文代、渋澤庸一)	書店)	平成26年2月	第7章 水素イオン濃度について 第8章 強酸と強塩基のpH 第9章 弱酸と弱塩基のpH 第10章 塩のpH を分担執筆			
「よくわかる薬品分析化学」 (編集:二村典行、大庭義史		平成26年3月	第3章 第3項 日本薬局方収載の確認試験 を分担執筆			
国家試験に出る日本薬局方 20 (横浜薬科大学)		平成26年3月~ 現在	「薬局方試験法」のテキスト。物理系および化学系薬学 領域の日本薬局方に関する国家試験対策のための教本。			
3 教育方法・教育実践に	関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記 オープンキャンパスでの実習		平成25年~毎年	受験生を対象に「生体分子の姿・かたちをとらえる」という演題で、コンピュータ・グラフィックスを使用しながら、薬学研究の実習講義を実施している。			

FD·SD研修会 平		平成28年8月	大学の主催するFD研修会(一泊二日)に参加し、事 教育の更なる充実並びにハラスメント防止に対する自 啓発に努めている。	
FD研修会		平成30年8月		修会(一泊二日)に参加し、本学の更なる充実、質の向上のための 行案をまとめた。
Ⅱ 研究活動		•	•	
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活	動			
平成27年2月~現在	日本薬学会 代議員			
平成27年2月~現在	日本薬学会 関東3	支部 幹事		
平成25年4月~現在	日本私立薬科大学は	日本私立薬科大学協会 薬剤師国家試験問題検討委員会「物理・化学・生物」部会委員		
平成19年4月~現在	薬学教育協議会 分析化学教科担当教員			
平成19年4月~現在	薬学教育協議会 日	薬学教育協議会 日本薬局方教科担当教員		
平成27年4月~現在	「薬物乱用防止キー	ャンペーン in 横濱.	」実行委員会 副部会長	

教育および研究活動の業績一覧						
大学名 横浜薬科大学 講座名 薬品分	分析学研究室	職名 教授		氏名	山下 幸和	
I 教育活動						
教育実践上の主な業績		年 月	日		概要	
1 教育内容・方法の工夫						
分析化学 1 (1年)			~	するための講義でありかり易く説明するよう た知識を確認するため 識の理解が深められる	分析化学の導入と容量分析を理解 J、板書を中心に教科書の内容をわ 5 努めている。講義の最後は習得し b、演習問題を配布し、計算力と知 b ように努めた。授業アンケートの 説明が判りづらいなど講義におけ 対善に努めた。	
分析化学 2 (2年)		平成27年4月 現在	 ~	元ではあるが理解して	をもとに、分離分析など、難しい単 らすいように講義を工夫している。 理解がより深まるよう努めている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	-ETÆTOUE	₩ (* 20 <i>⁄</i> ±2 =	ı	笠/辛 八七十年の時	rr	
「よくわかる薬学機器分析」 (廣川書店) 改 (編集:藤岡稔大、二村典行、大庭義史、山		平成30年3月	I		床応用 センサーと 物理的診断法を執筆	
(糯未:膝凹俗人、一鬥共1]、人庭我丈、山	ľ¥↑u/			トノイクミストリー、	物理的診例法で執事	
「よくわかる薬品分析化学」(廣川書店)改	訂第2版	平成31年3月		第3章 化学平衡		
(編集:二村典行、大庭義史、山下幸和)				第5章 定量(容量):	分析法を執筆	
第103回 薬剤師国家試験 一解答・解説書- 横浜薬科大学(編集:澤木康平、藤井儀夫、 小俣義明、越智定幸、梶原康宏)		平成30年3月	l	問201(物理)		
講義に関連する演習プリント、補足資料の作	成	平成27年4月 現在	 ~	「分析化学1」「分析化学2」「演習科目」		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講	演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項						
進路ガイダンスにおける講義(横浜翠陵高等	学校)	平成30年6月	l	3学年対象の進路ガイダンス(大学フォーラム:ライセンスアカデミー主催)に参加し、本学の大学説明(学科、進路、取得可能資格など)を2コマ行った。		
オープンキャンパスミニ講義		平成30年8月	I		唐化反応ータンパクの修飾と変性に 一般の聴衆にわかり易く講義し	
SD研修会		平成30年9月	₹	FDSD研修会(一泊二日 なる充実ついて自己啓	日)を計画・主催し、薬学教育の更 8発を行った。	
Ⅱ 研究活動						
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の		発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(著書)Benzophenones from an endophytic Graphiopsis chlorocephala, from Paeonia cultivated in the presence of NAD+-depen inhibitor	lactiflora	共著		平成25年4月	Org. Lett., 15(8), 2058-2061	
(論文) An innovative LC-MS/MS-based met determining CYP 17 and CYP 19 activity i adipose itissue of pre- and postmenoposa ovariectomized women using 13C-labeled s substrates	n the I and	共著		平成26年4月	J. Clin. Endcrinol. Metab., 99(4), 1339-1347	
(論文) Measuement of periferal plasma 1 oxocortisol can descriminate unilateral form bilateral diseases in patient with aldosteoism	adenoma	共著		平成27年5月	Hypertension, 65(5), 1096-1102	

(論文)Recent development of chemical derivatization in LC-MS for biomedical approaches		共著	平成27年10月	Bioanalysis, 7(1	19), 2489–2499		
(論文) Proton Affinitive Derivati Sensitive Determination of Testost Dihydrotestosterone in Saliva Samp MS/MS	erone and	共著	平成30年9月	Anal. Sci., 34,	1017-1021		
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会	会名		
Ⅲ 学会および社会における主な活動							
平成8年4月~現在	日本薬物動態学会 代議員						
平成10年4月~現在	HAB研究機構 評議員						
平成24年4月~平成27年3月	宮城県薬事審議会委員			·	·		
平成17年4月~平成25年3月	日本分析化学会 東北支部 常任幹事						
平成25年4月~平成27年3月	日本分析化学会 東北支部 副支部長						
平成25年4月~平成26年3月	日本薬学会 東北支部 副支部長				·		
平成26年4月~平成27年3月	日本薬学会 東北支部 支部長						
平成25年12月~平成27年3月	日本薬学会 第137年会(2017) 組織準備委員会(副委員長)総務委員長						
平成26年4月~平成27年3月	日本高等教育評価機構 評価員 (団長)						
平成26年6月~平成27年3月	日本薬学図書協議会	計議員(東北薬	5月~平成27年3月 日本薬学図書協議会 評議員 (東北薬科大学附属図書館長として)				

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 横浜薬科大学	講座名 生薬・薬用資源学研究室	職名 准教授	氏名 飯塚 徹	
I 教育活動		l		
教育実践」	この主な業績	年 月 日	概要	
1 教育内容・方法の工	ŧ			
生薬学A・B (2年次前期・後 生薬学 (2年次前期) (カリキュラムの改訂により 更)		平成25年4月~ 平成27年3月 平成27年4月~ 現在	教科書に加え、自作のプリントおよびパワーポイン用いて講義を行った、生薬の特徴を、実際の医療や薬と関連させて解説した。講義では生薬の基礎的理ら、日本薬局方試験および漢方調剤まで幅広く取りため、図表を多用したプロジェクター映写が効果的あった。	ゥ漢方 里解か リ扱う
化学系実習 I (2年次後期期 化学系実習 1 (2年次前期) (カリキュラムの改訂により		平成25年4月~ 平成26年12月 平成27年4月~ 現在	化学実験の基本的な手技、および化学物質の基本的質、さらに生薬の局方試験および生薬鑑定につきり導と講義を行っている。1クール約100名の学生を、たは4クール体制で実験を行ってきた。学生の能動加と実験内容の正確な理解を促すため、実験終了野班ごとに質疑応答を行ってきた、実習終了時にはしト提出と試験を課し、知識の定着を図った。	実験指 3ま 的参 寺には
漢方生薬化学(漢方薬学科	享攻3年次後期)	平成25年10月~ 平成28年3月	教科書と、自作のプリントおよびパワーポイントをて講義を行った、生薬の漢方医学的効能を、裏付いる化学・薬理学的知見とともに解説した、また、漢古典の記述(書き下し文を加えた)を紹介し、漢プの理解を図った。さらに、漢方処方における生薬の的組合せを示し、薬効の変化や処方における役割のを不可した。	tとな 方の 5医学 D代表
本草学(漢方薬学科専攻2年	次前期オムニバス)	平成27年4月~ 平成30年9月	自作のプリントおよびパワーポイントを用いて講事行った。生薬の漢方医学的効能を,現代化学的に角る手法とその問題点を解説した。また,漢方煎剤をに調製し、製剤的な特徴や現在汎用されているエキ剤との違いを解説した。	曜析す と実際
2 作成した教科書、教材	才、参考書			
生薬学A・Bおよび生薬学 ፤	講義資料	平成25年4月~ 現在	主にスライドによって講義を行っている。教科書のをまとめたり、教科書ではわかりにくい点や不足すを、パワーポイントで作成したスライドやアニメーンを作製して使用している。これらのスライドを打プリントにして配布した。講義中の説明も随時書きるよう構成を工夫している。授業のアンケートや根進捗に応じて毎年更改している。	する点 ーショ 友粋を き込め
化学系実習1実習帳,実習報	告書(横浜薬科大学)	平成25年4月~ 現在	化学系実習1で使用する教科書であり、生薬確認試項を執筆した。実験の手順・注意点のほか、実験の的、裏付けとなる化学的事項について解説した。すの改正や、学生アンケートや理解の程度を考慮し、改訂を行っている。	D目 薬局方
漢方生薬化学(漢方薬学科 「	卓攻3年次後期) 講義資料	平成25年10月~ 平成28年3月	主にスライドによって講義を行っている。教科書ののまとめと、教科書には記載が少ない化学・薬理の説、古典の書き下しを加えて講義資料とした。インしにくい漢方医学の概念は、図を加えてイメージしいようにした。	D解 メージ
本草学(漢方薬学科専攻2年 講義資料	次前期オムニバス)	平成27年4月~ 平成30年9月	主にスライドによって講義を行っている。講義スラにのうち、重要なものをダイジェストしてブリント 講義資料とした。実験データを載せたり、イラスト 使って実験内容薬理作用の概略がつかめるようにし	トし, トを
パートナー生薬学(改訂第3	三版) (南江堂)	平成29年3月	生薬学で使用する教科書であり、改訂第3版の一部 を執筆した。薬局方の改正や研究の進歩にあわせ、	
(同 増補版)		平成30年2月	事項を検討して改めた。	
3 教育方法・教育実践(に関する発表、講演等			

4 その他教育活動上特記すべき事 早期体験学習 (1年次前期)	項	平成25年7月9日~ 8月6日		企業に引率し、薬学・薬剤に係わ §機関おける薬剤師の働きについて	
早期体験学習(1年次後期) (カリキュラム変更に伴い実施時期変	更)	平成27年8月6日 平成29年11月6日~ 12月11日 平成30年11月5日~ 26日	る性々の未物や、医療 学びを促した。	依	
教員資質向上WG		平成27年10月~ 現在		っとった教員の資質を考え、氏の資 O方策を検討する。そのため教員に	
FD推進WG (組織見直しに伴い名称変更	<u>1</u>)	36 IL	たいし、講義や実習な 実施し、その内容や名 査した。また、学生力 足度や不安、講義や研 た。この結果を集計し 員に公表して意識付け	はど教育研究に関することが大一ないないない。 はで教育研究に関するアンケンケートを実施し、学生生活の満 アンケートを実施し、学生生活の満 研究に対する意見や感想を調査し FD委員会に報告するとともに、教 けの一助とした。また、これら資料 で新入生の研修を企画・実施し	
教育サロン in 関東		平成27年10月24日	学生との関わりについ ティブラーニングの耳にわたる自発的教育3 が紹介され、活発な詞	・職員が集まり、虚生野あり方やいて議論した。立正大におけるアクなり組みや、いわき明星大の1~年を援「イグナイト教育」の取り組み議論が行われた。(なおこれを契機にの先生は、本学FD研修会(28年8こととなった)	
横浜薬科大学 平成28年度 FD・SD研	修会	平成28年8月23日~ 24日	行った。テーマ選定 法、カリキュラムマッ	会(一泊二日)を企画し,運営を (多様な学力を持った学生の指導 いづと成績評価、学習環境の整備) スケジュール管理等のの運営を支援	
新入生導入教育(1年次前期)		平成28年4月8日 12日 平成29年4月10日 14日 平成30年4月9日 13日	入学早々に行われる新入生導入教育のうち、「アカデミックライティングの基本スキル」について、1学年を2グループに分けて講義した。プリントとスライドをもちい、大学において論文やレポートを書く際に、何を考え、どのように書いたらいいのか、その注意点と文章技術を解説した。		
横浜薬科大学 平成30年度 FD・SD研	修会	平成30年9月4日~ 5日	大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、その運営を支援した。また、グループディスカッションでは チューターを務め、議論の円滑な進行を補助した。		
Ⅱ 研究活動					
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	
(論文) 腫瘍用薬による消化器有害事 記録に おける記載内容について	象の薬剤管理指導	共著	2017年3月	日本POS医療学会雑誌, 18(1), 2017	
(論文) ラベンダー精油のストレス軽 討	減効果に関する検	共著	2017年10月	日本アロマセラピー学会誌 16(1): 15 -21,2017	
(論文) Vasorelaxant effects of di acerogenin A and (-) - centrolobol Acer nikoense		共著	2018年5月	Traditional & Kampo Medicine, 5(2), 83-88, 2018	
(著書)第103回薬剤師国家試験-解答 (2017)	・解説集−,	共著	2018年7月	横浜薬科大学	
(論文) Vasorelaxant constituents Eucommia ulmoides Oliv.	of the leaves of	共著	2019年2月	Pharmacometrics, 95 (5/6), 2018	
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		•	発表年・月	学会名	
(演題名) 木香より得られた血管弛緩	作用について(IV)		平成31年3月	日本薬学会第139年会	
(演題名)桑白皮より得られた血管弛	緩作用について		平成31年3月	日本薬学会第139年会	
Ⅲ 学会および社会における主な活動					
平成27年8月~	杜仲研究会 監事				
平成28年4月~	(一社) パクチー	アカデミー協会 理事	-		
	深谷町ふれあい公園「ハマヤク農園」ハ				
平成28年4月~	深谷町ふれあい公園	園「ハマヤク農園」/	ハーブ栽培, 地域ボラン	ンティアと協働	

教育お	よび研究活動の業績	責一覧		
大学名 横浜薬科大学 講座名 漢方治療学研究室	職名 准教授	氏名	五十鈴川 和人	
I 教育活動				
教育実践上の主な業績	年 月 日		概要	
1 教育内容・方法の工夫				
基礎生物学	平成25年4月~ 平成26年10月	書の内容を易しく説明	(いなかった学生のために、教科 引した講義プリントを作成した。 引題プリントを作成し、配布し	
教養生物学 細胞生物学	平成27年4月~ 現在	書の内容を易しく説明	(いなかった学生のために、教科 目した講義プリントを作成した。 引題プリントを作成し、配布し	
漢方入門	平成28年4月~ 現在		使用せず、プリントと板書で 見せたり、漢方薬を煎じたりし きを行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書				
生物系実習Ⅰ実習書	平成25年3月~ 平成28年3月	2年生の生物系実習 I [*] 	で実習書として使用した。	
第98回薬剤師国家試験 一解答・解説集一	平成25年6月~ 現在	学生が国家試験の勉強 説書として作成した。	食を行う上で、充実した内容の解	
薬学系の物理学	平成27年9月	教養物理学のテキスト	くとして使用。	
生物系実習1実習書	平成29年3月~ 現在		-伴い、前年度まで使用していた 書」を大きく改定し、実習書とし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4 その他教育活動上特記すべき事項 バスケットボールサークル顧問	平成25年4月~ 現在		、活動を認められ部に昇格し トボール部男子部、女子部とし	
フットサルサークル	平成25年4月~ 現在	顧問		
天文サークル	平成25年4月 現在	顧問		
横浜薬科大学 平成28年度 FD・SD研修会	平成28年8月 23日~24日	学力を持った学生の指 当な成績評価、良好な	ま(一泊二日)に参加し、多様な 背導法、カリキュラムマップと妥 は学習環境を整えるために教職員 についてグループに分かれて議	
漢方eラーニング(成分と薬理作用)	平成28年12月	神奈川県産業技術研究 教育プログラムの一部	R所が行うeラーニングによる漢方 Bを作成した。	
横浜薬科大学 平成308年度 FD·SD研修会	平成30年9月 4日~5日	大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、初年次教育、能力別クラス分けの在り方、卒業研究と演習講義の両立、学力向上のための授業の組み立ての見直しについてグループに分かれて議論した。		
Ⅱ 研究活動	!	-		
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(論文)横浜薬科大学における入学直後の薬学生を対象とした漢方薬の意識調査—漢方薬学科・臨床薬学科・健康薬学科の比較-	共著	平成27年5月	漢方の臨床、62(5)、79-804	

(論文) 自壊乳がん巨大腫瘍における 血症例と薬理学的作用機序の解明	Mohs' ペースト止	共著	平成28年2月	医療薬学、42(4)、246-254	
			平成28年6月	PLoS One. 、11(6)、e0158278	
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		•	発表年・月	学会名	
(演題名)顔面形態診断分類によるFu が影響を及ぼす効果比較のための臨床	nctional dyspepsi プロトコールの提案	a 患者に六君子湯 g	平成30年6月	第69回日本東洋医学会 学術総会	
(演題名) 日本と中国における十全大	補湯の構成生薬に関		平成30年6月	第69回日本東洋医学会 学術総会	
(演題名) QRコードを用いたカード式			平成30年6月	第69回日本東洋医学会 学術総会	
(演題名)厚朴由来成分マグノロール 誘導の機序に関する研究	によるヒト乳がん約	田胞に対する細胞死	平成30年9月	第35回和漢医薬学会 学術大会	
(演題名) 芍薬によるイリノテカンの抗膵臓がん活性増強作用のメカニズム 解析			平成31年3月	第139年会日本薬学会	
(演題名) 漢方薬による前立腺幹細胞	抗原PSCA転写促進活	5性の評価	平成31年3月	第139年会日本薬学会	
(演題名) rs2294008と新規欠損配列を ロモーターのハプロタイプ解析	と指標とした前立腺	幹細胞抗原PSCAプ	平成31年3月	第139年会日本薬学会	
(演題名) 3D培養した転移性膵臓がん 析	細胞株における転移	多関連因子の発現解	平成31年3月	第139年会日本薬学会	
Ⅲ 学会および社会における主な活動					
平成25年4月~現在	公認スポーツファ-	ーマシスト			
平成25年4月~現在	第2回薬物乱用防止	キャンペーン出展き	·····································		
平成25年4月~現在	(出張講義) タバ	コはなぜいけないか	・! (他19件)		
平成25年4月~現在	新規素材探索研究	会幹事			
平成25年1月~現在	薬剤師研修センタ-	一 研修認定薬剤師	ī		
平成25年4月~平成27年3月	ファルマシアトピッ	ックス小委員			
平成27年4月	第1回若手薬学教育	者のためのアドバン	ンスワークショップ(大阪)		
平成28年4月~現在	天然薬物研究方法論アカデミー事務局				
平成30年4月~現在	喫煙・受動喫煙防」	上活動を推進する神	奈川会議理事		
平成30年11月	浜薬漢方セミナー語	講師			

	教育および研究活動の業績一覧				
大学名 横浜薬科大学 講座名 医薬品化学研究室			職名 准教授	氏名 磯村 茂樹	
I 教育活動	I				
教育実践	上の主な	業績	年 月 日	概要	
1 教育内容・方法のコ	夫				
基礎化学演習			平成25年4月~ 平成26年3月	学部1年生に対し、高校で修得する化学から大学1年 生で習う基礎の化学について、分野ごとに講義を行っ	
基礎化学講座 (カリキュラム改訂による	6科目名変	更)	平成26年4月~ 現在	た後、演習を課題とし翌講義において解説をする。基本分野は2項目程度、重要と考えられる分野は2週かけて1項目と、内容に応じて理解につながる講義を心掛けている。学生への授業アンケートも評価が高く、本学の数値評価で80点を下回ることはほとんどない。	
化学系実習 Ⅱ			平成25年4月~ 平成28年3月	学部2年生に対し、化学系実習2を実施している。本 実習は、有機合成と立体化学を主体とし、アスピリン などの合成、医薬品の確認試験といった実技を重点に	
化学系実習 2 (カリキュラム改訂による科目名変更)		平成28年4月~ 現在	はこの日成、医楽品の雑誌試験というに実技を重点に 実習している。 机上の学習領域を実際に実地にて体験 するとともに、その反応メカニズムについて考察す る。学生とのアンケートや対話の中から、テスト前に 丸暗記をすることに重点が置かれている傾向を感じ、 毎日の実習講義では関連する質問を学生にあて返答し てもらいながら考え方の過程を教授し理解を重視した 講義に努めている。		
他3件					
2 作成した教科書、教 基礎化学講座 教科書 平成25年4月〜平成26年3月 (カリキュラム改訂により	までは基	礎化学演習 教科書	平成25年4月~ 現在	講義の題材として、薬学部の1年生に必要な基本的な化学の内容を復習するため、演習講義用のテキストを作成した。見開きの左ページには講義内容をし、その単元の演習問題を右ページには演習問題を配置し、単元ごとに進めていく形のものとした。磯村茂樹、山崎和応、野上靖純編、横浜薬科大学教務部発行	
教材 化学系実習 2 電子	教材 化学系実習 2 電子雲をイメージする		平成25年4月~ 現在	電子雲の概念を伝えるため、白抜きの軌道を多数取り入れ、学生に電子の存在位置を鉛筆で塗らせるようにし、分子の形や反応の際の電子雲の動きを的確に伝えることに努め、有機反応のイメージを理解させるツールとした。	
他2件					
3 教育方法・教育実践	銭に関する:	発表、講演等			
4 その他教育活動上特 国家試験対策委員	詩記すべき:	事項	平成25年4月~ 現在	国家試験対策委員会の領域別(化学)責任者として薬 剤師国家試験出題基準に準拠した卒業試験関連問題、 各専門家教員への出題依頼、問題校正を実施した。	
新入生対象スクーリング			平成26年3月~ 現在	新入生対象のスクーリングにおいて、小テストの作成 とその結果を元とした面談を実施した。	
横浜薬科大学 平成28年度	FD·SD研	修会	平成28年8月23日 ~24日	大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、多様な学力を持った学生の指導法、成績評価法など、教職員が学生に対してできることをスモールグループディスカッションを実施した。	
横浜薬科大学 平成30年度	FD·SD研 [·]	修会	平成30年9月4日· 5日	大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、初年次教育、能力別クラス分けの在り方、卒業研究と演習講義の両立、学力向上のための授業の組み立ての見直しの4つのテーマについてスモールグループディスカッションを実施した。	

Ⅱ 研究活動				
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	
(論文) Modified Yamaguchi Reagent Efficient Ester-ification	: Convenient and	共著	平成26年4月	Synthetic Communications., vol 44., 2854-2860
(論文) Dimethylaminopyridine - Sup Polymer Catalyst and its Flow Syst		共著	平成27年6月	ChemSusChem 8 (10), 1711-1715
(論文) Convenient and Simple Este Continuous - Flow Systems using g -	rification in DMAP	共著	平成27年11月	ChemSusChem 8 (21), 3587-3589
(論文) Green Synthesis of 1,4-Dih Derivative in Water	ydropyridine	共著	平成30年3月	Chemistry Select 3 (11),3003- 3005
(論文) Triphasic Continuous-Flow Oxidation System for Alcohols Utilizing 共著 Graft-Polymer-Supported TEMPO			平成30年4月	Ajian J. Org. Chem. 7 (6),1071-1074
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名
(演題名) グラフト重合法を利用した布上における新規不斉反応場の 開発			平成30年6月	第17回新規素材探索研究会 (横浜)
(演題名) 自己促進型ハイブリッド触ステムを利用した不斉アルドール反応	媒担持高分子の設言 への展開	┼・合成とフローシ	平成30年11月	第44回反応と合成の進歩シンポジウム(熊本)
(演題名)水中での1,4ージヒドロピリン活性評価	Jジン誘導体の合成	とそのサーチュイ	平成30年11月	第36回メディシナルケミストリー シンポジウム (京都)
(演題名) 多機能固定化を目的とした 反応	グラフト型高分子触	虫媒の開発とフロー	平成31年3月	日本薬学会第139年会(千葉)
Ⅲ 学会および社会における主な活動			<u> </u>	
平成25年9月~現在	薬物乱用防止キャン	ンペーンin横浜		
平成27年4月~現在	一般社団法人薬学教育協議会 有機化学系教科担当教員			
平成27年10月~現在	横須賀学院高等学校科学教育センター運営指導委員			
平成28年4月~現在	薬物乱用防止キャンペーン 企画調整委員会 部会長			
平成29年10月~現在	高大連携校 化学系	系実習講義(横須賀	学院高等学校にて)	

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 横浜薬科大学	大学名 横浜薬科大学 講座名 漢方天然物化学研究室		氏名	梅原 薫
I 教育活動			•	
教育実	践上の主な業績	年 月 日		概 要
1 教育内容・方法のこ	工夫			
薬用植物学(1年生必修)		平成29年10月~	種を中心に、パワーオを用いて視覚に印象でわかり易く、かつ印象 義終了後に毎回、解討課し、学習内容の定着	の中でも漢方製剤に繁用される 64 ペイントで作成したスライドや図表 がける事で、講義への理解や注意が ま的に伝わるよう工夫を行った。講 もした薬用植物に関する小テストを を図っている。講義資料は全て 、復習等学生の個人学習に役立つ
伝統医薬学(1年生学科必 他 1 件	修)	平成29年10月~	に印象づける事で、請 かつ印象的に伝わるよ 伝統医療学診断をアン 付けや学習への参加を	はしたスライドや図表を用いて視覚 精義への理解や注意がわかり易く、 こう工夫を行った。また学生個々の ンケート形式で行い、興味への動機 に促す工夫を行った。また、講義資 に掲載し、復習等学生の個人学習
2 作成した数科書 ま	かけ			
2 作成した教科書、教材、参考書薬用植物学 講義資料		平成29年10月~		返用部位である生薬の形態スライド 医要成分等を植物ごとに一枚にまと よるように努めた。
伝統医薬学 教科書、講義資料		平成29年10月~	各地の伝統医学の特徴や確立された時代を俯瞰しなが 説明することで、各地の伝統医学の関連付けが分かり くなるよう配慮した。	
3 教育方法・教育実施	3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上物	 寺記すべき事項			
留学生受入れ		平成25年3月~ 平成25年5月	JSPS 外国人招へい研究者(短期)事業受入者、海外研究者:Orawan Monthakantirat	
		平成27年3月~ 平成27年5月	日立国際奨学財団リサーチフェローシップ事業受入研究者、海外研究者: Orawan Monthakantirat	
		平成28年1月~ 平成28年3月	JASSO 帰国外国人留学生短期研究制度事業受入研究者、海外研究者: Boonsong Wungsintaweekul	
		平成30年 9月~ 平成30年10月		こ基づく交換留学生受入れ、海外研 Ngansatin, Ms. Rawikorn
早期体験学習引率(1年生	後期)	平成29年9月~	病院や薬局を訪問して、医療現場を体験する学習に学生を引率した。学生の訪問先での礼儀や実習内容の勉強、 行き帰りの安全などに配慮した。	
フレッシュマンセミナー引率(1年生)		平成30年4月	新入生間の親睦と、大学生活への順応を目的に、セミナーハウスでの共同生活に学生を引率した。指導役の上級生への指示監督や、行き帰りの安全などに配慮した。	
Ⅱ 研究活動		1		
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
	new compound, 2-butanone 4- Illate and other 8 compounds ory leave extracts of	共著	平成29年6月	Nat. Prod. Res., 31, 1370-1378 (IF, 1.93)
(論文) Design and synt estrogenic and anti-est	hesis of benzoacridines as rogenic agents.	共著	平成29年10月	Bioorg. Med. Chem., 25, 5216-5237 (IF, 2.88)

(論文) α -Keto tetrahydrofuran lignan glucosides from the Bangladeshi medicinal plant Terminalia citrine inhibit estradiol (E2) induced proliferation in cancer cells.		共著	平成30年1月	Phytochemistry, 145, 161-167 (IF, 3.19)
(論文) Naphthoquinone Glycosides i Medicinal Plant, Diospyros mollis.	in the Thai	共著	平成30年1月	J. Nat. Med., 72, 220-229 (IF, 1.92)
(論文) Correlation between the potflavonoids on mushroom tyrosinase activity and melanin synthesis in m	inhibitory	共著	平成30年6月	Molecules, 23, 1403-1413 (IF, 3.10)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名
(演題名) 柴胡加竜骨牡蛎湯における	無機類生薬の配合意	養の検討	平成30年9月	日本生薬学会第65回年会
(演題名)柑橘類生薬の品質評価(第	3 報)		平成30年9月	日本生薬学会第65回年会
(演題名) The international training program for health professions from the Department of Pharmacy			平成30年12月	第33回日本国際保健医療学会
(演題名)タイ薬用植物 Persicaria tomentosum 中の有用成分研究			平成31年3月	日本薬学会第139年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動				
平成 25年11月	三島市環境講演会。	「身近なくすり、薬	医用植物 ~生物多様性	をふまえて~」
平成 26年 4月				niversity, Thailand), 学位論 rom Apium graveolens and
平成 26年 5月	The 3rd Current Dr	rug Development In	ternational Conferen	ce (Krabi, Thailand)
平成 28年 1月	The 6th International Conference on Natural Products for Health and Beauty (NATPRO6) (Khon Kaen, Thailand)			r Health and Beauty
平成 28年12月	20th World Congres	ss on Clinical Nut	utrition (WCCN) (Bangkok, Thailand)	
平成 29年 2月	副査、Ms. Thingdeeying Pakakrong (Thammasat Univ, Thailand), 学位論文: Cytotoxic and anti-estrogenic activities of five Thai medicinal plants called 'Hua-Khao-Yen' and their isolated compounds.			
平成 29年11月	健康都市やまとフェア健康テラスセミナー。「私たちの身近にある薬草」			
平成30年 5月~		漢方の基本知識の修 一ト結果の検討会を		F卒後教育を隔月で開催した。毎セ

教育および研究活動の業績一覧					
大学名 横浜薬科大学	講座名 薬学教育センター	職名 准教授	氏名	岡崎 裕	
I 教育活動					
教育実践	上の主な業績	年 月 日		概要	
1 教育内容・方法のエ	· :夫				
情報科学入門		平成25年4月~ 現在	ハードウエアとソフ	える基本情報機器としてのPCの トウエア及びそれらを支える論理 を薬学の具体例を交えて教えてい	
情報処理演習		平成25年4月~ 現在	算・プレゼン資料なる	だ知識を踏まえてワープロ・計 どの作成方法や化学反応式/構造 ースなどを毎回の課題を通して知 させている	
2 作成した教科書、教	材、参考書				
情報科学入門 e-learning	webサイト	平成25年4月	ネットワーク経由できる教科書・教材サイ	どこからでもアクセスして勉強で イトを毎年構築	
情報処理演習 e-learning	webサイト	平成25年4月~		T C F I III X	
		現在			
3 教育方法·教育実践 -	に関する発表、講演等				
4 その他教育活動上特	記すべき事項				
Ⅱ 研究活動					
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
脈波伝播速度測定装置-優	先出願(特許)	共著	平成30年8月27日	(特許庁)	
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		•	発表年・月	学会名	
Ⅲ 学会および社会におけ	る主な活動				

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 横浜薬科大学 講座名 薬品反応学研究室	職名 准教授	氏名	山崎 和応	
I 教育活動				
教育実践上の主な業績	年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫				
機器分析学 I (2年次前期)	平成25年4月~ 平成27年7月	うにしている。教授	して、学生自らがノートを書くよ した内容に関しては練習問題の詳 ど内容の理解を深めた。	
機器分析学Ⅱ (2年次後期)	平成25年10月~ 平成28年1月	うにしている。細かれ	して、学生自らがノートを書くよ な図などを用いて説明を要する内 た資料を配布した上で、OHPを用い	
構造解析学(2年次後期) カリキュラム改訂により機器分析学Ⅱより科目名変更	平成28年10月~ 現在		している。教授した内容に関して 題などを利用して内容の理解を深	
化学系実習 I (2年次後期)	平成25年10月~ 平成26年12月	う化学の実験のため	習指導を行なっている。危険を伴 十分な注意事項の伝達を行い、大 を行なってきている。レポートの	
化学系実習1 (2年次前期) カリキュラム改訂により科目名、実施時期変更	平成27年4月~ 現在	作成に関してもポイン	ントとなる点に関して詳細な説明 な指導を行なっている。	
創薬化学特論(4年次前期・オムニバス)	平成25年4月~ 現在	4年次の科目ということもあり、講義はパワーポインを用いて行なっている。パワーポイントの資料を印製本したものを教科書として利用しており重要な箇にマーカー等で記入できるよう配慮している。		
2 作成した教科書、教材、参考書				
化学系実習実習書(横浜薬科大学)	平成25年4月~ 現在	実習に関連する学習項目の説明まで網羅した実習書。		
構造解析学練習問題集	平成25年4月~ 現在	講義内容に対応したCBTならびに国家試験レベルの練習問題集。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4 その他教育活動上特記すべき事項				
Ⅱ 研究活動	I	L		
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(著書)薬学機器分析[第2版]	共著	平成29年3月	廣川書店(ISBN978-4-567-25576- 9)	
(論文) Synthesis of 6,7-Dihydro-9,10- dimethoxydibenzo[a,f] quinolizinium Salt and Its D-ring Substituted Derivatives.	共著	平成29年3月	Heterocycles, 2017, 94, 503.	
(論文) SYNTHESIS OF 2,3-DISUBSTITUTED INDOLES BY ALKYLATIVE AND ARYLATIVE CYCLIZATION OF 2- ALKENYLPHENYLISOCYANIDES WITH GRIGNARD REAGENTS.	共著	平成30年2月	Heterocycles, 2018, 96, 324.	
(著書) 創薬化学特論	共著	平成30年4月	横浜薬科大学(ISBN978-4-905390- 55-8)	
(著書)第103回薬剤師国家試験−解答・解説集	共著	平成30年7月	横浜薬科大学(ISBN978-4-905390- 67-1)	
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名	
■ 学会および社会における主な活動				
		/= 1# 1=2 mr		
成28年9月				

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 横浜薬科大学	講座名	漢方薬物学研究室	職名 准教授	氏名 喩 静
I 教育活動	•			•
教育実践	上の主な美	業績	年 月 日	概要
1 教育内容・方法のコ	 [夫			
伝統医薬学(1年)			平成26年4月~ 現在	地理環境・国の歴史発展の視線から世界の伝統医学の それぞれの特徴と発展歴史を授業した。授業アンケー ト調査は77。
漢方薬効解析薬理学(4年)		平成26年4月~ 現在	漢方医学真髄の授業に努力し、興味を抱かせる。写真やスライド、音声資料などを有効に活用しながら、講義資料を作成し講義を行った。授業アンケート調査は75。
本草学(2年)			平成26年9月~ 現在	生薬のサンプルや写真を活用しながら授業した。生薬の性味や薬効を理解できる工夫を行っている。授業アンケート調査は74。
OSCE・無菌操作演習(4年)		平成30年~	4年生のOSCE・無菌操作の演習を担当した。
2 作成した教科書、教	数材、参考:	書		
漢方薬効解析・薬理学・詞	講義資料(.	単著)	平成30年4月	講義補充資料:漢方処方の生薬構成特徴、薬効・薬理 作用、臨床応用について説明した。
本草学・講義資料(共著)			平成30年4月	常用生薬の性味・薬効について説明した。
伝統医薬学・講義資料(共	共著)		平成30年9月	中国医学部分を担当した。
【第103回薬剤師国家試験	一解答・解	『説集】	平成30年7月	漢方関連問題の設問を解答・説明した。
3 教育方法・教育実践	まに関する:	発表、講演等		
The 33rd Annual Meeting International Health 20		Association for		演題:「The international training program for health professions from the Department of Pharmacy.」 内容:日本、台湾、マレーシア、モンゴル出身の薬学部学生を中心に、SGDによりアジア四国の出生率、高齢者人口割合、國の政策、民間組織、医療福祉システムなどについて比較しディスカッションを行い、発表した。
4 その他教育活動上特	寺記すべき	事項		
早期体験実習			平成26年~ 現在	早期体験薬局・病院実習の引率・指導
国際交流活動			平成26年~ 現在	本学の中国・台湾の国際交流担当
神奈川県科学技術アカデミ	ミ— • e−lea	arning漢方教育	平成26年4月~ 現在	漢方教育講師
浜薬農園活動			平成27年~ 現在	大学周辺地域市民との交流活動・漢方薬やハーブの栽培・教育活動に携わっている。
東邦大学・中医各家学説記			平成29年~現在	講師
横浜薬科大学院設立準備3	長員会		平成30年4月~ 現在	委員・準備委員長輔佐
2018年度第1回浜薬漢方セ	ミナー		平成30年5月~ 11月	講師
台湾中国医薬大学来校訪問	引・交流		平成30年7月	通訳·SGD進行担当
JST・さくらサイエンスプ 学訪問・学術交流	ログラム・	チベット医師団本	平成30年8月	通訳・連絡窓口・全般協力
瀬谷区制50周年イベント・	• 生涯学習	講座	平成30年6月	講演:「知って得する薬膳効果」

瀬谷区制50周年イベント・生涯学習講	座	平成30年6月	「薬草ウォークツアー	-]
·				
戸塚区・親子で健康わくわくフェスタ	三塚区・親子で健康わくわくフェスタ 平成30年9月		講演:「目には良い食材と体操」	
Ⅱ 研究活動				
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書)【増補新版 薬膳・漢方 食 帖】	材&食べ合わせ手	共著	平成30年7月	西東社
(著書) 【スパイス百科】		共著	平成30年1月	丸善出版
(著書) 【症候別漢方治療論 消化管	症候】	共著	平成29年6月	南山堂
(著書)【40代からの不調に悩む女性 せの本】	のための食べ合わ	共著	平成26年12月	日東書院
(論文) An updated meta-analysis of the asporin gene D-repeat in knee osteoarthritis: effects of gender and ethnicity			平成29年10月	J Orthop Surg Res.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名
(演題名) 患者指導における舌診の有	用性		平成30年9月	第35回和漢医薬学会学術大会
(演題名) 各社の加味逍遥散における	構成生薬の相違によ	くる証の検討	平成30年9月	第35回和漢医薬学会学術大会
(演題名) 甘麦大棗湯・猪苓湯・黄連解毒湯における味覚と飲みやすさの関 連性			平成30年9月	第35回和漢医薬学会学術大会
(演題名)歯科領域における漢方治療	の意識実態調査		平成30年9月	第35回和漢医薬学会学術大会
(演題名)漢方医学教育に対する薬学	生の意識調査		平成30年9月	第35回和漢医薬学会学術大会
(演題名) 医療用漢方製剤の年齢によ 響	る味覚の変化と飲み	りやすさに及ぼす影	平成30年11月	第12回日本薬局学会学術総会
(演題名) The international traini from the Department of Pharmacy.	ng program for hea	alth professions	平成30年12月	The 33rd Annual Meeting of Japan Association for International Health 2018
(演題名) 中国の薬局における薬剤師	の法的責任と医薬品	品の品質管理	平成31年3月	日本薬学会第139年回
Ⅲ 学会および社会における主な活動				
平成25年9月~現在	中国教育部・春暉こ	プロジェクト・西部	大学支援参加・学術交	流
平成26年4月~現在	神奈川県科学技術で	アカデミー (漢方)教育研修講師	
平成26年~現在	台湾語学留学引率/	薬学部における台日	日共同国際医療人材育成プログラム参加/学術交流	
平成26年~平成30年	東京大学・日中医学	学交流シンポジウム	・座長	
平成27年4月~平成29年3月	神奈川県地方創生大学連携事業 「神奈川県西部地域活性化・未病プロジェクト参加			
平成28年4月~平成29年3月	Journal of Natural Medicines 審査			
平成29年4月~平成30年3月	神奈川県県西地域大学連携事業・ウィメンズヘルスプロジェクト参加			
平成29年~現在	株式会社わかば共同	司研究・漢方教育支	援	

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 横浜薬科大学	講座名 生薬·薬用資源学研究室	職名 講師	氏名 荒木 麻由	
I 教育活動		•		
教育実践	上の主な業績	年 月 日	概要	
1 教育内容・方法のユ 薬事関係法規・制度(4年)		平成25年4月~ 平成26年9月	講義は教科書を中心に行ったが、要所要所でポイントに下線を引いたり板書を写す等手を動かして覚えることも意識した。 法律や制度については学生が実生活の中で体感的に理	
			解する機会が少ないため、実際の医療現場や製薬企業など薬剤師がかかわる実社会での実例を多く紹介し、将来的に必要となる知識であることを理解し、記憶に残るように配慮した。 国会試験にどのような形で出題されるかを意識しながら講義に臨めるように、毎週講義の内容とリンクした問題を国家試験形式で作成、配布した。先に問題に目を通してから、講義を聴く中で回答を見つけていけるように工夫した。	
医療福祉制度(5年次集中)		平成25年4月~ 平成26年9月	医療制度と福祉制度の概略、問題点等を、薬剤師として関わる(または理解しておくべき)部分を中心に講義を行った。進行はパワーポイントを中心に、教科書のほか、副教材としてプリントを作成。図表を多く用い、理解度の向上を目指した。 実習を終えた5年生が対象のため、実務実習で得た体験とリンクできるような講義を意識した。 日本の医療制度の利点と問題点を俯瞰的に理解し、興味を持ってもらうために、映像資料(映画SICKO)の一部分を使用した。	
薬剤学実習 I		平成25年4月~ 平成26年9月	補助常務、実習書作成等	
薬剤学実習 Ⅱ		平成25年4月~ 平成26年9月	主に初回面談および服薬指導を担当。型どおりの会話にならないように、実際の患者を意識した形式で面談の練習を重ねさせ、具体例を挙げて助言した。実極の終盤に行う評価では、必ず自分が患者役になり、極力多くのパターンの患者として学生と面談し、学生が自分で考えて判薬理作用、病理・病態をのポイントを当がながら、グループ内の学生にあるを評価させることで、学生が主体的に他教科で得た知識を総合的に結びつけた思考ができるように心がけた。	
実務実習プレ教育(オムニ	ニバス)	平成25年4月~ 平成27年3月	主任担当の鷲見教授を補佐し、全体の調整、成績管理、資料作成、一部の講義、SGD(メインチューター他)などを担当。実務実習に出る前に必要な知識および態度を整えることを主眼に、実務的な講義およびSGDをつった。 担当した講義や課題は薬理・病態・薬物治療・医療コミュニケーションなど4年次までに学習した内容を有機的に結び付けること、および実務における即戦知識とするため、極力新しい知見を盛り込むことを重視した。特にSGDを定期的に行うことで、実務上起こりうるケースに対する問題解決能力を向上させること、自分で考え、周囲と協調する訓練をすることを心がけた。	
実務実習ポスト教育(SGD	、ポスター発表)	平成25年4月~ 平成27年3月	SGDのチューターなどを担当。	
2 作成した教科書、教 薬事関係法規・制度 講義		平成25年4月~ 平成27年3月	講義は概ね教科書を使用したが、文面だけではポイントが掴みづらかったり体系的に理解が難しい箇所を中心に補助資料を作成し、補足説明や要点まとめをなるべく覚えやすいように図や表としてプリントで配布した。	

		平成25年4月~ 平成27年3月	た。また、理解を深め 資料を作成した。特に するため、特に医療制	-ポイントをプリントし配布し うるために図表を多く用いた補助 -薬剤師として必要な項目を補強 ・関度、保険制度、在宅業務に関し
薬剤学実習 I 実習書 薬剤学実習 I 実習書 実務実習プレ教育 講義資料およびSGD課題・解説資料		平成25年4月~ 平成27年3月 平成25年4月~ 平成27年3月	容がSGDにおける問題	系に即した課題を作成。講義の内 解決の鍵になるよう対応させて、
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 鎌倉薬剤師会 学術研究会		平成26年6月	指導を行った。 大学における実務教育の概要を、地域の薬剤師に向けて紹介することを主眼とした発表を行った。	
4 その他教育活動上特記すべき事 早期体験学習(1年次後期)	項	平成25年度 平成26年度	る。病院/薬局への引	剤師が働く現場を見学・体験す 率を担当。行く前に心構えとポ チ、ぼんやり過ごさないよう指導
Ⅱ 研究活動			l	
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) 第102回 薬剤師国家試験-解	答・解説集一	共著	平成30年7月	横浜薬科大学
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動				
平成25年4月~平成27年3月 JC-GSHR 国際学校保健コンソーシアム			事務局	
平成25年4月~平成27年3月 NGO メータオクリニック支援の会 (JA			M) 事務局	
平成25年4月~平成27年3月 国際保健学会会員				
平成26年4月~平成27年3月	旭中央病院倫理委員	員会 外部委員		
平成26年4月~平成27年3月	神奈川県薬剤師会	教育・研修委員		

教育および研究活動の業績一覧					
大学名 横浜薬科大学 講座名 医薬品化学研究室	職名 講師	氏名	奥野 義規		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績	年 月 日		概要		
1 教育内容・方法の工夫					
化学系実習2(2年)	平成25年5月~ 現在	ロ頭試問を実施し、写よう工夫をおこなって	実験を理解し段階的に進行できる こいる。		
社会薬学2(2年)	平成29年4月~ 現在	ふさわしい行動、薬剤 全、薬剤師に求められ ン、多職種連携、人と	図(SGD)型で行い、医療人として 別師の果たすべき役割、患者安 れる倫理観、コミュニケーショ 土社会に係る薬剤師のあり方、自 こついて、主に学生参加型の授業		
2 作成した教科書、教材、参考書					
基礎化学講座(1年)		構造式やイメージ図な	寺の講義資料を作成。多数の化学 など板書では表し難い場合や、問 イントによるスライドの資料な		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 日本薬学会 第138回年会	平成30年3月	「効果的な学習パフォーマンスを目指したデュアル! 業の成果」について発表した。			
第25回大学教育研究フォーラム	平成31年3月	「効果的な学習パフォ 業の成果」について多	トーマンスを目指したデュアル授 発表した。		
4 その他教育活動上特記すべき事項					
Ⅱ 研究活動					
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称		
(論文) Modified Yamaguchi Reagent: Convenient and Efficient Esterification	共著	平成26年4月	Synthetic Commun, 44, 19, 2854-2860		
(論文) Dimethylaminopyridine-Supported Graft Polymer Catalyst and its Flow System	共著	平成27年6月	ChemSusChem, 8, 10, 1711-1715		
(論文) Convenient and Simple Esterification in Continuous Flow Systems using g -DMAP	共著	平成27年11月	ChemSusChem 8, 21, 3587–3589		
(論文) Green Synthesis of 1,4-Dihydropyridine Derivative in Water	共著	平成30年3月	ChemistrySelect 3, 3003–3005		
(論文) Triphasic Continuous - Flow Oxidation System for Alcohols Utilizing Graft - Polymer - Supported TEMPO	共著	平成30年4月	Asian Journal of Organic Chemistry 7, 6, 1071-1074		
2. 学会発表(評価対象年度のみ)	l	発表年・月	学会名		
(演題名)グラフト重合法を利用した布上における新規不斉反応場の開発		平成30年6月	第17回新規素材探索研究会 (横浜)		
(演題名) 水中での1,4-ジヒドロピリジン誘導体の合成とそのサーチュイン活性評価		平成30年11月	第36回メディシナルケミスト リーシンポジウム (京都)		
(演題名) 自己促進型ハイブリッド触媒担持高分子の設良ステムを利用した不斉アルドール反応への展開	計・合成とフローシ	平成30年11月	第44回反応と合成の進歩シンポ ジウム(熊本)		
(演題名)多機能固定化を目的としたグラフト型高分子 反応	触媒の開発とフロー	平成31年3月	日本薬学会第139年会(千葉)		

Ⅲ 学会および社会における主な活動					
平成15年~	日本薬学会会員				
平成28年~	フロー・マイクロ合成研究会				
平成28年~	近畿化学協会会員				
平成29年3月	ChmeistrySelect 論文審査				
平成29年11月	Chem. Pharm. Bull 論文審査				
平成30年~	高分子化学会会員				

教育および研究活動の業績一覧												
大学名 横浜薬科大学 講座名 薬学教育センター 職名			職名	講師		氏名		鈴木	保博			
I 教育活動												
教育実践	上の主な業績	長	年	月	日			概	要			
1 教育内容・方法のエ	夫											
運動療法概論(3年次前期)			平成2 現在	8年4月	~	講義内容は、 態学」、で につった。 行っても他の た。	t化学」 gを兼ね タボリッ	、「細脂 て、日常 ノクシン	包生物学 常生活と ドロー	」など 結びつ ムや生活	の基本知識 けて講義を 舌習慣病に関	ŧ
運動生理学(1年次前期)			平成2 現在	9年4月	~	講義内容は、 学」、「常生/ を、日常などの では で で で で で で で で で で で で は 病 な に は が は で は で は で は で は う に う に う に う に う に う に う に う に う に う	ヒ学」、 舌の運動 の話題も	「細胞生	E物学」 Oけて講	などの 義を行	基本知識 った。 生活	
創薬化学特論(4年次前期ス	ナムニバス 1	コマ)	平成2	6年7月 7年7月 8年7月		「化粧品の別話題として、 り上げ、実別	日焼け.	止め商品	品や美白	商品の	具体例を取	
2 作成した教科書、教	材、参考書											
講義資料			平成2 現在	8年4月	~	パワーポイン を用いて、オ は、カラー版	つかりや	すくエヺ	もした。			,
	に関する発	表、講演等										
4 その他教育活動上特	記すべき事											
早期体験学習(1年次後期)				9年10月 0年10月	_	薬局(鎌倉市) 化粧品会社の研究所(戸塚区) 薬局(横浜市旭区) 化粧品健康食品会社の研究所(戸塚区)						
Ⅱ 研究活動			•			•						
1. 著書・論文等の名称		į	単著・ 共著の5		発行または発 年月(西暦			発行所 (巻・号	析、発表 号数)等	長雑誌 等の名称		
(著書) 第103回 薬剤師国家試験-解答・解説集-				共著		平成30年7月		横浜薬	科大学	国試	対策室	
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)				発表年	・月			学会名				
Ⅲ 学会および社会におけ	る主な活動											_

	教育および研究活動の業績一覧						
大学名 横浜薬科大学 講座名 遵		職名	講師	氏名	髙橋 哲史		
I 教育活動							
教育実践上の主な業	績	年	月日		概要		
1 教育内容・方法の工夫							
化学系実習1(2年)		平成2 [°] 現在	7年4月~	ようにし、実験デー	によりなるべく全員が実験を行う タの分析と口頭試問による実験内 る。また、レポート提出と筆記試 確認を行っている。		
2 作成した教科書、教材、参考書	:						
3 教育方法・教育実践に関する発	表、講演等						
4 その他教育活動上特記すべき事	項						
Ⅱ 研究活動							
1. 著書・論文等の名称			単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称		
(論文) Musashi-1 post-transcriptionally enhances phosphotyrosine-binding domain-containing m-Numb protein expression in regenerating gastric mucosa.			共著	2013年1月	PloS one vol. 8 No. 3		
(論文) New pharmaceutical treatm MALT lymphoma: anti-angiogenesis VEGF receptor antibodies and celec	reatment using		共著	2014年2月	Current pharmaceutical design vol. 20 No. 7		
(著書) A highly susceptible CD46 model of subcutaneous infection w dysgalactiae subspecies equisimil	th Streptococcus		共著	2016年4月	Journal of infection and chemotherapy vol. 22 No. 4		
(著書)Narrow-spectrum inhibitors alternative menaquinone biosynthe Helicobacter pylori.			共著	2016年9月	Journal of infection and chemotherapy vol. 22 No. 9		
(論文)Protective efficacy of a H acid against gastric Helicobacter			共著	2017年8月	Helicobacter vol. 22 No. 6		
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)				発表年・月	学会名		
(演題名)膵臓がん細胞におけるNuml	 依存的分子制御機 	構の解材	—— <u>———</u> 折	2018年5月	第36回サイトプロテクション研究 会		
(演題名) 前立腺幹細胞抗原 (PSCA) プロモーターのハス活性			イプと転写	2018年12月	第46回日本潰瘍学会		
Ⅲ 学会および社会における主な活動							
	日本潰瘍学会評議員						
平成21年11月~現在	日本潰瘍学会評議	~					
平成21年11月~現在 平成25年3月	日本潰瘍学会評議! 第31回サイトプロ・		ョン研究会事	事務局			

教育および研究活動の業績一覧						
大学名 横浜薬科大学	講座名 薬学教育センター	職名 助教	氏名 市川 裕樹			
I 教育活動						
教育実践	上の主な業績	年 月 日	概要			
1 教育内容・方法のエ	夫					
薬学英語2(2年次オムニ	ン バス)	平成30年4月~ 現在10月	英語に苦手意識を持っている学生が多い為、スライドをカラフルにし、学生に馴染み易いよう心がけている。講義の最初に小テスト、途中に課題に取り組ませることで、科学英語を訳す上での重要ポイントや調べ方などの効率的な伝達を心がけた。			
物理系実習 1 (2年次前期))	平成30年4月~ 現在	分析化学の実験指導と講義を行っている。1クール100名を超える学生を4クール体制で、実習手順を伝達し事故もなく実験を行ってきた。実験終了後は口頭試問を行うことで、知識の定着を促した。			
化学系実習 2 (2年次後期))	平成30年9月~ 現在	有機化学、分析化学に関する実験指導及び講義を行っている。危険試薬の取り扱いや実験手技については実際にデモを交えながら行った。学生が躓きやすい、立体化学については、分子模型を用いた実習からフォローするように勤めている。			
薬剤学実習 4 (4年次前期)		平成30年12月	OSCEに関する実習。計量調剤の実技指導を担当した。 各指導員によって手技に多少の差異がある為、学生に とって一番ミスの少ない方法はどれなのか、学生とと もに考え、効率よい上達を促した。			
2 作成した教科書、教	材、参考書					
薬学英語 2 講義資料		平成30年4月	科学英語に取り組むにあたり、最低限の知識(自身の 所属(学校名、学科など)や論文の構成など)が得ら れるよう、講義内課題を作成した。			
物理系実習 1 講義資料		平成30年4月	2年次の学生のレベルは一様ではなく、小中高校で習 うべき科学的知識が不足するものも多い。そこで、高 校範囲の化学の知識の復習を含めた講義資料を作成 し、学生の理解を促している。			
3 教育方法・教育実践	に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特	記すべき事項					
有機化学を勉強する会		平成30年4月~ 現在	有機化学を中心とした自習室兼個別指導を実施した。 有機化学の教科書にはない知識などについても触れる ことで興味を持たせ、特に有機化学を苦手としている 学生の成績向上を目指している。			
模擬患者養成講習会		平成30年12月	4年次共用試験OSCEを実施する際に必要な模擬患者の養成について、在学生と利害関係のない地元住民に対して行った。			
早期体験学習		平成30年10月~ 12月	病院での早期体験実習の引率を行った。引率の前には、メールを通じて学生に事前準備事項の伝達や、質問の仕方などを伝達し、効率のよい実習の実施を心がけた。また、薬剤師としての人格形成の為、移動中の立ち振る舞いや身だしなみなども指導した。更に実習前後はSGDにより学生の評価をおこなった。			

Ⅱ 研究活動					
1. 著書・論文等の名称 単著・ 共著の別			発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(論文) Improvement in aqueous solul retinoic acid receptor (RAR) agonis the molecular structure.	共著	平成28年8月	Chem. Asian J. Vol.5 No.11		
(著書)第103回 薬剤師国家試験 解答・解説書 共			平成30年7月	横浜薬科大学 国試対策室	
2. 学会発表(評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名	
(演題名)分子構造を幾何学的非対称と 性向上策	: する化学修飾を用	引いた低分子の水溶	平成30年6月	第13回ケミカルバイオロジー学 会	
Ⅲ 学会および社会における主な活動					
平成26年2月~現在	日本薬学会会員				
平成30年8月	高大連携講義 横浜清風高校				
平成30年7月~9月	薬物乱用防止キャンペーン in 横浜				
平成30年10月	学園祭特別企画 フィジカルアセスメント講習				

	教育および研究活動の業績一覧						
大学名 横浜薬科大学	講座名 薬品反応学研究室	職名 助教	氏名	伊藤 陽一			
I 教育活動		•					
教育実践	上の主な業績	年 月 日		概 要			
1 教育内容・方法のエ	夫						
化学補習講義 生物系実習 I (2年生)		平成25年4月~ 平成25年7月 平成25年4月~	名に対して、高校化学 験を全11回行った。	いて成績不良者及び自由参加者241 学・大学初頭化学の補習講義、試 な生物の基礎知識を実習にて提供			
衛生系実習 (3年生)		現在 平成25年7月~ 現在	した。 大学薬学教育に必要が した。	な衛生の基礎知識を実習にて提供			
2 作成した教科書、教 第98回薬剤師国家試験 - 第99回薬剤師国家試験 -	解答・解説集ー	平成25年6月 平成26年9月	分担執筆及び全域の紹 分担執筆及び全域の紹				
第100回薬剤師国家試験 -		平成20年9月 平成27年7月	分担執筆及び全域の編 分担執筆及び全域の編				
第101回薬剤師国家試験 -		平成28年11月	分担執筆及び全域の編集				
第102回薬剤師国家試験 - 第103回薬剤師国家試験 -		平成29年11月 平成30年7月	分担執筆及び全域の組 分担執筆及び全域の組 の				
	に関する発表、講演等	T)\$30477	ガ15 秋羊及び主域V/I	州大			
4 その他教育活動上特	記すべき事項						
FD研修会		平成27年度~ 現在	本学で開催されているFD研修会に参加し、平成28年8月には1泊2日の軽井沢研修に参加した。				
Ⅱ 研究活動							
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称			
(論文) Specificity of F Oxidative Stress Respons Facultative Anaerobic Ar volcanium.	se Gene Promoter in the	共著	2014年	Biol. Pharm. Bull. 37(3) 481-485, 2014.			
(論文) Palladium(I)Bis(oxazoline)Complexes that Catalyze the Hydration of Alkynes		共著	2017年	Asian J. Org. Chem. 2017, 6, 1086-1090			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名			
(演題名)プロパルギルア グラミニンAの全合成	セテートの不斉環化-カルボニ	ニル化を基盤とした	平成30年9月	第48回複素環化学討論会			
Ⅲ 学会および社会における主な活動							
	<u> </u>						

教育および研究活動の業績一覧							
大学名 横浜薬科大学 講座名 漢方薬物学研究室		職名 助教	氏名	亀卦川	真美		
I 教育活動							
教育実践上の主な業	績	年 月 日		概	要		
1 教育内容・方法の工夫							
薬剤学実習 1 (品質試験)		平成25年4月~ 現在	錠剤に関して溶出試ト。	験などを	実施またはシミュレー		
薬剤学実習 2 (調剤系実習)		平成27年4月~ 現在	散剤、水剤、軟膏剤	、計数の記	調剤を実施。		
他、学生実習3件							
2 作成した教科書、教材、参考書							
薬剤学実習 1 実習書2018 		平成26年4月~	実習の指導に用いる	0			
薬剤学実習2 実習書2018		平成27年8月~	実習の指導に用いる	0			
3 教育方法・教育実践に関する発	表、講演等						
国際交流委員会における台湾留学生の	SGD実施	平成29年11月24日	第32回日本国際保健	医療学会			
国際交流委員会における台湾留学生の	SGD実施	平成30年12月1日	第33回日本国際保健	第33回日本国際保健医療学会			
4 その他教育活動上特記すべき事	項						
0SCE試験担当		平成25年4月~	OSCE試験に関する評価者講習会、学生教育など				
OSCE試験ST責任者		平成27年4月~	OSCE試験に関する試	OSCE試験に関する試験実施、評価者講習会など			
Ⅱ 研究活動							
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)		発行所、発表雑誌 巻・号数)等の名称		
2. 学会発表(評価対象年度のみ)			発表年・月		学会名		
(演題名) 歯科領域における漢方治療	の音識室能調杏		2018年9月	和漢字	学云句 薬学会学術大会		
(演題名) 圏谷原域における戻り名原 (演題名) 各社の構成生薬や含有量の		全計 他?件	2018年9月		紫子云子顺入云 		
Ⅲ 学会および社会における主な活動		×H1. IEVIT	2010407	和庆区	长于五丁则八五		
平成24年4月~平成29年3月 医療薬学会会員、日本薬学会会員							
平成29年3月~							
平成29年8月	瀬谷こども大学 浮	実施					
	公文国際高等学校S	GD、台湾学生SGD	実施など				

教育法勤	教育および研究活動の業績一覧						
教育実践上の主な業績	大学名 横浜薬科大学	講座名 薬学教育	センター	職名 助教	氏名	村上を綾	
1 教育内容・方法の工夫 化学系美習 I (2年次前期) 平成30年4月~ 現在 平成30年4月~ 現在 平成30年4月~ 現在 平成30年10月~ 現在 平成30年10月~ 現在 平成30年10月~ 現在 平成30年10月~ 現在 平成30年10月~ 現在 上ントとなる資料を作成して指示することで、理解と自主性を促す指象を心制でする。とうに考解には、よいでは対象の表が表数が密報できるよう。イメージしやすい具体例を示しながら指数を引き合えら、スタニューストーーに計算等の誤りがある場合は、説明あらいは解き直しつしたントを加重している。また、実でしたデモリの最近に積化している。また、安にした解析・必要だっメントを加重している。また、安にした解析・必要だっメントを加重している。また、安にした解析・必要だっメントを加重している。また、安にしたが可能したのようがあないよう。現在している。また、安にした解析・必要だっメントを加重している。また、安にしたに解析・必要だっメントを加重している。また、安にしたに解析・必要だっメントを加重している。また、安にしたに解析・必要だっメントを加重している。また、安にしたに解析・必要だっないまり、学生ならからなからなからなからなからはからないまり、学生ならかにが政策としている。また、安にしたに対している。また、安にしたに解析・必要だった。学生にひよう知識したしている。また、安にしたに解析・必要だった。学生においるのは経験に対して、理解を知識を無力ののようにより、ではしている。また、安にしているがらなからはからなからなからなからなからなからなからなからなからなからなからなからなからなか	I 教育活動	1		I			
#空生にとって大学でのお助べつ東晋であるため、円頂在	教育実践	上の主な業績		年 月 日		概要	
現在 に実習が行えるよう。戸惑っている学生に経験に対したのままま、日本語の自身性性を行うよう配便についる。また、現実における予知の要性性の意図を推断するだけでなく、実質における予知の要性性の意図を推断するだけでなく、実質における予知の要性性の意図を推断するだけでなく、実質における予知の要性性を行うまう配便に対し、あらかじめません。人を美勢の部間できるよう、イメージしたい。 また、以下に計算等の説別がある機能は、説明あらいは解や音配のレントを加重している。さらに考解には、動いで終り、したが高ないよう。また、以下に計算等の説別がある機能は、説明あらいは解や音配のレントを加重している。さらに考解には、動いで終り、したが高ならなられます。大きに対している。このに考解には、動いで終り、したが高ならなられます。大きに対している。このに考解には、動いで終り、したが表している。このに考解には、動いで終り、しているのは、説明あらいは解や音とのというに指揮的に伝え、より伸ばせるよう配慮している。とのに考解に対している。このに考解に対している。このに考解に対している。このに考察に対している。このでは実施に対している。このでは実施に対している。このでは実施に対している。このでは実施に対している。このでは実施に対している。このでは実施に対している。このでは実施に対している。このでは実施に対している。このでは実施に対していまりをは対していまりを発表しました。実施に対して、実体をと出生実施的の方にお願しいて、まりや音とが表もかいと対していまりでは、ように関していまりを表もがいとがあられているがらなかったものの、していまりでは、ように関していまりをといました。このでは実施に対して、要素をと出生実施的の方にお願して、ように関していまりが考えていまりでは、実施と対して、またとないましていましていましていまない。また、以下に対していまないまないまない。また、以下に対している。このではないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまな	1 教育内容・方法のコ	C夫					
現在 に	化学系実習 I (2年次前期)			に実習が行えるよう、 掛けを行うよう配慮 の意図を理解するだり 要性やあるべき姿勢が	、戸惑っている学生に積極的に声している。また、実習内容や操作けでなく、実習における予習の必が習得できるよう、イメージしや	
性 6件 2 作成した教科書、教材、参考書 物理学実習 I 実習資料 平成30年10月~ 現在 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 4 その他教育活動上特記すべき事項 早期体験学習(1年次後期) 平成30年10月~ 現在 日本変の共用試験505年2歳におけて、評価者への直前間会会をよう。質問としてもがらなかったものの、ぜひ見では、見字させ頂くよう配産して、「見字させ頂くよう配産して、「見字させ頂くよう配産して、「見字させ頂くよう配産して、「見字させ頂くよう配産して、「見字させ頂くよう配産して、「見字させ頂くよう配産して、「見字させ頂くよう配産して、「見字させ頂くよう配産して、「見字させ頂くよう配産して、「見字させ頂くよう配産して、「見字させ頂くよう配産して、「見字させ頂くよう配産して、「見字させ頂くよう配産して、「見字させ頂くよう配産して、「見字させ頂くよう配産して、「見字させ頂くよう配産して、「見字させ頂くよう配産して、「見ずる工場」では、見事を行った。学生役をいくつかロールプレイし、評価者を行った。学生役をいくつかロールプレイし、評価者を行った。学生役をいくつかロールプレイし、評価者を行った。学生役をいくつかロールプレイし、評価者の方がイメージしやすいよう努めた。 1 著書・論文等の名称 単著・ 共著の別 年著・日西暦でも可) 第・号数)等の名称 第・号数)等の名称 第・日本の方が「メーシ」とやすいよう努めた。 第・行所、発表雑誌 年月 (議文) 目は自とせては自l Impedance Analysis (BIA) of the association of the Japanese Kampo concept Suidoku (「Gliud disturbance) and the body composition of women. (論文) 目は自とせては自l Impedance Analysis (BIA) of the association of the Japanese Kampo concept 共著 2016年8月 2016年8月 WAKUGAKU ZASSHI. (2016) 136:12: pp.1667-1674. (論文) Bioletrical Impedance Analysis (BIA) of the association of the Japanese Kampo concept 共著 2016年8月 2016年8月 WAKUGAKU ZASSHI. (2016) 136:12: pp.1667-1674. (論文) Bioletrical Impedance Analysis (BIA) of the association of the Bupleuri Radix (saiko) の研りまでは、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は、「は	物理系実習Ⅱ(2年次後期)			ヒントとなる資料を付自主性を促すがある。 自主性を促すがあるがました。 はいかでは、 はいたないがでいた。 はいたない。 はいたない。 はいたない。 はいたない。 はいたない。 はいたない。 はいたない。 はいたない。 はいたない。 はいたない。 はいたない。 はいたない。 はいがいた。 といがいた。 といがい。 といが、 といが、 といが、 といが、 といが、 といが、 といが、 といが、	作成して掲示することで、理解と 心掛けている。また、レポートに 場合は、説明あるいは解き直しの る。さらに考察には、書いて終わ 学生に応じた添削・必要なコメン 書き方と考え方が確実に身につけ いる。また、気づいた学生の長所		
***********************************	他 6件					, m	
現在		数材、参考書 2					
4 その他教育活動上特記すべき事項 平成30年10月~ 現在 薬局訪問の引率を行った。学生にとって有益な時間となるよう、質問としてあがらなかったものの、ぜひ見でほしい内容は、最後に担当薬剤師の方にお願いして、見学させて頂くよう配慮した。 OSCE評価者直前講習会 平成30年12月~ 現在 4年次の共用試験OSCE実施にむけて、評価者への直前記 音会を行った。学生役をいくつかロールプレイし、評価者の方がイメージしやすいよう努めた。 I 研究活動 単著・ 発行または発表の年月(西暦でも可) (巻・ 受数)等の名称 (論文) Effect of patient education for diabetic outpatients by a hospital pharmacist: a retrospective study. 大著の別 年月(西暦でも可) (巻・号数)等の名称 (第2)16年8月 (36:12: pp. 1667–1674. (論文) Bioelectrical Impedance Analysis (BIA) of the association of the Japanese Kampo concept "Suidoku" (fluid disturbance) and the body composition of women. 共著 (2016年11月 Alternative Medicine (2016) 16:405: pp. 1-9. (論文) Heart Rate Variability as a Predictor of the Effectiveness of the Bupleuri Radix (saiko) contained in Kampo Medicines. 共著 (2016年12月 根浜薬科大学 国師対策室 2. 学会発表 (評価対象年度のみ) 2016年12月 根浜薬科大学 国師対策室 学会名 (清麗名) 瘀血診断客観化を目的とした舌画像解析システムの有用性の検討 平成30年9月 第35回 和漢医薬学会学術大会 学会および社会における主な活動 中成26年~現在 日本薬学会 会員 中本薬学会 会員	物理学実習Ⅱ 実習資料				細な操作や測定結果のする考え方のヒント	の読み取り方、あるいは課題に対 等をあらかじめ資料として作成	
早期体験学習(1年次後期)	3 教育方法・教育実践	桟に関する発表、講	演等				
現在 なるよう、質問としてあがらなかったものの、ぜひ見てほしい内容は、最後に担当薬剤師の方にお願いして、見学させて頂くよう配慮した。	4 その他教育活動上特	寺記すべき事項					
現在 習会を行った。学生役をいくつかロールプレイし、評価者の方がイメージしやすいよう努めた。 I 研究活動 1. 著書・論文等の名称 単著・	早期体験学習(1年次後期)			なるよう、質問としてほしい内容は、最	てあがらなかったものの、ぜひ見 後に担当薬剤師の方にお願いし	
1. 著書・論文等の名称 単著・ 共著の別 年月(西暦でも可) 発行または発表の (論文)Effect of patient education for diabetic outpatients by a hospital pharmacist: a retrospective study. (論文)Bioelectrical Impedance Analysis (BIA) of the association of the Japanese Kampo concept "Suidoku" (fluid disturbance) and the body composition of women. (論文)Heart Rate Variability as a Predictor of the Effectiveness of the Bupleuri Radix (saiko) contained in Kampo Medicines. (著書)第103回 薬剤師国家試験一解答・解説集一 共著 2018年7月 横浜薬科大学 国師対策室 2・学会発表(評価対象年度のみ) 発表年・月 学会名 (演題名)瘀血診断客観化を目的とした舌画像解析システムの有用性の検討 平成30年9月 第35回 和漢医薬学会学術大会 平成26年~現在 日本薬学会 会員	OSCE評価者直前講習会 他1件				4年次の共用試験OSCE実施にむけて、評価者への直前講習会を行った。学生役をいくつかロールプレイし、評価者の方がイメージしやすいよう努めた。		
#著の別 年月(西暦でも可) (巻・号数)等の名称 (論文)Effect of patient education for diabetic outpatients by a hospital pharmacist: a retrospective study. (論文)Bioelectrical Impedance Analysis (BIA) of the association of the Japanese Kampo concept "Suidoku" (fluid disturbance) and the body composition of women. (論文)Heart Rate Variability as a Predictor of the Effectiveness of the Bupleuri Radix (saiko) contained in Kampo Medicines. (著書)第103回 薬剤師国家試験一解答・解説集一 共著 2018年7月 横浜薬科大学 国師対策室 2. 学会発表(評価対象年度のみ) 発表年・月 学会名 (演題名)瘀血診断客観化を目的とした舌画像解析システムの有用性の検討 平成30年9月 第35回 和漢医薬学会学術大会 甲成26年~現在 日本薬学会 会員	Ⅱ 研究活動						
大著 2016年8月 YAKUGAKU ZASSHI. (2016) 136:12: pp. 1667-1674. (論文) Bioelectrical Impedance Analysis (BIA) of the association of the Japanese Kampo concept "Suidoku" (fluid disturbance) and the body composition of women. 大著 2016年11月 BMC Complementary and Alternative Medicine (2016) 16:405: pp. 1-9. Research & Reviews in Pharma and Pharmaceutical Sciences (2016) 5:4: pp. 1-9. (藩書) 第103回 薬剤師国家試験一解答・解説集一 共著 2018年7月 横浜薬科大学 国師対策室 2018年7月 学会名 (演題名) 瘀血診断客観化を目的とした舌画像解析システムの有用性の検討 平成30年9月 第35回 和漢医薬学会学術大会 甲成26年~現在 日本薬学会 会員	1. 著書・論文等の名称						
the association of the Japanese Kampo concept "Suidoku" (fluid disturbance) and the body composition of women. (論文) Heart Rate Variability as a Predictor of the Effectiveness of the Bupleuri Radix (saiko) contained in Kampo Medicines. (著書) 第103回 薬剤師国家試験一解答・解説集一 共著 2018年7月 横浜薬科大学 国師対策室 2. 学会発表 (評価対象年度のみ) 発表年・月 学会名 (演題名) 瘀血診断客観化を目的とした舌画像解析システムの有用性の検討 平成30年9月 第35回 和漢医薬学会学術大会 甲成26年~現在 日本薬学会 会員	14		diabetic	共著	2016年8月		
the Effectiveness of the Bupleuri Radix (saiko) contained in Kampo Medicines.共著2016年12月and Pharmaceutical Sciences (2016) 5:4; pp. 1-8.(著書)第103回 薬剤師国家試験一解答・解説集一共著2018年7月横浜薬科大学 国師対策室2. 学会発表 (評価対象年度のみ)発表年・月学会名(演題名) 瘀血診断客観化を目的とした舌画像解析システムの有用性の検討 学会および社会における主な活動平成30年9月第35回 和漢医薬学会学術大会平成26年~現在日本薬学会 会員	the association of the Japanese Kampo concept		共著	2016年11月	Alternative Medicine (2016)		
2. 学会発表 (評価対象年度のみ) 発表年・月 学会名 (演題名) 瘀血診断客観化を目的とした舌画像解析システムの有用性の検討 平成30年9月 第35回 和漢医薬学会学術大会	(論文) Heart Rate Variability as a Predictor of the Effectiveness of the Bupleuri Radix (saiko) contained in Kampo Medicines.		共著	2016年12月			
(演題名) 瘀血診断客観化を目的とした舌画像解析システムの有用性の検討 平成30年9月 第35回 和漢医薬学会学術大会	(著書) 第103回 薬剤師国家試験-解答・解説集-			共著	2018年7月	横浜薬科大学 国師対策室	
Ⅲ 学会および社会における主な活動平成26年~現在日本薬学会 会員	2. 学会発表 (評価対象年度のみ)				発表年・月	学会名	
平成26年~現在 日本薬学会 会員	(演題名)瘀血診断客観化	上を目的とした舌画	像解析システ	テムの有用性の検討	平成30年9月	第35回 和漢医薬学会学術大会	
	Ⅲ 学会および社会におけ	ける主な活動			ļ.	·L	
平成30年7月~現在 薬物乱用防止キャンペーン in 横浜	平成26年~現在 日本薬学会 会員						
	平成30年7月~現在	薬物乱	用防止キャ	ンペーン in 横浜			

教育および研究活動の業績一覧						
大学名 横浜薬科大学 講座名 薬学教育センター	職名 教授	氏名 石井 邦雄				
I 教育活動						
教育実践上の主な業績	年 月 日	概要				
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 薬理学Ⅲ(3年)	平成24~27年10月	教科書に記述されている内容のより深い理解を促すため、科学論文に掲載されているデータを基に独自に作成したプリントを配付し、論理的な解説を試みた。				
医薬品安全性学 I (4年)	平成24~28年3月	重要な医薬品の有害事象を薬理学の視点から解き明かす という理念に基づき、独自のテキストを作成して明快な 解説を行った。				
薬理学実習Ⅱ(3年)	平成24~27年10月	臨床で繁用されている医薬品を取り上げ、その薬理作用を臨場感をもって体験できるよう動物実験の内容を工夫するとともに、3Rの推進のため、コンピューター・シミュレーション実験を導入した。				
薬学概論(1年)	平成28年4~7月	薬学部に入学した新入生に対して、薬剤師の仕事の現状 と将来、薬学を学ぶことの意義等について、各界の有識 者によるオムニバス方式で分かりやすく入門教育を行っ た。				
2 作成した教科書、教材、参考書						
薬理学実習 II テキスト 北里大学薬学部分子薬理学教室(東京)	平成24~27年7月	3年次後期に開講される「薬理学実習Ⅱ」のの実施に必要な実験方法、観察の仕方、考察の進め方等について記述した実習書を毎年作成し、必要に応じて改訂を行っている。				
医薬品安全性学 I テキスト 北里大学薬学部分子薬理学教室(東京)	平成24~27年9月	3年次後期に開講される「医薬品安全性学 I 」の講義用 教科書を毎年独自に作成し、必要に応じて改訂を行って いる。				
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)						
北里大学高等教育開発センター長として、以下の講演会 を主催した。						
第10回北里大学高等教育センター講演会	平成25年11月7日	テーマ「My teaching をどのようにデザインし改善する か 一授業評価の有効な活用方法とは一」				
第11回北里大学高等教育センター講演会	平成27年2月27日	テーマ「学生の学ぶ意欲を引き出すのはあなた! ~ 教える側が見逃していること ~」				
第12回北里大学高等教育センター講演会	平成27年9月30日	テーマ「改めて「学生による授業評価」を考える ~ より良い活用のために ~」				
他1件 北里大学高等教育開発センター長として、以下の研修会 に参画した。						
平成26年度北里大学新任教員研修	平成26年8月6~ 7日	目的:本学教員としての使命と役割を理解し、教員としての基本的な技能・態度を身につける。				
平成27年度北里大学新任教員研修	平成27年8月4~ 5日					
北里大学高等教育開発センター長として、以下の講習会 を実施した。						
平成25年度Moodle講習会	平成26年2月26日	インターネットを利用した教育支援システムである Moodle の、初心者に向けた基礎的な講習会を行った。				
平成26年度Moodle講習会	平成27年3月24日					
平成27年度Moodle講習会	平成28年3月7日					

Ⅱ 研究活動						
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称			
(著書) 第5章 心臓・血管系に作用す	する薬物	単著	2013年9月	パートナー薬理学 改訂第 2 版、 南江堂(東京)		
(著書)はじめの一歩のイラスト薬理	学	単著	2013年12月	羊土社 (東京)		
(論文) Apelin-36 is protective a D-aspartic-acid-induced retinal ga in the mice.		共著	2016年8月	Eur J Pharmacol. 791		
(論文) Stimulation of μ -opioid r retinal arterioles by neuronal nit synthase-derived nitric oxide in r	共著	2017年5月	Eur J Pharmacol. 803			
(論文) Opioid receptor activation neuroprotection induced by TRPV1 c against excitotoxicity in the rat	共著	2017年10月	Eur J Pharmacol. 812			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名		
(演題名)The international traini from the Department of Pharmacy.	ng program for hea	Ith professions	2018年12月	第33回日本国際保健医療学会年会		
Ⅲ 学会および社会における主な活動			•			
昭和57年4月~平成28年3月	日本薬理学会評議員	・学術評議員・代	議員			
平成20年4月~現在	環境省非食用農作物	物専用農薬安全性評	価検討会専門委員			
平成20年4月~平成27年3月	独立行政法人日本学	学術振興会科学研究	費委員会専門委員			
平成23年4月~平成26年4月	厚生労働省医道審請	議会薬剤師分科会薬	剤師国家試験事後評価	部会薬理学専門委員		
平成24年4月~平成26年3月	日本薬理学会常務理事・財務委員長					
平成24年10月~現在	内閣府食品安全委員会添加物専門調査会専門委員					
平成27年4月~平成28年3月	日本薬理学会第89回	日本薬理学会第89回年会長				
平成28年3月~現在	日本薬理学会名誉会	 : : :				

教育および研究活動の業績一覧					
	講座名 機能形態学研究	室 職名 教授	氏名 黒岩 美枝		
I 教育活動	1				
教育実践	美上の主な業績	年 月 日	概要		
1 教育内容・方法のご	 L夫				
機能形態学Ⅱ(2年生前期)	平成25年4月~ 7月	授業の初日に到達目標を提示し、講義内容を明確に設定している。講義に用いる図は、医学部の解剖学や組織学のテキストから抜粋したものをトレースし、名称		
機能形態学Ⅱ(1年生後期 (カリキュラムの改訂に。		平成25年10月~ 1月	などを再記載して見やすくしている。人体の基本構造 や微細な形態まで理解を深めることが出来るように工 夫している。講義中には、薬理学、病態生理・薬物治		
機能形態学3(2年次前期 (カリキュラムの改訂に。		平成28年4月~ 現在	療学、フィジカルアセスメントおよび臨床薬学の内容を加え、各科目へのリンクが出来るように工夫している。		
	アセスメント)(3年生後期) (3年生後期)(カリキュラ』 1単位として独立)		講義だけではなく、DVDや聴診器を用いて、臨床的な体験ができるように工夫している。スマートフォンなどを用た添付文書の検索なども行っている。		
フィジカルアセスメント§	実習(4年生前期)	平成28年~現在	学生同士で視診・聴診・問診・触診を行い、患者応対を理解する。患者シミュレータを用いて模擬症例を行い、スモールグループディスカッションと発表で、問題解決能力の向上と情報の共有を行っている。		
他12件					
2 作成した教科書、教機能形態学(横浜薬科大学		H25年4月~現在	講義用テキストとして毎年改訂して内容を充実させている。テキストの内容に穴埋め形式や過去の国家試験の改変問題を導入することで、読むだけではなく問題解決能力を養う内容にしている。また、基礎薬学から臨床薬学への一連の理解が出来るように工夫している。		
薬学生のためのフィジカルアセスメント (横浜薬科大学)		H29年9月~現在	薬剤師の行うフィジカルアセスメントについて基礎薬学から臨床薬学内容も含めて理解できるように工夫している。また、8疾患やOTCに関する症例検討も記載して実務実習にも役立てるように工夫している。		
他2件					
	浅に関する発表、講演等				
4 その他教育活動上物	 寺記すべき事項				
模擬患者(SP)養成講習	à	平成25年10月~ 現在	4年次共用試験OSCEを実施する際に必要な模擬患者の養成を、在学生と利害関係のない地元住民に対して行った。		
横浜薬科大学 平成28年原	度 FD·SD研修会	平成28年8月 23日~24日	大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、多様な学力を持った学生の指導法、カリキュラムマップと妥当な成績評価、良好な学習環境を整えるために教職員が組織的にできることについてグループに分かれて議論した。		
早期体験学習(1年次後期)	平成29年9月~ 現在	従来は学生が病院、薬局、企業の中から1ヶ所を選択して施設訪問していたが、コアカリSBOに準じて「様々な薬剤師の業務を見聞」するため、各学生が病院と薬局または企業の2ヶ所を訪問することにした。そのために従前より倍加した施設を確保し、学生および引率教員を割り振った。学生を割り振る際には、終了後の帰宅が容易になるようにできるだけ配慮した。		
横浜薬科大学 平成30年原	度 FD·SD研修会	平成30年9月 4日~5日	大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、初年次 教育、能力別クラス分けの在り方、卒業研究と演習講 義の両立、学力向上のための授業の組み立ての見直し についてグループに分かれて議論した。		

Ⅱ 研究活動					
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称		
(論文) Investigation of telomere in induced pluripotent stem cells quantitative fluorescence in situ	using	共著	平成25年4月	Tissue & Cell 45, 407-413.	
(著書) 第98回~第103回薬剤師国家記集	式験 解答・解説	共著	平成25年6月~現在	横浜薬科大学	
(論文) Short telomeres and Chrom prior to histologic malignant prog cytogenetic aneuploidy in papillar neoplasms.	共著	平成26年10月	Urol Oncol 32,135-145.		
(論文) Arm-specific telomere dyna individual chromosome in induced p cells revealed by quantitative flu situ hybridization.	共著	平成26年12月	Tissue Cell 46, 470-476.		
(著書)新しい機能形態学-ヒトの成り 第3版 竹鼻眞、森山賢治編、廣川書店		共著	平成27年8月	廣川書店	
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名	
Ⅲ 学会および社会における主な活動					
平成30年9月25日、10月28日	高大連携講義・実習	習 ノートルダム清	心高校		
平成5年~現在	東京都健康長寿医療	寮センター協力研究	員		
平成26年4月~現在	日本解剖学会 男女共同参画推進委員会委員				
H29年9月~現在	横浜薬科大学卒後教育講座「フィジカルアセスメント実技実習」				
平成27年4月~現在	神奈川県薬剤師会生	生涯学習委員、研修	企画・運営小委員会委	員長	

	教育および研究活動の業績一覧						責一覧
大学名	大学名 横浜薬科大学 講座名 薬物動態学研究室 職名 教授			Ź	氏名 桒原 隆		
I 教	育活動						
	教育実践		業績	年	月	日	概要
	教育内容・方法の 開発論(5年)	工夫		平成2現在	8年4	月~	医薬品市場の現状、医薬品開発に必要な各過程およびそれを取り巻く規範、環境について概説している。天然物抽出物、新規合成化学物のほかに遺として創成されている。新規医薬品の開発の医薬に関での強基本の知識正使用やリスクマがある。要求でより、製薬ではなく、製薬ではなどの職種によれの強ないの職種にないないで、関係ではなどの職種にない。というなどの職種にも必須などの職種にないのではなどの職種にない。と、これのはなどによりはなどの職種にない。と、これのはなく、と、と、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、
薬物代	謝学(5年)			平成2現在	8年9	月~	薬物は体内で代謝されてその活性を消失するが、稀に代謝によって活性化されて作用が増強するものもあることなど、薬物動態における代謝の役割について理解させる。また生体内での薬物の代謝にはみられるなど、きわめて複雑であり、さらに薬物代謝の変動が薬の効果や副作用発現と密接に関連している。薬剤が薬の効果や副作用発現と密接に関連しているとも理解できるよう指導している。薬剤師代謝とも要となる主要な薬物について、その解毒的代謝と代謝的活性化のメカニズムを酵素反応学の観点からも概説している。
薬物動	態学2(3年)			平成3 現在	0年9	月~	薬物の生体内での動態を知ることの意義が、医薬品の適正使用、患者への服薬指導あるいは投薬に関わるリスクマネージメントの上で極めて重要であることを理解させている。1-コンパートメント線形モデルを中心に薬物動態的な思考法の基本知識を修得させる。また薬物の薬物動態学的特徴を理解できるよう指導している。さらに、治療薬物モニタリング(TDM)に関する基礎、応用について概説する。
薬事法	規・制度1,2(3年)			平成2現在	9年4.	月~	法規、制度に関する課題について、小グループでの 討論活動を実施し、アクティブラーニングを実践し ている。教員として、各小グループの議論が活発化 するようにファシリテーターとして学生を指導して いる。
	作成した教科書、 開発論(5年)	数材、参考	·書	平成2	- <u>-</u> 8年4.	_ <u></u> 月~	講義で使用したスライドを含め、講義の各ポイント が明確になっている資料を自身で作成している
薬物代	謝学(5年)			平成2	8年9.	月~	講義で使用したスライドを含め、講義の各ポイントが明確になっている資料を自身で作成している
薬物動	態学2(3年)			平成3	0年9	月~	講義で使用したスライドを含め、講義の各ポイントが明確になっている資料を自身で作成している
薬物動	態学II(4年)			平成2 現在	9年9	月~	講義で使用したスライドを含め、講義の各ポイント が明確になっている資料を自身で作成している
3	教育方法・教育実践	 浅に関する	免表、講演等				
	その他教育活動上を 理のe-learning	特記すべき	事項	平成2	0年中	F	CITI Japan E-learningを受講完了した。
が九冊	生いた-I Edi III II II			十八八	○午戊	۲.	VIII Vapan L-Itanningで文碑元】した。

Ⅱ 研究活動				
1. 著書・論文等の名称	1. 著書・論文等の名称			発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Monoamine oxidase B oxidiz multikinase inhibitor KW-2449 to i and aldehyde oxidase further conve oxo-piperazine form in human.	共著	2017年10月	Drug Metab Pharmacokinet. 32(5):255-264	
(論文) An iminium ion metabolite production of the pharmacologicall metabolite of a multikinase inhibi primates: Irreversible inhibition oxidase and covalent binding with proteins.	共著	2018年3月	Biopharm Drug Dispos.39(3):164-174	
(著書) バイオ医薬品の体内動態	単著	2018年9月	バイオロジクスの開発と品質 安全性確保(上)、372-378、 エルアイシー	
(論文) Biosimilarity assessment o therapeutic monoclonal antibodies	(論文) Biosimilarity assessment of biosimilar therapeutic monoclonal antibodies			Drug Metab Pharmacokinet. 33(1), accepted(Epub.)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動				
平成26年11月~現在	薬物動態談話会	常任幹事		
平成26年11月~平成28年11月	F11月~平成28年11月 日本薬物動態学会 Biologics DIS 委員長			
平成27年10月~現在 日本薬物動態談話会 代議員				
平成28年4月~現在	成28年4月~現在 東京医科歯科大学 非常勤講師			
T成28年12月~現在 日本薬物動態学会 New modality DIS 代表世話人				
平成29年1月~現在	日本薬物動態学会	年会 組織委	· 員	
平成30年6月~現在	一般社団法人 医	薬品開発支援機	機構 理事	

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 横浜薬科大学 講座名 薬理学研究室	職名 教授	氏名 定本 清美		
I 教育活動				
教育実践上の主な業績	年 月 日	概要		
1 教育内容・方法の工夫 疾患別治療特論 II (5年)	平成25年4月~ 現在	臨床薬学科の選択科目となっているため、臨床現場で 頻度の高い疾患について病態、検査薬物治療、患者対 応などを単元毎にプリントを配布し、症例提示や質疑 応答も含めながら進めている。24年度から26年度は単 元毎の小テストを施行25年度からは定期テストを記述 問題を含めた形式とし、複数レポート課題なども実施 して総合的な評価をしている。		
疾患別治療特論Ⅲ(6年)	平成25年4月~ 現在	5年から継続して、頻度が高く総合的に理解する必要がある疾患について、単元毎にプリントでまとをめると共に、典型的な症例について印刷物で薬物治療の実際を学習している。25年度からは定期テストを記述問題を含めた形式とし、講義中の評価やレポート課題なども実施している。形式とし、講義中の評価やレポート課題なども実施している。		
救急医療概論(6年)	平成25年4月~ 現在	救急医療の対象となる典型的な分野や症例を示し、それに関連する薬物治療についてもまとめると共に典型的な症例について印刷物で保存できるように配布している。アレルギー中毒などは社会的対応についても加えた。まとめとしてERでの実際のDVDを見て診断、検査、薬物治療の一連を総括している。		
診療科各論 I (6年)	平成25年4月~ 平成27年	代表的な診療科毎にその分野の特徴や関連する役欝治療について科ごとに解説した。はじめには症候学でサインとなる症状と疾患の関係を示し、薬剤師としての実務にも生かせるように工夫をした。		
診療科各論Ⅱ(6年)	平成25年4月~ 現在	代表的な診療科毎にその分野の特徴や関連する治療について科ごとに解説した。オムニバス形式で重要な分野についてまとめて解説し知識が実際に生かせるように工夫している。実践的に生かせる知識を目指している。		
2 作成した教科書、教材、参考書 Principal Pharamacothrrapy:分担:関節リウマチ、強	平成27年6月	亀井淳三、斎藤英鳳監修		
皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎956-980ネオメディカル		病態と治療について自己免疫疾患、骨関節疾患の分野について担当し、診断から治療までを疾患別に解説した。		
Principal Pharamacothrrapy:分担:骨関節疾患、関節 リウマチ、強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎952ー	平成29年4月	亀井淳三、斎藤英鳳監修		
955, 1004-1028 改定 ネオメディカル		多くの薬学部においては、疾患や病態について薬剤師の教員が教育に当たる場合も多い。実際の疾患や病態の知識と、薬の効果や。注意を医師と薬剤師で役割分担してまとめ、誰もがわかりやすく疾患と薬物治療の教育にあたれるように、専門分野ごとに解説した。高学年から、卒業後まで使用できるように作成した。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4 その他教育活動上特記すべき事項				
国際交流における小グループ学習の 取り組み (SGD)	平成29年7月~ 平成30年7月	台湾からの各分野の医療系大学生の訪問に際し、本学の学生と医療システムや患者対応についてのSGDを行い、相互に有意義であった。		
FD講習会	平成28年8月~ 現在	本学教員。職員が参加して開催されたFD講習会に出席 し、教職員の連携による大学教育を推進するために、 自己啓発に努めている。		
研究倫理のe-learning	平成27年度~ 現在	CITIJapan e-learning プログラムを平成27年度までに 受講完了した。		

Ⅱ 研究活動				
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(論文) Study of drug adherence in Japanese population with Rheumatoi Arthritis:Epidemiological study fo district and subject ages	d	共著	平成27年3月	International Journal of Pharamacy & Pharamaceutical Reserch vol3(3):1-142015ISSN 2349-7203
(論文)Activity Preferance among with ChronicDisease —Support fo	Elderly Patients r Healty Aging	共著	平成28年7月	Journal of preventive Medicine vol.11No2 48-55 Februry 2017 ISSN:1881-4271
(論文) The idea of monitoring dru taking and life in the community	g	共著	平成28年9月	Journal of Scientific & innovation Reserch) 2017:6(3)91-96
(著書)Principal Pharamacothrrapy 強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎	共著	平成29年4月	956-980ネオメディカル 2015.6	
(著書)製剤・包装の改良・工夫と病薬品開発	共著	平成29年4月	165-171 技術情報協会	
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名
(演題名)Senior frendly new desig prevention	n blister package	with fall	平成30年6月	The 21 IAPRIWorld Conference of Packaging
(演題名)Investigation of innovat package(PTP) for visually impaired		oress through	平成30年6月	The 21 IAPRIWorld Conference of Packaging
(演題名) 医薬品におけるCRSFを考え	る一使用現場の状況	兄と課題	平成30年2月	生活者包装研究懇話会
(演題名)ユニバーサルメディケーシ	ョン誰もが使える图	医薬品を目指して	平成30年10月	東京国際包装展医薬品部門セミナー
(演題名) ユニバーサルメディケーション薬の有効性を生かす包装・デバイスを目指して			平成30年12月	富山県新世紀産業機構医薬品もの づくり研究会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			•	
平成9年4月~現在 日本リウマチ学会評議員				
平成10年4月~平成25年 日本プライマリ・ケア学会理事 、学			会誌編集委員、英文誌	
平成 1 0年 4 月~現在 日本医師会認定産業医活動				
平成20年4月~現在 日本包装学会学会誌編集副委員長				
平成20年4月~現在 日本包装学会理事				

教育および研究活動の業績一覧					
大学名 横浜薬科大学 講座名 薬物治療学研究室	職名 教授	氏名 澤木 康平			
I 教育活動	1				
教育実践上の主な業績	年 月 日	概要			
1 教育内容・方法の工夫					
早期体験学習(1年次前期オムニバス)	平成27年4月~ 平成28年8月	ヒューマニズム教育と病院・薬局・企業等の施設見学を 実施し、また早期体験学習の目的・意義についてのSGD を行い、新入生の入学後の薬学履修、学習意欲の向上、 モチベーションの醸成を図った。			
病態・薬物治療学1 (2年次後期オムニバス)	平成28年10月~ 現在	主に「薬物治療と非薬物治療」「神経系の疾患と薬」 「免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬」			
病態・薬物治療学3(3年次後期オムニバス)	平成29年10月~ 現在	「脳炎・髄膜炎」の項目について講義を行っている。重要な医療薬学の科目であるので学生が理解できるように分かりやすく講義するように努めている。具体的には図			
病態・薬物治療学4(4年次前期オムニバス)	平成30年4月~ 9月	表などを取入れた講義内容をまとめたプリントやスライドを用いて講義を行い、最後にポストテストの実施と解説(解説書配布時もある)を行い、学生の講義内容の理解度をあげるようにしている。			
薬物治療学 I (3年次後期) (旧カリキュラム講義)	平成25年9月~ 平成29年1月	「薬物治療・テーラーメイド医療」「中枢神経系疾患」「虚血性心疾患」「脳血管障害」「アレルギー・免疫疾患」「骨・関節疾患」「消化性潰瘍」の項目について講義を行った。重要な医療薬学の科目であるので学生が理解できるように分かりやすく講義するように分かりやすく講義するようにプリントやスライドを用いて講義を行い、最後にポストテストの実施と解説(解説書配布時もある)を行い、学生の講義内容の理解度をあげるようにした。			
病態生化学(4年次前期)	平成25年4月~ 平成29年8月	臨床検査値は、疾患の診断に重要であるので学生が理解 できるようにわかりやすく講義するように努め、具体的			
症候学・臨床検査学(3年次前期オムニバス) (カリキュラムの改訂により科目名・開講学年次変更)	平成29年4月~ 現在	には講義内容をまとめたブリントやスライドを用いた授業を行い、最後にポストテストの実施と解説(解説書配布時もある)を行い、学生の理解度をあげるようにしている。			
2 作成した教科書、教材、参考書					
あたらしい疾病薬学 初版(テコム)	平成28年9月	薬学教育モデル・コアカリキュラムが改定され、さらに 医療薬学教育の充実、適正な薬物治療を実施するための 知識と技能の修得の重要性から本書を共著で出版した。 「神経系の疾患と薬」、「免疫・炎症・アレルギーおよ び骨・関節の疾患と薬」を執筆した。2~4年次の「病 態・薬物治療学1~4」の教科書として使用している。			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
薬学教育協議会「認定実務実習指導薬剤師養成ワーク ショップ(薬学教育者ワークショップ)」	平成26年11月2日~ 3日	実務実習指導薬剤師の認定養成ワークショップに教員側として参加した。薬剤師の方々と課題に対するカリキュラムの目標(G10, SBO)、方略、評価方法について立案・作成し、提案する体験実習を行った。			
横浜薬科大学 平成28年度 FD・SD研究会	平成28年8月23日~ 24日	大学が主催する研修会(一泊二日)に参加し、多様な学力を持った学生の指導法、カリキュラムマップと妥当な成績評価、良好な学習環境を整えるために教職員が組織的にできることなどについてグループに分かれて議論した。			
地域科学研究会 高等教育情報センター「4つのポリシー のブラッシュアップ・ワークショップⅡ」	平成28年8月29日	大学・学部学科の目指すべき人材像、DP、AP、カリキュラムマップの作成とブラッシュアップ、カリキュラムアセスメントを達成するためのツールとしてのルーブリックの作成方法などについて講演を聞くと共に、模擬作成作業を体験した。			
横浜薬科大学 平成29年度 SD研修会	平成29年9月24日~ 25日	・大学が主催する研究会(一泊二日)に参加し、外部講師による「ノーをイエスに変える技術」と題する講話と自己点検評価書の内容・作成について全員で検討した。			

平成30年度「文部科学省薬学教育指導者のためのワーク 平 ショップ」		平成30年8月24日	大学における主体的かつ組織的な教育内容・方法のに資することを目的とした平成30年度ワークショッ参加し、「改訂コアカリに準拠した実務実習先行戦取組と課題」」と「改訂コアカリに準拠した実務実施に向けて」の2課題についてオリエンテーションSGD、発表と討論を行った。		
横浜薬科大学 平成30年度 FD・SD研修会	À	平成30年9月4日 ~5日	育、能力別クラス分け	会(一泊二日)に参加し、初年次教 での在り方、卒業研究と演習講義の の授業の組み立ての見直しなどに れて議論した。	
Ⅱ 研究活動					
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(論文) Molecular mechanisms of the activities of retinoid and aresenic		共著	平成26年11月	Journal of Pharmacological Sciences vol.126	
(論文) Biocompatibility of a titan coating method for denture base acr	ium dioxide- ylic resin.	共著	平成27年4月	Gerodontology vol.33 No.4	
(解説論文) 抗菌薬・鎮痛薬の安全かつ ① -妊婦または授乳中の女性の場合-	対果的な使い方	単著	平成27年4月	日本歯科評論 vol.75 No.4	
(解説論文) 抗菌薬・鎮痛薬の安全かつ② -小児の場合-	O効果的な使い方	単著	平成27年5月	日本歯科評論 vol.75 No.5	
(解説論文) 抗菌薬・鎮痛薬の安全かつ ③ -健常な高齢者の場合-	(解説論文) 抗菌薬・鎮痛薬の安全かつ効果的な使い方 ③ -健常な高齢者の場合-			日本歯科評論 vol.75 No.6	
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名	
Effects of the retinoic receptor ag myelocytic leukemia cells.	onists on prolife	ration of	平成30年7月	WCP2018・第91回日本薬理学会年 会	
単球性白血病細胞株に対する活性型ビダ	スミンAの増殖抑制を	効果	平成31年3月	日本薬学会第139年会	
Ⅲ 学会および社会における主な活動					
平成4年4月~現在	日本薬理学会 学術	析評議員			
平成16年9月~現在	歯科基礎医学会 詞	評議員			
平成20年6月~現在	日本歯科薬物療法	学会 評議員			
平成23年4月~平成28年3月	薬学部 倫理審査委員会 外部委員				
平成25年9月~現在 薬物乱用防止キャ		止キャンペーン in 横濱 運営			
平成26年10月~平成28年9月	代議員				
平成26年10月~現在	10月~現在 東京歯科大学 薬理学講座 客員教授				
平成26年10月~平成28年9月	歯科基礎医学会 代議員				
平成27年6月~現在	日本歯科薬物療法	学会 学術奨励賞選	考委員		

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 横浜薬科大学 講座名 病態生理学研究室	職名 教授	氏名	篠塚 達雄	
I 教育活動				
教育実践上の主な業績	年 月 日		概要	
1 教育内容・方法の工夫 病態生理学I(2年前期 オムニバス) 病態生理学I(2年後期 オムニバス) 病態生理学II(3年前期 オムニバス)	平成25年4月~ 現在	Ⅲ」では、教科書にそでは、学生によりしてが することにより、病態 うに工夫している。 講義は教科書等を用し 用プリントを適宜作成	「病態生理学Ⅱ」、「病態生理学 さった講義を中心としている。講義 パワーポイント用いて、画像を提示 態生理をより深く理解が得られるよ いての説明は最小限にとどめ、講義 成(基本的に毎年、新規知見を加え イントを学生が理解出来るように努	
病態・薬物治療 1 (2年後期 オムニバス) 病態・薬物治療 2 (3年前期 オムニバス) 病態・薬物治療 3 (3年後期 オムニバス) 病態・薬物治療 4 (4年前期 オムニバス)	平成28年10月~ 現在	療学の講義内容を合体	D進行に伴い、病態生理学と薬物治 はした講義。これにより受講生に両 「くなるように工夫している。	
長寿医療(2年後期 健康薬学科)	平成28年10月~ 現在	高齢者の健康増進、在 による講義。	E宅医療について、オムニバス形式	
2 作成した教科書、教材、参考書 イラストでみる 疾病の成り立ちと薬物療法 (医学評論社)	平成25年9月	種々の疾患に関する根 中心にやさしく解説し	R念と治療法について、イラストを た教科書	
あたらしい疾病薬学(テコム)	平成28年9月	「新コアカリ」に準じ 理)と薬物療法につい	じて改訂された疾病の概念(病態生 いて解説をした教科書	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4 その他教育活動上特記すべき事項 FD講習会	平成28年9月	を持った学生の指導法	会(1泊2日) に参加し、多彩な学力 は、カリキュラムマップ作成、成績 ごについて教職員が組織的に実施す 式で討議した。	
FD·SD研修会	平成29年9月	大学の主催する研修会(1泊2日) に参加し、大学の危機 管理および自己点検報告などについてSGP形式で議論 し、自己啓発に努めた。		
FD・SD研修会	平成30年9月	育、能力別クラス分け	会(1泊2日) に参加し、初年時教 けのあり方、卒業研究と演習講義の かの授業の組み立て方についてSGD	
Ⅱ 研究活動				
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(著書)薬毒物試験法と注解2017	共著	平成29年5月	東京化学同人	
(論文) Simultaneous determination for oxicam non- steroidal anti-inflammatory drugs in human serum by liquid-chromatography-tandem mass spectrometry.	共著	平成25年12月	Forens. Sci. Int., 227, 100- 102	
(論文) Sensitive liquid chromatography/tandem mass spectrometry method for the Simultaneous determination of eight atypical antipsychotic drugs.	共著	平成28年3月	Forensic. Sci. Int. 265, 182- 185	
(論文) Human imuunodeficiency virus type 1(HIV-1) reverse transcriptase inhibitory effect of Cymbopogan nardus essential oil.	共著	平成28年6月	Int. J. Adv. Res. Botany, 2, 1–8	

(論文) Sensitive Liquid Chromatography/Tandem Mass Spectrometory Method for the Simultaneous Determination of Risperidone, Olanzapine, Quetiapine, Clozapine, Ziprasidone, Perospiro, Ariprazole and Blonanserin in Human Serum.		共著	平成30年2月	Ame. J. Anal. Chem., 9, 88-97	
2. 学会発表(評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名	
(演題名) Sensitive Liquid Chromatography/Tandem Mass Spectrometory Method for the Simultaneous Determination of nine beta blockers.			平成30年8月	56th Meeting of The Annual Meeting of the International Association of Forensic Toxiclogisits, Ghent, Belgium	
(演題名) "英語版くすりのしおり" 薬学英語教育	を利用した融合的・	学習成果型の臨床	平成30年9月	第3回日本薬学教育学会大会	
(演題名)薬毒物試験法 Ⅱ-19 β	受容体遮断薬試験法	ţ	平成31年3月	日本薬学会第139年会	
(演題名)メチシリン耐性黄色ブドウ	球菌の微量検出法の)開発	平成31年3月	日本薬学会第139年会	
Ⅲ 学会および社会における主な活動					
平成21年~平成29年	日本法科学技術学会	会理事			
平成23年~現在	薬剤師国家試験問題	題委員会(病態・薬	治部門) 委員		
平成23年~現在	病態・薬物治療等教	教科担当教員			
平成25年~平成30年	日本薬学会関東支部	部会 幹事・代議員			
平成25年9月~平成30年9月~	第2回~第7回「薬	物乱用防止キャンへ	ペーンin横濱」 実行都	秦員会副委員長	
平成25年10月~平成27年12月 かながわ親子セミナー2013、2014、20			2015、2016(神奈川新聞社) 講演		
平成26年7月 共同通信社 取材(危険ドラッグ)					
平成27年~現在 神奈川県薬事審議委員会委員(薬物評			価委員)		
平成29年10月~現在	日本薬学会環境衛生	主部会 薬毒物試験	法委員 委員長		
平成30年10月~現在	横浜市薬剤師会	理事			

教育および研究活動の業績一覧							
大学名 横浜薬科大学	講座名	薬剤学研究室	職名 教授		氏名	鷲見 正	 宏
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年 月	日		概	要
1 教育内容・方法のコ	C 夫						
製剤学(3年前期)			平成25年~	現在	形について、その特徴を、体系的にわかり場のプリントを作成し、た、DDSについては	数、製造法 引く学習で それすり なこなども なこなども	不可欠な知識である剤 、保管法など、 、保証をはいるでは、 、まるに講義している。 、では、 、では、 、では、 、では、 、である。 、でから、 、でのの。 とのの。 とのの。 とのの。 とのの。 とのの。 とのの。 とのの。
実務実習プレ教育(4年生	前後期)		平成25年~	現在	実務実習に先立ち、第 技能、態度を修得させ 及び実習を行った。		に必要な基本的知識、 、講義、演習、SGD
実務実習ポスト教育(5年	F生前後期)		平成25年~	現在	換することで、学習交 形式の教育を行った。	加果を再確 更に実習	容を他の学生と情報交認する目的で、SGD で体験したことをテー ンテーションする学習
健康管理学(6年前期)			平成25年~	現在	病予防や疾病治療にお	さける健康	健康の維持・増進と疾 管理の役割と重要性を 病を中心に講義、症例
医療心理学(3年生後期)		平成25年~2	26年	コミュニケーション、 の存在を支える柱(B	8末期医療 生きる意 計間依存、 削検討(ス	を受けている患者との 味、苦しみの本質、人 関係依存、自律依存) ピルチュアルペインの	
調剤学1(3年前期)			平成26年			哈情報、医	、薬剤の調製、処方監 薬品管理についての基
調剤学2(3年後期)		平成26年		患者の特性(新生児、 (腎・肝機能障害)、 して、個別最適化調剤	薬物相互	作用などの知識を利用	
2 作成した教科書、教 薬剤学実習 I 実習書(平成版)横浜薬科大学		年、27年、28年	平成25年~	現在	製剤学実習で使用する 改定している。	数科書を	編者として、毎年執筆
薬剤学実習Ⅱ実習書(平成版)横浜薬科大学	戈25年版、26 9	年、27年、28年	平成25年~	現在	調剤学実習で使用する 改定している。	る 教科書を	編者として、毎年執筆
調剤と医療コミュニケーシ版、26年、27年版)横浜薬		DVD(平成25年	平成25年~	現在	調剤、医療コミュニケ実習の参考に利用して		の実技を動画にして、
薬剤師国家試験解答·解説集(第98回版、99回版、100回版、101回版、102回版) 横浜薬科大学		平成25年~	現在			けでなく、当該問題に 似問題を記述している	
3 教育方法・教育実践	銭に関する発:	表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項 研究倫理のe-learning		平成26年~	現在	CITI japan e-learni た。	ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー	 ラムを平成26年受講し	
Ⅱ 研究活動							
1. 著書・論文等の名称			単著・ 共著の		発行または発表の 年月 (西暦でも可)		終行所、発表雑誌 終・号数)等の名称
(論文) 病棟での薬剤師が 価	いら医師への	 処方提案とその評	共著		平成26年6月	薬事新報,	No2793, 723-726

(論文) 患者による指名前後でのかか 者自身の変化	共著	平成30年6月	日本薬剤師会雑誌, vol.70: 679- 682	
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動				
平成12年4月~平成27年3月 日本歯科薬物療法学会 評議員				
平成21年4月~平成27年3月 漢方EBM研究会 幹事				
平成23年4月~平成27年3月 日本医療薬学会 代議員				
平成24年4月~平成27年3月	神奈川県保健福祉原	高主催 マイカルテ	検討委員会 委員	

	教育	育および研究活動の第	美績一覧
大学名 横浜薬科大学	講座名 薬理学研究室	職名 教授	氏名 田邉 由幸
I 教育活動			
教育実践	桟上の主な業績	年 月 日	概要
1 教育内容・方法の 分子薬効解析学 (岩手医科大学薬学部)	工夫	平成25年4月~ 平成27年3月	90分、12回の全てを担当した。3年次までに履修済の薬理学を基礎として、さらに疾患関連分子および薬物の主作用・副作用の分子機構について熟考させる指導を行った。特別、新たにのは、新たに副作用の分子の進生した。新治病等の大力のある疾患力が、大力の大力をも取り上げた。また、親の大力を引きがある疾患の治療を、一、大力を引きが、大力を、大力を、大力を、大力を、大力を、大力を、大力を、大力を、大力を、大力を
薬理学 I (岩手医科大学・薬学部		平成25年4月~ 平成27年3月	全15回のうち13回を担当した。疾患の成り立ちと薬理作用の理解の基礎となる機能形態学を中心に、細胞・組織全般、神経細胞と末梢神経系、中枢神経系、筋骨格系、循環器系、血液・リンパ系、呼吸器系、内分泌系の機能形態学とともにこれらの臓器・組織に作用する薬物の基礎に関する講義を行った。学生の集中力維持と学習効果の促進、および形成的評価のための工夫として、演習問題の配付と次回の講義冒頭での小テスト、次々回講義でのフィードバックと評価への一部組み込みについては、上記の「分子薬効解析学」と同様である。
薬学実習Ⅱ(薬理学実習 (岩手医科大学薬学部)		平成26年4月~ 平成27年3月	ラット、マウスの摘出器官から丸ごと個体までを扱う、岩手医科大学薬学部唯一の薬理学・生理学系実習であり、徹底的な参加・体験型実習として計画し、実施した。試薬の調製から、動物・摘出臓器への薬物投与、変化の観察および実験データの取りまとめとPCによる統計解析、更には結果発表に至るまでの一連の過程を個々の学生(定員160名)に体験させた。
課題研究 (岩手医科大学薬学部)		平成26年4月~ 平成27年3月	薬剤師は薬科学の思考力と問題解決能力をもつ医療人たるべきとの視点に立ち、循環系・代謝系分野における基礎薬理学実験を通して、記録の重要性と正しい記載法、結果の解析法を学ばせた。これらにより、科学的再現性を理解させ、医療人としての誠実な態度を醸成を促した。
課題研究 (岩手医科大学薬学部)		平成26年4月~ 平成27年3月	薬剤師は薬科学の思考力と問題解決能力をもつ医療人たるべきとの視点に立ち、循環系・代謝系分野における基礎薬理学実験を通して、記録の重要性と正しい記載法、結果の解析法を学ばせた。これらにより、科学的再現性を理解させ、医療人としての誠実な態度を醸成を促した。
他24件			
薬理学Ⅲ		平成27年4月~ 平成29年3月	70分、13回を漢方・健康と臨床の2回に分けて講義した。消化器系作用薬、代謝系作用薬、血液・造血系作用薬、抗悪性腫瘍薬、ホルモン関連薬について、薬理学的作用機序を修得し、疾患に対する薬物治療を理解するための礎となるように講義した。講義においては、基本的薬理解して疑問点を解決しようとする意識を醸成することを目標のひとつとした。また、4年次開講であることをも、共用試験、国家試験を意識した課題による小テストを毎回実施して、自習の方向付けを行った。

卒業研究	平成28年4月~	薬理学研究室において、循環器系・代謝系疾患の基盤
	現在	病態となる代謝症候群を研究題材として、或るマウス 系統に長期間高脂肪食を摂取させて見出される易肥満 群および肥満抵抗性群における遺伝子発現と代謝生化 学的性質における相違点についての解析を行った。
精神と健康	平成28年10月~ 現在	90分全10回の全てを担当した。本科目では、健康薬学科専攻としての視点に立ち、メンタルヘルス維持からストレスマネージメントまでを学習者に概観させるとともに、ストレスの概念と身体反応、代表的なストリス関連疾患の病態と治療を学ぶ過程において、能動的学習への転換を促すとともに、意識の向上や相互理解、コミュニケーションカの強化に繋げるように指導した。保経では、チーム基盤型学習(TBL)形式とし、個人別予習確認テスト(IRAT)、チーム学習活動における即時フィードバック型形成評価(GRAT)、提示資料作成およびプレゼンテーションとピア評価、教員評価した。
薬理学3	平成29年4月~ 現在	90分、全15回のうち、消化器系作用薬4回、抗悪性腫瘍薬(化学療法薬)4回(計8回)の講義を、漢方・健康と臨床の2回に分けて行った。基本的薬理学的原理と各論知識の獲得に加えて、膨大な医薬品に関するる薬理学的知識をを醸成するに理解し、疑問自標の一つで習ったの知識をを醸成するには本講義の目標の一つで習ったの実施ととは本講義の目標のこ二演習の方連として、毎年と翌週のファみみにより、一時では、日間、関連分別では、日間、日間、日間、日間、日間、日間、日間、日間、日間、日間、日間、日間、日間、
薬理学 4	平成30年4月~ 現在	90分、全15回のうち、血液・造血系作用薬4回、炎症・免疫系作用薬4回(計8回)の講義を、漢方・健康と臨床の2回に分けて行った。科目の理念と目標は、上記薬理学3と同じである。毎回ミニ演習テストを実施することにより、自習の方向付けを行った。
他17件		
2 作成した教科書、教材、参考書 分子薬効解析学・講義資料 (岩手医科大学・薬学部)	平成25年4月~ 平成27年3月	薬理学のアドバンスト項目を含めた内容の講義資料。 併せて、講義内容に関する演習問題(30題/各回)を作成・配布し、毎回の講義冒頭演習および復習のための 学習材料として活用させた。
薬理学 I 講義資料(学部内旧カリキュラム科目) (岩手医科大学・薬学部)	平成25年4月~ 平成26年3月	機能形態学に相当する講義資料。指定教科書のほか、独自スライドを作成して、印刷およびウェブ経由で配布した。 併せて、当該講義内容に関連する5肢択一問題を30題程度を毎回配布し、翌週講義冒頭で確認テストを実施し、自己学習を促進させた。
薬理学 I 講義資料 (学部内新カリキュラム科目) (岩手医科大学・薬学部)	平成26年4月~ 平成27年3月	薬理学総論に関する講義資料。指定教科書のほか、独 自スライドを作成して、印刷およびウェブ経由で配布 した。同教科書内での重要点の指摘、ならびに学習者 の理解や自己学習を助けるための補則解説・情報を盛 り込んだスライドを作成した。
薬学実習 I ・薬理学実習書 (岩手医科大学・薬学部)	平成26年4月~ 平成27年3月	薬理学実習書(全66頁)の執筆および全体編集を行った。 各年度ともに、実習時点までの関連講義の進捗状況に応じて、実習書への演習問題や図表の追加等も併せて行ない、座学と実習とが毎年有機的に連携するように、編集に努めた。
他10件	亚 + 0.7 左 4 号	光// 明天 // 軸天 上本 サ 上天 上本地 医皮肤 - サ
薬理学Ⅲ講義資料(2015版)	平成27年4月	消化器系、代謝系、血液・造血系、抗悪性腫瘍薬の薬 理学の内容からなり、レジュメとして毎回印刷配布し た。
		に ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・

精神と健康 講義資料 (2016版) 平成28年10月 下記項目をチーム基盤型学習 (TBL) で行うために回で必要な投影スライド (解説および予習テスト他および各種印刷配布資料を作成した。 平成29年3月 平成29年3月 平成29年4月 平成29年4月 平成29年4月 平成29年4月 平成29年4月 平成29年4月 ※理学 (18) で行うために回で必要な投影スライド (解説および予習テスト他および各種印刷配布資料を作成した。 平成29年4月 平成29年4月 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						
平成29年3月 よび高尿酸血症治療薬、骨粗しょう症治療薬の項目 追加、演習課題の更新を行った。 平成29年4月						
薬理学4 講義資料 (2017版) 平成29年10月~ 概要:以下の分野の薬物とその作用機序を理解するめの総論・各論について、指定教科書との併用を前として、講義での提示および印刷配布資料を作成した。 薬理学3・4 講義資料 (2018版) 平成30年4月~ 新カリキュラム(薬理学3・4)への完全移行により、内容を再確認のうえ、分担者との共著として請資料を製本化した。 他11件 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
めの総論・各論について、指定教科書との併用を前として、講義での提示および印刷配布資料を作成した。 薬理学3・4 講義資料(2018版) 平成30年4月~ 新カリキュラム(薬理学3・4)への完全移行により、内容を再確認のうえ、分担者との共著として講資料を製本化した。 他11件 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
り、内容を再確認のうえ、分担者との共著として診 資料を製本化した。 他11件 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
4 その他教育活動上特記すべき事項						
第36回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ受講 (病院・薬局実務実習東北地区調整機構、宮城県薬剤師会) 平成26年7月26日 第36回東北地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ修了(宮城県薬剤師会館) (第14-2-0088-標記WSに出席し、カリキュラムプランニングを主題する研修を行った。						
横浜薬科大学FD・SD研修会 平成30年9月4日~ 標記WSに出席し、「卒業研究と演習講義の両立につ 9月5日 「京都集を取りまとめた。(かるい グリーンヴィラ 都築学園セミナーハウス)						
他 1 件						
Ⅱ 研究活動						
1. 著書・論文等の名称 単著・ 共著の別 発行または発表の 年月(西暦でも可) 発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称						
(論文) Mechanical Stretching and Signaling Pathways in Adipogenesis. [査読有] 共著 本著 本著 本著 本著 本表 Studies in Mechanobiology, Tissue Engineering and Biomaterial 16: 35-62, 2015.						
(著書)新・薬の効くプロセス 共著 平成29年9月 ネオメディカル						
「一大人」「一大人」「一大人」「一大人」「一大人」「一大人」「一大人」「一大人」						
(著書) 第102回薬剤師国歌試験―解答・解説集― 共著 平成29年11月 横浜薬科大学出版会						
(著書)第102回薬剤師国歌試験―解答・解説集― 共著 平成29年11月 横浜薬科大学出版会						
(著書) 第102回薬剤師国歌試験―解答・解説集― 共著 平成29年11月 横浜薬科大学出版会 (著書) 第103回薬剤師国歌試験―解答・解説集― 共著 平成30年11月 横浜薬科大学出版会 (著書) パートナー薬理学 改訂第3版(担当:第17章 サ業 平成29年11月 東江党						
(著書)第102回薬剤師国歌試験一解答・解説集一 共著 平成29年11月 横浜薬科大学出版会 (著書)第103回薬剤師国歌試験一解答・解説集一 共著 平成30年11月 横浜薬科大学出版会 (著書)パートナー薬理学 改訂第3版(担当:第17章 悪性腫瘍に作用する薬物) 共著 平成31年2月 南江堂						

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成6年2月~	日本分子生物学会・会員
平成7年9月~	日本薬学会・会員
平成8年2月~	日本薬理学会・会員
平成12年4月~	日本血管生物医学会・会員
平成17年3月~	日本薬理学会学術評議員
平成27年4月~	論文査読員: Ann Biomed Eng (2015) 1件、Exp Lung Res (2017.8) 1件、J Pharm Pharmacol (2017.8) 1件、Biol Pharm Bull (2015, 2016, 2017) 3件、 Int J Clin Cardiol (2016.3) 1件、Pharmacology (2019.2) 1件
平成28年9月~	日本肥満学会・会員
平成29年4月	公私立大学実験動物施設協議会、代議員
平成31年2月	日本薬学会関東支部、幹事

教育および研究活動の業績一覧						
大学名 横浜薬科大学 講座名 病態生理学研究室			教授	氏名	浩二	
I 教育活動						
教育実践上の主な業績			月日		概	要
1 教育内容・方法の工夫						
X-1 X 1 (0 1 2)		現在		実習書は、写真・挿絵を多く入れ実際の操作手順が見だけで分かるように工夫している。実習前には、薬物作用機序と生体に対する薬理反応について説明している。また、実習終了時には、実験結果について質疑応を行い薬物の作用機序の理解が深まるようにしている		
血液検査学(5 年生)		平成25年4月~ 現在		1年次から3年次までに学習した機能形態学と病態生理 学を基礎に異常値が出るメカニズムと検査項目の臨床的 意義を理解し、臨床検査値から疾患が推定できるように 練習問題を解きながら学習を進めてゆくように工夫して いる。		
病態・薬物治療学1(2年生)		平成28年 現在	∓10月~	習し、疾患の病態発症	機構や	ンた機能形態学、薬理学を復 ⁵ 症状、検査、薬物治療につ ⊉解しやすくエ夫している。
病態・薬物治療学2(3年生)		平成294 現在	₹4月~	し、疾患の病態発症機	様構 や症	機能形態学、薬理学を復習 E状、検査、薬物治療につい なしやすく工夫している。
病態・薬物治療学3 (3 年生)		平成294 現在	₹10月~	し、疾患の病態発症機	構や症	機能形態学、薬理学を復習 E状、検査、薬物治療につい なしやすくエ夫している。
症候学・臨床検査学(3年生)		平成29 ⁴ 現在	∓4月~			a床検査値が読めるように、 D臨床的意義が理解できるよ
2 作成した教科書、教材、参	考書					
あたらしい疾病薬学、TECOM		2016年9	2016年9月 各疾患の病態生理学と薬物治療法について解説 			台療法について解説する。
新・薬の効くプロセス、ネオメディカル		2017年9	月	疾患別に使用される治療薬の薬理作用について解説する。		
わかりやすい疾患と処方薬の解説、病態薬物治療編、 アークメディア		2018年3	月	各疾患の病態生理とそ について解説する。	の治療	§薬の処方例を挙げ薬物治療
3 教育方法・教育実践に関す	る発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべ	き事項					
1. 著書・論文等の名称			≦著・ 著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)		発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Age-related changes of transcription factor FOXO1 in senescence-accelerated mouse S	the liver of		共著	2013年6月		Gerontol. Geriatr. 2013; 17-422
(論文) Possible involvement o learning and memory dysfunction			共著	2013年9月	BBRC	2013: 144, 25–30
(論文) Sensitive liquid chrom spectrometry method for the si determination of nine local an	multaneous	,	共著	2016年8月		sic Science national, 2016, 265, 182-

(論文) Characterization of a Therioxoguanine DNA Glycosylase Specifion Mismatches from the Thermoacidophi Thermoplasma volcanium.	c for GO:N	共著	2016年9月	Archaea, 2016, 2016, 1-10	
(論文) Sensitive Liquid Chromatog Spectrometry Method for the Simult Determination of Risperidone, Olan Quetiapine, Clozapine, Ziprasidon Aripiprazole and Blonanserin in H	共著	2018年3月	Am. J. Anal. Chem., 2018, 9, 88-97		
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名		
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌の微量	検出法の開発	2019年3月	日本薬学会139年会		
Ⅲ 学会および社会における主な活動					
2012年4月~現在	老化促進モデルマウス (SAM)学会評議員				
2012年~現在	薬物乱用防止キャンペーン ボランティア活動				
2013年11月14日、15日	学会主催 (日本法科学技術学会)				
2013年7月1日	論文査読(Brirish Journal of Pharmacology)				
2017年11月1日	論文査読 (Aging a	論文査読(Aging and Disease)			

教育都	および研究活動の業	績一覧
大学名 横浜薬科大学 講座名 薬物治療学研究室	職名 教授	氏名 中野 泰子
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年 月 日	概要
1 教育内容・方法の工夫		
個人・集団・社会と健康 2年生	平成25年4月~ 平成27年3月 (本学着任前)	疫学の概要、臨床研究デザインと解析法、生物統計について、実際の臨床研究論文のデータを用いて使う道 具としての理解を目指した。
薬と疾病(呼吸器・皮膚科疾患) 4年生	平成25年4月~ 平成27年3月 (本学着任前)	呼吸器内科と皮膚科、感染症内科の医師の講義を入れ、代表的な疾患の具体的な症状や検査、治療を知り、教科書だけではわからない知識を学び、患者の治療や受診勧告などに役立つことを目指した。
核酸・遺伝子操作 3年生	平成25年4月~ 平成27年3月 (本学着任前)	具体的な医薬品を例に生化学や遺伝子工学の復習を行いながら、今後臨床現場に導入されてくる新しい治療 法や治療薬が理解できる基礎知識の習得を目指した。
バイオ医薬品とゲノム情報 6年生(平成27年度は講義の時間数を増やして3年生の核酸・遺伝子操作に統合)	平成25年4月~ 平成26年3月 (本学着任前)	具体的な医薬品を例に生化学や遺伝子工学の復習を行いながら、今後臨床現場に導入されてくる新しい治療法や治療薬が理解できる基礎知識の習得を目指した。
レギュラトリーサイエンス(講義・演習) 博士課程	平成25年4月~ 平成27年3月 (本学着任前)	基礎的な知識については講義し、また、ネット検索で自習してもらい、自分の疑問に思う課題について一人一人調査し、みんなの前に発表、討議させることで厚生行政に関する理解を深めさせた。また、課題によっては厚生労働省の担当経験者に講演を依頼した。
医薬品情報学 4年生	平成28年4月~ 現在	個々の薬害の時代背景などの詳細とそれに対して厚生 労働省がどう対応し、規制をしたか学ぶことで臨床現 場における薬剤師の在るべき姿を理解することを目指 している。また、現場で役立つ情報を評価したり、自 分でそのような情報を作成し、報告できることを目指 して、実際の臨床研究論文のデータを用いて自分たち が使う道具としての理解を目指している。
創薬化学特論 4年生	平成29年4月~ 現在	現在、医療現場に続々投入されている新しい考え方の 医薬品や治療法を理解できるように、基礎となる生化 学や遺伝子工学などの知識を図を用いて再度確認しな がら体表的な医薬品、医療用具などを説明している。
生化学3 2年生	平成29年4月~ 現在	治療薬の標的やその作用を理解するためには生化学の 基礎知識が必要で有ることを認識してもらうことを意 識して講義を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書		
医薬品情報学 4年生	平成28年4月~ 現在	講義にはパワーポイントで作成したスライドやアニメーションを用い、重要な言葉などを穴埋め形式にして配布資料として印刷したものを配布した。学生の授業アンケートによる個別のコメントを参考に理解度や評価を考慮しながら毎年更改している。
創薬化学特論 4年生	平成29年4月~ 現在	講義にはパワーポイントで作成したスライドやアニメーションを用い、重要な言葉などを穴埋め形式にして配布資料として印刷したものを平成29年度は配布した。平成30年度はこれを改定したものをテキストとして印刷して配布した。なお、学生の授業アンケートによる個別のコメントを参考に理解度や評価を考慮しながら毎年更改している。
生化学3 2年生	平成29年4月~ 現在	講義にはパワーポイントで作成したスライドやアニメーションを用い、重要な言葉などを穴埋め形式にして配布資料として印刷したものを配布した。学生の授業アンケートによる個別のコメントを参考に理解度や評価を考慮しながら毎年更改している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
	1	

第8回薬学教育協議会・医薬品情報学教科担当教員会議 横浜薬科大学 平成30年度 FD・SD研修会 横浜薬科大学 平成30年度 FD・SD研修会 「一では、第一部では異体例を含めたバラス。 大きの主催する研修会(一泊二日)に参加し、初った日 第一次 では、第一部では異体例を含めたバラス。 大きの主催する研修会(一泊二日)に参加し、初った日 が表 にカ別クラス分けの在り方、卒業研究と演奏の両立 アループに分かれて議論した。 大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、初った 能力別との方との投棄を知み立ての見についてグループに分かれて議論した。 大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、初った 能力別との方との投棄を組み立ての見についてグループに分かれて議論した。 大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、初った 能力別との方との投棄を組み立ての見についてグループに分かれて議論した。 大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、初った 能力別との方との投棄を組み立ての見についてグループに分かれて議論した。 株者の別 発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称 (論文) Metformin modulates GLP-1- and GIP-mediated intracellular signaling under normoglycemic conditions. (論文) Potentiated macrophage activation by acid sensing under low adiponectin levels. (論文) Elevated receptor for activated C kinase 1 expression is involved in intracellular Ca2+ influx and potentially associated with compromised regulatory I cell function in patients with asthma. (論文) Suppressive Effects of Glucose-Dependent Insulinotropic Polypeptide on Cardiac Hypertrophy and Fibrosis in Angiotensin II-Infused Mouse Models. (論文) Higher Adiponectin Expression Suppresses Neo intimal Hyperplasia by Attenuating the Inflammatory Response Fol Iowing Acceleration of Endothelialization in Damaged Areas in Adiponectin Iransgenic Mice.						
## 学の作う・SD研修会 学内FD・SD研修会 学内FD・SD研修会 学内FD・SD研修会 平成30年2月13日 学力を持った学生の指導法、カリキュラムマップ 当な成様評価、良好な学習環境を整えるために致いが組織的にできることについてグループに分かれた議した。 平成30年2月13日 東京では発生時の対応につい 漢書を行った。 「臨床前教育も試験全きのたハラストについて学び、第二部では発生時の対応につい 漢書を行った。 「臨床前教育も試験全時の対応につい 漢書を行った。 「臨床前教育もはける医薬品情報学教育の質保証・	4 その他教育活動上特記すべき事	項				
第8回薬学教育協議会・医薬品情報学教科担当教員会議 横浜薬科大学 平成30年度 FD・SD研修会 横浜薬科大学 平成30年度 FD・SD研修会 「本さり 中成30年9月4日 でも日本の主義を表現である。 中成30年9月4日でも日本の主義を表現では、大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、初まる。 中央は30年9月4日でも日本の主義を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	横浜薬科大学 平成28年度 FD・SD研	1 // 1 -//	学力を持った学生の指 当な成績評価、良好な が組織的にできること	≦導法、カリキュラムマップと妥 €学習環境を整えるために教職員		
横浜薬科大学 平成30年度 FD・SD研修会 平成30年9月4日 ~5日 中成30年9月4日 ~5日 中成30年9月4日 ~5日 中成30年9月4日 ~5日 中成30年9月4日 ~5日 東京 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	学内FD·SD研修会	平成30年2月13日	大学で実施されたハラスメント防止研修会第1部お 第2部に参加し、第一部では具体例を含めたハラストについて学び、第二部では発生時の対応について 演習を行った。			
横浜薬科大学 平成30年度 FD・SD研修会	第8回薬学教育協議会・医薬品情報学	教科担当教員会議	平成30年6月29日	「臨床前教育における医薬品情報学教育の質保証につしいて」をテーマにグループに分かれて議論した。		
#著・論文等の名称	横浜薬科大学 平成30年度 FD・SD研		大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、初年次教育、能力別クラス分けの在り方、卒業研究と演習講義の両立、学力向上のための授業の組み立ての見直し			
#著の別 年月(西暦でも可) (巻・号数)等の名称 (論文) Metformin modulates GLP-1- and GIP-mediated intracellular signaling under normoglycemic conditions. (論文) Potentiated macrophage activation by acid sensing under low adiponectin levels. (論文) Potentiated macrophage activation by acid sensing under low adiponectin levels. (論文) Elevated receptor for activated C kinase 1 expression is involved in intracellular Ca2+influx and potentially associated with compromised regulatory T cell function in patients with asthma. (論文) Suppressive Effects of Glucose-Dependent Insulinotropic Polypeptide on Cardiac Hypertrophy and Fibrosis in Angiotensin II-Infused Mouse Models. (論文) Higher Adiponectin Expression Suppresses Neointimal Hyperplasia by Attenuating the Inflammatory Response Following Acceleration of Endothelialization in Damaged Areas in Adiponectin Transgenic Mice.	Ⅱ 研究活動					
#著 平成25年10月 Upen J Endocri Metab Dis doi:10.4236/ojemd.2013. (論文) Potentiated macrophage activation by acid sensing under low adiponectin levels. (論文) Elevated receptor for activated C kinase 1 expression is involved in intracellular Ca2+ influx and potentially associated with compromised regulatory T cell function in patients with asthma. (論文) Suppressive Effects of Glucose—Dependent Insulinotropic Polypeptide on Cardiac Hypertrophy and Fibrosis in Angiotensin II—Infused Mouse Models. (論文) Higher Adiponectin Expression Suppresses Neointimal Hyperplasia by Attenuating the Inflammatory Response Following Acceleration of Endothelialization in Damaged Areas in Adiponectin Transgenic Mice.	1. 著書・論文等の名称			発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称		
(論文) Elevated receptor for activated C kinase 1 expression is involved in intracellular Ca2+ influx and potentially associated with compromised regulatory T cell function in patients with asthma. (論文) Suppressive Effects of Glucose-Dependent Insulinotropic Polypeptide on Cardiac Hypertrophy and Fibrosis in Angiotensin II-Infused Mouse Models. (論文) Higher Adiponectin Expression Suppresses Neointimal Hyperplasia by Attenuating the Inflammatory Response Following Acceleration of Endothelialization in Damaged Areas in Adiponectin Transgenic Mice. ### ### ### ### #### ###############	mediated intracellular signaling ι	共著	平成25年10月			
expression is involved in intracellular Ca2+ influx and potentially associated with compromised regulatory T cell function in patients with asthma. (論文) Suppressive Effects of Glucose-Dependent Insulinotropic Polypeptide on Cardiac Hypertrophy and Fibrosis in Angiotensin II-Infused Mouse Models. (論文) Higher Adiponectin Expression Suppresses Neointimal Hyperplasia by Attenuating the Inflammatory Response Following Acceleration of Endothelialization in Damaged Areas in Adiponectin Transgenic Mice. 共著 平成28年8月 平成28年8月 平成28年8月 平成29年6月 Showa Univ J Med Sci 2017 (2):107-117.		共著	平成26年2月	Mol Immunol 2014; 57:141-150.		
Insulinotropic Polypeptide on Cardiac Hypertrophy and Fibrosis in Angiotensin II-Infused Mouse (論文) Higher Adiponectin Expression Suppresses Neointimal Hyperplasia by Attenuating the Inflammatory Response Following Acceleration of Endothelialization in Damaged Areas in Adiponectin Transgenic Mice. 共著 平成28年8月 平成28年8月 平成28年8月 平成29年6月 平成29年6月 平成29年6月 平成29年6月	expression is involved in intrace influx and potentially associated regulatory T cell function in pat	共著	平成26年9月	Clin. Exp. Allergy 44 (9): 1154-1169 (2014)		
Neointimal Hyperplasia by Attenuating the Inflammatory Response Following Acceleration of Endothelialization in Damaged Areas in Adiponectin Transgenic Mice. ### ### ### ### ### ### ### ### ### ### ### ### ### ### #### ### #### #### #### #### #### #### #### #### ######	Insulinotropic Polypeptide on Card and Fibrosis in Angiotensin II-Int	共著	平成28年8月			
0 #A & + (-TITLE F. p. q.)	Neointimal Hyperplasia by Attenuat Inflammatory Response Following Ad Endothelialization in Damaged Area	共著	平成29年6月	Showa Univ J Med Sci 2017;29 (2):107-117.		
2. 子芸免表 (評恤对冢牛皮のみ) 学会名 発表年・月 学会名	2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名		
Ⅲ 学会および社会における主な活動	Ⅲ 学会および社会における主な活動]		•		
平成14年1月~平成26年3月まで 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 専門委員	平成14年1月~平成26年3月まで	独立行政法人 医薬		構 専門委員		
平成18年4月1日~現在 公益社団法人日本薬学会 学術誌査読委員	平成18年4月1日~現在	公益社団法人日本	薬学会 学術誌査読	委員		
	平成24年4月~平成27年3月まで	公益社団法人日本	A. 益社団法人日本薬学会 学術誌編集委員			

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 横浜薬科大学 講座名	実務実習センター	職名	教授	氏名 原澤 秀樹
I 教育活動				
教育実践上の主な業績	真	年	月日	概要
1 教育内容・方法の工夫				
東京医科歯科大学歯学部歯学科 薬理学概説(3年次前期)			5年5月~ 9年5月	歯学部の学生に対して、治験を経て承認後に使用される医薬品の開発段階と臨床応用についてパワーポイントならびに配付資料で講義を行ってきた。
東京医科歯科大学歯学部歯学科 薬理学概説 (3年次前期)			8年5月~ 9年5月	歯学部の学生に対して、医薬品を取り扱う際の法令遵守や薬物治療上の注意事項、保管時の注意事項などについてパワーポイントならびに配付資料で講義してきた。
東京医科歯科大学歯学部歯学科 薬剤部実習概論(5年次後期)			2年11月~ 9年11月	歯学部の学生に対して、臨床実習の一環として集中講義並びに薬剤部実習を2回行ってきた。集中講義は5年生全員(54人)に対してパワーポイントならびに配付資料で3時間行い、実習の1回目は4人ずつのグループで14回に分けて薬剤部でSGD形式で行い、配付資料をもとに実際の医薬品を手に取りながら治療の内容に応じた剤形の違いや、抗菌薬の薬物療法についてディスカッションを行ってきた。実習2回目は4人ずつのグループで薬剤部実習を行い、実際の処方箋に基づいて調剤や医薬品管理の習得を指導してきた。
東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科 歯科薬理・薬剤学 (3年次前期)			5年7月~ 9年7月	歯科医師の治療を補助する歯科衛生士養成の4年制大学として、口腔保健学科の学生に対して医薬品の取扱いや関係法規に基づいた管理、歯科専用薬剤の特徴、ならびに医薬品の開発過程や薬害についてパワーポイントならびに配付資料で講義してきた。
横浜薬科大学 処方解析 I (5年次前期オムニバス) 処方解析 II (6年生前期オムニバス) 処方解析 (4年生後期オムニバス)		平成3現在	0年4月~	3学年の処方解析を3人の教員で分担しているが、原澤はそれぞれの学年で主に高血圧症、糖尿病、精神疾患を中心に疾病の概要、薬物治療の処方解析をパワーポイントならびに配付資料で講義している。また、処方解析を行う上で考慮しなければならない患者のアドヒアランスについても具体的な事例を提示しながらパワーポイントならびに配付資料で講義を行っている。
横浜薬科大学 リスクマネージメント論 (4年次後期オムニバス)		平成3現在	0年10月~	1単位のうち半分の5コマを原澤が担当し、左記の内容をパワーポイントならびに配付資料で講義している。毎回の授業では、臨床現場で不可欠な医療安全対策を具体的に提示しながら知識と意識を高める工夫を行っている。さらに、そのテーマに関連した国家試験の過去問題を数問提示し、リスクマネージメントの重要性を問題解説を行いながら行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 くすりと社会(共著、北樹出版)		平成2現在	6年10月~	明治薬科大学における総合人文社会科学(6年次前期)で学外講師として毎年1.5コマの講義(病院経営における病院薬剤師の貢献)を行っている。パワーポイントを使用して授業を行っているが、補助的に"くすりと社会"の記載内容を使用している。
3 教育方法・教育実践に関する発	表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事」 薬物乱用防止キャンペーン in 横浜	項	平成3 ~9月	0年7月21日 2日	横浜市、横浜市薬剤師会と本学の共催で開催したキャンペーン活動にアンケート部会の副部会長として参加した。桜木町駅前での広報活動並びにクイーンズスクエア横浜での啓発イベントにおいてアンケートを通じて広報活動を行った。

横浜薬科大学平成30年度FD·SD研修会		平成30年9月4日~ 5日	No.8に加わり "能力別議論した。総合討論で 業研究と演習講義の同	会(一泊二日)に参加、グループ 川クラス分けの在り方について" では"初年次教育について""卒 同立について""学力向上のため こついて"幅広い意見交換を行っ		
II 研究活動						
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称		
(著書) くすりと社会		共著	平成26年10月	北樹出版		
(著書)歯科アレルギーNOW		共著 編集委員	平成28年4月	デンタルダイヤモンド社		
(論文) 当院における経口抗菌薬の使 手術および抜歯手術以外での比較	共著	平成29年12月	歯科薬物療法学会			
(著書) 現代 歯科薬理学 第6版	共著	平成30年2月	医歯薬出版			
(著書) 歯科におけるくすりの使い方	(2019–2022)	共著	平成30年10月	デンタルダイヤモンド社		
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名			
(演題名) 日本人成人の血漿中EPA/AA ~2年間の啓発/啓蒙活動による変 取成31年3月 日本薬学会 第139年会						
Ⅲ 学会および社会における主な活動						
平成17年1月~現在	日本医療薬学会 認定薬剤師、指導薬剤師					
平成18年4月~現在	東京都病院協会 教育倫理委員					
平成19年11月~現在	学校法人明治薬科大学 評議員					
平成22年6月~現在	日本歯科薬物療法学会 評議員					
平成24年6月~平成30年5月	日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師					
平成26年1月~平成30年1月	江東ブロック病勤薬剤師会会長					
平成28年5月~現在	日本病院薬剤師会雑誌 査読委員					
平成28年6月~現在	明治薬科大学 同院	窓会(明薬会)副会	長			
平成30年6月~現在	日本歯科薬物療法	学会 編集査読委員				

教育および研究活動の業績一覧					
大学名 横浜薬科大学 講座名 機能形態学研究室	職名 教授	氏名	藤井	儀夫	
I 教育活動	<u> </u>				
教育実践上の主な業績	年 月 日		概	要	
1 教育内容・方法の工夫 機能形態学 1 (1年次前期) 機能形態学 2 (1年次後期) (カリキュラムの改訂により科目名変更)	平成25年4月~ 現在	て、講義の内容を理解 生に配布している。 請 学生が板書をノートす 聞き逃している状況が 板書する内容を全て 義の板書内容、図を全	な は	は位置付けている。従っ で最良と判断した図をが、 で最良と判断した図をが、 に集中して、図の説明を はいられる。 でしている。 でいる。 で生配布するで、 は理なく対応できるように は理なく対応できるように	
2 作成した教科書、教材、参考書機能形態学 1 (1年次前期) 講義資料機能形態学 2 (1年次後期) 講義資料	平成25年4月~ 現在	て、講義の内容を理解 生に配布している。 記学生が板書をノートす 聞き逃している状況が 板書する内容を全てる 義の板書内容、図を全	翼する上 構義こるを が多しと で で で で り し と し で り し で り し で り し で り し で り し り し で り し り し	:位置付けている。従っ :位置付けている。従っ :で最良と判断した図を学 :書を基本としているが、 :というれる。そこで、る。 :で学生に配布している。学生 :に配布することで、ように :理なく対応できるように	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項 横浜薬科大学平成30年度 FD・SD研修会 早期体験学習(1年次後期)	平成30年9月4日 ~5日 平成30年10月22日 10月29日	教育のい だい 大の で で で で で で で で で で で で で で で で で で	かかれ 返っ間所に 倹のめれ 、、す訪設の学ののがれ 、、すまの学	○業の中から1ヶ所を選択 ロアカリSBOIに準じて「様々 がため、各学生が病院と薬 することにした。そのた 一確保し、学生および引率 こめ、国試対策委員長に この引率は無かったが、今	
		年度久しぶりに学生を	・病院に	二二度連れて行った。	
Ⅱ 研究活動					
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)		発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	
(著書) 第99回 薬剤師国家試験一解答・解説集一	共著	平成26年9月	横浜薬	科大学国試対策室	
(著書) 第100回 薬剤師国家試験一解答・解説集一	共著	平成27年7月	横浜薬	科大学国試対策室	
(著書) 第101回 薬剤師国家試験一解答・解説集一	共著	平成28年11月	横浜薬	科大学国試対策室	
(著書) 第102回 薬剤師国家試験一解答・解説集一	共著	平成29年11月	横浜薬	科大学国試対策室	
(著書) 第103回 薬剤師国家試験一解答・解説集一	共著	平成30年7月	横浜薬	科大学国試対策室	
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)	•	発表年・月		学会名	
Ⅲ 学会および社会における主な活動					

	教育	および研究活動の業	績一覧
大学名 横浜薬科大学	講座名 臨床薬剤学研究室	職名 教授	氏名 増田 寛樹
I 教育活動		<u> </u>	
教育実践		年 月 日	概要
1 教育内容・方法のコ	夫		
本学着任前			
(高崎健康福祉大学 薬学	学部)		
平成25年度			
調剤学(講義)		平成25年4月~ 平成27年9月	(平成20年4月~平成27年9月)教科書(調剤学総論:堀岡正義著)を中心として展開しているが、すべてが充たされる訳ではないことから、パワーポイント及びワード等でテキストを作成し、補っている。その際、重要な箇所は、空欄(括弧)とし、講義内で学生が記載する形式としている。内容は「処方箋による調剤業務:概説(調剤の実際)、疑義照会と似て非なる医薬品、剤形、注射薬・輸液、医薬品の規制区分等」である。
製剤学実習(旧、製剤基礎 他5件	楚実習)	平成25年6月~ 平成27年9月	(平成20年6月~平成27年9月) 実習書Ⅱ(製剤学実習)に基づき、知識・技能を習得する。調製すること(ものづくり)により、製剤設計の基礎及び病院薬剤業務を学ぶ。内容は「病院薬局製剤(錠剤、軟膏剤、坐剤、外用液剤、点眼剤、注射剤等)の調製並びに各種試験法等」である。
平成26年度			
育薬倫理学(講義)		平成26年9月~ 平成27年3月	(平成21年9月~平成27年3月) 教科書(スキルアップのための妊婦への服薬指導)を補 うために、パワーポイント及びワード等でテキストを作 成し、実施している。その際、重要な箇所は、空欄(括 弧)とし、講義内で学生が記載する。内容は「1.薬害: サリドマイド被害者(増山ゆかり)による講義(11. マ) 2.妊娠時の服薬による胎児への安全性と危険性 3.授乳時の服薬による乳児への影響 4.薬剤疫学 5.臨 床試験(治験、医師主導型治験、市販後臨床試験、自主 臨床試験)等」である。
模擬薬局実習		平成26年9月~ 平成27年3月	(平成21年9月~平成27年3月) 実習書Ⅲ(模擬薬局実習)に基づき、実務実習(5年次:病院及び保険薬局における実習)の前に、知識・技能・態度を習得する。内容は「1.処方箋の受付 2.処方監査・疑義照会(処方箋の点検) 3.薬袋・薬札(ラベル)の作成 4.計数・計量調剤 5.調剤薬鑑査 6.調剤薬の支付 7.患者・来局者応対,情報提供 8.無菌操作の実践等」である。
他 5 件 亚 # 27 左 库			
平成27年度 実務事前学習 I (講義)		平成27年4月~ 平成27年9月	(平成21年4月~平成27年9月) 薬学教育モデル・コアカリキュラム D1に沿って実施している。外部講師(病院及び保険薬局の薬剤師)を招聘し、臨床の実際についての講義を実施している。内容は下1.処方箋と調剤 2.疑義照会 3.医薬品の管理と供給4.リスクマネージメント 5.服薬説明と患者応対等」である。加えて、薬学教育モデル・コアカリキュラムに含まれていない「病院薬剤師と臨床研究」を加え、実施していない「病院薬剤師と臨床研究」を加え、実施している。
卒業実習		平成27年4月~ 平成27年9月	ている。 (平成22年4月~平成27年9月) 卒業研究室に配属された学生に、 以下の研究テーマを提示している。1.『妊娠時の服薬に関する薬剤評価』対するデーベース構築 2.『授乳時の服薬に関する薬剤評価』に対するデーベース構築 3.妊娠及び授乳時の薬剤評価 4.レセプトデータにおける妊娠時の服薬に対する薬剤評価及び処方実態の調査等
他5件			

本学着任後		
平成28年度		
院内感染防御論	平成28年4月~ 平成29年3月	教科書を使用していないことから、パワーポイント及びワード等でテキストを作成し、実施している。その際、重要な箇所は、空欄(括弧)とし、講義内で学生が記載する。内容は「病院内における感染症対策、院内感染の事例、抗生物質の適正使用の推進、医薬品の微生物汚染防止及び消毒薬使用の推進等」である。
平成29年度		
薬事法規・制度 2	平成29年4月~現在	教科書を中心とした知識の領域(9コマ)並びにグループディスカッションによる知識及び態度の領域(1コマ)から構成している。前者は、医薬品医療機器等法、薬剤師法、麻薬・向精神薬取締法等である。後者の同様に、教員が作成したシナリオ・ワークシートを通しし、学生が自ら学ぶ。内容は「人と社会に関わる薬剤にして自覚を持って行動するために、薬剤師の果たすべき役割、求められる倫理観、薬剤師と医薬品等に係る法規範、社会保障制度と医療経済、地域における薬剤師の役割等」である。
他5件		
平成30年度 薬事法規・制度 1	平成30年4月~ 現在	知識に関する講義を3コマとし、知識及び態度をグループディスカッションの2コマで構成している。学生は、教員が作成したシナリオ・ワークシートの調査を行い、小討議を通し、学生自ら学ぶ。その集積として、ポートフォリオを作成している。なお、ポートフォリオの評価はルーブリック表を使用している。内容は「地域における薬局と薬剤師の役割を理解し、調剤、医薬品等(医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器)の供給、その他薬事衛生に係る任務を、薬剤師として適正に遂行するために必要な法規範とその意義の基本的な内容等」である。
他5件		
2 作成した教科書、教材、参考書		
調剤学	平成25年4月~	(平成20年4月~平成27年9月)
教科書を補うためのテキスト作成	平成27年9月	教科書 (調剤学総論:堀岡正義著) に記載されていない 箇所を補うために、テキストを作成している。すなわ ち、処方箋による調剤に関する知識と技能、医薬品医療 機器等法及び薬剤師法等との関わり、疑義照会、処方箋 の点検等である。
製剤学(旧,製剤基礎)実習	平成25年6月~	(平成20年6月~平成27年9月)
学生実習書Ⅱ:製剤学実習(旧、製剤基礎実習)の作成	平成27年9月	学生実習書 I:製剤学実習(旧、製剤基礎実習)を作成している。内容は「病院薬局製剤(錠剤、軟膏剤、外用液剤、点眼剤、注射剤等の調製)の調製(ものづくり)、調製・処方設計、機器の使用及び各種試験法等」である。
育薬倫理学	平成25年9月~	(平成21年9月~平成27年3月)
教科書を補うためのテキスト作成	平成27年3月	教科書(スキルアップのための妊婦への服薬指導)の補足並びに創薬の一部(治験・臨床試験)及び育薬に関するテキストを作成している。内容は「1.薬害(サリドマイド被害者による講義を含む)2.妊娠時の服薬による胎児への安全性と危険性 3.授乳時の服薬による乳児への影響 4.臨床試験(治験、医師主導型治験、市販後臨床試験、自主臨床試験)、Clinical Research Coordinatorとしての役割、Good Clinical Practice省令等」である。
模擬薬局実習	平成25年9月~	(平成21年9月~平成27年3月)
学生実習書皿:模擬薬局実習書の作成	平成27年3月	実務実習の前に、技能・態度を習得するために、学生実習書皿(模擬薬局実習書)を作成している。内容は「1. 処方箋の受付 2. 処方監査・疑義照会(処方箋の点検) 3. 薬袋・薬札(ラベル)の作成 4. 計数・計量調剤 5. 調剤薬鑑査 6. 調剤薬の交付 7. 患者・来局者応対・情報提供 8. 無菌操作の実践等」である。

字務事前学習 I	平成25年4月~	(平成21年4月~平成2	77年0日)
教科書を補うためのテキスト作成	平成27年9月	教科書(実務実習事前 ていない箇所をよるテ (外部講師によるテキ と調剤, 疑義薬説明と ジメント、服薬説明と た、薬学教育モデル・	デ習のための調剤学)に記載され めに、テキストを作成している。
院内感染防御論	平成28年4月~	を作成している。テキ 「院内感染対策」をも 対策に関連する資料を 生が空欄(括弧)を埋	いことから、オリジナルテキストストは、国立北海道大学病院のととしている。さらに、院内感染加えている。なお、テキストは学めながら学ぶ形式としている。ま高い薬剤師国家試験の設問を加え
オリジナルテキストの作成 リスクマネージメント論 オリジナルテキストの作成	平成29年3月 平成28年10月~ 現在	を作成している。テキ めながら学ぶ形式をと 国家試験の設問を加え (ピンポイント) であ	いことから、オリジナルテキストストは、学生が空欄(括弧)を埋り、本教科と関連性の高い薬剤師でいる。また、領域が狭い講義のことから、医療分野以外のリストが大郎著等)を加えている。
薬事法規・制度 2 教科書(薬学総論 II 薬学と社会)を補うためのテキスト 作成 グループディスカッションのためのシナリオ・ワーク シートの作成 ポートフォリオの作成及びその評価のためのルーブリッ ク表の作成	平成29年10月~ 現在	ているが、簡潔な内容 箇所を補うために、パ ストを作成している。 くべき法律」「リスク 故・調剤過誤対策、保 等」並びに「かかりつ	薬学と社会)を中心として実施しまにアレンジし、記載されていないの一ポイント及びワード等でておい、「法の構成」「薬剤師が知剤事でスネージメント、「無好変局における医療安全管理体制は薬局に関するシナリオ、ワークオ、ルーブリック表」等である。
薬事法規・制度 1 教科書(薬学総論 II 薬学と社会)を補うためのテキスト 作成 グループディスカッションのためのシナリオ・ワーク シートの作成 ポートフォリオの作成及びその評価のためのルーブリッ ク表の作成 3 教育方法・教育実践に関する	平成30年4月~現在	薬物に係る法規範地域 任に係る法規範につい 社会)に沿って、パワ トを作成している。ま 関連する「薬剤師法及	けと医薬品・特別な管理を要する における薬局の役割と薬剤師の責 って、教科書(薬学総論Ⅱ・薬学と ーポイント及びワード等でテキス た、グループディスカッションに び医療法」並びに「薬剤師の社会 ナリオ、ワークシート、ポート ク表」等である。
3,1,3,1,2,1,3,1,3,1,3,1,3,1,3,1,3,1,3,1,			
4 その他教育活動上特記すべき事項 高崎健康福祉大学FD研修会参加	平成25年4月~ 平成27年9月		(年1回):外部講師による講演 容の一部は「私立大学の生き残
本学FD(及びSD)研修会参加	平成28年8月~ 現在	(軽井沢)で開催され 受講である。自己啓発	平成29年(本学)及び平成30年 た本学主催のFD・SD 講習会等の に努めている。研修内容の一部は え方やニーズ及び佐々木圭一氏の 変える技術」である。
Ⅱ 研究活動		1	
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書)Pharmaco-vigilance 情報提供の重みを背負う 意識を有する薬剤師の育成	単著	平成26年3月	日本病院薬剤師会雑誌,2014, 53 (3)
(著書)論壇・育薬倫理学 — 薬を育て, 人を育てる —	単著	平成27年5月	薬事新報, 2015, 第2891号
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演壇名)妊娠時における Amoxicillin の服用に対する薬 in Pregnancy and Lactation (G.G.Briggsら) 改訂に対し		平成30年11月	日本医療薬学会・年会第28 (神戸)

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成25年4月~現在	日本医療薬学会「認定薬剤師」(平成11年1月~現在)
平成25年4月~現在	日本医療薬学会「指導薬剤師」(平成14年1月~現在)
平成25年4月~平成27年3月	公立藤岡総合病院治験審査委員会委員(平成19年5月~平成27年3月)
平成25年4月~平成27年3月	群馬県登録販売者試験問題作成委員(平成21年4月~平成27年3月)
平成25年7月~平成27年9月	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(主催:関東地区調整機構,高崎健康福祉大学)の 開催における企画及び運営並びに教育評価及びタスクフォース担当
平成25年4月~平成25年11月	日本病院薬剤師会東北ブロック第3回学術大会(秋田): 妊婦・授乳婦領域シンポジウム・オーガナイザー「薬剤評価に基づいた妊婦・授乳婦薬物療法」
平成26年4月~平成27年3月	公立藤岡総合病院倫理審査委員会委員(平成26年4月~平成27年3月)
平成26年9月~現在	日本医薬品安全性学会・評議委員 (平成26年9月~現在)
平成29年9月及び平成30年10月	高崎健康福祉大学 薬学部・同大学院保健医療学研究科:テーラーメイド医療学(講義1コマ)

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 横浜薬科大学	講座名 実務実習センター	職名 教授	氏名 山口 友明	
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概要	
■以 田 久 丁 八 十 天 十 □)		平成25年4月~ 平成27年3月	実施時期:薬学科4年前期、2単位。 卒業後、患者のための医療を担う薬剤師として活躍するために、病院実務実習・薬局実務実習に先立って、 大学内で薬品管理、製剤、服薬指導および臨床薬剤師 に必要な基本的な事項を学び、安全かつ適切な薬物療 法に寄与できる能力を身につけることを目標として授 業を行った。特に、患者中心の医療であるチーム医療 やファーマシューティカルケアを重視し、臨床薬剤師 になるために必要な知識を修得できるように講義だけ でなく、演習やシミュレーション、グループディス カッションなどを取り入れた。	
他12件				
薬学概論		平成25年4月~ 平成27年3月	実施時期:薬学科1年前期、2単位。医療倫理、ヒュマニズムを中心に薬剤師論も含め、クリッカーを使った学生参加型の授業を行った。授業の最後には、演習問題をクリッカーで行い、学生全体の理解度を確認し、次回の授業に反映させた。	
横浜薬科大学薬学部臨床薬剤学		平成28年4月~ 平成31年3月	実施時期:漢方・臨床・健康薬学科6年前期、1単位。 患者への安全かつ適切な薬剤の適用を学ぶために、実 務実習を終えた学生へのアドバンスとして症例検討を 実践的な角度から学習する。実践力・応用力の修得を 目標として指導。TBLを取り入れた学習を実施した。	
処方解析		平成30年4月~ 平成31年3月	実施時期:漢方・臨床・健康薬学科4年後期、1単位。 有意義な実務実習患者を体験するために、代表的な疾 患の症例に対して、薬学的見地からの実践的な解析を 修得を目標として指導。 課題レポートも出題した。	
他13件	htt			
2 作成した教科書、教 薬剤学実習 2	XM 、参考書	平成30年9月	(共著)横浜薬科大学3年生の教科「薬剤学実習2」の 教科書	
薬学生のためのフィジカル	レアセスメント2018	平成30年9月	(共著)横浜薬科大学3年生の科目「フィジカルアセスメント」の教科書	
3 教育方法・教育実践	************************************			
鎌倉市薬剤師会指導者研修 教育と実務実習に向けた耶	§会「改訂コアカリ対応の薬学 双り組み」	平成29年4月	鎌倉市薬剤師会実務実習指導者研修会	
旭区薬剤師会「改訂コアカ に向けた取り組み」	コリ対応の薬学教育と実務実習	平成29年4月	旭区薬剤師会実務実習指導者研修会	
戸塚区薬剤師会学術大会「改訂コアカリ対応の薬学教育 と実務実習に向けた取り組み」		平成30年7月	戸塚区薬剤師会学術大会での発表	
他10件				
4 その他教育活動上特	詩記すべき事項			
第18回応用薬理 第18 テライトシンポジウム	回応用薬理 シンポジウム サ	平成28年8月	オーガナイザーとしてシンポジュウムを統括	
	責集「臨床系大学教員の高大連 R識と動機づけを目指した出張 J組みとその考察ー」		平成27年度横浜薬科大学高大連携業績集に掲載	
市民講座「薬学への招待」		平成29年9月	神奈川県市民講座	

市民公開講座「今、服用している薬は ますか?薬の副作用を回避するために	あなたに合ってい 知っておくこと」	平成29年12月	横浜薬科大学市民講座	<u>E</u>
平成30年度第7回認定実務実習指導薬剤師のためのアド バンストワークショップ(神奈川)		平成30年6月		が会場責任者として認定実務実習 ストワークショップへの関与
他10件				
Ⅱ 研究活動				
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(雑誌)薬学6年制における薬剤師国家 将来の薬剤師に期待するものとは?	対験のあり方と	単著	平成26年9月	薬事新報 No. 2854号、p5-p6
(論文) 広島県における2型糖尿病治療の処方動向調査	寮でのDPP-4阻害剤	共著	平成26年12月	Diabetes Frontier Online 2巻, e1-013
(論文)保険調剤薬局における電子薬 た喘息用吸入薬指導情報ツール(ポッム)の効果的使用と患者アドヒアラン	プアッププログラ	共著	平成27年2月	Progress in Medicine 36巻 2号 P.129~P.135
(著書)処方管理学		共著	平成29年4月	南山堂
(雑誌)改訂モデル・コアカリキュラ ける効果的な評価と今後の課題	ムの実務実習にお	単著	平成30年12月	薬事新報 No. 3077号、p5-p6
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名	
(演題名)妊娠時における Amoxicillin の服用に対する薬剤評価— Drugs in Pregnancy and Lactation (G.G.Briggs ら) 改訂に対して—		平成30年11月	第28回日本医療薬学会年会	
(演題名) H31年度病院実務実習評価に向けた院内での体制整備と評価表運用の構築~学習者へのメリットを生かした指導体制の構築~		平成31年1月	第17回神奈川薬剤師学術大会	
(演題名) ヒューマニズム・倫理教育におけるデュアル授業の成果と運用課題講義、アクティブラーニング、ポートフォリオの併用			平成31年3月	第25回大学教育研究フォーラム
Ⅲ 学会および社会における主な活動				
平成25年4月~平成27年3月	日本薬学会代議員			
平成11年1月~現在	日本医療薬学会	認定薬剤師 指導薬	<u></u> 剤師	
平成22年1月~現在	ICD制度協議会	認定ICD		
平成22年3月~現在	平成22年3月~現在 日本化学療法学会 抗菌化学療法認定		 薬剤師	
平成27年4月~平成28年3月	薬学教育協議会	薬学と社会教科担当	当会議委員(横浜薬科大学薬学部)	
平成27年4月~現在 薬学教育協議会 医薬品情報学教科技		医薬品情報学教科担	B当会議委員(横浜薬科大学薬学部)	
平成28年4月~現在	平成28年4月~現在 薬学教育協議会 実務実習教科担当			薬学部)
平成28年4月~現在	関東地区実務実習記	調整機構大学委員(横浜薬科大学薬学部)	

薬事法規・制度 2 (3年次後期) 現在 い、に基 治験業務論 (5年次後期) 平成29年4月~ 臨財 現在 家記事内 Pow Pow	名 山田 博章 概 要				
教育実践上の主な業績 年月日 1 教育内容・方法の工夫 薬事法規・制度1(3年次前期) 平成29年4月~ 薬剤 現在 いいにも はいいには はいい にも はいい はいい はいい はいい はいい はいい はいい はいい はいい はい	概 要				
1 教育内容・方法の工夫 薬事法規・制度 1 (3年次前期) 平成29年4月~ 薬剤 薬事法規・制度 2 (3年次後期) 現在 によ 治験業務論 (5年次後期) 平成29年4月~ 臨済 家計事中 Pow	概要				
薬事法規・制度 1 (3年次前期) 平成29年4月~ 薬剤 薬事法規・制度 2 (3年次後期) 現在 い、に基 治験業務論 (5年次後期) 平成29年4月~ 臨床 現在 現在					
薬事法規・制度 2 (3年次後期) 現在 い、に基 治験業務論 (5年次後期) 平成29年4月~ 臨床 現在 家家家事内 Pow Pow					
現在 家記 事内 Pow	剤師や実務実習生が遭遇する実例を題材にSGDを行 、学生が作成したポートフォリオをルーブリック表 基づいて評価した。				
	床薬学科のみのオプションの講義であり、薬剤師国 試験の範囲に囚われず、治験業務に必要な知識や仕 内容について具体的にイメージできるよう werPointスライドを作成して講義を行った。スライ 原稿は講義前に学生に配布している。				
現在 様に て解 ク/ した	werPointスライドを作成して講義を行い、スライド稿は講義前に学生に配布している。各項目の説明のに過去10年間の薬剤師国家試験問題を演習問題とし解かせ、知識の定着を図った。また、医薬品のリスノベネフィット評価を題材にSGDを行い、学生が作成たポートフォリオをルーブリック表に基づいて評価た。				
他1件					
現在師ほ	義はPowerPointスライドを用いて行っている。薬剤 国家試験の範囲に囚われず、治験業務に必要な知識 仕事内容について具体的にイメージできるよう、歴 や背景、図表を多用して講義資料を作成している。				
現在の楽り	義はPowerPointスライドを用いて行っている。過去 薬剤師国家試験を調査したうえで、重要な点がわか やすいようまとめている。また過去10年間の薬剤師 家試験問題も講義資料に加えている。				
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項	_				
会) 現在 の年	全国薬学部の法規・制度・倫理を担当する委員で、その年の薬剤師国家試験問題の適切性について検討し、 最近の薬事行政についても理解を深めた。				
現在り、	国薬学部の「薬学と社会」教科担当者の代表が集ま 、当該教科の各大学での教育方法、内容について紹 し、検討を行った。				
現在	国薬学部のレギュラトリーサイエンス分野科目担当 の代表が集まり、当該教科の各大学での教育方法、 容について紹介し、検討を行った。				
~5日 義 <i>の</i>	大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、初年が教育、能力別クラス分けの在り方、卒業研究と演習記義の両立、学力向上のための授業の組み立ての見直しについてグループに分かれて議論した。				
Ⅱ 研究活動					
	発行または発表の 年月(西暦でも可) 発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称				
(論文) Significant Differences in Drug Lag in Clinical Development Among Various Strategies Used for Regulatory Submissions in Japan	成26年5月 Clin. Pharmacol. Ther. Vol.95 No.5				
(論文) 医薬品添付文書の重大な副作用の追記に影響を 及ぼす要因の解析 共著 平成	成29年6月 医薬品情報学 Vol. 19 No. 1				

(論文) Examination of time-to-ons interstitial lung disease, cerebra and gastrointestinal hemorrhage in patients with atrial gibrillation direct oral anticoagulant using da Japanese adverse drug event report database.	l hemorrhage, very elderly treated with ta from the	共著	平成30年5月	Regulatory Science of Medical Products Vol.8 No.2
(論文) Relationship between the r various PMDA consultations in rece approval cases in japan.		共著	平成30年6月	Therapeutic Innovation & Regulatory Science Vol.52 No.6
(著書) 第103回 薬剤師国家試験 -	一解答・解説集一	共著	平成30年7月	横浜薬科大学 国試対策室
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名
(演題名) Examination of time-to-onset of cerebral hemorrhage and gastrointestinal hemorrhage in very elderly patients with atrial fibrillation treated with direct oral anticoagulant using data from the Japanese Adverse Drug Event Report (JADER) database.		平成30年8月	欧州心臓病学会2018	
(演題名) 最近の新医薬品の承認事例にみる承認審査期間と各種対面助言と の関係			平成31年3月	日本薬学会第139年会
(演題名)医薬品副作用自発報告データベース(JADER)を用いた漢方製剤 における間質性肺炎の発現状況に及ぼす添付文書改訂の影響の検討			平成31年3月	日本薬学会第139年会
(演題名) 医薬品副作用自発報告データベース (JADER) を用いた漢方製剤 における肝臓系の有害事象の発現状況に及ぼす添付文書改訂の影響の検討			平成31年3月	日本薬学会第139年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動				
平成4年4月~現在 日本薬理学会 学術評議員				
平成22年8月~平成27年7月 レギュラトリーサイエンス学会 運営			委員会委員	
平成30年8月~現在	日本薬学会レギュ	ラトリーサイエンス	部会 常任世話人	

	教育	『および研究活動の業	套積一覧
大学名 横浜薬科大学	講座名 実務実習センター	職名 准教授	氏名 岡田 賢二
I 教育活動			
教育実置	浅上の主な業績	年 月 日	概要
1 教育内容・方法の3 医療と法律(1年)	工夫	平成25年4月~ 現在	板書およびパワーポイントをによって講義を行っている。法律の条文を板書することが困難なため、法律の条文は教科書を用い、条文の要約をパワーポイントを用いて説明している。1年次の選択科目であるため、講義では薬事関連法規のみの内容に終始することなく、薬事、医療、保健、福祉、科学に関する社会学的内容を取り入れ、3年次に履修する薬事関連法規の入門として授業を行った。難解な法解説を平易にまとめたプリントを作成し解説した。
地域薬局論(5年)		平成25年4月~ 現在	本講義では、講義のみならずグループ検討を取り入れている。薬局実習で体験したことを踏まえて、地域薬局の役割、今後の地域薬局の在り方について議論させている。プロダクトに対して解説し、アドバンス的な内容としている。
地域保健論(6年)		平成25年4月~ 現在	実務実習で学んだ病院でのチーム医療の学習内容を、地域医療および介護・福祉に関する多職種連携にまで拡大したアドバンス的な講義を行っている。地域での薬剤師の職能の多様性を理解させるために、医療、保健のみならず、福祉に関する内容も講義している。
実務実習(5年)		平成25年4月~現在	病院実務実習では、病院薬剤師の業務と責任を理解し、チーム医療に参画できるようになるために、調剤および製剤、服薬指導などの薬剤師業務に関する基本的知識、技能、態度を修得するための指導を行っている。また、薬局実習では、薬局の社会的役割と責任を理解し、医療に参画できるようになるために相談、医療機関をできるようになるために相談、医療機関や地域との関かりについての基本的な知識、技能、よび実別での関心でで、事計導方法についるのが、といいる。また、学生との表が、といいのでは、といいのでは、といいのでは、といいのでは、といいのでは、といいのでは、といいのでは、といいのでは、といいのでは、といいの、といいのでは、といいの、といいのでは、といいの、といいのでは、といいのといいのでは、といいのでは、といいのでは、といいのでは、といいのでは、といいのといいのは、といいのといいでは、といいのでは、は、はいいのでは、といいのでは、といいのでは、といいのでは、といいのでは、はいいの、といいのでは、はいいいの、といいのでは、はいいいは、といいは、といいのでは、といいでは、といいのでは、はいいいは、といいでは、といいでは、といいでは、はいいいは、といいは、はいいは、は
薬剤学実習 I (3年) 薬剤学実習1 (3年) (カリキュラムの改訂に。	より科目名変更)	平成25年4月~ 現在	本実習は、実務実習に先立ち、院内製剤などの調製法の実際、デバイスを用いて使用する製剤の取扱い方法、ケミカルハザード回避の基本的手技などを体験しその技術を修得すること、製剤の品質評価に関する基礎的知識と技能を修得することを目的に行う。個別に無菌製剤の調製ができるよう、体験させる実習を行っている。実習を行うことで製剤学、薬剤学の講義で学んだ知識をベースに技能を習得を図っている。
薬学概論(早期体験学習)	(1年)	平成25年4月~ 現在	薬学生として必要な知識、技能、態度の修得に対するモチベーションを高め、将来の目標を明確にするために、卒業後に携わることになるであろう様々な施設を訪問し、医療や福祉の現状や環境を身近に感じることで、消師としての使命感と高い倫理観を見聞する、教育指導を行っている。施設訪問見学の前後にグループディスカッションを行うことで自分の意見を言い他者の意見を傾聴する習慣を醸成し、訪問前の討議では医療を受けしてる。学生が6年間の学びの目標を明確にするためにの、薬局・病院での早期体験およびSGDの指導を行っている。また、病院施設見学の引率教員の割り振りを行っている。

薬事法規制度1(3年)	平成29年4月~ 現在	地域における薬局と薬剤師の役割を理解し、調剤、医薬品等(医薬品、医薬剤師の役割を理解し、調剤、医薬給、その他薬事衛生に係る任務を、薬剤師としての選びするために必要な法規範とその意義の基本的な内容を理解させる講義を行っている。薬剤師の果たする役割、薬剤師の役割等について、講義上を図っている。その一次の一ポイントを用い、学薬別・生薬剤のでいる。との関連性を概説した。より理解を深めるためにゲィスカッションを行い、実臨床を想定したディスカッションを行い、実臨床を想定したディスカッションを作成した。
感染症治療学(3年)	平成29年4月~ 現在	病原微生物(細菌、ウイルス、真菌、原虫)に作用する 医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本 的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析およびと 薬品の適正使用に関するとを 自的として講義を展開している。微生物学、微生物薬品 学を基礎とし、患者背景、原因微生物、感染臓器を考慮 した感染症治療のプロセス、抗菌薬の選択と投与計画、 治療効果の評価および副作用モニタリングの考え方を概 説している。
疾患別治療特論1(4年)	平成30年4月~ 現在	患者に安全かつ適切な薬物療法を提供するために、代表的な疾患治療のガイドライン等を用い、患者の重症度にあった治療方針を提案できる実践能力を身に付けることを目的に講義を展開している。感染症治療における薬学的管理の実践能力を身に着けるために、感染症治療ガイドライン、抗菌薬TDMガイドラインについて解説し、症例検討、グループ討議と症例発表を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書		
医療と法律 講義資料	平成25年4月~ 現在	板書およびパワーポイントをによって講義を行っている。法律の条文を板書することが困難なため、法律の条文は教科書を用い、条文の要約をパワーポイントを用いて説明している。医療経済に関する統計資料は、可能な限り最新のデータに改訂している。
地域薬局論 講義資料	平成25年4月~ 現在	地域薬局論に関する教科書は極めて少ない。そのため、 講義では教員が作成した独自の資料を講義資料としている。社会における薬剤師の意義、活動をより深く理解させるため、講義資料には解説、イラスト、図、写真を取り入れ、視覚的に理解しやすいようにしている。
地域保健論 講義資料	平成25年4月~ 現在	地域保健に関する教科書は極めて少ない。本講義では医療、保健、福祉の関連性を考察させることを目的としている。そのため、講義では教員が作成した独自の資料を講義資料としている。講義内容をより深く理解させるため、講義資料には解説、イラスト、図、写真を取り入れ、視覚的に理解しやすいようにしている。
薬剤学実習 I 実習書	平成26年~ 現在	無菌調製領域の実習書の改訂を行った。注射剤、注射剤の製造法、注射剤の投与経路、注射剤の不溶性異物検査法、汚染からの回避、無菌製剤室について、定期的に内容を見直し改訂している。
薬事法規制度1 講義資料	平成29年4月~ 現在	薬剤師業務・活動と薬事関連法規との関連性の理解を高めるために、教員が作成した独自の講義資料を作成した。講義内容をより深く理解させるため、講義資料には解説、イラスト、図、写真を取り入れ、視覚的に理解しやすいようにしている。また、臨床現場で想定されるシナリオを作成し、グループ討論のテーマとしている。
感染症治療学 講義資料	平成29年4月~ 現在	感染症治療学・抗菌化学療法の教科書を用いて講義を 行っている。感染症治療は、病態、病し、性性 法、診断法、抗菌薬の選択と用法用量、副作用に至る、 学習する領域が広範囲である。そのため、教科書の内容 を要約した講義資料を作成し、パワーボンとを用いて講 義している。講義内容をより深く理解させるため、講義 資料には解説、イラスト、図、写真を取り入れ、視覚的 に理解しやすいようにしている。
疾患別治療特論1 講義資料	平成30年4月~ 現在	疾患別治療特論1では教科書を使用していない。そのため、教員が独自に講義資料を作成している。感染症治療ガイドライン、抗菌薬TDMガイドライン、感染症治療のストラテジーに関する講義資料を作成した。また、症例検討のシナリオ、解説資料を作成した。

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
医薬品開発のためのPPK・PD研究会	平成29年8月	初心者コースの講師と クチャーした。また、 をした。初心者コース ントロールファイルの	kinetics解析の初心者を対象に、 して共変量探索の実施についてレ チューターとしてHands onの指導 ではNOMEMプログラムの起動、コ で成、解析、結果の評価という一 法の修得を目的とした。
神奈川県立学校保健会	平成29年11月		「保護者を対象に、「身近な薬と食・マに、適正なセルフメディケー た。
薬物治療モニタリング研究会 第113回例会	平成30年2月	態の特性について講演 代謝酵素・アルブミン 薬物動態との関連性、	fす肝疾患の病態と病態時の薬物動 をした。肝障害における肝血流量・ ・・肝トランスポータの量的変化と 添付文書情報を利用した病態時の 基づく投与計画、Child-Pugh分類 って解説した。
江戸川区薬剤師会認定実務実習指導薬剤師 レベルアップ講習会	平成30年2月		「OBEに基づいた参加・体験型実 考え方」について講演した。
江戸川区薬剤師会認定実務実習指導薬剤師 レベルアップ講習会	平成30年6月		「トライアル実習の進め方 〜 た概略評価の考え方〜」について
4 その他教育活動上特記すべき事項			
第8回認定指導薬剤師養成ワークショップ	平成25年8月		な教育方法、学習目標、学習方 議を受け、グループ討論を行っ
OSCE直前評価者講習会	平成25年~現在	4年次共用試験OSCEを実施する際に必要な評価方法等に ついて、OSCE評価者に説明した。	
関東地区調整機構実務実習のためのワークショップ	平成28年8月	改訂コアカリキュラム 評価基準についてグル	に基づく実務実習の実施における ループ討議を行った。
横浜薬科大学 平成28年度 FD・SD研修会	平成28年8月23日~ 24日	力を持った学生の指導 生成期評価、良好な学	(一泊二日)に参加し、多様な学 注法、カリキュラムマップと妥当な 習環境を整えるために教職員が組 かいてグループに分かれて議論し
医療人養成としての薬学教育に関するワークショップ	平成30年3月		のための学習方法、学習成果の評 け、グループ討論を行った。
第23・24回 認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ	平成30年9月		Iア・カリキュラムに準拠した実務 に、学習目標の設定、方略、評価に ループ討論を行った。
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Clinical practice guidelines for therapeutic drug monitoring of arbekacin: A consensus review of the Japanese Society of Chemotherapy and the Japanese Society of Therapeutic Drug Monitoring.	共著	平成26年1月	J Infect Chemother vol.20 No.1
(論文) 保険薬局の医療への貢献に関する実態調査	共著	平成26年12月	日本地域薬局薬学会誌 第2巻 第2号
(論文) ガバペンチン錠粉砕製剤の物理化学的安定性に 関する検討	共著	平成27年12月	日本地域薬局薬学会誌 第3巻 第2号
(著書)抗菌薬TDMガイドライン改訂版	共著	平成28年6月	公益法人日本化学療法学会
(著書) 医薬品副作用アセスメント	共著	平成30年5月	南山堂
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)	· ————————————————————————————————————	発表年・月	学会名

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成20年1月~現在	薬物治療モニタリング研究会幹事
平成22年1月~現在	日本医療薬学会認定薬剤師
平成22年3月~現在	日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師
平成22年4月~現在	日本病院薬剤師会感染制御専門薬剤師
平成24年9月~平成26年9月	日本化学療法学会 抗菌薬TDMガイドライン委員会委員
平成26年1月~現在	日本医療薬学会認定指導薬剤師
平成27年7月~現在	日本医薬品安全性学会評議員・社員(会則改定により社員に改名)
平成27年11月~現在	学校法人明治薬科大学 評議員
平成30年5月~現在	日本TDM評議員

教育および研究活動の業績一覧					
大学名 横浜薬科大学 講座名 臨床薬剤学研究室	職名 准教授	氏名 桑原 弘行			
I 教育活動					
教育実践上の主な業績	年 月 日		概 要		
1 教育内容・方法の工夫					
医薬品副作用学(4年·前期)	平成25年9月~ 平成30年3月	医薬品投与にともなう副作用の予兆を素早く発見し 対応できるように学習する。			
医療と栄養 (6年・前期)	平成25年9月~ 平成30年3月	疾患ごとの栄養療法に 学習する。	こついて各ガイドラインを中心に		
薬剤学実習1(3年前期)	平成25年9月~ 平成30年3月	代表的製剤の調整法・	技術を習得する		
薬剤学実習2(3年後期)	平成25年9月~ 平成30年3月	薬剤師の職務や立場を	を正しく理解する		
実務実習プレ教育	平成25年9月~ 平成30年3月	実務実習に先立って知	ロ識·技能·態度を習得する		
2 作成した教科書、教材、参考書					
図解 薬害・副作用学 南山堂	平成29年9月	医薬品副作用学授業方	テキスト		
薬剤学実習1	平成30年3月	薬剤学実習1テキスト			
薬剤学実習2	平成30年7月	薬剤学実習2テキスト			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
Ⅱ 研究活動	1				
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称		
(論文) 医療現場におけるUGT1A1遺伝子多型の実態調査 について	共著	2015年11月	応用薬理89.105-107		
(著書)図解 薬害・副作用学	共著	2017年9月(2版)	南山堂		
(論文) 第二世代抗てんかん薬の副作用②	共著	2018年9月	薬局69. 3086-3093		
(論文) 抗てんかん薬と妊娠	共著	2018年10月	薬局69. 3245-3252		
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名		
Ⅲ 学会および社会における主な活動					

	教育および研究活動の業績一覧				
大学名 横浜薬科大学	講座名 実務実習センター	職名 准教授	氏名 渋谷 昌彦		
I 教育活動	•				
教育実践	美上の主な業績	年 月 日	概要		
1 教育内容・方法のこ	工夫				
悪性腫瘍治療学(4年前期)	平成30年4月~ 現在	今年度からはじめて担当する教科で、私の印象では、学生が学ばなければならない内容は広範囲にわたり、新しい情報も多いため、その対策を考えた。具体的には、共用試験レベルの内容を確実に習得できるようにすることを目指し、各項目ごとに要約と練習問題を付けるようにした。また、5年次の臨床実習において、患者に対して悪性腫瘍治療を説明できるような講義内容はた。更に、今後、国家試験に出題の予想される最近のがん関連の情報(免疫療法など)にも触れ、動画を利用し、理解を助けるようにした。		
処方解析Ⅱ (6年前期オム	ニバス)	平成30年5月~ 現在	悪性腫瘍治療学と同様に、今年度からはじめて担当する教科で、症例検討・処方解析の基本的手法と実践に着目し、5年次臨床実習の総括として位置づけた講義を行った。また、国家試験対策的な内容(過去問等)も網羅するようにした。		
2 作成した教科書、	数材、参考書 数材、参考書				
悪性腫瘍治療学 講義資料	य	平成30年4月~ 現在	今年度は、パワーポイントを用いて授業を行ったが、 事前準備が不十分であった。学生の授業アンケートを 基に、次年度は、重要な点を明確にする等改善を図っ ていく。また、CBTに対応できるように毎回要点の資料 を配布し、理解を補ったが、継続してまとめと単元毎 の確認テストは行っていく。		
処方解析 Ⅱ 講義資料		平成30年5月~ 現在	以前、厚生労働科学研究で作成した疾患別研修教材を 参考として講義資料を作成し、講義を行った。次年度 以降は、内容を最新の情報で補い対象疾患を増やした い。また、国試の問題も取り入れ対応したいと考え る。		
3 教育方法·教育実践 横須賀共済病院薬剤科新- 説明会	浅に関する発表、講演等 Eデルコアカリキュラム	平成30年10月	施設より依頼されたテーマは、「改訂薬学教育モデルコアカリキュラムから学生病院実習に今後求められること」内容としては、①新コアカリの改訂ポイント、②大学の先生方から期待する病院薬剤師による学生教育などを中心に説明を行い、来年度から実施されるルーブリック評価についても説明を行った。		
4 その他教育活動上物					
	関東地区調整機構認定実務実 ドバンストワークショップ(神		実務実習の質を担保するため、実務実習で薬学生の受入をする施設ではアドバンストワークショップを修了した指導薬剤師が常勤していなければならない。今回、大学教員として参加し、改訂コアカリでの実務実習の考え方を理解した。		
病院連携検討WG		平成30年5月~	教育・研究および社会貢献活動を行う上で、附属病院をもたない本学にとって、学生教育の質的向上、教職員の質的向上、人材の育成や地域社会への貢献を実行できる病院との連携が重要であることから発足し、提携病院の策定を行っている。		
薬学生病院実務実習指導 リキュラムに対応した実績	書 2018 と改訂モデル・コアカ 8実習に関する説明会	平成30年9月	薬学生病院実習検討委員会の作成した6年制薬学教育における実務実習モデル・コアカリキュラムに準拠した改訂実習指導書および実務実習に関する説明会に参加した。		
平成30年度 横浜薬科大学 セスメント実技演習」	学卒後教育講座「フィジカルア	平成30年9月	フィジカルアセスメントの実践的な能力の養成を目的 とした公開講座の運営を行った		
早期体験学習(1年次後期)	平成30年11月~ 12月	平成27年度から改定薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した教育が開始され、本学1年次の早期体験学習として病院への引率を3回実施した。		

模擬患者(SP)養成講習会		平成30年12月	4年次共用試験OSCEを実施する際に必要な模擬患者成を、在学生と利害関係のない地元住民に対してた。	
Ⅱ 研究活動		•		
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) 第103回 薬剤師国家	家試験一解答・解説集一	共著	平成30年7月	横浜薬科大学 国試対策室
2. 学会発表(評価対象年度	のみ)		発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における	主な活動		•	
平成21年6月~	認定実務実習指導	認定実務実習指導薬剤師		
平成30年6月~	全公立展2018 (パ	全公立展2018 (パシフィコ横浜) 運営		
平成30年7月~	モバイルファーマ	モバイルファーマシープロジェクト メンバー		
平成30年7月~	災害時医薬品等管	災害時医薬品等管理·運営WG 委員		
平成30年8月~	子ども薬剤師体験・	子ども薬剤師体験セミナー(横浜薬科大学)運営		
平成30年8月~	親子で体験ワクワ	親子で体験ワクワクけんこうフェスタ 子供薬剤師体験(戸塚区 区民広場)運営		
平成30年9月~	薬物乱用防止キャ	薬物乱用防止キャンペーン in 横濱 運営		
平成30年12月~	昭和薬科大学0SCE	昭和薬科大学OSCE 評価者		

	教育お	よび研究活動	の業績	真一覧	
大学名 横浜薬科大学 講座名 薬	剤学研究室	職名 准教授	Ž	氏名	難波 昭雄
I 教育活動					
教育実践上の主な業	績	年 月	日		概要
1 教育内容・方法の工夫					
薬剤学実習 1 (3年前期)		平成25年4月· 現在	~	修得を目指し、主に注 毒、滅菌、無菌操作法 がん剤調製の計算や手	に関連する知識・技能・態度の 計割の無菌調製に必要な、消 の概念や手技の習得に努め、抗 技、配合変化に関する知識とそ 情義、実習を通じて学ばせてい
薬剤学実習 2 (3年後期)		平成25年9月· 現在	~	実務実習に対応できる	t・技能・態度を修得し、OSCEや が能力を身につけるよう、主に注 かに指導を担当している。
他6件					
2 作成した教科書、教材、参考書 薬剤学実習 I 実習書(平成25年版、26 年版、29年版、30年版)横浜薬科大学	年版、27年版、28	平成25年~現	祖在		⁻ る教科書を、無菌領域を中心に : して編集作業も代行しながら、
薬剤学実習Ⅱ実習書(平成25年版、26年版、27年版、28年版、29年版、30年版)横浜薬科大学		平成25年~現	在	調剤学の実習で使用する教科者を、無菌調製、抗がん 剤の調製、配合変化等を中心に執筆し、筆者の代表と して編集作業も代行しながら毎年改訂している。	
他 1 件					
3 教育方法・教育実践に関する発 					
4 その他教育活動上特記すべき事	項				
Ⅱ 研究活動		!		!	
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	IJ	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文)薬剤溶出性ステント(DES) / さい。	こついて教えてくだ	単著		平成25年7月	神奈川県薬剤師会会誌(133)
(論文) がんを光らせる「蛍光プロー てください。	ブ」について教え	単著		平成29年7月	神奈川県病院薬剤師会雑誌 (145)
(論文) 薬草探索と横浜植物会とのか	かわり	単著		平成29年12月	薬事新報 (3025)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)				発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動					
平成25年4月以前~現在	公益社団法人神奈川	川県病院薬剤	师会	学術情報委員会 委員	(平成29年より副委員長)
平成25年4月以前~現在	かながわ薬剤師学行	術大会(毎年1	月開催	崔) 実行委員(平成2	9年より運営役員)
平成25年4月以前~現在				局実務実習関東地区調 ・チーフタスクフォー	整機構 認定実務実習指導薬剤師 ス
平成25年4月以前~現在 横浜植物会 運営委員					
平成25年6月~現在	公益社団法人神奈川	川県薬剤師会	実務	実習委員会 委員	
平成25年6月~現在	一般社団法人薬学 小委員会 委員	教育協議会 🦸	病院薬	局実務実習関東地区調	整機構 実務実習指導薬剤師養成
平成27年1月~現在	一般社団法人横浜ī 員会委員	市薬剤師会 🦸	薬草探	索健康ウォーキング横	浜 講師・健康ウォーキング小委
平成28年4月~現在	漢方EBM研究会 幹	*事			
	一般社団法人横浜で	市薬剤師会 7	生宅医	療介護保険委員会 委	員

教育および研究活動の業績一覧					
大学名 横浜薬科大学	講座名 薬物動態学研究室	職名 准教授	氏名	西 弘二	
I 教育活動					
教育実践	上の主な業績	年 月 日	4	既要	
***************************************		平成25年4月~ 平成30年9月	薬物速度論に関する実験を行い、その解析方法おび得られたデータの妥当性を検討する。さらに薬速度論に関する一般的な知識から問題を解く力をう。これまでの授業と比べて、実際に自分たちでたデータを解析するため、これまで薬物速度論が手であった学生にも非常に有益である。		
薬学英語Ⅱ (2年)		平成26年4月~ 平成27年9月	薬学における科学英語の重要性の周知と、科学英語論文の理解に必要な語彙力、読解力の向上を目的としてテキスト等を使った授業を行った。授業評価に関しては、多くの学生が英語に興味を持ってもらったものの、英語の必要性を理解できない学生も一部で見られた。		
薬物動態学2(3年)		平成28年4月~ 平成30年9月	薬物の吸収、分布、代謝、排泄および薬物速度論 ど薬物動態に関する基礎から応用まで幅広い知識 考え方について講義を行った。特に薬物速度論でし 数学的素養が必要とされるため、高校までの数学的 考え方が身についていない学生についてはやや理解度が低い傾向が見られた。そのため可能な限り問題 演習を取り入れ数学的考察まで出来るようになる。 とを目指している。		
2 作成した教科書、教材、参考書 基礎からの薬物動態学 医学評論社		平成27年8月	薬物動態学1,2において薬物の体内動態の理解を 目的として主に使用した。		
3 教育方法・教育実践	に関する発表、講演等				
4 その他教育活動上特	:記すべき事項				
FD·SD研修会		平成28年8月 23, 24日	本学主催のFD 講習会に出席し、自己啓発に努めてしる。		
研究倫理e-learning		平成27年	CITI Japan e-learning プログラムを平成30年 度まで受講完了した。		
Ⅱ 研究活動					
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(論文) Involvement of reactive oxygen species in the enhancement of membrane lipid peroxidation by sonodynamic therapy with functionalized fullerenes.		共著	2014年11月	FEBS J. 281 (7) :1773-1783.	
(論文) Inhibition of Fatty Acid Synthesis Induces Apoptosis of Human Pancreatic Cancer Cells.		共著	2016年9月	Anticancer Res. 36(9):4655-4660.	
(論文) Long chain fatty interactive binding of l drug binding sites of hu	igands to the two principal	共著	2017年6月	PLoS One. 29;12(6):e0180404	

(論文) Photodynamically-induced Apoptosis Due to Ultraviolet A in the Presence of Lomefloxacin in Human Promyelocytic Leukemia Cells.	共著	2017年11月	Anticancer Res. 37(11):6407-6413.	
(論文) Enoxacin with UVA Irradiation Induces Apoptosis in the AsPC1 Human Pancreatic Cancer Cell Line Through ROS Generation.	共著	2017年11月	Anticancer Res. 37(11):6211-6214.	
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名		
(演題名)Involvement of Glutamine in Tolerance of Pancreatic Cancer Cell to Inhibition of Fatty Acid S	2018年4月	American Association for Cancer Research		
Ⅲ 学会および社会における主な活動				

教育および研究活動の業績一覧					
大学名 横浜薬科大学	講座名 薬物治療学研究室	職名 准教授	氏名 日塔 武彰		
I 教育活動	1	1			
教育実践	浅上の主な業績	年 月 日	概要		
1 教育内容・方法のJ 薬学外国語文献購読(5年		平成25年4月~ 現在	薬理学・薬物治療学の教科書として世界的に定評のある Goodman & Gilman's Phamacological Basis of Therapeuticsの精養を課題として課した。コミュニケーション能力を殉義するため、学生間でグループを形成し、共同で対訳書という制作物を完成させた。グループの学生一人一人に責任を持って課題に当たらせるようにするため、発表会を開催し、グループのメンバー全員に内容を発表させた。		
薬理学実習(3年次前期)		平成25年4月~ 現在	2年次に行われる「薬理学1・2」の講義の領域のうち中枢神経に作用する薬物と自律神経に作用する薬物を実験動物に投与してその作用を観察する実習を担当した。実習に先立って既習項目の復習講義を行い、実習の意義を再確認してから実習を行った。実習終了後は口頭試問等で、実習で観察された現象が既習の知識のどの部分と結びつくのかを考えさせ、講義と実習の体系化をねらった。		
薬物治療学ⅡA(4年次前期	月)	平成25年4月~ 平成29年7月	薬物治療学は多くの既習科目の知識を積み上げて成り 立っていることから、講義の理解を助けるために予習課 題と称して、講義を理解するために必要な機能形態学、 病態生理学、薬理学等の知識をまとめるレポート課題を		
薬物治療学ⅡB(4年次後期	月)	平成25年10月~ 平成30年1月	課した。提出物には必ず目を通して、提出物への記入や 講義中での解説を通して適宜フィードバックを行った。 また、課題で与えられた知識が薬物治療にどのように関 連するのかを講義内で必ず触れるようにした。このこと は受講生にとって好評だったようで、高い評価が得られ た。講義単元の終了時には練習問題とその解答解説を配 布し、自学自習を促進するこちによって講義内容の定着 を図った。		
教養生物学(1年次前期)		平成27年4月~ 現在	高校から大学への橋渡し科目として、内分泌の領域について恒常性の維持における生理的役割を中心に解説した。特に生物未履修者にとっても親しみが持てるように身近な例を積極的に取り上げながら講義を行った。1学年ではパワーポイントの講義に慣れていないと考え、講義の中で重要な情報は板書し、付随する情報は配布資料の形で手渡した。また、講義終了後は練習問題とその正答例を配布し、自学自習を促進することによって講義項目の定着を図った。		
臨床薬理学Ⅱ(6年次前期)	平成28年4月~ 現在	治療に用いられる薬物の臨床現場での使用法や患者への適用法、ならびにその注意点に焦点を当てて教授した。 既習の薬物の使い方に加えて、新薬の作用点や既存薬との使い方の違いなど、実務るように心掛けた。また、講義上元の終了時には練習問題とその解答解説を配布し、自学自習を促進することによって講義項目の定着を図った。		
病態・薬物治療学2(3年	次前期)	平成29年4月~	講義の理解を助けるために講義の前段階でシラバスより		
病態・薬物治療学3(3年	次後期)	現在	も講義内容を質問形式で紹介する「講義のポイント」と称した印刷物を配布し、予習する意欲を持つ受講生に配慮した。配布資料には、関連する教科書のページと資料の出典を明記し、講義後の自習を助けた。単元の終了時には練習問題とその解答解説を配布し、自学自習を促進することによって講義項目の定着を図った。		
薬理系薬学演習 1 (4年次	前期)	平成30年6月	内分泌疾患、代謝性疾患の講義で習得した知識を問題演習を通して、定着する試みを行った。短い講義時間の中で受講者の興味を引くために、講義時間中にクイズ形式で演習問題を出題して1分間の考察時間を与えた後、すぐに正答と解説を示した。解説に当たっては各薬物や疾患の理解に必要な要点を絞り込み、講義が冗長にならないようにした。		

_	T	_
2 作成した教科書、教材、参考書 わかりやすい疾患と処方薬の解説ー病態・薬物治療編ー (アークメディア社)	平成25年3月~ 現在	旧カリキュラム4年次の「薬物治療学 II A・II B」と改訂カリキュラム3年次の「病態・薬物治療学 2・3」の講義で教科書として用いた。骨・関節疾患、腎疾患、皮膚疾患、脳神経疾患の治療薬の解説を分担執筆したほか、薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂に仕って書籍を全面的に改訂した際には、編集委員として教科書のコンセプトの形成と確認作業および原稿の校閲を行った。
以下の講義の講義資料 薬物治療学ⅡA(4年次前期) 薬物治療学ⅡB(4年次後期) 臨床薬理学Ⅱ(6年次前期) 病態・薬物治療学2(3年次前期) 病態・薬物治療学3(3年次後期)	平成25年4月~ 現在	パワーポイントを使用して講義を行っているので、そのハンドアウトを使用して配布した。A4型横長で、1 枚に4種のスライドを載せて、両面印刷した資料をホス止めをして、資料としての質感を保つようにした。資料の出典を明示し、さらに学修を深める意欲のある受講者に配慮した。病態学や薬物治療学は薬理学のも、高級学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学
以下の講義内で配布した練習問題と解答・解説 薬物治療学 II A(4年次前期) 薬物治療学 II B(4年次後期) 臨床薬理学 II(6年次前期) 教養生物学(1年次前期) 病態・薬物治療学2(3年次前期) 病態・薬物治療学3(3年次後期)	平成25年4月~ 現在	ひとまとまりの領域の講義が終了した時点で、過去に出題した定期試験問題あるいは関連する領域の薬剤師国家試験の過去問題をまとめて印刷して練習問題として配布した。練習問題集とは異なる用紙に、正答と解説を赤文字で示した解答解説を印刷して配布し、容易に既習領域の問題演習を行うことができるような環境を整えた。最近ではハマヤクe-learningを利用した演習問題と解答解説の配布も行った。
薬理学実習実習書 (横浜薬科大学)	平成26年4月~ 現在	3年次の「薬理学実習」で使用するテキストとして、実習担当教員で分担して書き下ろした。実習項目ごとに実習の背景となる基礎理論、実験方法、結果の記載欄、考察・調査してレポートに記載すべき事項を記載したほか、既習の知識を確認できるように実習書の章末に薬理学の問題集を収載した。
教養生物学(1年次前期)の講義資料	平成27年4月~ 現在	教養生物学は、板書によって講義を行っているので講義 時間の関係から講義の中では十分に表示しきれない表 や、板書するよりも的確に示すことのできる図を配布資 料として学生に配布し、適宜配布資料内の図表を見るよ う指示しながら、講義内の説明を行った。
あたらしい疾病薬学(テコム出版)	平成28年9月	改訂カリキュラムのもとで平成28年度後期から2~4年 次で開講される「病態・薬物治療学1~4」の共通講義 テキストとして執筆に関わった。主に循環器疾患の部の 執筆を担当した。
新薬の効くプロセス (ネオメディカル社)	平成29年3月	薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂に伴って旧版の「わかりやすい 薬の効くプロセス」を全面改訂した書籍であり、3、6,7、10、12、15章の執筆に当たったほか、改訂にあたっての編集作業と原稿の校閲を行った。本書は「薬理学2」の講義用の教科書として用いられることに加えて、薬理学実習の実習前講義に薬物の説明を行う際に実習書と併せて使用している。
他7件 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項 模擬患者 (SP) 養成講習会 株派薬科士学CD素品会	平成26年10月~ 平成30年11月	4年次の共用試験のうち、OSCEの実施のためにSPとして協力してくれるボランティアが必要となる。協力の意思があるボランティアに対し、SPとしての心構えやふるまい方の注意点などを伝えた。
横浜薬科大学FD委員会 FD推進ワーキンググループ	平成27年10月~ 現在	本学におけるFD活動を実質的に取り仕切るワーキンググループ長として活動した。教員の講義や実習に対する意識調査と教員の意識啓発を目的としたFD研修会を開催した。また、学生に対し学生生活と学習活動に関する実態調査を定期的に行った。これらの調査結果を文書化して全教職員に配布し、学生に対しより良い教育環境を作る目的で行われるFD研修会の題材とした。

新入生に対するガイダンス教育	ノ星(を でうひきな
タスクフォーススキルアップ研修in関東 る実務実習のあり方について、他大学の薬学教育者とともに討議した。本学における実務実習の取方やカリキュラムの組み方が他大学と比べて大きあったことから、早急な改善策を考える必要を設定。 平成28年横浜薬科大学FD・SD研修会の世話役 平成28年8月 平成28年8月 全教職員の参加のもと、本学に入学した学生を形ることなく卒業させるためには、現状の教育のとのような問題があり、どのような改善を行う必要のかについて、ワークショップの形式によって2わたって討議を行った。この研修会の運営の総責務めた。	育のりな識 落この 対象
ることなく卒業させるためには、現状の教育のとのような問題があり、どのような改善を行う必要のかについて、ワークショップの形式によって 2 わたって討議を行った。この研修会の運営の総責務めた。	ごこにど
ハサ社団は 町上上州株却数本均へ	2日間に
公益社団法人 私立大学情報教育協会 栄養学・薬学・医学・歯学・看護学・体育学グループ 分野連携アクティブ・ラーニング対話集会 に、本学の薬学教育に導入するための方策を集ま 係者と討論した。討議の過程で得られたアイディ 先のFD研修会で提起された問題点の解決に向けて となると考えられた。	列をもと まった関 ィアは、
第3回 ヨコハマFDフォーラム	なに参加と を状況行力 との相違 は果の信
文部科学省 大学における医療人養成の在り方に関する調 査研究委託事業 「薬学教育の改善・充実に関する調査研究」 シンポジウム ・ Clinical clerkship-objective structured clinexamination)の実施と検証がテーマとなるシンムに参加し、本学における学生の意識との比較やOSCE導入の可能性について他大学関係者と意見をた。	見と6年 ost nical ポジウ pcc-
Ⅱ 研究活動	
1. 著書・論文等の名称 単著・ 共著の別 発行または発表の 共著の別 年月(西暦でも可) (巻・号数)等の名	
(著書) CHAPTER 41 Pantetheine and Pantetheinase: From Energy Metabolism to Immunity. 単著 単著 平成25年1月 Food and Nutritional Components in Focus No. Vitamins and Folate: Chemistry, Analysis, Ful and Effects (Edited by No. Preedy), RSC Publishing	nction Victor
(著書) CHAPTER 41 Pantetheine and Pantetheinase: From Energy Metabolism to Immunity. 単著 単著 平成25年1月 Components in Focus No. Vitamins and Folate: Chemistry, Analysis, Fu	nction Victor ng
(著書) CHAPTER 41 Pantetheine and Pantetheinase: From Energy Metabolism to Immunity. 単著 平成25年1月 で成25年1月 Components in Focus No. Vitamins and Folate: Chemistry, Analysis, Ful and Effects (Edited by R Preedy), RSC Publishin (論文) The linkage between coenzyme A metabolism	nction Victor ng
(著書) CHAPTER 41 Pantetheine and Pantetheinase: From Energy Metabolism to Immunity. 単著 平成25年1月 で成25年1月 Components in Focus No. Vitamins and Folate: Chemistry, Analysis, Ful and Effects (Edited by R Preedy), RSC Publishin (論文) The linkage between coenzyme A metabolism and inflammation: roles of pantetheinase. 共著 平成25年9月 Journal of Pharmaceutic Sciences Vol. 123 No. 1 (論文) Molecular mechanisms of the antileukemia	nction Victor ng al
(著書) CHAPTER 41 Pantetheine and Pantetheinase: From Energy Metabolism to Immunity. 単著 平成25年1月 平成25年1月 Components in Focus No. Vitamins and Folate: Chemistry, Analysis, Ful and Effects (Edited by R Preedy), RSC Publishin (論文) The linkage between coenzyme A metabolism and inflammation: roles of pantetheinase. 共著 平成25年9月 Journal of Pharmaceutic Sciences Vol. 123 No. 1 (論文) Molecular mechanisms of the antileukemia activities of retinoid and arsenic. 共著 平成26年10月	nction Victor ng al
(著書) CHAPTER 41 Pantetheine and Pantetheinase: From Energy Metabolism to Immunity. 単著 平成25年1月 平成25年1月 で成25年1月 で成25年1月 で成25年1月 で成25年1月 で成25年1月 で成25年1月 で成25年1月 で成25年9月 「会社 Pantetheinase In Focus No. Vitamins and Folate: Chemistry, Analysis, Fuland Effects (Edited by Refeat), RSC Publishing and Inflammation: roles of pantetheinase. 「論文) Molecular mechanisms of the antileukemia activities of retinoid and arsenic. 「論文) ラベンダー精油のストレス軽減効果に関する検討 「著書) Principal Pharmacology 改訂版(第2部 精神 「本書) Principal Pharmacology 改訂版(第2部 精神 「本書) Principal Pharmacology 改訂版(第2部 精神	nction Victor ng al
単著 平成25年1月 Components in Focus No. Vitamins and Folate: Chemistry, Analysis, Fu and Effects (Edited by R Preedy), RSC Publishin (論文) The linkage between coenzyme A metabolism and inflammation: roles of pantetheinase. 共著 平成25年9月 Journal of Pharmaceutic Sciences Vol. 123 No. 1 (論文) Molecular mechanisms of the antileukemia activities of retinoid and arsenic. 共著 平成26年10月 Journal of Pharmaceutic Sciences Vol. 126 No. 3 (論文) ラベンダー精油のストレス軽減効果に関する検討 共著 平成29年5月 日本アロマセラピー学会記 (著書) Principal Pharmacology 改訂版 (第2部 精神疾患 治療薬の選択・解説)	nction Victor ng aal 志, 16巻

Ⅲ 学会および社会における主な活動				
平成25年4月~現在	社団法人日本私立薬科大学協会 薬剤師国家試験問題検討委員会 病態·薬物治療部会委員			
平成25年9月~現在	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ タスクフォース			
平成26年4月~現在	日本薬理学会評議員			
平成26年4月~現在	薬物乱用防止キャンペーン in 横浜 実行委員会部会員			
平成27年10月~現在	関東第一高校出張講義 (薬剤師の仕事と薬学部について)			
平成27年11月	一般社団法人 日本アロマセラピー学会 薬剤師部会研修会開催			
平成27年12月	共栄学園高校出張講義 (薬剤師の仕事と薬学部について)			
平成29年9月	横浜薬科大学卒後教育講座(フィジカルアセスメント)運営			

教育および研究活動の業績一覧					
大学名 横浜薬科大学	講座名 薬理学研究室	職名 准教授	氏名	藤森 順也	
I 教育活動					
教育実践.	上の主な業績	年 月 日		概要	
1 教育内容・方法のエ	夫				
薬剤学実習 3		平成27年5月~ 現在	薬物動態学を中心とした実習内容であるが、新たに 理薬剤学の実習項目として、界面化学の実験を組み んだ。表面張力測定法の実習テキストを作成、正面 力測定用のガラス管を設計した。講義だけで終わっ いた本分野を実習導入により深く理解させることが きている。		
物理薬剤学 1 (2 年生)		平成27年9月~ 現在	本分野で名著と言われているNEWパワーブック物理薬剤学・製剤学(廣川書店)を採用。学生より一定の評価を受けるが、本学の学生に難解な箇所も多く、図解によるイメージ学習を考解。これまでの本科目に対する学生アンケートは50点台であったが、イメージ学習導入により70点台に突入。		
物理薬剤学2(3年生)		平成27年9月~ 現在	象、溶解に関して他。 科大学)に所属してし と同じ講義を実施。 多数おり、物理学、	7年4月)当初、薬物の拡散現 大学(新潟薬科、東邦大学、星薬 いた経験を活かし、これら3大学 難しくて分からないという学生が 数学の基礎を交えての講義に切り 学生評価も他教科と遜色のない高 マーク。	
2 作成した教科書、教	材、参考書				
3 教育方法・教育実践	に関する発表、講演等				
4 その他教育活動上特	記すべき事項				
FD·SD講演会		平成28年8月	いわき明星大学教授 中越元子先生による「学生の意欲を引き出すイグナイト教育」を受講。自己啓発に努めている。		
FD研修会		平成28年8月	第1回横浜薬科大学FD研修会に参加し、自己啓発に努めている。		
平成28年度薬剤学教科担当教員会議		平成28年9月	薬剤学教科担当教員会議に参加。全国の薬学系大学の 薬剤学教科担当者が一堂に会して、薬剤師教育につい て薬剤学の視点から討論がなさた。薬学部における薬 剤学のあり方、今後の学生教育に大いに役立った。		
平成29年度ハラスメント防止研修会		平成30年2月	大学顧問弁護士による講義とグループディスカッションに参加。		
Ⅱ 研究活動					
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(特許)血管透過性抑制剤		共著	2013年	特願 2013-209431	
(特許) 医薬用組成物		共著	2015年	特許第5791064号	
(論文) 1. Adsorption of polysaccharides: The pot multiple organ failure i	ential as agent for	共著	2016年3月	I. J. Biol. Macromol	
(論文) Antitumor effect activated pyrrolidine tr		共著	2016年5月	Japanese Journal of Applied Physics	
(特許)肺障害治療剤		共著	2016年	特許第6042197号	

2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名	
Ⅲ 学会および社会における主な活動				
2008年2月~2012年2月 新生児呼吸療法モニタリングフォーラム幹事、事務局				
007年7月~現在 医療法人 藤森病院 役員				
2018年2月~現在				

	教育および研究活動の業績一覧						
大学名 横浜薬科大学	講座名	薬剤学研究室	職名:准教授	氏名 村田 実希郎			
I 教育活動			'	'			
教育実践	美上の主な業	績	年 月 日	概要			
1 教育内容・方法のご調剤学(3年次後期)	Σŧ		平成27年4月~ 現在	「調剤」を体系的に初めて学ぶ科目であり、薬学で学んだ知識に基づく薬剤師独自の医療行為であるらず、薬剤師業務において、単なる「技術」のみならず、「患者への適正な薬物療法の提供」を加えた薬学で学ぶ知識の総合的学問体系であることを示すため、シナジンがになる、アクティブラーのではよる時的を提示したの使用法ではは独き担似に作のでは、調文字・ラーでは独できない、文字・ラーでは独できないが、対策を用い、文字・ラーでは、表示では、ないの使用が促進されるようでは、できるよう努めている。。			
実務実習プレ教育1、2 (4年次前期後期オムニバ	(ス)		平成25年4月~ 平成29年3月	実務実習プレ教育は卒業後、医療、健康保険事業に参 画できるようになるために、病院実務実習・薬局実務 実習に先立って、大学内で調剤および製剤、服薬指導			
実務実習プレ教育(4年次 (カリキュラムの改訂に。			平成30年4月~ 現在	大学内に調用のない。 などの薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度を 修得する科目である。講義では可能な限り分かりやす い授業となるよう、独自に作成したプリントとスライ ドを用いている。また、実践力、応用力を身に付ける ため、PBLのシナリオでは内容を吟味し、臨床薬学の現 状に則したものとなりように工夫を行っている。			
フィジカルアセスメント	(3年次後期	オムニバス)	平成29年4月~ 現在	従来、実務実習プレ教育で取り扱っていたフィジカルアセスメントを平成29年度より独立科目とした。授業では、まずフィジカルアセスメントの基礎を学び、その後、独自に作成したシナリオからフィジカルアセスメントの知識を用いて問題点の抽出、解決策の検討を行う「考える授業」となるよう工夫している。			
臨床薬剤学(6年次前期オ	ムニバス)		平成29年4月~ 現在	臨床薬剤学は実務実習終了後、代表的な疾患症例について、多面的な観点から評価して、治療・投与設計などに薬学的な介入ができる能力(実践力)を学習することを目標とする。講義ではより実践的なシナリオを多用し、実務実習での経験を活かしながらもより深い思考となるように工夫している。解説ではガイドラインを示し、今まで学んできた知識が1つに纏まるよう努めている。			
医療倫理学(4年)			平成25年4月~ 平成29年3月	医療倫理学は他の臨床系科目にはない用語や概念が多く、学生にとっての理解は容易ではない。可能な限り分かりやすい授業とするため、独自に作成したプリン			
医療倫理学(3年)			平成29年4月~ 現在	トとスライドを用いている。また、映像を用いて、理解が促されるように工夫を行っている。また、倫理的問題に配慮して主体的に行動するためにSGD及び提出課			
(カリキュラムの改訂に。	より履修学年	手変更)	 20 IT	題を取り入れ、自ら考え、討議することにより、医療 人としての倫理観を醸成できるよう努めている。			
他8件 2 作成した教科書、教	か材 <u> </u>	<u></u>					
調剤学講義資料	☆四、 少 存 €	3	平成27年4月~ 現在	穴埋め式の資料を作成し、薬剤師業務の基本となる調剤学を興味深く学べるよう工夫している。薬剤学実習2につながる科目であるので、調剤機器や容器の開設時には動画映像、画像を用い、理解が進むように心掛けている。今後も学生の授業アンケートでによる個別のコメントを参考に理解度や評価を考慮しながら毎年更改していく。			

実務実習プレ教育1、2及び実務実習プレ教育 講義資料	現在	主にパワーポイントにより授業を行っているが、表現が難しい場合はアニメーションを用いて講義を行った。スライドを抜粋したプリントを配布し、授業を行っているが、PBLの際のシナリオではより臨場感のある内容とし、実践力が身に付くように工夫を行っている。今後も学生の授業アンケートでによる個別のコメントを参考に理解度や評価を考慮しながら毎年更改していく。
薬剤師のためのフィジカルアセスメント ((株)廣川鉄男事務所) ISBN:978-4-905390-53-4 C3047	平成29年4月~ 現在	独自に作成したシナリオの予習を課しているが、自ら 考え、導き出した内容を教科書に書き込めるように工 夫している。講義では、パワーポイントスライドによ る解説を主とし、必要部分はスライドから抜粋しプリ ントとして配布している。今後も学生の授業アンケー トでによる個別のコメントを参考に理解度や評価を考 慮しながら毎年更改していく。
臨床薬剤学 講義資料	平成29年4月~ 現在	独自に作成したシナリオを事前に配布し、予習を課している。また、自習がしやすいよう、必要とするガイドラインを示している。講義では、パワーポイントスライドによる解説を主とし、ガイドライン、患者バイタル等フィジカルアセスメントの知識と関連付けられるよう工夫し、必要部分はスライドから抜粋しプリントとして配布している。今後も学生の授業アンケートでによる個別のコメントを参考に理解度や評価を考慮しながら毎年更改していく。
医療倫理学 講義資料	平成25年4月~ 平成30年3月	主にパワーポイントスライドを抜粋したプリントにより授業を行っていたが、プリントの枚数が多く、授業アンケートによる学生コメントを考慮し、平成30年度より教科書を作成し使用している。教科書、スライド
医療倫理学(発行:横浜薬科大学教務部) ISBN:978-4-905390-69-503012	平成30年4月~ 現在	によって講義を行っているが、医療倫理を考える上で 必要な事項は映像を用いた。今後も学生の授業アン ケートでによる個別のコメントを参考に理解度や評価
他9件		を考慮しながら毎年更改していく。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
文部科学省平成25年度 大学における医療人養成推進委 託事業 医療人養成としての薬学教育に係るワーク ショップ参加報告	平成26年3月	「各大学における薬学教育と実務実習に対する取り組み」について発表した。
平成26年度第1回薬剤安全セミナー「ザ・配薬:服薬確認チェックシートと運用方法」日本医療機能評価機構	平成26年8月	医薬品の配薬リスクを鑑みた教育運用方法についてレ クチャーを行った。
平成28年度横浜薬科大学第5回卒後教育講座フィジカ ルアセスメント実技演習	平成28年9月	フィジカルアセスメントの基礎となる知識、技能を卒 業生を含む近隣の薬剤師にレクチャーを行った。
他4件		
4 その他教育活動上特記すべき事項		
模擬患者(SP)養成講習会	平成25年10月~ 現在	4年次共用試験OSCEを実施する際に必要な模擬患者の養成を、在学生と利害関係のない地元住民に対して行った。
横浜薬科大学 平成28年度 FD·SD研修会	平成28年8月23日 ~24日	ワーキンググループメンバーとして大学の主催する研修会(一泊二日)を企画運営し、多様な学力を持った学生の指導法、カリキュラムマップと妥当な成績評価、良好な学習環境を整えるために教職員が組織的にできることについてグループに分かれて議論した。
早期体験学習	平成25年4月~ 現在	従来は学生が病院、薬局、企業の中から1ヶ所を選択して施設訪問していたが、コアカリSBOに準じて「様々な薬剤師の業務を見聞」するため、平成29年度より、各学生が病院と薬局または企業の2ヶ所を訪問することにした。そのために従前より倍加した施設を確保し、病院について実習日、人数等を割り振った。また、薬局への引率、病院への引率を行っている。
横浜薬科大学 平成30年度 FD・SD研修会	平成30年9月 4日~5日	ワーキンググループメンバーとして大学の主催する研修会(一泊二日)に企画運営し、初年次教育、能力別クラス分けの在り方、卒業研究と演習講義の両立、学力向上のための授業の組み立ての見直しについてグループに分かれて議論した。

フレッシュマンセミナー(1年次)		平成27年4月~ 現在	ること、先輩や同級生を深めることを目的とマンセミナーを1泊2日第1回を実施したが、グループリーダーとし	加学に励むモチベーションを高め E、教職員との厚い信頼の繋がり こし、入学後すぐに、フレッシュ 日で実施している。平成27年度に 立ち上げ、企画立案のワーキング して現在まで関わっている。尚、 薬学1の授業の一環として実施し
Ⅱ 研究活動				
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) The idea of monitoring drug taking and life in the community		共著	平成29年9月	Journal of Scientific and Innovative Research, 6(3), 91-96
(論文) Usability of intranasal drug delivery devices: Children and their Parents		共著	平成29年11月	International Journal of Research in Pharmacy and Pharmaceutical Sciences, 2(6), 01-05
(論文) Innovative dot codes on Press Through Packages (PTP) for visually impaired patients		共著	平成30年3月	The Pharma Innovation Journal, 7(4),663-666
(論文) 患者による指名前後でのかか 者自身の変化	共著	平成30年6月	日本薬剤師会雑誌, 70(6), 679- 682	
(論文) Development of the Press-T Recognizable with Abdominal X-Ray Abdominal Soft Tissue Phantom	共著	平成30年6月	Open Journal of Radiology, 8(2), 91-98	
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)	2. 学会発表(評価対象年度のみ)			学会名
(演題名) 病院および薬局実習における代表的な疾患に関する実習内容の比 較			平成30年5月	第10回鎌倉薬剤師学術研究会会
(演題名)Senior Friendly New Desi Function of Fall Prevention	gn Blister Packag	e with the	平成30年6月	21st IAPRI World Conference on Packaging
(演題名)Investigation of Innovat Package (PTP) for Visually Impaire		Press through	平成30年6月	21st IAPRI World Conference on Packaging
訪問看護ステーションで把握された 釒	†刺し損傷の全国調	査	平成30年11月	第13回医療の質・安全学会学術集 会
ヒューマニズム・倫理教育におけるヂ	ュアル授業の成果と	と運用課題	平成31年3月	第25回 大学教育研究フォーラム
Ⅲ 学会および社会における主な活動			•	
平成27年1月~現在	Pharmaceutical Ca	are研修会 副会長		
平成27年7月~現在	公益社団法人 神	奈川県病院薬剤師会	特別委員	
平成27年3月~現在	一般社団法人 日	本医療薬学会代議員		
平成27年11月~現在	学校法人明治薬科:	大学評議員		
平成28年5月~現在	平成28年5月~現在 日本薬剤学会市民講座担当委員			
平成28年7月~現在	日本包装学会若手:	会担当委員		
平成29年6月~現在	公益社団法人 大和]綾瀬薬剤師会 理事	-	

教育および研究活動の業績一覧						
大学名 横浜薬科大学	講座名	臨床薬剤学研究室	職名	准教授	氏名 渡邊 美智留	
I 教育活動						
教育実践	美上の主 な第	美績	年	三月 日	概要	
1 教育内容・方法の二 (前任: 京本学にて) 薬物治療学(オムニバス 安生学(オタースでででででででででででででででできる。 実際でででででできませる。 実務実習 薬局・病院(オ	ス) ムニバス) ・実習(オ <i>.</i>	ムニバス)		25年4月~ 17年3月	下記のような授業の工夫を行っていた。 講義 服薬指導、情報収集、注射剤・輸液、救急薬品、患者の薬学的管理・モニタリングについて、病院薬剤師を 経験と大学院の臨床研究の内容を組み入れながら実 と大学院の臨床研究の内容を組み入れながら実 した。 実習病棟薬剤師として実践的な応用力をつける目的で、二年の がで、二年ので、一年ので、一年ので、一年ので、一年ので、一年ので、一年ので、一年ので、一	
調剤学Ⅱ (3年次後期) 調剤学 (3年時後期) 〈カリキュラムの改訂によ フィジカルアセスメント§ 〈カリキュラムの改訂によ	実習(4年次	前期)	平成2平成2 現在	27年9月~ 8年 29年9月~ 27年4月~	講義は、学問の全体構成も認識させるために、コマ切れとなるパワーポイントを敢えて使用せず、教科書のページをワンノートで映写し、マークしたり書き込みながら実施している。また、個人ワークとしてミニンナリオから薬学的問題点を考えさせSOAP形式で提出は、サリオから薬学の問題が、活下錠などの服薬指導は、学生をアにしPNP(positive・negative・positive)型のピア・レビューをさせる等の実践的なアクティブラーニングを実施している。 フィジカルアセスメント実習を担当。薬の効果と副作用の確認のために薬剤師のフィジカルアセスメントが	
薬剤学実習 1 (3年次後期)		平成2	7年9月~	期待されている。バイタルサインの測定技能および症例評価によるアスメントを習得させる目的で、シミュレータ「Physiko」を用いて実習をしている。 計数調剤、散剤、水剤、軟膏剤の調剤の基本を指導している。各剤形について、前説明をし、引き続きデモンストレーションを学生に見せ説明しながら分かりやすく指導している。	
実務実習ポスト教育(5年	次前・後期)	平成2	7年9月~	実務実習の終了した学生を対象に、各実習施設の特徴や様子を共有する目的で、SGD、グループ発表を行わせている。実務臨床経験をもとに、SGDや発表会において話題を盛り上げたり深めたりして、現状の医療事情、未来に向けた事案にも言及してまとめている。	
社会薬学 2 (2年次前期)			平成2	8年4月~	6つのテーマについて、各々講義とSGDの両方(デュアル授業)で学習させ、テーマ毎にポートフォリオを記載させた。ポートフォリオは教員によるフィードバックメッセージを付けて返却し、ルーブリック表で評価を行っている。厚生労働省ホームページの視聴覚教材"薬学を発症した患者の新聞記事を教材としたSGDを実を工夫にいる。学生が臨床を肌で感じるような授業を工夫している。また、授業の一部にクリッカー「Clica」を使用して、学生-教員双方向の参加型授業を実施している。	

薬剤学実習 2 (3年次前期)	平成29年9月~	注射剤調剤の実習のうち、無菌室前室における準備行程を、7~8人の学生単位で、デモンストレーションを学生に見せ説明しながら分かりやすく指導している。薬剤の無菌的混合において、実習室をラウンドして観察し、学生個々の不出来なところや疑問などに対して助言、手添え指導を行い、学生の技能習得を高めている。
医療コミュニケーション論(4年時後期)	平成30年9月~	コミュニケーションの本質は、テキストを基にして体系的に講義している。医療におけるコミュケーションの方法には、対話、文書などの文字媒体によるものがあるので、これらをできるだけ実践的にる。模擬カルテに加え対して、というでは、大きないでは、では、大きないないでは、大きないないでは、大きないないないでは、大きないないでは、大きないないでは、大きないないでは、大きないないでは、大きないないでは、大きないないでは、大きないないでは、大きないないないでは、大きないないないないないないないないないないないないないないないないないないない
2 作成した教科書、教材、参考書		
調剤学Ⅱ、調剤学	平成27年9月~	学問の全体構成および各論の把握をさせるために、教科書を作成した。内容は、医療面接、患者情報(POS、SOAP)、輸液、個別化医療(小児、高齢者、妊婦・授界婦、野・肝疾患患者)、相互作用について作成した。ミニシナリオ、服薬指導ポイントシート(点眼、舌下錠、坐剤など)の教材を作製している。
薬剤学実習Ⅱ実習書	平成27年9月~	「計数調剤」部分を、イラストや写真を入れて分かり やすく作製した。
医療コミュニケーション論	平成30年9月~	模擬カルテ(出血性胃潰瘍、心筋梗塞)を作製している。服薬指導のポイントシート(ステロイド、化学療法など)を作製して、アクティブラーニング後の振り返りに使用している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
文部科学省 科学研究費助成事業 基盤研究 (A)	平成25~28年3月	大学教育改善の促進と教育イノベーション普及のための「大学教育コモンズ」の構築(研究課題番号:5242017)、研究代表者:飯吉 透。研究の分担者として参画。「経験的実践知の可視化とその公的蓄積と共有」が不可欠であり、「オープンナレッジ・プラットフォーム」として先駆的な教育方法の相互的な開発・評価・研修を行う教員実践コミュニティの育成を支援する。
第17回日本地域薬局薬学 (武蔵野大学にて)	平成26年6月	演題「薬局実務実習における服薬指導の実態と学生の 意識調査」。保険薬局の実務実習では、外用剤、感染 症や高血圧患者での服薬指導が多く実施されているこ とが再確認できた。大学においては、それらの服薬指 導を確実に習得させたうえで、一方ステロイド薬や抗 癌薬などの指導に対しても理路整然とした知識で服薬 指導ができる実践力を教育する必要があると示唆され る。
日本薬学会134回(武蔵野大学にて)	平成26年3月	演題「3年次の安全性学の講義に臨床シナリオ演習を実施した成果 — 基礎系教員と臨床系教員のcollaboration—」。講義の始めの約10分間で関連するシナリオ演習を解答させて、終盤の5分間に学生の回答例と補完事項を臨床系教員が口頭で解説した。シナリオ演習の内容は、様々な臨床場面を取り入れ、副作用や相互作用の指摘のみならず、共感、生活改善の提案、受診勧告などにも言及した。"知識・技能・態度が統合された能力"に到達させる教育方略の一つと考える。
第13回かながわ薬剤師学術大会 (武蔵野大学にて)	平成27年1月	演題「病院実務実習における大学教員を交えた教育的な症例検討会」。厚木市立病院では2013年第Ⅱ期より、大学教員を交えて週1回開催する教育的症例検討会を始め、4期に渡り開催してきた。学生は1人当たり2~4症例を担当し、既往症も含め4~16の疾病、21~82剤の使用薬剤について検討した。薬剤師の関わりや授業内容の再確認、複雑な臨床問題に対する討議ができたことは、学生、病棟薬剤師、大学臨床系教員の各々にとって有意義であったと思われる。

第22回大学教育研究フォーラム(京都大学高等教育研究 開発推進センターと共同発表)- (武蔵野大学にて)	平成27年3月	演題「口頭アウトプット演習の試み――実務実習や臨床 現場で活躍するために―」。実務実習において、口頭 試問に十分な回答ができなかった、という学生が多く 見受けられている。学生アンケートにより 知識量の不 足、知識の曖昧さ、 聞いて、頭の中でまとめて、口頭 で伝えることに不慣れによるものと考えられた。
第10回日本ファーマシューティカルコミュニケーション 学会	平成28年5月	演題「一対一でのコミュニュケーション演習の試み〜実務実習や臨床現場で活躍するために〜」授業は、講義室で、学生をペアにして質問者と回答者とし一斉に口頭試問のロールプレイを行った。質問内容は臨床現場における会話をモチーフとした。5段階アンケートにおいて86%の学生が普通以上の意義を感じていた。感想文の代表例は、「口頭で聞かれると、文字で見て考えるより難しい」、「ペーパーテストと大違いで、解っているような事でも全然出てこなかった」、「曖昧な知識ほど役に立たないものはない」であった。
第15回かながわ薬剤師学術大会/神奈川県薬剤師会・病院薬剤師会 院薬剤師会	平成29年1月	演題「卒後教育講座においてフィジカルアセスメント 実技実習」。薬剤をしてフィジカルアセスメントを 積極的に活用できるようにすることを目的とした教育 を開始した。患者シミュレータを用いて視診・触診・ 聴診(瞳孔反射、血圧測定、脈拍、心音、呼吸音、腸 音)を正常時と病態時の各測定を体験し、薬剤師が行 うべき対応についてSGDを行った。大学が薬局一病院間 の連携をマネジメントすることにより、学生にとって 有意義で効果的な一貫性の高い学習へ繋がると考え る。
第23回大学教育研究フォーラム MOSTフェロー発表会	平成29年3月	演題「モストDEデート-異分野コラボレーションによる 共同的授業実践の創発-。実践事例の紹介を薬学分野と して発表した。
4 その他教育活動上特記すべき事項		
臨床検査技師免許 取得	平成25年~現在	フィジカルアセスメント実習、副作用のモニタリング 検査などに関する授業に活かしている。
バイタルサインワークショップ	平成25年6月	日本地域薬局薬学会の主催するワークショップに参加し、フィジカルアセスメントシミュレータを用いたバイタルサイン技能を習得した。本学の授業に活かしている。
MOST (Mutual Online System for Teaching & Learning) 活動フェロー 第37号	平成26年~現在	京都大学高等教育研究開発推進センターにて、MOSTフェロー (第37号) を修了した。その後も大学教育を改善する研修等の活動を続け、本学のアクティブラーニング、ルーブリック評価、IT教育活用などに活かしている。
横浜薬科大学 平成28年度 FD·SD研修会	平成28年8月 23日~24日	大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、多様な 学力を持った学生の指導法、カリキュラムマップと妥 当な成績評価、良好な学習環境を整えるために教職員 が組織的にできることについてグループに分かれて議 論した。
平成29年度 薬剤に関するリスクマネジメント研修会	平成29年10月	神奈川県病院薬剤師会の主催する、テーマ「適正な情報収集および提供から患者のリスクを回避する」研修会において実行委員として参画した。プレアボイド、副作用の対応などを本学の授業に活かしている。
褥瘡治療薬サミット i nかながわ2018	平成30年2月25日	神奈川県病院薬剤師会が主催する研修会において、褥 瘡治療に関する講義、人体を用いた実習の計画および 当日のファシリテータとして参画した。本学の授業に 活かしている。
第5回 医療人養成としての薬学教育に関するワーク ショップ	平成30年3月7日	日本薬学会薬学教育委員会(主催)・日本薬学教育学会 (共催)にて、北里大学で実施。6年制薬学教育とア ウトカム基盤型教育の導入について講義を受け、ワー ルド・カフェ「グループワークを活用した授業と評 価」ではファシリテータとして参画した。本学の医療 コミュニケーション論の授業等に活かしている。
第1回卒後教育研修会	平成30年7月22日	神奈川県病院薬剤師会が主催する卒後教育研修会「無菌調製の手技の再確認とその理論を知る」が横浜薬科大学の実習室で実施された。講義、クリーンベンチでの無菌調製の実技実習の計画およびファシリテータとして参画した。本学の薬剤学実習2の授業に活かしている。

		平成30年9月4日~ 5日	平成30年9月4日~ 大学の主催する研修会(一泊二日) 5日 教育、能力別クラス分けの在り方、 義の両立、学力向上のための授業の についてグループに分かれて議論し					
Ⅱ 研究活動	Ⅱ 研究活動							
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称				
(論文) プレガバリン投与後に発現す 眠のリスク因子の検討	るめまいおよび傾	共著	平成26年12月	医療薬学 2014:40(12),726-733				
(論文)薬学臨床系教員の現状に関す 第2報	るアンケート調査	共著	平成27年4月	医療薬学 2015:41(4),223-235				
(著書)薬剤師国家試験 -解答・解説	共著	平成28年11月 平成29年11月 平成30年11月	横浜薬科大学 エース印刷ISBN 978-4-905390-63-3 C3047等					
(著書)スタンダード薬学シリーズⅡ 薬物療法に役立つ情報」	共著	平成29年10月	日本薬学会編 東京化学同人 ISBN:978-4-8079-1716-7					
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名				
(演題名) 同種同効薬における適正な ~ 乳酸菌製剤における情報、調査の概		平成30年7月	第2回 フレッシャーズ・カン ファランス (日本医療薬学会)					
(演題名)ヒューマニズム・倫理教育 題講義、アクティブラーニング、			平成31年3月	第25回 大学教育研究フォーラム (京都大学高等教育研究開発推進 センター)				
Ⅲ 学会および社会における主な活動			•					
平成15年~現在		H 13 2/2/13/21 22 1/2	第03-01 44号 第03-0262号					
平成18年~現在	薬学臨床系教員連絡	絡会 関東地区世話	人					
平成20~27年3月		主涯教育『薬の作用 :田サテライト教室に		つきあおうー』を講義 武蔵野大				
平成24年~29年	日本医療薬学会 教育委員会 委員							
平成26年~現在	日本医療薬学会 薬物療法専門薬剤師·認定薬剤師認定試験 問題作成小委員会委員 日本医療薬学会 薬物療法専門薬剤師·認定薬剤師認定試験 実行小委員会委員							
平成29年9月~現在	薬物乱用防止キャン	ンペーン in 横濱	活動参画					
平成29年~現在	神奈川県病院薬剤的	师会 業務検討委員	会委員					

		教育お	よび研	究活動	助の業績	責一覧			
大学名 横浜薬科大学	講座名	薬物動態学研究室	職名	講師		氏名	岩瀬 由	未子	
I 教育活動									
教育実践	上の主な業	美績	年	月	日		概	要	
1 教育内容・方法のエ	 :夫								
薬学英語Ⅳ (3年前期)			平成25 平成28			科学論文から情報を読み取れるよう、専門用語や表現方法について講義を行っている。さらに、薬局窓口での対応について簡単な例文を用いて講義している。			薬局窓口で
薬学英語3(3年前期)			平成29 現在	9年4月	~	薬学英語IVの名称変列 薬物動態学関連論文で 情報の収集の仕方等で	を用いて	、論文の構成	
薬剤学実習皿 (4年前期))		平成25			速度論およびTDMの範とに概念、目的、操作のレポートに加え、問させている。	作方法を	説明した。	実習項目ごと
薬剤学実習 3 (4年前期))		平成30現在)年4月	~	薬剤学実習皿の名称3 内動態に関するパラスでのデータ収集および	メータの	理解を深めん	る為、in vivo
薬物動態学 1 (3年前期))		平成28 現在	3年度~	~	薬物動態学1の排泄、 た。講義資料には、名			
薬物動態学2 (3年後期)		平成28 現在	3年度~	~	薬物動態学2ではTDMの項目を担当し、TDMに関してTDMとは何か、TDMの意義、対象となる薬物および対となる理由について講義するとともに、薬物の投与計について講義している。			勿および対象	
2 作成した教科書、教	材、参考	<u>‡</u>							
3 教育方法・教育実践	に関する多	——————————— 発表、講演等							
4 その他教育活動上特	記すべき	事項							
研究倫理のe-learning			平成26	6年度		CITI Japan e-learning プログラムを受講した。			講した。
平成28年度薬剤師国家試験 「薬剤」部会	問題検討	委員会	平成28	3年度		薬剤師国家試験問題検討委員会「薬剤」部会に出席 し、他大学の先生方教育・研究に関する情報交換を 行った			部会に出席 青報交換を
「適正な動物実験と飼養保 一外部検証の準備とその		一 一研修会	平成28	3年度		実験動物の適正使用と適正飼養保管について研修を けた。			ハて研修を受
ハラスメント相談担当者研	T修会		平成28	3年度		ハラスメント相談員の	の基礎的	対応法を学ん	んだ。
			平成29	年度		ハラスメント相談員としての講習会に参加し、対応 法、注意事項について確認した。			加し、対応方
FD講習会			平成28	3年度		本学主催のFD講習会に出席した。			
Ⅱ 研究活動									
1. 著書・論文等の名称				単著・ ŧ著の!		発行または発表の 年月 (西暦でも可)		発行所、発 (巻・号数)	
(論文) Involvement of reactive oxygen species in the enhancement of membrane lipid peroxidation by sonodynamic therapy with functionalized fullerenes.			共著		平成26年11月	Anticar	ncer Res.	34	
(論文) Apoptosis induct phthalocyanine tetrasulf therapy in HL-60 cells				共著		平成27年6月	Japanes Physics		of Applied

(著書)基礎からの薬物動態学	(著書) 基礎からの薬物動態学			医学評論社	
(論文) Antitumor effect of sonody activated pyrrolidine tris-acid fu	共著	平成28年5月	Japanese Journal of Applied Physics, 55		
(論文) Photodynamically-induced A Ultraviolet A in the Presence of L Human Promyelocytic Leukemia Cells	共著	平成29年11月	Anticancer Res. 37		
(論文) Glutamine Deprivation Enhances Acetyl-CoA Carboxylase Inhibitor-induced Death of Human Pancreatic Cancer Cells.			平成30年12月	Anticancer Res. 38	
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名	
(演題名) Involvement of Reactive Oxygen Species in Apoptosis Induced by Combination of UVA and Enoxacin			平成30年9月	第77回日本癌学会学術総会	
(演題名)ESR study on generation enoxacin	of singlet oxygen	by the UVA and	平成31年3月	日本薬学会第139年会	
(演題名)Study on drug delivery s theraphy	ystem by ultrasou	nd for cancer	平成31年3月	日本薬学会第139年会	
Ⅲ 学会および社会における主な活動					
平成25年9月	薬物乱用防止キャン	レペーンin横浜			
平成27年4月	科研費取得(基盤研究(C)ナノ粒子の音響化学活性化によるアポトーシス誘導を利用した新規がん治療法の開発)				
平成30年4月	科研費取得(基盤の システムの開発)	研究(C)超音波の音響	『化学的作用による難』	及収性薬物の生体内新規薬物送達	

	教育および研究活動の業績一覧								
大学名 横浜薬科大学	講座名	実務実習センター	職名	講師	氏名	田口	真穂		
I 教育活動	•				-				
教育実践	美上の主な 算	業績	年	月日		概	要		
1 教育内容・方法の 薬剤学実習 2 (3年次)	工夫		平成2現在	5年度~	を明確にし、うはデモンストレなくなるように シートを作成し	習復習に役 シーション及び エ努めている ン、学生同士	を用いて目的、操作方法等立てている。各操作の前に び解説を行い、間違いが少る。重点項目のチェックでも確認ができるようにエ に確認試験を行っている。		
薬物と健康(3年次)			平成2 現在	5年9月~	き内容を提問している。とまれている。本はいる。本はいるとまれのでは、国ののでは、国ののでは、国ののでは、国ののでは、国ののでは、国ののでは、国ののでは、国ののでは、国ののでは、国のでは、国	いている。問題 ファイン ファイン 大きなないできる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	気内容のプリントを作成し、修得すべている。プリントには、講義内容に準っえ、問題解決能力の向上を図っていっポイントで資料を作成し、開張にいいで資料を作成して解していい。 時間題の関連性について理解してらい。 は、講義の初めに、前回の講義内容に関すい、講義の重要ポイントを理解できる。 で表する。 で表する。		
社会薬学(1年次)			平成2	7~28年	早期体験実習の 動機付けを図っ		してSGDを行い、薬学を学ぶ		
臨床薬剤学(6年次オムニバス)			平成2	8年	担当講義内容のプリントを作成し、修得すべき内容提示した。プリントには、講義内容に準じた演習作を加え、問題解決能力の向上を図っている。また、ワーポイントで資料を作成し、講義内容と薬剤師に試験問題の関連性について理解してもらうよう努力をある。				
2 作成した教科書、	教材、参考:	書							
薬物と健康 講義資料			平成2 現在	5年9月~	イドやアニメー ワーポイントを し、講義中の資	-ションを用した 穴埋め式の 資料として配る 6個別のコメ	ーポイントで作成したスラ いて講義した。また、パ プリントにした教材を作成 市した。学生の授業アン ントを参考に理解度や評価 ている。		
臨床薬剤学 第5版(共著) 発行:横浜薬科大学出版	部 エース印	1刷	平成2	7年	6年次の臨床薬れている。	剤学の講義で	授業の教科書として使用さ		
	薬物乱用防止教育横浜型プログラム(小学生版) 発行:一般社団法人横浜市薬剤師会・横浜市教育委員会		平成2	7年	果を基に、大麻 知識や理解を図 用防止指導用教	环・覚せい剤 図るために、ノ 対育資料とし [™] は育の授業や∜	酉」に関する意識調査の結 ・危険ドラッグ等の正しい 小学校6年生対象の薬物乱 て作成した。横浜市内の小 特別活動等の保健指導にて		
臨床薬剤学 第6版(共著) 発行:横浜薬科大学出版	部 エース印]刷	平成2	8年	6年次の臨床薬れている。	6年次の臨床薬剤学の講義で授業の教科書として使用されている。			
薬物乱用防止教育横浜型プログラム(中学生版) 発行:一般社団法人横浜市薬剤師会・横浜市教育委員会 事務局		平成28年		横浜市の「薬物・たばこ・酒」に関する意識調果を基に、大麻・覚せい剤・危険ドラッグ等の知識や理解を図るために、中学1,2年生対象乱用防止指導用教育資料として作成した。横浜中学校での保健指導にて使用されている。		・危険ドラッグ等の正しい 中学1、2年生対象の薬物 して作成した。横浜市内の			
DVD 学校薬剤師支援資料 学校薬剤師の役割と責任〜 学校薬剤師の活動を知ろう〜 発行:公益財団法人日本学校保健会 監修:日本薬剤師会		平成2	8年	生に関する活動	かの他、健康	薬剤師向けに、学校環境衛 教育や保健指導などの学校 おり、各学校で使用されて			
飲酒防止教育横浜型プロ 発行:一般社団法人横浜 事務局			平成2	9年	果を基に、未成 正しい知識や理 学校1、2年生対	は年におけるこ 理解を図るたる 対象の飲酒防」	酉」に関する意識調査の結 アルコールの影響について めに、小学校5,6年から中 止指導用教育資料として作 学校での保健指導にて使用		

学校環境衛生管理マニュアル「学校環境衛生基準」の理論と実践 文部科学省	平成30年	環境衛生に関する新たな知見や児童生徒等の学習環境の変化を踏まえて「学校環境衛生基準」が一部改正されたことを受け、(平成30年4月施行)学校環境衛生活動の円滑な実施の一助になるよう解説書を作成した。文部科学省より、全国すべての公立学校、県教育委員会等に配布され、使用されている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
平成26年度文部科学省補助事業『喫煙、飲酒、薬物乱用 防止に関する指導参考資料』研修会(公益財団法人日本 学校保健会)	平成26年7月	「横浜市における薬物乱用防止教育の実践~薬剤師の立場から~」という演題で、学校の管理者、教諭、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、PTA等を対象に、横浜市の学校において薬剤師が薬物乱用防止教育を実践するにあたり、専門家の立場からどの様に関わっていくかを発表した。
平成26年度第2回横浜市学校薬剤師研修会	平成26年12月	「横浜市立小学校における薬物乱用防止教室の進め 方」という演題で、横浜市教育委員会と合同で作成し た薬物乱用防止教育プログラムについて、各学校に委 嘱されている学校薬剤師がどの様に活用すべきかをレ クチャーした。
横浜市西区学校薬剤師会 「薬物乱用防止教育」伝達講習会	平成27年5月	「学校での薬物乱用防止教育について」という演題で、薬物乱用問題の実情と横浜市教育委員会と合同で作成した薬物乱用防止教育プログラムについてを説明し、各学校に委嘱されている学校薬剤師がどの様に活用すべきかをレクチャーした。
平成27年度横浜市薬物乱用防止指導者研修会	平成27年7月	横浜市主催で薬物乱用防止啓発及び教育の指導を行っている方々を対象に、「薬物乱用問題の現状と横浜型指導教育プログラムの活用」という演題で、横浜市教育委員会と合同で作成した薬物乱用防止教育プログラムについて、各学校に委嘱されている学校薬剤師と連携して活用する方法をレクチャーした。
平成28年度横浜市薬物乱用防止指導者研修会	平成28年8月	横浜市主催で薬物乱用防止啓発及び教育の指導を行っている方々を対象に実施。「横浜市立小・中学校の児童生徒の実態から考える薬物乱用防止教育」という演題で、横浜市の小中学校に対して実施した意識調査の内容を発表し、その結果から学校現場でどの様に薬物乱用防止教育を行っていくべきかをレクチャーした。
第8回育薬・創薬研究センター教育フォーラム	平成29年2月	「Mohsペーストの医療ニーズを通じた薬剤研究から臨床応用への検討」という演題で、臨床から生じた課題に対して基礎研究を通じて貢献する研究について発表し、また、女性研究者としてライフイベントと仕事の両立について講演した。
平成29年度横浜市薬剤師会第1回学校薬剤師研修会	平成29年4月	「学校環境衛生基準について〜黒板の色彩を中心に 〜」という演題で、学校環境基準の改定の方向性と新 しく行う黒板色彩の検査方法について学校薬剤師を対 象に教育講演を行った。
平成29年度神奈川県薬物乱用防止指導者講習会	平成29年8月	神奈川県主催で、県下で薬物乱用防止啓発及び教育の 指導を行っている方々を対象に、「薬物乱用防止教育 について〜子どもたちを薬物乱用から守るために〜」 という演題で、学校で薬物乱用防止教育を行う際には 学校の状況に合わせた内容や発達段階に応じた伝え方 が大切であり、具体的な連携の仕方を講演した。
和歌山県薬剤師会 平成30年度学校薬剤師研修会	平成30年8月	和歌山県の学校薬剤師を対象に「学校での薬物乱用防止教育の進め方と学校環境衛生基準の改定について」の演題で講演した。前半は薬物乱用問題の現状を踏まえて、小・中学生の薬物に対する意識調査の結果を基に、学校現場でどの様に薬物乱用防止教育を行っていくべきかを講義し、後半には学校環境衛生基準の改正点と学校現場でどの様に指導助言を行うべきかについてレクチャーした。
岩手県薬剤師会 平成30年度薬物乱用防止教室講師研修 会	平成30年12月	岩手県の薬剤師を対象に「薬物乱用問題の実態と学校での防止教育の進め方」の演題で特別講演を行った。前半に日本の現状と大麻の問題を解説し、後半には新学習指導要領や第五次五か年戦略を踏まえた学校での薬剤師の役割について講義した。
他 17件		

4 7 O W # 축 그라 나 # 라 + * + 후 · 프				
4 その他教育活動上特記すべき事項	平成25年~現在		: して病院に訪問した。	
実務実習				
早期体験学習(1年次)	平成25年7月~ 現在	行った。体験実習先機	から2か所を訪問する体験学習を 機関に学生の引率教員として参加 の礼儀や実習内容の勉強、行き はした。	
実務実習	平成25年~現在	病院実習成果報告会に	参加した	
薬学共用試験	平成25年12月~ 現在	評価者又は運営スタッ	フとしてOSCEに参加した。	
動物実験教育訓練	平成28年4月~ 現在	本学主催の動物実験に いる	関する講習会を年に1回受講して	
倫理講習会	平成28年6月~ 現在	指針」にて研究者に毎	Rとする医学系研究に関する倫理 F年受講が求められている倫理講 科大学にて受講している。	
臨床試験講習会	平成28年6月~ 現在	指針」にて研究者に毎	とする医学系研究に関する倫理 4年受講が求められている臨床試 阜薬科大学にて受講している。	
横浜薬科大学 平成28年度 FD·SD研修会	平成28年8月 23日~24日	学力を持った学生の指 当な成績評価、良好な	ミ(一泊二日)に参加し、多様な 背導法、カリキュラムマップと妥 学習環境を整えるために教職員 についてグループに分かれて議	
横浜薬科大学 平成30年度 FD·SD研修会	平成30年9月 4日~5日	大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、初年次教育、能力別クラス分けの在り方、卒業研究と演習講義の両立、学力向上のための授業の組み立ての見直しについてグループに分かれて議論した。		
Ⅱ 研究活動				
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(著書) 処方提案につなげる薬物療法ハンドブック	共著	平成27年3月	南江堂	
(著書) 処方管理学	共著	平成29年3月	南山堂	
(論文)デンプン非含有Mohsペーストの調製と製剤評価	共著	平成29年4月	YAKUGAKU ZASSHI 137巻 4号 p477-484	
(論文) 処方改良Mohsペーストの保存安定性評価	共著	平成30年3月	日本緩和医療薬学雑誌, 11巻, p19-25	
(論文) Evalution of Tumor Tissue Fixation Effects of Formulation Modified Mohs Paste in Mice and Their Water-Absorbing Propaties.	共著		Biol. Pharm. Bull. 41,p1824-1829	
2. 学会発表(評価対象年度のみ)	•	発表年・月	学会名	
(演題名) Mohsペーストの製剤設計と臨床応用		平成30年5月	第12回日本緩和医療薬学会	
(演題名)アンチ・ドーピング啓発活動と学校薬剤師 [A Education and School Pharmacist]	平成30年9月	フォーラム2018:衛生薬学・環境 トキシコロジー		
(演題名)各種ハチミツのマトリックスメタロプロテア- 関する研究[Matrix Metalloproteinase Inhibitory Effe Honeys]		平成31年3月	日本薬学会第139年会	
(演題名)日本人成人の血漿中EPA/AA -2年間の啓発・動- [Plasma EPA/AA in Japanese adults -fluctuation aw areness-raising/awareness activitie]		平成31年3月	日本薬学会第139年会	

Ⅲ 学会および社会における主な活動					
平成23年8月~現在	公益社団法人日本アンチ・ドーピング機構公認ファーマシスト活動推進委員				
平成24年1月~現在	薬物乱用防止キャンペーン実行委員会 企画調整委員				
平成25年4月~平成30年6月	一般社団法人 横浜市薬剤師会 学校薬剤師部会 副部会長				
平成25年4月~平成30年10月	横浜市学校保健会 学校薬剤師部会 部会理事				
平成27年6月~平成28年3月	公益財団法人日本学校保健会「学校薬剤師活動に関する啓発DVD」作成委員会委員				
平成28年6月~現在	公益社団法人日本薬剤師会 学校薬剤師部会 学術ワーキング委員				
平成28年9月~平成29年3月	文部科学省 学校環境衛生基準に関する検討会 委員				
平成29年9月~平成30年3月	文部科学省 学校環境衛生管理マニュアル改定委員会 委員				
平成30年3月~現在	公益社団法人日本薬学会 関東支部 執行部 (市民講座企画委員長)				
平成30年9月~現在	公益財団法人日本学校保健会 学校薬剤師の学校給食衛生管理啓発委員会 委員				
平成31年2月~現在	公益社団法人日本薬学会 代議員				

		教育は	こよび研	研究活動の業	績一覧			
大学名 横浜薬科大学	講座名	病態生理学研究室	職名	講師	氏名	殿岡	恵子	
I 教育活動								
教育実践	美上の主 な第	美績	年	月日		概	要	
1 教育内容・方法のこ	工夫							
薬学英語Ⅳ			1 ///-	5年4月~ 8年3月	どに関連した英文	の教科書	学、薬理学、薬物治療学な あるいは学術雑誌、トピッ 、薬学英語の応用力の向上	
衛生薬学実習(3年)			平成2 現在	6年4月~	ンターへの見学な と理解を深めるよ の報告とフィード	学生同士のスモールグループ討議 (SGD) や、水再生センターへの見学などを通して、環境・衛生分野の知識と理解を深めるようにしている。毎回、実験レポートの報告とフィードバックを行い、実験内容を理解してもらえるよう工夫している。		
薬学英語3(3年前期)			平成2 現在	8年4月~	薬理学、薬物治療	学などに ピックス	系分野である病態生理学、 関連した英文の教科書ある などを題材として扱い、薬 っている。	
2 作成した教科書、教	─ ──── 教材、参考	<u></u>						
English for Pharmaceutical Sstudents IV		平成25年4月~ 平成28年3月		医療系分野である病態生理学、薬理学、薬物治療学などに関連した内容であり、薬学英語IVで使用する教科書として作成。				
第98回薬剤師国家試験 -	-解答·解説	集一	平成2	平成25年6月 薬剤師国家試験の解答・解説を解りやす			説を解りやすく作成。	
第99回薬剤師国家試験 -	-解答·解説	集一	平成2	艾26年9月 薬剤師国家試験の解答・解説を解りやすく作			説を解りやすく作成。	
第100回薬剤師国家試験	一解答·解語	说集一	平成2	平成27年7月 薬剤師国家試験の解答・解説を解りべ		説を解りやすく作成。		
第101回薬剤師国家試験	一解答・解語	说集一	平成2	型成28年11月 薬剤師国家試験の解答・解説を解りやすく			説を解りやすく作成。	
第102回薬剤師国家試験	一解答·解語	说集一	平成2	29年11月 薬剤師国家試験の解答・解説を解りやすく作			説を解りやすく作成。	
第103回薬剤師国家試験	一解答·解語	说集一	平成3	0年11月	薬剤師国家試験の解答・解説を解りやすく作成。			
3 教育方法・教育実践	浅に関する	発表、講演等						
4 その他教育活動上特	寺記すべき	事項						
模擬患者(SP)養成講習st	<u>A</u>		平成2	5年10月~	4年次共用試験OSCEを実施する際に必要な模擬患成を、在学生と利害関係のない地元住民に対してために、学生役として参加した。			
軽井沢FD·SD研修会			平成28年8月 大学の主催する研修会 (一泊二日) に参加し、 学力を持った学生の指導法、カリキュラムマッ 当な成績評価、良好な学習環境を整えるために がグループに分かれて議論した。			泊二日)に参加し、多様な 、カリキュラムマップと妥 環境を整えるために教職員		
Ⅱ 研究活動								
1. 著書・論文等の名称			-	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)		発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(論文) Simultaneous determination for oxicam non- steroidal anti-inflammatory drugs in human serum by liquid-chromatography-tandem mass spectrometry.			共著	2013年12月	Fore 102	ns. Sci. Int., 227, 100-		
(論文) Sensitive liqui mass spectrometry metho determination of eight drugs.	d for the	Simultaneous	共著		2016年3月	Fore 185	nsic. Sci. Int. 265, 182-	
(著書)薬毒物試験法と注	主解201	7		共著	平成29年5月	東京		

2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)Sensitive Liquid Chromat Method for the Simultaneous Detern	cography/Tandem Mass Spectrometory nination of nine beta blockers.	平成30年8月	The Annual Meeting of the International Association of Forensic Toxiclogisits, Ghent, Belgium
(演題名)薬毒物試験法Ⅱ-19β受容	本遮断薬試験法	平成31年3月	日本薬学会第139年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動	j		
平成20年4月~現在	日本薬学会 会員		
平成24年7月~現在	薬物乱用防止キャンペーン		
平成24年8月~平成29年9月	こども調剤		
平成25年4月~現在	日本法中毒学会 会員		
平成25年11月	日本法科学技術学会第19回学術集会事	 務局	

教育および研究活動の業績一覧					
大学名 横浜薬科大学 講座名 薬学教育センター	職名 講師	氏名	中嶋 光治		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績	年 月 日		概要		
1 教育内容・方法の工夫 情報科学入門 (1年前期) 情報処理演習 (1年後期)	平成25年度~ 現在	式の授業を行っている時間を60分以内にした 力を深めるように工夫 課題を終わらせること パソコン室を開放し名	日した説明と課題を中心に演習形 ら。講義ごとに課題を与え、説明 いまいる。またり授業内に全員が さいできないため、授業終了らせ は家のパソコンなどからでも自 に環境にしてある。		
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
Ⅱ 研究活動					
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称		
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名		
Ⅲ 学会および社会における主な活動					

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 横浜薬科大学 講座名 薬剤学研究室	職名 講師	氏名	成田 延幸	
I 教育活動				
教育実践上の主な業績	年 月 日		概要	
1 教育内容・方法の工夫				
医療コミュニケーション論 (4年・後期)	平成25年9月~ 現在		包える背景を捕らえ、患者と遭遇す O特性、心理、情報に基づくコミュ 5を捉える	
生活習慣病特論(4年·後期)	平成25年9月~ 現在	生活習慣病における4 側面から捉える	公衆衛生学的な面以外での、臨床的	
健康管理学(6年前期・6コマ)	平成25年9月~ 現在	生活習慣病を中心に扱 から捉える	ξ病予防・管理・治療を各症例検討	
薬剤学実習1(3年前期)	平成25年9月~ 現在	代表的製剤の調整法・	技術を習得する	
薬剤学実習2(3年後期)	平成25年9月~ 現在	薬剤師の職務や立場を	と正しく理解する	
実務実習プレ教育	平成25年9月~ 現在	実務実習に先立って知	口識・技能・態度を習得する	
2 作成した教科書、教材、参考書				
医療コミュニケーション	平成25年9月~ 現在	要となるため、ドラッとりの方法例をコンセ 基礎知識から患者が置宅・病棟等の場面での	ニケーションには理論とスキルが必ックインフォメーションとそのやりっプトとし、コミュニケーションの置かれている心理状況を薬局・在 でするがないないないでは、 では、カードでは、カードでは、カードでは、カースのでは、カースのでは、カースのでは、カースのでは、カースのでは、カーションを習得います。	
薬剤学実習1	平成25年9月~ 現在	る製剤の取り扱い方法	kの実際、デバイスを用いて使用す k、ケミカルハザード回避の基本的 D技術習得するための教本として、	
薬剤学実習2	平成25年9月~ 現在	実務に対応できるよう	−員として、病院・薬局などで臨床 5、調剤の基本知識と技術を模擬体 0教本として、毎年改訂・執筆し	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4 その他教育活動上特記すべき事項				
Ⅱ 研究活動	1	•		
1.著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(著書) 日経DIクイズ 服薬指導・実践篇13	共著	平成24年10月	日経BP社	
(論文) 6年制薬学教育における新たな問題志向システム (POS) カリキュラムの試み	共著	平成25年4月	日本POS医療学会雑誌17.80-85 (2013)	
(論文) 6年制薬学教育におけるPOS教育―平成23年度に おける評価	共著	平成25年4月	日本POS医療学会雑誌17.86-60 (2013)	
(著書) 日経DIクイズ ベストセレクションBASIC編	共著	平成25年6月	日経BP社	
(著書) 薬剤師・薬学生のための知ってほしい基礎用語	共著	平成28年4月	薬事新報出版	
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名	
Ⅲ 学会および社会における主な活動				

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 横浜薬科大学 講座名	機能形態学研究室	職名 講師	氏名	西崎 有利子
I 教育活動		•		
教育実践上の主	な業績	年 月 日		概 要
1 教育内容・方法の工夫				
運動と健康(健康薬学科1年後期)		平成28年4月~ 現在	スができる薬剤師にかな善する運動についまする運動についまりによりにはりに投業で運動も行ったの一環としてスターでででですがイススターループディスカッション	
生物系実習 1 (2年前期)		平成28年4月~ 現在	けて実施。オリジナルントで説明し、人体に うに実習をガイドした 学問分野に興味を持つ	実習で、約100名ずつ4クールに分レテキストを作成し、パワーポイに関する知識と実習が結びつくよい。実習中に質問があれば、当該ってもらえるような回答を心掛けいの。 顕微観察による実技試験を行こより評価した。
他3件				
2 作成した教科書、教材、参 平成30年度 生物系実習1 実習書 物系実習1担当グループ)		平成30年4月	をまとめた実習書で、 した。写真・図入り	映筆にて、生物系実習で行う内容 機能形態学実習のパートを作成 でわかりやすく、事前に目を通し 舌用してもらうと共に、レポート している。
3 教育方法・教育実践に関す	る発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべ	き事項			
学生委員会		平成28年4月~ 現在	学生生活上の問題解え	央について協議した。
横浜薬科大学 平成28年度 FD・	SD研修会	平成30年9月4日~ 5日	教育、能力別クラスタ	会(一泊二日)に参加し、初年次分けの在り方、卒業研究と演習講のための授業の組み立ての見直し分かれて議論した。
Ⅱ 研究活動				
1. 著書・論文等の名称 他2件		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) SIP1 expression patter investigated by generating a S knock-in mouse.		共著	平成26年1月	Genesis, 2014, 52 (1):56-57
(論文) De novo inbred heteroz mutant mice uniquely generated conditional knockout exhibit c callosal and behavioral defect Mowat-Wilson syndrome.	by germ-line raniofacial,	共著	平成27年11月	Human Molecular Genetics, 2015, 15;24(22):6390-6402
(論文) Loss of Zeb2 in mesenc nephrons causes primary glomer		共著	平成28年12月	Kidney International, 2016, 90(6):1262-1273
(論文) Scleraxis is a transcr that regulates the expression marker of mature tenocytes and	of Tenomodulin, a	共著	平成30年2月	Sci Rep. 2018, 16;8(1):3155
(著書) 第103回薬剤師国家試験	解答・解説集	共著	平成30年7月	横浜薬科大学 教務部 国試対策 室

2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 鳥類特異的尾部構造の比較発生学的解析		2019年3月27日	日本解剖学会総会・全国学術集会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成25年4月~現在	F4月~現在 日本分子生物学会会員		
平成25年4月~現在	日本発生生物学会会員		

教育および研究活動の業績一覧					套積一覧
大学名 横浜薬科大学	講座名	実務実習センター	職名	講師	氏名 矢野 裕一
I 教育活動					
教育実践	美上の主な	業績	年	月日	概要
1 教育内容・方法のこ	工夫				
薬剤学実習 1 (3年)			平成25: 現在	年度~	薬剤学実習 1 事前実務実習、病院・薬局での手荒いなどの消毒、抗がん剤や注射薬の混合調製を行っている。
薬剤学実習2(3年)			平成25: 現在	年度~	薬剤学実習2 事前実務実習病院・薬局・ドラッグストアでの患者対応(初回面談、服薬指導)の場面でロールプレイ実習を行っている。
疾病予防学(5 年)			平成25: 現在	年度~	生活習慣病および日本人の主な死因であるがん、脳血管障害、心臓疾患などを取り上げ、その原因とこれらの疾病を予防し、健康を維持するための基礎知識を修得させる。さらに、食生活、運動、嗜好品と疾病との関連性について講義を行っている。
臨床薬剤学(6年)			平成25: 平成28:		患者に使用する薬剤の体内動態を予測し、患者個々の 投与計画を把握することにより、薬の適正使用に貢献 でき、患者に大きなメリットをもたらす分野である。 最適な薬物療法を行うために適切な剤形の選択、薬物 投与後の体内動態とその変動要因等について講義を 行った。
薬剤学直前実習(4年)			平成25: 平成29:		病院・薬局・ドラッグストアで初回面談・初回応対、 服薬指導・情報提供のロールプレイ実習を行った。
実務実習プレ教育方略(4年)		平成26: 現在	年度~	近年、医療機関において厳しい管理が求められている 劇薬、麻薬、毒薬、向精神薬、覚せい剤原料等の管理 と取り扱いについて臨床経験を生かして講義を行って いる。
長寿医療学(2年)			平成28: 現在	年度~	高齢者においては、加齢に由来する種々の要因が存在し、複数の疾患を併せ持つなど、薬物療法などにも特別な注意と工夫が必要である。高齢者の特徴とかかりやすい疾病を取り上げ、その原因と予防、予後の実際を解説し、高齢者に対して医療の考え方を教えている。
2 作成した教科書、教	教材、参考	·書			
「疾病予防学」講義用パワ	フーポイン	トファイル	平成25: 現在	年度~	「生活習慣病」「感染症疾患」「精神・神経科疾患」
「臨床薬剤学」講義用パワ	フーポイン	トファイル	平成25: 平成28:		「肝機能障害の薬物療法」「腎機能障害の薬物療法」
「薬学総合演習」講義用の	パワーポイ	ントファイル	平成26: 現在	年度~	「薬剤師国家試験問題」実務領域の「薬剤師業務の基 礎」
					「リスクマネージメント」
「実務実習プレ教育方略」	講義用パワ	フーポイントファイル	平成26: 現在	年度~	「劇薬、麻薬、毒薬、向精神薬、覚せい剤原料
「薬剤学実習 I 」講義用/	パワーポィ	ントファイル	平成26:	年度~	等の管理と取り扱い」 「手荒いなどの消毒」「抗がん剤・注射薬の混合
」·木川丁大日 I 」	・ノーハイ	21.27.4W	現在	T IX	「ナボいなこの有番」「抗かん剤・注剤条の混合 調製」
「薬剤学実習Ⅱ」講義用ル	パワーポイ	ントファイル	平成26:	年度~	「病院・薬局・ドラッグストアでの患者対応(初回面 談、服薬指導)の場面でロールプレイ」
「実務実習事前ガイダン <i>)</i> イル	ス」説明用	パワーポイントファ	平成26:	年度~	「実務実習に行く前の心構え」「事前準備」
「実務実習連携会議」説明	明用パワー	ポイントファイル	平成26:	年度~	「受け入れ施設との連携」「評価方法」「システム」
「長寿医療学」講義用パワ	フーポイン	トファイル	平成28:	年度~	 「高齢者薬物療法」「認知症」「行動障害」「服薬管 理」「病院におけるケア」
「実務実習割振りガイダン ファイル	ンス」説明	用パワーポイント	平成28: 現在	年度~	「実務実習施設希望調査票入力方法」

		1	ı		
3 教育方法・教育実践に関する発	表、講演等				
日中薬剤師国際シンポジウムin横浜薬	科大学	平成28年3月28日		ノポジウムin横浜薬科大学」で日 :実務教育のテーマで講演した。	
國學院久我山高校		平成29年11月20日	薬学部教育及び薬剤師の職能について講義した。		
明治学院高校		平成29年12月16日	薬学部教育及び薬剤師	『の職能について講義した。	
都立八潮高校		平成30年1月17日	薬学部教育及び薬剤師	あの職能について講義した。	
神奈川県立西湘高校		平成30年6月13日	薬学部教育及び薬剤師	Fの職能について講義した。	
國學院久我山高校		平成30年12月3日	薬学部教育及び薬剤師	ずの職能について講義した。	
4 その他教育活動上特記すべき事	 項				
1年生の早期体験学習の指導・受入れ	施設への引率	平成25年~現在	早期体験学習に引率教	対員として参加している 。	
実務実習生受入れ病院での学生の症例	・研究発表	平成25年~現在	病院実習成果報告会に	三参加している。	
5年生の実務実習先(病院・薬局)割	振り業務	平成28年~現在	関東地区調整機構 委	員	
研究倫理のe-learning		平成26年9月	CITI Japan e-learni	ngプログラムを受講し終了した。	
日本薬科大学		平成26年12月	薬学共用試験0SCE評価	五 者	
帝京平成大学		平成27年1月	認定指導薬剤師養成り	7ークショップに参加	
帝京大学		平成28年1月	薬学共用試験OSCE評価者		
帝京大学		平成28年1月	改定コアカリキュラム	▲評価方法WSに参加	
日経ホール		平成28年~現在	東京都薬剤師会実務実習受入薬局伝達講習会に参加		
軽井沢セミナーハウス		平成28年8月	WS形式のFD・SD研修会に参加		
昭和薬科大学		平成28年12月	薬学共用試験OSCE評価	5 者	
昭和薬科大学		平成29年12月	薬学共用試験OSCE評価	插者	
昭和大学		平成30年12月	薬学共用試験OSCE評価	薬学共用試験OSCE評価者	
Ⅱ 研究活動					
1.著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(論文) 1. Determination of exposu drug preparers to cyclophosphamide sampling and liquid chromatography mass spectrometry	by passive	共著	平成25年1月	J Oncol Pharm Pract., 19, 31- 37P(2013.1)	
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		•	発表年・月	学会名	
 (演題名) 病院および薬局実習における代表的な疾患に関する実習内容の比 較			平成30年5月	第10回鎌倉薬剤師会学術大会	
(演題名)中国の薬局における薬剤師の法的責任と医薬品の品質管理 Pharmacists' legal responsibilities and the quality control of medicine at pharmacy in China			平成31年3月	日本薬学会139年会(千葉)	
Ⅲ 学会および社会における主な活動					
平成23年4月以前~現在	日本病院薬剤師会 会員				
平成23年4月以前~現在	神奈川県病院薬剤師会 会員				
平成23年4月以前~現在	全国都市立病院薬剤部長協議会 会員				
平成23年4月以前~現在	神奈川県10市公立病院薬剤部長協議会 会員				
<u> </u>					

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 横浜薬科大学 講座名 実務実習センター	職名 講師	氏名 吉江 文彦		
I 教育活動				
教育実践上の主な業績	年 月 日	概要		
1 教育内容・方法の工夫 日本医科大学看護専門学校 薬理学!	平成25年4月~ 平成30年3月	平成22年より通年で看護専門学校の学生に薬の効果すなわち、薬理学の講義を行ってきた。日本医科大学からの依頼であり、できるだけ分かりやすく病院内での使用方法を含め講義した。パワーポイントのみでは無く実物を交え実践的に分かりやすく講義を行った。本年で終了することを大変残念に思うと言われている		
実務実習(病院) (5年次前期・後期) 実務実習(薬局) (5年次前期・後期)	平成30年4月~ 平成31年3月	病院・薬局で行われる実務実習は薬剤師になるために 非常に重要な経験となります。学内では出来ない生の 薬剤師が関わることが出来、将来の医療人としての心 構えなどを学習できます。その実習にあたり、トラブ ルや心配事、学習の進行度などをチェックし学生が有 意義に過ごせるようにサポートを行っている。		
薬事法規・制度3(4年度後期)	平成30年4月~7月	医薬品は、人々の健康に有用でもあり有害でもある。 危険性をはらんだ物質であり、その運用は法規・制度 によって行われている。医薬品の開発も又、このよう な法規・制度によって規定されている。この法規・制 度を学ぶことはこれからの薬剤師にとって重要であ る。医薬品の安全性や有効性、品質の分野で必要な法 規・制度をSGDと言う形で課題を出し、討議することで 理解度を深める指導を行った。		
社会薬学2(2年次前期)	平成30年4月~7月	生命の尊さを深く理解し、生涯にわたる薬の専門科としての責任が持てる「薬剤師として求められる基本的な資質」を養うべく医療腎としてふさわしい行動、薬剤師の果たすべき役割、患者安全、倫理観、コミュニケーションなど薬剤師のあり方の基本を学ぶ。板書や講義では無く、学生主体の考える授業としてSGDを導入した教育を取り入れている。		
薬事法規・制度1(3年前期)	平成30年6月2日 6月9日,6月16日	調剤、医薬品の供給のみならず薬剤師の職務はその他感染の予防などの衛生業務にも関わっている。そのような薬剤師の関わる業務を適切に追考するための法・規範を学習する。その中でも特に地域活動についての薬剤師としての法規範をSGDの形式で全員が参加し議論できるように工夫した。		
実務実習プレ教育(4年次前期)	平成30年7月27日	病院・薬局で行われる実務実習は薬剤師になるために 非常に重要な経験となります。その実習に必要な基礎 知識、技能、態度を修得を目的としている。実習に向 けた心構えや方略を分かりやすく実践的に指導した。		
医療コミュニケーション論(4年次後期)	平成30年9月~ 12月	模擬カルテ・患者様に近い(寄り添った)教材を用いて授業を進める。パワーポイントを用いた授業だけでは無くコミュニケーションを扱うので対話型講義、寸劇などを取り込みながらコミュニケーションを図りながら行った。できる限り患者の側に立った分かりやすいコミュニケーションが取れるよう指導KJ法なども取り入れている。		
疾患別治療学特論1(4年次後期)	平成30年10月25日 11月1日	感染症の治療に対する薬剤師の関与について、薬の説明だけでは無く模擬患者を仕立て、医療に現場に近づけた評価を検討した。感染症のガイドラインなど多くの資料より適切な薬物治療が行われるよう、SGDの形式を取りコミュニケーションの重要性も指導した。		

	I — B	I
薬事法規・制度2(3年後期)	平成30年11月7日	薬剤師は、保険・医療・福祉に関わり人の生命に携わる職である。法規範・制度・経済及び地域における薬剤師の役割を認識し、その義務及び法令を遵守する意義を学習する。実践を重視し、課題を与え討議することで理解度を増す。SGDの形式を取り理解出来るように指導した。
薬剤学実習2(3年前期)		実務実習事前学習の一環に含まれる重要な実習である。近年の薬剤師は、チーム医療に携わる一員として、病院や薬局などで臨床実務に対応出来るように、調剤の基本的知識と手技の研鑚を行う。手技のみでは無く、模擬患者など模擬体験して、コミュニケーション技術の向上にも努力する。分かりやすいように実践を交えて指導を行う。
実務実習ポスト教育(5年次後期)	平成31年2月	病院・薬局で行われる実務実習は薬剤師になるために 非常に重要な経験となります。学内では出来ない生の 薬剤師が関わることが出来、将来の医療人としての心 構えなどを学習できます。実際に11週間の実習を完遂 し、その経験を復習するためにSGD形式にて討論し、自 分の経験や他者の経験を討議する。最終的には、一つ の成果としてポスター発表の形にまとめる。
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
日本医科大学看護専門学校	平成29年8月	薬理学に関する看護学生に対する特別講義。薬剤が身体に及ぼす影響などについて講義を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項		
東京都薬剤師会 薬局実務実習担当者会議	平成30年4月7日	東京都薬剤師会が主催となる研修会で、都内薬局、関東近隣の薬科大学の教員にたいしてどの様に学生の成長を評価するのか?などについて研修が行われた。さらに、来年度に渡る薬学実務実習の方向性の検討。意見交換を行い、学生の指導に役立てるよう努めた。
平成30年度日本薬剤師会薬局実務実習担当者会議	平成30年6月13日	日本薬剤師会が主催となる研修会で、全国薬局、全国の薬科大学の担当教員に対する研修会である。新コアカリキュラムも来年より発動し、どの様に学生の成長を評価するのか?などについて研修および指導が行われた。さらに、来年度の薬学実務実習の方向性の検討。意見交換を行い、学生の指導に役立てるよう研修を行った。
子ども薬剤師体験セミナー	平成30年8月17日	薬剤師の職能を体験することで、将来の薬剤師を目指すお子さんが増えればとの考えで、それぞれ清潔な手洗い~錠剤、服薬指導、フィジカルアセスメントなどを体験してもらった。できるだけ実際の薬剤師業務に近いスタンスを取れれば良いが、受講年齢も広い年齢なので難しかった。
高大連携体験学習の授業のサポート(自修館中等学校)	平成30年8月17日	高校大学連携授業の一環として、薬を薬剤分包機を用いて分包する様子を見学していただくとともに、たいけんしていただいた。薬の効果などは矢野先生の指導で、そのサポートを行った。薬剤の分包業務を行う。
第23回 認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンス ワークショップ(神奈川) 第24回 認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンス ワークショップ(神奈川)	平成30年9月9日	指導薬剤師の先生方に対するアドバンスド講習であり、配属される本学の学生に更なる有用な実習を提供していただくための指導法などについて神奈川県薬剤師会よりフォローをお任せいただいた。
早期体験学習(1年次後期)	平成30年12月5日 12月12日	これからの薬剤師は、チーム医療に携わる一員として職の概要を認識する必要がある。早期に薬剤師の仕事、責任感の早期の認識が必要とされるのでできるだけ身近に感じられるように配慮した。学生からみじかに質問が出来るように人数を絞った見学をお願いした。
薬学共用試験評価者養成伝達講習会	平成30年12月1日 12月3日, 12月16日	薬学共用試験 (OSCE)の実施に当たり、滞りなく試験を実施するための注意事項やその運用についての細かな打ち合わせが行われ、病院の薬剤師の先生方、薬局の薬剤師の先生方のフォローなど行った。実施日はスタッフとして活動する。

F					
Ⅱ 研究活動					
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(著書)基礎からわかるハイリスク薬		共著	平成26年9月	ナツメ社	
(著書) 基礎からわかる漢方薬の服薬指導	Ĵ	共著	平成28年5月	ナツメ社	
(著書)基礎からわかる服薬指導第2版	坂	共著	平成29年2月	ナツメ社	
(論文)Effect of Dai-saiko-to(Da-Chai-Hu-Tang) on LDL-Receptor Gene Expression in Human Hepatoma Cell Line (HepG2)		共著	平成25年4月	Am J Plant Sci.4, 454-459	
(論文)Effect of dietary hypercholesterolemia on plasma lipids levels male and female Japanese white and heterozygous Kurosawa-kusanagi hypercholesterolemic rabbits.		共著	平成26年2月	Journal of Advances in Biology. Vol. 4, No. 2, 342-350	
2. 学会発表			発表年・月	学会名	
(演題名) ヒューマニズム・倫理教育 題一講義、アクティブラーニング、ポ			平成31年3月	第25回 大学教育研究フォーラム	
Ⅲ 学会および社会における主な活動	Ⅲ 学会および社会における主な活動				
平成6年4月~	日本薬学会会員				
平成6年4月~	医薬化学部会				
平成8年6月~	日本動脈硬化学会会員				
平成26年~平成30年3月	草加市薬剤師会				

	教育および研究活動の業績一覧					
## 表	大学名 横浜薬科大学 講	上 蜂座名 臨床薬理学研究室	職名 講師	氏名	吉門 崇	
お育内容・方法の工夫 臨床薬理学1、薬物動態学1、高度先端医療論等の授業 平成29~30年	I 教育活動		-			
臨床棄理学1、高徳勢徳学1、高度先端医療論等の授業	教育実践上	の主な業績	年 月 日		概要	
臨床薬程学1、柔物動態学1、高度先端医療論等の授業 平成29~30年			₹ 平成29~30年			
理化学研究所主催の薬物動態学講習会における講師・ 中成25~30年 医薬品研究開発離を対象とした講習会にて講師・ チューター 4 その他教育活動上特記すべき事項 理化学研究所移址特別研究室と共同で若手研究者(学生 中成25~30年 コンピュータを用いた薬物動態解析手法をもとに研究 含む)の研究指導 1 研究活動 1. 著書・論文等の名称 単著・ 共著の別 条行所、発表雑誌 (義文) Quantitative analyses of hepatic OATP- mediated interactions between statins and inhibitors using PBPK model ing with a parameter- optimization method. (論文) Comparison of methods for estimating unbound intracel lular-to-medium concentration ratios in rat and human hepatocytes using statins. (論文) Comparison of methods for estimating unbound intracel lular-to-medium concentration ratios in rat and human hepatocytes using statins. (論文) A clinical cassette dosing study for evaluating the contribution of hepatic OATPs and OYP3A to drug-drug interactions. (論文) Comparative study of dose-dependence of OATPIB inhibition by rifampicin using probe drugs and endogenous bushartates in healthy volunteers. (論文) PBPK modeling of coproporphyrin I as an endogenous biomarker for drug interactions involving inhibition of hepatic OATPIBI and OATPIB3. (論文) PBPK modeling of coproporphyrin I as an endogenous biomarker for drug interactions involving inhibition of hepatic OATPIBI and OATPIB3. (論文) PBPK modeling of coproporphyrin I as an endogenous biomarker for drug interactions involving inhibition of hepatic OATPIBI and OATPIB3. (論文) PBPK modeling of coproporphyrin I as an endogenous biomarker for drug interactions involving inhibition of hepatic OATPIBI and OATPIBS abs LVMRP2内在性基 平成30年1月			平成29~30年		医薬品添付文書等、最新の文献を	
チューター チューターを務めた。 4 その他教育活動上特記すべき事項 理化学研究所を加特別研究室と共同で若手研究者 (学生 合む)の研究指導 中成25~30年 指導を行い、学会発表および論文掲載に貢献した。 1 研究活動 1. 著書・論文等の名称 単著・ 共著の別 共著の別 共著の別 発行または発表の 年月 (西暦でも司) 発行所、発表雑誌 後・号数)等の名称 (論文) Quantitative analyses of hepatic OATP- modiated intoractions between statins and inhibitors using PBPK modeling with a parameter- port intracel lular-to-medium concentration ratios in rat and human hepatocytes using statins. 共著 中成29年 7月 Drug Metabolism and Disposition vol. 45 p779-789 (論文) A clinical cassetted dose revaluating the contribution of hepatic OATPs and OXP3A to drug-drug interactions. 共著 中成29年 8月 Pharmaceutical Research vol. 34 p1570-1583 (論文) Comparative study of dose-dependence of OATPIB inhibition by rifampicin using probe drugs and endogenous substrates in healthy volunteers. 共著 中成30年 5月 Pharmaccutical Research vol. 35 p138 (論文) PBPK modeling of coproporphyrin I as an endogenous binarker for drug interactions involving inhibition of hepatic OATPIBI and OATPIB3. 共著 中成30年11月 CPT pharmacometrics and Systems Pharmacology vol. 7 p739-747 OPT pharmacometrics and Systems Pharmacology vol. 7 p739-747 中成30年 5月 日本薬剤学会 第33回年会、 金沢 第28年 7月 中成30年1月 中成30年1月 Phar薬物動態学会 第33回年会、 金沢 Programmental Phar 中成30年1月 CPT pharmacometrics and Systems Pharmacology vol. 7 p739-747 日本薬物動態学会員 第28年 7月 中成30年1月 日本薬物動態学会員 <td>3 教育方法・教育実践に</td> <td>関する発表、講演等</td> <td></td> <td></td> <td></td>	3 教育方法・教育実践に	関する発表、講演等				
理化学研究所杉山特別研究室と共同で若手研究者(学生 平成25~30年		学講習会における講師・	平成25~30年			
指導を行い、学会発表および論文掲載に貢献した。 正 研究活動	4 その他教育活動上特記	!すべき事項				
工業書・論文等の名称	理化学研究所杉山特別研究室 含む)の研究指導	と共同で若手研究者(学生	平成25~30年			
#著の別 年月(西暦でも可) (巻・号数)等の名称 (論文) Quantitative analyses of hepatic OATP- mediated interactions between statins and inhibitors using PBPK modeling with a parameter- optimization method. (論文) Comparison of methods for estimating unbound intracellular-to-medium concentration ratios in rat and human hepatocytes using statins. (論文) A clinical cassette dosing study for evaluating the contribution of hepatic OATPs and CYP3A to drug-drug interactions. (論文) Comparative study of dose-dependence of OATP1B inhibition by rifampicin using probe drugs and endogenous substrates in healthy volunteers. (論文) PBPK modeling of coproporphyrin I as an endogenous biomarker for drug interactions involving inhibition of hepatic OATP1B1 and (演題名) 生理学的藥物速度論モデルを用いたOATP1BsおよびMRP2内在性基 (演題名) 生理学的藥物速度論モデルを用いたOATP1BsおよびMRP2内在性基 (演題名) Proposal for predicting drug-drug interactions using a PBPK model of coproporphyrin I as an endogenous OATP1B biomarker 中成30年5月 中成30年5月 中成30年1月 CPT pharmacoutical Research vol. 34 Pharmaceutical Research vol. 35 p138 CPT pharmacoutical Research vol. 35 p138 PRZ30年1月 CPT pharmacoutical Research vol. 35 p138 CPT pharmacoutical Research vol. 36 p138 PRZ30年1月 Pharmaceutical Research vol. 35 p138 PRZ30年5月 Pharmaceutical Research vol. 35 p138 PRZ30年1月 Pharmaceutical Research vol. 35 p138 PRZ30年1月 Pharmaceutical Research vol. 36 p138 PRZ30年5月 Pharmaceutical Research vol. 36 p1570-1583 CPT pharmacoutics and Systems Pharmacology vol. 7 p739-747 PRZ30年1月 Pharmaceutical Research vol. 36 p158 PRZ30年1月 Pharmaceutical Research vol. 36 p158 PRZ30年1月 Pharmaceutical Research vol. 36 p158 PRZ30年5月 Pharmaceutical Research vol. 36 p158 PRZ30年5月 Pharmaceutical Research vol. 36 p158 PRZ30年1月 PRZ30年1月 PRZ30年5月 Pharmaceutical Research vol. 36 p158 PRZ30年1月 PRZ30年1	Ⅱ 研究活動					
### PK PBPK modeling with a parameter— 共著 中成28年11月 Clinical Pharmacology and Therapeutics vol. 100 p513-523 (論文) Comparison of methods for estimating unbound intracellular-to-medium concentration ratios in rat and human hepatocytes using statins. ### 中成29年7月 Drug Metabolism and Disposition vol. 45 p779-789 中不成29年8月 Pharmaceutical Research vol. 34 p1570-1583 中成29年8月 中和工作工作工作工作工作工作工作工作工作工作工作工作工作工作工作工作工作工作工作	1. 著書・論文等の名称					
unbound intracellular-to-medium concentration ratios in rat and human hepatocytes using statins. (論文) A clinical cassette dosing study for evaluating the contribution of hepatic OATPs and CYP3A to drug-drug interactions. (論文) Comparative study of dose-dependence of OATPIS inhibition by rifampicin using probe drugs and endogenous substrates in healthy volunteers. (論文) PBPK modeling of coproporphyrin I as an endogenous biomarker for drug interactions involving inhibition of hepatic OATPIBI and OATPIBI and OATPIBI inhibition of hepatic OATPIBI and OATPIBS A Systems Pharmacology vol. 7 p739-747 2. 学会発表 (評価対象年度のみ) 2. 学会発表 (評価対象年度のみ) 2. 学会発表 (評価対象年度のみ) (演題名) Proposal for predicting drug-drug interactions using a PBPK model of coproporphyrin I as an endogenous OATPIB biomarker (演題名) Proposal for predicting drug-drug interactions using a PBPK model of coproporphyrin I as an endogenous OATPIB biomarker 中成30年10月 日本薬剤学会 第33回年会、金沢 中成21年4月~平成30年 日本薬剤学会会員 中成21年4月~平成30年 日本薬剤学会会員 中成21年4月~平成30年 日本薬剤学会会員 中成24年4月~平成30年 日本薬剤学会会員 中成24年4月~平成30年 日本薬剤学会会員 中成24年4月~平成30年 日本薬剤学会会員 日本薬剤学会会員	mediated interactions betw	veen statins and	共著	平成28年11月		
evaluating the contribution of hepatic OATPs and CYP3A to drug-drug interactions. (論文) Comparative study of dose-dependence of OATPIB inhibition by rifampicin using probe drugs and endogenous substrates in healthy volunteers. (論文) PBPK modeling of coproporphyrin I as an endogenous biomarker for drug interactions involving inhibition of hepatic OATPIB1 and OATPIB3. 2. 学会発表 (評価対象年度のみ) (演題名) 生理学的薬物速度論モデルを用いたOATPIBsおよびMRP2内在性基質コプロポルフィリンIの体内動態解析 (演題名) Proposal for predicting drug-drug interactions using a PBPK model of coproporphyrin I as an endogenous OATPIB biomarker 正 学会および社会における主な活動 平成21年4月~平成30年 日本薬剤学会会員 日本薬剤学会会員 日本薬剤学会会員 「不成30年度より薬剤学編集委員会委員) 平成24年4月~平成30年 日本薬剤学会会員 「不成30年度より薬剤学編集委員会委員)	(論文) Comparison of methods for estimating unbound intracellular-to-medium concentration ratios in rat and human hepatocytes using statins.			平成29年 7月		
OATP1B inhibition by rifampicin using probe drugs and endogenous substrates in healthy volunteers. (論文) PBPK modeling of coproporphyrin I as an endogenous biomarker for drug interactions involving inhibition of hepatic OATP1B1 and OATP1B3. 2. 学会発表 (評価対象年度のみ) 2. 学会発表 (評価対象年度のみ) (演題名) 生理学的薬物速度論モデルを用いたOATP1BsおよびMRP2内在性基質コプロポルフィリンIの体内動態解析 (演題名) Proposal for predicting drug-drug interactions using a PBPK model of coproporphyrin I as an endogenous OATP1B biomarker エ 学会および社会における主な活動 平成21年4月~平成30年 日本薬物動態学会会員 平成21年4月~平成30年 日本薬剤学会会員 (平成30年度より薬剤学編集委員会委員) 平成24年4月~平成30年 日本薬剤学会会員 日本薬剤学会会員	evaluating the contribution	on of hepatic OATPs and	共著	平成29年 8月	Pharmaceutical Research vol.34 p1570-1583	
endogenous biomarker for drug interactions involving inhibition of hepatic OATPIB1 and OATPIB1 and OATPIB3.	OATP1B inhibition by rifam	npicin using probe drugs	共著	平成30年 5月	Pharmaceutical Research vol.35 p138	
(演題名) 生理学的薬物速度論モデルを用いたOATP1BsおよびMRP2内在性基 質コプロポルフィリンIの体内動態解析	(論文) PBPK modeling of coproporphyrin I as an endogenous biomarker for drug interactions involving inhibition of hepatic OATP1B1 and OATP1B3.		共著	平成30年11月	Systems Pharmacology vol.7	
質コプロポルフィリンIの体内動態解析	2. 学会発表(評価対象年度	(のみ)		発表年・月	学会名	
PBPK model of coproporphyrin I as an endogenous 0ATP1B biomarker 平成30年10月 金沢 皿 学会および社会における主な活動 平成21年4月~平成30年 日本薬物動態学会会員 平成21年4月~平成30年 日本薬剤学会会員(平成30年度より薬剤学編集委員会委員) 平成24年4月~平成30年 日本動物実験代替法学会会員			およびMRP2内在性基	平成30年 5月	日本薬剤学会 第33年会、静岡	
平成21年4月~平成30年 日本薬物動態学会会員 平成21年4月~平成30年 日本薬剤学会会員(平成30年度より薬剤学編集委員会委員) 平成24年4月~平成30年 日本動物実験代替法学会会員				平成30年10月		
平成21年4月~平成30年 日本薬剤学会会員(平成30年度より薬剤学編集委員会委員) 平成24年4月~平成30年 日本動物実験代替法学会会員						
平成24年4月~平成30年 日本動物実験代替法学会会員	平成21年4月~平成30年	日本薬物動態学	 会会員			
	平成21年4月~平成30年	日本薬剤学会会	日本薬剤学会会員 (平成30年度より薬剤学編集委員会委員)			
平成27年4月~平成30年 日本臨床薬理学会会員	平成24年4月~平成30年	日本動物実験代	日本動物実験代替法学会会員			
i de la companya de	平成27年4月~平成30年	日本臨床薬理学会				

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 横浜薬科大学 講座名 病態生理学研究	室 職名 講師	氏名 吉田 林		
I 教育活動				
教育実践上の主な業績	年 月 日	概要		
1 教育内容・方法の工夫 構造機能学 (1年次通年) (首都医校)	平成26年4月~ 平成28年3月	化学、生物の非履修者にも分かるように高校レベルから構造機能学を解説。授業スライドは全て理解度の明報を表すられるように正夫した。理解度の明報を表するとは重要な話句をであるというを記しては重要ないでは、して、して、して、して、して、して、して、して、して、して、して、して、して、		
生物学 (1年次・後期) 〔首都医校)	平成26年4月~ 平成28年3月	入学決定者に行った基礎知識を問う試験に基づいて、 生物の知識が不十分な者と、復習を望む者を対象に高校レベルの生物学の講義を行った。授業スライドは全 て印刷し、メモを書き加えられられるように工夫した。授業の最後には、小テストを行って知識の定着を はかった。		
薬学英語2 (2年次前期)	平成28年4月~現在	薬学英語1で使用した教科書を引き続き使用した。 授業は別途行われている機能形態学の復習となるようにまとめ形式で構成し、重要語句は日本語の下に英単語を記した。英単語はまとめの文章、図、教科書本文に出てくる箇所を色を変えて繰り返し示し、記憶に残るよう工夫した。 単語を覚える為に彩色式の英語版解剖学アトラスを使用してレポートとして提出させ、更に小テストも行った。 平成29年度からは4~5名の先生からなるオムニバス形式をとり、生物系・化学系双方の英語を教えられるようにした。		
運動生理学 (1年次前期)	平成28年4月~ 9月	まだ医学の基礎を殆ど学んでいない1年前期に行われる授業である為、解剖学と生理学の基礎から説明し、簡単な運動生理学へと繋げていく構成にした。 授業の理解を深めるための問題プリントを各章ごとに配り、小テストも行った。		
生物系実習 I ・ II (2年次前期・後期)	平成28年4月~ 現在	生物系研究の基礎となる、生化学、機能形態学、免疫学、微生物学の実習指導を行った。座学の講義に引き続いて実験を行い、後日、試験とレポート提出を課した。実験に関する質問には逐次対応した。個々人の積極的参加を促すため、消極的な学生にはこちらから介入し、理解を深められるよう質問を投げかけるなど工夫した。		
2 作成した教科書、教材、参考書				
構造機能学 講義資料	平成26年4月~ 平成28年3月	授業スライドを印刷し、メモを書き加えられられるようにして板書・書き写しによる時間のロスを減らし、より基礎的な内容から系統立てて話せるよう工夫した。理解度の低いクラスに対しては重要な語句を穴抜きにしてプリントを配布し、ポイントを分かりやすくした。		
構造機能学 Q&A集	平成26年4月~ 平成28年3月	授業の理解を深めるための問題プリントを各章ごとに 作成して配り、重要ポイントの明確化と語句の記憶定 着をはかった。それをもとに時々小テストも行い、定 期試験の問題としても利用して、復習意欲を高めるよ う配慮した。		

上上半 = # * 次 //J	T +00 - 1 -	######
生物学 講義資料	平成26年4月~ 平成28年3月	構造機能学の基礎となる生物学の内容をコンパクトにまとめ、図を多く使用して目に見えないものでもイメージしやすいよう資料を作成した。授業スライドは印刷し、メモを書き加えられられるようにして、板書・書き写しによる時間のロスを減らし、より基礎的な内容から系統立てて話せるよう工夫した。
薬学英語2 講義資料	平成28年4月~ 現在	機能形態学の復習となるように構成し、覚えるべき英単語は日本語の下に記して、日本語による理解の上に英語を覚えられるよう配慮した。英単語は必ず文章と図の双方を色を変えて示し、イメージしながら覚えられるようにした。使用している教科書の間違いは出版社に伝えて改善を促し、講義資料と整合性がとれるよう配慮した。
運動生理学 講義資料	平成28年4月~ 9月	まだ医学基礎の知識がない時に、生理学の応用教科である運動生理学を教えるという難しさを克服するため、まず解剖生理学の基礎を広く浅く教え、運動生理学へ繋げるように作っている。各章の内容を理解させるため、章毎の問題プリントも編集して配っている。
生物系実習 I 横浜薬科大学出版 講義用テキスト	平成28年4月~ 現在	生物系実習 I で使用する教科書の担当箇所の改訂版を 執筆した。昨年度の実習で学生が間違いやすかった言 葉等を明確にするなど、よりスムーズに実習が進めら れるよう工夫した。
社会薬学1 講義資料	平成30年4月~ 現在	授業での学びを理解し、落とし込むために、開発教育 手法を用いた資料を使って、世界の窮状を自分に関係 のある事柄として認識させている。また、世界中の 人々が健康的な生活を送るためには自分に何ができる か、そのために今大学で何を学ぶかを、国連の示す持 続可能な開発目標(SDGs)に、授業カリキュラムを絡 めながら考えられるよう工夫した。関心ある社会問題 に取り組むために、自ら考え、計画して学んでいくカ をトレーニングする構成となっている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
The 33rd Annual Meeting of Japan Association for International Health 2018	平成30年12月	The international training program for health professions from the Department of Pharmacy.
4 その他教育活動上特記すべき事項		
薬学教育センターで学生の学習指導(担当教科:英語、 生物、解剖学、生理学)。	平成28年4月~ 現在	薬学教育センターで学生の学習指導(担当教科:英語、生物、解剖学、生理学)。
国際交流委員会委員として日本・台湾・マレーシア・モンゴル学生との合同ディスカッションを開催。	平成28年7月~ 現在	国際交流委員会委員として中国医薬大学、台北医学大学との学生合同ディスカッションを開催。
FD・SD講習会に参加。	平成28年8月	大学主催の1泊2日の研修会に参加し、よりよい授業の組立てや、学力向上のための取組み等について教職員で議論した。
新入生フレッシュマンセミナー引率。	平成28年9月~ 29年12月	ワーキンググループ委員としてフレッシュマンセミ ナーを企画、引率を行った。
評価者としてOSCEに参加。	平成28年12月~ 現在	OSCEに参加し、学生の手技を評価した。
教務委員会 委員。	平成29年4月~ 現在	教務委員会 委員。
早期体験学習(1年次後期)	平成29年9月~ 現在	早期体験学習として1年生を引率し、病院・薬局を訪 問。
模擬患者(SP)養成講習会	平成29年12月	模擬患者(SP)養成の講習会に参加した。
デュケイン大学(アメリカ、ピッツバーグ)短期留学研 修引率。	平成30年3月~ 現在	デュケイン大学(アメリカ、ピッツバーグ)短期留学 研修を引率し、英語授業の日本語通訳などを行った。
デュケイン大学(アメリカ、ピッツバーグ)とのMOU締結に大学代表として参加。	平成30年3月	デュケイン大学(アメリカ、ピッツバーグ)とのMOU締結に横浜薬科大学の代表として参加した。
ROSE(オックスフォード大学・ケンブリッジ大学、イギリス)短期留学研修引率。	平成30年8月~ 現在	ROSEプログラムでイギリスのオックスフォード大学・ ケンブリッジ大学の短期留学研修を引率した。
海外で学ぶ英会話・海外で学ぶ薬学を授業化。	平成30年12月	短期留学研修のROSEプログラム(オックスフォード大学・ケンブリッジ大学、イギリス)を「海外で学ぶ英会話」、アメリカ・タイ・台湾・韓国研修を「海外で学ぶ薬学」として自由科目授業とした。

T 研究注制					
Ⅱ 研究活動		T	T	1	
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)		、発表雑誌 数)等の名称
(論文)温故知新の医学〜全人的医療	者の育成に向けて	単著	平成28年5月	風跡 42:8-1	3.
(著書) 第101回薬剤師国家試験—解領	答▪解説集—	共著	平成28年11月	横浜薬科大学 室 15-16.	教務部 国試対策
(論文) Sensitive Liquid Chromatography/Tandem Mass Spectrometry Method for the Simultaneous Determination of Risperidone, Olanzapine, Quetiapine, Clozapine, Ziprasidone, Perospirone, Aripiprazole and Blonanserin in Human Serum.		共著	平成30年2月	American Jour Chemistry 9:	nal of Analytical 88-97
(論文)英語で行うアルデヒドデヒドロゲナーゼ2 (ALDH2)遺伝子の多型解析「英語dePCR」		共著	平成30年9月	横浜薬科大学 〈平成28年度〉	高大連携業績集 21-29.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	<u>i÷</u>	学会名
(演題名) The international traini from the Department of Pharmacy Poster presentation	ng program for he	alth professions	平成30年12月	The 33rd Annu Japan Associa International	
Ⅲ 学会および社会における主な活動			•		
平成27年4月	ユニセフ・ラブウォーク 日本ユニセフ・ラブウォーク協議会 誰もが大切な'いのち'!啓発活動				
平成28年9月~現在(毎年9月)	「薬物乱用防止キャンペーン」in横濱 薬物乱用防止キャンペーン実行委員会 主催 薬物乱用防止啓発活動				
平成28年8月~現在	横須賀学院高校で	英語(日本語)で生	物実習講義を開催		

教育および研究活動の業績一覧						
大学名 横浜薬科大学 講座名 機能形態学研究室	職名 助教	氏名	五十鈴川 知美			
I 教育活動	•					
教育実践上の主な業績	年 月 日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫						
生物系実習 I (2年次前期)	平成25年4月~ 平成27年7月		学、機能形態学の実験指導を行っ 3を越える学生を3クール体制で、			
生物系実習 1 (2年次前期)	平成28年4月~ 現在	能率的に実習手順を伝た。	द達し事故もなく実験を行ってき			
(カリキュラムの改訂により科目名変更)						
生物系実習Ⅱ (2年次後期)	平成25年10月~ 平成27年12月	100名を越える学生を	実験指導を行っている。1クール 3クール体制で、能率的に実習手			
生物系実習2(2年次後期)	平成28年10月~ 現在	順を伝達し事故もなく	(実験を行ってきた。			
(カリキュラムの改訂により科目名変更)						
2 作成した教科書、教材、参考書						
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
模擬患者(SP)養成講習会	平成25年10月~ 平成30年12月		実施する際に必要な模擬患者の養 関係のない地元住民に対して行っ			
早期体験学習(1年次後期)	平成29年9月~ 平成30年12月	(花来は学生が病院、薬局、企業の中から1ヶ所を選択して施設訪問していたが、コアカリSBOに準じて「様な薬剤師の業務を見聞」するため、各学生が病院と薬局または企業の2ヶ所を訪問することにした。そのために従前より倍加した施設を確保し、学生および引率教員を割り振った。学生を割り振る際には、終了後の帰宅が容易になるようにできるだけ配慮した。				
横浜薬科大学 平成28年度 FD・SD研修会	平成28年8月23日 ~24日	大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、初年次教育、能力別クラス分けの在り方、卒業研究と演習講義の両立、学力向上のための授業の組み立ての見直しについてグループに分かれて議論した。				
Ⅱ 研究活動						
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称			
(著書) 第99回 薬剤師国家試験一解答・解説集一	共著	平成26年7月	横浜薬科大学 国試対策室			
(著書) 第100回 薬剤師国家試験一解答・解説集一	共著	平成27年7月	横浜薬科大学 国試対策室			
(著書) 第101回 薬剤師国家試験一解答・解説集一	共著	平成28年7月	横浜薬科大学 国試対策室			
(著書) 第102回 薬剤師国家試験一解答・解説集一	共著	平成29年7月	横浜薬科大学 国試対策室			
(著書) 第103回 薬剤師国家試験一解答・解説集一	共著	平成30年7月	横浜薬科大学 国試対策室			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名			
Ⅲ 学会および社会における主な活動						

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 横浜薬科大学 講座名 実務実習センター	職名 助教	氏名 佐藤 恭輔		
教育実践上の主な業績	年 月 日	概要		
1 教育内容・方法の工夫				
 見東リハビリテーション専門学校 E理学講座	平成月28年4月~ 現在	本学着任前に依頼を受けて、臨時講師として理学療法士を目指す学生に対して、生理学の基礎から一つずで講義を行った。前期と後期で同じ範囲で講義を行う様にカリキュラムを組み、その上で前期は基礎の基礎から一つずつ説明を行い広く浅くその範囲の全体を意識して貰う様指導した。後期は前期で説明した範囲を復習しながら更に深く掘り下げて指導を行い、テキストに掲載されている問題なども課題として提供して学生の理解度を深めた。		
病院実務実習	平成月30年4月~ 現在	学生にとって有意義かつ充実した実習になる様に常に 意識して学生に指導を行った。こまめにメールに学生の現状を確認し、電話等で相談に乗り、必要だと判 断した際には実習施設へ伺い指導薬剤師を含め面談を 行った。直接的な指示ではなく、学生自身内へにが少ったで ども、ではなり良い方向へ向く様った。 意識した。実習先の薬剤師に対しても新コアカリいで 意識した。実習先の薬剤師に対しても新コ要についる 意識した。実習先の薬剤師に対しても新コ要についる 意識した。実習先の薬剤師に対しても新コ要にで 意識した。実習先の薬剤師に対しても新コ要にで 情報提供を行い、各施設での理解度を高める様意識し て指導した。		
勿理系実習1 610/#	平成月30年4月~ 現在	学生が既に学んでいる滴定に関する分析定量法について実際に手を動かして体験と理解を深めてった。 学生の主体性を重視して実習指導に当たったというではなく、「何故その様に考えるのか」「何故この作業が必要なのか」その実習で行う実験の意義や意いを理解して貰う事を重視して指導した。 昨年度まで実習で使用する試薬の調整等に関与していた教員が退職にて不在になったため、円滑に実っず行える様、実習準備で必要な試薬等をリストアップに、作成手順についが起きない様配慮した。		
0. <i>(</i> (-1)				
2 作成した教科書、教材、参考書 『東リハビリテーション専門学校 E理学講座	平成月28年4月~ 現在	学習に用いているテキストについて学生が理解しやすいように補足する内容や、発展、応用的な内容を盛り込んだ資料を作成した。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4 その他教育活動上特記すべき事項				
莫擬患者 (SP) 養成講習会	平成30年10月~ 現在	4年次共用試験OSCEを実施する際に必要な模擬患者の養成を、在学生と利害関係のない地元住民に対して行った。		
早期体験学習(1年次後期)	平成30年9月~ 現在	従来は学生が病院、薬局、企業の中から1ヶ所を選択して施設訪問していたが、コアカリSBOIに準じて「様々な薬剤師の業務を見聞」するため、各学生が病院と薬局または企業の2ヶ所を訪問することにした。そのために従前より倍加した施設を確保し、学生および引率教員を割り振った。学生を割り振る際には、終了後の帰宅が容易になるようにできるだけ配慮した。		
也3件				

Ⅱ 研究活動					
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(論文) Induction of endothelium-dependent relaxation in rat aorta via nitric oxide production caused by the aqueous extract of Astragalus membranaceus Bunge leaves.		共著	2013年3月	Journal of Traditional Medicines 30(1): 41-50	
(論文) Selective and potent inhib docosahexaenoic acid (DHA) on U466 contraction in rat aorta.		共著	2013年12月	J Smooth Muscle Res. 2013;49:63-77.	
(論文) Pharmacological evidence showing significant roles for potassium channels and CYP epoxygenase metabolites in the relaxant effects of docosahexaenoic acid on the rat aorta contracted with U46619.		共著	2014年3月	Biol Pharm Bull. 2014:37(3):394-403.	
(論文) Pharmacological characteristics of the inhibitory effects of docosahexaenoic acid on vascular contractions studied in rat mesenteric artery.		共著	2014年7月	Pharmacology. 2014;93(5-6):229-43.	
(論文) Acute Effects of Intravenous Administration of Polyunsaturated Fatty Acids on Blood Pressure and Heart Rate in U46619- and Noradrenaline-infused Rats.		共著	2017年3月	British Journal of Pharmaceutical Research 15(3): 1-12	
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名	
(演題名) ヒューマニズム・倫理教育 題 一講義、アクティブラーニング、	におけるデュアル技 ポートフォリオの伊	受業の成果と運用課 f用—	2019年3月	大学教育研究フォーラム	
Ⅲ 学会および社会における主な活動					
2018年7月	横浜市モバイルファ	ァーマシー導入WG			
2018年8月	戸塚区こども薬剤的	· 「体験講習会運営			
2018年9月	薬物乱用防止キャンペーン in 横濱 運営				
2018年9月	実務実習認定薬剤師アドバンスド講習会運営				
2018年9月	フィジカルアセスス	メント講習会運営			

教育および研究活動の業績一覧					
大学名 横浜薬科大学 講座名 薬理学研究室	職名 助教	氏名	住野 彰英		
I 教育活動	1				
教育実践上の主な業績	年 月 日		概要		
1 教育内容・方法の工夫					
薬理学実習 (3年次前期)	平成29年4月~ 現在	を観察し、生理機能・ 1クール100名を超え 実習手順を伝達し、大	がかを用いて薬物による生体反応 薬理作用の指導を行っている。 る学生を3クール体制で能率的に きな事故もなく実験を行ってき な付した問題集の質問に対して適 ずった。		
生物系実習 2 (2 年次後期)	平成29年10月~ 現在	基礎的な実験方法、第 行った。1クール100 能率的に実習手順を伝	ご学、免疫学、微生物学における 星験内容および原理等の指導を 名を超える学生を4クール体制で 試達し、事故もなく実験を行って は学生からの質問に対して適宜討 任行った。		
2 作成した教科書、教材、参考書					
(教材) 薬理学実習 実習書	平成30年4月	薬理学実習(3年次前期)で使用する実習書であ 今年度より新たな実習項目を追加した。また、次 のCBTに備えられるようにするため、添付する問題 改変や問題数の追加などを行うことにより学生の 向上を図った。			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
早期体験学習(1年次後期)	平成29年9月~ 平成31年1月	して施設訪問していた	終局、企業の中から1ヶ所を選択 上が、コアカリSBOに準じて「様々 引」するため、各学生が病院と薬 fを訪問した。		
平成30年度 第5回 関東地区調整機構主催認定実務実習 指導薬剤師養成ワークショップ (薬学教育者ワークショップ)	平成30年9月16~ 17日				
Ⅱ 研究活動					
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称		
(論文) Apelin protects against loss of retinal ganglion cells in glaucoma model mouse.	共著	平成27年8月	Jpn. J. Ocul. Pharmacol. 29:41-43		
(論文) Apelin protects against NMDA-induced retinal neuronal death via an APJ receptor by activating Akt and ERK1/2, and suppressing TNF-a expression in mice.	共著	平成28年12月	J. Pharmacol. Sci. 133(1):34- 41		
(論文) MU314, a novel selective estrogen receptor modulator (SERM), improves estrogen-dependent depressive behaviors.	共著	平成29年7月	Glob. Drugs Therap. 2(5):1-5		
(著書) 第103回 薬剤師国家試験 一解答・解説集一	共著	平成30年7月	横浜薬科大学 国試対策室		

2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Protective effect of an ganglion cell death induced by re in mice	apelin receptor agonist on retinal tinal ischemia-reperfusion injury	平成30年7月	18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology
Ⅲ 学会および社会における主な活動	ħ		
平成23年9月~現在	日本薬学会会員		
平成25年9月~現在	日本薬理学会会員		
平成25年9月~現在	日本眼薬理学会会員		

		教育お	ぷよび研究活動	助の業績	責一覧		
大学名 横浜薬科大学	講座名	臨床薬剤学研究室	職名 助教		氏名	溝口	優
I 教育活動			l .		l		
教育実践	上の主な訓	業績	年 月	日		概	要
1 教育内容・方法のエ	夫						
		平成27年4月 現在	~	て、実際に発生した事	事故をも	Jスクマネジメントについ ととに、原因と対策を説明 スの原因と対策を学生自身	
実務実習ポスト教育(5年))(分担)		平成27年4月 現在	~	役割や、薬剤師業務の	り内容に	習を通して学んだ薬剤師の こついてグループ内で話し なな薬剤師業務の形を学ば
薬剤学実習 2 (3年)(分	担)		平成27年4月 現在	~		患者にま	吸薬指導といった薬剤師業 おいて想定されるさまざま ≿。
フィジカルアセスメント実	《習(4年)	(分担)	平成28年4月 現在	~			シミュレータを用いて聴 印識を習得させる実習を
2 作成した教科書、教	─── 対材、参考 [:]						
3 教育方法・教育実践	に関する	———————— 発表、講演等					
薬剤師における口腔ケア教	対育指導法		平成26年6月	~	薬剤師による口腔ケア指導法について研究し、論文 び学会発表、薬局研修会講師等活動した。		
薬学部におけるフィジカル	アセスメ	ント教育指導法	平成28年9月		フィジカルアセスメント実習の導入に伴い、より良し 実習の在り方を検討し、発表した。		
実務実習における大学と実	『習施設の	効果的な連携	平成29年8月		改訂コアカリキュラムに向け、大学と実習施設の連携 が必要な分野に関して検討し、発表した。		
4 その他教育活動上特	持記すべき	事項					
認定実務実習指導薬剤師養	を成ワーク	ショップ	平成26年9月				育目標の設定方法や教育方 ィスカッション形式で学ん
ルーブリック作成ワークシ	/ヨップ(.	星薬科大学)	平成27年5月			参加し、	ミュニケーション学会主催 ルーブリック評価の基礎
バイタルサイン講習会(E	本薬科大	学)	平成27年7月			ブカルフ	会に参加し、大学で新規の アセスメント実習に向け、
研究倫理のe-learning			平成26年度		CITI Japan e-learni	ngプロ	グラムを受講完了した。
Ⅱ 研究活動							
1. 著書・論文等の名称			単著・ 共著の	削	発行または発表の 年月 (西暦でも可)		発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) 一般用医薬品包装 ザイン導入の意義	もの比較検	証とユニバーサルデ	共著		平成25年5月	包装技	支術 (第74号)
(論文) Opening Status (Between Ordinary People Rheumatoid Arthritis			共著		平成26年6月	IAPRI	Packaging, 60
(論文)錠剤医薬品の個装	装箱におけ	る開封性の検討	共著		平成27年5月	日本包	包装学会誌(第24巻第5号)
(論文) 肺炎予防を目的と 口腔ケア情報提供の有用性		ッグストアにおける	共著		平成28年12月	薬学剤	推誌(第136巻第12号)
(論文) Study of Child- Technologies to Prevent Ingestion of Drugs in Ja	Children		共著		平成30年8月	薬学雑	推誌 (第138巻第8号)

2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
病院および薬局実習における代表的な	疾患に関する実習内容の比較	平成30年5月	鎌倉薬剤師学術研究会
妊娠時における Amoxicillin の服用(こ対する薬剤評価	平成30年11月	日本医療薬学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成25年4月	ファーマテックジャパン2013教育セミ	ナー講師, UBMジャパン	,
平成25年8月	特定看護師卒後研修会薬物治療学講座	講師,日本NP協議会	
平成25年9月	第126回医薬品包装懇話会講師,日本包装技術協会		
平成27年6月	新入社員向け研修会講師、株式会社クリエイトエス・ディー		
平成27年7月	社員向け研修会講師、株式会社ココカ	ラファイン	
平成27年10月	薬局長講習会講師,株式会社サンドラ	ッグ	
平成28年1月	薬局長研修セミナー講師,クオール株式会社		
平成28年8月	第216回薬剤師スキルアップ研究会講師,一般社団法人ソーシャルユニバーシティ		
平成29年9月	横浜薬科大学卒後教育講座講師		
平成30年1月	eラーニング講師,株式会社学研メディ	カルサポート	

	教育および研究活動の業績一覧				
大学名 横浜薬科大学 講座名 薬	物治療学研究室	職名 助手	氏名	東方優大	
I 教育活動					
教育実践上の主な業	績	年 月 日		概要	
1 教育内容・方法の工夫					
生物系実習2(2年次後期)		平成29年4月~ 現在		習が円滑に進むよう支援を行っ Nよう目を配り、質問等に対して	
薬理学実習(3年次前期)		平成29年10月~ 現在		り目を配り、質問等に対して適宜 により学生の理解度を確認し、必)再教育を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	:				
薬理学実習 実習書(横浜薬科大学)		平成30年4月		\る実習書である。第4版として誤 \、実習項目を追加した。また、 001 01年を整理した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項 模擬患者 (SP) 養成講習会		平成29年12月~ 現在	4年次共用試験OSCEを実施する際に必要な模擬患者の養成を、在学生と利害関係のない地元住民に対して行った。		
Ⅱ 研究活動		<u> </u>	1		
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	
(論文) MU314, a novel selective e modulator (SERM), improves estroge depressive behaviors		共著	平成29年7月	Global Drugs and Therapeutics vol.2 No.5	
(著書)第102回薬剤師国家試験 -解	答・解説集-	共著	平成29年11月	横浜薬科大学	
(著書)第103回薬剤師国家試験 −解	答·解説集-	共著	平成30年7月	横浜薬科大学	
2. 学会発表(評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名	
Ⅲ 学会および社会における主な活動					
平成27年4月~現在 日本薬学会会員					
平成29年9月~現在 薬物乱用防止キャンペーン in 横濱					

教育および研究活動の業績一覧					
大学名 横浜薬科大学	講座名 漢方天然物化学研究室	職名 助手	氏名	松嶋ゆ	かり
I 教育活動		1			
教育実践	桟上の主な業績	年 月 日		概	要
1 教育内容・方法のエ	夫				
化学系実習 I (2年次前期)		平成27年4月~ 平成28年7月			るべく全員が実験を行うよ コ頭試問による実験内容の
化学系実習1(2年次前期) (カリキュラムの改訂によ		平成29年4月~ 現在	確認を行っている。 まり項目理解の確認を行		ポート提出と筆記試験による。
衛生系実習 I (3年次後期)		平成27年4月~ 平成28年7月			度の確認を行っている。ま テうことで実験内容をより
衛生薬学実習1(3年次後類 (カリキュラムの改訂によ		平成20年7月 平成29年4月~ 現在	理解できるように工		
2 作成した教科書、教	材、参考書				
3 教育方法・教育実践	に関する発表、講演等				
4 その他教育活動上特	記すべき事項				
横浜薬科大学 平成28年度 FD・SD研修会		平成28年8月23日~ 24日	大学の主催する研修会に参加し、多様な学力を持った学生の指導法、カリキュラムマップと妥当な成績評価、良好な学習環境を整えるために教職員が組織的にできることについてグループに分かれて議論した。		
早期体験学習(1年次後期)		平成29年~現在	学生が病院または薬局と企業の2カ所を訪問できるように改善された。訪問前と訪問後でSGDを行い、知識を深めている。		
Ⅱ 研究活動					
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)		発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
	e inhibitory effects of gan on cataract formation in ctocin-induced type-1	共著	平成28年5月	J Jpn (2016)	Soc Cat Res28:97-105
(論文) The Kampo medici nerve growth factor (NGF in PC12 cells	ne Yokukansan (YKS) enhances)-induced neurite outgrowth	共著	平成29年8月	Bosn J 28.	Basic Med Sci. 2017 Sep
(論文) Effects of fluvo factor-induced neurite o dexamethasone in PC12 ce	outgrowth inhibition by	共著	平成30年12月	Biosci 2018 De	Biotechnol Biochem. ec 13
(著書) 第103回薬剤師国家	家試験一回答・解説集一	共著	平成30年7月	横浜薬和	科大学 国試対策室
2. 学会発表(評価対象年	度のみ)		発表年・月		学会名
選択的セロトニン再取り込 連	igma-1受容体との関	平成30年6月	第133回	日本薬理学会近畿支部会	
PC12細胞を用いたSSRIの活性比較-sigma-1受容体に関わる作用について			平成30年8月	第20回區	芯用薬理シンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動					
平成28年7月~現在	7月~現在 薬物乱用防止キャンペーン				
平成27年~現在	成27年~現在 日本薬学会加入				
平成27年~現在	日本薬理学会加入				
平成30年~現在	日本生薬学会加入				

	教育および研究活動の業績一覧					
大学名 横浜薬科大学 講	座名 臨床薬理学研究室	職名 教授	氏名 岡 美佳子			
I 教育活動		1				
教育実践上(の主な業績	年 月 日	概要			
1 教育内容・方法の工夫						
基礎統計学		平成27年10月~ 現在	統計学の基礎をわかりやすく説明した。講義内での演 習でアクティブラーニングを実践した。			
高度先端医療		平成28年4月~ 現在	眼科領域における最先端の治療法について概説した。			
フィジカルアセスメント実習		平成28年4月~ 現在	シュミレーターを用い、患者への同意の取り方、血圧の測定の仕方、肺音、心音の聞き方などを学んだ。			
臨床薬理学 2		平成28年10月~ 現在	薬物の吸収、排出の基礎となる各器官の構造について 説明した。			
機能形態学2		平成29年10月~ 現在				
2 作成した教科書、教材新細胞生物学	、参考書	平成25年5月	機能形態学を分かりとできることをように当まる。 とを分かりと機能の基礎を理している。 できるに発生できるできる後に分学等を配けない。 とを見りに表している。 でででででででででででででででででででででででででででででででででででで			
3 教育方法・教育実践に	関する発表、講演等					
 4 その他教育活動上特記	ナベき事項					
横浜薬科大学 平成28年度		平成28年8月23日 ~24日	大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、多様な 学力を持った学生の指導法、カリキュラムマップと妥 当な成績評価、良好な学習環境を整えるために教職員 が組織的にできることについてグループに分かれて議 論した。			
横浜薬科大学 平成30年度	FD·SD研修会	平成30年9月4日~ 5日	大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、初年次 教育、能力別クラス分けの在り方、卒業研究と演習講 義の両立、学力向上のための授業の組み立ての見直し についてグループに分かれて議論した。			

Ⅱ 研究活動					
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
	(論文) The extracellular C-loop domain plays an important role in the cell adhesion function of aquaporin 0.		平成28年4月	Curr Eye Res 42:617-624	
(論文) Evaluation of the inhibitory effects of Rokumigan and Hachimijiogan on cataract formation in a rat model of streptozotocin-induced type-1 diabetes.		共著	平成28年6月	J Jpn Soc Cat Res 28:97-105	
(論文) Effect of hesperetin of chain selenite-induced cataract.	共著	平成28年6月	Open Med 11: 183-189.		
(論文) Co-administration of magne indomethacin-induced intestinal ul- in adjuvant-induced arthritis rats	共著	平成29年6月	Biol Pharm Bull. 2017;40(6):910-915.		
(論文) Model for Studying Anti-al Allergic Conjunctivitis animals.	共著	平成29年8月	Open medicine 12:231-238		
2. 学会発表(評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名	
(演題名) 水晶体中のデスモソームの	 存在		平成30年7月	第57回日本白内障学会総会	
(演題名) ヘスペレチンの眼科適用に伴う白内障予防効果と角膜血管新生作 用			平成30年9月	第38回日本眼薬理学会	
Ⅲ 学会および社会における主な活動	Ⅲ 学会および社会における主な活動				
平成24年1月~現在	水晶体研究会世話人				
平成25年6月~現在	日本白内障学会理事				
平成28年7月	7月 第55回日本白内障学会総会 第42回水晶体研究会 合同学会 主催				

教育および研究活動の業績一覧					
大学名 横浜薬科大学 講座名 教職課程センター	職名 教授	氏名 梶 輝行			
I 教育活動	•				
教育実践上の主な業績	年 月 日	概要			
1 教育内容・方法の工夫 文部科学省研究開発学校の指定校研究活動の推進実務	平成24~25年度	神奈川県立光陵高等学校が文部科学省より研究開発学校 に指定され、学校をあげて組織的に理論研究と授業実践 を通じた検証の成果を報告書にまとめ、公表。			
神奈川県立光陵高等学校管理職としての学校経営実務	平成25年4月~ 平成26年3月	神奈川県立光陵高等学校の副校長として管理職業務に専 念するとともに、横浜国立大学との高大連携を担当。			
神奈川県教育委員会教育局総務室での教育行政実務 (神奈川の教育理念であるかながわ教育ビジョンの一部 改定の実務及び県立高校改革にかかる生徒指導実態調査 及び学校起教員指導の実務)	平成25年4月~ 平成27年3月	神奈川県教育委員会として「かながわ教育ビジョン」の一部改定に伴い、一般県民と学校関係者(児童・生徒・教職員・PTA等)を対象に「教育に関する意識調査」を実施、その企画運営及び調査結果の分析など業務を統括。その成果を活用して平成26年度に『かながわ教育ビジョン』(一部改定)の策定・公表。神奈川県教育委員会として次期県立高校改革に関連して、県立高校全体の生徒指導(いじめ防止や中途退学率抑止)にかかる実態調査と指導強化に向けた施策事業化と学校教員指導の実務を統括。			
神奈川県教育委員会教育局総務室での県立高校改革の計 画策定の行政業務	平成26年4月~ 27年3月	神奈川県教育委員会として3回目となる県立高校改革について担当課長を命じられ、平成26年度に『県立高校改革基本計画』を策定。平成27年度に『県立高校改革実施計画(全体)』・『実施計画I期』を策定・公表し、平成28年度から12年間にわたる改革計画の策定を完了。			
横浜薬科大学薬学部薬科学科教職課程 教職概論(1年)	平成28年4月~ 現在	教職の入門科目として、教職の意義や教員に求められる 資質・能力、学校教育をはじめ教育をめぐる諸課題の考 察を、グループワークなどを通じて学生が主体的に積極 的に学習活動を行い、理解を深める授業を展開してい る。			
教育基礎論(1年)	平成28年4月~ 現在	教育原理や教育史の内容について講義するとともに、諸 課題について幅広い視野から考察して理解を深め、教育 者としての基礎的な教職教養を身に付ける指導を行って いる。			
教育課程論(1年)	平成28年4月~ 現在	教育課程の基礎的な知識やスキルの習得を行うとともに、カリキュラムの開発・教育課程編成・時間割編成、カリキュラム・マネジメントなど実践的指導力の養成をグループワークなど作業的・体験的に授業で取り組んでいる。			
教育制度(2年)	平成29年4月~ 現在	教育の法体系をはじめ学校教育や社会教育の基礎的な法規からの理解と日本及び諸外国の教育制度、教育行政について実践事例などの紹介を通じて考察し理解を深める指導を行っている。			
生徒進路・指導論(2年)	平成29年4月~ 現在	生徒指導と進路指導・キャリア教育について文部科学省 「生徒指導提要」や中・高校の学習指導要領の特別活動 等に基づき、具体的な指導事案の紹介を通じて考察し、 生徒の自己形成や自立・社会参加を促す教育実践に向け た資質・能力の育成に向けて指導に取り組んでいる。			
医療と哲学(1年)	平成29年4月 ~現在	医学・薬学に関する基礎的教養を育み、薬学を学ぶ将来の医療人としての自己形成に向けて、科目内容の教授やペアワーク等の学習活動を通じて主体的・協働的に学ぶことにより、現代における医療倫理や生命倫理の諸課題について、歴史的・哲学的な考察と理解を通じて、自らの道徳観や倫理観の形成と規範意識のある行動力を身に付ける指導に取り組んでいる。			
教育実習 I ・II (4年)	平成30年4月~ 現在	教職課程の最終段階に位置する教育実習を通じて、実践 的指導力と学校現場での様々な実務体験を経て、学生に 教職に関する諸能力が身に付くよう、指導・助言を行う とともに、実習先を訪問して直接の指導に当たり、きめ 細かな指導に取り組んでいる。			

2 作成した教科書、教材、参考書		
鈴木俊裕、梶輝行(神奈川県立光陵高等学校)編著『高 校生のための「研究」ノート』(学事出版)	平成25年4月	教科での課題研究や総合的な学習の時間の教材として共 同執筆した本書を活用して、課題解決学習の実践的な指 導や評価の知識・スキルの習得を図るための教材。
梶輝行編著『平成25年度 教育に関する意識調査 調査 報告書』(神奈川県教育委員会)	平成26年3月	「子どもの実態」や「子どもの将来像」、「家庭教育」、「学校のあり方」、「教員像」、「学校と地域」の視点から調査結果をまとめたデータを活用して、社会学的な見地から教育考察するための教材。
梶輝行編著『かながわ教育ビジョン(一部改定)』(神奈 川県教育委員会)	平成27年10月	日本の社会状況とこれからの教育の総合的な指針をまとめたものとして、このビジョンを活用してこれからの教育のあり方や考え方について考察し理解を図るための教材。
梶輝行著『教職概論講義』(糸岡書肆)	平成28年4月	大学での教職課程科目である「教職概論」の補助教材と して作成。
梶輝行著『教育原理講義』(糸岡書肆)	平成28年9月	大学での教職課程科目である「教育基礎論」の教科書と して作成。
梶輝行著『教育課程論講義』(糸岡書肆)	平成28年9月	大学での教職課程科目である「教育課程論」の教科書と して作成。
梶輝行著『教育制度論講義』(糸岡書肆)	平成29年9月	大学での教職課程科目である「教育制度」の教科書とし て作成。
梶輝行著『教育学講義』(糸岡書肆)	平成29年9月	大学での教職課程科目である「教職概論」の教科書とし て作成。
梶輝行著『日本医薬史概論』(糸岡書肆)	平成29年9月	大学での必修の教養科目である「医療と哲学」の教科書 として作成。
梶輝行著『日本医薬史概論』(糸岡書肆)	平成29年9月	大学での必修の教養科目である「医療と哲学」の教科書 として作成。
佐藤晴雄・梶輝行共著『コミュニティ・スクールの全貌』 (風間書房)	平成30年2月	全国の公立学校に普及するコミュニティ·スクールについて調査データをもとに分析し、その成果のうち高校での取組みに関して執筆し、共著として刊行。
梶輝行著『学校のカリキュラム開発と経営をサポートする新たな教育指導行政』共立アイコム、2018	平成30年3月	学校カリキュラムの開発や経営をサポートする教育行政の在り方として、各地の教育センターにおけるカリキュラムセンター機能に注目し、今後の教育指導行政にとっての役割の重要性を指摘。
梶輝行著『医療の歴史と哲学』(糸岡書肆)	平成30年10月	大学での必修の教養科目である「医療と哲学」の新規の 教科書として、現代の医療倫理や生命倫理の考察授業を 踏まえて増補執筆し刊行。
梶輝行著『医療の歴史と哲学』(糸岡書肆)	平成30年10月	大学での必修の教養科目である「医療と哲学」の新規の 教科書として執筆し刊行。
梶輝行著『高校カリキュラム・マネジメントの基本』 (学事出版)	平成30年12月	新学習指導要領に対応した高等学校のカリキュラム・マネジメントに関して、理論と実践について具体的な取組にも着目して執筆し刊行。
梶輝行著『生徒指導・進路指導論講義』(糸岡書肆)	平成31年1月	大学での教職課程科目である「生徒進路・指導論」の教 科書として作成。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「これからの県立高校改革の基本計画について」の発表 (神奈川県立学校管理職研修会)	平成26年11月	平成28年度からの神奈川県での県立高校改革にかかる基本計画の策定と改革の考え方の整理を講演。
「かながわ教育ビジョンの一部改定について」の発表(神 奈川県立学校管理職研修会)	平成27年10月	神奈川県の教育の総合的な理念であるかながわ教育ビ ジョンの一部改定の内容説明と教育実践に向けた取組み の発表
「これからの県立高校改革の全体と第 I 期の実施計画について」の発表(神奈川県立学校管理職研修会)	平成27年12月	平成28年度からの神奈川県での県立高校改革にかかる実施計画の全体との策定と改革の考え方の整理を講演。
「高等学校における主権者教育への取組状況と今後の対応」日本学習社会学会第13回大会(2016年9月3日会場の日本女子大学にて口頭発表)	平成28年9月	高等学校での18歳選挙権にかかる主権者教育の実践に向けた学校教育にかかる研究成果の発表。
「シーボルト事件発覚の検証と事件後の影響」公益社団 法人〇AG・ドイツ東洋文化研究協会主催「日独シーボ ルト・シンポジウム、没後150年記念「シーボルトの知的 財産と日独協力の新しい道」(2016年10月11日ドイツ東 洋文化研究協会大ホールにて口頭発表)	平成28年10月	日本史上有名なシーボルト事件の発覚に関して、オランダ・ハーグ国立文書館所蔵の長崎出島オランダ商館文書の記載に着目し、事件の真相について新説を発表。

「学校カリキュラムを支援する教育行政の実践的施策ーカリキュラムセンター機能の充実と強化を中心に一」日本学習社会学会第14回大会(2017年9月9日会場の国士館大学世田谷キャンパスにて口頭発表)	平成29年9月	かれた教育課程」の実 きを支援するための教	「公示される中で、国は「社会に開 現を学校教育に求め、そうした動 で育委員会等による教育指導行政に 、センター機能の設置とその有効性 引表。
「社会に開かれた教育課程をめざすカリキュラム・マネジメントと学校事務」日本教育事務学会第5回大会シンポジウム(2017年12月2日会場の日本大学文理学部にて口頭発表)	平成29年12月	ントに各学校が円滑に	示されたカリキュラム・マネジメ 対応できる工夫と具体的な対応策 事務職員の役割の重要性に着目し
BS日テレ番組「片岡愛之助の解明!歴史捜査 葛飾北 斎」に「シーボルト事件と北斎の関係」について取材対 応して出演(2017年12月21日(木)21時~)	平成29年12月	に関して、これまでの 葛飾北斎との関係につ	いて謎に包まれたシーボルト事件 研究成果をいかし、シーボルトと いて日本やオランダに現存する資 ■を支援し、自ら解説を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項			
第3次神奈川県立高等学校改革推進事業の特命業務	平成26年~28年		引にわたる県立高校改革の基本計画 策定をし教育行政実務の統括責任
文部科学省委託調査研究「総合マネジメント力強化に向けたコミュニティ·スクールの在り方に関する調査研究」 への参加協力	平成27年~28年	て、コミュニティ・ス	を研究の委員として委嘱を受けたクールの普及・推進にかかる現状で高等学校への推進に関して担当。
文部科学省・中央教育審議会初等中等教育分科会教育課 程部会総則・評価特別部会	平成27年~現在	特に高校改革を所管す	改訂にかかる同部会委員として、 「る教育行政の経験と現行の高等学 「作業時の調査協力員の経験をもっ
横浜薬科大学平成28年度FD·SD研修会	平成28年8月	善等に向けてグルーフ し研修を深めた。また	さしたカリキュラム改善や授業改 パディスカッション等を通じて協議 SDを含めた研修会では、ハラスメ 務め、理論と実践の両面から指導
日教弘本部奨励金に基づく教育調査研究	平成28年~現在		業に応募して学校支援に係る教育 のカリキュラムセンター機能に関 択を受けて実施中。
日本学習社会学会の論文審査にあたる査読委員、編集委 員としての委嘱業務	平成29年~現在		究年報に掲載する論文審査に関し 受け、兼ねて年報の編集委員とし 力している。
横浜薬科大学平成30年度FD研修会	平成30年9月	スカッションを展開し 発表者としてプレゼン	授業改善等を中心にグループディン、グループの意見を取りまとめ、シテーションにあたり、教養科目の制度の改善等のプランを提示し、
横浜薬科大学平成31年度FD研修会	平成30年10月	スカッションを展開し 発表者としてプレゼン	授業改善等を中心にグループディ、グループの意見を取りまとめ、 テーションにあたり、教養科目の制度の改善等のプランを提示し、
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
梶輝行「高等学校カリキュラム·マネジメントのフレーム ワーク設定に関する実践的研究ーセメスター制(半期単 位認定制)を活かした創意工夫のある学校づくりを目指 してー」	単著	平成29年3月	『横浜薬科大学教職課程センター 研究紀要』(第1号)横浜薬科大学
佐藤晴雄・梶輝行共著『コミュニティ・スクールの全貌』	共著	平成30年2月	風間書房
梶輝行「高等学校カリキュラムの現状分析と改善課題に 関する理論的研究」	単著	平成30年2月	『横浜薬科大学教職課程センター 研究紀要』(第2号)横浜薬科大学
梶輝行「現代における高校教育改革に関する現状分析と 少子化時代への対応ー教育行政施策の在り方と高校カリ キュラム改善を中心にー」	単著	平成30年2月	日本大学文理学部教育学科『現代教育改革の理念と実践に関する研究-日本大学文理学部人文科学研究所共同研究(第一次報告書)ー』
梶輝行著『学校のカリキュラム開発と経営をサポートす る新たな教育指導行政』	単著	平成30年3月	共立アイコム

2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名	
(演題名) 梶輝行「少子・人口減少社:	会における高校教育の在り方」	平成30年9月	日本学習社会学会	
Ⅲ 学会および社会における主な活動				
平成27年11月~現在	中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会総則・評価特別部会委員			
平成28年4月~現在	日本薬史学会会員、日本洋学史学会会員(以前からの継続)			
平成28年8月~現在	日本学習社会学会編集査員			
平成29年1月~平成30年4月	日本教育公務員弘済会本部奨励事業委託研究者			
平成29年4月~現在	日本学習社会学会査読委員			
平成30年4月~現在	日本医史学会会員、研医会図書館調査研	开究員		

	—————————————————————————————————————	および研究活動の業	績一覧
大学名 横浜薬科大学	講座名 臨床薬理学研究室	職名 教授	氏名 千葉 康司
I 教育活動		1	
教育実践	桟上の主な業績	年 月 日	概要
1 教育内容・方法のよ 高度先端医療論 (6年生前		25年4月~現在	最先端の医薬品の機序と制度を概説できることを目的にしている。毎年、新たに承認される画期的な新薬を講義については、昨今医療の重要な位置づけにあることから、実際に医療機器の探索・開発研究者を招聘し、ご講義(1/2コマ分)いただいている。
臨床薬理学 I (4 年後期)		25年10月~ 30年1月	薬理学と薬物動態学を繋ぎ、医療現場に則して臨床薬理学的な理論を学説できることを目的としている。本講義の導入部分では、臨床薬理学を始めて学ぶ学生に、今まで学修した薬理学と薬物動態学をどのように現場で扱うのかについて、スライドを作成し、実際に行われた治験の例を提示しながら分かり易く説明した。
治験業務論(5年後期集	中講義)	25年11月~ 28年12月	治験を取り巻く環境、治験のしくみ、創薬における治験の位置づけを、薬事関係法規とつなぎながら学習できる工夫をしている。製薬企業で治験を実施し、また、治験審査委員を経て学んだ経験をもとに講義を組み立てた。
薬剤学実習3(4年前期)		27年6月~現在	母集団解析法について担当し、導入部分として定速静注のデータを例に、個体内変動についてグラフを描きながら学修する方法を作成し、次に個体間変動、さらに濃度変化のあるモデルにおける両変動について無理なく本解析法の理論を学修できるプログラムとした。また、28および29年はフィジカルアセスメントも担当し、一人一人の学生に分かり易く、バイタルサイン等の測定の仕方を説明した。
薬物動態学 I (3年前期、	6年制学科)	28年6月~ 29年7月	薬物相互作用について2コマを担当し、薬物相互作用 の起きる仕組みと添付文書上に記載されている事例を あげ、スライドにまとめて分かり易く説明した。
薬物動態学 I (3年前期、	4年制学科)	29年4月~現在	薬物動態の基礎から応用につながるところまで、主に 創薬の観点から教科書を用いると共に、スライドで特 に創薬の観点から捕捉しながら、講義を行なってい る。
薬物動態学Ⅱ(4年前期)		29年7月	薬物相互作用について1コマを担当し、3年で学修した 薬物相互作用の復習と、クリアランス理論のどこに変 化が生じるかについて、スライドにまとめて分かり易 く説明した。
基礎統計学(1年後期)		29年12月~現在	統計検定について3コマ分担当している。統計が臨床試験でどのようにつかわれるか、薬剤師としてなぜ統計学をしらなければならないのか、実際の現場の話を分かり易く説明しながら授業を進めている。
臨床薬理学 1 (4 年前期)		30年5月~現在	薬理学と薬物動態学を繋ぎ、医療現場に則して臨床薬理学的な理論を学説できることを目的としている。臨床薬理学2の導入部分であり、臨床薬理学を始めて学ぶ学生に、今まで学修した薬理学と薬物動態学をどのように現場で扱うのかについて、SGDを活用し、治験を計画する立場を想定し、臨床薬理学の考え方を学ばせる工夫をしている。
臨床薬物動態学(4年前期)	30年6月	薬物相互作用について1コマを担当し、3年で学修した薬物相互作用の復習と、クリアランス理論のどこに変化が生じるかについて、スライドにまとめて分かり易く説明した。薬力学的薬物相互作用とのつながりについても補足した。
臨床薬理学2(4年後期)		30年10月~現在	薬物動態を復習させ、臨床薬理学の重要理論であるクリアランスコンセプトを、例題を解きながら学ばせる工夫をしている。また、図表を多く用い、数式を図に変えて、分かり易く学習できる工夫もしている。薬物動態と薬理効果の連結も、抗菌薬を例にイメージしやすい教材を提供しながら講義を組み立てている。

2 作成した教科書、教材、参考書					
国家試験問題解説(平成26, 27, 28, 29年度)		26年4月~	国家試験問題の解説 	書の一部を担当した。	
個別化医療を目指した臨床薬物動態学 I (基礎編) 2		28年3月	廣川書店,小児等患者	皆の薬物動態を担当	
3 教育方法・教育実践に関する発	表、講演等				
3年次、4年次薬学生にフィジカルアセ こなって (第26回日本医療薬学会)	スメント教育をお	28年9月18日	黒岩美枝博士他の共和	皆者として発表	
4 その他教育活動上特記すべき事	項				
薬学教育評価機構評価実施委員		29年4月1日~	29年は評価実施委員 と として参加	として、30年は評価実施委員主査	
Ⅱ 研究活動					
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(論文) A comprehensive review of pharmacokinetics of approved thera monoclonal antibodies in Japan: Ar I studies still needed?	peutic	共著	平成26年5月	J Clin Pharmacol. 54(5), 483-494.	
(論文) Effective use of foreign approvals for medical devices in J		共著	平成29年5月	J Regul Sci 5(1), 35-40.	
(論文) Estimation of interindivid of pharmacokinetics of CYP2C9 subs humans.		共著	平成29年9月	J Pharm Sci. 106(9):2695-2703.	
(論文) Possibility of predicting transporter occupancy from the in vitro inhibition constant for serotonin transporter, the clinically relevant plasma concentration of unbound drugs, and their profiles for substrates of transporters.		共著	平成29年9月	J Pharm Sci. 106(9):2345-2356.	
(論文) Physiological Based Pharma modeling to estimate in vivo Ki of renal P-gp using human drug-drug i result of fesoterodine and ketocon	共著	平成30年2月	Drug Metab Pharmacokinet. 33(1):90-95.		
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名	
(演題名) Ex vivo human placental for transplacental pharmacokinetic		g and simulation	平成30年10月	International meeting on 22nd MDO and 33rd JSSX	
(演題名) Proposal for predicting PBPK model of coproporphyrin I as			平成30年10月	International meeting on 22nd MDO and 33rd JSSX	
(演題名) Establishment of a PBPK of CYP3A and OATPs.	model of simprevi	r as an inhibitor	平成30年10月	International meeting on 22nd MDO and 33rd JSSX	
Ⅲ 学会および社会における主な活動					
平成20年12月	日本薬物動態学会	 評議員			
平成25年6月~	HAB研究機構理事				
平成25年6月~	医薬品開発支援機構副代表理事(平成28年まで)、経理担当理事(平成28年~)				
平成26年6月~平成29年3月	日本薬剤学会評議員	1			
平成26年10月~	薬物動態談話会特別会員				
平成27年10月~	横浜市立みなと赤十字病院治験審査委員				
平成28年 4月~	医薬品医療機器総合機構外部専門員				
平成29年 7月~	医薬品開発のための	のPPK・PD研究会 理	事		

教育および研究活動の業績一覧					
大学名 横浜薬科大学 講座名 教	職課程センター	職名 教授	氏名	福田 幸男	
I 教育活動					
教育実践上の主な業績	漬	年 月 日		概要	
1 教育内容・方法の工夫					
心理学(1年次前期)		平成27年4月~ 現在	を身近な例を題材にし を心理学的に解説する	注認し、心理学の研究トピックス して解説する。身の回りの出来事 ら力を養う。VTR,DVDなどの教材を 受業のポイントを数回に1度の割合 4の補完をする。	
教育実地研究 (1 年次後期)		平成28年10月~ 現在	校の授業の参加観察や	f動として、近隣の中学校及び高 P現職の中高の先生の講話などを 対育をより身近なものと感じても	
教育の心理学(1~3年不定期集中)		平成29年2月~ 現在	わる教材を選択し、V	れるため、特に教育実践にかか TRや各種資料(文部科学省・教育 I取り入れて、内容の理解を深め	
2 作成した教科書、教材、参考書					
「教育現場で役立つ心理学の基礎(ミ 心理学入門)」	ントン先生の教育	平成27年4月		書として活用する。具体的な実践 で深めるための活用を目指すもの	
3 教育方法・教育実践に関する発	表、講演等				
4 その他教育活動上特記すべき事	項	平成25年4月~ 平成27年3月	前任である横浜国立大学付属鎌倉中学校長として教員 の教育方法の指導を行った。		
Ⅱ 研究活動					
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(訳書)教育現場で役立つ心理学の基 の教育心理学入門)	礎(ミントン先生	共訳	平成27年4月	福村出版	
(論文)全国学力・学習状況調査の現	状と課題	単著	平成28年3月	横浜国立大学教育学会研究論集 Vol.3	
(論文) 全国学力・学習状況調査のよ 目指して	り積極的な活用を	単著	平成29年3月	横浜薬科大学教職課程センター 研究紀要第1号	
(論文)学校経営の活性化・効率化に その第三者評価の役割	おける学校評価と	共著	平成29年3月	横浜薬科大学教職課程センター 研究紀要第1号	
(論文) 都道府県・指定都市による独 校学力調査について	自の小学校・中学	単著	平成30年2月	横浜薬科大学教職課程センター 研究紀要第2号	
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名	
全国学力・学習状況調査の現状と課題			平成27年3月	横浜国立大学教育学会	
Ⅲ 学会および社会における主な活動	Ⅲ 学会および社会における主な活動				
平成20年6月~現在	文部科学省全国学力・学習状況調査の分析活用に関する専門家検討会議委員				
平成25年6月~平成26年3月	大学基準協会評価委員会全学評価分科会委員				
平成26年4月~平成27年3月	日本教育大学協会評議員				
平成26年4月~現在	横浜国立大学教育学会理事				
平成27年4月~現在	放送大学神奈川学習センター客員教授				

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 横浜薬科大学 講座名	薬物動態学研究室	職名 教授	氏名	弓田 長彦
I 教育活動				
教育実践上の主な業	績	年 月 日		概要
1 教育内容・方法の工夫				
		平成25年4月~ 現在	この科目で扱う項目は、使用する薬剤の体内動態測し、患者個人の投与計画を立案することによっ薬の適正使用に貢献し、患者に大きなメリットをらす分野である。授業では、薬物療法を的確に行とを目的として、速度論による薬物動態解析法、静注時の薬物血中濃度解析、薬物投与設計(病態含む、TDMの具体的な手順等を演習をまじえて角ている	
薬物動態学 1 (3年)		平成28年4月~ 現在	感じる薬物の吸収、f 反応速度論的に扱う	式に弱い学生がもっとも難しいと †謝、排泄などの薬物動態過程を 「薬物動態学Ⅱ」を担当し、学生 ような講義と演習をすることに専
2 作成した教科書、教材、参考書				
基礎からの薬物動態学		平成27年8月	医学評論社	
薬の生体内運命 改訂6版		平成27年8月	ネオメディカル	
NEWパワーブック生物薬剤学第3版		平成27年12月	廣川書店	
3 教育方法・教育実践に関する発	表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項				
Ⅱ 研究活動				
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Antitumor effect of sonody activated pyrrolidine tris-acid fu		共著	平成28年5月	Japanese Journal of Applied Physics 55:7S1
(論文) Induction of Apoptosis by Fullerene-based Sonodynamic Therap		共著	平成28年6月	Anticancer Res 36(6)
(論文) Inhibition of Fatty Acid S Apoptosis of Human Pancreatic Cand		共著	平成28年6月	Anticancer Res, 36
(論文) Enoxacin with UVA Irradiat Apoptosis in the AsPC1 Human Pancr Cell line through ROS generation		共著	平成29年11月	Anticancer Res 37
(論文) Photodynamically Induced Apoptosis Due to Ultraviolet A in the Presence of Lomefloxacin in Human Promyelocytic Leukemia Cells		共著	平成29年11月	Anticancer Res 37
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		•	発表年・月	学会名
· — · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				
A THE IMPERSAGE 195 TACKEY				
Ⅲ 学会および社会における主な活動	1			
	日本薬学会会員			
Ⅲ 学会および社会における主な活動				

教育および研究活動の業績一覧						
大学名 横浜薬科大学	講座名 天然有機化学研究室	職名	准教授	氏名	梶原	康宏
I 教育活動		1		-1		
教育実品	浅上の主な業績	年	月日		概	要
1 教育内容・方法の	工夫					
化学系実習Ⅱ (2年次後其 化学系実習2 (2年次後其 (カリキュラムの改訂に	月)	平成27	年4月~ 年3月 年4月~	が、それぞれの人数、 ログラムの内容を改約 薬科学科の方では、9	学科(編して) Waller	料の両方を担当している カポリシーに合った形でプ いる。 関連することでさらに詳し 発表するなど、独自性の高
(カリヤュノムの政制に	みり付日石友史 /	坂江		い教育を展開している		元衣するなと、独日圧の同
天然物化学(3年次前期) (旧コアカリ)		平成25 平成26	年4月~ 年3月	に, 生合成経路に基づ	づいて	な化学成分を理解するため 分類し、それらの化合物の 化合物としての重要性や有
天然物化学(3年次後期) (改訂コアカリ)		平成28 現在	年4月~	用性について講義した し、HAMAYAKU e-Lear 生は繰り返し、スマオ	こ。電- ningで hや自 ^s ト問題(子黒板を用いて授業を録画 きる環境を整えている。学 宅のPCで視聴することがで D解答・解説もe-Learning
2 作成した教科書、	—————————————————————————————————————					
化学系実習 2 実習書		平成25 現在	年4月~	の記述部分は英語で が増しているが、この えている。	書いて∂ ○先の² ~くは{	で使用している。実験操作 あり、学生にとっては負荷 卒業研究で役立つはずと考 修正を行い、現在のバー
電子黒板を用いた授業の よる配信	録画とHAMAYAKU e-Learningに	平成25 現在	年4月~	電子黒板を用いて録回 録画したコンテンツに しており、学生がいて できる環境を整えてし	回する。 は、HAM つでも、 いる。 も、	IAYAKU e-Learning上で配信 どこでも、何回でも視聴 っと多くの先生が使用する
天然物化学 講義資料		平成28. 現在	年4月~			は用いているが、それらは ている。 するべきか、戦略を立てや
3 教育方法・教育実	践に関する発表、講演等					
 4 その他教育活動上	特記すべき事項					
平成30年度FD・SD研修会		平成30: 4日~5		8つのグループが4つのテーマに別れて、SDG形式で話合いを行い、各グループの提案などを発表した。私のグループは「初年次教育について」というテーマで活発に議論を行った。議事録や成果報告なども行った。		
Ⅱ 研究活動			·			
1. 著書・論文等の名称			単著・ 著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)		発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
	-5-HydroxyindoleからL-[2- anへの酵素変換反応の詳細な観		共著	平成29年12月		司位体と生体ガス医学応用 No.1 P4-10
	ine breath test and serum enia, bipolar disorder and der		共著	平成30年1月		al of Psychiatric rch 99 (2018) 142-150

(論文) Selective Monoprotection o Diols in a Flow Reactor	共著	平成30年6月	International Journal of Organic Chemistry, 2018, 8, 264-271		
(著書)第103回 薬剤師国家試験 一解答・解説集一 共著 ユ			平成30年7月	横浜薬科大学 国試対策室	
(論文) 医学・薬学における安定同位体の利用 共著			平成31年2月	RADIOISOTOPES, 68, 1-12 (2019)	
2. 学会発表(評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名	
Ⅲ 学会および社会における主な活動					
平成19年4月~現在	日本薬学会会員				
平成21年4月~現在	日本アイソトープ協会会員				
平成21年4月~現在	日本安定同位体・生体ガス医学応用学会会員				

教育および研究活動の業績一覧					
大学名 横浜薬科大学 講婚	座名 食化学研究室	職名 准教授	氏名 速水 耕介		
I 教育活動					
教育実践上の	主な業績	年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 医薬品情報学(4年次後期)		平成27年10月~ 平成28年1月	講義はパワーポイントを使用した解説を中心とし、教科書の内容を補足して行った。各講義内容は可能な限り現場の様子などを内容に組み込み、臨場感を感じられるよう工夫した。医薬品情報の適切な取り扱いと解釈ができるよう、統計学の内容も入れたが、内容によっては板書にて講義を行った。		
食品安全性学(4年次前期)健	康薬学科 専門科目)	平成28年4月~ 平成29年7月	講義はパワーポイントを使用した解説を中心とし、教科書の内容を補足して行った。各講義内容は可能な限り実例を挙げて解説し、過去に起きた問題とこれを機に制度改正された経緯まで解説した。また、講義はコンピュータールームで行い、食品の安全性関わる情報の検索や、食中毒の原因物質を特定する統計解析など、座学だけではなく、手を動かして記憶定着させるよう工夫した。		
栄養学(1年次後期 オムニバス))	平成28年10月~ 現在	講義はパワーポイントを使用した解説を中心とし、教科書の内容を補足して行った。各講義ごとに確認問題を配り、復習ができるよう工夫した。		
基礎統計学(1年次後期 オムニ	バス)	平成28年10月~ 平成29年1月	講義はパワーポイントを使用した解説を中心とし、教科書の内容を補足して行った。各講義ごとに確認問題を配り、復習ができるよう工夫した。		
公衆衛生学(4年次前期 旧コア	オムニバス)	平成29年4月~ 平成29年7月	講義はパワーポイントを使用した解説を中心とし、教 科書の内容を補足して行った。各講義ごとに確認問題		
公衆衛生学(3年次前期 改定=	1ア オムニバス)	平成29年4月~ 現在	を配り、復習ができるよう工夫した。		
機能性物質学(3年次前期 オ <i>L</i> 科目)	ュニバス 薬科学科 専門	平成29年4月~ 現在	講義はパワーポイントを使用した解説を中心とし、教科書の内容を補足して行った。各自の栄養摂取状況を分析し、これを元にレポート作成するなど、座学だけではない講義として興味を持たせた。また、確認問題を解かせるなど、復習ができるようにした。		
医療統計学(6年次前期 旧コア	7)	平成30年4月~ 現在	講義はパワーポイントを使用した解説を中心とし、教 科書の内容を補足して行った。各講義ごとに標準的な		
医療統計学(4年次後期 改定=	1ア)	平成30年9月~ 現在	科書の内容を補定して行うた。谷舗義ことに標準的な確認問題に加え、少し難度の高い課題を配り、復習と医療統計学に興味が持てるよう工夫した。講義に用いた資料は最新の臨床論文(英語)を題材にし、即戦力を鍛える要素も含ませた。		
企業学概論(4年次前期 オムコ 目)	ニバス 薬科学科 専門科	平成30年4月~ 現在	講義はパワーポイントを使用した解説とSGDで行い、立体的な講義とし、理解力向上に努めた。		
衛生系薬学実習(3年次後期)		平成30年4月~ 現在	食品衛生学及び環境衛生学の実験指導と講義を行っている。1クール100名を越える学生を3クール体制で、能率的に実習手順を伝達し事故もなく実験を行ってきた。またレポート作成に関しては詳細な説明と添削による指導を行っている。		
2 作成した教科書、教材、	参考書				
医療情報学 食品安全性学 2 医療統計学 企業学概論 講義		平成27年10月~ 現在	講義で用いたスライド、またはハンドアウト用資料を 作成し、使用した。		
衛生系実習・実習書、レポート	- 冊子	平成28年10月~ 現在	衛生薬学系実習を安全に効率よく行うためのテキストを作成した。単なる実習書ではなく、各種環境基準値一覧も掲載しており、常に最新の基準値となるよう改定している。		
3 教育方法・教育実践に関	関する発表、講演等				

4 その他教育活動上特記すべき事	項				
100-100-100-100-100-100-100-100-100-100		平成28年8月 23日~24日	学力を持った学生の 当な成績評価、良好な	会(一泊二日)に参加し、多様な 指導法、カリキュラムマップと妥 は学習環境を整えるために教職員 についてグループに分かれて議	
模擬患者(SP)養成講習会		平成29年10月~ 平成30年12月		実施する際に必要な模擬患者の養 関係のない地元住民に対して行っ	
Ⅱ 研究活動					
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
(著書) Genomics, Proteomics & Met Nutraceuticals & Functional Foods	abolomics in 2nd Edition	共著	平成27年10月	WILEY-BLAKWELL	
	(論文) Adipocyte in vascular wall can induce the rupture of abdominal aortic aneurysm.			Sci Rep. vol. 6, 31268, 2016.	
(著書)Sustained Energy for Enhan Functions and Physical Activity	ced Human	共著	平成29年8月	ACADEMIC PRESS (Elsevier)	
(論文) Effects of Multiple Compa Integration of Stratified Analysis On the Serum TG Decreasing Effect Healthy Subjects	共著	平成29年12月	Pharmacometrics 2017;vol.93,83-89,2017.		
(論文) The effect of high fat die of abdominal aortic aneurysm in va hypoperfusion-induced animal model	scular	共著	平成30年2月	J Vasc Res vol. 55, 63-74, 2018	
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名	
(演題名) システマティックレビュ 全性評価:L-リジンの臨床試験より	怪口摂取における安	平成30年11月	国際アミノ酸科学協会 第27回ア ミノ酸セミナー		
Ⅲ 学会および社会における主な活動					
平成28年9月~現在	薬物乱用防止キャン	ンペーン in 横濱			
平成29年	PLOS One 論文審査				
平成28年~現在	J Oleo Sci 論文審	 :査			
平成30年3月	朝日 健康・医療	フォーラム2018 Ext	tra 講演		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

	教育および研究活動の業績一覧						
大学名 横浜薬科大学 詰	構座名	創薬化学研究室	職名	講師	氏名	酒井 佑宜	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績			年	月日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫	₹						
12 1 712 12 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2				6年10月~ 8年12月	基本的な有機化学実験の手技を身につけさせるために 基本的事項を繰り返し教えることにつとめた。		
化学系実習2(カリキュラム	∡の改訂(こより科目名変更)	平成2 現在	9年10月~			
有機化学Ⅳ (2年次後期オム	ュニバス)		平成2	6年9月~	有機化学4には、アドバンスドに該当する範囲が		
			平成2	9年2月	含まれる。そのため、毎回の授業で本日の講義の やキーワードなどを記したプリントを配布し多く		
有機化学4 (カリキュラムの改訂により科目名変更)			平成2 現在	9年10月~	れる。そのため、毎回の授業で本日の講義復習してい講義を行うようにつとめている。		
無機化学(1年次後期オムニ	ニバス)			6年9月~ 7年3月	薬学の基盤となる化学分野における基礎科目として基本的事項を定着させるため講義を行った。		
2 作成した教科書、教材	才、参考書	<u>+</u>					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特詞	こすべき	 事項					
研究倫理の e-leraning			平成2	7年5月	CITI Japan のプログラムを受講した。		
		平成3	0年9月	独立行政法人日本学術振興会の「研究倫理eラーニン			
認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ参加		平成2	8年1月11日	グ」を受講した。 一般社団法人薬学教育協議会の開催するワークショッ プに参加した。			
FD講習		平成2 ~24E	8年8月23日 3	横浜薬科大学の FD 講習会に議論の補佐役として参加した。多様な学力を持った学生の指導法、カリキュラムマップと妥当な成績評価、良好な学習環境を整えるために教職員が組織的にできることについてグループに分かれて議論した。			
アドバンスドワークショップ参加		平成2	8年9月25日	公益社団法人神奈川県薬剤師会の開催する認定実務実 習指導薬剤師のアドバンスドワークショップに実習指 導薬剤師のアドバンスドワークショップに			
横浜薬科大学 平成30年度 FD·SD研修会		平成3 5日	0年9月4日~	横浜薬科大学のFD・SD研修会に議論の補佐役として参加した。初年次教育、能力別クラス分けの在り方、卒業研究と演習講義の両立、学力向上のための授業の組み立ての見直しについての議論を聞き、理解を深めた。			
Ⅱ 研究活動							
1. 著書・論文等の名称			į.	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	
(論文) Prediction and destereochemistry of the 1,3 alkyl chain in verucopept metabolite.	3,5-trim	ethyl substituted		共著	平成26年8月	The Journal of Organic Chemistry 第79巻第15号(6858- 6867頁)	
(論文) Solid-supported reagents composed of a copolymer possessing 2-O-sulfonyl mannosides and phase-transfer catalysts for the synthesis of 2-fluoroglucose.			共著	平成27年12月	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters 第25巻第23号 (p5500-5503)		

(論文) Concise synthesis of hydro fatty acid ethyl esters.	共著		Chemical and Pharmaceutical Bulletin 第65巻第12号 (p1195-1198)			
(論文) Live cell labeling with n derivative proligands to measure c mediated by immune cells.	共著	平成29年12月	ChemMedChem 第12巻23号 (p2006-p2013)			
(論文) Three novel 14-epiarborane triterpenoids from Imperata cylindrica var. major. 共著			平成30年5月	Phytochemistry Letters 第26号(p74-p77).		
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名		
(演題名)生合成模倣的フロー合成によるパルミチン酸およびQueen bee acid の合成研究			平成30年6月	新規素材探索研究会		
Ⅲ 学会および社会における主な活動						
平成18年10月	日本薬学会会員(現在に至る)					
平成20年4月	有機合成化学協会会員(現在に至る)					
平成27年2月	平成26年度有機合成化学協会 ADEKA 研究企画賞 受賞					

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

	教育および研究活動の業績一覧								
大学名	横浜薬科大学	講座名	創薬化学研究室	職名	講師	氏名	増井 悠		
I 教育	育活動	•		I		-			
教育実践上の主な業績				年	月日		概要		
1	教育内容・方法のエ	夫							
有機化学3(2年次)			平成2	8年4月~	有機化学カードゲームを活用して、カルボン酸誘導体の反応性と化学反応の生成物について議論した。学生は積極的にカードゲームに参加しており、深い理解につながった。				
-	作成した教科書、教 学3 (2年次)	材、参考:	書	平成2	8年4月~	有機化学カードゲーム			
3 孝	教育方法・教育実践	に関する	発表、講演等						
4 その他教育活動上特記すべき事項 横浜薬科大学 平成28年度 FD・SD研修会			平成2 ~24E	8年8月23日 日	大学の主催する研修会(一泊二日)に参加し、多様な 学力を持った学生の指導法、カリキュラムマップと妥 当な成績評価、良好な学習環境を整えるために教職員 が組織的にできることについてグループに分かれて議 論した。				
Ⅱ 研3	究活動					•			
1. 著書・論文等の名称			;	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称			
(論文) Palladium-catalyzed double carbonylation- based diversity-oriented synthesis of 3,4- dihydroisoquinoline-1-carboxamides				共著	平成27年9月	「Tetrahedron」vol.71 No.37			
(論文) Solution-phase automated synthesis of an $lpha$ -amino aldehyde as a versatile intermediate				共著	平成29年1月	「Beilstein Journal of Organic Chemistry」vol.13			
(論文) One-Pot, Diversity-Oriented Synthesis of Aryl-Substituted Benzoxacycles Including Benzofuran, Coumarin, and Benzoxazepine				共著	平成29年11月	「Heterocycles」 vol. 94 No. 12			
(論文) D-π-A Dyes that Contain New Hydantoin Anchoring Groups for Dye-Sensitized Solar Cells				共著	平成30年2月	「Asian Journal of Organic Chemistry」vol.7 No.2			
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)					発表年・月	学会名			
(演題名)New Synthetic Technology in Material and Drug Discovery			Discovery	平成30年7月	International Meeting on Traditional & Alternative Medicine				
Ⅲ 学会および社会における主な活動									
平成244	年4月~		日本化学会会員						
平成24年	年4月~		有機合成化学協会会員						
平成25年	年4月~		日本薬学会会員						
平成30年	年1月		日本薬学会誌ファ	ルマシ	ア「トピック	7ス」執筆			

教育および研究活動の業績一覧						
大学名 横浜薬科大学	講座名 天然有機化学研究室	職名 講師	氏名 鰐渕 清史			
I 教育活動		1				
教育実践	走上の主な業績	年 月 日	概要			
1 教育内容・方法のコ	工夫					
科学演習II (1年次)		平成25年4月~ 平成26年3月	パーソナルコンピューターを使って化学構造式あるいは、分子動力学の基礎を学習させた。化学系で汎用される「ChemDraw」を利用し、化合物の芳香環等の平面構造や立体配置を学ばせた。タンパク質の立体構造及びタンパク質が分子を取り込むことで構造変化を負し、どのよう構造及び距離で化合物がタンパク質内で保持されているか実際にソフトを利用して視覚化することで学ばせた。1クール60名の学生を2クール体制で1年生に対して科学を視覚的に理解するように工夫して行った。(静岡県立大学にて実施)			
化学系薬学実習I (2年)	R)	平成25年4月~ 平成26年3月	化学の基礎である実験器具の取り扱いや化学合成、化合物の取り扱いについて実習を行った。液体・固体試料の取扱いを学びとアスピリン合成による医薬品合成を通して薬と化学を体験できるように工夫した。1クール60名の学生を2クール体制で行った。(静岡県立大学にて実施)			
化学系薬学実習V (3年)	ए)	平成25年4月~ 平成26年3月	日本薬局方に基づく生薬の確認試験とステビアより Steviosideの単離を通して天然物化学を体験できるように工夫した。1クール60名の学生を2クール体制で行った。(静岡県立大学にて実施)			
生薬学特論(修士 1 年次)		平成25年4月~ 平成26年3月	植物や微生物が生産する二次代謝産物について最近の研究例を基に紹介し、天然物化学分野で行われていることどの分野の方でも理解できるような講義を行った。(静岡県立大学にて実施)			
天然物化学(3年次)		平成26年4月~ 現在	医薬品のはじまりは、生薬や薬用植物から分離された成分(天然有機化合物=天然物)であり、現在でも天然物は、薬の宝庫として考えられている。こうした天然物がいかに生み出されているかを系統別にまとめあげ、そこに関わる他分野の横断的な知識付けができるように工夫した。			
6年制化学系薬学実習2 (3年次)	平成26年4月	アセトアニリドの合成を通して、化学反応を体験し、これまで学んだ化学の知識を技能として習得させた。1クール100名の学生を4クール体制で行った。			
6年制化学系薬学実習1 (2年次)	平成26年4月~ 現在	化学の基礎である実験器具の取り扱いや化学合成、化合物の取り扱いについて実習を行った。一般的な化学系の器具の取り扱い、液体・固体の化合物の取り扱い、生薬の確認試験とその意義および漢方など薬学を学ぶ上で薬剤師として必須な知識を技能として習得させた。1クール100名以上の学生を4クールもしくは3クール体制で行った。			
4年制化学系薬学実習1 (2年次)	平成28年4月~ 現在	化学の基礎である実験器具の取り扱いや化学合成、化合物の取り扱いについて実習を行った。一般的な化学系の器具の取り扱い、液体・固体の化合物の取り扱い、生薬成分の抽出や化合物の特性など研究者を目指す上で必須な技能を習得させた。1クール30名以上の学生を1クール体制で行った。			
天然有機化学(3年次)		平成29年4月~ 現在	医薬品のはじまりは、天然物である。天然物がどのように生合成されているを学び、薬学、医学、農学とそこに携わる他分野の横断的な考え方ができるように工夫した。			
有機化学2(1年次)		平成30年4月~ 現在	有機化学の基礎反応であるアルケン、アルキン、芳香族への反応について、体系的にまとめ化学反応について理解を深めるように工夫した。			

(著書) 第101回薬剤師国家試験 - 解答・解説集 共著 平成28年11月 横浜薬科大学 (藩書) 第102回薬剤師国家試験 - 解答・解説集 共著 平成29年11月 横浜薬科大学 (論文) One-Pot, Diversity-Oriented Synthesis of Aryl-Substituted Benzoxacycles Including Benzofuran, Coumarin, and Benzoxacycles Including Benzofuran, Coumarin, and Benzoxacycles Including Benzofuran, Coumarin, and Benzoxacycles Including 共著 平成29年11月 Heterocycles, 94, 12, 2273-2290 Hetero	2 作成した教科書、教材、参考書						
4 その他教育活動上特記すべき事項 漢方の基礎学習と薬草園の見学会の運営							
漢方の基礎学習と薬薬園の見学会の運営 平成25年4月~ 平成26年3月~ 中成25年4月~ 現在 港の大田の東京 (4月、8月及2010月、親リ行い年間参加者 の数ののを用し、大学経営 神画者に対して高めた。 FD 講演会 平成25年4月~ 現在 現在 現在 現在 現在 日本文学を発展した。 大学のごは東海のの関心を吊見・大学経営 神画者に対して高めた。 模擬患者 (SP) 養成講習会 平成25年1月~ 現在 中元26年1月~ 現在 大学の主催する研修会 (一治二日)に参加し、多样な 学力を持った学生の指導法。カリキュラムマップと受 会体の主催する研修会 (一治二日)に参加し、多样な 学力を持った学生の指導法。カリキュラムマップと受 会体の計画を報え、カリキュラムマップと受 会体の計画を報え、カリキュラムマップと受 会体の計画を報え、カリキュラムマップと受 会体の計画を報え、カリキュラムマップと受 会体の計画を報え、カリキュラムマップと受 会体の計画を報え、カリキュラムマップと受 会体の計画を表えるために教験員 が組織的にできることについてグループに分かれて議 論した。 I 研究活動 1. 著書・論文等の名称 単著・ 業子の29年1月 根深薬科大学 中成27年5月 Scientific Reports、5、8860 報刊・Subtrituted Benzoxacyoles Including Benzoffura、Counarin、and Benzoxacyoles (論文) One-Pot. Diversity-Oriented Synthesis of Aryl-Substituted Benzoxacyoles Including Benzoffura、Counarin、and Benzoxacyoles (協文) Mone-Pot. Diversity-Oriented Synthesis of Aryl-Substituted Benzoxacyoles Including Benzoffura、Counarin、and Benzoxacyoles (協文) Identification and characterization of a nown MDPP Audises (Mori) inhibitor that 思助pressas proliferation of colon and stomach acanoer cells 共著 平成29年11月 根深薬科大学 中成29年12月 Biological and Pharaceutical Bulletin、41、3、419・426 (議至) 末のマラシルエタノールアミンの脂肪酸倒頭と抗ビロリ菌化合 物の相互作用 ・平成30年9月 第62回日本薬学会関東支部大会 (漢題名) 連及20年9月 第62回日本薬学会関東支部大会 (漢題名) 正の49月 第62回日本薬学会関東支部大会 (漢題名) 正の49月 第62回日本薬学会関東支部大会 (漢題名) 正の49月 第62回日本薬学会園東支部大会 (漢題名) 正の49月 第62回日本薬学会園東支部大会 (漢題名) 運送の4月・現在 中成31年3月 日本薬学会園東支部大会 (漢題名) 正の4月・東京の4日・東京の4日・東京の4日・東京の4日・東京の4日・東京の4日・ 東京の4日・	3 教育方法・教育実践に関する発						
平成26年3月	4 その他教育活動上特記すべき事	 項					
規在	漢方の基礎学習と薬草園の見学会の運		催。年3回(6月、8月及び10月)執り行い年間参加者の数が1000名を超すようにして、大学の地域振興の一助として印象づけ、薬草園への関心を市民・大学経営				
横浜薬科大学 平成28年度 FD・SD研修会	FD 講演会			大学のFD 講習会に出席し、自己啓発に努めている			
マクター 学力を持った学生の指導法、カリキュラムマップと受 当本成績辞評価、良好な学習環境を多えるために教職員が組織的にできることについてグループに分かれて議論した。 単著・	模擬患者(SP)養成講習会		成を、在学生と利害関係のない地元住民に対して行っ				
1. 著書・論文等の名称	横浜薬科大学 平成28年度 FD·SD研		学力を持った学生の指導法、カリキュラムマップと妥当な成績評価、良好な学習環境を整えるために教職員が組織的にできることについてグループに分かれて議				
共著の別 年月(西暦でも可) (巻・号数)等の名称 (論文) Identification and characterization of a vitamin D3 decomposition product bactericidal against Helicobacter pylori	Ⅱ 研究活動						
vitamin D3 decomposition product bactericidal against Helicobacter pylori 共著 平成27年5月 Scientific Reports, 5, 8860 (著書) 第101回薬剤師国家試験 - 解答・解説集 共著 平成29年11月 横浜薬科大学 (論文) One-Pot, Diversity-Oriented Synthesis of Aryl-Substituted Benzoxacycles Including Benzofuran, Coumarin, and Benzoxazepine 共著 平成29年11月 Heterocycles, 94, 12, 2273-2290 (論文) Identification and characterization of a novel NADPH oxidasel (Nox1) inhibitor that suppresses proliferation of colon and stomach cancer cells 共著 平成29年12月 Biological and Pharmaceutical Bulletin, 41, 3, 419-426 2. 学会発表 (評価対象年度のみ) 発表年・月 学会名 (演題名) 極めて選択的にピロリ菌を殺菌する新規抗菌薬の研究・開発 平成30年6月 第17回新規素材探索研究会 (演題名) ホスファチジルエタノールアミンの脂肪酸側鎖と抗ピロリ菌化合物の相互作用 平成30年9月 第62回日本薬学会関東支部大会 (演題名) 選択的抗ピロリ菌化合物群の細胞毒性評価 平成31年3月 日本薬学会第139年会 正 学会および社会における主な活動 平成18年4月~現在 日本薬学会会員 平成27年7月 横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワーク講演 平成28年6月 静岡サレジオ高等学校講演	1. 著書・論文等の名称						
(著書) 第102回薬剤師国家試験 - 解答・解説集 共著 平成29年11月 横浜薬科大学 (論文) One-Pot, Diversity-Oriented Synthesis of Aryl-Substituted Benzoxacycles Including Benzofuran, Coumarin, and Benzoxacycles Including Benzofuran, Coumarin, and Benzoxacycles Including Heterocycles, 94, 12, 2273-2290 (論文) Identification and characterization of a novel MADPH oxidasel (Mox1) inhibitor that suppresses proliferation of colon and stomach cancer cells 2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		共著	平成27年5月	Scientific Reports, 5, 8860			
(論文) One-Pot, Diversity-Oriented Synthesis of Aryl-Substituted Benzoxacycles Including Benzofuran, Coumarin, and Benzoxacycles Including Penzofuran, Coumarin, and Benzoxacycles, 94, 12, 2273-2290 Penzofuran, Coumarin, and Benzoxacycles Including Penzofuran, Coumarin, and Benzoxacycles Including Penzofurant Penz	(著書) 第101回薬剤師国家試験 - 解答	・解説集	共著	平成28年11月	横浜薬科大学		
### PR	(著書) 第102回薬剤師国家試験 - 解答	答・解説集	共著	平成29年11月	横浜薬科大学		
NADPH oxidasel (Nox1) inhibitor that suppresses proliferation of colon and stomach cancer cells				平成29年11月	Heterocycles, 94, 12, 2273-2290		
(演題名) 極めて選択的にピロリ菌を殺菌する新規抗菌薬の研究・開発 平成30年6月 第17回新規素材探索研究会 (演題名) ホスファチジルエタノールアミンの脂肪酸側鎖と抗ピロリ菌化合物の相互作用 平成30年9月 第62回日本薬学会関東支部大会 (演題名) 選択的抗ピロリ菌化合物群の細胞毒性評価 平成31年3月 日本薬学会第139年会 平成18年4月~現在 日本薬学会会員 平成27年7月 横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワーク講演 静岡サレジオ高等学校講演	novel NADPH oxidase1(Nov1) inhibitor that			平成29年12月			
(演題名) ホスファチジルエタノールアミンの脂肪酸側鎖と抗ピロリ菌化合 平成30年9月 第62回日本薬学会関東支部大会 (演題名) 選択的抗ピロリ菌化合物群の細胞毒性評価 平成31年3月 日本薬学会第139年会 エ 学会および社会における主な活動 平成18年4月~現在 日本薬学会会員 横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワーク講演 平成28年6月 静岡サレジオ高等学校講演	2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名			
物の相互作用	(演題名) 極めて選択的にピロリ菌を	殺菌する新規抗菌薬	平成30年6月	第17回新規素材探索研究会			
 Ⅲ 学会および社会における主な活動 平成18年4月~現在 日本薬学会会員 平成27年7月 横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワーク講演 平成28年6月 静岡サレジオ高等学校講演 		アミンの脂肪酸側釒	平成30年9月	第62回日本薬学会関東支部大会			
平成18年4月~現在 日本薬学会会員 平成27年7月 横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワーク講演 平成28年6月 静岡サレジオ高等学校講演	(演題名)選択的抗ピロリ菌化合物群の細胞毒性評価			平成31年3月	日本薬学会第139年会		
平成27年7月 横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワーク講演 平成28年6月 静岡サレジオ高等学校講演	Ⅲ 学会および社会における主な活動						
平成28年6月 静岡サレジオ高等学校講演	平成18年4月~現在	日本薬学会会員					
	平成27年7月	横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワーク講演					
平成30年7月 静岡英和女子学院高等学校講演	平成28年6月	静岡サレジオ高等等	学校講演				
	平成30年7月	静岡英和女子学院和					